

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第59集

よし だ じょう
吉田城遺跡 II

— 愛知県東三河事務所地点の調査 —

1995

財団法人 愛知県埋蔵文化財センター



調査区上空より吉田城方面をみる

序

豊橋市に所在する吉田城は、古くは今橋城と呼ばれ、戦国時代の永正2年（1505）に牧野古白により築城されたといわれています。以後、東三河支配の拠点として、吉田城をめぐる多くの戦いが行われました。

近世の吉田城は、天正18年（1590）に徳川家康の関東移封とともに池田輝政（照政）が入封して、城域を拡大し、本丸・二の丸・三の丸と外堀を組み合わせた様式の城郭と城下町の町割りを計画した。しかし、慶長5年（1600）に関ヶ原の戦いの功績により姫路に転封となり、その後入城した9家22代の譜代大名が財政的にこの計画を実現することができずに、明治に至っている。

このたび、愛知県東三河事務所の建て替えに伴い東三河総合庁舎を建設することが計画され、埋蔵文化財の事前調査が必要となりました。このため、(財)愛知県埋蔵文化財センターでは、愛知県教育委員会を通じ、県総務部より委託を受けて、平成4年度から5年度に発掘調査を実施するとともに、同5年度と6年度には報告書作成事業を実施してまいりました。

調査の結果、江戸時代の遺構・遺物だけでなく、奈良時代や鎌倉時代の遺構・遺物も発見され、この地に古代以来、人々が連綿と生活していたことが確認されました。本書は、その成果をまとめたものであり、歴史研究の資料として活用されるとともに、埋蔵文化財の理解への一助ともなれば幸いです。

最後になりましたが、調査に対して御理解、御協力を賜った関係諸機関、並びに、発掘調査・整理作業に参加協力していただきました多くの方々に厚く御礼を申し上げます次第であります。

平成7年3月

財団法人 愛知県埋蔵文化財センター

理事長 安部 功

例 言

1. 本書は、^{あいちけんとはしはつちょうどおり}愛知県豊橋市八町通に所在する^{よしだじょういせき}吉田城遺跡の発掘調査報告書である。
2. 調査は愛知県総務部が進めている東三河総合庁舎建設に伴う事前調査として、県総務部より愛知県教育委員会を通じて委託を受けた(財)愛知県埋蔵文化財センターが実施した。調査対象面積は、平成4年度が2,600㎡、平成5年度が2,700㎡で、計5,300㎡である。
3. 調査期間は平成5年1月～3月と同年4月～7月であり、調査に引き続き平成5年度・6年度には報告書作成のための整理作業を実施した。
4. 調査担当者は、以下の通りである。
平成4年度 都築暢也(本センター主査)・杉浦茂(同調査研究員)・小嶋廣也(同)
平成5年度 水谷寛明(本センター調査研究員)・小嶋廣也(同)
5. 調査に当たっては次の各関係機関から御指導・御協力を得た。
愛知県教育委員会文化財課・愛知県埋蔵文化財調査センター・愛知県総務部・豊橋市教育委員会
豊橋市美術博物館
6. 遺物の整理、製図等については次の方々^の協力を得た。
奥村勝信・伊藤直子(調査研究補助員)・中島たづ子(発掘調査補助員)
石川倫子・中島由美子・柵木えみ子・和田ちか子・中桐信子・藪田久子・河野実佳子・清水真理子・中西和子・水野多栄・佐野香恵・山本章子(整理補助員)
朝岡恵美子・稲垣智子・岩崎由美・大羽由加里・河村ひろみ・斉藤夏美・佐藤弘子・志賀三津子
鈴木智子・鈴木佳江・新美厚子・新美恵子・久永弘子・日和田智世・福田妙子・堀田可代子・森 佳重・山本衣江(整理作業員)
加藤公代・小里恭子・深見朋子(学生) (敬称略)
7. 調査区の座標は、建設省告示に定められた平面直角座標Ⅶ系に準拠した。
8. 遺構番号は、次のアルファベットによる分類記号と、グリッド毎に通し番号を付し直して表記している。
SA: 柵列 SB: 建物・竪穴住居 SD: 溝・堀 SE: 井戸 SK: 土坑
SS: 石列 Pit: 柱穴 SX: その他
9. 本書の執筆及び編集は、小嶋が担当したが、第Ⅰ章第1節(1)・第Ⅲ章第1節は杉浦茂、第Ⅰ章第2節(1)・第Ⅱ章第1節は水谷寛明、第Ⅳ章第2節(2)は松田訓、第Ⅴ章第1節は(株)パリノ・サーヴェイ、第Ⅴ章第2節は堀木真美子が分担執筆し、文責は各文末に記した。また、遺物の写真撮影は、奥村勝信が行った。
10. 本書をまとめるに当たり、次の各機関・各氏の御指導・御協力を得た。
愛知大学総合郷土研究所・豊橋市中央図書館・豊橋市美術博物館
赤羽一郎・岩原 剛・遠藤才文・大橋康二・尾野善裕・金子健一・後藤建一・後藤清司
城ヶ谷和広・高橋洋充・高橋延年・檜崎彰一・贅 元洋・新田 洋・深井正敏・前川嘉宏
増山真一郎・松井直樹・松岡敬二・村上伸之・森 勇一・森川幸雄 (五十音順、敬称略)
11. 調査記録は本センターで保管している。
12. 出土品は愛知県埋蔵文化財調査センターにて保管している。

目次

第I章 調査概要と基本層序	1		
第1節 遺跡をめぐる環境	2		
1. 地理的環境 … 2	2. 歴史的環境 … 4		
第2節 調査概要	6		
1. 調査史 … 6	2. 調査に至る経緯 … 8	3. 調査の経過 … 9	
4. 調査日誌抄 … 11			
第3節 基本層序	12		
第II章 古代の遺構と遺物	13		
第1節 古代の遺構	14		
1. 概要 … 14	2. 柱穴列 … 15	3. 土坑 … 16	
第2節 古代の遺物	18		
1. 概要 … 18	2. 出土遺物 … 19		
第III章 中世の遺構と遺物	21		
第1節 中世の遺構	22		
1. 概要 … 22	2. 溝 … 23	3. 竪穴住居跡 … 24	4. 井戸 … 25
5. 集石遺構 … 26			
第2節 中世の遺物	27		
1. 概要 … 27	2. 出土遺物 … 28		
第IV章 近世の遺構と遺物	31		
第1節 近世の遺構	32		
1. 概要 … 32	2. 外堀 … 34	3. 溝 … 35	4. 柵列跡 … 39
5. 石列 … 41	6. 建物跡 … 42	7. 井戸 … 46	8. 土坑 … 49
9. 明治期以降の遺構 … 57			
第2節 近世の遺物	58		
1. 陶磁器類 … 58			
分類 … 58	統計方法 … 64	概要 … 65	
SD101 … SD129 … SD102 … SE106 … SE104 … SE107 … SK180 …			
SK032 … SK092 … その他の遺構 … 検出 … その他			
2. 焼塩壺 … 124	3. 瓦類 … 127	4. 人形類 … 132	5. 木製品 … 135
6. 金属製品 … 140	7. 石・ガラス製品 … 143	8. 近代の遺物 … 146	
第V章 科学分析	147		
第1節 胎土重鉍物分析	148		
1. 焼塩壺 … 148	2. 瓦類 … 152		
第2節 中世の井戸出土の自然遺物	160		
第VI章 総括とまとめ	161		
第1節 屋敷地の検証	162		
第2節 吉田城遺跡における近世陶磁器類組成と他遺跡との比較 … 170			
第3節 まとめ	194		
付 表	201		

図版目次

- 図版 1 遺構配置図 (1)
図版 2 遺構配置図 (2)
図版 3 遺構配置図 (3)
図版 4 遺構配置図 (4)
図版 5 遺構配置図 (5)
図版 6 遺構配置図 (6)
図版 7 遺構配置図 (7)
図版 8 遺構配置図 (8)
図版 9 調査区周辺 (空撮写真)
図版10 吉田城絵図 (1) 「吉田藩士屋敷図」
図版11 吉田城絵図 (2) 「吉田御城内惣絵図」・「仮吉田城図」
図版12 遺構 (1) 92年度調査区全景 (空撮写真)
図版13 遺構 (2) 93年度調査区全景 (空撮写真)
図版14 遺構 (3) 古代・中世の遺構
図版15 遺構 (4) 近世の遺構 (1) 外堀・屋敷地境 1 (溝・堀跡)
図版16 遺構 (5) 近世の遺構 (2) 屋敷地境 2 (溝・柵列)
図版17 遺構 (6) 近世の遺構 (3) 屋敷地 4 (全景・柱痕・井戸断ち割り状況)
図版18 遺構 (7) 近世の遺構 (4) 屋敷地 6 (全景・土坑断ち割り状況・遺物出土状態)
図版19 遺構 (8) 近世の遺構 (5) 屋敷地 7 (建物跡・井戸断ち割り状況)
図版20 遺構 (9) 近世の遺構 (6) 屋敷地 7 (遺物出土状態)・屋敷地 5 (井戸断ち割り状況・遺物出土状態)・屋敷地 2 (建物跡)
図版21 遺構 (10) 近世の遺構 (7) 屋敷地 2 (遺物出土状態・建物跡・井戸断ち割り状況)
図版22 遺物 (1) 古代・中世の遺物
図版23 遺物 (2) 近世の遺物 (1) 供膳具 1 (椀類 1)
図版24 遺物 (3) 近世の遺物 (2) 供膳具 2 (椀類 2)
図版25 遺物 (4) 近世の遺物 (3) 供膳具 3 (椀類 3)
図版26 遺物 (5) 近世の遺物 (4) 供膳具 4 (椀類 4・小椀類 1)
図版27 遺物 (6) 近世の遺物 (5) 供膳具 5 (小椀類 2・皿類 1)
図版28 遺物 (7) 近世の遺物 (6) 供膳具 6 (皿類 2)
図版29 遺物 (8) 近世の遺物 (7) 供膳具 7 (皿類 3)
図版30 遺物 (9) 近世の遺物 (8) 供膳具 8 (鉢類)
図版31 遺物 (10) 近世の遺物 (9) 調理具
図版32 遺物 (11) 近世の遺物 (10) 貯蔵具
図版33 遺物 (12) 近世の遺物 (11) 灯火具・火具
図版34 遺物 (13) 近世の遺物 (12) 化粧具・神仏具・喫煙具・供膳具 9 (皿類 4)
図版35 遺物 (14) 近世の遺物 (13) 調度具・蓋類 1
図版36 遺物 (15) 近世の遺物 (14) 蓋類 2
図版37 遺物 (16) 近世の遺物 (15) 焼塩壺・瓦類
図版38 遺物 (17) 近世の遺物 (16) 人形類・木製品
図版39 遺物 (18) 近世の遺物 (17) 金属製品・石製品
図版40 遺物 (19) 近代の遺物

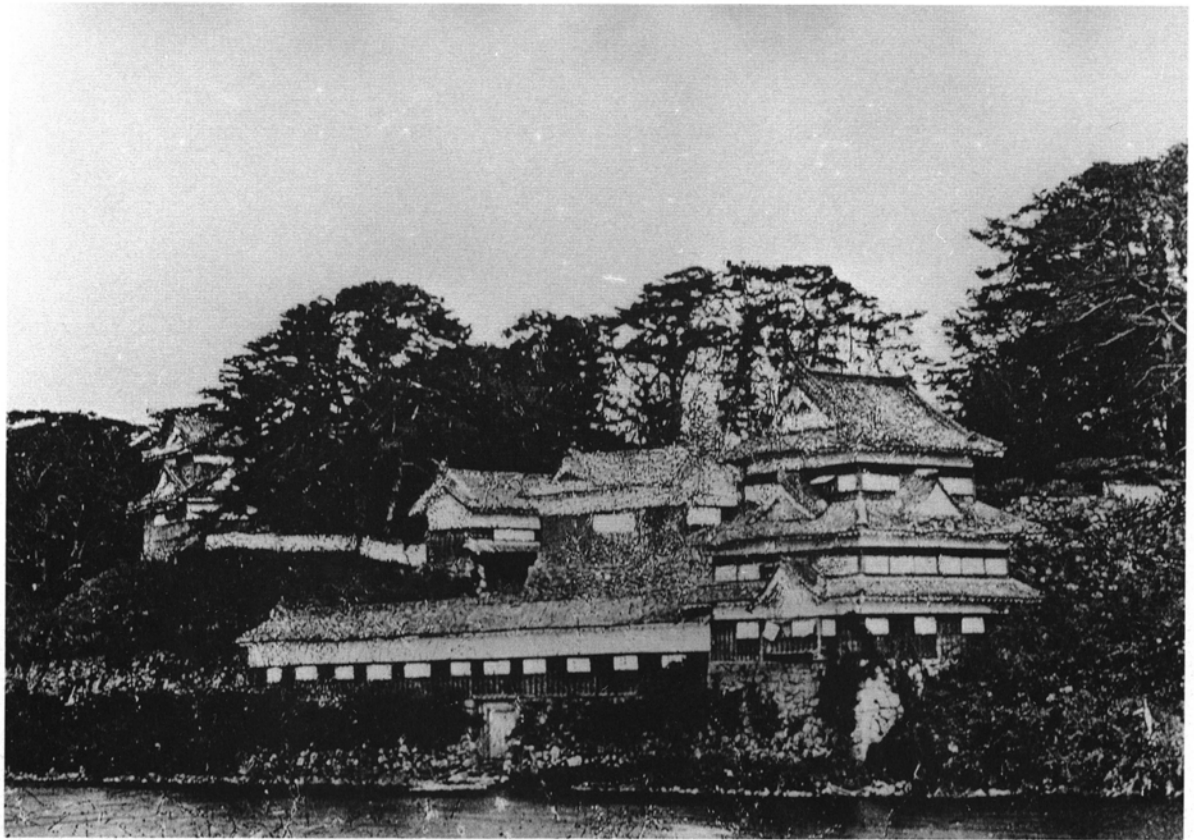
挿図目次

第1図	東三河平野の第四紀層の模式的地質断面図	2	第42図	SK226・SK289・SK289・SK340平面図・断面図	55
第2図	吉田城遺跡の自然立地	3	第43図	暗渠(SD201)断面図	57
第3図	吉田城遺跡周辺の遺跡分布図	5	第44図	近世陶磁器類分類図(1)	59
第4図	調査区位置図	7	第45図	近世陶磁器類分類図(2)	61
第5図	「吉田藩土屋敷図」	8	第46図	近世陶磁器類分類図(3)	63
第6図	発掘作業風景	10	第47図	近世出土陶磁器類の用途組成	65
第7図	現地説明会風景	11	第48図	近世遺構出土陶磁器類の用途組成	66
第8図	A区北壁セクション模式図	12	第49図	SD101出土陶磁器類の用途組成	67
第9図	古代主要遺構配置図	14	第50図	近世の遺物(1) SD101①	68
第10図	柱穴列(SA001)平面図・断面図	15	第51図	近世の遺物(2) SD101②	69
第11図	柱穴断面図	15	第52図	近世の遺物(3) SD101③	70
第12図	SK132・Pit1195平面図・断面図	17	第53図	近世の遺物(4) SD101④	71
第13図	SK133平面図・断面図	17	第54図	近世の遺物(5) SD101⑤	72
第14図	古代遺物分類図	18	第55図	近世の遺物(6) SD101⑥	73
第15図	古代の遺物(1)	19	第56図	近世の遺物(7) SD101⑦	74
第16図	古代の遺物(2)	20	第57図	近世の遺物(8) SD101⑧	75
第17図	中世主要遺構配置図	22	第58図	SD129出土陶磁器類の用途組成	76
第18図	溝断面図	23	第59図	近世の遺物(9) SD129①	77
第19図	SB001・SB002平面図・断面図	24	第60図	近世の遺物(10) SD129②	78
第20図	SE001平面図・断面図	25	第61図	近世の遺物(11) SD129③	79
第21図	SX111・SX103平面図・断面図	26	第62図	近世の遺物(12) SD129④	80
第22図	中世遺物分類図	27	第63図	近世の遺物(13) SD129⑤	81
第23図	中世の遺物(1)	28	第64図	近世の遺物(14) SD129⑥	82
第24図	中世の遺物(2)	29	第65図	SD102出土陶磁器類の用途組成	83
第25図	中世の遺物(3)	30	第66図	近世の遺物(15) SD102①	84
第26図	近世主要遺構配置図	33	第67図	近世の遺物(16) SD102②	85
第27図	外堀(SD101)断面図	34	第68図	SE106出土陶磁器類の用途組成	86
第28図	溝断面図(1)	36	第69図	近世の遺物(17) SE106①	87
第29図	SD148・SD149・SA101・SA102平面図・断面図	37	第70図	近世の遺物(18) SE106②	88
第30図	溝断面図(2)	37	第71図	近世の遺物(19) SE106③	89
第31図	柵列平面図・断面図	40	第72図	SE104出土陶磁器類の用途組成	90
第32図	SS101平面図	41	第73図	近世の遺物(20) SE104①	91
第33図	SB101・SB102・SB103・SA108・SA109平面図・断面図	43	第74図	近世の遺物(21) SE104②	92
第34図	SB107平面図・断面図	44	第75図	SE107出土陶磁器類の用途組成	93
第35図	SB105・SB106平面図・断面図	45	第76図	近世の遺物(22) SE107	94
第36図	柱痕平面図・断面図	45	第77図	SK180出土陶磁器類の用途組成	95
第37図	SE106・SE101・SE103断面図	47	第78図	近世の遺物(23) SK180①	96
第38図	SE104・SE107・SE107断面図	48	第79図	近世の遺物(24) SK180②	97
第39図	SK013・SK053平面図・断面図	49	第80図	SK032出土陶磁器類の用途組成	98
第40図	SK092・SK094・SK095・SK102平面図・断面図	51	第81図	近世の遺物(25) SK032	99
第41図	SK179・SK180遺物出土状態図	53	第82図	SK092出土陶磁器類の用途組成	100
			第83図	近世の遺物(26) SK092	101
			第84図	その他の遺構出土陶磁器類の用途組成	102
			第85図	近世の遺物(27) その他の遺構①	103

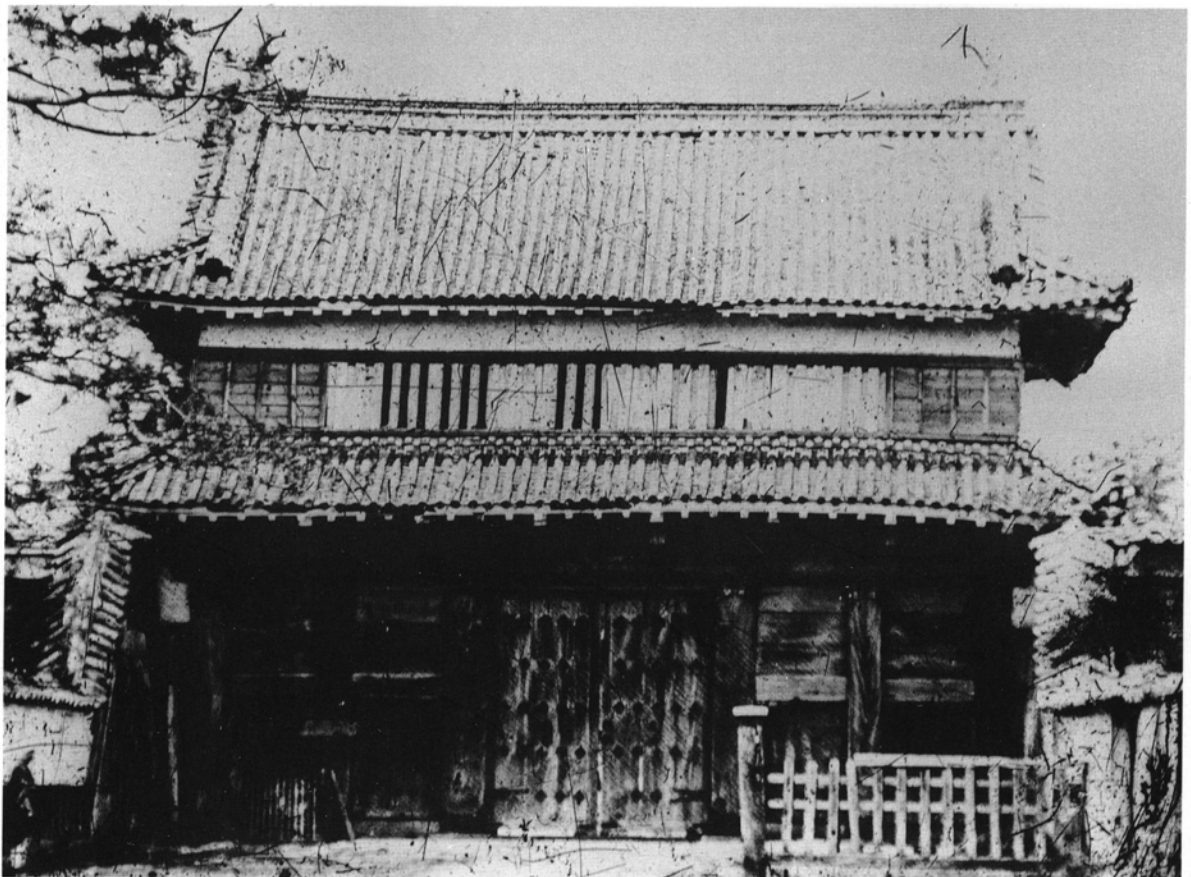
第 86 図	近世の遺物(28)	その他の遺構②	104	第134 図	屋敷地と主要遺構配置図	163
第 87 図	近世の遺物(29)	その他の遺構③	105	第135 図	遺構変遷図	165
第 88 図	近世の遺物(30)	その他の遺構④	106	第136 図	「吉田藩土屋敷図」	169
第 89 図	近世の遺物(31)	その他の遺構⑤	107	第137 図	吉田城遺跡出土陶磁器類の用途組成	171
第 90 図	近世の遺物(32)	その他の遺構⑥	108	第138 図	吉田城遺跡出土陶磁器類の用途組成 2	172
第 91 図	近世の遺物(33)	その他の遺構⑦	109	第139 図	吉田城遺跡出土陶磁器類の材質組成	173
第 92 図	近世の遺物(34)	その他の遺構⑧	110	第140 図	名古屋城三の丸遺跡(家庭・簡易裁判所地点)出土陶磁器類の用途組成	175
第 93 図	近世の遺物(35)	その他の遺構⑨	111	第141 図	名古屋城三の丸遺跡(家庭・簡易裁判所地点)出土陶磁器類の材質組成	175
第 94 図	近世の遺物(36)	その他の遺構⑩	112	第142 図	名古屋城三の丸遺跡(県警本部地点)出土陶磁器類の用途組成	177
第 95 図	近世の遺物(37)	その他の遺構⑪	113	第143 図	名古屋城三の丸遺跡(県警本部地点)出土陶磁器類の材質組成	177
第 96 図	検出合計陶磁器類の用途組成		114	第144 図	外町遺跡出土陶磁器類の用途組成	179
第 97 図	近世の遺物(38)	検出①	115	第145 図	外町遺跡出土陶磁器類の材質組成	179
第 98 図	近世の遺物(39)	検出②	116	第146 図	名古屋城三の丸遺跡(家庭・簡易裁判所地点)出土陶磁器類の産地組成	183
第 99 図	近世の遺物(40)	検出③	117	第147 図	外町遺跡出土陶磁器類の産地組成	183
第100 図	近世の遺物(41)	検出④	118	第148 図	SK248出土陶磁器類の用途組成	184
第101 図	近世の遺物(42)	検出⑤	119	第149 図	SK340出土陶磁器類の用途組成	184
第102 図	その他合計陶磁器類の用途組成		120	第150 図	SK274出土陶磁器類の用途組成	185
第103 図	近世の遺物(43)	その他①	121	第151 図	SK053出土陶磁器類の用途組成	185
第104 図	近世の遺物(44)	その他②	122	第152 図	SK055出土陶磁器類の用途組成	186
第105 図	近世の遺物(45)	その他③	123	第153 図	SK086出土陶磁器類の用途組成	186
第106 図	近世の遺物(46)	焼塩壺①	125	第154 図	SK091出土陶磁器類の用途組成	187
第107 図	近世の遺物(47)	焼塩壺②	126	第155 図	その他の遺構 2 出土陶磁器類の用途組成	187
第108 図	近世の遺物(48)	瓦類①	128	第156 図	吉田城遺跡周辺の地籍図	195
第109 図	近世の遺物(49)	瓦類②	129			
第110 図	近世の遺物(50)	瓦類③	130			
第111 図	近世の遺物(51)	瓦類④	131			
第112 図	近世の遺物(52)	人形類①	133			
第113 図	近世の遺物(53)	人形類②	134			
第114 図	近世の遺物(54)	木製品①	135			
第115 図	近世の遺物(55)	木製品②	136			
第116 図	近世の遺物(56)	木製品③	137			
第117 図	近世の遺物(57)	木製品④	138			
第118 図	近世の遺物(58)	木製品⑤	139			
第119 図	近世の遺物(59)	金属製品①	140			
第120 図	近世の遺物(60)	金属製品②	141			
第121 図	近世の遺物(61)	金属製品③	142			
第122 図	近世の遺物(62)	石製品①	143			
第123 図	近世の遺物(63)	石製品②	144			
第124 図	近世の遺物(64)	石製品③	145			
第125 図	近代の遺物		146			
第126 図	焼塩壺胎土分析試料実測図		149			
第127 図	焼塩壺試料の胎土重鉍物組成		151			
第128 図	瓦類胎土分析試料実測図①		153			
第129 図	瓦類胎土分析試料実測図②		154			
第130 図	瓦類胎土分析試料実測図③		155			
第131 図	瓦類試料の胎土重鉍物組成		157			
第132 図	焼塩壺試料胎土中の重鉍物		158			
第133 図	瓦類試料胎土中の重鉍物		159			

表目次

第1表 発掘調査・整理作業工程表 …………… 9	第40表 吉田城遺跡出土陶磁器類の用途組成表 …………… 192
第2表 近世陶磁器類分類表(1) …………… 58	第41表 吉田城遺跡出土陶磁器類の材質組成表 …………… 192
第3表 近世陶磁器類分類表(2) …………… 60	第42表 吉田城遺跡近世陶磁器類の用途組成表2 …………… 193
第4表 近世陶磁器類分類表(3) …………… 62	第43表 吉田城関連略年表(1) …………… 197
第5表 近世出土陶磁器類集計表 …………… 65	第44表 吉田城関連略年表(2) …………… 198
第6表 近世遺構出土陶磁器類集計表 …………… 66	第45表 遺構一覧表(1) …………… 203
第7表 SD101出土陶磁器類集計表 …………… 67	第46表 遺構一覧表(2) …………… 204
第8表 SD129出土陶磁器類集計表 …………… 76	第47表 遺構一覧表(3) …………… 205
第9表 SD102出土陶磁器類集計表 …………… 83	第48表 遺構一覧表(4) …………… 206
第10表 SE106出土陶磁器類集計表 …………… 86	第49表 遺構一覧表(5) …………… 207
第11表 SE104出土陶磁器類集計表 …………… 90	第50表 遺構一覧表(6) …………… 208
第12表 SE107出土陶磁器類集計表 …………… 93	第51表 遺構一覧表(7) …………… 209
第13表 SK180出土陶磁器類集計表 …………… 95	第52表 遺構一覧表(8) …………… 210
第14表 SK032出土陶磁器類集計表 …………… 98	第53表 遺構一覧表(9) …………… 211
第15表 SK092出土陶磁器類集計表 …………… 100	第54表 遺構一覧表(10) …………… 212
第16表 その他の遺構出土陶磁器類集計表 102	第55表 遺構一覧表(11) …………… 213
第17表 検出合計陶磁器類集計表 …………… 114	第56表 遺構一覧表(12) …………… 214
第18表 その他合計陶磁器類集計表 …………… 120	第57表 遺構一覧表(13) …………… 215
第19表 焼塩壺試料の胎土重鉍物分析結果 151	第58表 遺構一覧表(14) …………… 216
第20表 瓦類試料の胎土重鉍物分析結果 … 157	第59表 遺構一覧表(15) …………… 217
第21表 SE001出土貝類一覧 …………… 160	第60表 遺構一覧表(16) …………… 218
第22表 SE001出土昆虫類一覧 …………… 160	第61表 遺構一覧表(17) …………… 219
第23表 屋敷地居住者の変遷 …………… 169	第62表 遺構一覧表(18) …………… 220
第24表 SK248出土陶磁器類集計表 …………… 184	
第25表 SK340出土陶磁器類集計表 …………… 184	
第26表 SK274出土陶磁器類集計表 …………… 185	
第27表 SK053出土陶磁器類集計表 …………… 185	
第28表 SK055出土陶磁器類集計表 …………… 186	
第29表 SK086出土陶磁器類集計表 …………… 186	
第30表 SK091出土陶磁器類集計表 …………… 187	
第31表 その他の遺構2出土陶磁器類集計表 … 187	
第32表 名古屋城三の丸遺跡(家庭・簡易裁判所地点)出土陶磁器類用途組成表 … 188	
第33表 名古屋城三の丸遺跡(家庭・簡易裁判所地点)出土陶磁器類材質組成表 … 188	
第34表 名古屋城三の丸遺跡(県警本部地点)出土陶磁器類の用途組成表 …………… 189	
第35表 名古屋城三の丸遺跡(県警本部地点)出土陶磁器類の材質組成表 …………… 189	
第36表 外町遺跡出土陶磁器類の用途組成表 … 190	
第37表 外町遺跡出土陶磁器類の材質組成表 … 190	
第38表 名古屋城三の丸遺跡(家庭・簡易裁判所地点)出土陶磁器類産地組成表 … 191	
第39表 外町遺跡出土陶磁器類の産地組成表 … 191	



明治初年の吉田城（豊橋市美術博物館所蔵）



明治初年の大手門（閉門の状態，豊橋市美術博物館所蔵）

第 I 章 調査概要と基本層序



第1節 遺跡をめぐる環境

1. 地理的環境

吉田城遺跡は、豊川左岸に朝倉川が合流する地点の南側一帯に位置する。豊川左岸は洪積期に形成された段丘・台地が展開するが、本遺跡の立地面は中でも最も新しい台地面である豊橋面上にある。豊橋段丘は標高10m前後を測り、豊川の沖積平野面との標高差は顕著である。また豊橋面上には、豊橋市役所、豊橋警察署、公会堂、豊橋駅等が置かれ、豊橋市の行政・文化の中心地域となっている。

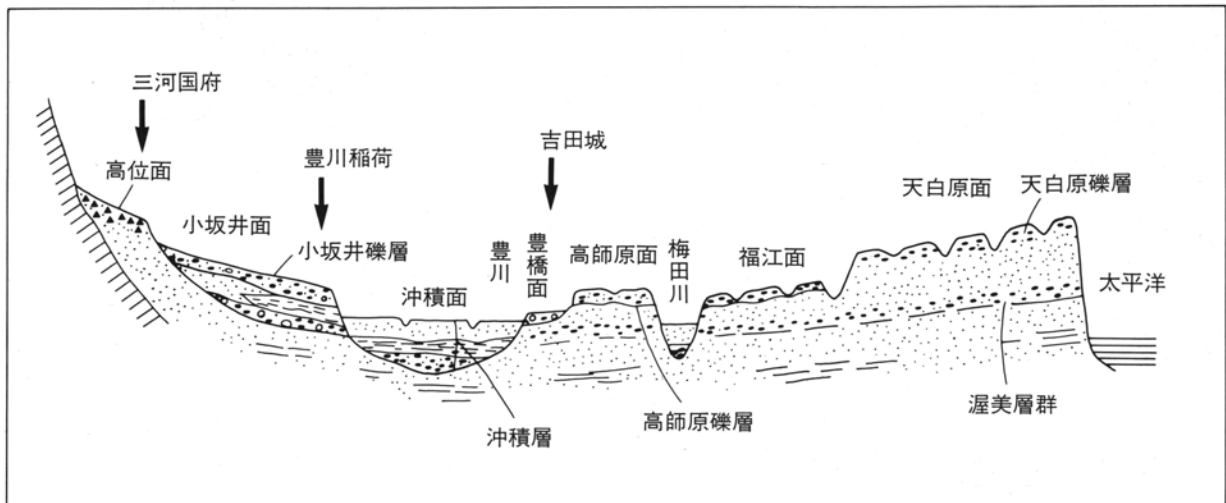
本遺跡は、豊川沖積面と豊橋段丘との境、急峻とも言える標高差8m余りの段丘崖上に位置している。これは、城の築かれた時代の所産にほかならない。『牛窪記』によれば⁽¹⁾、この地域に城を初めて築いたのは永正2年(1505)、今川氏の被官であった牧野古白であったとする。同記録では、築城に際しての背景について以下のように記している。

「豊川ノ流ミナギリメグリ 入江ノ先モサシ入ル処ナレバ 水底深く掘レテ 岸アラウ水ツヨケレバ 川除ノ為ニ入道ガ淵ヲ過半ウメラルベシト詮議アル 古老ノ人曰 カヽル深淵ニハ必主アルモノ也 是ヲナイガシロニスルトキハタヽリサハリヲスルモノナリ 先川社ヲ祭テ 同国吉祥山ノ塊ヲ入レソメ 其後岡ノ土ヲ運ビ埋メ給ハゞ 事安カルベシトイヘバ 尤也ト左法ノ通ニセシカバ 水筋モナグラカニ吉祥廓ハ成就ス」(下線筆者)

これによれば、吉田城の前身は「吉祥山」の土に因んで「吉祥廓」とも呼ばれていたことや、城の直下は豊川の蛇行により深い淵となり「入道ガ淵」とされていたこと等がわかる。水深も深く、流れも速い「入道ガ淵」の大半を埋め立ててまで、この段丘崖に城を築こうとしたのは、戦国期当時の今川・牧野氏側の豊川以西に対する防御上の必要性に起因しているのである。(杉浦 茂)

<註>

- 1) 『統群書類従 第二十一輯上』所収 牛窪城主牧野氏の盛衰を記した書。作者・成立年次ともに不明ではあるが、江戸時代初期の成立と考えられる(『群書解題』参照)。



第1図 東三河平野の第四紀層の模式的地質断面図
(井関弘太郎 『東海叢書24 車窓の風景科学』より一部修正)



第2図 吉田城遺跡の自然立地（1：50,000 沿岸海域土地条件図より作成）

2. 歴史的環境

今回の発掘調査において、最初に人々の生活の痕跡を確認できたのは、奈良時代～平安時代である。8世紀前半と10世紀前半の遺構・遺物が証明している。遺構は確認されていないが、弥生時代・古墳時代の遺物も出土している。次いで、鎌倉時代（13世紀代）の遺構・遺物があり、戦国・江戸時代の吉田城下町の時代へと続いている。

吉田城遺跡の周辺に目を広げると、多くの遺跡が存在している。牛川人骨の発見以来、縄文時代の小浜貝塚・大蚊里貝塚・五貫森貝塚・吉胡貝塚等、弥生時代の瓜郷遺跡・篠束遺跡・欠山遺跡・橋良貝塚・車神社貝塚・市杵嶋神社貝塚等、古墳時代には馬越長火塚古墳をはじめ万福寺古墳・権現山古墳・宮西古墳・神山古墳・東田古墳の他、水神古窯等を見ることができる。古代の遺跡として、寺院あるいは官衙施設と推定される市道遺跡をはじめ、大海津遺跡・大西遺跡、三河国国府推定地・国分寺跡・国分尼寺跡等を見ることができる。中世の遺跡として、公文遺跡をはじめ、吉田城（今橋城）・牟呂城・牧野城・一色城・月ヶ谷城・仁連木城・田原城等の中世城館が目立ってくる。

吉田城は、永正2年（1505）に今川氏の被官であった一色城主牧野古白がこの地に今橋城を築城したのが始まりである。その後、戦国時代を象徴するかのようになり、東三河支配の拠点として、領土を拡大しようとする戦国大名である今川・武田・松平氏等により多くの合戦の舞台となっていた。その中で、名も今橋から吉田へと改められている。天文15年（1546）、今川義元が攻略して城代を置いたが、桶狭間の合戦後の永禄7年（1564）には徳川家康の手に帰し、酒井忠次が城主となった。忠次は、城地を三の丸まで拡張したが、天正18年（1590）、家康の関東移封により、池田照政¹⁾が15万2千石で入封した。

池田照政は、牧野氏以来の3万石にも満たぬ小大名としての縄張りであったこの城に、新城を築く意気をもって城地の拡張と城下町の整備を計画した。その城域は、東は現在の飽海町から旭町、南は曲尺手町から呉服町、西は関屋町に達する約74万4千㎡（22万5千坪余）に及ぶ広大なものであった。その曲輪配置は、北に吉田川（豊川）を背にした本丸を中心に、その外側に二の丸、更にその外側に三の丸を配した不完全な円郭式縄張りであった。その周囲に巡らした土塁と堀とを隔てて武家屋敷が軒を連ねており、さらに城郭と武家屋敷の外側に外堀を巡らして、町方との区分を厳にしていた。城の大手門は、吉田市街の中枢である札木町において東海道に接し、東西交通の要衝の位置に設置されていた。しかし、10年後の慶長5年（1600）、関ヶ原の戦いの功績により池田照政は姫路に転封となり、計画も中断してしまった。その後、入城した松平氏をはじめとする9家22代の譜代大名たちがいずれも3万石～7万石の小大名であったため、財政的に照政の計画を完成することなく、明治に至り建物等も取り払われている。また、照政によって行われた城下町の整備も、照政以後6代の城主を経て、正保2年（1645）～元禄10年（1697）の間に完成をみている。江戸時代には、東海道の要衝の宿として二川宿とともに吉田宿が置かれ栄えた。

（小嶋廣也）

<註>

- 1) 照政は一般に輝政と書かれるが、吉田在城時はすべて「照政」と自署しており、姫路に移った晩年になってから「輝政」と称したとされているので、本書ではすべて照政と統一した。



- | | | | | |
|------------|-----------------|-------------|-------------|-------------|
| 1. 吉田城遺跡 | 9. 篠束遺跡 | 17. 馬越長火塚古墳 | 25. 大西遺跡 | 33. 淡洲神社北遺跡 |
| 2. 吉田城跡 | 10. 欠山遺跡 | 18. 万福寺古墳 | 26. 三河国府推定地 | 34. 牟呂城跡 |
| 3. 牛川人骨発見地 | 11. 橋良貝塚 | 19. 権現山古墳 | 27. 国分寺跡 | 35. 牧野城跡 |
| 4. 小浜貝塚 | 12. 見丁塚遺跡 | 20. 宮西古墳 | 28. 国分尼寺跡 | 36. 一色城跡 |
| 5. 大蚊里貝塚 | 13. 伊奈銅鐸出土地 | 21. 神山古墳 | 29. 石堂野遺跡 | 37. 月ヶ谷城跡 |
| 6. 五貫森貝塚 | 14. 水神古窯 | 22. 東田古墳 | 30. 公文遺跡 | 38. 二連木城跡 |
| 7. 吉胡貝塚 | 15. 市杵嶋神社貝塚・同古墳 | 23. 市道遺跡 | 31. 麻生田大橋遺跡 | 39. 田原城跡 |
| 8. 瓜郷遺跡 | 16. 車神社古墳 | 24. 大海津遺跡 | 32. 森岡遺跡 | 40. 二川宿本陣 |

第3図 吉田城遺跡周辺の遺跡分布図 (1 : 100,000)

第2節 調査概要

1. 調査史

吉田城遺跡関連の発掘調査は、これまで豊橋市教育委員会を中心に行われてきた。最も古い昭和52年度の調査から、最も新しい平成5年度の調査まで計7回を数える。いずれも、本丸・二の丸・三の丸といった城中心部の調査を行っている。また、本センターでも平成2年に行っており、今回と同様の武家屋敷地跡を調査している。ここでは、これらの調査の概略を年代順に述べていくことにする。

最も古い昭和52年の調査は、美術博物館の建設に伴う発掘調査である。この地は吉田城の三の丸(第4図第1地点)に相当し、弥生時代から江戸時代の遺構・遺物が見つかった。遺物は戦国時代のものが多く、堀も確認されている。この地点は、1年後の昭和53年にも調査を実施している。

次に、同じく昭和52年に、市役所新庁舎建設に伴う発掘調査が行われた。この地も吉田城三の丸(第4図第2地点)に相当する。ここでは、平成5・6年に行われた隣接地の調査でも確認された江戸時代の堀跡等が見つかった。

昭和59年には、三の丸会館建設に伴う調査が行われた。ここも吉田城三の丸(第4図第3地点)に相当する。奈良・平安時代の土坑や中世末から近世初頭のピットと溝、戦国時代の堀、江戸時代の馬場跡・米蔵跡等が見つかった。奈良時代の土坑からは「大一」と墨書された須恵器が、また、平安時代の土坑からは緑釉陶器が出土している。こうした遺物は地方役所や寺院跡等の公共性の高い性格の遺跡から出土しており、付近にこうした遺跡の存在を示すものと考えられる。

平成に入って最初に行われたのは、平成元年の豊橋公園の整備に伴う試掘調査である。場所は江戸時代の本丸(第4図第4地点)にあたり、戦国時代の遺構や江戸時代の本丸御殿の石敷の基礎、石組の井戸等が見つかった。遺構の存在する面は数層におよび、盛土による整地が何度も行われていたことが確認された。また、出土品には戦国時代の連銭や池田照政時代の瓦類等がある。

平成2年の発掘調査は、本センターが実施している。この調査は豊橋警察署建て替えに伴うものであり、江戸時代の武家屋敷跡(第4図第5地点)にあたる。幕末期に作成された絵図「吉田藩士屋敷図」によれば、調査区は家老西村孫次右衛門の屋敷等に相当する。遺構は、古墳時代の竪穴住居や戦国時代の溝、江戸時代の溝や武家屋敷関連と考えられる井戸・土坑多数を検出している。遺物は、須恵器や土師器、戦国時代の遺物、肥前系の陶磁器類、中国・朝鮮製の陶磁器類が出土した。

平成3年には豊城中学校の校舎増築に伴う発掘調査が行われている。ここは吉田城二の丸(第4図第6地点)に相当する。戦国時代の堀や南北20m、東西13mの江戸時代の巨大な瓦溜りが見つかった。戦国時代の堀からは、多量の土師器の皿と少量の陶磁器類が出土しており、吉田城以前に築造された今橋城のものと推測される。巨大な瓦溜りからは、宝永5年(1708)の紀年銘瓦が出土し、土塁上に築かれた雷櫓のもので、宝永4年(1707)の地震によって倒壊した後に再建されていることが分かった。また、この瓦溜りからは鯨の瓦も出土している。

平成5年に入ると、市役所新庁舎および地下駐車場建設に伴う発掘調査が行われている。ここも吉田城三の丸(第4図第7地点)に相当するが、縄文時代から江戸時代までの幅広い複合遺跡である。

特に戦国時代や江戸時代の遺構が多数見つかリ、記録の少ない吉田城の姿を推定する上で、有益な情報を多く与えてくれた。

戦国時代の遺構では、堀、溝、井戸等がある。堀は断面が逆三角形になる「葉研堀」で、幅は平均5m、深さは2.5m～3mである。堀底には仕切りがあり、堀の中での敵の移動を防いだものと考えられる。この堀は西側に向かって突出する部分を持っており、虎口ないしは虎口の防御施設に相当するものと推測されている。溝は、中世によく見られる屋敷地を方形に区画するもので、区画内に掘立柱の建物と井戸を持っている。区画外にはこうした遺構は見られず、通路として利用されていたようである。井戸からは、瀬戸美濃産の折縁皿や中国製の白磁片が出土している。

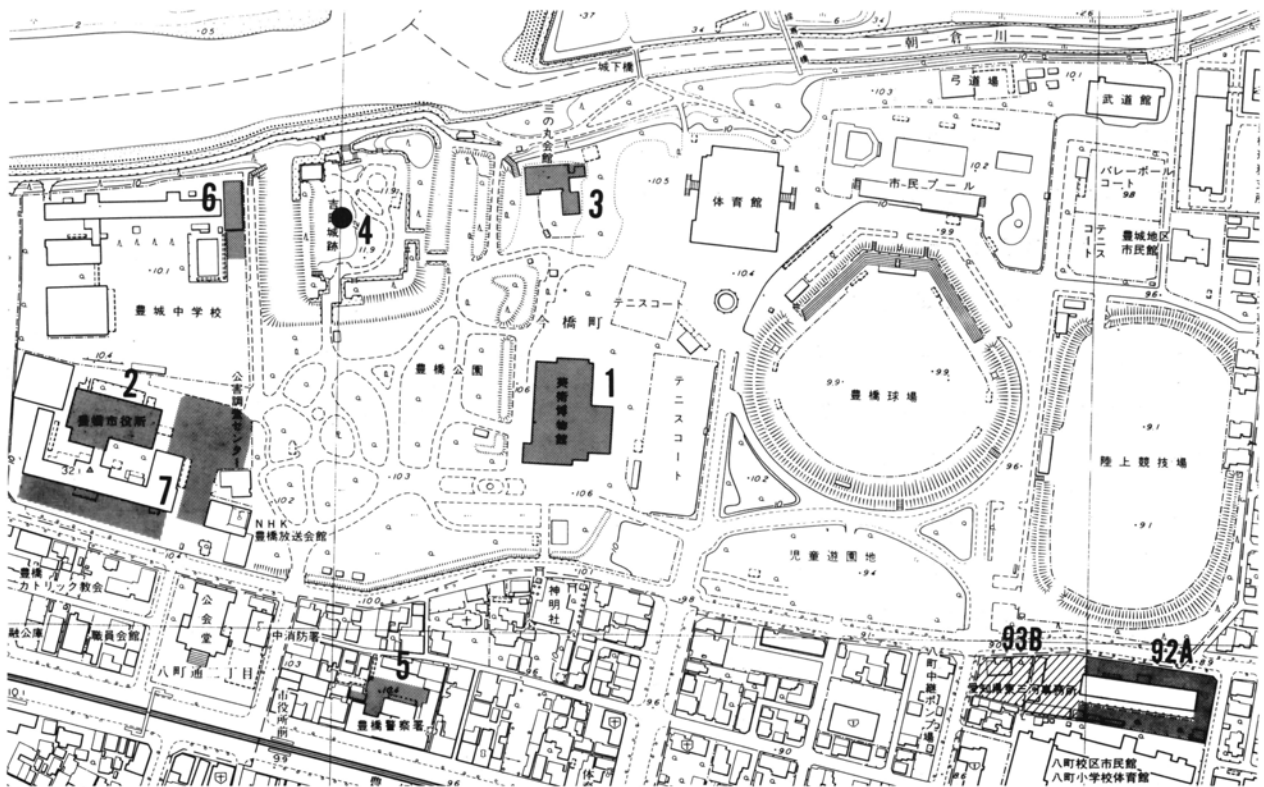
江戸時代の遺構には、堀、溝、井戸、蔵跡、塀跡、大型掘立柱建物跡等がある。堀は二の丸のもので、深さが7mあり底から2m程石垣が積まれており、下部を補強する「腰巻石垣」と考えられる。これまで二の丸の石垣を記したものは、たったひとつの絵図だけであり、文献資料の不備を発掘調査が補った好例といえる。蔵は石を敷いた上に礎石を置き建てたもので、東西30m以上の規模を持っている。塀は通路を仕切るもので、戦国時代の通路が基本的に踏襲されている。遺物は、黄瀬戸陶磁器を含む各種陶磁器類が多く出土している。

これ以外にも、古墳時代の円筒埴輪片や中世の水神祭祀遺構、歩兵十八連隊関係の遺構等が確認されている。(水谷寛明)

<参考文献>

豊橋市教育委員会 『吉田城いまむかし 一吉田城址発掘出土品展一』 1994

(財)愛知県埋蔵文化財センター 『吉田城遺跡』 1992



第4図 調査区位置図 (1:5,000)

2. 調査に至る経緯

吉田城遺跡は、愛知県豊橋市八町通五丁目地内に所在する古代から江戸時代にかけての複合遺跡である。その時期的中心は、牧野古白による今橋城築城以後であり、近世吉田城とその城下町(吉田宿)の時期である。吉田城遺跡に関する発掘調査は、これまでに前述した通り豊橋市教育委員会が本丸・二の丸・三の丸地区を中心に7度にわたる調査を、当センターが豊橋市警察署地点(武家屋敷地)の調査をこれまでに実施している。今回の調査地点は、本丸の南東約600m、豊川の左岸、朝倉川と合流する豊橋段丘上に位置しており、標高は約9m前後である。

今回、愛知県では、東三河総合庁舎建設を計画した。その用地は、愛知県東三河事務所及びそれに隣接する社宅地点で、吉田城跡(遺跡番号79393)⁽¹⁾の範囲内ではないが、幕末期に描かれた「吉田藩士屋敷図」(豊橋市美術博物館所蔵)によると近世吉田城の武家屋敷に当たることから、事前に発掘調査を実施し記録保存を行う必要性が認められた。このため、遺跡の発掘調査が計画され、愛知県総務部より愛知県教育委員会を通じて委託を受けた財団法人愛知県埋蔵文化財センターがこれを実施した。調査については、平成2年9月に実施された試掘調査の結果、東三河事務所の建物の地下部分は約4mも掘り下げられているものの、建物を除いた部分については明治以降の開発行為による攪乱を受けおらず近世吉田城の城下町の遺構が良好に残存している可能性が高かったため、用地内全面を発掘調査の対象とした。調査面積は、5,300㎡である。調査については、廃土置き場や事務所用地などの諸条件を勘案し、平成4年度(1月～3月)に建物の周辺部分をA区として2,600㎡、平成5年度(4月～7月)には残りの部分をB区として2,700㎡を設定し、発掘調査を実施した。

<註>

- (1) 愛知県教育委員会 『愛知県遺跡分布地図(Ⅲ) 東三河地区』 1990

3. 調査の経過

発掘調査に入る以前から、今回の調査区では外堀と武家屋敷が想定されていた。そのため、外堀や屋敷地を区画する溝、建物、廃棄土坑、井戸等の検出に重点をおき、それらを明らかにすることを念頭に調査を実施した。

発掘調査に先立って行われた、愛知県東三河事務所の建物の取り壊し工事に際し、地下駐車場の土圧の関係で駐車場部分のアスファルトを剥ぎたいとの原因者の要請を受けて、平成5年11月に現地立会いのもとバックホウによる表土剥ぎを実施した。その後、建設省告示によって定められた平面直角座標第Ⅶ系に準拠した5mグリッドを設定し、手掘りで包含層を掘削し遺構を検出する方法をとった。まず、始めに調査区周辺に土層の確認や排水を目的としたトレンチを掘削した。しかし、このトレンチにおいては明確に遺構が捉えられなかったため、地山である粘質土あるいは砂礫層まで掘り下げて遺構を検出した。掘り下げる土が異常に固く締まっていたことや、外堀や暗渠等の大型遺構が存在したことが、調査期間の後半が梅雨の時期に当たり長雨が続いたこともあって、作業は難航を極めた。

遺構の測量については、ヘリコプターによる航空写真測量を実施し、調査区全面の1/50、1/100、1/200基本平面図を作成したほか、重要部分については手測りによる遺構図を作成した。

また、年度も押し詰まった3月27日には現地説明会を開催し、天候にも恵まれ約400名という多くの方々に御参加いただいた。調査区内に想定される屋敷地の1つに住んでおられた「徳島小左衛門」の御子孫も参加され、多くの貴重な情報を得ることができた。この説明会では、外堀や武家屋敷等の遺構の説明や近世陶磁器類等の出土遺物の展示を行い、今回の調査成果を普及することができた。

全調査区から出土した遺物は、27ℓ入りコンテナ約400箱余に及ぶ。その大半は、近世陶磁器類や瓦類・木製品で占められ、他に金属製品・石製品、中世の山茶碗類・甕・伊勢型鍋、古代の須恵器・古式土師器や灰釉陶器等を見ることができる。出土遺物の整理については、発掘調査と平行して洗浄・注記作業を実施した。平成6年度には、報告書作成に向けて、出土遺物の実測図作成や陶磁器類組成分析のための口縁部計測法によるカウント等の整理作業を実施した。

工程	92		93												94												95					
	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3			
発掘調査	作業員説明会	■	12/5																													
	資材等搬入		■				■																									
	表土剥ぎ	■																														
	掘り下げ		92A	■	■	■	■	■	■	■																						
	遺構検出			■	■	■	■	■	■	■																						
	遺構掘削			■	■	■	■	■	■	■																						
	空撮																															
	補足調査																															
	現地説明会																															
	埋め戻し																															
資材等撤収																																
整理	基礎整理			■												■																
	報告書作成			■												■												■				

第1表 発掘調査・整理作業工程表

発掘調査参加者

浅倉 増雄・浅倉 美子・阿部 香織・新井 治郎・荒木サダ子・荒津三佐子・飯田眞理子
石川はるよ・磯部たみ子・伊藤 直子・伊藤 正義・井上 隆水・今泉 良夫・江坂 朝子
榎島恵美子・大木美津子・太田 睦美・大竹つや子・大竹富美子・大谷 朝子・大塚 靖隆
荻野 清・小栗 幸朗・小柳津 昇・粕谷 旬代・神谷 洋子・鴨田 典敏・川澄榮一郎
木村 悦男・朽名 光子・栗嶋きみ子・小塚 雪江・小林 澄子・小林 正・小林 久典
権田 利美・佐井 弘正・坂井 國博・酒井 寅蔵・阪井 幹江・坂部 恭子・佐久間泰男
佐野 栄作・佐野 尚子・篠原 民江・柴田 利恵・白井 政子・杉浦 富雄・鈴木あや子
鈴木 恵子・鈴木 正・鈴木 富男・鈴木 文雄・鈴木 守・田口 充・竹下 一子
竹内喜代美・田崎 砂子・田崎 広喜・寺山 博子・戸田美佐子・豊田てる子・鳥居 和子
中尾 真悟・中嶋 伊助・中島幸三郎・中島たづ子・中村 珠江・中根富美子・長坂 淳子
夏目 浪江・野口 芳一・秦 紀子・原 宏子・半田三重子・日高美代子・平松千恵雄
福井 公一・福田美智子・星屋 銀子・蒔田すま子・松本 純子・三浦 和子・三浦 洋子
三輪加代子・森川光太郎・森野 実・山北チヨ子・山崎 竹代・山田 晃子・山田 稔
山西 和子・渡辺 恵子

(五十音順・敬称略)



第6図 発掘作業風景

4. 調査日誌抄

- | | | | |
|--------|------------------------|-----------|-------------------------------|
| 11月初旬 | 表土剥ぎ開始 | 4月7日 | 基準杭設置 |
| 12月5日 | 作業員説明会（八町校区市民館） | 4月14日 | 作業開始，清掃・トレンチ掘削
調査区北壁にて暗渠検出 |
| 12月25日 | 基準杭設置 | 4月15日 | 掘り下げ・遺構検出開始 |
| 1月5日 | 作業開始，清掃・トレンチ掘削 | 5月25日 | 東大埋文調査室安芸毬子氏他2名来訪 |
| 1月8日 | 掘り下げ・遺構検出開始 | 5月31日 | 遺構掘削開始 |
| 1月18日 | 外堀検出・掘削（2月10日まで） | 6月10日 | 土木事務所地点試掘調査 |
| 2月5日 | 遺構掘削開始 | 6月22日 | 理事長視察 |
| 3月17日 | 専門委員檜崎彰一先生現地指導
空撮準備 | 6月下旬～7月上旬 | 雨天のため作業中止続く |
| 3月18日 | 現地説明会の記者発表 | 7月15日 | 空撮準備 |
| 3月19日 | 空撮 | 7月16日 | 空撮 |
| 3月25日 | 県文化財課赤羽一郎氏現地指導 | 7月19日 | 補足調査（23日まで） |
| 3月27日 | 現地説明会 | 7月22日 | 調査区の北側に調査区を拡張 |
| 3月29日 | 補足調査（4月14日まで） | 7月26日 | 埋め戻し（29日まで） |
| 3月31日 | 埋め戻し（4月9日まで） | 7月30日 | 完全撤去 |



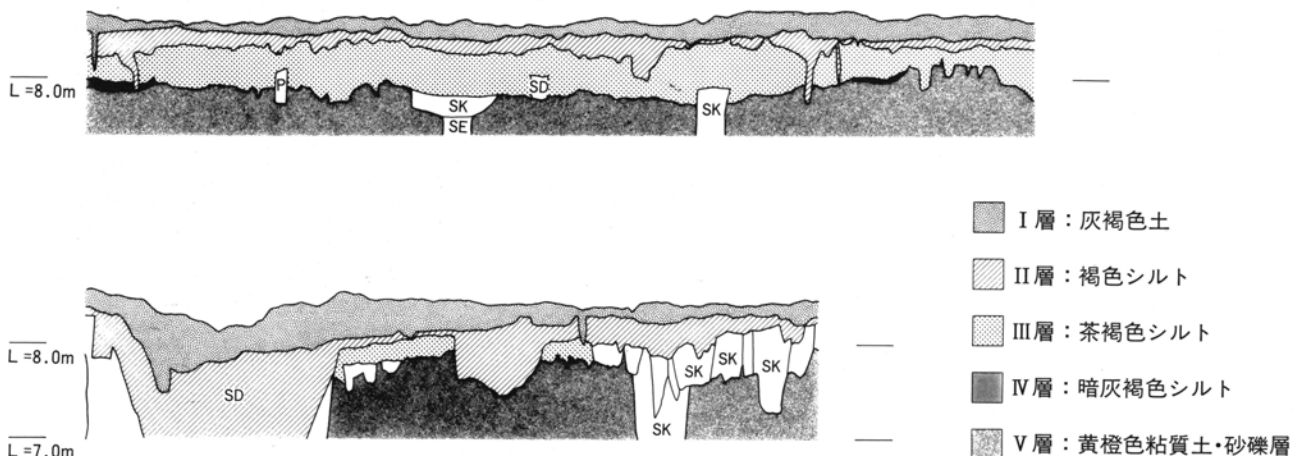
第7図 現地説明会風景

第3節 基本層序

愛知県東三河事務所地点における基本層序は、概ね5層からなっている。第I層は、表土で、現地表から20cm程の厚さを有する。その中からは、調査区の全体ではないがバラスを曳固めたような硬い層が確認された。第II層は、明治以降から戦前までの堆積よりなる層で、20cm程の厚さを有する。南壁の東端部分の最上層において、第二次世界大戦の空襲時の焼土層と思われる層も検出された。また、この層から掘り込まれている遺構としては、十八連隊時に構築された煉瓦建物の基礎部分や暗渠、明治期の裁判所の煉瓦造りの門柱跡、戦時中に掘削された防空壕跡等がある。第III層は、茶褐色シルト層で、約20～70cm程の厚さを有する。この層が、近世の包含層であり、東へいくほど深くなっている。これは、後述する第V層である基盤層が西から東に傾斜していることに起因しているものと考えられる。また、この層の上層から近世の遺構が掘削されており、これを近世の地表面＝生活面と想定した。中には、第V層の基盤層をも掘り下げようような、井戸や外堀等の大型遺構も見受けられる。第IV層は、暗灰褐色シルト層で、約5～10cm程の厚さを有する。この層は、調査区の全体から検出されたのではなく、第V層の基盤層の低い所にもみ堆積している。この層からは、中世の遺物の出土が多いが、中には奈良時代や平安時代の遺物も確認されている。近世の段階で削平されている可能性はあるが、この層の上層を、中世以前の地表面＝生活面と捉えている。第V層は、基盤となる地山層であり、明黄橙色粘質土あるいは砂礫層である。調査区が、「豊橋段丘」の東端部分に当たることから、東側にやや傾斜している。各層位の平均的な標高は、第I層が8.9m、第II層が8.7m、第III層が8.5m、第IV層が8.2m、第V層が8.1m前後で、低い所では7.7mとなっている。

本地点における基本層序は以上のようなものであるが、今回の発掘調査では遺構検出を各々の地表面＝生活面で行ってはいない。複雑に交錯する包含層中で遺構を面として捉えることが極めて困難であったため、地山まで掘り下げて遺構検出を行わざるを得なかった。そのため、記録することのできなかった遺構が有り得ることを予め断わっておきたい。しかしながら幸いなことに、近世においては外堀と屋敷地が、古代・中世においても僅かながらに遺構を確認することができ、多くの成果を得ることができた。以下、章を改めて、遺構・遺物の概要を報告したい。

(小嶋廣也)



第8図 A区北壁セクション模式図 (タテ:ヨコ=5:1)

第II章 古代の遺構と遺物



第1節 古代の遺構

1. 概要

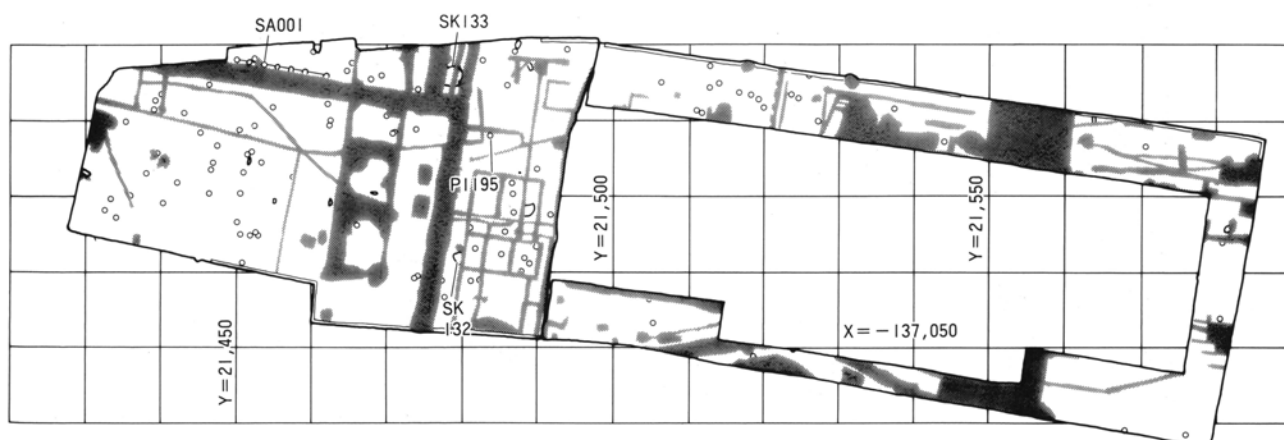
本遺跡から検出された古代の遺構は全体的に希薄であり、遺構より当地域の歴史的事実を引き出したり、役所や特定の建物跡等を想定するまでには及ばない。遺跡の位置からすれば、大宝律令の制定以後に分けられた宝飯・八名・渥美の三郡内の渥美郡の中心地として、古来より注目されていた土地柄であり、渥美郡の郡衙や飽海の神戸跡等への可能性を考えたいところである。しかし、今回の発掘調査の結果からは、そうしたものに言及できるだけの資料は見つかっていない。

本遺跡の古代の遺構について概観すれば、まず92年度調査区においては、93年度調査区に比べ遺構数も少なく、各遺構の規模も小さい。遺構の分布の様子は、大まかに調査区の東と北西の2ヶ所にかたまっており、いずれも小規模な土坑が点在しているだけである。そこには、はっきりとした方向性や共通性は見られず、遺構から出土する遺物も少ない。

93年度調査区は、92年度のそれと比べれば遺物量も多く、分布にも特色が見られる。93年度の調査区を東と西に分割すれば、西に柱穴列が存在し、東に比較的大きな土坑が存在するといえる。

まず、西の柱穴列であるが、今回の発掘調査においては1列の柱穴列と2列の柱穴列の可能性を持つ遺構群が確認されている。このうち後述の2列の遺構群はほぼ2列が平行に並び、もう1列の柱穴列に直交する方向性を持っている。しかし、遺構の大きさも遺構間の距離も様々であり、方向性を持ってかろうじて列をなす程度のものであり、柱根を残すものも少ない。また、これらの柱穴列が何を区画するものであったのか等の列の性格については、出土遺物も少なく各遺構の形状も様々であり、明確にすることはできない。

次に東の土坑であるが、直径1.5m前後の土坑が3つあるが、いずれも江戸時代や明治時代の溝や建物により破壊を受け、残存状態が良くなく土坑の性格を考えるだけの資料とはなっていない。また、93年度調査区の中央部分は、後世に受けた攪乱が多く、遺構の存在すら判明しない。ただ、攪乱よりかなりの数の古代の遺物が出土しており、おそらくは東西部分にも匹敵するだけの遺構が、中央部分にも存在していたらと思うられる。



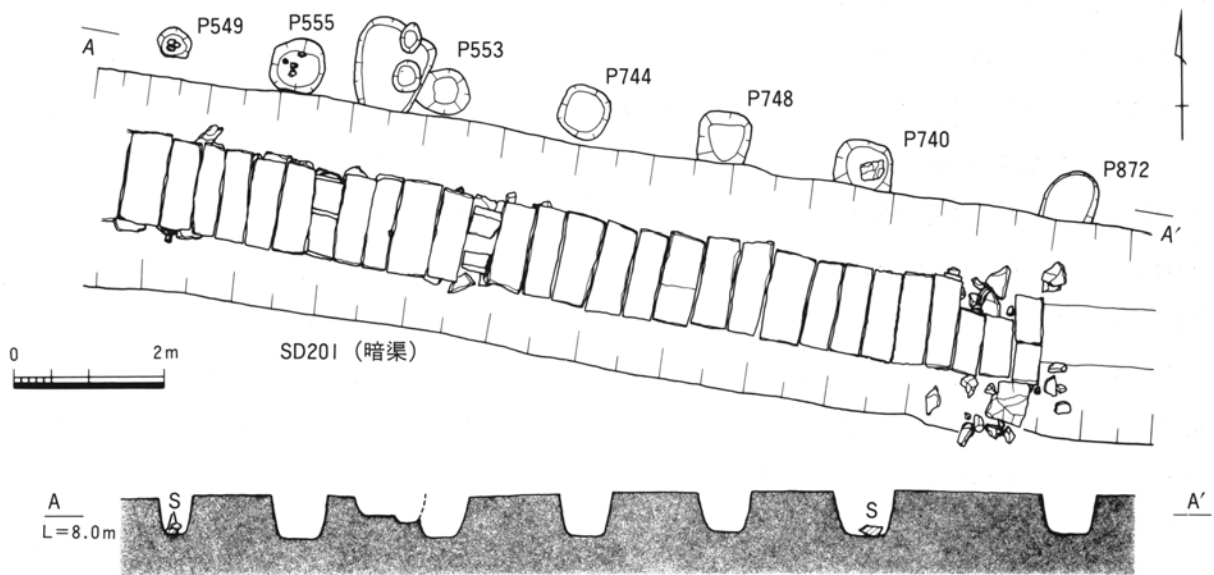
第9図 古代主要遺構配置図 (1:1,000)

2. 柱穴列 (SA001)

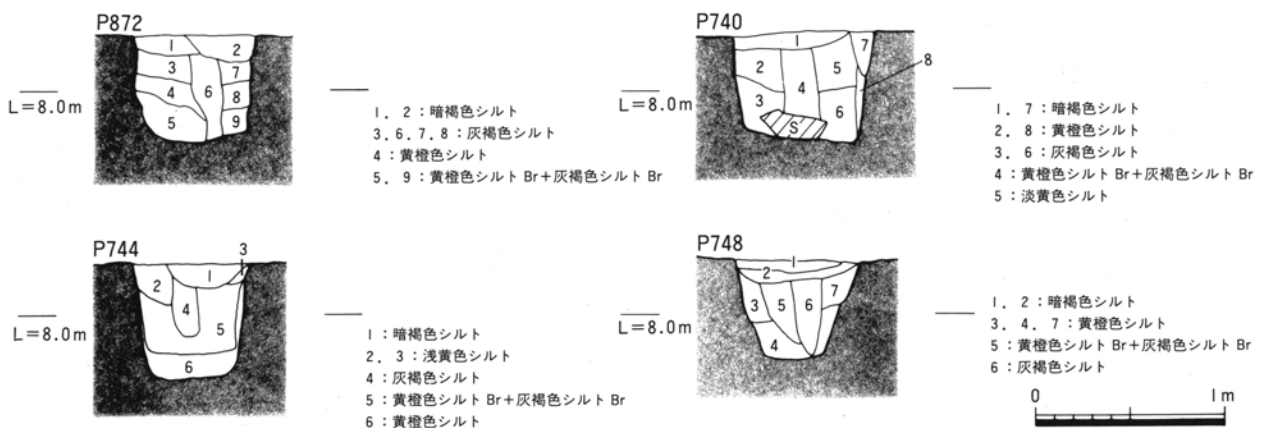
今回の発掘調査において確認された、ほぼ南北に伸びる2列の柱穴列の可能性のある遺構群は、各柱穴の遺構規模が様々であり、遺構間隔も均一でないので言及をしない。ここでは、暗渠の北側にある方向性をしっかりと持った柱穴列についてだけ述べることにする。

この柱穴列は93年度調査区の北端で検出されたもので、石組みを残す暗渠の北側に位置し、方向はN-9°-Eを示している。調査区北端より計7つの柱穴が連続しており、長さ約6mを測る。ただし、列は北端で調査区の外へ伸びている可能性がある。また、この柱穴列は石組みのある暗渠と方向が一致しており、暗渠に平行して位置していると言ってよい。後に述べるように、暗渠は江戸以前の区画溝を掘り返して作られたものであり、古代に敷かれた方向性を江戸を通じ明治の時代まで連綿と受け継いで来た可能性が高いと思われる。

区画の対象物としての建物跡等の位置は、柱穴列の南側に遺構が希薄なので北側に想定することが自然であろうが、北側は1mたらずで調査区外となってしまうのでその実態はつかめない。ただ、暗渠になる以前の江戸期の溝が屋敷の区画を担っているようで、方向性だけでなく区画の性格をも古代のものを踏襲している可能性がある。



第10図 柱穴列 (SA001) 平面図・断面図 (1:100)



第11図 柱穴断面図 (1:40)

遺構はほぼ1mの等間隔で連続しており、各遺構の規模は平均して長径約0.8m、短径約0.7m、深さ約0.5mで、形は隅丸方形型をしているものが多い。また、これらの遺構のほとんどに柱根跡が見られる。セクションから計測できる柱の深さは、0.2m程度である。

出土する遺物は、須恵器や土師器の小片が多く、時期的には7世紀末から8世紀初頭のものである。

Pit744 調査区北端より4つ目の柱穴で、柱根を残している。検出段階で長径・短径ともに約0.7mで、隅丸方形を呈している。深さは柱穴列中で最も深く約0.7mを測る。

Pit740 調査区北端より6つ目の柱穴で、柱根を残している。検出段階で長径・短径ともに約0.8mで、隅丸方形を呈している。深さは約0.6mとやや浅めではあるが、底部より石が出土しており、柱を支える位置に置かれていたことがセクションから確認できる。

Pit872 調査区北端より7つ目の柱穴で、柱根を残している。検出段階で長径約1.0m、短径約0.7m、深さ約0.5mを測り、楕円形を呈している。暗渠によって南肩を壊されているが、おそらくこの柱穴列の中では最大の大きさのものであろう。

3. 土坑

93年度調査区の東に比較的大きな土坑が存在する。また、規模こそ小さいが残りの良い遺物を包含する土坑もある。ここでは、比較的大きな土坑3基と遺物の残存状態の良かった土坑1基を取り上げることとする。

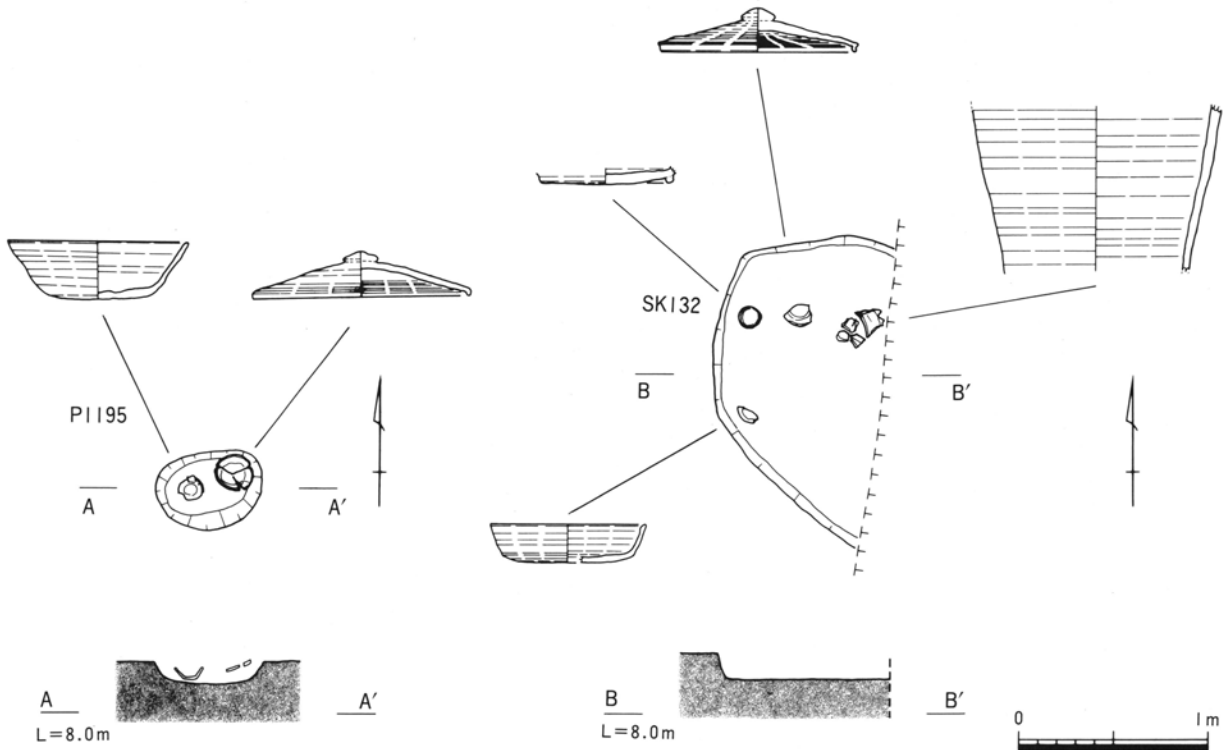
SK132 93年度調査区の東南で検出された土坑で、石組みのない暗渠と明治期の煉瓦建物の間に位置する。この煉瓦建物によって、おそらくは土坑の半分を削り取られており、遺構の全貌を明らかにすることはできない。検出段階で南北約1.6m、深さ約0.03mを測り、不定形な形をしている。土坑の上部は煉瓦建物を作る段階で削平され、残された土坑の下部にかろうじて須恵器の杯と杯蓋・甌等の遺物が残ったと考えられる。出土遺物から時期は7世紀末から8世紀初頭頃と思われる。

Pit1195 93年度調査区の東で検出された土坑で、石組みのない暗渠が西から大きく南へ曲がる地点の東側に位置する。検出段階で長径約0.6m、短径約0.5m、深さ約0.05mを測り、形状は楕円型である。出土遺物から時期は7世紀末から8世紀初頭の頃と思われる。

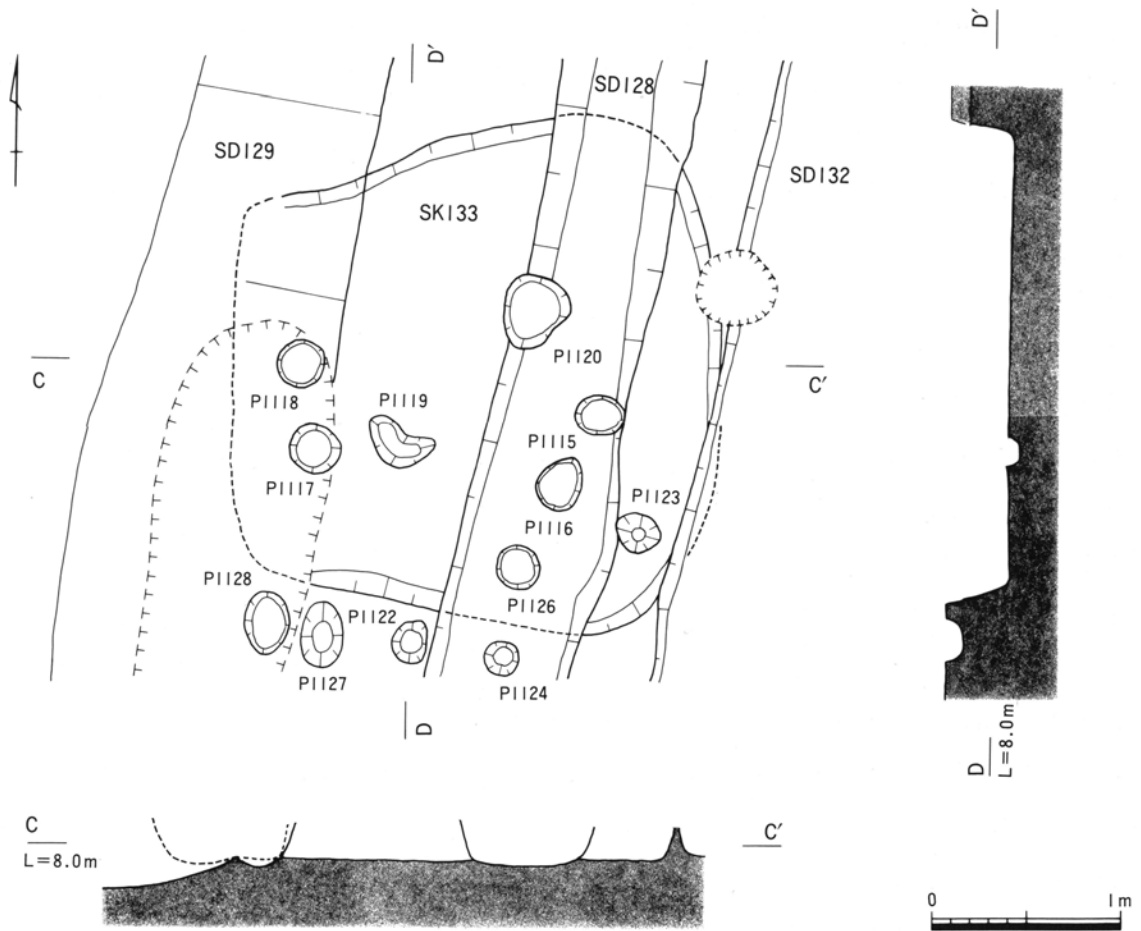
SK159 93年度調査区の東で検出された土坑で、明治期の煉瓦建物の中に位置する。煉瓦建物や中世の土坑により土坑の半分を削られており、全体像は明らかではない。検出段階で南北長約2.2m、深さ約0.2mを測る。出土遺物はいずれも小片であり、時期の特定は難しい。

SK133 93年度調査区の北東で検出された土坑で、石組みのない暗渠が西から南へ曲がる地点の北に位置する。今回の調査区の中では、最大規模の遺構である。検出段階で長径約2.6m、短径約2.1m、深さ約0.2mを測り、形状は不定形ではあるが方形に近い形を呈している。江戸時代の溝2条と土坑1基により1/3ほど削り取られている。出土遺物は少なくいずれも小片である。この土坑は遺構内に小さな遺構を8つ持っており、規模は長径・短径とも約0.3m程度のものばかりである。これら8つの遺構の分布には、まとまりや方向性等は見られず、土坑の特色はつかめない。ただ、8つの遺構のうち土坑のおよそ中央にあるPit1120からは須恵器が出土している。時期的には土坑SK132と同じ頃で、7世紀末から8世紀初頭である。

(水谷寛明)



第12図 SK132・Pit1195平面図・断面図 (1:40)



第13図 SK133平面図・断面図 (1:40)

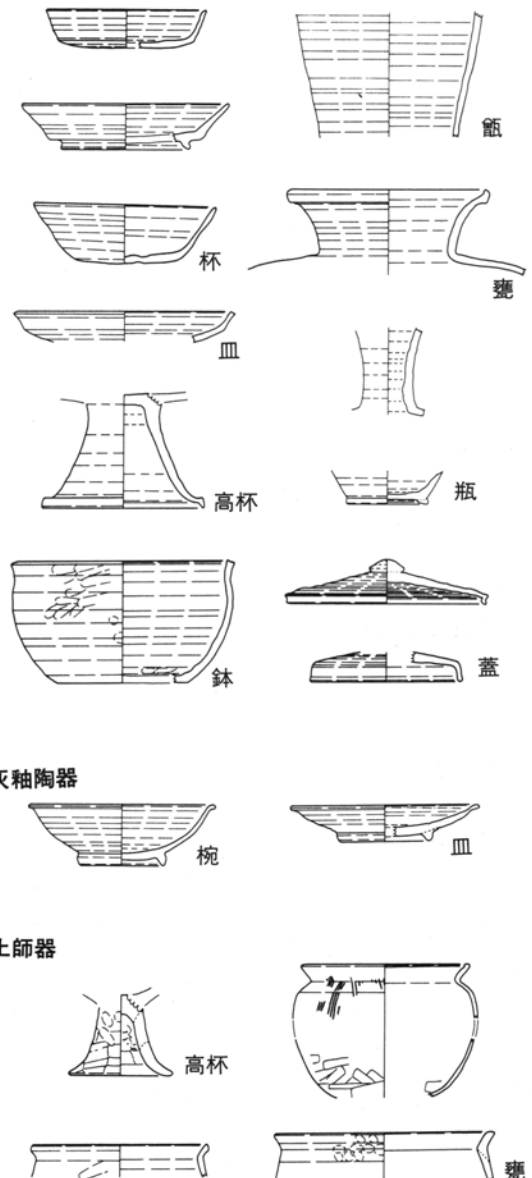
第2節 古代の遺物

1. 概要

今回の調査区において、前節で述べたように僅かながらに古代の遺構が検出され、その中から須恵器や灰釉陶器等の遺物が出土している。しかしながら、その大半の遺物は、検出段階や近世の遺構埋土の中から出土している例が多い。このため、細かな分類やカウントについては実施していない。これらの古代の遺物を提示する前に、大まかな分類を紹介しておきたい。

- | | | | |
|---------|--------|----------|-----|
| 1. 須恵器 | 1. 供膳具 | 杯・皿・高杯・盤 | 須恵器 |
| | 2. 調理具 | 鉢・甑 | |
| | 3. 貯蔵具 | 甕・壺・瓶 | |
| | 4. その他 | 杯蓋・その他 | |
| 2. 灰釉陶器 | 1. 供膳具 | 椀・皿・鉢 | |
| | 2. その他 | | |
| 3. 緑釉陶器 | 1. 供膳具 | 椀・皿 | |
| 4. 土師器 | 1. 供膳具 | 皿・高杯 | |
| | 2. 調理具 | 甕・甑 | |
| | 3. その他 | | |

出土した遺物の大半は須恵器の杯・杯蓋で、7世紀末～8世紀前半頃の湖西窯のものが中心である。猿投窯等の製品も少量ではあるが確認している。全体的に須恵器の持つ硬質感はなく、低温焼成によるものなのかあるいは二次的に火を受けているのかは不明であるが、軟質のものが多い。他には、10世紀代の灰釉陶器の椀・皿が出土しており、ほとんどが二川窯の製品である。また、緑釉陶器の皿の破片も1点出土している。残りは、土師質製品で、調理具である甕が多く出土している。ただ、三重県の斎宮で出土する甕と同様の甕が出土しており、すでにこの当時から三重県との交流を偲ぶことができるように思われる。(小嶋廣也)

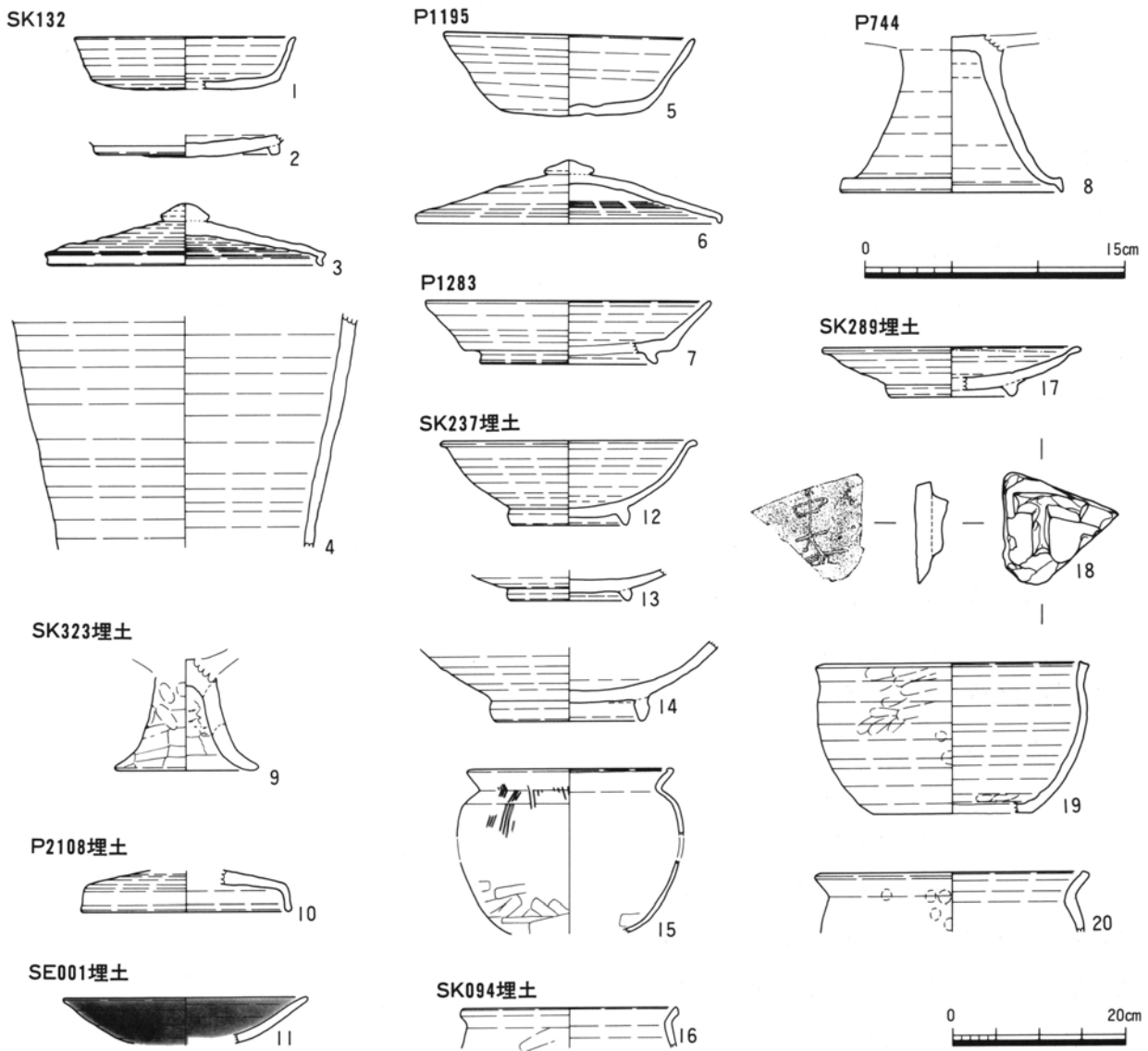


第14図 古代遺物分類図

<参考文献>

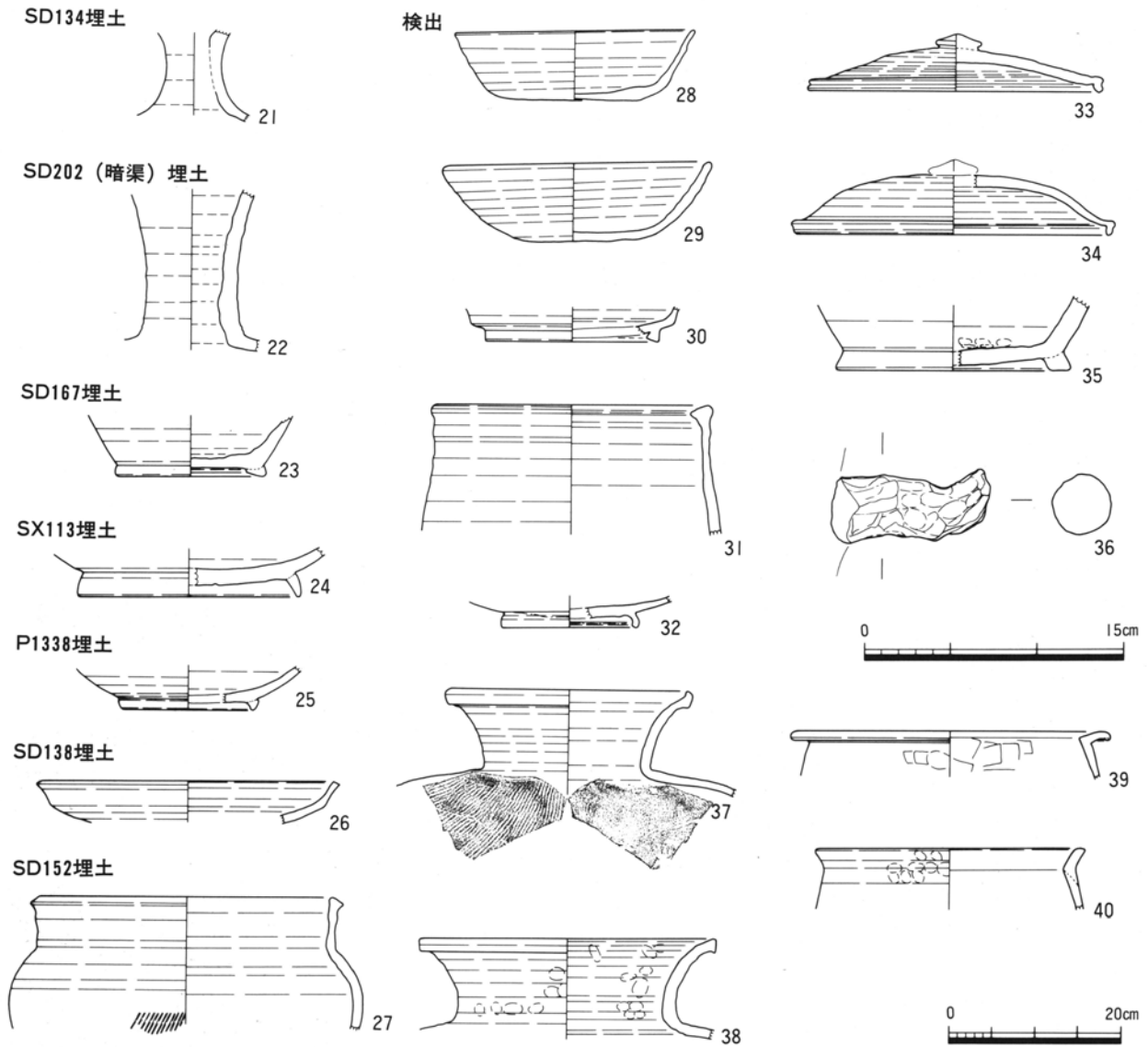
- 後藤建一 「湖西古窯跡群の須恵器と窯構造」 『静岡県の窯業遺跡 本文編』 静岡県教育委員会 1989
 愛知県教育委員会 「愛知県古窯跡群分布調査報告(Ⅲ) 尾北地区・三河地区」 1983

2. 出土遺物



遺物 番号	調査地点		器種			法量 (cm)				釉薬・調整等		産地	備考	PL	登録 番号
	調査区	遺構	種類	用途	器種	器高	口径	胴径	底径	内面	外面				
1	93B	SK132	須恵器	供膳具	杯	(3.0)	(12.5)	-	-	ナデ	ナデ+ナズリ	湖西	内面自然釉・融着物	22	E-001
2	"	"	"	"	"	-	-	-	10.3	"	"	"	"		E-002
3	"	"	"	その他	蓋	3.5	(15.6)	-	-	"	ナデ	"	焼成時に歪んでいる		E-003
4	"	"	"	調理具	甌	-	-	-	"	"	"	"	"	22	E-004
5	"	P1195	"	供膳具	杯	4.6	14.3	-	8.3	"	"	"	焼成不良か	22	E-005
6	"	"	"	その他	蓋	3.6	17.4	-	-	"	"	"	低温焼成か	22	E-006
7	"	P1283	"	供膳具	杯	(3.6)	(16.1)	-	(10.1)	"	"	"	低温焼成か		E-007
8	"	P 744	"	"	高杯	-	-	-	(12.7)	"	"	"	低温焼成か、盤か	22	E-008
9	92A	SK323	土師器	"	"	-	-	-	(7.6)	-	指押え+ナデ	不明	色調：橙色	22	E-009
10	"	P2108	須恵器	その他	蓋	-	(11.8)	-	-	ナデ	ナデ	湖西	肩径(11.2)cm, 外面自然釉	22	E-010
11	"	SE001	緑釉陶器	供膳具	皿	-	-	-	-	緑釉	緑釉	二川	"		E-011
12	"	SK237	灰釉陶器	"	椀	4.8	(14.4)	-	(6.5)	ナデ	ナデ	"	焼成不良か	22	E-012
13	"	"	"	"	皿	-	-	-	(6.8)	"	"	"	見込み剥離痕		E-013
14	"	"	"	"	鉢か	-	-	-	(8.5)	"	"	"	深椀か、焼成不良か		E-014
15	"	"	土師器	調理具	甕	-	(17.2)	(19.6)	-	-	-	不明	色調：浅黄色, 外面煤付着	22	E-015
16	93B	SK094	"	"	"	-	(18.4)	-	-	-	-	"	色調：橙色		E-016
17	92A	SK289	灰釉陶器	供膳具	皿	2.8	(14.6)	-	(7.0)	灰釉	ナデ	二川	見込み・高台に剥離痕	22	E-017
18	"	"	須恵器	その他	-	-	-	-	-	ミガキカ	ナデ	湖西	内面線刻「□中大□」, 瓦塔か陶硯	22	E-018
19	"	"	"	調理具	鉢	(12.9)	(22.3)	(22.3)	(13.8)	ナデ	指押え+ナデ	"	"	22	E-019
20	"	"	土師器	"	甕	-	(22.8)	-	-	"	"	不明	色調：にぶい橙色, 外面煤付着		E-020

第15図 古代の遺物(1) (15・16・19・20は1:6, 他は1:4)



遺物 番号	調査地点		器種			法量 (cm)				釉薬・調整等		産地	備考	PL	登録 番号
	調査区	遺構	種類	用途	器種	器高	口径	胴径	底径	内面	外面				
21	93B	SD134	須恵器	供膳具	高杯	-	-	-	-	ナデ	ナデ	湖西	低温焼成か		E-021
22	"	SD202	"	貯蔵具	瓶	-	-	-	-	"	"	"	外面自然釉		E-022
23	92A	SD167	"	"	"	-	-	-	(8.4)	"	"	"	底部回転糸切痕		E-023
24	"	SX113	灰釉陶器	供膳具	鉢	-	-	-	(12.7)	"	ナデ+ケズリ	二川	見込みに剝離痕		E-024
25	93B	P1338	"	"	皿	-	-	-	(7.4)	"	ナデ	"			E-025
26	"	SD108	須恵器	"	"	-	(16.8)	-	-	"	ナデ+ケズリ	湖西			E-026
27	92A	SD152	"	調理具	鉢	-	(25.4)	(30.8)	-	"	ナデ+タタキ	"	低温焼成か	22	E-027
28	93B	検出	"	供膳具	杯	4.0	13.8	-	(7.0)	"	ナデ	"	低温焼成か		E-028
29	92A	"	"	"	"	4.6	15.2	-	6.6	"	"	"	焼成不良か	22	E-029
30	93B	"	"	"	"	-	-	-	(9.9)	"	"	"			E-030
31	"	"	"	調理具	鉢か	-	(14.8)	-	-	"	"	"			E-031
32	92A	"	灰釉陶器	供膳具	皿	-	-	-	(7.8)	灰釉	灰釉	二川	内面灰釉がとんでいる		E-032
33	93B	"	須恵器	その他	蓋	3.3	16.7	-	-	ナデ	ナデ	湖西	つまみ径2.7cm		E-033
34	92A	"	"	"	"	-	(17.9)	-	-	"	"	"			E-034
35	93B	"	"	貯蔵具	瓶	-	-	-	(13.1)	"	"	"			E-035
36	92A	"	"	その他	-	-	-	-	-	-	指押え	"	甌の取っ手か獣足		E-036
37	93B	"	"	貯蔵具	甕	-	(20.6)	-	-	ナデ	ナデ+タタキ	"		22	E-037
38	"	"	"	"	"	-	(25.3)	-	-	指押え+ナデ	指押え+ナデ	"			E-038
39	"	"	土師器	調理具	甕	-	(26.6)	-	-	ヨコナデ	-	不明	色調：淡黄色		E-039
40	92A	"	"	"	"	-	(22.8)	-	-	ナデ	指押え+ナデ	"			E-040

第16図 古代の遺物(2) (27・37~40は1:6, 他は1:4)

第三章 中世の遺構と遺物



第1節 中世の遺構

1. 概要

中世において、渥美半島から宝飯郡、幡豆郡にかけての三河湾沿岸部は、伊勢神宮の勢力が強く見られる地域である。本遺跡周辺においても同様な傾向が見られ、伊勢神宮の神戸として飽海神戸が置かれたり、吉田御菌や萱御菌等の御菌が設置されている。本遺跡からは伊勢神宮との結びつきを直接に示す遺構・遺物は確認されていないが、当該期である中世の遺構を僅かながらも検出することができた。

以下、本遺跡の中世の遺構について概観してみたい。

92年度調査区は、激しい攪乱や近世の遺構との重複等により、十分な検出ができなかったものの屋敷地を区画すると思われる溝や竪穴住居、井戸、集石遺構等を確認できたことは成果であった。溝に関しては、92年度調査区東部で見られ、屋敷地が展開していた可能性が強い。また、92年度調査区北部には、竪穴住居跡をはじめ、浅い掘り込みによって平坦面を形成している性格不明の遺構が展開している。井戸は全調査区において1基のみの検出であるが、埋土中には山茶椀、甕等の他に貝類や昆虫類、植物遺体等多くの遺物が含まれていた。

93年度調査区では、多くのピットが検出されているが、ピット間のつながりが薄く、掘立柱建物等の想定はできなかった。唯一、調査区南部において、N-13-Eの方向性でPit1112、Pit1114、Pit1098、Pit1024がそれぞれ約1.8m前後の等間隔で並び、柵列の可能性を指摘できるのみである。また、Pit1098からは、蓮弁文をもつ青磁椀が出土している。

全調査区を通じての中世遺構の時代観であるが、出土遺物の分析から12世紀後半から13世紀前半が想定でき、遺構としての近世への連続性も見られなかった。ただ、遺構としては捉えられなかったものの、遺物に関しては戦国期のものが見られることは指摘しておきたい。また、豊橋市教育委員会が行った調査や当センターで実施した豊橋警察署地点の調査で確認された戦国期の遺構が、今回の調査では確認されなかったことは、戦国期の吉田城関連遺構が本地点までの広がりをもっていなかった可能性が考えられる（第1章第2節 1. 調査史参照）。



第17図 中世主要遺構配置図（1：1,000）

2. 溝

遺構としての溝は、近世の遺構や整地、また近代以降の攪乱等で掘削・削平を受けながらも6条検出することができた。これらはすべて92年度調査区において見られ、多くの柱穴を検出したが溝の検出はできなかった93年度調査区と好対照をなしている。

各溝は、一定の方向性をもち、SD167、SD182、SD173は北西—南東方向に、SD187、SD179、SD152は北東—南西方向に掘られている。さらに、SD187とSD179、SD182とSD173は平行するかたちで掘削されているが、これに関しては溝の上部が削平を受けていることもあり同時併存していたのか否かは明確にし得なかった。いずれにしてもこれらの溝は、区画溝である可能性が強く、この区域に屋敷地が展開していたものと考えられる。また、これらの溝の理土は、すべて暗灰褐色シルトである。

SD187 92年度調査区東端部で検出された溝で、近世の土坑等により遺構の残存状況は良好とは言えない。形状は箱掘り状を呈しており、検出面で幅約1.5m、深さ約0.3mを測る。また、方向性は、N—54°—Eを示している。

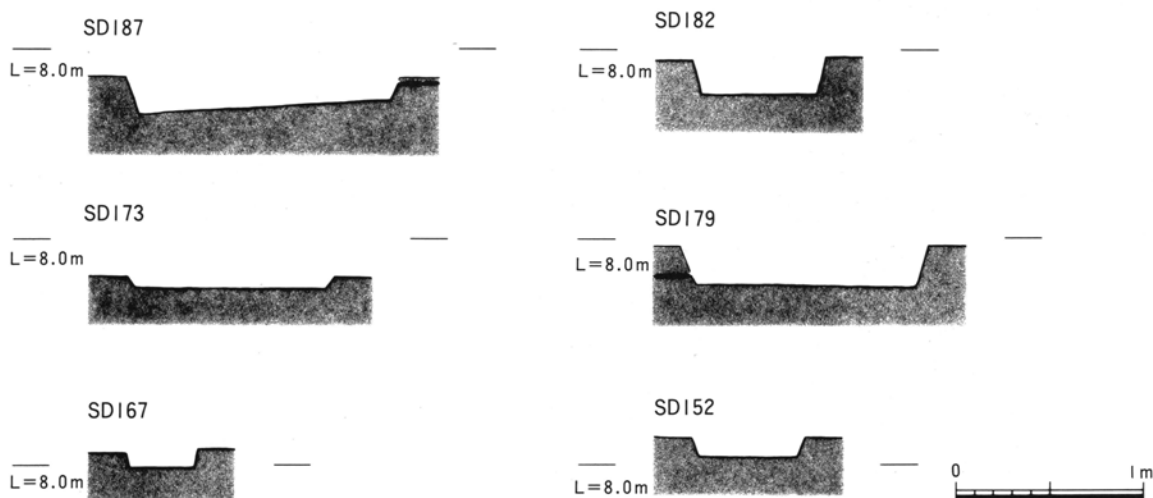
SD179 SD187のすぐ南に位置し、形状も方向性もSD187と同じである。さらに、検出面で幅約1.4m、深さ約0.3mを測り、その規模も同様のことからSD187と同一の規格で掘削されたことがわかる。

SD182 92年度調査区東南部において検出された溝で、N—30°—Wの方向性を示している。検出面において幅約0.7m、深さ約0.2mを測り、掘り形は箱掘り状を呈している。また、北西部分においてやや屈曲し、その幅も約0.2mにまで収束している。

SD173 SD182と平行する溝であるが、その規模はSD182を凌いでいる。検出面で幅約1.1m、深さ約0.05mを測り、方向性はN—40°—Wを示し、掘り形は箱掘り状を呈している。また、北西部分において溝が収束していく点についてもSD182と同様で、幅は約0.6mを測る。

SD167 92年度調査区東北部で検出された溝で、N—32°—Wの方向性を示している。断面は箱掘り状を呈し、検出面で幅約0.4m、深さ約0.1mを測る。

SD152 92年度調査区南部分において検出された溝で、N—52°—Eの方向性を示している。掘り形は箱掘り状を呈し、検出面で幅約0.6m、深さ0.1mを測る。



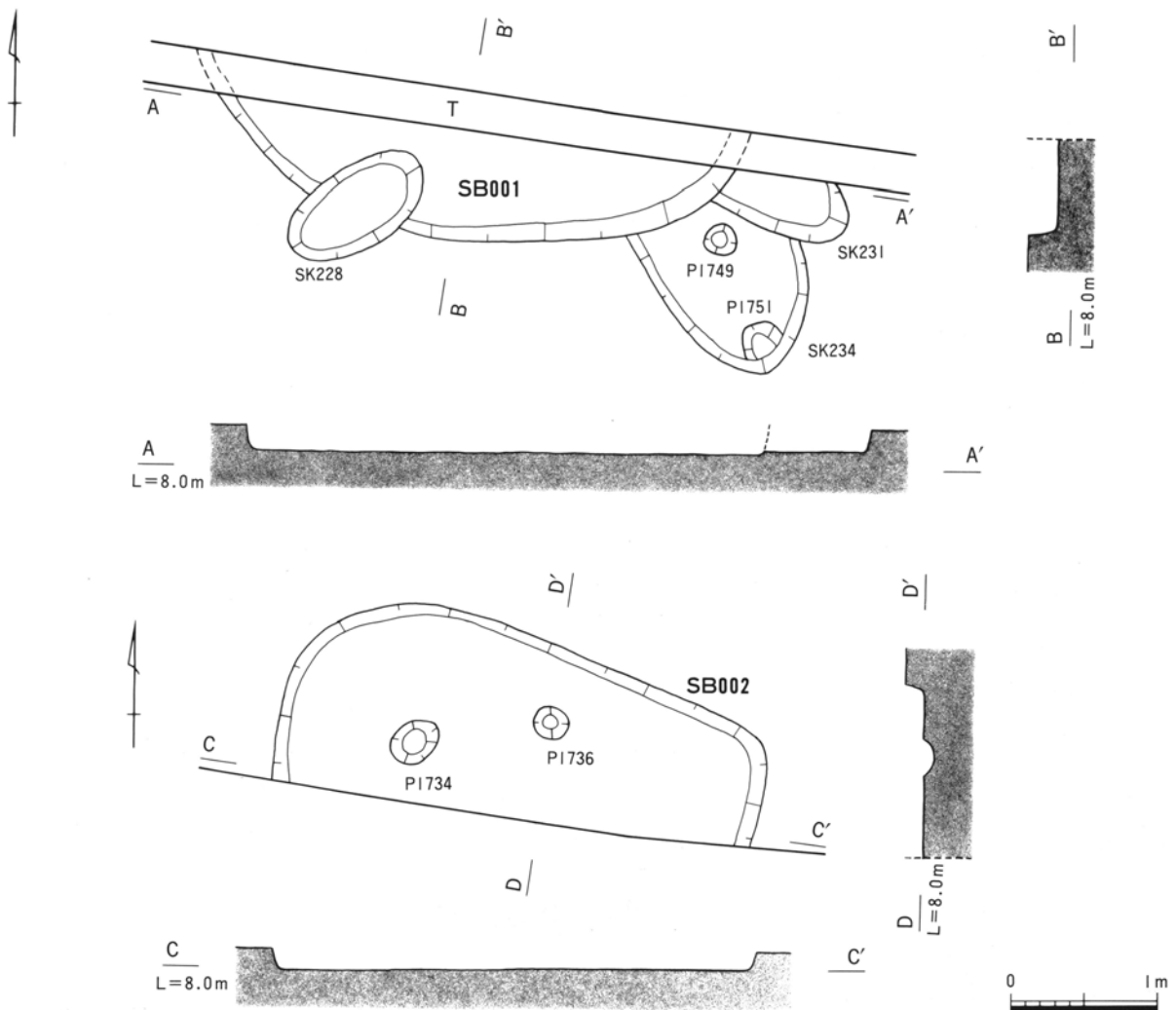
第18図 溝断面図 (1:40)

3. 竪穴住居跡

92年度調査区北部において2棟の竪穴住居と竪穴住居と思われる遺構1ヶ所を検出した。しかし、いずれの遺構も過半が調査区外に位置したり、現代の攪乱を受けていたりするために十分な確認ができなかった。とりわけSB002は、その周囲が現代の大きな攪乱を受けている中で偶然残存したという状態であった。

SB001 92年度調査区北壁部分にあたる I F 4 h・4 i のグリッド内で竪穴住居の南部分を僅かにではあるが検出した。その規模は、残存部分で南北幅0.8m、東西幅3.9mを測るが、住居の大半は調査区外に展開することからその詳細は不明である。また、掘方比高は0.2mを測り、遺構埋土は前述した溝と同じ暗灰褐色シルトで、山茶碗の細片を含んでいる。

SB002 I F 4 h のグリッド内で検出したSB002の規模は、残存部分で南北幅約1.4m、東西幅約3.4mを測る。平面形態は、隅丸状の方形が想定できる。また、柱穴と思われるピットも検出され、その径・深さとも約0.4mを測る。残存部分の南北軸線はN-20°-Eを示し、床面積は約3.7㎡であるが、本来は8~10㎡程度であったと思われる。また、掘方比高は0.2mと浅いが、これは後世の削平を受けたことと周囲が大きな攪乱を受けていることに起因しているものと考えられる。遺構埋土は暗灰褐色シルトで、埋土中に山茶碗の細片を含む点からもSB001との共通点があげられる。



第19図 SB001・SB002平面図・断面図 (1:50)

4. 井戸

92・93年度調査区域を通じ、中世の井戸遺構としては1基を検出するにとどまった。その遺構状況は以下の通りである。

SE001 92年度調査区の南西部である I F10 a の区画で検出された。径約1.7mを測り、ほぼ円形のプランを呈している。深さは、検出面より約3.5m、標高にして約4.5mまで掘り込まれており、湧水層にまで達していた。また、検出面から1m～2.5mの深さにおいて掘り広げられており、最大幅約2.7mを測る。井戸枠等の構造物や抜き取り痕も確認できなかったことから、素掘りの井戸であった可能性が高い。

また、埋土に関しては5層に区分でき、その状況は以下の通りである。

1層：検出面より1.3mまで、砂礫を含んだ褐色シルトが堆積していた。2層同様に炭化物が多く見られた。

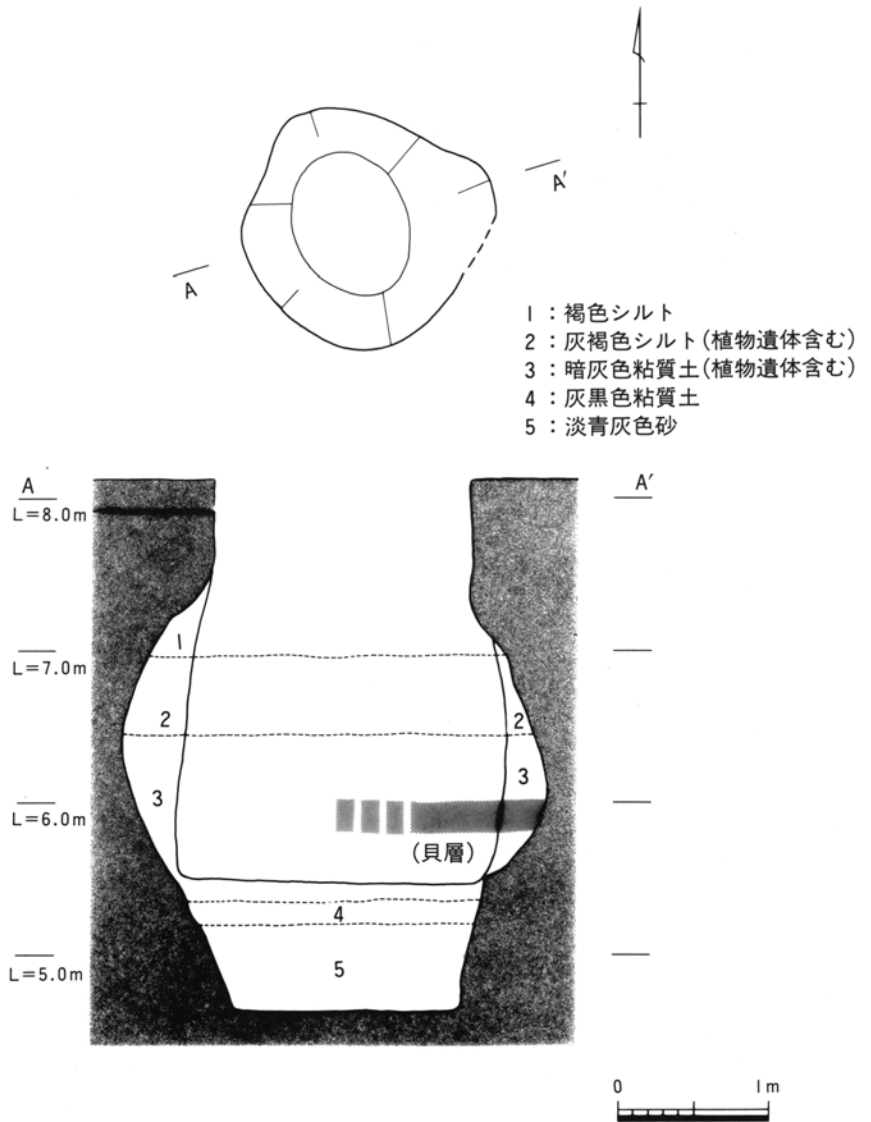
2層：厚さ0.5mのマンガン斑が見られる灰褐色シルトである。第V章第2節で確認された自然遺物である植物遺体等を含んでいる。

3層：厚さ1m余り、マンガン斑が見られる暗灰色粘質土層である。2層同様に植物遺体等が検出されたが、この層の特徴は他の層に比べまとまって山茶碗類や土師器等の遺物が含まれていたことである。また、本層の間に厚さ0.2m程の貝層が確認されている。

4層：0.2m程の厚さで堆積していたマンガン斑を含む灰黒色粘質土層である。

5層：最下層に当たる。厚さは0.6m程を有し、マンガン斑・鉄斑を含む淡青灰色砂である。

本遺構において、各層序における遺物の年代観は確認できなかった。出土遺物より、12世紀後半から13世紀前半の時期が想定され、その後廃絶されたものであろう。



第20図 SE001平面図・断面図 (1 : 50)

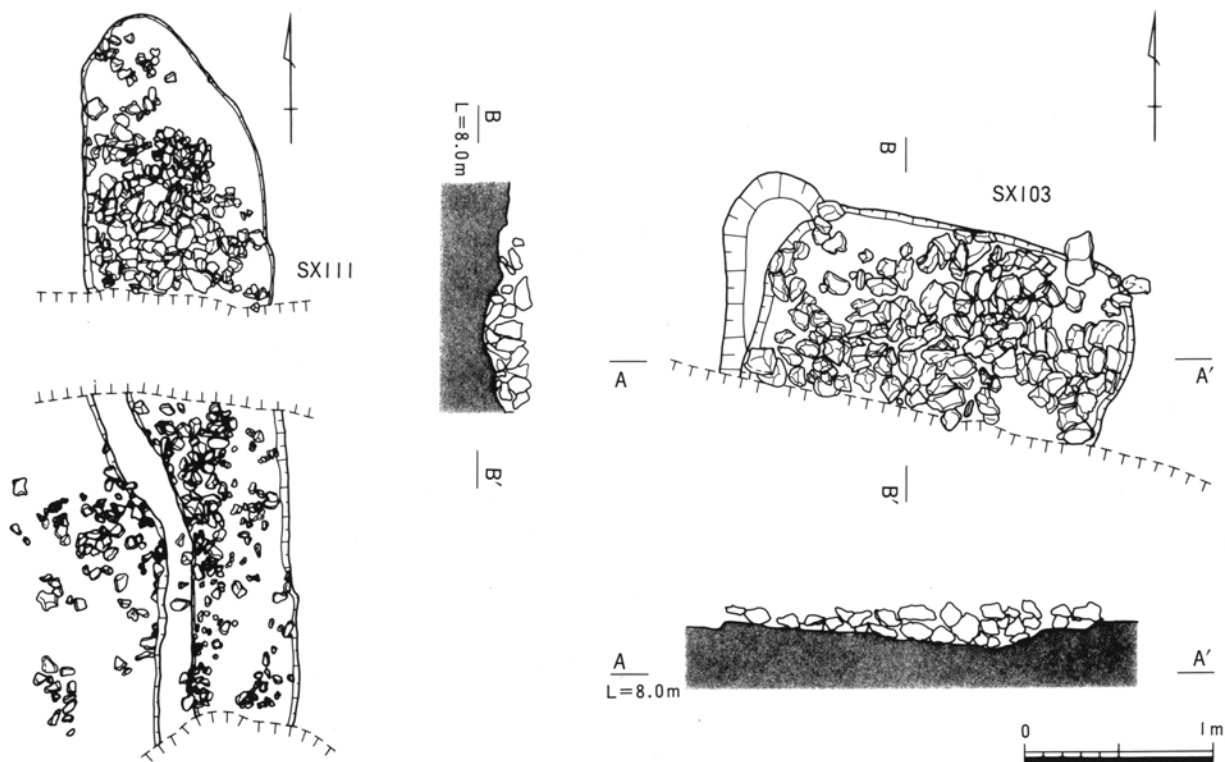
5. 集石遺構

92・93年度調査区ともに1ヶ所づつ、計2ヶ所の集石遺構を検出した。その性格については現在のところ不明な点が多く、脂肪酸分析の結果を踏まえながら、その解明は今後の検討課題としておきたい。

SX111 92年度調査区域のI F 4 hグリッド内で検出された集石遺構である。径数cm～約20cm程度の河原石が一面に敷き詰められ、山茶碗の細片が礫とともに暗灰褐色シルト中に混じっていた。南北軸はほぼ真北方向を示している。しかし、形状に関しては、南部分が現代の攪乱によってえぐり取られていることと西側部分も近世の整地によって削り取られていることから、原型を推定することは困難である。現存部分で、南北幅約3.7m、東西最大幅約1.2mを測る。

SX103 93年度調査区域のI E 4 i・4 j・5 i・5 jグリッドにまたがって検出された集石遺構である。径数cm～20cm余りの河原石が一面に敷き詰められ、上記のSX111同様山茶碗の細片が礫とともに埋土中に混在していた。形状は、南部分が攪乱によってえぐられているためその原型が損なわれているが、方形に近い形が想定できる。南北軸はN-17°-Eを示し、現存部分で南北幅約1.0m、東西幅約1.8mを測る。東に向かってやや傾斜をもたせながら掘り込んでいるため、礫の厚さは最厚部で25cm程となっている。

この他、SX106、SX107、SX109等についても0.1m前後の掘り込みによって平坦面がつくられ、その埋土も山茶碗の細片を含んだ暗灰褐色シルトであった。これらの遺構の性格については、現段階では不明とせざるを得ない。(杉浦 茂)



第21図 SX111・SX103平面図・断面図 (1:40)

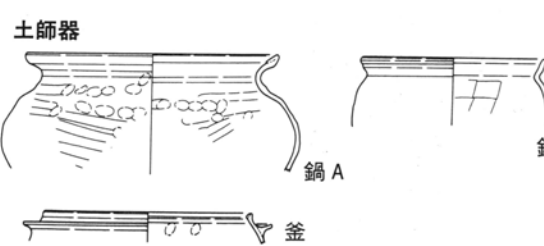
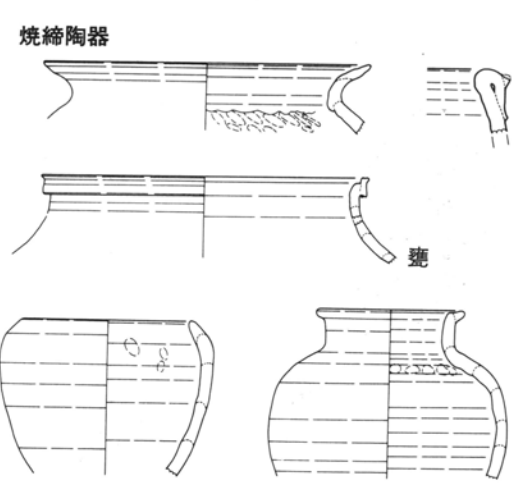
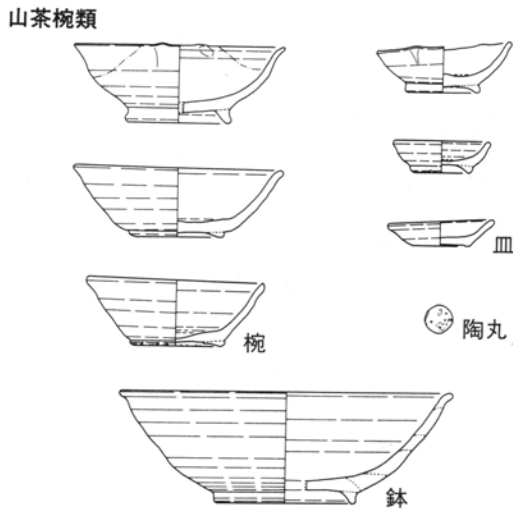
第2節 中世の遺物

1. 概要

古代の遺物と同様に、今回の調査区において、前節で述べたように僅かながらに中世の遺構が検出され、その中から山茶碗類等の遺物が出土している。しかしながら、その大半の遺物は、検出や近世遺構の埋土の中から出土している例が多く、細かな分類やカウントについては実施していない。これらの中世の遺物を提示する前に、大まかな分類を紹介しておきたい。

- | | | |
|---------|--------|-----------|
| 1. 山茶碗類 | 1. 供膳具 | 碗・皿 (小碗) |
| | 2. 調理具 | 鉢 |
| | 3. その他 | 陶丸・その他 |
| 2. 施釉陶器 | 1. 供膳具 | 碗・皿・鉢 |
| | 2. その他 | |
| 3. 焼締陶器 | 1. 貯蔵具 | 甕・壺 |
| 4. 輸入磁器 | 1. 供膳具 | 碗 |
| 5. 土師器 | 1. 供膳具 | 皿 |
| | 2. 調理具 | 鍋 A・鍋 B・釜 |
| | 3. その他 | |

出土遺物の大半は、渥美・湖西窯の山茶碗類が主体であり、時期としては、12世紀後半～13世紀前半を中心に出土している。他の窯の製品も含まれているが、極僅かである。他の遺跡に比べ、皿の出土量が少ないように思われる。施釉陶器としての古瀬戸や大窯製品は、ほとんど確認していない。また、焼締陶器としての甕類は、渥美・湖西窯よりも常滑窯の製品の方が目立っている。さらに、少量ながらも貿易陶磁として中国の青磁碗が2点出土している。土師質製品としては、上記の山茶碗類と同様に伊勢型鍋 (鍋 A) が出土している。時期としては、13世紀前半代が想定される。また、「くの字」型鍋 (鍋 B) も出土しており、16世紀前半の戦国期と考えられるが、これらの時期を示す遺構は確認されていない。(小嶋廣也)



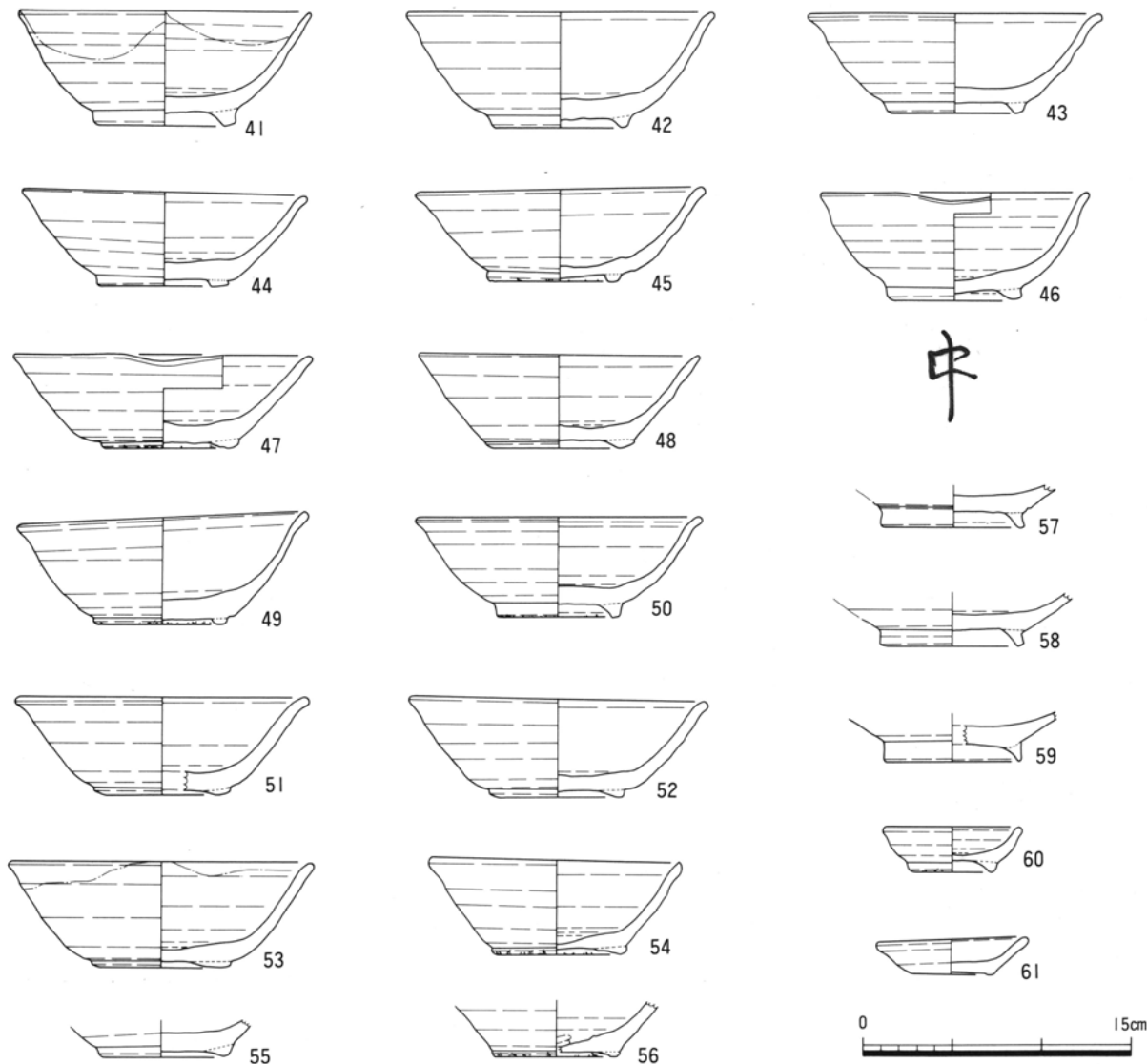
第22図 中世遺物分類図

<参考文献>

藤澤良祐 「山茶碗と中世集落」 『尾呂 本文編 付編2』 瀬戸市教育委員会 1990

2. 出土遺物

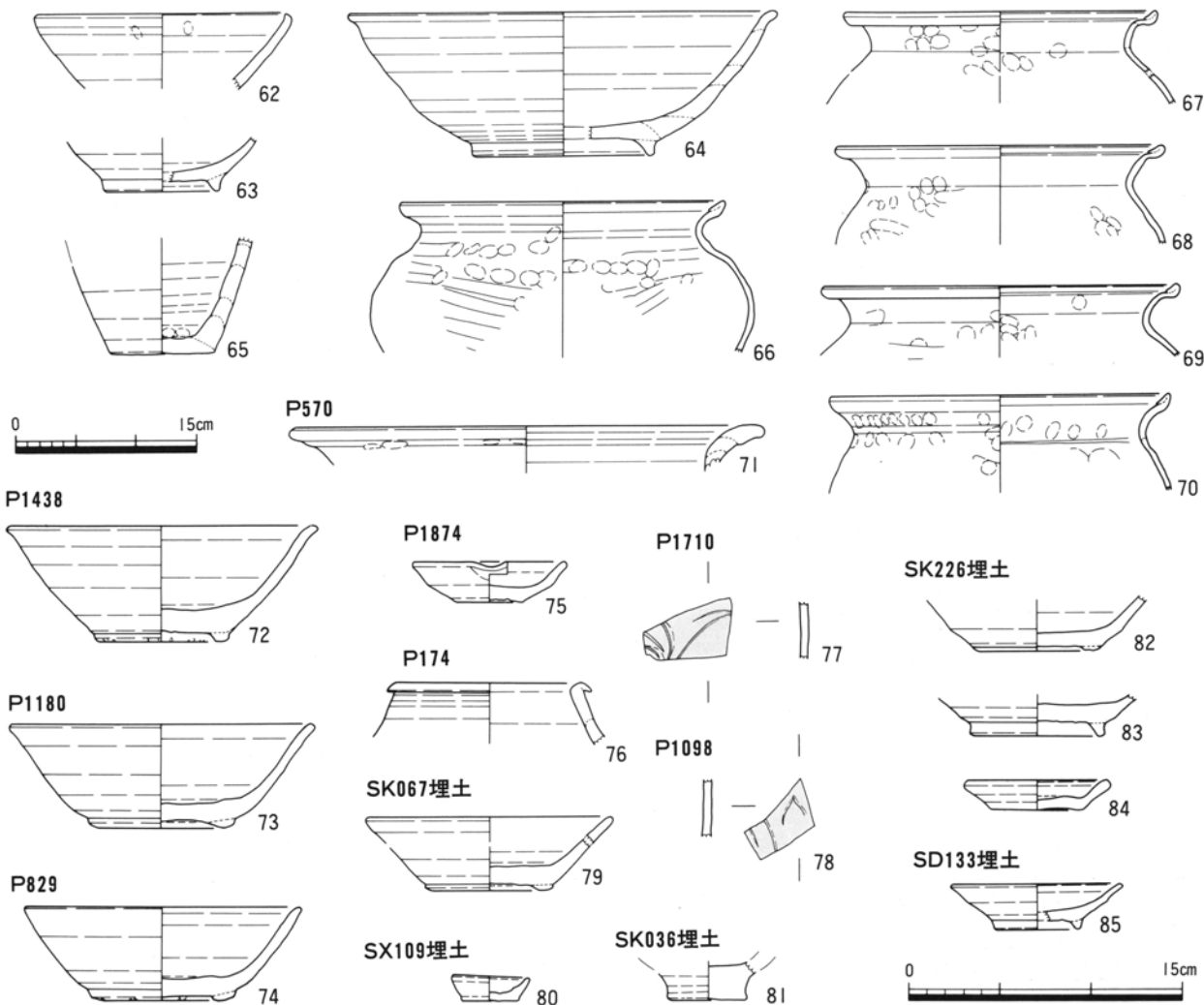
SE001



遺物 番号	調査地点		器種			法量 (cm)				釉薬・調整等		産地	備考	PL	登録 番号
	調査区	遺構	種類	用途	器種	器高	口径	胴径	底径	内面	外面				
41	92A	SE001	山茶碗類	供膳具	碗	6.3	16.0	-	6.9	ナテ	ナテ	渥美	底部回転糸切痕, 口縁部灰釉漬け掛け	22	E-041
42	"	"	"	"	"	6.4	(16.8)	-	6.9	"	"	"	底部回転糸切痕か		E-042
43	"	"	"	"	"	5.5	(16.1)	-	6.7	"	"	"	底部回転糸切痕, 見込み剥離痕, 口縁部自然釉		E-043
44	"	"	"	"	"	5.2	15.6	-	6.4	"	"	"	口縁部内面剥離片融着, 口縁部自然釉		E-044
45	"	"	"	"	"	5.1	15.6	-	6.2	"	"	"	高台内圧痕, 高台粗痕, 内面から口縁部自然釉, 内外面炭化物付着		E-045
46	"	"	"	"	"	6.0	14.8	-	6.7	"	"	"	片口碗か, 高台内墨書「中」	22	E-046
47	"	"	"	"	"	5.2	16.3	-	6.7	"	"	"	片口碗か, 見込み押圧痕・剥離痕, 底部回転糸切痕, 高台粗痕		E-047
48	"	"	"	"	"	5.2	15.4	-	6.8	"	"	"	底部回転糸切痕	22	E-048
49	"	"	"	"	"	5.8	15.7	-	6.6	"	"	"	底部回転糸切痕, 高台粗痕, 内面から口縁部自然釉		E-049
50	"	"	"	"	"	5.6	(15.6)	-	6.6	"	"	"	見込み押圧痕, 高台粗痕		E-050
51	"	"	"	"	"	5.4	(15.8)	-	(6.0)	"	"	"	内外面に炭化物付着		E-051
52	"	"	"	"	"	5.5	16.2	-	6.5	"	"	"	内面から口縁部自然釉, 口縁部内面に剥離片融着		E-052
53	"	"	"	"	"	5.8	(16.5)	-	6.7	"	"	"	口縁部灰釉漬け掛けか		E-053
54	"	"	"	"	"	5.2	13.7	-	6.8	"	"	不明	見込み押圧痕, 高台粗痕, 見込み剥離痕, 常滑か		E-054
55	"	"	"	"	"	-	-	-	6.5	"	"	渥美			E-055
56	"	"	"	"	"	-	-	-	(6.7)	"	"	不明	底部回転糸切痕, 見込み押圧痕, 高台粗痕, 焼成後底部穿孔		E-056
57	"	"	"	"	"	-	-	-	7.4	"	"	渥美	底部回転糸切痕, 見込み剥離痕		E-057
58	"	"	"	"	"	-	-	-	7.2	"	"	"	底部回転糸切痕, 見込み剥離痕, 内面自然釉		E-058
59	"	"	"	"	"	-	-	-	(7.4)	"	"	"	底部糸切痕		E-059
60	"	"	"	"	皿	2.5	(7.4)	-	(4.2)	"	"	"	見込み押圧痕		E-060
61	"	"	"	"	"	2.0	8.2	-	4.2	"	"	"	見込み剥離痕, 内面から口縁部自然釉	22	E-061

第23図 中世の遺物 (1) (1:4)

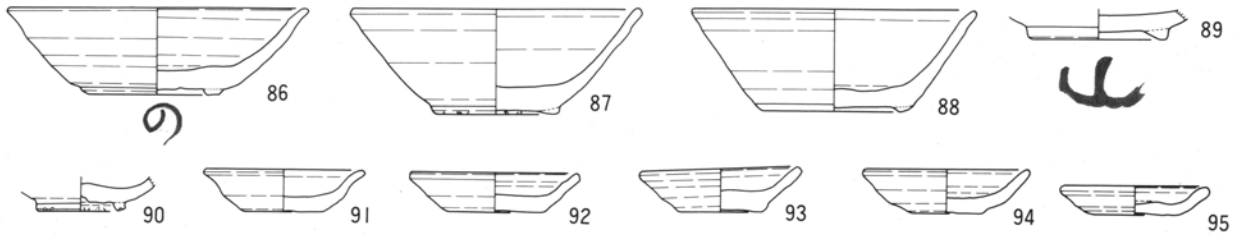
SE001



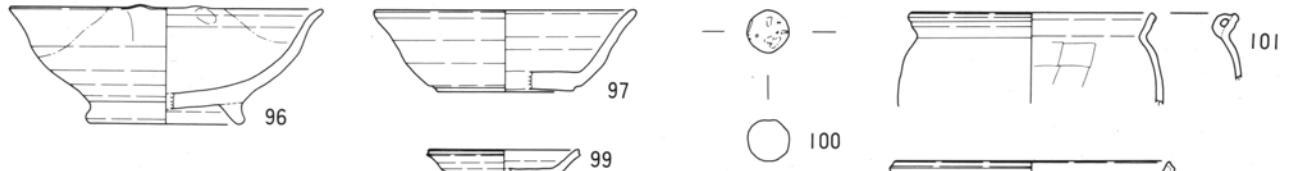
遺物 番号	調査地点		器種			法量 (cm)				釉薬・調整等		産地	備考	PL	登録 番号
	調査区	遺構	種類	用途	器種	器高	口径	胴径	底径	内面	外面				
62	92A	SE001	山茶碗類	調理具	鉢	-	(20.4)	-	-	ナデ	ナデ	渥美	口縁部剥離片融着		E-062
63	"	"	"	"	"	-	-	-	(9.1)	"	"	"	底部回転糸切痕		E-063
64	"	"	"	供膳具	鉢	11.8	(34.7)	-	(14.2)	"	"	不明	内面使用による摩滅痕, 外面体部植物繊維痕	22	E-064
65	"	"	焼締陶器	貯蔵具	壺	-	-	-	8.6	指押え+ナデ	"	渥美	浜北か, 底部植物繊維痕		E-065
66	"	"	土師器	調理具	鍋A	-	(26.6)	(31.6)	-	"	指押え+ナデ	不明	色調: 浅黄色, 伊勢型鍋, 外面煤付着		E-066
67	"	"	"	"	"	-	(25.6)	-	-	"	"	"	色調: にふい黄橙色, 伊勢型鍋, 外面煤付着		E-067
68	"	"	"	"	"	-	(26.6)	-	-	"	"	"	色調: にふい黄橙色, 伊勢型鍋, 外面煤付着		E-068
69	"	"	"	"	"	-	(28.8)	-	-	"	"	"	色調: 浅黄色, 伊勢型鍋, 外面煤付着		E-069
70	"	"	"	"	"	-	(27.8)	-	-	"	"	"	色調: 浅黄色, 伊勢型鍋, 外面煤付着		E-070
71	93B	P 570	焼締陶器	貯蔵具	甕	-	(38.0)	-	-	"	"	渥美			E-071
72	92A	P1438	山茶碗類	供膳具	碗	6.3	(16.6)	-	(6.2)	ナデ	ナデ	"	高台靱痕		E-072
73	93B	P1180	"	"	"	5.7	(16.5)	-	(6.7)	"	"	"		22	E-073
74	"	P 829	"	"	"	5.1	(15.0)	-	(6.3)	"	"	"	高台内圧痕, 高台靱痕		E-074
75	92A	P1874	"	"	皿	2.2	(8.2)	-	3.6	"	"	"	片口皿か, 底部回転糸切痕, 内面自然釉		E-075
76	93B	P 174	焼締陶器	貯蔵具	壺	-	(10.2)	-	-	"	"	常滑			E-076
77	92A	P1710	貿易陶器	供膳具	碗	-	-	-	-	-	-	中国	青磁碗・画花文	22	E-077
78	93B	P1098	"	"	"	-	-	-	-	-	-	"	青磁碗・蓮弁文	22	E-078
79	"	SK067	山茶碗類	"	"	4.0	(13.2)	-	(5.8)	ナデ	ナデ	渥美			E-079
80	92A	SX109	"	その他	-	1.4	4.1	-	3.0	"	"	"	底部回転糸切痕, ミニチュアか, 内面自然釉	22	E-080
81	93B	SK036	"	供膳具	皿?	-	-	-	3.9	"	"	"	底部回転糸切痕, 底部突出か	22	E-081
82	92A	SK226	"	"	碗	-	-	-	-	"	"	"			E-082
83	"	"	"	"	"	-	-	-	(6.8)	"	"	"	見込み剥離痕	22	E-083
84	"	"	"	"	皿	1.6	(7.6)	-	(4.9)	"	"	"	底部回転糸切痕, 見込み押圧痕		E-084
85	93B	SD133	"	"	"	2.4	(9.0)	-	(4.5)	"	"	"	小碗, 底部回転糸切痕	22	E-085

第24図 中世の遺物 (2) (62~70は 1:6, 他は 1:4)

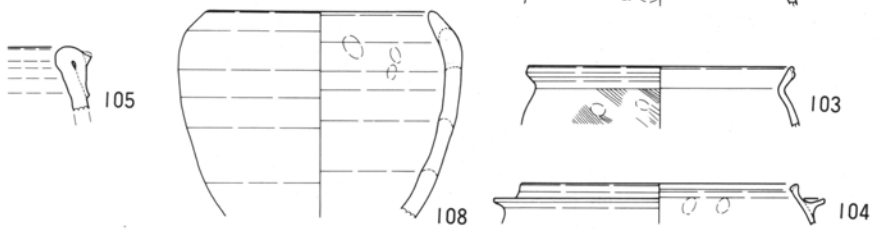
SK289埋土



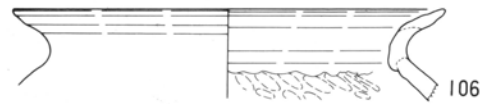
検出



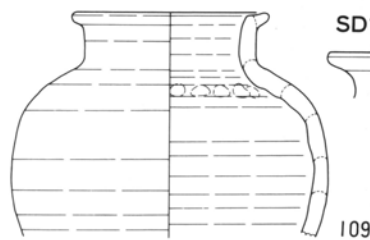
SE104埋土



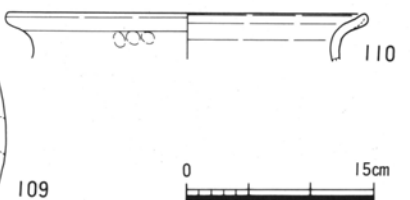
SK248埋土



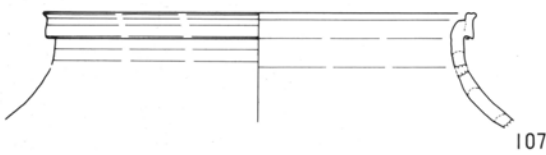
SD102埋土



SD120埋土



SK096埋土



遺物 番号	調査地点		器種			法量 (cm)				釉薬・調整等		産地	備考	PL	登録 番号
	調査区	遺構	種類	用途	器種	器高	口径	胴径	底径	内面	外面				
86	92A	SK289	山茶碗類	供膳具	碗	4.6	15.6	-	7.4	ナデ	ナデ	渥美	底部回転糸切痕, 板状圧痕, 高台内墨書「の」	22	E-086
87	"	"	"	"	"	5.6	(15.2)	-	6.0	"	"	"	内面自然釉, 高台靱痕		E-087
88	"	"	"	"	"	5.4	(15.0)	-	7.1	"	"	"	見込み押圧痕		E-088
89	"	"	"	"	"	-	-	-	(6.8)	"	"	"	見込み押圧痕, 高台内墨書「山」か	22	E-089
90	"	"	"	"	皿	-	-	-	4.5	"	"	"	底部回転糸切痕, 内面炭化物付着, 高台靱痕		E-090
91	"	"	"	"	"	2.2	(8.2)	-	(4.1)	"	"	"	底部回転糸切痕, 見込み押圧痕, 口縁部自然釉		E-091
92	"	"	"	"	"	2.1	(8.8)	-	4.7	"	"	"	底部回転糸切痕		E-092
93	"	"	"	"	"	2.3	8.4	-	4.3	"	"	"	底部回転糸切痕		E-093
94	"	"	"	"	"	2.3	(8.6)	-	3.6	"	"	"			E-094
95	"	"	"	"	"	1.5	(7.4)	-	(4.2)	"	"	"	見込み押圧痕, 内面から口縁部自然釉		E-095
96	93B	検出	"	"	碗	6.1	(16.5)	-	(8.0)	"	"	"	輪花碗か, 口縁部灰釉漬け掛け, 底部回転糸切痕		E-096
97	"	"	"	"	"	4.3	(13.8)	-	(7.2)	"	"	"	底部回転糸切痕		E-097
98	"	"	"	"	皿	1.6	(7.7)	-	(4.6)	"	"	"		22	E-098
99	"	"	"	"	"	3.5	10.3	-	5.5	"	"	"	輪花碗か(4ヶ所), 内面自然釉		E-099
100	92A	"	"	その他	陶丸	-	-	-	-	"	"	"	長径2.2cm, 短径2.1cm	22	E-100
101	93B	"	土師器	調理具	鍋B	-	(19.3)	(21.2)	-	ヨコナデ	"	不明	色調: 灰白色, くの字型鍋, 外面煤付着	22	E-101
102	"	"	"	"	"	-	(21.8)	-	-	"	"	"	色調: 浅黄色, くの字型鍋		E-102
103	92A	"	"	"	"	-	(21.0)	-	-	ナデ	"	"	くの字型鍋, 色調: 橙色, 外面煤付着		E-103
104	"	"	"	"	釜	-	(21.8)	-	-	"	"	"	羽釜, 色調: 浅黄色, 鈔径(26.4)cm	22	E-104
105	93B	"	焼締陶器	貯蔵具	甕	-	-	-	-	-	"	常滑			E-105
106	92A	SK248	"	"	"	-	(34.4)	-	-	-	-	渥美	灰釉が吹いている		E-106
107	93B	SK096	"	"	"	-	(34.4)	-	-	指押え+ナデ	指押え+ナデ	常滑	外面自然釉		E-107
108	"	SE104	"	"	壺	-	(17.6)	(22.7)	-	灰釉	灰釉	不明	常滑か	22	E-108
109	"	SD102	"	"	"	-	(15.4)	-	-	指押え+ナデ	ナデ	常滑	口縁部から外面に自然釉	22	E-109
110	"	SD120	土師器	調理具	鍋A	-	(28.5)	-	-	ナデ	指押え+ナデ	不明	色調: にぶい黄橙色, 伊勢型鍋		E-110

第25図 中世の遺物(3) (101~110は1:6, 他は1:4)

第IV章 近世の遺構と遺物



第1節 近世の遺構

1. 概要

本遺跡から検出された多種多様な遺構群が、吉田城の外堀とその城下に整備された武家屋敷地であることは、「吉田藩士屋敷図」等の絵図から明らかである。発掘調査当初から、検出される遺構より屋敷地境や屋敷地内部の構造を明確にすることを主眼に調査を開始したが、遺構の切り合いが激しく、内部構造まで把握することは困難であった。

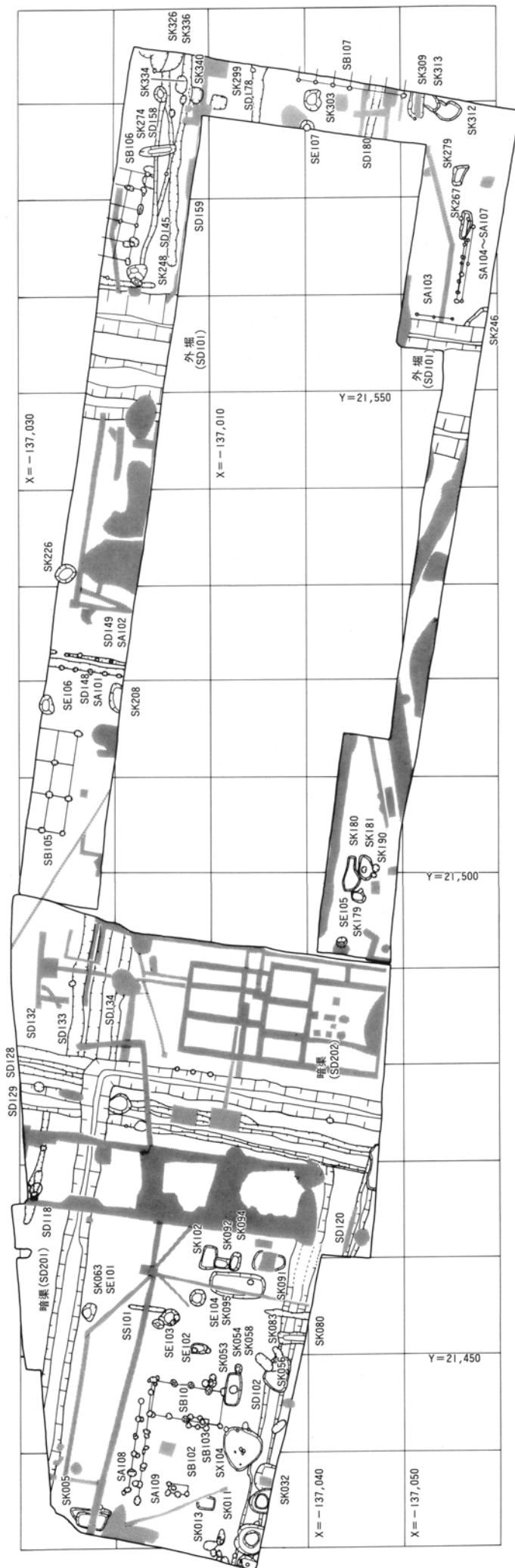
外堀は、92年度調査区の中央よりやや東側で検出された。外堀とは、武家屋敷と町屋とを区分する堀のことで、吉田城本丸より南東に約600m程のところに位置している。これまで、文献や絵図等では確認されていたが、発掘調査において検出されたのはこれが初めてである。残念ながら、その両肩と中央に攪乱を受けてはいるものの、その規模等を推定することはできる。外堀には土塁が付随していたと言われているが、今回の調査においては確認されなかった。時期としては、池田照政以降の譜代大名が小禄で財政的に彼の計画を実行できなかったことを考え合わせると、これだけの土木事業ができるのは池田照政の時期しか想定することができない。

吉田城の曲輪の周囲に巡らしてある堀と外堀との間には、東西南の三方から城を囲むように武家屋敷が位置している。その屋敷割りは、残存している絵図を見る限りほとんど変化することなく踏襲されているようである。そのため、身分・石高に応じて配分された家数は、2軒以上と多く、最も多い者では10軒を超える場合もあり⁽¹⁾、その敷地面積も他の城下町に住む武士と比較してもかなり広いものであったことがわかる。城主の交代時に屋敷割りがよく変更される例が多いが、本遺跡においては大きな変化が確認されておらず、以前の屋敷をそのまま利用していたと思われる。また、役職が変わったり代替わりすると屋敷替えが行われていたが、これも同様であったと考えられる⁽²⁾。

また、それぞれの屋敷の周囲には、その境界を示す遺構が存在している。それが溝や柵列或いは塀等、様々なものが利用され、またその幅や深さ等の規模も様々である。しかし、それぞれの屋敷地の境の方向はほぼ一致しており、外堀の軸にほぼ平行或いは直交しているものがほとんどで、何らかの計画性を持った町割りが実施されていることが確認された。しかし、これらの時期を決定できる遺構は確認されておらず、無遺物か廃絶時の時期しか想定することができない状況である。これもやはり外堀と同様に、吉田城の縄張りをした池田照政の時期しか考えられず、この時期か或いは城下町が整備される江戸時代初頭には完成していたものと思われる。

名古屋城三の丸遺跡で見られるような大型遺構は、本遺跡では外堀や井戸以外では確認されていない。出土する遺物から、16世紀末頃～18世紀後半頃までと、18世紀末頃～19世紀中頃までの大きく2つの時期に区分して見ることができる。前者を近世前期、後者を近世後期として捉えておきたい。しかし、これまでに述べてきたように、これらと遺構とを明確に位置づけていくことができない。そこでここでは、外堀・溝・柵列跡・建物跡・井戸・土坑等遺構の種類毎に見ることとし、その遺構の時期や性格付け、絵図における位置、居住者の変遷等については第VI章においてまとめることとする。

上記の他、廃藩置県後の明治初期に十八連隊による接收に伴う移転・廃絶時の一部が明かとなったり、第二次世界大戦中の防空壕跡等が確認されている。



第26図 近世主要遺構配置図 (1/600)

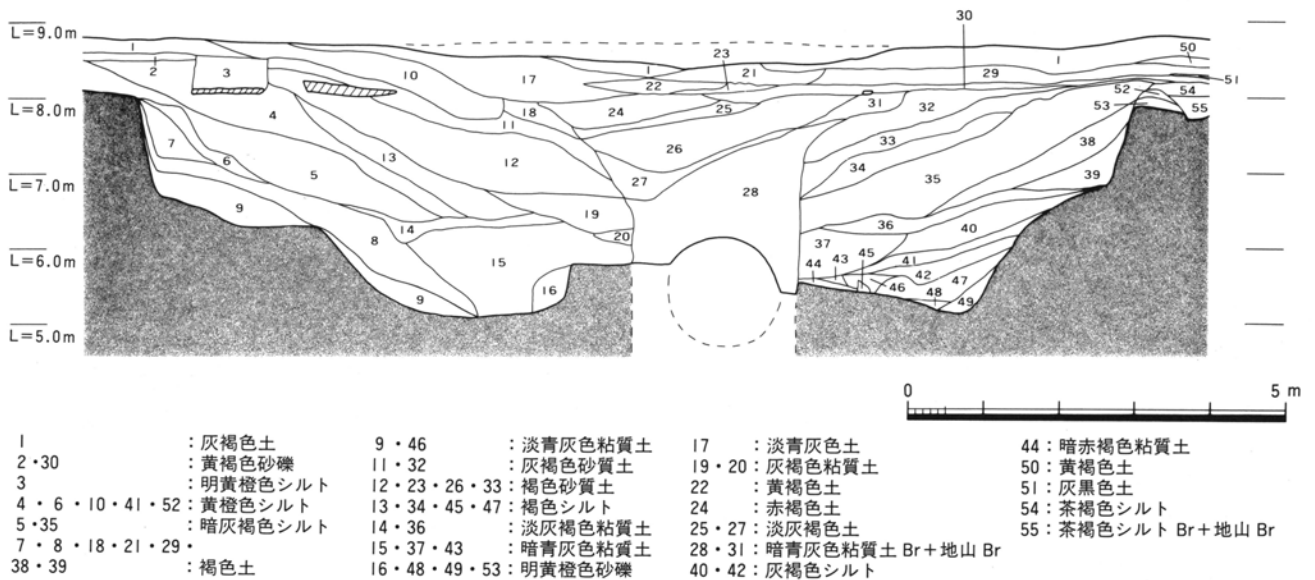
2. 外堀 (SD101)

外堀とは、武家屋敷地の外側に設けられた堀のことであり、町屋と区分する役割を持っている。これまで外堀があることはわかっていたが、その規模等は不明であった。しかし、今回の発掘調査において初めて検出され確認することができた。

検出された外堀は、92年度調査区の中央よりやや東側に位置しており、規模としては幅約14m、深さは約3m余を測り、方向はN-9°-Eを示している。残念ながら、中央部にヒューム管が埋設されており、明確な底は確認できなかったが、堀の内側に幅約2m程の「犬走り」状の段が存在すること、これだけの大規模な土木事業ができるのは池田照政の時期しか考えられず、この時期に外堀が掘削されたこと等が明らかとなった。出土遺物としては、江戸時代を通じて遺構が存在していたために16世紀末頃～19世紀中頃までの全ての時期の遺物がある。しかし、19世紀以降の遺物が大半を占めていることから、多くは吉田城廃城時に廃棄されたものと考えられる。

『豊橋市史 第2巻』によれば、水位の関係で水を引き入れることができずに城郭内の内堀と同様に空堀であったが、承応3年(1654)に郡代長谷川太郎左衛門が吉田東方約2kmの台地向山池(通称大池)を築き、堀割りを造ってこの池の水を導き城下の外堀に水を流入させたと書かれている⁽³⁾。最下層にはかなり粒子の細かいシルト層が堆積しており、その中より漆椀等の木製品が出土していることから、水堀であった可能性が高いように思われる。

また、外堀の西側ではSD148・SD149辺りまで近世の遺構が希薄になる地域がある。かなりの攪乱を受けていることもあるが、古代・中世の遺構が存在しているのに対し、近世の遺構はSK226等極僅かである。絵図等によれば、この辺りは「馬場」や道路、土塁があったようであるが、今回の発掘調査においてはそれらの遺構を確認することはできなかった。しかし、そのような広い空間が存在していたであろうことは簡単に想定できる。



第27図 外堀 (SD101) 断面図 (1/100)

3. 溝 (SD)

今回の発掘調査において、数多くの溝が検出されている。その規模・形状・機能はさまざまである。機能とは、その溝がどのような目的で掘削されているのかということであり、例えば屋敷地と屋敷地との境を示していたり、1つの屋敷地の内側を更に細かく区画したり、排水のために利用されたりと、いろいろと想定することができる。ここでは、個別に溝を見ながら、それぞれの機能を考える手掛りにしていきたいと思う。

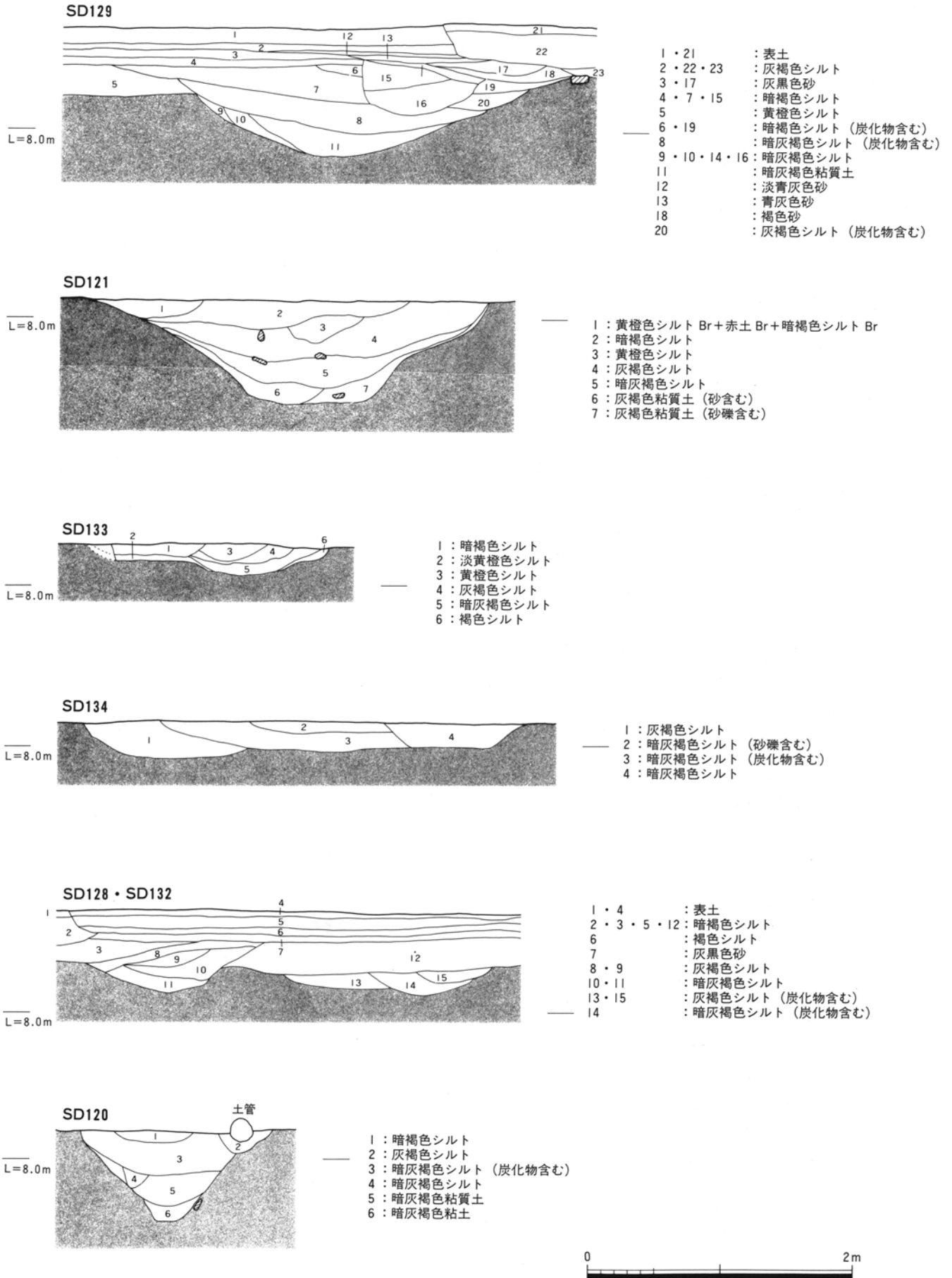
SD129 93年度調査区の東側で検出された溝で、断面形態はU字形を呈し、検出段階では幅約2.5m、深さ約0.5mを測り、推定生活面からはほぼ1m程の深さとなる。方向性はN-8-Eを示し、外堀とほぼ平行である。セクションを見てみると、数回の掘り返しを受けているようである。その位置・方向性等から、屋敷地境の溝と考えられる。出土遺物は外堀について多く、何回かに分けて投棄されたようであるが、屋敷廃絶時に一括投棄された廃棄土坑的な性格が強く感じられる。この溝の周囲の空間には廃棄土坑と思われる土坑は数カ所存在するがその出土量は少なく、このような溝や井戸に投棄していたのではないかと想定される。このため、時期としては18世紀中葉までと想定されるが、溝自体の掘削年代は随分と遡ることができそうである。

SD102 93年度調査区の南側で検出された溝で、断面形態はU字形を呈し、検出段階では幅約2.4m、深さ0.7mを測る。この溝と同様の機能を持つと思われるSD129よりもやや深い、推定生活面からは1m前後の深さと、ほぼ同規模の溝となる。方向性はE-9-Sを示し、外堀・SD129とは直交している。その位置・方向性等から屋敷地境の溝と考えられる。出土遺物も多く、SD129と同様に廃棄土坑的な性格を持っており、時期も同様かやや新しい時期が想定される。

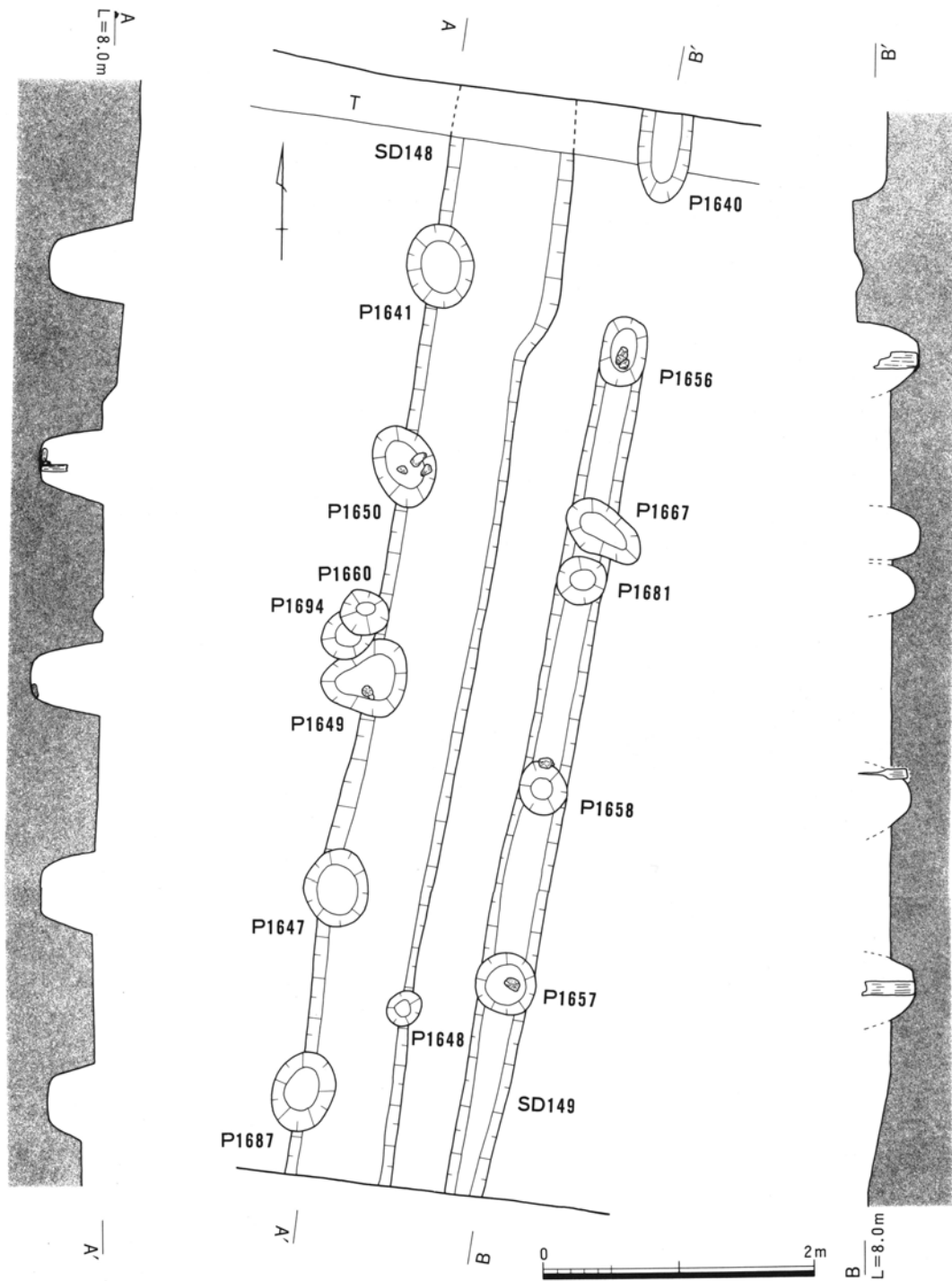
SD104 93年度調査区の北端で検出された溝で、断面はU字形に近く、検出段階では幅約1.0m、深さ0.2mとSD129やSD102と比較するとかなり小規模となっている。方向性はE-10-Sを示し、SD129と直交し、SD102とはほぼ平行である。その規模等から、屋敷地境の溝または屋敷地内を区画する溝ではないかと考えられる。出土遺物としては、土師器皿が多く時期の決定は難しいが、江戸時代前半には掘削され、屋敷の廃絶までには埋められていると思われる。

SD133 93年度調査区の東端で検出された溝で、断面形態はU字形に近く、検出段階では幅約1.5m、深さ0.2mと浅く、断面のセクションを見てみると数回の掘り返しを受けており、もとは幅の狭い溝であったことがわかる。方向性はE-11-Sを示し、SD129とはほぼ直交している。規模としてはSD104と同様であることから、屋敷地境の溝か屋敷地内を区画する溝と考えられる。出土遺物が少なく時期の決定は難しいが、18世紀中葉～後葉頃までと考えられる。

SD134 93年度調査区の東端で検出された溝で、SD133の南側に位置している。掘り形はU字形で、検出段階で幅約3.7m、深さ0.2～0.4m程になっているが、断面のセクションを見てみると、北から南へ3回にわたって掘られていることが確認された。それぞれの幅は約1.0m前後となっている。方向性はE-8-Sとすぐ北のSD133とよく似た数値を示している。出土遺物としては、基石等の石製品の出土が目立ち陶磁器類の出土が少なく、時期の決定は難しいが、19世紀代が想定される。SD133埋設後に掘削された可能性が高く、19世紀前葉～中葉の時期が考えられる。



第28図 溝断面図 (1:40)



第29図 SD148・SD149・SA101・SA102平面図・断面図 (1:50)



第30図 溝断面図 (1:40)

SD132 93年度調査区の暗渠の北側で検出された溝で、SD129の東側に位置する。掘り形はU字形を呈し、検出段階で幅約1.9m、深さ0.2m程で、方向性はN-11°-Eと、SD129とよく似た数値を示している。また、セクション図より掘り返しを受けていることが確認され、前述したSD133・SD134とほぼ同規模となり、これらと同様の性格を持つ溝と考えられる。しかし、この溝の南側部分が暗渠となって確認できないため、確実に屋敷境の溝とは断定できない。出土遺物が少なく時期の決定はできないが、遺構の切り合い関係等から想定してみると、SD129埋設後からSD128掘削前となり、ほぼ19世紀前葉頃が考えられる。

SD128 93年度調査区の暗渠の北側で検出された溝で、SD129の東隣に位置する。掘り形はU字形で、検出段階で幅約0.8m、深さ0.2mである。方向性はN-12°-Eと、外堀や他の屋敷地境の溝に近い数値を示している。屋敷地境の溝或いは屋敷地内を区画する溝と考えられる。出土遺物が少なく時期の決定は難しいが、遺構の切り合い等からSD132よりも新しい時期が想定される。

SD120 93年度調査区の南端で検出された溝で、SD102の南側に位置する。掘り形は断面V字形で、これまでの溝とは形状が異なっている。検出段階で、幅約1.5m、深さは0.6m程、方向性はE-12°-Sを示し、屋敷地境の溝とほぼ同様の規模・方向性を持っており、SD102埋設後の屋敷地境の溝としての可能性が高いように思われる。出土遺物としては、土師質製品である鍋・釜類や皿類が多く年代決定は難しい。

SD116 93年度調査区の中央で検出された溝で、SE103の東側に位置する。掘り形は箱掘り形に近く、検出段階で幅約0.4m、深さ0.1m程と極端に浅くなっている。方向性は、N-12°-Eを示している。井戸に隣接することから、排水のための溝と思われる。出土遺物は少なく時期の決定は難しいが、SE103と同様の18世紀中葉までが想定される。

SD135 93年度調査区の東端で検出された溝で、SD134のすぐ南側に位置する。断面形態はU字形で、検出段階で幅約0.5m、深さ0.1m程で、規模はかなり小さく、排水のための溝と考えられる。方向性は、N-9°-Eを示している。出土遺物はなく、時期は不明である。

SD136 93年度調査区の東端で検出された溝で、SD135のすぐ南側に位置する。掘り形はU字形呈し、検出段階で幅約0.6m、深さ0.1mを測り、SD135と同規模である。方向性は、E-8°-Sを示し、SD135同様排水のための溝と思われる。出土遺物がなく、時期は不明である。

SD148 92年度調査区の北西で検出された溝で、内側に柵列を想定させる柱穴列(SA101)が確認されている。断面形態は箱掘り形で、検出段階で幅約0.9m、深さ0.3m程を測り、前述したSD133等と同規模である。方向性はN-10°-Eを示し、外堀とほぼ平行であることから、外堀と屋敷地を区画する屋敷地境の溝と考えられる。出土遺物から、19世紀前葉までが想定されるが、掘削年代は町割り成立時にまで遡ることができよう。また、遺構の切り合い関係からこの溝が埋没された後、新しい屋敷地境としてSA101が設置されたものと思われる。

SD149 92年度調査区の北西で検出された溝で、SD148のすぐ東側に位置する。SA102が溝内に存在し、これとともに板塀跡を想定することができる。掘り形は箱掘り形で、検出段階で幅約0.4m、深さ0.2m程を測り、かなり小規模である。方向性は、N-11°-Eを示し、外堀や隣接するSD148と主軸方向はややずれてはいるが、屋敷地境の溝と考えられる。SD148と同様の性格を持つ溝と考えられる。

時期決定は、出土遺物が極端に少なく難しい。しかし、その掘削年代はSD148同様、かなり遡ることができるであろう。

SD145 92年度調査区の北西で検出された溝である。検出段階で幅約0.6m、深さ0.2mを測り、その規模・位置等から、排水のための溝と思われる。方向性は、E-6°-Sを示している。出土遺物は少なく時期の決定は難しいが、江戸後期の時期が想定される。

SD166 92年度調査区の北東で検出された溝で、外堀の東側に位置する。検出段階で幅約0.5m、深さ0.2mを測る。その規模・位置等から、排水のための溝と思われる。方向性は不定であるが、ほぼ東西方向を示している。出土遺物が少なく時期は確定できないが、遺構の切り合い関係等から江戸前期の時期が想定される。

SD158 92年度調査区の北東で検出された溝で、外堀の東側に位置する。検出段階で幅約0.6m、深さ0.4mを測る。その規模・位置等から、排水のための溝と思われる。方向性は不定であるが、ほぼ東西方向を示している。出土遺物が少なく時期は確定できないが、SD166を切りSK274に切られていることから、19世紀前葉頃と思われる。

SD159 92年度調査区の北東で検出された溝で、外堀の東側に位置する。検出段階で幅約1.0m、深さ0.3mを測る。その規模・位置等から、排水のための溝と思われる。方向性は不定であるが、ほぼ東西方向を示している。出土遺物は少なく時期は確定できないが、遺構の切り合い関係からSD158と同様の時期が想定される。

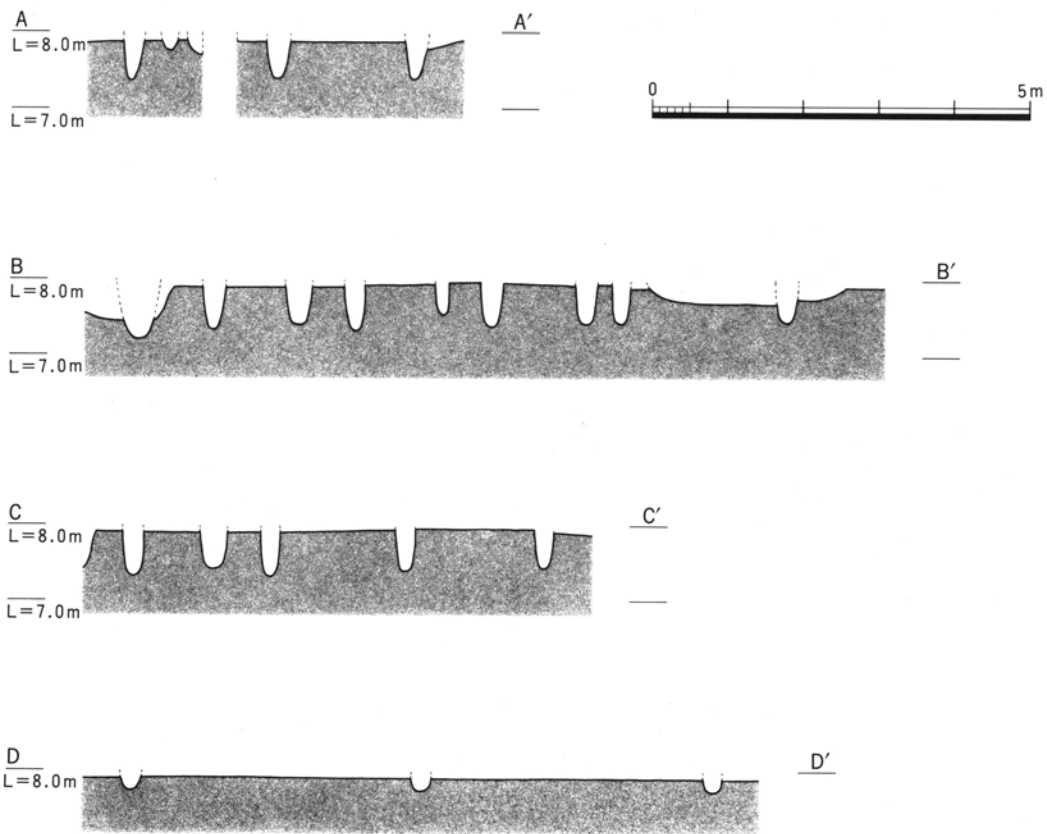
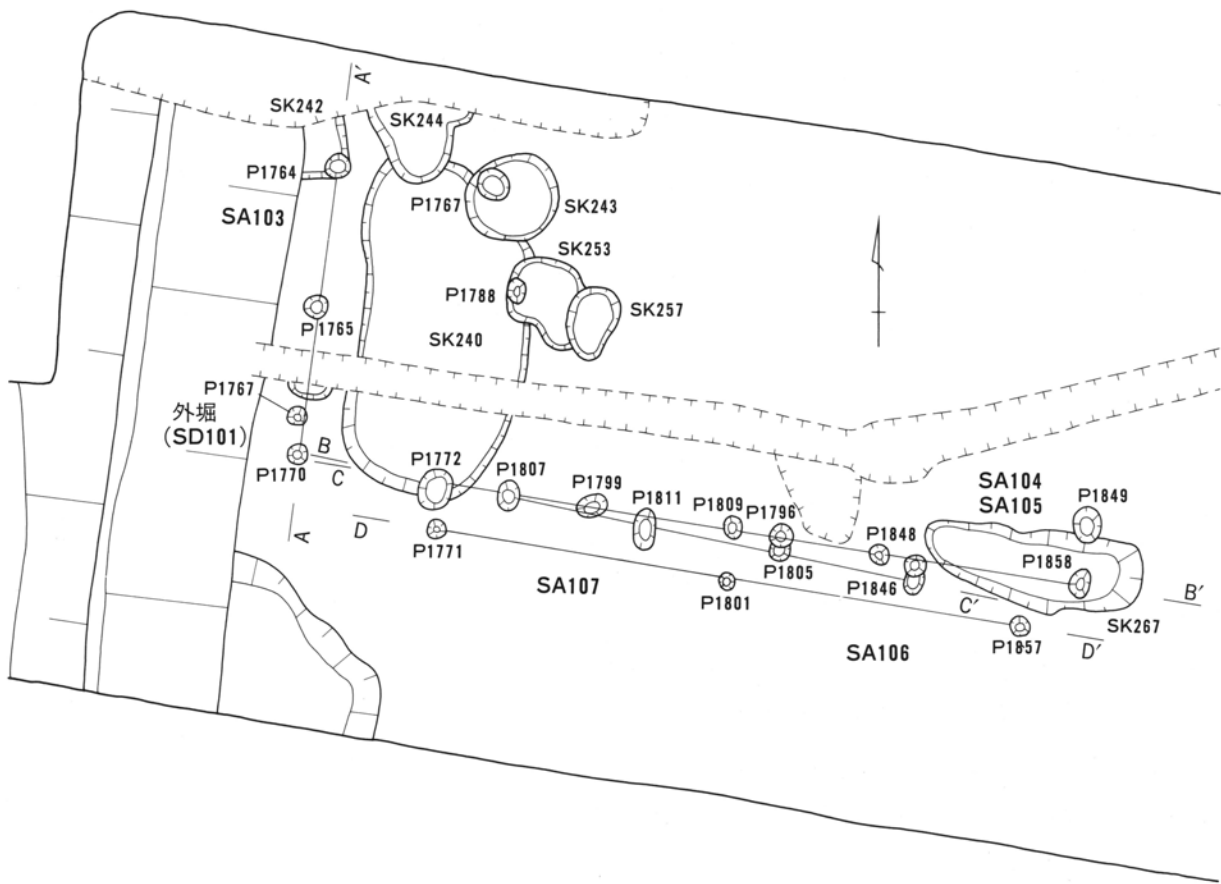
SD180 92年度調査区の東端で検出された溝である。掘り形は箱掘り形を呈し、検出段階で幅約0.8m、深さ0.4mを測る。屋敷地境の溝或いは屋敷内を区画する溝とも考えられる。方向性は、E-20°-Sを示し、他の屋敷境の溝とは主軸方向が異なっている。出土遺物が少なく時期の決定は難しいが、江戸前期に属する遺構と思われる。

SD178 92年度調査区の東端で検出された溝で、SD180の北側に位置する。断面形態は箱掘り形で、SD180と同形態である。検出段階では幅約1.3m、深さ0.3mを測る。方向性は、E-6°-Sを示し、外堀とほぼ直交する。出土遺物より時期は、19世紀前葉～中葉と考えられる。

4. 柵列跡 (SA)

今回の発掘調査において、数条の柵列が確認されている。これらの柵列においても、規模は様々で、屋敷地境や屋敷地内を区画する施設であったと考えられる。時期については、出土遺物がなく、確定できるものはほとんどない。

SA101 92年度調査区の北西に位置し、SD148の西側に遺構を切る形で検出されている。柱穴は5ヶ所確認され、それぞれの径と深さは、南から0.5m×0.4m、0.5m×0.5m、0.6m×0.6m、0.5m×0.5m、0.6m×0.5mであり、底部の標高はほぼ7.5m前後となっている。柱間は心心間でほぼ1.6mとなっている。方向性は、N-10°-EとSD148と同様の値を示している。柱穴の中には、柱痕を残すものも1ヶ所確認されている。時期としては、出土遺物がないため決定できないが、SD148を切っていることから、19世紀前葉～中葉頃が想定される。SD148埋設後、屋敷地境として作られたものと思われる。



第31図 柵列平面図・断面図 (1:100)

SA102 92年度調査区の北西に位置し、SD149の中から検出されている。柱穴は4ヶ所確認されており、それぞれの径と深さは、南から0.5m×0.4m、0.4m×0.4m、0.4m×0.4m、0.5m×0.4mで、底部の標高はほぼ7.7m前後となっている。柱間は心心間で1.5mであるが、1ヶ所のみ1.8mを測る。方向性は、SD149と同様である。SD149とともに、板塀を構成していたものと考えられる。柱穴の中には、柱痕を残すものが、3ヶ所確認されている。また、すぐ北側で検出されたPit1640が同一の遺構とすれば、SA102との間が切れてここに出入口を想定することも可能となる。時期は、出土遺物が無いため不明であるが、近世前期の遺構と考えられる。

SA103 92年度調査区の南東で検出された柵列で、外堀の東側に位置する。柱穴は3ヶ所確認され、径と深さがそれぞれ0.2m×0.5mと均一で、柱間も心心間で約2.0mを測る。方向性はN-8°-Eを示し、外堀とほぼ平行である。外堀と屋敷地を区画する柵列とも考えられる。

SA104 92年度調査区の南東で検出された柵列で、外堀の東側に位置する。柱穴は5ヶ所確認され、それぞれ径0.2~0.4m、深さ0.5mで、柱間は心心間で約2.0mを測る。方向性はE-9°-Sを示し、外堀と直交する。屋敷地境か屋敷地内の区画のための柵列と思われる。

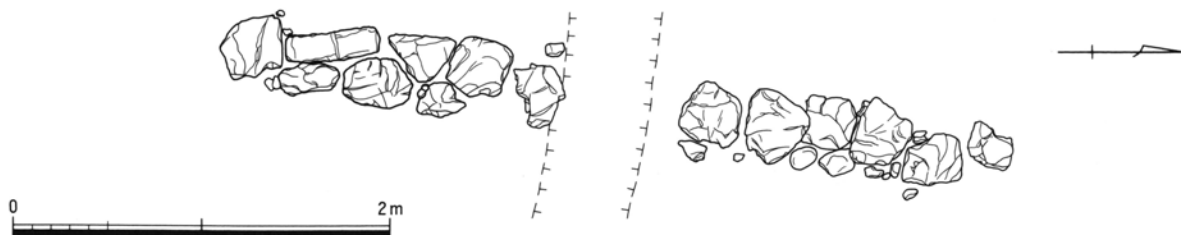
SA105 92年度調査区の南東で検出された柵列で、外堀の東側に位置する。柱穴は4ヶ所確認され、それぞれ径0.2~0.4m、深さ0.5mで、柱間は心心間で約1.8mを測る。方向性はE-10°-Sを示し、外堀とほぼ直交する。SA104と同様に、屋敷地境か屋敷地内の区画のための柵列と思われるが、前後関係は明かではない。

SA106 92年度調査区の南東で検出された柵列で、外堀の東側に位置する。柱穴は4ヶ所確認され、規模はSA105と同様で、それぞれ径0.2~0.4m、深さ0.5mで、柱間は心心間で約1.8mを測る。方向性はE-11°-Sを示し、外堀とほぼ直交する。SA105に切られる形で検出されており、SA105よりも古い年代を与えることができるが、SA104との前後関係は明らかではない。屋敷地境か屋敷地内の区画のための柵列と思われる。

SA107 92年度調査区の南東で検出された柵列で、外堀の東側に位置する。柱穴は3ヶ所確認され、径と深さがそれぞれ0.2m×0.2mで、柱間は心心間で約3.9mを測る。方向性はE-9°-Sを示し、外堀と直交する。屋敷地内の区画のための柵列と思われるが、時期は不明である。

5. 石 列 (SS)

SS101 93年度調査区のほぼ中央で、幅約0.6m、長さ約4.2m、標高8.3m前後の石列が確認された。方向性はN-7°-Eを示し、外堀等とは主軸方向がやや異なっている。どちらかに石の面を揃えるようなことは見られない。屋敷地内を区画していたものと思われる。時期は不明である。



第32図 SS101平面図 (1:40)

6. 建物跡 (SB)

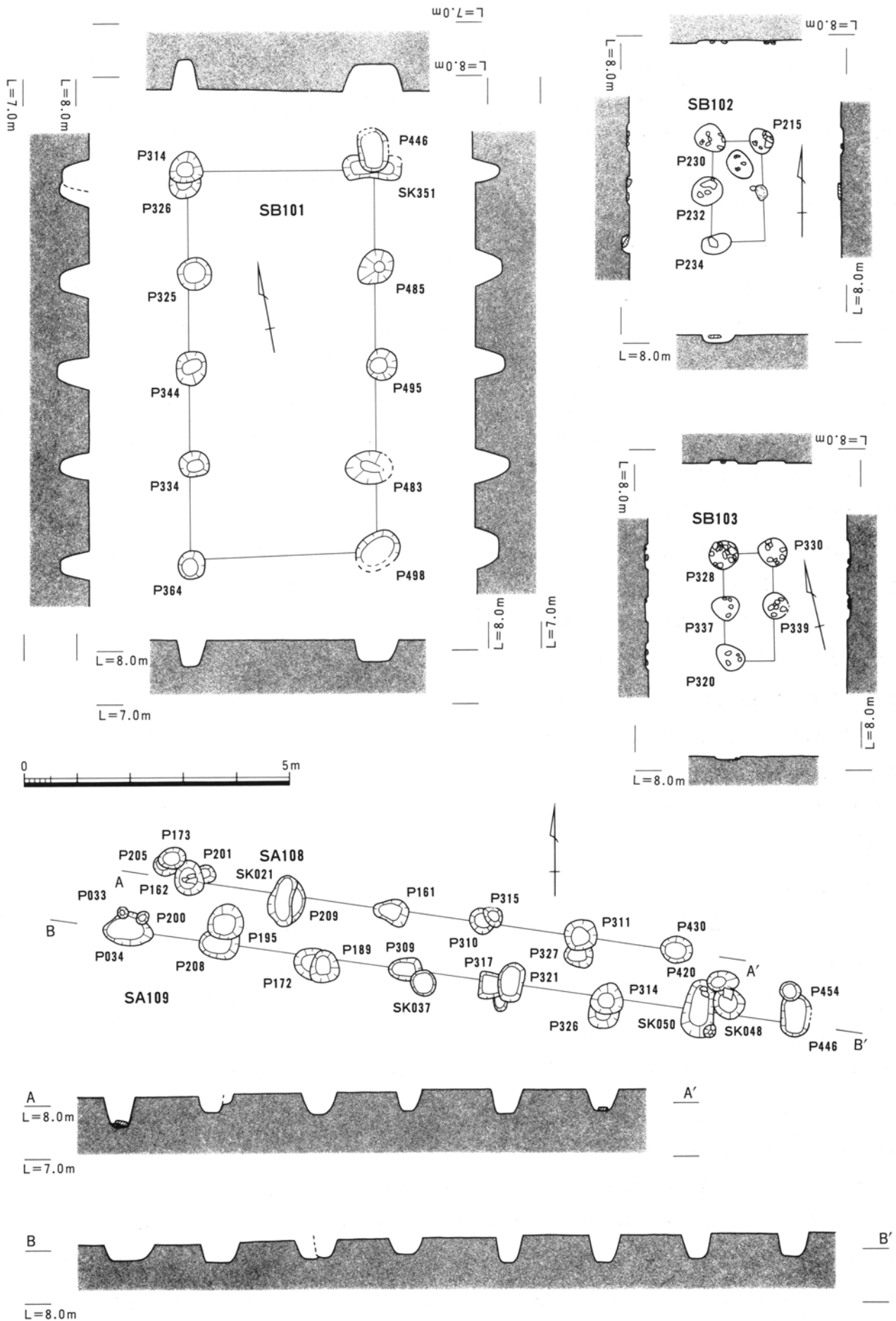
今回の発掘調査において、建物跡と思われるものが7棟確認されている。完全な建物を想定できたものは2棟と少なく、2棟は切り合いが激しく、残り3棟は調査区の端にて検出されその規模については不明な点が多い。その構造から大きく2つに分けることができる。1つは、検出面より50cm程掘り込まれた柱穴の中に礎石や根石が見られるもの、もう1つは、ほぼ検出面に根石と思われる集石の見られるものがある。時期の決定は出土遺物が無く難しいが、前者が江戸前期に属する建物跡、後者が江戸後期の建物跡と考えられる。

SB101 93年度調査区の西側で検出された建物跡で、暗渠・SD129・SD102に囲まれた中に位置している。確認された建物跡は、主軸がN-12°-Eを示し、東西方向に1間、南北方向に5間が確認されている。主軸方向は、これまで見てきた外堀や屋敷地境等の方向とはやや異にしている。また、東西と南北の1間の長さが異なっており、東西方向は心心間で3.6m、南北方向は心心間で1.8mを測る。柱穴はそれぞれ、径0.5~0.7m、深さ0.4~0.5m程を測り、ほぼ全てに根石と思われる河原石が確認されている。さらに、この建物跡に囲まれた範囲内には大きな遺構が確認されておらず、地山も砂礫層ではなくシルト層である。しっかりとした作りから、母屋のような建物と考えられる。この両側には、遺構の少ない部分が広がっているため、東西方向にもう3.6mづつ広げた建物を想定してもいいのではないだろうか。時期は不明であるが、近世前期に属する遺構と考えられる。

この周囲には、SA108・SA109という建物に関連しそうな遺構が確認されている。SA108は、SB101の北西に位置している。柱穴の径は0.4~0.6mで、深さは0.5m前後を測る。柱間は心心間でほぼ1.8mで、方向性は、E-10°-Sを示している。一部に根石のような河原石を確認している。また、SA109は、SA108のすぐ南側に位置している。柱穴の径は0.6~0.8mで、深さは0.5m前後を測る。柱間は心心間でほぼ1.8~2.0mで、方向性は、E-10°-Sを示している。一部で根石と思われる河原石を確認している。これらが、単なる柵列とするには、柱穴の規模等からは考え難く、建物に関連する遺構として捉えておきたい。

SB102 93年度調査区の西端で検出された建物跡で、暗渠・SD129・SD102に囲まれた中でSB101の西側に位置している。確認された建物跡は、主軸がN-6°-Eを示し、東西方向に1間、南北方向に2間を確認している。主軸の方向は、これまで見てきた外堀や屋敷地境やSB101等とも異にしている。東西方向・南北方向ともに心心間で1.0mを測り、かなり小規模である。柱穴はそれぞれ径0.4~0.5mを測り、地山直上に根石と思われる河原石の集石が確認されている。また、この建物跡に囲まれた北側の1間四方のほぼ中央に甕が埋められており、その甕の内面には糞尿の残槽が付着していることから、便所跡と思われる。時期は、江戸後期に属するものと思われる。

SB103 93年度調査区の西端で検出された建物跡で、暗渠・SD129・SD102に囲まれた中でSB101の南側に位置している。確認された建物跡は、主軸がN-6°-Eを示し、東西方向に1間、南北方向に2間が確認されている。東西方向・南北方向ともに心心間で1.0mを測り、かなり小規模である。方向性・規模ともに、SB102と全く同様である。柱穴はそれぞれ、径0.4~0.5mを測り、地山直上に根石と思われる河原石の集石が確認されている。納屋のような建物が想定される。時期は、SB102と同様江戸後期に属するものと思われる。



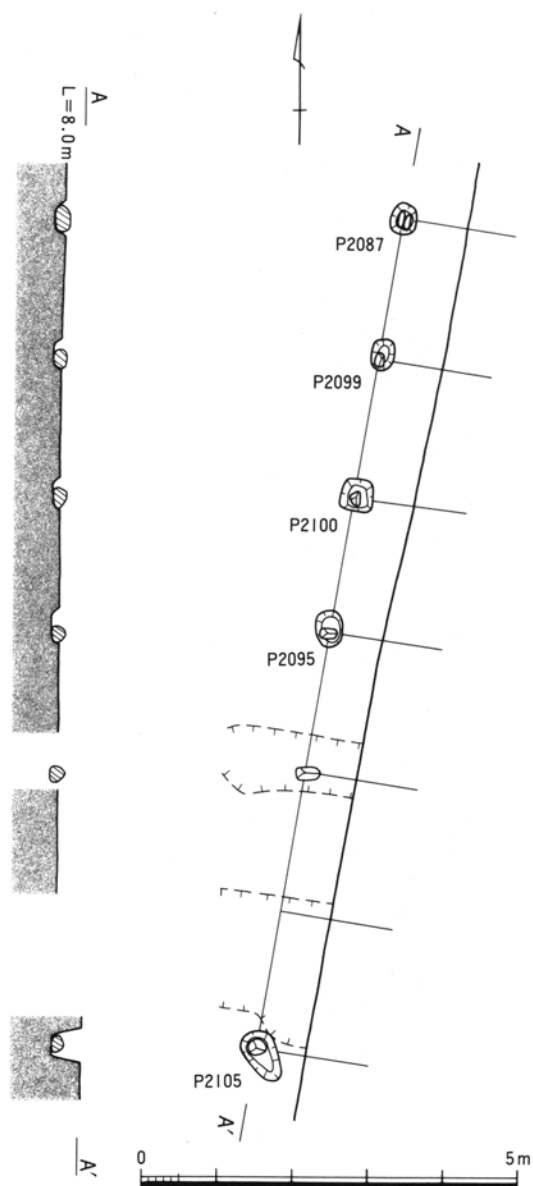
第33図 SB101・SB102・SB103・SA108・SA109平面図・断面図 (1:100)

SB104 93年度調査区の北東で検出された建物跡である。他の建物とは構造が異なり、検出段階で幅約0.5m、深さ0.1m程の溝によって三方を囲まれた建物で、その規模は幅4.0m、全長4.5mを測るが、調査区外に広がる可能性を持っている。溝の中には河原石の小礫が無秩序に入っているところから、土蔵のような建物と考えることもできる。

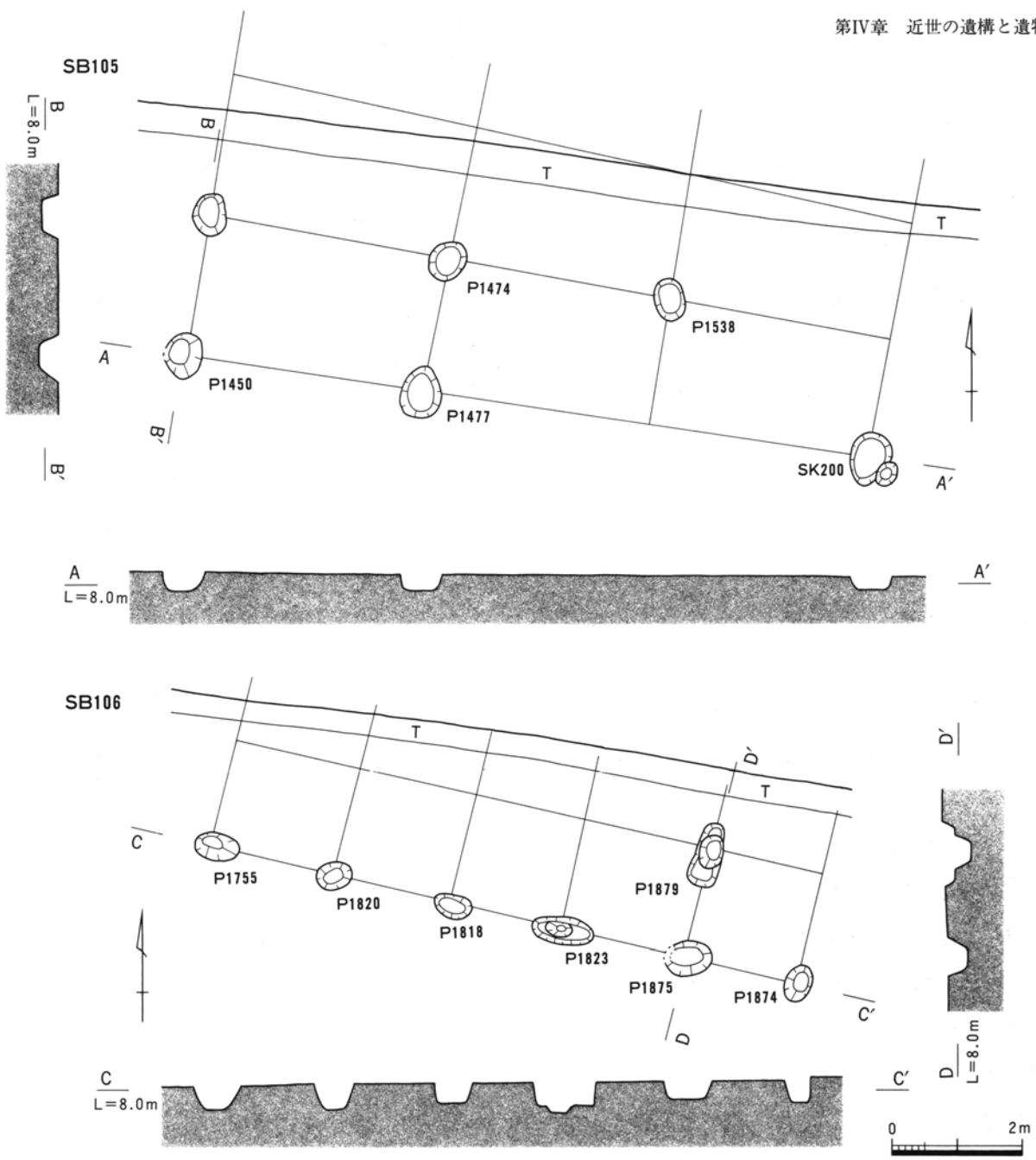
SB105 92年度調査区の北西で検出された建物跡で、屋敷地境と思われるSD148の西側に位置する。確認された建物跡は、主軸方向がE-10°-Sを示し、東西方向に3間、南北方向は1間が確認されているが、さらに調査区外に続いているものと思われる。柱間は、東西方向は心心間で3.6m、南北方向は心心間で2.0m、柱穴はそれぞれ、径0.6~0.8m、深さ0.4~0.5mを測る。ほぼ全ての柱穴で根石と思われる河原石を確認している。中でも2つの柱穴においては柱根も検出されており、礎石や根石の構造が明かとなった。屋敷地内の母屋のような建物と考えられる。時期は不明であるが、江戸後期に属するものと思われる。

SB106 92年度調査区の北東で検出された建物跡で、外堀の東側に位置する。確認された建物跡は、主軸方向がE-12°-Sを示し、東西方向に5間、南北方向は1間が確認されているが、さらに調査区外に続いているものと思われる。柱間は、東西方向・南北方向ともに心心間で1.8m、柱穴はそれぞれ、径は0.6m前後、深さは0.3m程を測る。ほぼ全ての柱穴で根石を確認している。母屋のような建物と考えられる。時期は不明であるが、江戸後期に属するものと思われる。

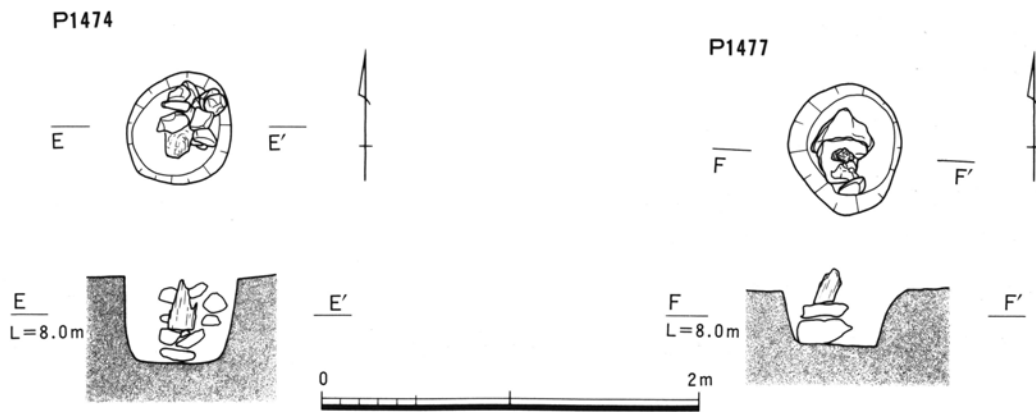
SB107 92年度調査区の東端で検出された建物跡で、屋敷地境と思われるSD178の南側に位置する。確認された建物跡は、主軸方向がN-10°-Eを示し、南北方向に6間、東西方向は確認されていないが西側に確認されていないことから、調査区外に続いているものと思われる。柱間は心心間で1.8m、柱穴はそれぞれ、径は0.4~0.5mを測り、深さは確認できなかった。ほぼ全ての柱穴で礎石と思われる石を確認している。母屋のような建物と考えられる。時期は不明であるが、SE107とともに江戸後期に属するものと思われる。



第34図 SB107平面図・断面図（1：100）



第35図 SB105・SB106平面図・断面図 (1:100)



第36図 柱痕平面図・断面図 (1:40)

7. 井戸 (SE)

本遺跡で確認された井戸は、全部で10基である。近世前期が5基、近世後期が4基、明治期の井戸が3基である。補足調査として重機による断ち割り調査を実施したが、時間的な制約もあって形態・井桶や井枠等の構造物の有無・底の確認に終始したため、十分な成果をあげることができなかった。

SE106 92年度調査区の北端で検出された井戸で、SD148・SD149の西側に位置する。検出段階で、長径約2.1m、短径約1.6m程の楕円形を呈している。掘り形はほぼ円筒状で、検出面より約4.3m程掘り下げられているが、下半部がやや袋状に広がっている。これは、掘削時に崩落したものなのか或いは意図的に掘削されたのかは不明である。井桶・井枠等は確認されていない。出土遺物としては、肥前産陶磁器類・瀬戸美濃産陶器類の他、漆器椀や蓋・曲げ物・下駄・箒等の木製品が大量に出土している。時期は、これらの遺物から18世紀前葉～中葉が想定される。

SE101 93年度調査区の北半で検出された井戸で、暗渠の南側に位置する。検出段階では確認されず、SK063の断ち割り調査で初めて確認された。上部をSK063に切られているので細かいことは不明であるが、径約1.0m程の円形を呈し、掘り形は円筒状に、検出面から約4.4m程掘り下げられている。井桶・井枠等は確認されなかった。出土遺物は少なく時期の決定は難しいが、SK063に切られていることから、江戸前期に属する遺構と想定される。

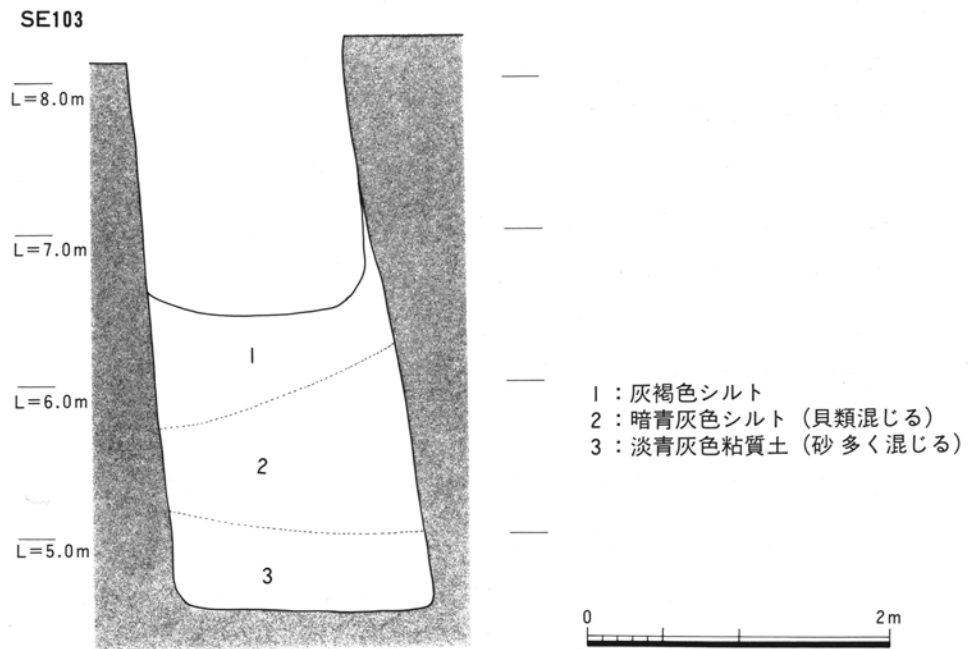
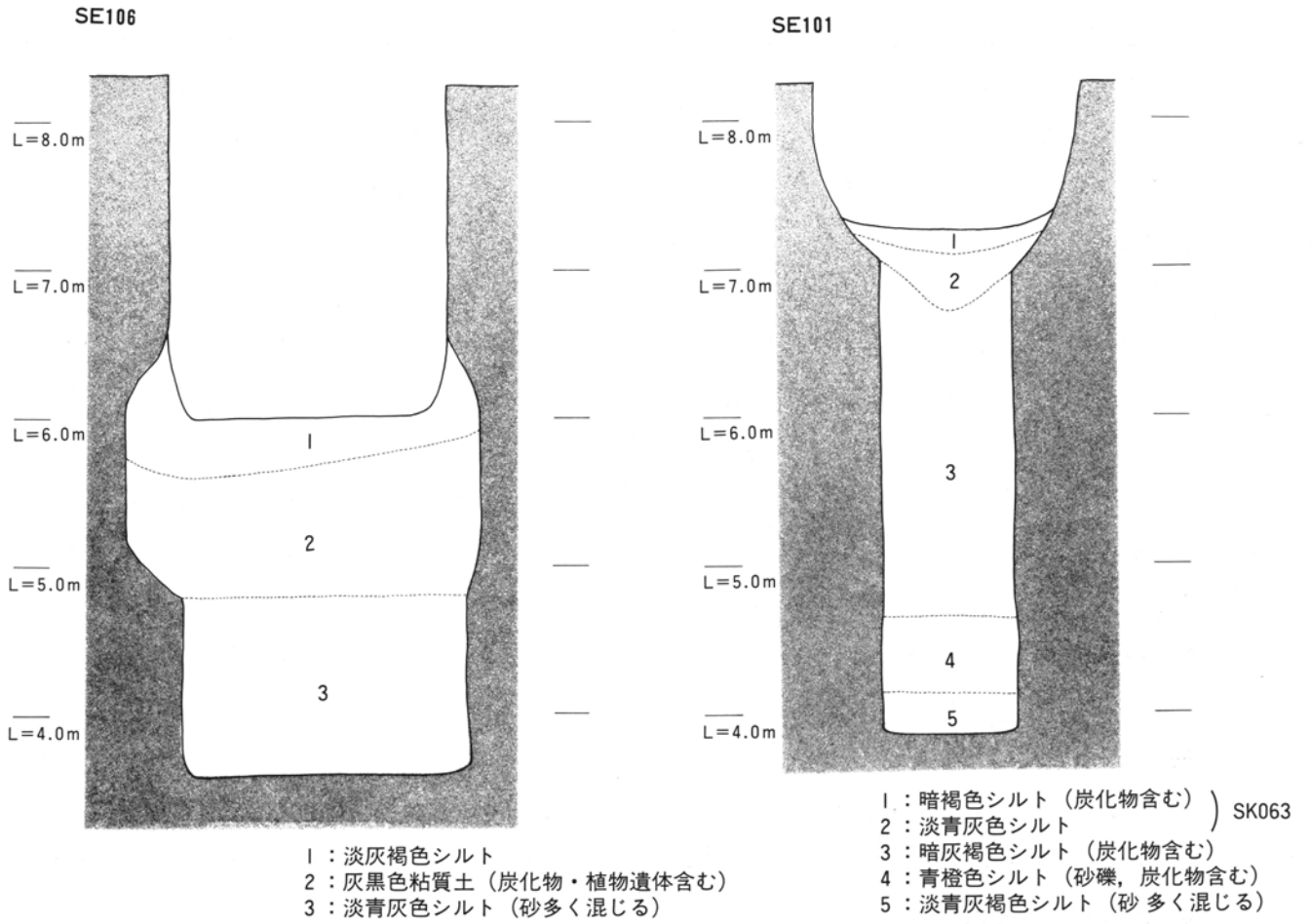
SE103 93年度調査区の中央で確認された井戸で、SB101の東側に位置する。検出段階で、長径約2.1m、短径約1.8mを測り、楕円形を呈している。掘り形は円筒状で、検出面から約3.4m程掘り下げられているが、やや南側に傾斜している。井桶・井枠等は確認されなかった。出土遺物から、時期は18世紀後葉が想定される。

SE104 93年度調査区の中央で確認された井戸で、SB101の東側、前述したSE103の南東に位置する。検出段階で、長径約1.8m、短径約1.6mを測り、ほぼ円形を呈している。掘り形は円筒状で、検出面から約4.2m程掘り下げられているが、最下部がやや開く形態をしている。井桶・井枠等は確認されていない。出土遺物としては、肥前・瀬戸美濃の陶磁器類の他、漆器椀や蓋・傘の軸部・曲物等の木製品の出土も見られ、18世紀中葉～後葉の時期が想定される。

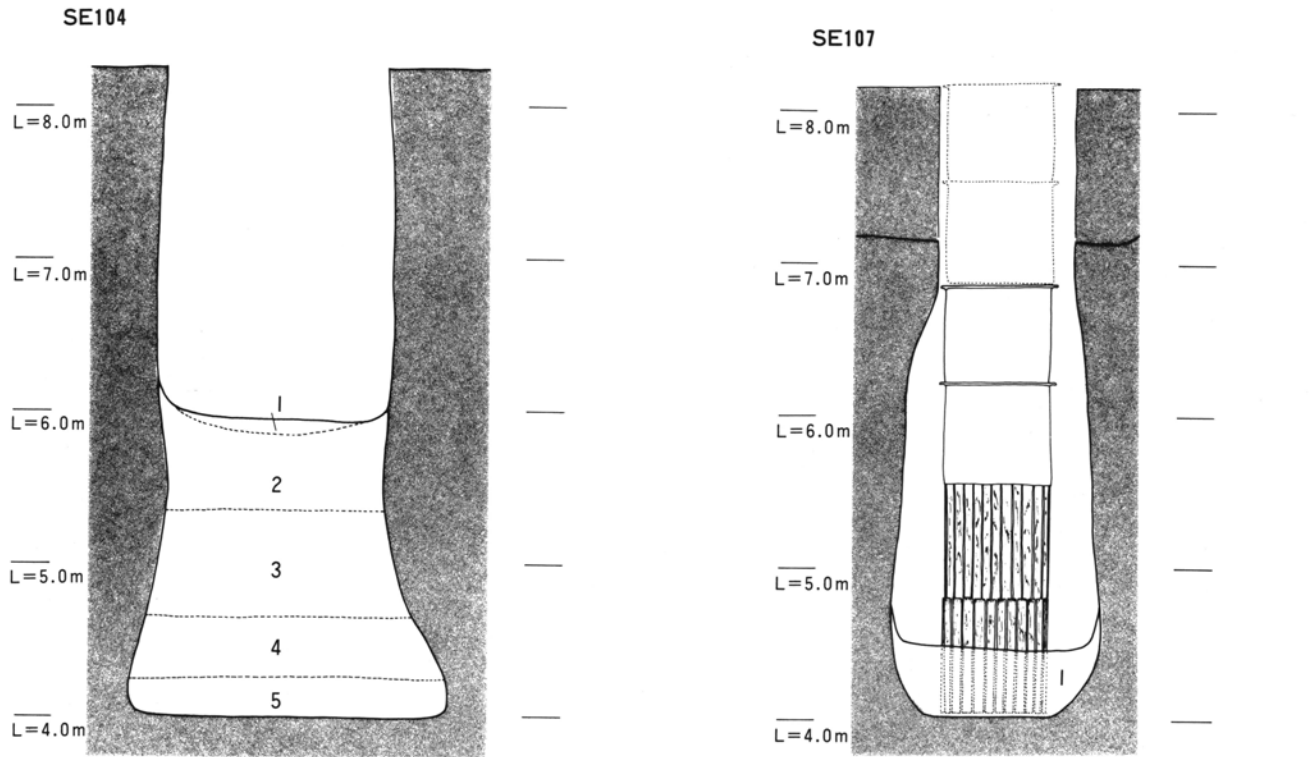
SE102 93年度調査区の中央で確認された井戸で、SE104の西側に位置する。検出段階で、長径約1.8m、短径約1.1mを測り、楕円形を呈している。掘り形は円筒状で、検出面より約3.7m程掘り下げられ、下半部片側がやや膨らんだ形状をしている。井桶・井枠等は確認されなかった。出土遺物が少なく時期の決定は難しいが、近世前期に属するものと思われる。

SE106 92年度調査区の南端で確認された井戸で、SK180の西側に位置する。検出段階で、径約1.1m程の円形を呈している。掘り形は円筒状で、検出面より約3.7m掘り下げられており、下半部が袋状を呈している。井桶・井枠等は確認されず、時期は19世紀前葉～中葉と考えられる。

SE107 92年度調査区の東側で確認された井戸で、SB106の西側に位置する。検出段階で、長径約1.5m、短径推定約1.3mを測り、ほぼ円形を呈している。掘り形は円筒状で、検出面から約4.1m程掘り下げられ、下半部はやや膨らんだ形状を示している。井枠として、常滑の赤物が4段、その下には井桶2段が確認されたが、残存状況は良くなかった。出土遺物としては、瀬戸美濃産の陶磁器類の他、蒔絵の櫛等が出土している。時期は、19世紀前葉～中葉頃と思われる。

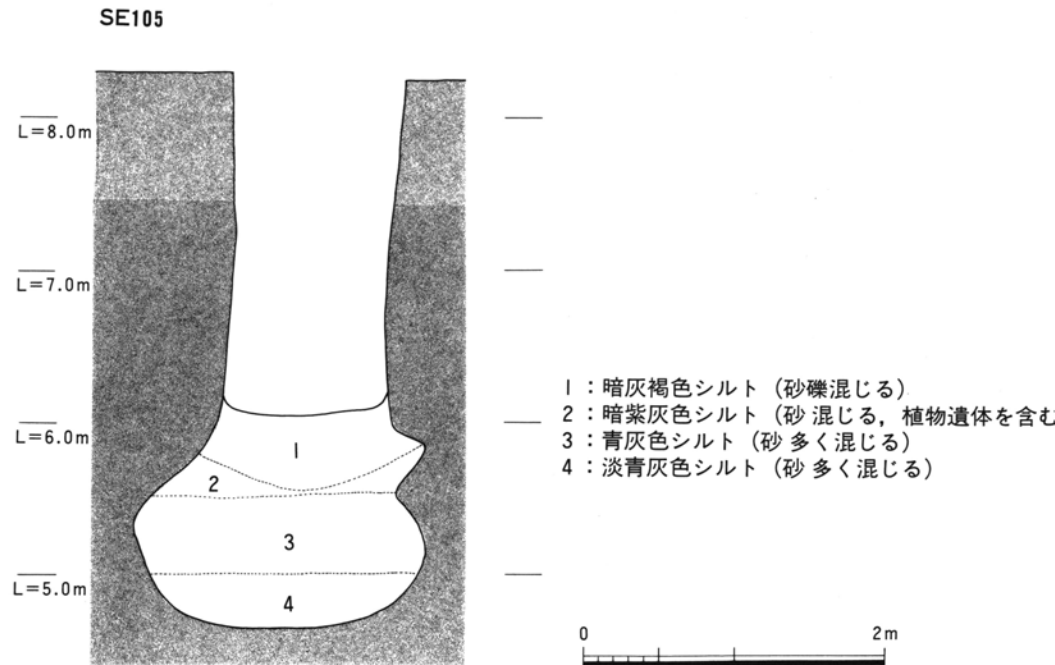


第37図 SE106・SE101・SE103断面図 (1 : 50)



- 1 : 暗紫灰色シルト (植物遺体を含む)
- 2 : 暗青灰色シルト (砂礫・貝類を含む)
- 3 : 青灰色シルト (砂礫を含む)
- 4 : 青灰色粘質土 (砂混じる)
- 5 : 緑灰色粘質土 (砂混じる)

I : 淡青灰色砂 (砂礫多く混じる)



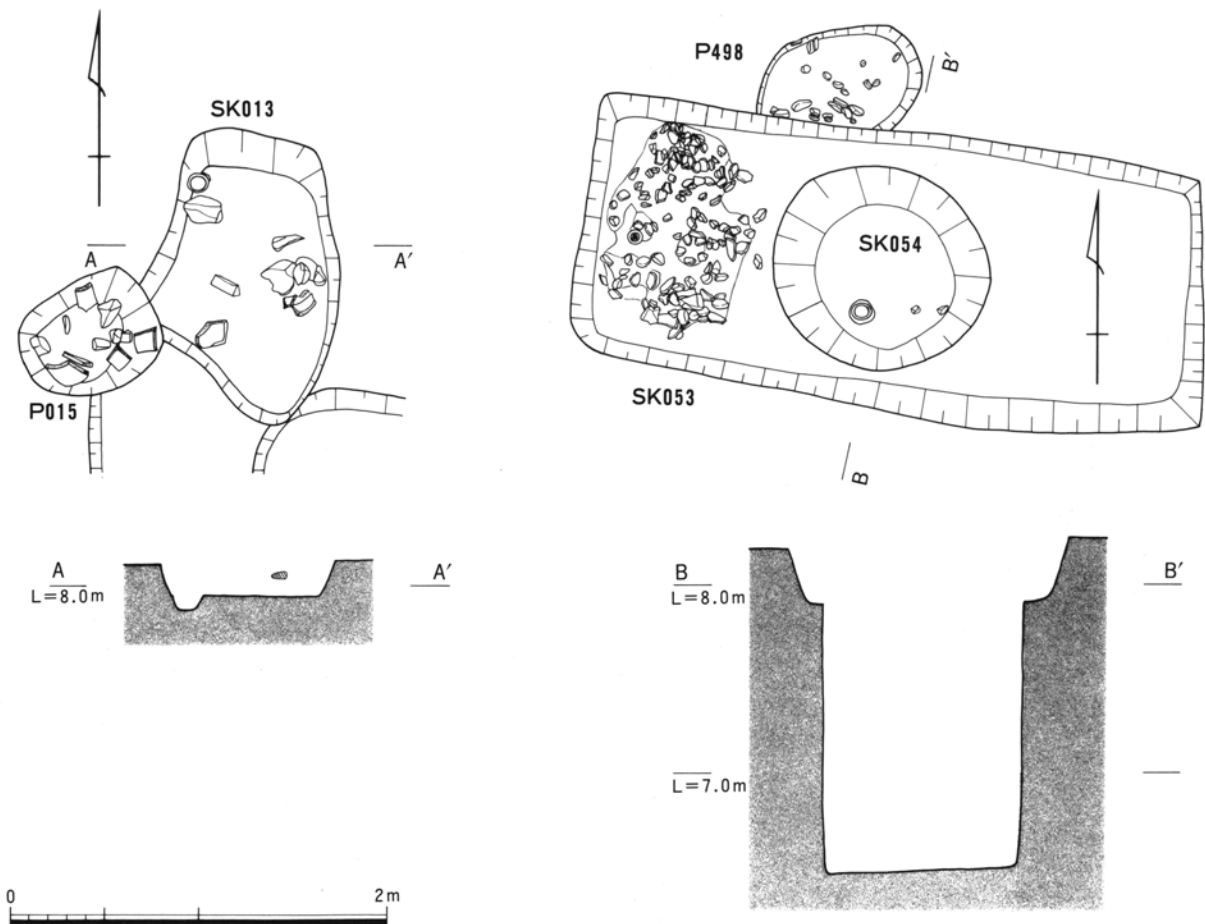
第38図 SE104・SE105・SE107断面図 (1 : 50)

8. 土 坑 (SK)

本遺跡より出土した数多くの土坑は、その規模・深さ等多種多様である。これらの土坑はその機能により、ゴミ穴・廃棄土坑・瓦溜り・用途不明の土坑等に分けることができるであろう。ゴミ穴とは、日常生活で生じた破損物や不要品を廃棄する穴であり、廃棄土坑とは建て替えや屋敷替えの際に破損物や不要品を一括投棄する穴であり、瓦溜りとは建て替え等で不要になった破損瓦を一括投棄する穴のことである。これらの土坑の分布を種類別に捉えていくことが、屋敷地内の土地利用状況を明らかにしていく1つの手立てになるものと考えられる。

SK013 93年度調査区の西端で検出された土坑であり、SB101の西側に位置する。検出段階で長径推定1.5m、短径約1.0m程の楕円形を呈し、深さは約0.2mである。この土坑の中より瀬戸美濃産の灰釉皿と石が出土し、地鎮等の祭祀的な意味合いを持つものなのか、或いは動物等のお墓という性格を持つものなのかは不明である。出土遺物から、18世紀前葉の時期が想定される。

SK053 93年度調査区の南側で検出された土坑で、SB101の南側に位置する。検出段階で長径約3.4m、短径約1.5mの長方形を呈し、深さは約0.3m程である。中から、径約0.9m程の円形の土坑(SK054)が検出され、井戸と考えられた。しかし、断ち割り調査の結果、1m余りで底が確認されたため、井戸を掘りかけてやめてしまったものではないかと思われる。遺物は小片が多く出土していることから、ゴミ穴として利用されていたと考えてもいいのではないだろうか。時期は、出土遺物から19世紀前葉～中葉頃が想定される。



第39図 SK013・SK053平面図・断面図 (1:40)

SK005 93年度調査区の北東端で検出された土坑で、暗渠の南側に位置する。検出段階で長径約4.0m、短径約2.4mを測り、やや丸みのある長方形を呈し、深さは約0.4mである。ゴミ穴か廃棄土坑の1つと思われる。出土遺物等から、時期は18世紀中葉までと考えられる。

SK061 93年度調査区の北側で検出された土坑で、暗渠の南側に位置している。検出段階で長径約1.9m、短径推定1.3m程の楕円形を呈し、深さは約0.2mと浅い。用途不明の遺構である。出土遺物も少なく、時期は限定できない。

SK063 93年度調査区の北側で検出された土坑で、暗渠の南側、SK061の東側に位置する。検出段階で長径約1.7m、短径約1.4m程の不整楕円形を呈し、調査では井戸と判断していた。しかし、断ち割り調査において、深さ約1.6mであることと、この土坑の下から別遺構である井戸（SE101）の存在が確認された。用途不明の遺構である。出土遺物も少なく、時期は限定できない。

SK071 93年度調査区の中央で検出された土坑で、SS101の西側に位置する。検出段階で長径推定約3.0m、短径1.4m程の不整な楕円形を呈し、深さは約0.2mと浅い。笠原鉢の出土が目立ち、時期は17世紀中葉頃が想定される。

SK074 93年度調査区の中央で検出された埋め甕土坑で、SE102の上に位置する。検出段階で径約0.6m程の円形を呈し、常滑産の赤物の甕の下半部が埋設されている。口縁部が欠けているために時期の限定は難しいが、井戸埋設後の遺構であることから江戸後期とも考えられる。

SK049 93年度調査区の中央で検出された埋め甕土坑で、SE103の西側に位置する。検出段階で径約0.9m程の円形を呈し、常滑産の赤物の甕が埋設されている。時期は、甕の口縁形態や出土遺物等から18世紀後葉の時期が想定される。

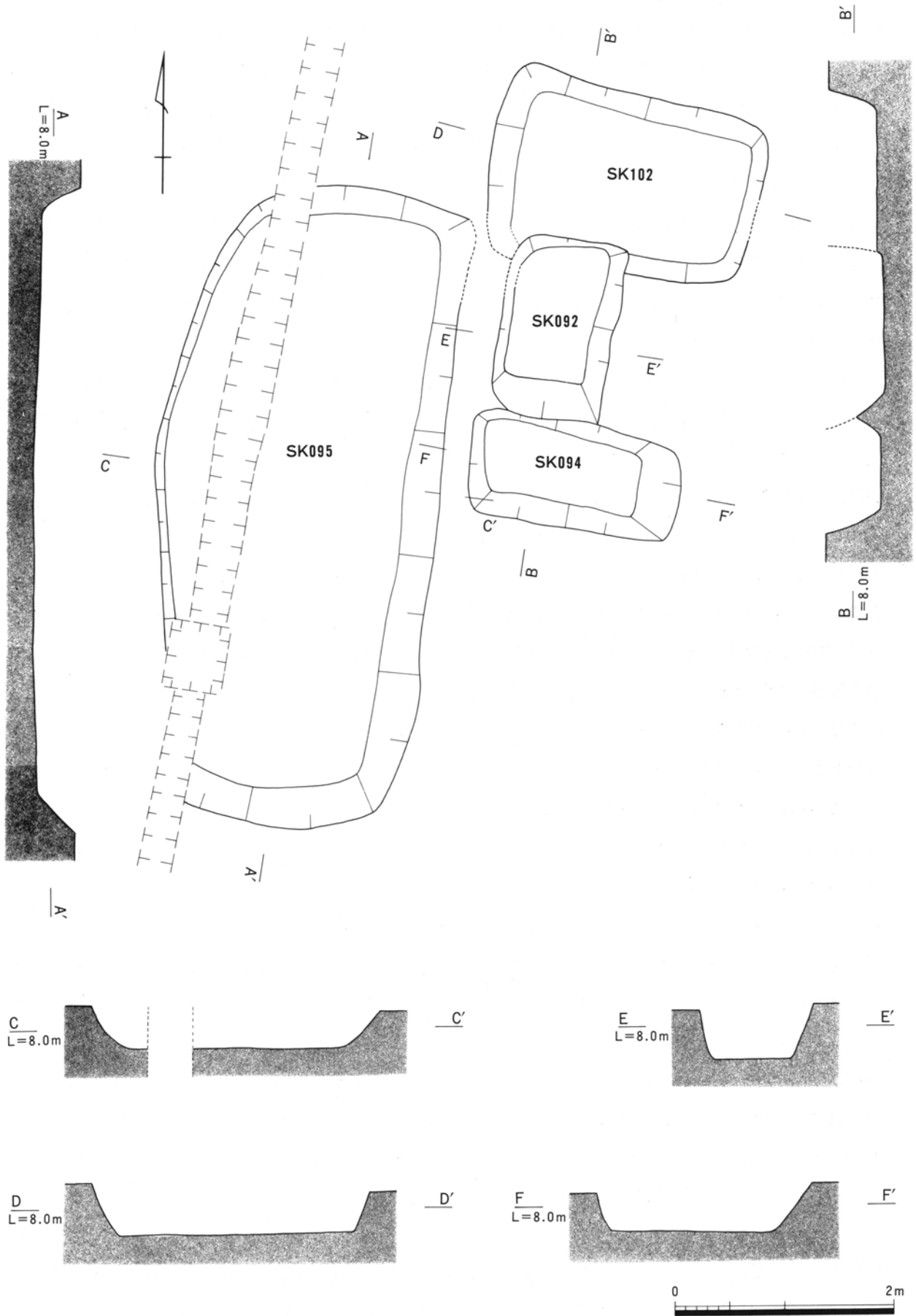
SK086 93年度調査区の北側で検出された土坑で、暗渠の南側に位置する。検出段階で径約1.3m程の方形を呈し、深さは約0.4mである。規模の小さい割に出土遺物量が多いことから、ゴミ穴か廃棄土坑と考えられる。時期は、19世紀前葉頃と思われる。

SK102 93年度調査区の中央で検出された土坑で、SE104の東側に位置する。検出段階で長径約2.5m、短径約1.8m程の長方形を呈し、深さは0.5mを測る。周囲に同様の土坑が切り合って存在していることから、ゴミ穴と想定される。時期は出土遺物等から、19世紀前葉と思われる。

SK092 93年度調査区の中央で検出された土坑で、SE104の東側、SK102の南側に位置する。検出段階で、長径約1.6m、短径約1.1m程の長方形を呈し、深さは約0.4mを測る。SK102と同様に、ゴミ穴であったと考えられる。時期は出土遺物等から、19世紀中葉頃が想定される。

SK094 93年度調査区の中央で検出された土坑で、SE104の東側、SK092の南側に位置する。検出段階で、長径約1.9m、短径約1.0m程の長方形を呈し、深さは約0.5mを測る。隣接するSK102・SK092と同規模であり、これもゴミ穴と考えられる。出土遺物が少なく時期の決定は難しいが、SK092に切られていることから、19世紀前葉頃と想定される。

SK095 93年度調査区の中央で検出された土坑であり、SE104の東側、SK102・SK092・SK094の西側に位置する。検出段階で長径約5.8m、短径約3.6m程の不整な長方形を呈し、深さは約0.4mを測る。これも前述したゴミ穴の1つと考えられる。出土遺物が少なく時期の決定は難しいが、ゴミ穴という性格を含めて考えると19世紀前葉～中葉頃と想定される。



第40図 SK092・SK094・SK095・SK102平面図・断面図 (1:50)

Pit644 93年度調査区の中央で検出された土坑で、SE103の南側に位置する。検出段階で径0.8m程の円形を呈している。遺構からは平瓦が数枚重なった状態で出土しているが、瓦溜り土坑とは考え難く、性格は不明である。他に遺物の出土がなく、時期も限定することはできない。

SK032 93年度調査区の南端で検出された土坑で、SD102を切っている。検出段階で径約3.1m程の円形を呈しているが、半分は調査区外に広がるため不明である。深さは約0.4mを測る。その規模から、廃棄土坑の1つと思われる。時期は出土遺物等から、19世紀中葉と考えられる。

SK056 93年度調査区の南端で検出された土坑で、SD102を切っている。検出段階で長径約3.7m、短径約2.6m程の不整な楕円形を呈している。その規模から、廃棄土坑の1つではないかと考えられる。時期は出土遺物等から、19世紀前葉～中葉と思われる。

SK135 93年度調査区の東側で検出された土坑で、SD129を切っている。検出段階で長径推定約3.0m、短径約2.0m程の楕円形を呈し、深さは約0.5mを測る。ゴミ穴或いは廃棄土坑と思われる。出土遺物や遺構の切り合い関係等から、19世紀前葉が想定される。

SK181 92年度調査区の南側で検出された土坑で、SE001の東側に位置している。検出段階で長径約2.6m、短径約1.6m程の不整な楕円形を呈し、深さは約0.2mを測る。遺物の出土量が少なく時期の限定は難しいが、近世前期に属する遺構と考えられる。

SK190 92年度調査区の南側で検出された埋め甕土坑で、SK181の南側に位置している。検出段階で径約0.8mの円形の土坑で、常滑産の赤物の甕が埋設されている。甕の口縁形態から、時期は18世紀中葉以降と考えられる。

SK180 92年度調査区の南側で検出された土坑で、SK181の北側に位置している。検出段階で長径約3.8m、短径約1.8mの不定形を呈し、深さは約0.3mを測る。出土する近世陶磁器類の量の多さから、廃棄土坑と思われる。時期は廃絶時である幕末期頃と考えられる。

SK179 92年度調査区の南側で検出された土坑で、SK180の西側に位置している。検出段階で長径約1.5m、短径約1.4mの不整な楕円形を呈し、深さは約0.4mを測る。陶磁器類以外に礎石と思われる礫が見られることから、廃棄土坑と思われる。時期は、SK180同様に幕末期と考えられる。

SK226 92年度調査区の北端で検出されて土坑で、SD148・SD149の東側に位置する。検出段階で長径約2.2m、短径約2.0m程の不整な楕円形を呈している。調査段階で井戸と判断し、断ち割り調査を実施したが、深さは検出面より約2.5mと他の井戸と比較して浅いことから、ゴミ穴とも考えられる。出土遺物は、近世の陶磁器類が僅かに出土していることから近世の遺構と想定してはいるが、中世の山茶碗類や甕・壺類、古代の灰釉陶器類が量的に多く出土していることから、中世まで遡る可能性を十分に持っている遺構である。

SK221 92年度調査区の北端で検出された土坑で、SK226の上部を切っている。検出段階で長径約5.2m程の楕円形を呈しているものと思われる。深さは約0.1mと浅い。出土遺物としては、蚊いぶしの身と蓋が集中しており、19世紀前葉～中葉頃が想定される。

SK208 92年度調査区の北側で検出された土坑で、SD148の西側に位置する。検出段階で長径約2.7m程の楕円形を呈しているものと思われる。深さは約0.5mを測る。ゴミ穴か廃棄土坑と思われる。出土遺物より、時期は18世紀末～19世紀前葉が想定される。



第41図 SK179・SK180遺物出土状態図（1：20）

SK188 92年度調査区の北側で検出された土坑で、SB104の南側に位置する。検出段階で長径約3.4m程の楕円形を呈しているものと思われる。小さな円礫が一面に広がっており、その中に遺物の小片が混入するように出土している。東側に排水溝と思われるSD145の存在から、浄水施設のようなものが想定される。時期は、19世紀中葉頃が考えられる。

SK248 92年度調査区の北側で検出された土坑で、外堀のすぐ東側に位置する。検出段階で長径約2.0m、短径約1.7m程の不整な楕円形を呈している。調査段階で井戸と判断し断ち割り調査を実施したが、すぐに底が確認された。掘り形はほぼ円筒状で、深さは検出面より約1.7mを測る。出土遺物から時期は、出土量は少ないが17世紀中葉頃が想定される。

SK289 92年度調査区の北端で検出された土坑で、東西方向に数条はしる排水溝の北側に位置する。検出段階で長径約3.6m程の楕円形を呈するものと考えられる。調査段階で井戸と判断し断ち割り調査を実施した。掘り形はU字形で、検出面より約3.6m程の深さを測り、井戸という可能性が高い。出土遺物には猿の人形のついた灯明皿等があり、江戸前期に属する遺構であると思われる。

SK340 92年度調査区の東側で検出された土坑で、SD178の北側に位置している。検出段階では長径約1.7m、短径約1.6m程の円形を呈している。この遺構も、調査段階では井戸と判断して断ち割り調査を実施した。掘り形はほぼ円筒状を呈し、深さは検出面より約3.5m程を測り、井戸としての可能性の高い遺構である。出土遺物は遺構の規模の割には少なく、時期は17世紀末～18世紀前葉頃と思われる。

SK282 92年度調査区の北側で検出された土坑で、SK289の南側に位置している。検出段階では長径約1.6m、短径約1.2m程の楕円形を呈し、深さは約0.4mを測る。ゴミ穴か廃棄土坑と考えられる。出土遺物が少なく時期の限定は難しいが、近世前期に属する遺構と思われる。

SK334 92年度調査区の東側で検出された土坑で、SK340の北側に位置している。検出段階では長径約1.7m、短径約1.2m程の楕円形を呈し、深さは約0.5mを測る。ゴミ穴か廃棄土坑と考えられる。時期は、出土遺物から18世紀中葉～後葉と思われる。

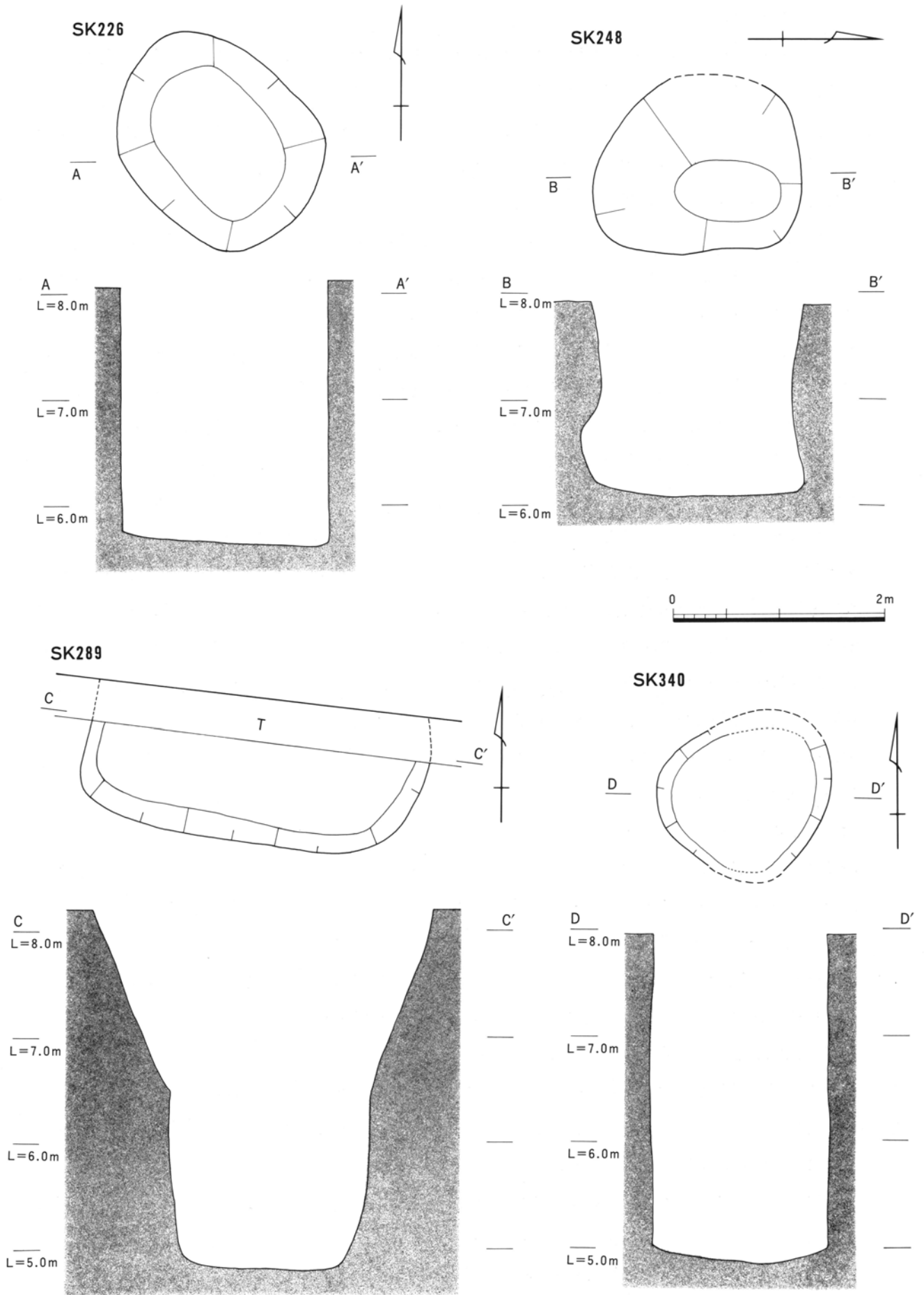
SK324 92年度調査区の東側で検出された土坑で、SK334の北側に位置している。検出段階では長径約1.7m、短径約1.4m程の楕円形を呈し、深さは約0.6mを測る。ゴミ穴か廃棄土坑と考えられる。時期は、出土遺物から18世紀後葉～末頃と思われる。

SK326 92年度調査区の東端で検出された土坑で、SK324の東側に位置している。調査区の隅で検出されたため規模は不明であるが、径約2.1m程の楕円形を呈しており、深さは約0.4m程を測る。ゴミ穴か廃棄土坑と考えられる。時期は、19世紀中葉と考えられる。

SK336 92年度調査区の東端で検出された土坑で、SK326の南側に位置している。SK326と同様で規模は不明であるが、深さは約0.5m程を測る。ゴミ穴か廃棄土坑と考えられ、時期も同様なところから、SK326と1つの遺構である可能性が高い。

SK274 92年度調査区の北側で検出された土坑で、SK248の南側に位置している。検出段階では長径約3.8m、短径約1.1m程の楕円形を呈し、深さは約0.6mを測る。大量の瓦類の出土から瓦溜り土坑と思われる。時期は出土遺物や遺構の切り合い関係等から、幕末期が想定される。

SK299 92年度調査区の東側で検出された土坑で、SD178の北側に位置している。検出段階では長径約1.6m、短径約1.5mの方形を呈し、深さは約0.4mを測る。出土遺物が少なく、性格も時期も不明である



第42図 SK226・SK248・SK289・SK340平面図・断面図 (1 : 50)

が、近世後期に属する遺構と考えられる。

SK345 92年度調査区の東側で検出された土坑で、SD178の南側に位置している。検出段階で長径約2.5m、短径約1.7mの不整な楕円形を呈し、深さは約0.2mを測る。周囲に土坑が多く切り合いも激しいことから、ゴミ穴と考えられる。時期は、出土遺物等から18世紀中葉～後葉と思われる。

SK300 92年度調査区の東側で検出された土坑で、SK345の西側に位置している。検出段階で長径推定1.5m、短径約1.1mの不整な楕円形を呈し、深さは約0.8mを測る。ゴミ穴と思われるが、出土遺物は少なく、時期は17世紀後葉と考えられる。

SK306 92年度調査区の東側で検出された土坑で、SB107の西側に位置している。検出段階で長径約2.4m、短径約2.2m程の不定形を呈し、深さは約0.6mを測る。これまでの土坑と比較して、規模の大きい方である。ゴミ穴や廃棄土坑と考えられるが、出土遺物量は規模の割に少ない方である。時期は、18世紀中葉～後葉が想定される。

SK309 92年度調査区の東端で検出された土坑で、SK306を切り SB107の南側に位置している。調査区の隅で検出されたため規模は不明であるが、不整な楕円形を呈するものと思われる。深さは、約0.5mを測る。ゴミ穴と考えられ、時期は19世紀前葉～中葉と想定される。

SK313 92年度調査区の東端で検出された土坑で、SK309の南側に位置する。調査区の隅で検出されたために規模は不明であるが、楕円形を呈しているものと思われる。深さは、約0.2mを測る。ゴミ穴と考えられ、時期は18世紀後葉頃が想定される。

SK314 92年度調査区の東側で検出された土坑で、SK313の西側に位置している。検出段階で長径約1.7m、短径約0.8m程の長方形を呈し、深さは約0.2mを測る。出土遺物が少なく、遺構の性格や時期については不明な点が多いが、近世前期に属する遺構であると思われる。

SK315 92年度調査区の東側で検出された土坑で、SK313の南側に位置している。検出段階で長径約1.3m、短径約1.2mの不整な円形を呈し、深さは約0.1mと極端に浅い。出土遺物が少なく、性格や時期についてはともに不明である。

SK279 92年度調査区の南側で検出された土坑で、SK314の南東に位置している。検出段階で長径約2.5m、短径約1.3m程の不整な長方形を呈し、深さは約0.4mを測る。ゴミ穴や廃棄土坑が想定されるが、出土遺物量が少なくやや疑問が残る。時期は、19世紀前葉～中葉と考えられる。

SK267 92年度調査区の南側で検出された土坑で、SK279の西側に位置している。検出段階で長径約2.9m、短径約1.1m程の不整な楕円形を呈し、深さは約0.4mを測る。ゴミ穴や廃棄土坑が想定されるが、出土遺物量が少なくやや疑問が残る。時期は、19世紀前葉～中葉と考えられる。

<註>

- 1) 豊橋市史編集委員会 『豊橋市史 本文編 第2巻 近世編』 1975
- 2) 豊橋市美術博物館学芸員増山真一郎氏の御教示による。
- 3) 註1)文献に同じ。

9. 明治期以降の遺構

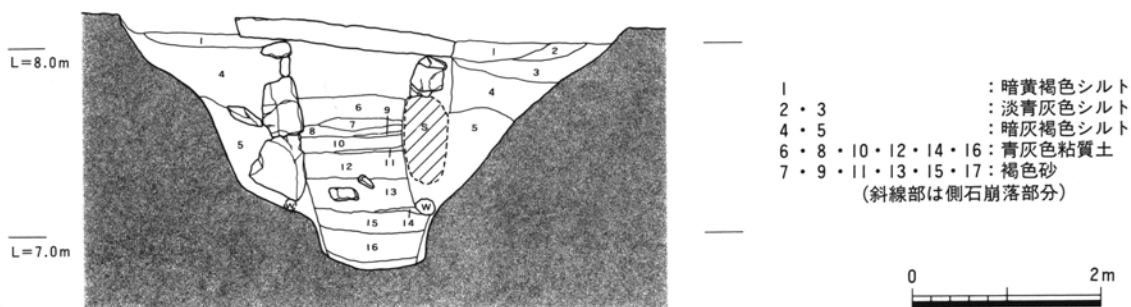
これまでに見てきた近世の遺構以外に、明治期の煉瓦建物跡・暗渠、戦時中の防空壕跡が確認されている。これまでの調査においては、攪乱として取り上げられることはなかったが、一部に気掛りな点があるため、ここで取り上げることとする。

まず、煉瓦建物跡であるが、93年度調査区の東側で検出されている。煉瓦を積んで間にセメントを詰めているようで、その基礎部分が数段確認されている。その規模は、南北に13.4m、東西に9.7～10.6mを測る。建物跡の周囲の土坑からは、布切れや煉瓦が大量に出土しており、歩兵十八連隊時代の縫製工場であった可能性が高いように思われる。

次に、暗渠について見ておきたい。暗渠とは石組等で構築された地下排水溝のことで、豊橋市教育委員会による発掘調査においても数ヶ所検出されており、歩兵十八連隊により設置されたことが確認されている。93年度調査区の北端から東に延び、調査区内で南に屈曲して調査区外へと更に延びていくようである。その規模は、東西方向(SD201)で長さ約45.9m、幅約3.1m、深さ約1.1mで、南北方向(SD202)では長さ約31.5m、幅約3.0m、深さ約1.1mを測る。また、西端から約23.5mまでは、側面の下に丸太を敷きその上に石を2段に組んで間を漆喰で埋めて水が漏れないようにし、さらにその上に花崗岩による蓋石で塞いだ石組遺構が確認されており、検出された全体に組まれていたのか、或いはここまでなのかは不明である。出土遺物としては、明治～昭和期の染付の碗・皿類やガラス瓶の他、江戸時代の時期と思われる土器・陶磁器類も出土している。

ここで気になるのが、今回の調査で検出された暗渠の方向性である。東西方向はE-9°-Sを示し、南北方向はN-10°-Eを示しており、外堀や近世の屋敷地の区画ライン等とほぼ同じ方向を示している点である。また、屈曲する部分には、SD128・SD132・SD133・SD134等の屋敷地境と思われる溝が集中しているのである。これは暗渠を掘る際に、これらの溝を再利用して掘り直しているのではないだろうか、ということが強く感じられるのであるが、それを証拠立てる資料を得ることはできなかった。これからの調査において、明らかにされることを期待したい。

最後に、第二次世界大戦中に構築された防空壕であるが、調査区全体で2ヶ所確認されている。93年度調査区では、SD133の北側で検出され、長さ約8.2m、幅約0.9mと長さ約3.2m、幅約0.8mの2つがTの字状に連結したものである。92年度調査区では、SE105の南側で検出され、残存の長さ約6.5m、幅約0.8mで、卍の字状のものである。深さはともに1.0m前後で、階段状の遺構は確認していない。同様の遺構は、豊橋市教育委員会の調査においても確認されている。(小嶋廣也)



第43図 暗渠 (SD201) 断面図 (1:40)

第2節 近世の遺物

今回の発掘調査で、調査区より出土した近世の遺物は、27ℓ入りコンテナにして約400箱余に及んだ。その大多数を占めているのは、近世陶磁器類と瓦類である。その他に、銭・煙管等の金属製品や、椀・箸等の木製品、硯・砥石等の石製品、焼塩壺、人形類等、その種類の多さに驚かされる。この膨大な遺物の中から近世陶磁器類を取り上げ、その用途・材質組成を明らかにし、さらに、他の近世の遺跡と比較・検討することによって、吉田城遺跡に居住した人々の生活を描写してみたいと思う。

1. 陶磁器類

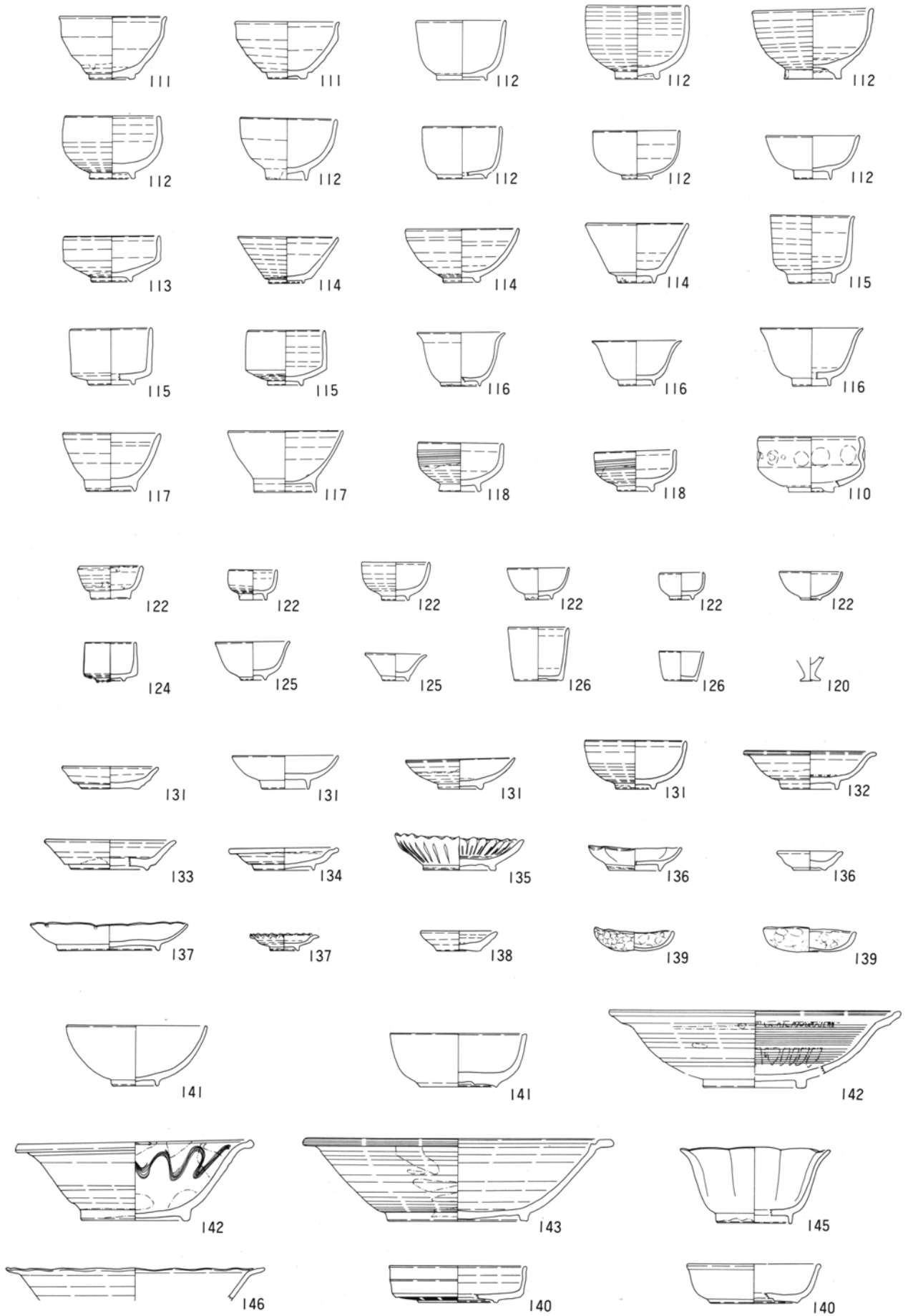
分類

『名古屋城三の丸遺跡(Ⅳ)』(1993)の分類と同様に、用途による分類を実施した。用途については、1—供膳具、2—調理具、3—貯蔵具、4—灯火具、5—火具、6—化粧具、7—神仏具、8—喫煙具、9—調度具、0—その他に分類し、さらに各々に器種・器形を組み合わせることで細分化した。一部は遺物の形態に捉われずに、使用痕の有無を重視し、例えば、皿でも口縁に油煙が付着していれば灯明皿に、火鉢でも口縁部に敲打痕があれば喫煙具に含めるといった具合に、統計処理を行っている。このため、一般に行われている形態による分類と誤差がでてくることを予め断わっておく。

それぞれの用途に基づく分類については、以下の第2表～第4表に示した分類表と第44図～第46図の分類図の通りである。

用途	機種	器形	備考	
1 供膳具	1 椀	1 天目椀	口径8.5cm以上	
		2 丸椀	天目茶椀、段付天目尾呂茶椀、御室茶椀	
		3 腰折椀		
		4 平椀	柳茶椀	
		5 筒椀		
		6 端反椀		
		7 広東椀	広東椀、小杉椀	
		8 腰錆椀		
		0 その他		
		2 小椀 小坏 猪口	1 天目椀	口径8.5cm以下
	2 丸椀			
	3 平椀			
	4 筒椀			
	5 端反椀			
	6 そば猪口			
	0 その他			
	3 皿		1 丸皿	
			2 端反皿	
			3 稜皿	
		4 折縁皿		
5 菊皿				
6 型打皿				
7 ひだ、稜花皿				
8 土師器皿A		ろくろ成形のもの		
9 土師器皿B		非ろくろ(手捏ね)成形のもの		
0 その他		玉縁皿など		
4 鉢	1 丸鉢	口径15cm以上		
	2 端反鉢	大平鉢、黄瀬戸鉢		
	3 折縁鉢	笠原鉢		
	4 平鉢			
	5 型打鉢			
	6 稜花鉢			
	7 織部	向付		
	0 その他	玉縁鉢など		
	0 その他			

第2表 近世陶磁器類分類表(1)



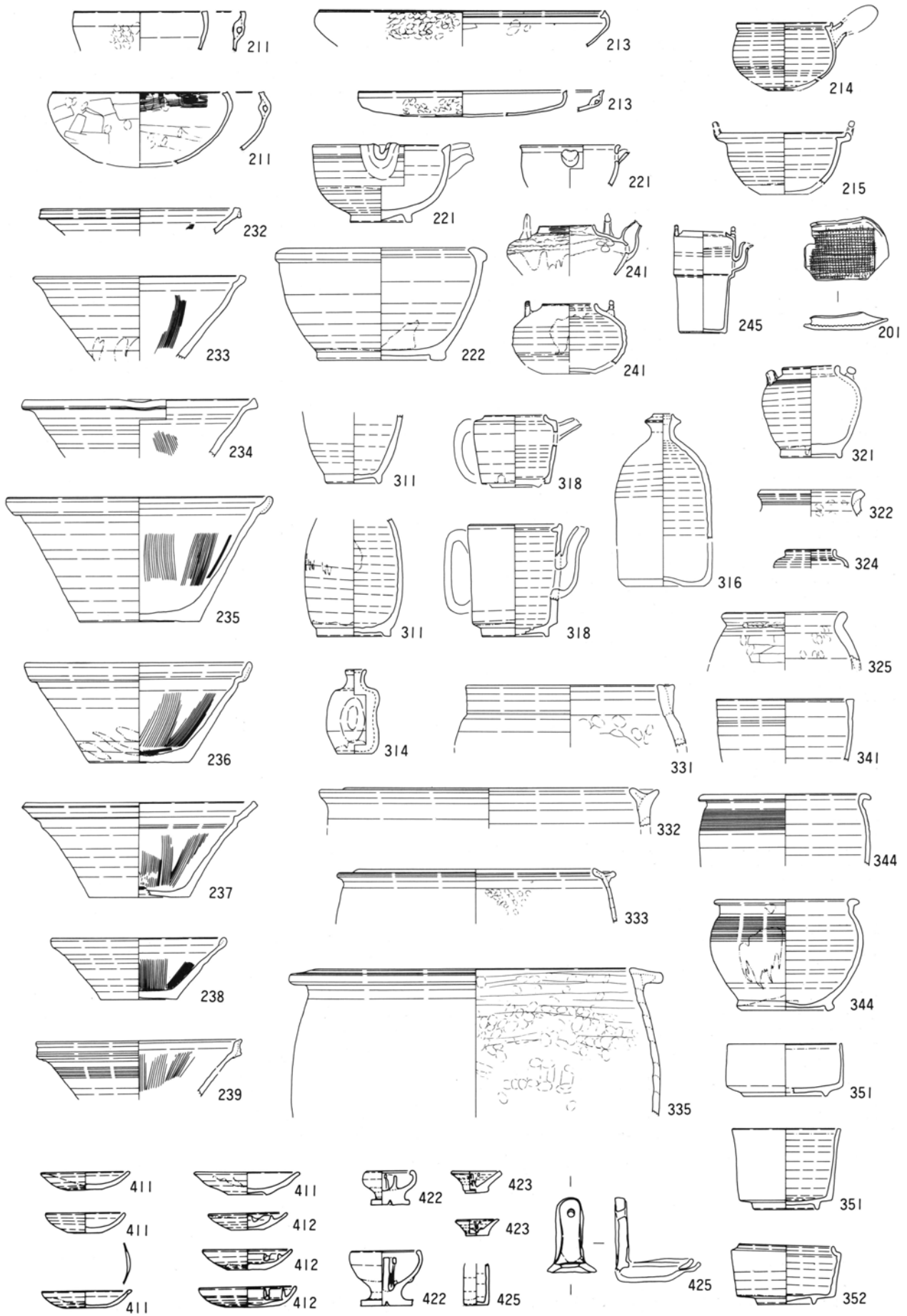
第44図 近世陶磁器類分類図(1)

用途	機種	器形	備考	
2 調理具	1 鍋, 釜	1 内耳鍋		
		2 羽釜		
		3 焙烙		
		4 行平		
		5 鍋	土鍋	
		0 その他		
	2 鉢	1 片口		
		2 捏ね鉢		
		0 その他		
	3 播鉢	1 I類	1 6 C	
		2 II類	1 6 C	
		3 III類	1 7 C	
		4 IV類	1 7 C 後葉	
		5 V類	1 8 C 前半	
		6 VI類	1 8 C 後半	
		7 VII類	1 8 C 後葉	
		8 VIII類	1 9 C	
		9 IX類	備前播鉢, 堺播鉢	
		0 その他		
	4 瓶	1 土瓶		
		2 銚子		
		3 急須		
		4 爛德利 A		
		5 爛德利 B	ちろり	
		0 その他		
	0 その他	1 卸皿		
	3 貯蔵具	1 瓶	0 その他	
1 德利 A			高台あり	
2 德利 B			平底	
3 德利 C			断面が三角形のもの	
4 德利 D			断面が四角形のもの	
5 德利 E			高田德利など	
6 油德利				
7 汁次 A			丸型	
8 汁次 B			筒型	
9 汁次 C			その他	
		0 その他	しびん等	
2 壺		1 蓋付壺		
		2 無蓋壺		
		3 茶壺		
		4 茶入		
		5 土師壺		
		0 その他		
3 甕 A				常滑産
		1 I類	N 字口縁	
		2 II類	Y 字口縁	
		3 III類	Y 字口縁	
		4 IV類	T 字口縁	
		5 V類	Γ 字口縁	
		6 VI類	その他	
		0 その他		
4 甕 B		1 半胴 A		
		2 半胴 B	口縁外反	
		3 銭甕		
		4 甕	胴丸形	
		0 その他		
5 鉢		1 蓋物 A	蓋受け無	
		2 蓋物 B	蓋受け有	
		0 その他		
0 その他				
4 灯火具	1 皿	1 灯明皿	口縁部に油煙の付着した皿すべて	
		2 灯蓋	受皿	
		3 行灯皿	盤形の皿	
		0 その他		
	2 乗燭	1 I類	受皿と灯芯たてが接合したもの	
		2 II類	脚付きのもの	
		3 III類	タンコロ	
		4 IV類	窓あきの蓋のつくもの	
		5 V類	軟質陶器系のもの	
		0 その他		
	3 瓦燈	1 瓦燈		
		0 その他		
	4 燭台			蠟燭を乗せる台
		0 その他		

第3表 近世陶磁器類分類表(2)

<分類表・分類図の見方>

分類については前述の通り、用途・機種・器形を3桁の数字で表示しており、例えば、天目茶碗は供膳具(1)・碗(1)・天目碗(1)で、111となる。



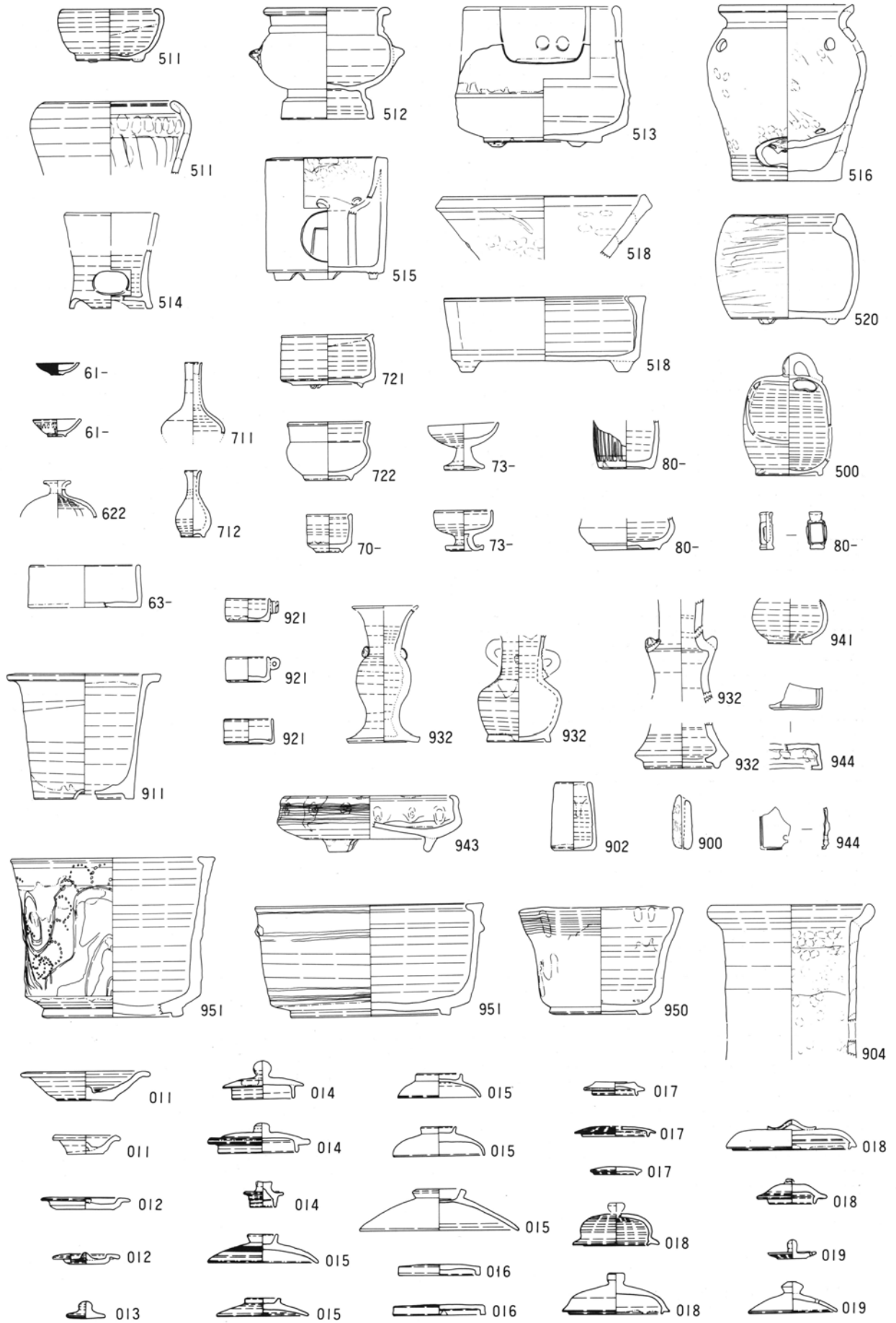
第45図 近世陶磁器類分類図(2)

用途	機種	器形	備考	
5 火具	1 鉢	1 火鉢		
		2 瓶掛		
		3 風炉		
		4 こん炉 A	内部構造が一重のもの	
		5 こん炉 B	内部構造が二重のもの	
		6 蚊いぶし		
		7 火容	窓付きのもの	
		8 火桶		
		0 その他		
		2 壺	1 火消し壺	蓋付きの火鉢
	0 その他			
	3 くど		1 くど A	口唇部が円筒状のもの
		2 くど B	口唇部がL字に外部へ屈曲するもの	
	0 その他	1 五徳	三脚の環状台	
		2 十能		
	0 その他	さな・七厘五徳・十能・煙突等		
6 化粧具	1 紅皿			
	2 壺	1 お歯黒壺	口縁部の一箇所が齧口状を呈するもの	
		2 髪油壺		
		3 転用	他器種の転用品	
		0 その他		
	3 びんだらい			
0 その他				
7 神仏具	1 瓶	1 神酒徳利 A	鶴首	
		2 神酒徳利 B	口唇部外反または玉縁状を呈するもの	
		0 その他		
	2 香炉	1 筒型		
		2 袴腰型		
		0 その他		
	3 仏飯器			蓋物 B の小型製品
		4 香合		
		5 線香筒		
		0 その他		
8 喫煙具	1 火容	1 筒型	口縁部に敲打痕のあるものすべて	
		2 香炉型	小型の火鉢状を呈するもの	
		0 その他		
	2 灰落し			
		0 その他		
9 調度具	1 植木鉢	1 植木鉢		
		2 半胴	半胴製の転用品	
		3 転用	他器種の転用品	
		4 蘭鉢		
		0 その他		
	2 餌鉢	1 餌鉢	環状の摘みのある半筒形の小椀	
		2 餌播鉢	播鉢の小型製品	
		0 その他		
	3 花生	1 筒型	体部から口縁にかけて直線的なもの	
		2 壺型	口縁が外反するもの	
	0 その他			
	4 水指	1 水指	壺型で有蓋	
		2 建水	壺型で無蓋	
		3 水盤	浅鉢状で口縁を折り返しているもの	
		4 水滴		
		5 水注		
		0 その他		
	5 水甕	1 水甕		
		2 手洗鉢	口縁が外反するもの	
		0 その他		
6 壺		1 唾壺		
		0 その他		
0 その他	1 蓋	1 柄杓		
		2 筒型		
		3 手桶		
		4 土管		
		0 その他	土錘など	
0 その他	1 蓋	1 蓋 A	落し蓋で折り返しのないもの	
		2 蓋 B	落し蓋で折り返しのあるもの	
		3 蓋 C	扁平蓋でかえりのないもの	
		4 蓋 D	扁平蓋でかえりのあるもの	
		5 蓋 E	環状の摘みが付きかえしのないもの	
		6 蓋 F	摘みがなくかえしのないもの	
		7 蓋 G	摘みがなくかえしのあるもの	
		8 蓋 H	湾曲した傘状を呈するもの	
		9 蓋 I	有孔のものすべて	
		0 その他		

第4表 近世陶磁器類分類表(3)

<「名古屋城三の丸遺跡IV」分類との違い>

土師器皿を411(灯火具・皿・灯明皿)とせず、油煙の付着していないものについては、138(供膳具・皿・土師器皿A)と139(供膳具・皿・土師器皿B)としているところが大きく異なっている。



第46図 近世陶磁器類分類図 (3)

統計方法

陶磁器類の統計には、口縁部計測法を用いた。分類に基づく用途・器種・器形別に口縁部の残存率を計測し、個体数を算出する方法をとった。計測は、残存する口縁を接合した後、12分の1単位で行い、12分の1未満を0、12分の1以上で12分の2未満を1とし、以下順次2、3、……、11、12とカウントした。この集計が、接合後口縁残存率である。個体数は、これを12で割って小数点以下第2位まで求めたもの（小数点第3位を四捨五入）である。ここで注意しなくてはならないのは、個体数が遺物組成を目的とした統計上の数値であって、個体識別に基づく数値とは異なり、実体の個体数ではない点である。この数値を利用する際には、この点に留意する必要がある。なお、比較検討のため、接合前の口縁破片点数と総破片数もあわせて集計した。

ただし、器種としての蓋については、身となる器種と一体のものであり、組成の統計処理上ダブルカウントとなるため、独立の用途0として1項をたてて集計し、用途組成図および本文中の比率は、総出土遺物から蓋を除外した数値で表している。

ここで提示した数値は、あくまでも今回の発掘調査で出土した本遺跡における全遺物組成の比率・割合であって、必ずしも一般的な近世の遺物組成を示しているわけではない。以下の個別遺構の記述に際しては、全体の概要で示した比率・割合（第47図・第5表）を本遺跡における近世遺物群のあり方の平均値とし、これに対してどのように変化しているかを中心に見ていくことにする。

なお、本節では、前述の通り遺物組成を主眼としたため、個々の遺物についての記述は極力おさえ、各実測図の下の観察表のみに限定した。また、各遺物の材質については、各実測図の通番の右側に、D：土器、T：陶器、J：磁器、N：軟質陶器、G：瓦質製品というアルファベットで表記してある。また、産地では、瀬戸・美濃の製品を瀬・美と省略してある。各遺構・遺物の時期決定に当たっては、研究の進んでいる瀬戸・美濃産の陶磁器類や肥前産の陶磁器類を手掛りとし、それぞれの年代観については各生産地で明らかになっているものに拠った。

<参考文献>

- (財) 愛知県埋蔵文化財センター 『名古屋城三の丸遺跡 (III)』 1992
 (財) 愛知県埋蔵文化財センター 『名古屋城三の丸遺跡 (IV)』 1993
 (財) 愛知県埋蔵文化財センター 『清洲城下町遺跡III・外町遺跡』 1994
 瀬戸市史編集委員会 『瀬戸市史 陶磁史編 3～5』 1967・1993
 瀬戸市歴史民俗資料館 『瀬戸市歴史民俗資料館 研究紀要 V～VIII』 1986～1989
 有田町史編纂委員会 『有田町史 古窯編』 1988
 大橋康二 『考古学ライブラリー 55 肥前陶磁』 ニュー・サイエンス社 1989
 大橋康二 『別冊太陽 63 古伊万里』 平凡社 1988
 井上喜久男 『尾張陶磁』 ニュー・サイエンス社 1992
 常滑市教育委員会 『常滑市民俗資料館 研究紀要 II～VI』 1986～1994

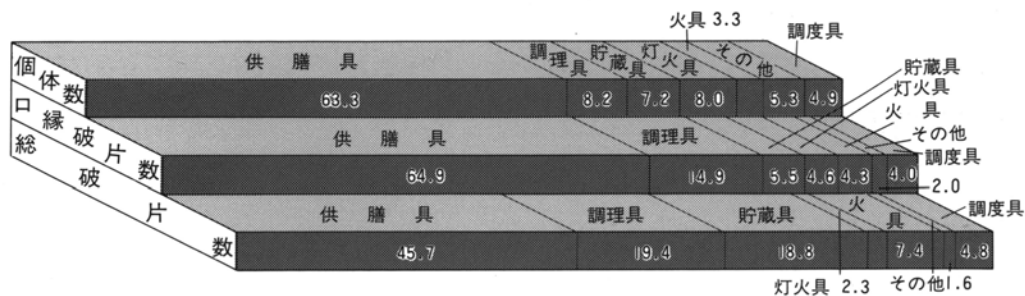
以上の文献を参考にさせていただいたほか、大橋康二・遠藤才文・中野晴久・金子健一の各氏には実地に御指導・御助言をいただいた。記して、謝意を表す次第である。

概要

今回の発掘調査で出土した土器・近世陶磁器類は、総破片数で56,271点である。総個体数で見ると1,232.83個体となり、接合前口縁破片数では16,496点になっている。名古屋城三の丸遺跡と比較してみると、数量的にはやや少量ではあるが、その概要を次のようにまとめることができる。

近世の土器・陶磁器類の最大の特徴は、その出土量の多さとその多様さをあげることができる。今回も、土器・陶磁器類を用途別で便宜的に10に分類したが、極少量しか出土していない用途の遺物もあるが、全ての用途において遺物が出土していることがわかる。用途別にみると、供膳具が63.3%と圧倒的に高い比率を占め、調理具（8.2%）・貯蔵具（7.2%）という3つの用途の遺物で全体の78.6%を占めており、日常的な生活に関連する遺物群の出土が高いように思われる。その他の灯火具・火具・化粧具・神仏具・喫煙具・調度具などの副次的な生活に関連する遺物群が、21.4%を占めている。また、名古屋城三の丸遺跡と同様に、土師器皿を灯火具として算出してみると、供膳具が44.7%と減少し、灯火具が26.5%となり、本遺跡と名古屋城三の丸遺跡においてほぼ同様の組成比率を見ることができる。各種の遺物と対応すると思われる蓋は、総破片数で1,060点、接合前口縁破片数で734点、個体数では108.58個体となっている。

また、用途内の器種組成についてみておきたい。供膳具において、椀類対皿類の比率が1.14：1と



第47図 近世出土陶磁器類の用途組成

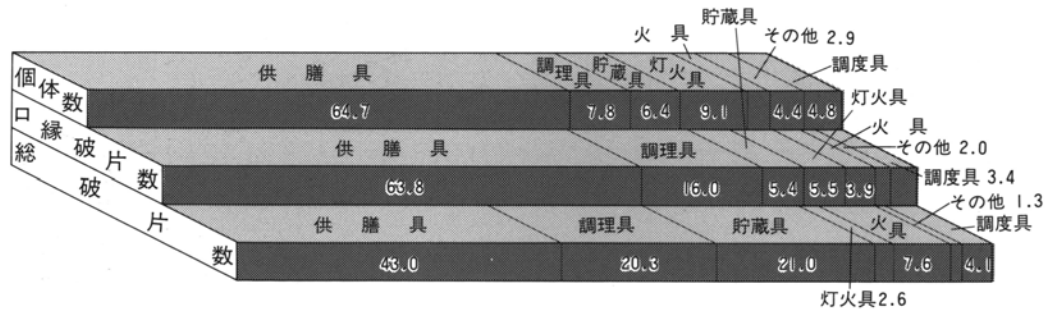
用途	器種	接合後口縁残存率				接合前口縁破片数				総破片数						
		土器	陶器	磁器	その他	計	土器	陶器	磁器	その他	計	土器	陶器	磁器	その他	計
供膳具	椀	0	1030	1530	8	2568	0	1666	2361	5	4032	0	5112	5869	20	11001
	小椀	0	284	1534	0	1818	0	298	1375	0	1673	0	620	2906	0	3526
	皿	2501	703	640	0	3844	2161	910	912	1	3984	4254	2191	2266	3	8714
	鉢	0	140	162	2	304	0	318	213	4	535	0	1210	768	11	1989
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	小計	2501	2157	3866	10	8534	2161	3192	4861	10	10224	4254	9133	11809	34	25230
調理具	鍋、釜	149	125	0	35	309	858	155	0	72	1085	5068	686	0	310	6064
	鉢	4	204	3	0	211	3	331	4	0	338	3	900	13	0	916
	播鉢	0	262	0	0	262	0	686	0	0	686	0	2296	0	0	2296
	瓶	0	181	137	0	318	0	164	60	0	224	1	1090	346	3	1440
	その他	0	5	3	0	8	0	7	2	0	9	0	14	4	1	19
	小計	153	777	143	35	1108	861	1343	66	72	2342	5072	4986	363	314	10735
貯蔵具	瓶	0	287	31	0	318	0	65	7	0	72	0	1712	197	4	1913
	壺	8	174	7	0	189	9	122	4	0	135	73	688	24	0	785
	甕A	0	152	0	0	152	0	279	0	0	279	0	5882	0	0	5882
	甕B	0	124	0	1	125	0	197	0	1	198	11	1413	1	1	1426
	鉢	0	48	135	0	183	0	49	127	0	176	0	150	194	0	344
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
小計	8	785	173	1	967	9	712	138	1	860	84	9846	416	5	10351	
灯火具		458	593	10	1073	373	330	8	12	723	644	588	13	48	1293	
火具		89	281	2	66	438	188	415	3	68	674	1306	2401	10	348	4065
化粧具		0	44	151	0	195	0	16	42	0	58	0	59	127	0	186
神仏具		0	132	343	2	477	0	92	119	3	214	0	217	332	3	552
喫煙具		0	20	17	0	37	0	32	9	0	41	0	128	42	0	170
調度具		57	562	40	3	662	14	575	33	4	626	76	2347	185	21	2629
蓋		34	747	484	38	1303	7	397	294	36	734	12	584	412	52	1060
合計		3300	6098	5229	167	14794	3613	7104	5573	206	16496	11448	30289	13709	825	56271

第5表 近世出土陶磁器類集計表

ほぼ同等の出土量を示している。名古屋城三の丸遺跡と比較するために土師器皿を引いてみると3.27：1となり、名古屋城三の丸遺跡の2.54：1よりも椀類の出土量が多くなっている。また、皿類対鉢類は、12.64：1と鉢類の出土量が極端に少ないように思われるが、土師器皿を除けば4.42：1となって名古屋城三の丸遺跡の5.19：1に近い数値を示すこととなる。さらに、調理具においても、播鉢対鍋・釜類をみると、1：1.18となっており、名古屋城三の丸遺跡における1：2.95の半数にしかならず、本遺跡における鍋・釜類の出土量の少なさを読み取ることができる。

つぎに、材質組成についてみてみると、土師質製品が24.2%に対して、陶磁器類の方は、陶器製品が39.7%、磁器製品が35.2%、その他の材質とした軟質陶器や瓦質製品が1.0%となっている。名古屋城三の丸遺跡と比較してみると、磁器製品の占める割合が約20%近く増加しており、その増加分が陶器製品の減少となって現れているものと思われる。土師質製品の76.6%は、土師皿が占めており、灯火具の土師器皿をも含めると90.6%となり、ここでも土師器皿の出土量の多さが際立っていることを読み取ることができる。

このような相違点が、本遺跡における遺物組成の1つの特徴となるが、これがこの地点のみの数値であるのか、吉田城遺跡という地域全体の数値であるのか、単なる時期的な差異に基づく数字であるのかは、各遺構の推移を見ていくことで明かとなっていくものと思われる。



第48図 近世遺構出土陶磁器類の用途組成

用途	器種	接合後口縁残存率				接合前口縁破片数				総破片数						
		土器	陶器	磁器	その他	計	土器	陶器	磁器	その他	計	土器	陶器	磁器	その他	計
供膳具	椀	0	530	692	0	1222	0	742	907	0	1649	0	2139	2139	2	4280
	小椀	0	122	719	0	841	0	98	546	0	644	0	210	1338	0	1548
	皿	1903	484	272	0	2659	1387	443	330	1	2161	2735	967	800	2	4504
	鉢	0	80	69	1	150	0	166	85	1	252	0	536	467	7	1010
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	小計	1903	1216	1752	1	4872	1387	1449	1868	2	4706	2735	3852	4744	11	11342
調理具	鍋、釜	101	63	0	8	172	478	66	0	20	564	2882	241	0	98	3221
	鉢	4	117	2	0	123	3	166	2	0	171	3	401	2	0	406
	播鉢	0	164	0	0	164	0	348	0	0	348	0	1118	0	0	1118
	瓶	0	90	39	0	129	0	72	22	0	94	0	486	102	3	591
	その他	0	1	0	0	1	0	3	0	0	3	0	3	2	0	5
	小計	105	435	41	8	589	481	655	24	20	1180	2885	2249	106	101	5341
貯蔵具	瓶	0	127	4	0	131	0	22	1	0	23	0	618	57	3	678
	壺	4	92	5	0	101	3	50	2	0	55	48	238	16	0	302
	甕A	0	118	0	0	118	0	179	0	0	179	0	3861	0	0	3861
	甕B	0	66	0	0	66	0	87	0	0	87	0	593	0	0	593
	鉢	0	20	46	0	66	0	16	41	0	57	0	38	68	0	106
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小計	4	423	55	0	482	3	354	44	0	401	48	5348	141	3	5540	
灯火具		340	330	1	12	683	235	156	1	10	402	388	277	2	30	697
火具		42	132	1	41	216	76	180	1	33	290	705	1107	4	185	2001
化粧具		0	29	53	0	82	0	10	15	0	25	0	26	47	0	73
神仏具		0	71	161	2	234	0	49	47	3	99	0	104	129	3	236
喫煙具		0	11	4	0	15	0	15	5	0	20	0	30	12	0	42
調度具		52	288	18	0	358	8	235	10	0	253	43	986	51	4	1084
蓋		33	385	210	12	640	5	156	119	17	297	6	232	159	24	421
合計		2479	3320	2296	76	8171	2195	3259	2134	85	7673	6810	14211	5395	361	26777

第6表 近世遺構出土陶磁器類集計表

SD101 本遺構の時期は、16世紀末葉～19世紀中葉である。

92年度調査区で検出された外堀であるが、出土した遺物は総破片数で5,366点、接合前口縁破片数が1,575点、個体数は155.83個体である。第1節で述べたように近世を通じて遺構が生きており、明治期になって埋められているため、全ての時期の遺物を含んでいる。

この内、供膳具が86.25個体・61.4%と過半を占めており、調理具が10.75個体・7.7%、貯蔵具が10.92個体・7.8%、灯火具が14.17個体・10.1%、火具が3.50個体・2.5%、化粧具が2.92個体・2.1%、神仏具が8.58個体・6.1%、喫煙具が0.50個体・0.4%、調度具が2.92個体・2.1%となっている。ほぼ近世の用途組成の平均値に近い値を示しているが、神仏具が約2倍と増えているのに対し、調度具がほぼ半数にまで減少している。蓋類は、総破片数で131点、接合前口縁破片数で91点、個体数では15.33個体出土している。

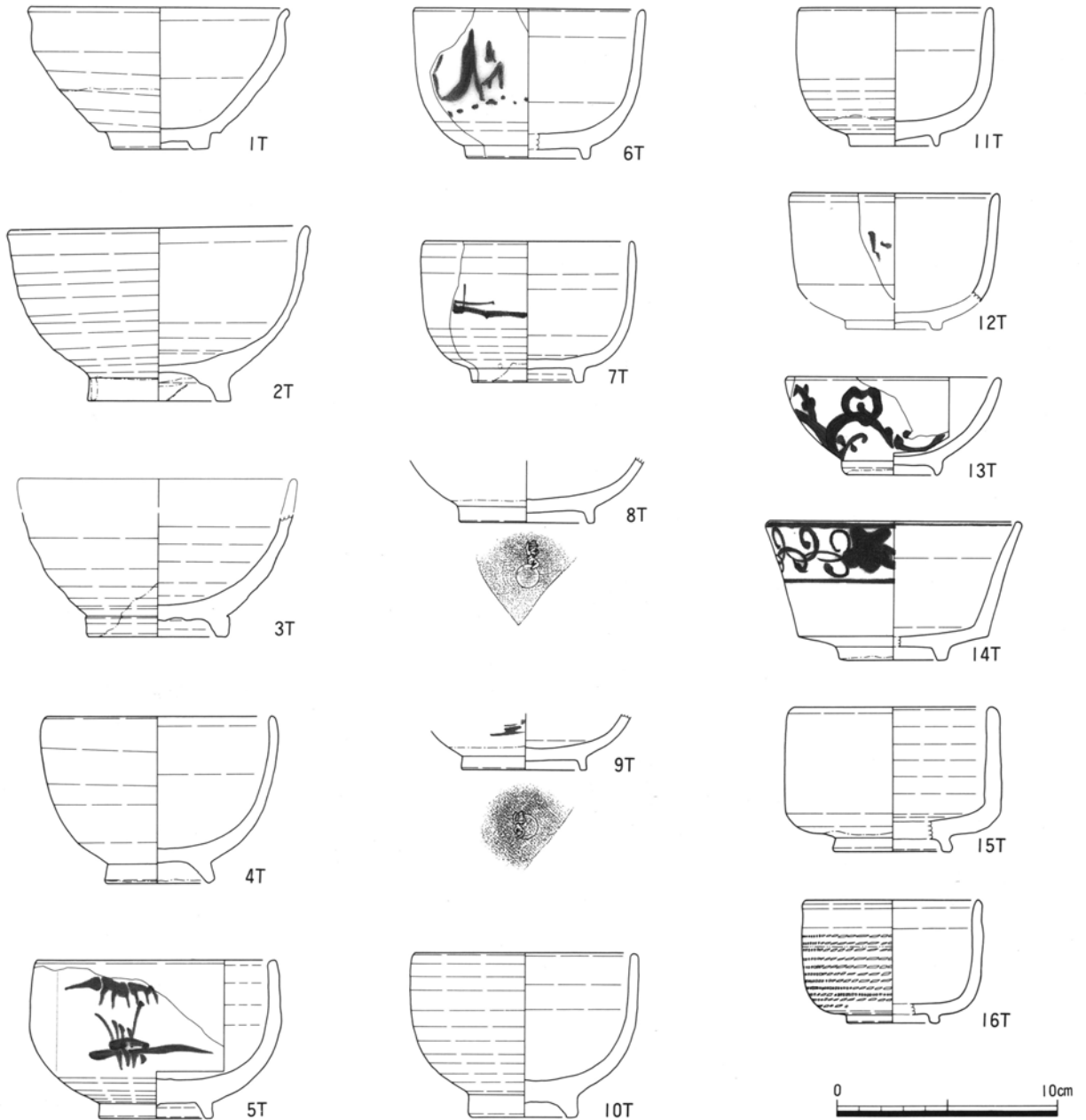
材質面においては、土師質製品が21.2%、陶磁器類においても陶器製品が38.1%と減少しているのに対して、磁器製品が40.5%と増加していることがわかる。これは、江戸後期と考えている時期の遺物が多く出土しているために、磁器製品の占める割合が高くなっているものと考えられる。その他の材質とした軟質陶器や瓦質製品は、0.2%と極少量出土しているにとどまっている。



第49図 SD101出土陶磁器類の用途組成

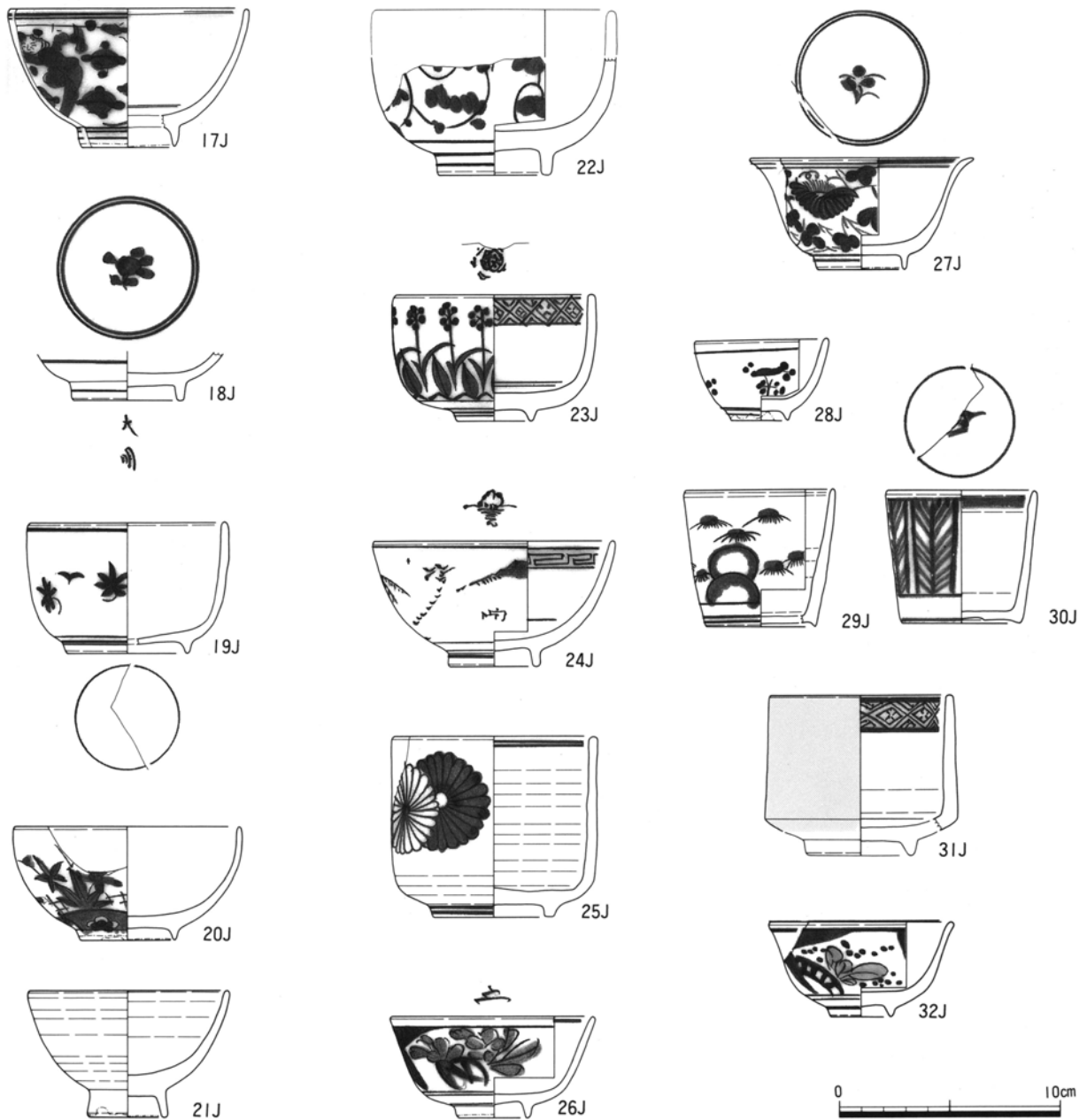
用途	器種	接合後口縁残存率				接合前口縁破片数				総破片数			
		土器	陶器	磁器	その他	土器	陶器	磁器	その他	土器	陶器	磁器	その他
供給具	碗	94	176			133	230			412	570		
	小碗	16	214			14	167			52	670		
	皿	259	124	97		159	73	97		262	154	223	
	鉢		28	27			52	20			140	334	
	その他												
	小計	259	262	514	0	159	272	514	0	945	262	1797	0
調理具	鍋、釜	10	20		1	31	56	22	2	80	184	77	15
	鉢		30			30		38			75		
	播鉢		26			26		62			161		
	瓶		32	9		41		31	8		39	181	41
	その他		1			1		2		2	2		
	小計	10	109	9	1	129	56	155	8	221	184	496	41
貯蔵具	瓶		50			50		6		6		169	24
	壺		7			7		8		8	12	38	3
	甕A		31			31		35		35		620	
	甕B		13			13		22		22		112	
	鉢		3	27		30		4	17		21	14	20
	その他					0					0		
	小計	0	104	27	0	131	0	75	17	0	92	953	47
灯火具		81	88	1		170	34	47	1		82	51	78
火具		8	31	1	2	42	25	34	1	2	62	135	127
化粧具			5	30		35		3	9		12	7	21
神仏具			6	97		103		2	26		28	9	60
喫煙具			4	2		6		7	2		9	8	8
調度具			34	1		35		32	1		33	1	144
蓋			57	126	1	184		31	58	2	91		48
合計		358	700	808	4	1870	274	658	637	6	1575	645	2628

第7表 SD101出土陶磁器類集計表



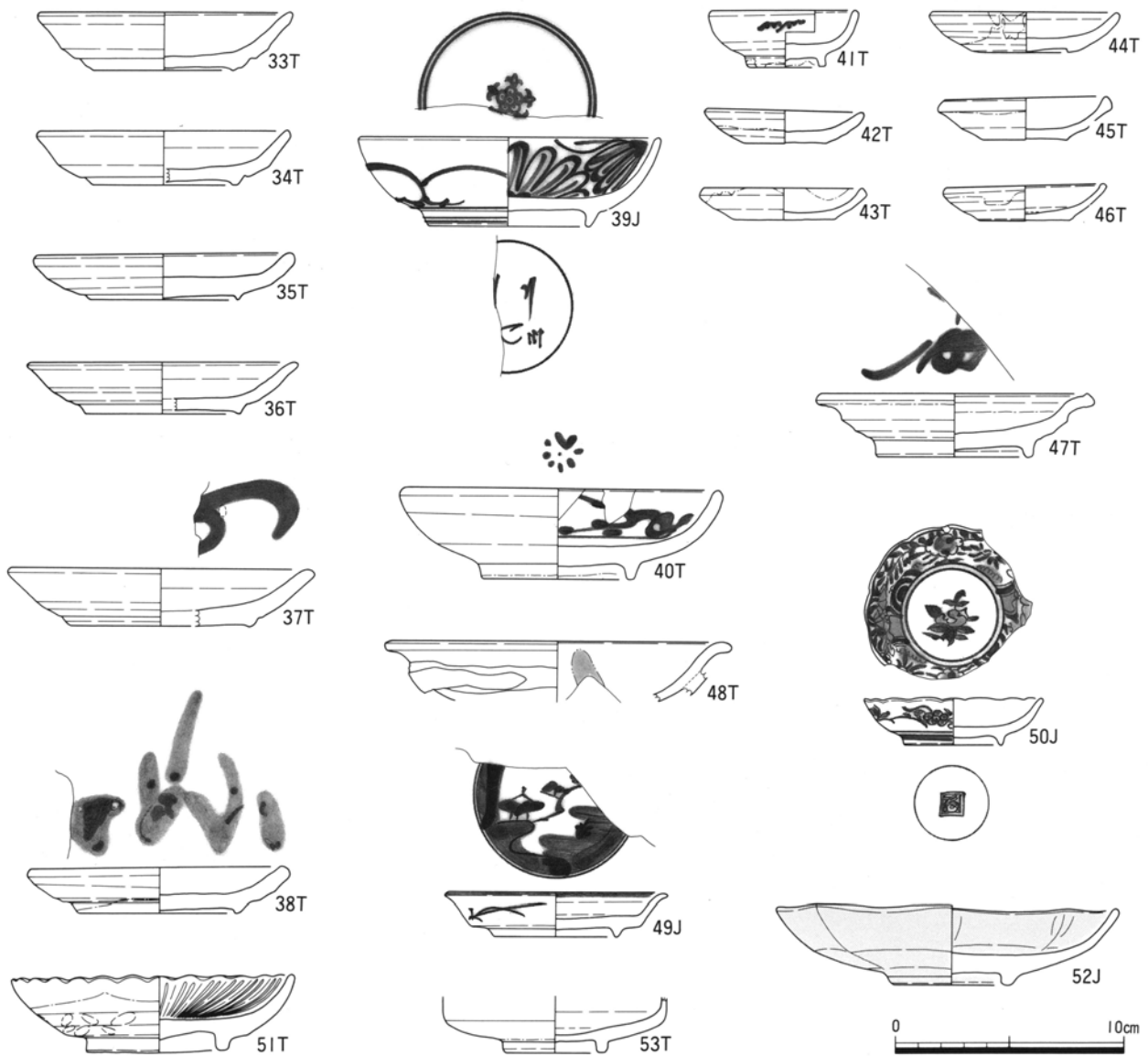
遺物 番号	調査地点		器種		法量 (cm)				釉薬・調整等		産地	備考	PL	登録 番号	
	調査区	遺構	用途	器形	器高	口径	胴径	底径	内面	外面					
1	92A	SD101	供膳具	椀	天目椀	6.3	(11.0)	—	4.2	鉄釉	鉄釉	瀬・美	17世紀中	23	E-111
2	"	"	"	"	丸椀	7.6	13.0	—	6.3	灰釉	灰釉	不明	削り出し高台, 17世紀前半	23	E-112
3	"	"	"	"	"	—	—	—	6.2	"	"	肥前系			E-113
4	"	"	"	"	"	7.3	(10.1)	—	4.5	"	"	"	高台砂融着	23	E-114
5	"	"	"	"	"	7.0	(11.6)	—	4.8	"	"	瀬・美	呉須絵・笹文, 見込み砂融着, 18世紀代	23	E-115
6	"	"	"	"	"	6.6	(10.2)	—	(5.4)	"	"	"	呉須絵・山水文, 高台にトチン痕	23	E-116
7	"	"	"	"	"	6.3	(9.2)	—	5.0	"	"	"	呉須絵・山水文, 17世紀後半~18世紀前半	23	E-117
8	"	"	"	"	"	—	—	—	(5.9)	"	"	肥前	高台内に押印「清水」, 17世紀後半		E-118
9	"	"	"	"	"	—	—	—	5.6	"	"	"	呉須絵・山水文, 高台内に「清水」, 17世紀後半		E-119
10	"	"	"	"	"	7.8	(9.8)	—	4.7	"	"	瀬・美	高台疊付部分に剝域痕		E-120
11	"	"	"	"	"	6.2	(8.5)	—	(4.0)	"	"	"			E-121
12	"	"	"	"	"	—	(9.3)	—	—	"	"	"	呉須絵		E-122
13	"	"	"	"	"	4.3	9.4	—	4.0	"	"	"	呉須絵・雪輪に梅樹文, 高台にトチン痕	23	E-123
14	"	"	"	"	平椀	6.2	(11.0)	—	(4.8)	"	"	"	鉄絵・花唐草文, 口化粧, 高台にトチン痕	25	E-124
15	"	"	"	"	筒椀	(6.4)	(8.8)	—	(5.2)	"	"	不明	灰釉白泥化		E-125
16	"	"	"	小椀	筒椀	5.5	(7.7)	—	(4.0)	鉄釉	鉄釉+灰釉	瀬・美	鍍茶椀		E-126

第50図 近世の遺物 (1) SD101① (1:3)



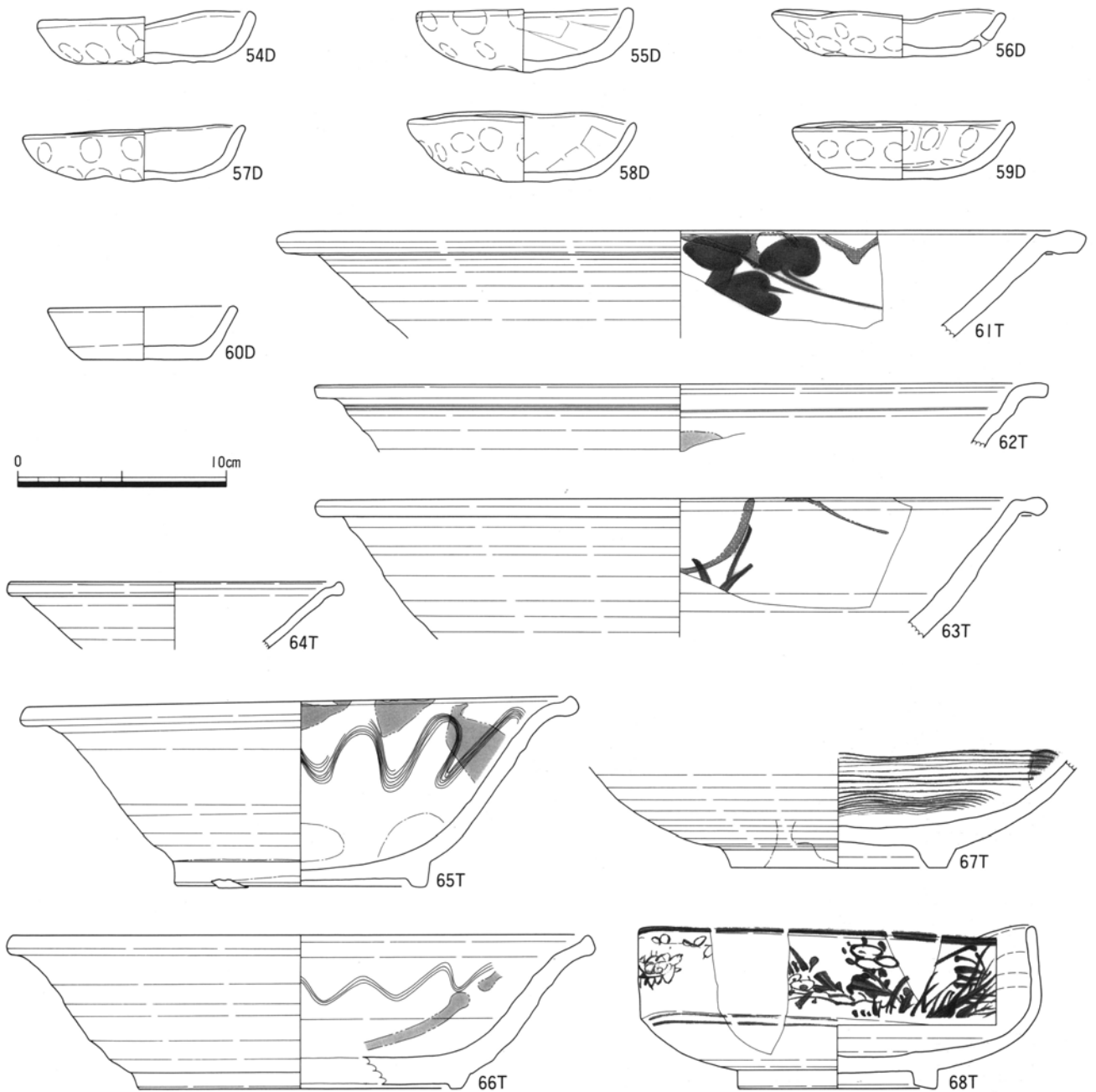
遺物 番号	調査地点 遺構	用途	器種		法量 (cm)				釉薬・調整等		産地	備考	PL	登録 番号	
			器種	器形	器高	口径	胴径	底径	内面	外面					
17	92A	SD101	供膳具	碗	丸碗	6.1	(10.5)	—	(4.1)	—	—	肥前	染付・唐人物文, 1655~1670	E-127	
18	"	"	"	"	"	—	—	—	4.8	—	—	"	染付・花卉文+「大明」, 高台に砂融着, 1650~1660	24	E-128
19	"	"	"	"	"	5.8	(8.7)	—	(5.4)	—	—	"	染付・紅葉文, 1660~1680	E-129	
20	"	"	"	"	"	5.0	(10.1)	—	(4.2)	—	—	"	染付・流水に紅葉文, 18世紀前半~中	24	E-130
21	"	"	"	"	"	5.6	(8.9)	—	3.5	—	—	"	白磁, 高台砂融着	E-131	
22	"	"	"	"	"	—	—	—	(5.0)	—	—	"	陶胎染付・唐草文, 高台盤付に砂融着・刺離痕, 18世紀代	E-132	
23	"	"	"	"	"	5.6	(8.8)	—	(3.4)	—	—	肥前系	染付・草花文+割小菱・五弁葵(手書き), 1780~1810	24	E-133
24	"	"	"	"	"	(5.5)	(10.7)	—	(4.0)	—	—	瀬・美	染付・山水文+岩に波瀾文・雷文 見込みに十字シズメ, 1820~幕末	25	E-134
25	"	"	"	"	筒碗	8.0	(9.0)	—	5.4	—	—	肥前	染付・菊花文, 高台に砂融着, 1620~1630	25	E-135
26	"	"	"	"	端反碗	4.5	9.0	—	3.1	—	—	瀬・美	色絵(赤・緑・黄緑・青)・花龍文+水辺に帆掛舟文, 幕末~明治	25	E-136
27	"	"	"	"	"	4.9	(9.6)	—	(3.8)	—	—	"	染付・花卉, 1820~幕末	25	E-137
28	"	"	"	"	小碗	丸碗	3.6	(6.0)	—	2.6	—	肥前	染付・草花文, 高台に砂融着, 17世紀後半	26	E-138
29	"	"	"	"	蕎麦猪口	6.1	6.6	—	4.8	—	—	"	染付・雪持ち笹文, 底部砂融着	26	E-139
30	"	"	"	"	"	5.9	(6.6)	—	(5.2)	—	—	瀬・美	染付・矢羽根文, 焼成不良, 19世紀中	26	E-140
31	"	"	"	"	筒碗	—	(8.0)	(8.4)	—	—	青磁釉	肥前	青磁染付・割小菱, 18世紀後半	E-141	
32	"	"	"	"	端反碗	4.2	(8.1)	—	2.7	—	—	瀬・美	色絵(赤・黄緑・青)・口化粧・八橋文, 幕末~明治	25	E-142

第51図 近世の遺物(2) SD101② (1:3)



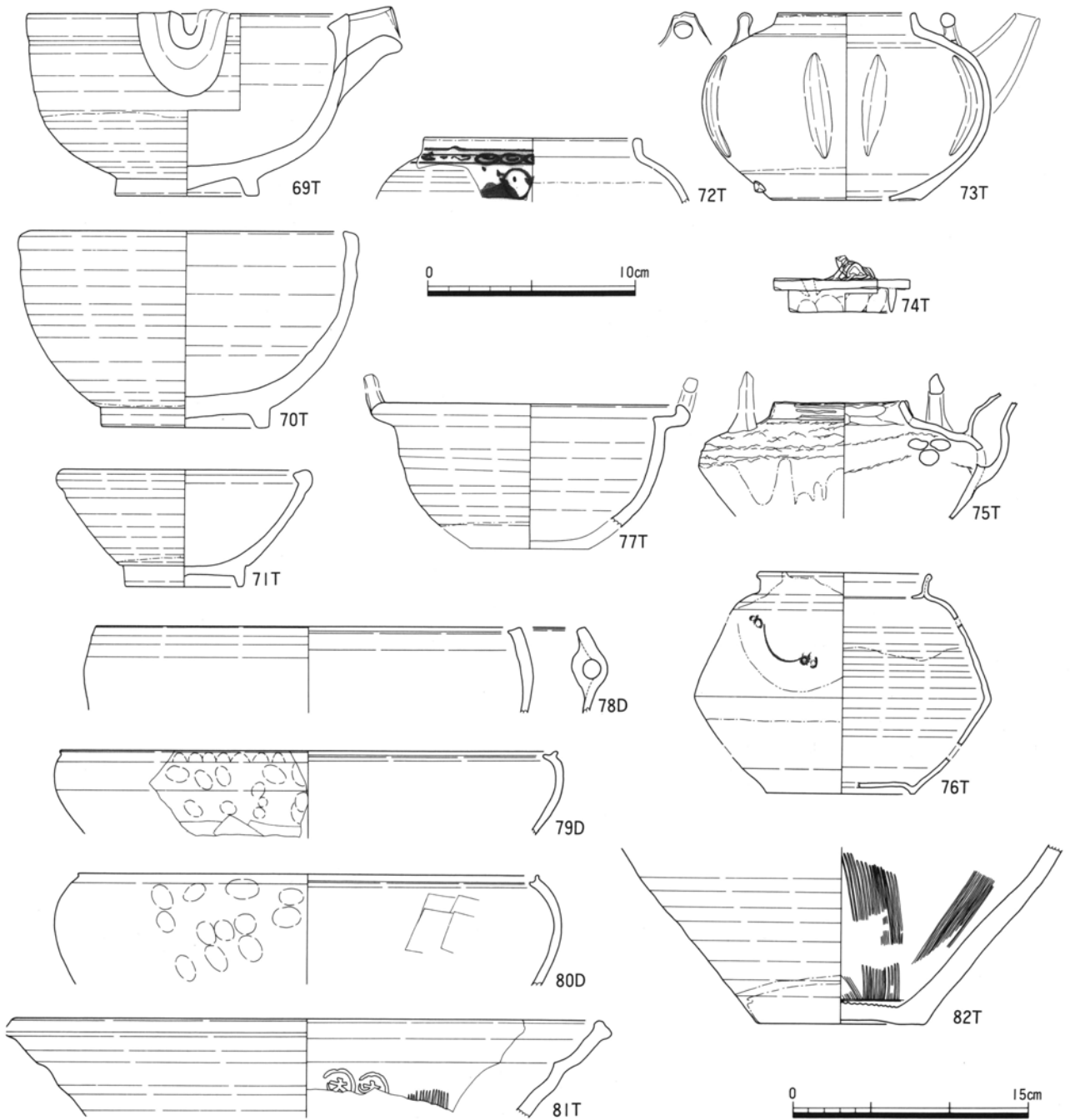
遺物 番号	調査地点		器種		法量 (cm)				釉薬・調整等		産地	備考	PL	登録 番号	
	調査区	遺構	用途	器種	器形	器高	口径	胴径	底径	内面					外面
33	92A	SD101	供膳具	皿	丸皿	2.5	(10.9)	—	(6.2)	長石釉	長石釉	瀬・美	見込み・高台内にトチン痕, 高台重ね焼きの剥離痕	27	E-143
34	"	"	"	"	"	2.3	(10.8)	—	(6.3)	"	"	"	見込み・高台内にトチン痕		E-144
35	"	"	"	"	"	2.0	11.0	—	6.5	"	"	"	見込み・高台内にトチン痕, 体部重ね焼きの剥離痕		E-145
36	"	"	"	"	"	2.2	(11.4)	—	(6.7)	"	"	"	見込み・底部トチン痕		E-146
37	"	"	"	"	"	2.5	(12.9)	—	(7.8)	"	"	"	鉄絵・笹文, 見込み・高台内にトチン痕		E-147
38	"	"	"	"	"	2.0	10.8	—	7.0	灰釉	灰釉	"	鉄絵・笹文, 見込み・高台内にトチン痕	27	E-148
39	"	"	"	"	"	3.8	12.9	—	7.0	—	—	肥前	染付・菊花文・五弁花(コンニャク印)+唐草文, 18世紀前半	28	E-149
40	"	"	"	"	"	3.9	13.5	—	(6.4)	灰釉	灰釉	瀬・美	呉須絵・梅樹文・八曜文		E-150
41	"	"	"	"	"	2.4	6.3	—	3.3	—	—	肥前	染付・笹文, 高台内砂融着, 18世紀代		E-151
42	"	"	"	"	"	1.4	6.7	—	3.6	灰釉	灰釉	瀬・美			E-152
43	"	"	"	"	"	1.4	6.9	—	4.4	"	"	"	底部回転糸切痕		E-153
44	"	"	"	"	"	1.8	8.0	—	4.5	"	"	"	碁笥底		E-154
45	"	"	"	"	"	1.8	6.9	—	3.6	"	"	"	底部回転糸切痕		E-155
46	"	"	"	"	"	1.5	6.8	—	3.9	"	"	"	底部回転糸切痕	28	E-156
47	"	"	"	"	折縁皿	(2.7)	(11.4)	—	6.6	"	"	"	鉄絵・笹文	28	E-157
48	"	"	"	"	端反皿	—	(14.6)	—	—	黄瀬戸釉	黄瀬戸釉	"	銅緑釉筆散らしか, 体部に重ね焼きの破片融着		E-158
49	"	"	"	"	"	1.9	(9.2)	—	(5.3)	—	—	肥前	染付・横間山水文・折れ松葉文, 口化粧, 18世紀後半~19世紀前半	28	E-159
50	"	"	"	"	型打皿	2.0	(7.6)	—	4.1	—	—	"	染付・仏手柑文・花唐草文+二角渦福, 18世紀代	29	E-160
51	"	"	"	"	菊皿	3.3	12.3	—	6.2	灰釉	灰釉	瀬・美	ノミで調整, 見込みにトチン痕	29	E-161
52	"	"	"	"	型打皿	3.4	14.4	—	4.9	青磁	青磁	肥前	青磁, 八角皿, 1630~1640	29	E-162
53	"	"	"	"	その他	—	—	—	6.3	灰釉	灰釉	関西	蓋物か, 18世紀代		E-163

第52図 近世の遺物(3) SD101③(1:3)



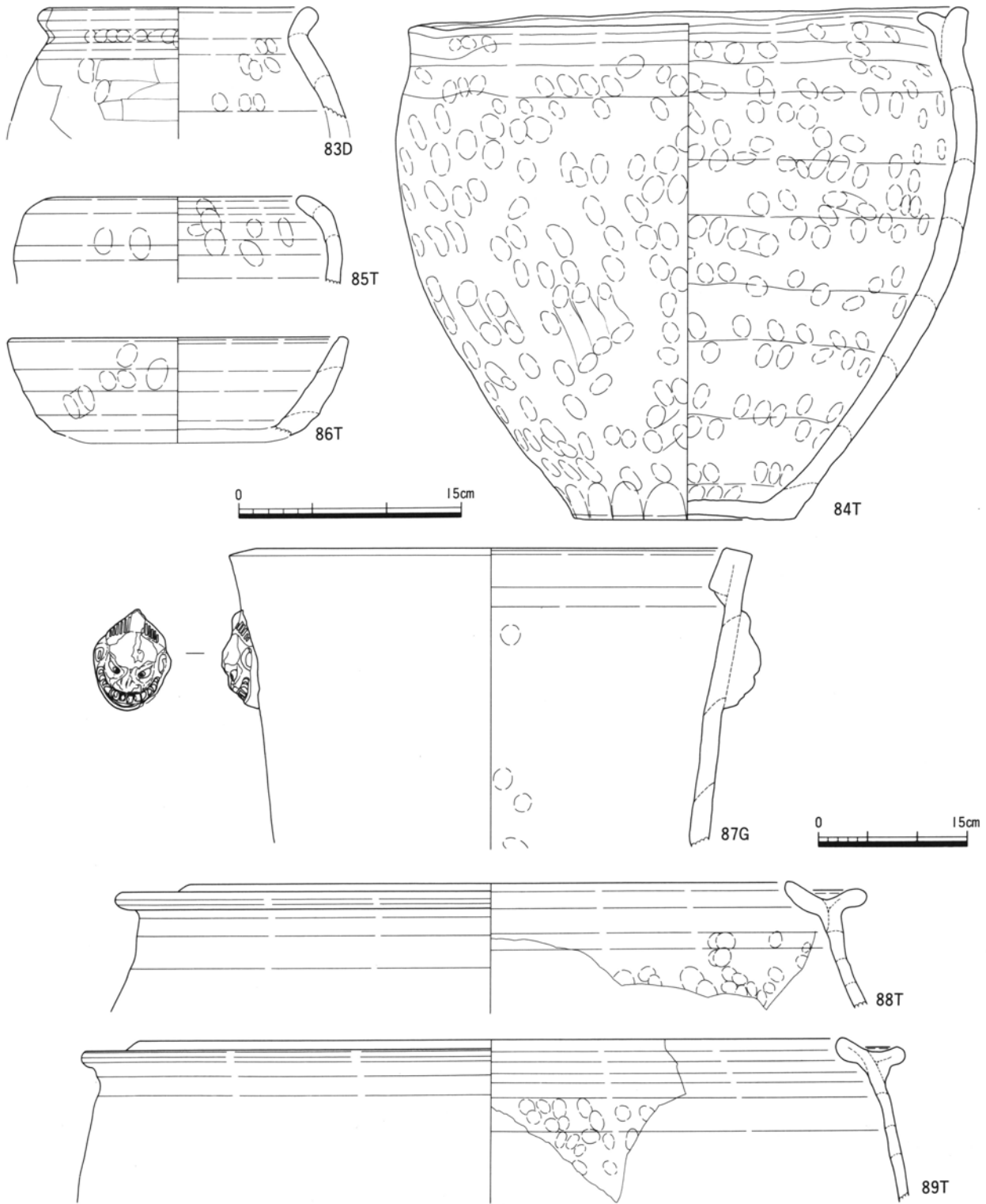
遺物 番号	調査地点		用途	器種		法量 (cm)				釉薬・調整等		産地	備考	PL 登録 番号
	調査区	遺構		器種	器形	器高	口径	胴径	底径	内面	外面			
54	92A	SD101	供膳具	皿	土師器皿B	2.5	10.0	—	—	ナデ	指押え	不明	色調：灰白色	34 E-164
55	"	"	"	"	"	3.0	10.1	—	—	"	"	"	色調：淡黄橙色	E-165
56	"	"	"	"	"	2.2	11.0	—	—	"	"	"	色調：淡黄色	E-166
57	"	"	"	"	"	2.1	10.5	—	—	"	"	"	色調：淡黄橙色	34 E-167
58	"	"	"	"	"	3.2	10.6	—	—	ケズリ+ナデ	"	"	色調：にぶい橙色	E-168
59	"	"	"	"	"	2.7	10.5	—	—	指押え	指押え+ナデ	"	"	E-169
60	"	"	"	"	土師器皿A	3.0	8.9	—	6.0	ナデ	ナデ	"	底部回転糸切痕, 色調：橙色	E-170
61	"	"	"	鉢	折縁鉢	—	(36.6)	—	—	灰釉	灰釉	瀬・美	鉄絵・蕨文, 緑釉筆散らし	E-171
62	"	"	"	"	端反鉢	—	(34.0)	—	—	"	"	"	銅緑釉筆散らし	E-172
63	"	"	"	"	折縁鉢	—	(34.0)	—	—	"	"	"	鉄絵・黍文か, 銅緑釉筆散らし	E-173
64	"	"	"	"	"	—	(15.7)	—	—	"	"	"	"	E-174
65	"	"	"	"	"	8.7	25.8	—	11.8	黄瀬戸釉	黄瀬戸釉	"	黄瀬戸鉢, 銅緑釉筆散らし, 見込み釉刺ぎ, 見込みトチン痕	30 E-175
66	"	"	"	"	端反鉢	7.2	(27.2)	—	(15.2)	"	"	"	銅緑釉散らし, 櫛引き, 見込み・高台にトチン痕	E-176
67	"	"	"	"	その他	—	—	—	10.2	白泥+透明釉	ケズリ+ナデ	肥前	二彩唐津, 見込み・高台部分胎土目痕, 17世紀中~末	30 E-177
68	"	"	"	"	"	7.5	18.4	—	9.3	灰釉	灰釉	関西系	鉄絵・草花文か, 見込み刺ぎ, 体部外面トチン痕, 18世紀代	30 E-178

第53図 近世の遺物 (4) SD101④ (1:3)



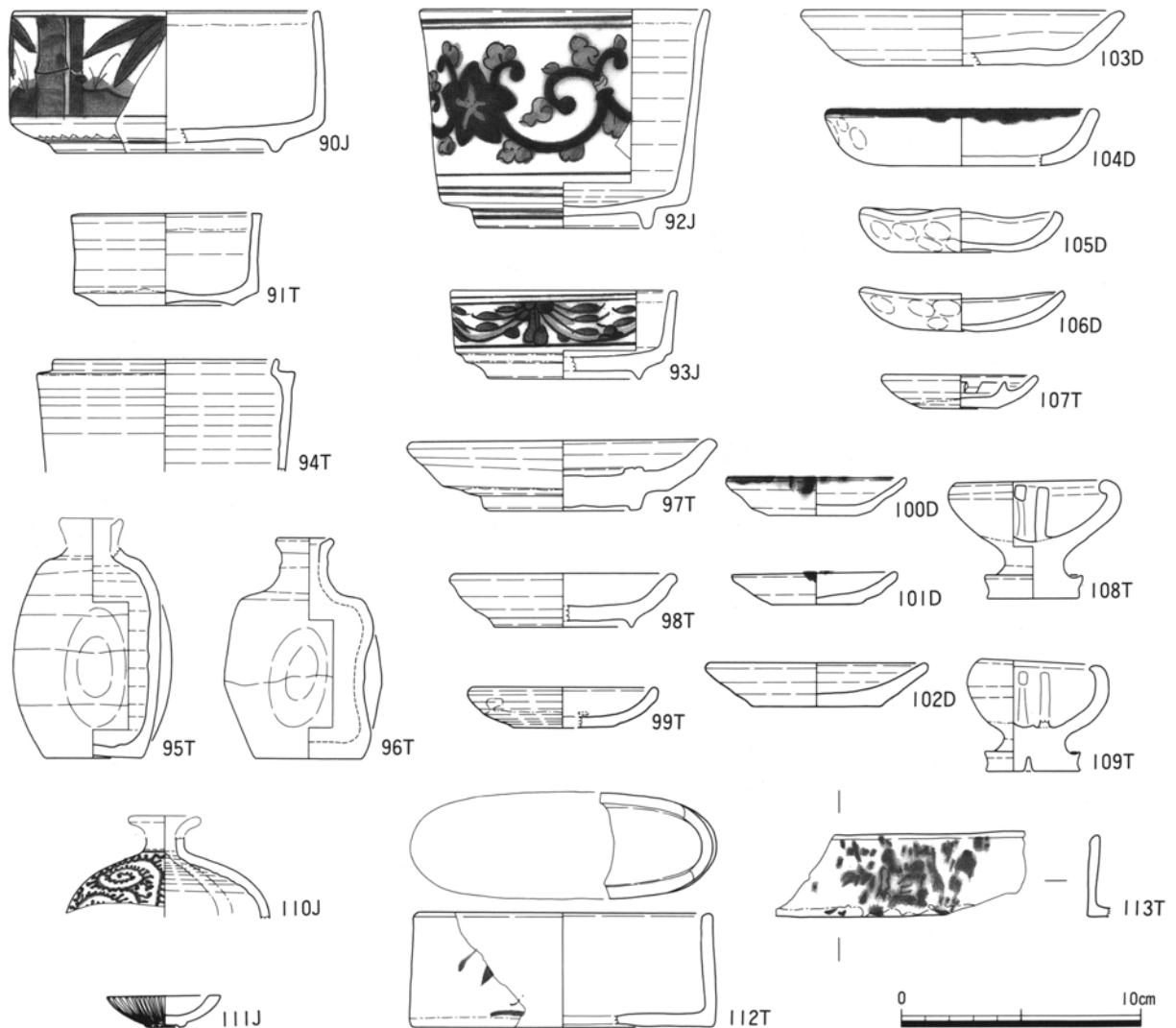
遺物 番号	調査地点		器種		法量 (cm)				釉薬・調整等		産地	備考	PL	登録 番号	
	調査区	遺構	用途	器種	器形	器高	口径	胴径	底径	内面					外面
69	92A	SD101	調理具	鉢	片口	8.8	(15.3)	—	(6.7)	灰釉	灰釉	瀬・美	見込みにトチン痕	31	E-179
70	"	"	"	"	"	9.3	(14.8)	—	7.9	鉄釉	鉄釉	"	見込みにトチン痕		E-180
71	"	"	"	"	捏ね鉢	5.5	(11.5)	—	5.5	灰釉	灰釉	"		31	E-181
72	"	"	"	瓶	土瓶	—	(10.2)	—	—	透明釉	白泥+透明釉	関西系	呉須絵・人物文か, 19世紀代		E-182
73	"	"	"	"	"	8.8	(6.2)	(13.6)	(7.0)	緑釉	緑釉	"	外面下部煤付着	31	E-183
74	"	"	その他	蓋	蓋 I	—	6.4	—	—	指押え+ナデ	灰釉	不明	焼き締め, つまみ貼り付け, 備前か	31	E-184
75	"	"	調理具	瓶	土瓶	—	5.8	14.5	—	"	"	"	焼き締め, 備前か	31	E-185
76	"	"	"	"	急須	—	(8.1)	(13.9)	(7.0)	透明釉	透明釉	関西系	白泥+鉄絵+呉須絵		E-186
77	"	"	"	鍋・釜	鍋	—	14.1	—	—	鉄釉	鉄釉	瀬・美	外面下部煤付着	31	E-187
78	"	"	"	"	内耳鍋	—	(27.0)	(29.6)	—	ヨコナデ	ナデ	不明	色調: 黄灰色, 外面煤付着		E-188
79	"	"	"	"	焙烙	—	(31.4)	—	—	ナデ	指押え+ナデ	"	色調: にぶい橙色, 外面煤付着		E-189
80	"	"	"	"	"	—	(29.2)	—	—	"	"	"	色調: 明赤褐色, 外面煤付着		E-190
81	"	"	"	搥鉢	VIII類	—	(37.2)	—	—	鉄釉	鉄釉	瀬・美	押印「大」		E-191
82	"	"	"	"	その他	—	—	—	10.8	錆釉	錆釉	"	櫛目数16本, 1cmに4本, 使用による摩滅痕		E-192

第54図 近世遺物 (5) SD101⑤ (78~82は1:4, 他は1:3)



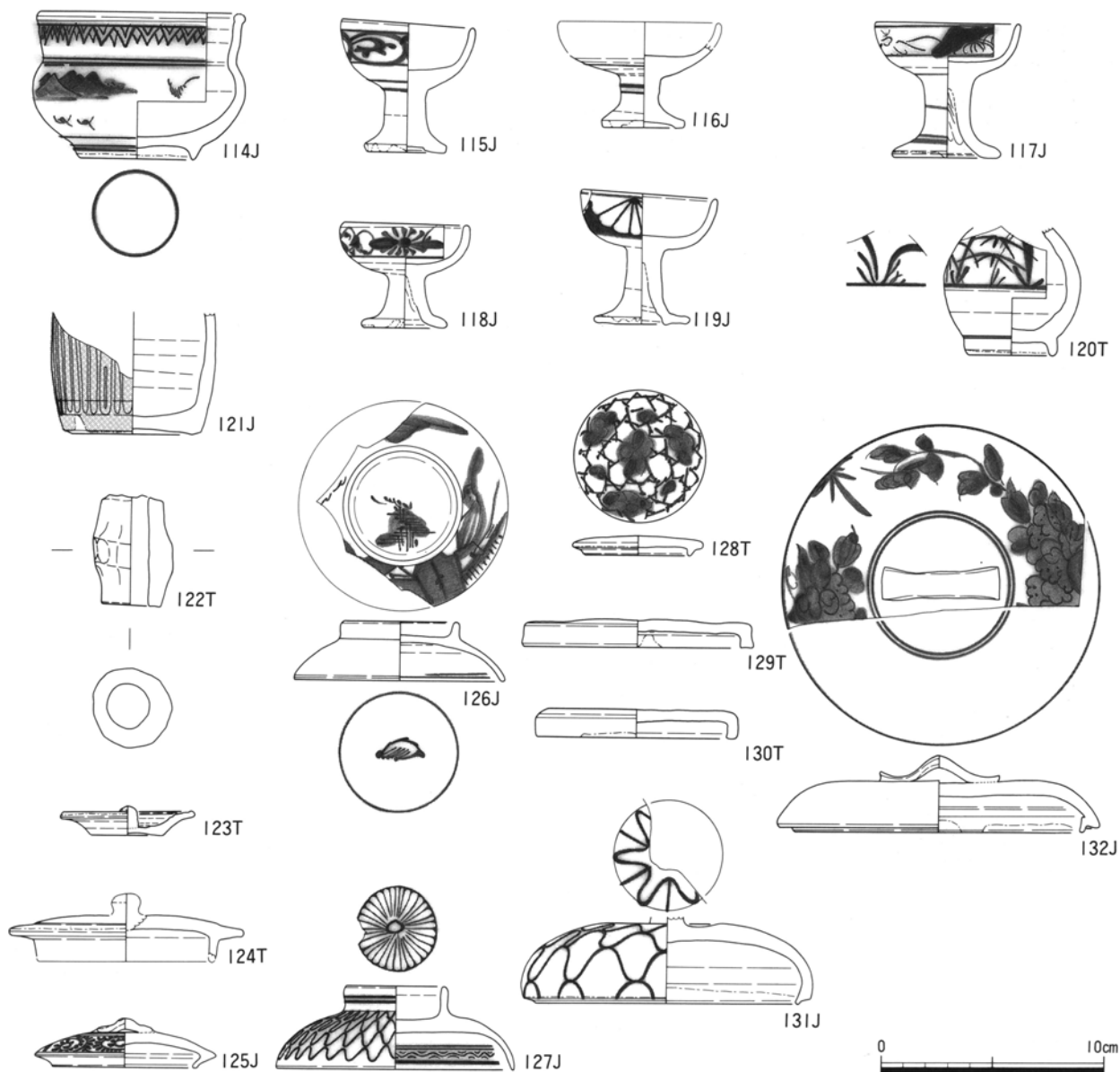
遺物 番号	調査地点		器種		法量 (cm)				釉薬・調整等		産地	備考	PL	登録 番号	
	調査区	遺構	用途	器種	器形	器高	口径	胴径	底径	内面					外面
83	92A	SD101	貯蔵具	壺	土師壺	—	(17.4)	—	—	指押え+ナデ	指押え+ナデ	不明	色調：にふい橙色		E-193
84	"	"	"	甕 A	II類	33.5	36.6	38.9	14.7	"	"	常滑	焼き締め	32	E-194
85	"	"	火具	鉢	火鉢	—	(16.4)	—	—	"	"	"	色調：赤褐色, 焼き締め		E-195
86	"	"	"	"	火桶	—	(22.4)	—	—	ナデ	"	"	色調：淡黄橙色, 赤物		E-196
87	"	"	"	"	その他	—	(31.4)	—	—	—	—	不明	色調：にふい橙色, 貼り付け, 内外面に煤付着	33	E-197
88	"	"	貯蔵具	甕 A	III類	—	(60.0)	—	—	指押え+ナデ	ナデ	常滑	赤物		E-198
89	"	"	"	"	"	—	(70.4)	—	—	"	"	"	赤物		E-199

第55図 近世の遺物 (6) SD101⑥ (88・89は1:6, 他は1:4)



遺物 番号	調査地点		器種		法量 (cm)				釉薬・調整等		産地	備考	PL	登録 番号	
	調査区	遺構	用途	器種	器形	器高	口径	胴径	底径	内面					外面
90	92A	SD101	貯蔵具	鉢	蓋物 A	5.8	(12.5)	—	(9.0)	—	—	肥前	染付・笹竹文, 18世紀中～末	32	E-200
91	〃	〃	〃	〃	〃	4.8	(7.4)	—	(5.6)	灰釉	灰釉	瀬・美			E-201
92	〃	〃	〃	〃	〃	9.0	(11.6)	—	(7.0)	—	—	肥前	染付・花唐草文, 口縁部軸刺ぎ, 高台砂融着, 1690-18世紀前半	32	E-202
93	〃	〃	〃	〃	〃	3.6	(9.2)	—	(6.3)	—	—	〃	染付・草花文, 18世紀代		E-203
94	〃	〃	〃	〃	蓋物 B	—	(9.2)	—	—	ケズリ+ナデ	灰釉	瀬・美	肩径 (10.6) cm		E-204
95	〃	〃	〃	瓶	德利 D	—	—	6.7	4.2	ナデ	鉄釉	〃			E-205
96	〃	〃	〃	〃	〃	9.0	2.2	6.5	4.5	鉄釉	〃	〃	底部に重ね焼きの剥離痕	32	E-206
97	〃	〃	灯火具	皿	灯明皿	2.8	12.3	—	6.5	灰釉	灰釉	〃	見込み蛇ノ目軸刺ぎ, 見込みに重ね焼きの剥離痕	33	E-207
98	〃	〃	〃	〃	〃	2.2	(9.2)	—	(5.8)	〃	〃	〃	口縁油煙付着, 高台内に重ね焼きの剥離痕 (径約3.8cm)		E-208
99	〃	〃	〃	〃	〃	1.6	(7.6)	—	(4.1)	鉄釉	鉄釉	〃	見込みにトチン痕		E-209
100	〃	〃	〃	〃	〃	1.5	(7.3)	—	3.6	ナデ	ナデ	不明	色調: 橙色, 口縁部油煙付着		E-210
101	〃	〃	〃	〃	〃	1.3	6.8	—	3.8	〃	〃	〃	口縁油煙付着, 底部回転糸切痕, 色調: 橙色	33	E-211
102	〃	〃	〃	〃	〃	1.8	(9.0)	—	(5.4)	〃	指押え	〃	口縁油煙付着, 底部回転糸切痕, 色調にふい橙色		E-212
103	〃	〃	〃	〃	〃	2.2	(13.1)	—	(8.0)	〃	ナデ+ケズリ	〃	色調: 橙色, 内外面油煙付着, ロクロ成形		E-213
104	〃	〃	〃	〃	〃	(2.3)	(11.0)	—	—	〃	指押え	〃	口縁油煙付着, 色調: 淡黄褐色		E-214
105	〃	〃	〃	〃	〃	1.7	7.8	—	—	〃	指押え+ナデ	〃	色調: 明黄褐色, 内外面油煙付着, 非ロクロ成形		E-215
106	〃	〃	〃	〃	〃	1.8	8.3	—	—	〃	〃	〃	色調: 橙色, 内外面油煙付着, 非ロクロ成形		E-216
107	〃	〃	〃	〃	灯蓋	1.4	6.3	—	3.0	鉄釉	鉄釉	瀬・美	内径約3.6cm, 柿軸か, 外面底部軸抜き取り		E-217
108	〃	〃	〃	乗燭	皿類	4.8	6.4	—	3.8	〃	〃	〃	底部回転糸切痕		E-218
109	〃	〃	〃	〃	〃	4.6	4.5	—	3.8	〃	〃	〃	底部回転糸切痕, 底部に穿孔 (径約4mm)		E-219
110	〃	〃	貯蔵具	瓶	その他	—	—	(8.4)	—	—	—	肥前	染付・蛸唐草文, 18世紀末～19世紀前半	32	E-220
111	〃	〃	化粧具	紅皿	—	1.3	4.6	—	1.3	—	—	肥前系	白磁, 型押し成形, 18世紀代		E-221
112	〃	〃	〃	鬘皿	—	4.7	—	—	—	灰釉	灰釉	瀬・美	鉄絵 (摺絵)・草花文, 長径 (12.1) cm, 短径 (4.2) cm		E-222
113	〃	〃	〃	〃	—	3.4	—	—	—	〃	〃	〃	鉄絵 (摺絵)・草花文	34	E-223

第56図 近世の遺物 (7) SD101⑦ (1:3)



遺物 番号	調査地点		器種		法量 (cm)				釉薬・調整等		産地	備考	PL	登録 番号	
	調査区	遺構	用途	器種	器形	器高	口径	胴径	底径	内面					外面
114	92A	SD101	神仏具	香炉	袴腰型	6.4	8.7	9.4	5.1	—	—	肥前	染付・幾何文・山水文、火入れか、17世紀後半～18世紀前半	34	E-224
115	〃	〃	〃	仏飯器	—	5.8	5.8	—	3.4	—	—	〃	染付・蜻蛉草文、高台に砂融着、18世紀後半～19世紀初	34	E-225
116	〃	〃	〃	〃	—	—	—	—	3.6	—	—	〃	染付・雨降文、18世紀前半	—	E-226
117	〃	〃	〃	〃	—	5.9	6.3	—	(4.5)	—	—	瀬・美	色絵(赤・茶)、幕末～明治	34	E-227
118	〃	〃	〃	〃	—	4.7	5.6	—	(3.6)	—	—	〃	染付・花唐草文、1820～幕末	34	E-228
119	〃	〃	〃	〃	—	5.7	(5.9)	—	4.0	—	—	〃	染付・菊花散し文、1820～幕末	—	E-229
120	〃	〃	〃	瓶	神酒徳利 A	—	—	6.0	3.8	ナデ	灰釉	〃	呉須絵・笹竹文か	34	E-230
121	〃	〃	喫煙具	灰落し	—	—	—	—	(5.2)	—	青磁釉	肥前	青磁、底部に砂融着、18世紀代	34	E-231
122	〃	〃	調度具	その他	その他	4.7	1.8	3.4	—	—	指押え+ナデ	不明	焼き締め、色調：橙色、常滑か	35	E-232
123	〃	〃	〃	その他	蓋 A	1.3	3.2	—	—	灰釉	ナデ	常滑	肩径5.7cm・つまみ径8mm	35	E-233
124	〃	〃	〃	〃	蓋 D	—	(7.7)	—	—	ナデ	灰釉	瀬・美	肩径(10.3cm)	—	E-234
125	〃	〃	〃	〃	〃	2.2	(6.4)	—	—	—	—	肥前	染付・蜻蛉草文、肩径(8.0)cm、18世紀末～19世紀初	—	E-235
126	〃	〃	〃	〃	蓋 E	2.6	(9.1)	—	—	—	—	肥前系	染付・樓閣山水文、つまみ径4.9cm、1780～19世紀前半	36	E-236
127	〃	〃	〃	〃	〃	(3.6)	(10.4)	—	—	—	—	瀬・美	染付・重網目文・菊花文、つまみ径推定4.3cm、1820～幕末	—	E-237
128	〃	〃	〃	〃	蓋 G	0.9	4.6	—	—	—	—	肥前	染付・氷裂梅花文、肩径5.6cm、18世紀末～幕末	36	E-238
129	〃	〃	〃	〃	蓋 F	1.2	(10.1)	—	—	灰釉	灰釉	瀬・美	肩径(9.8)cm	36	E-239
130	〃	〃	〃	〃	〃	1.3	(8.9)	—	—	ナデ	〃	〃	肩径約9.0cm	—	E-240
131	〃	〃	〃	〃	蓋 H	—	(11.4)	—	—	—	—	肥前	染付・一重網目文、19世紀前半～幕末	36	E-241
132	〃	〃	〃	〃	〃	3.3	(12.8)	—	—	—	—	〃	染付・牡丹文、肩径(14.3cm)、18世紀中～末	—	E-242

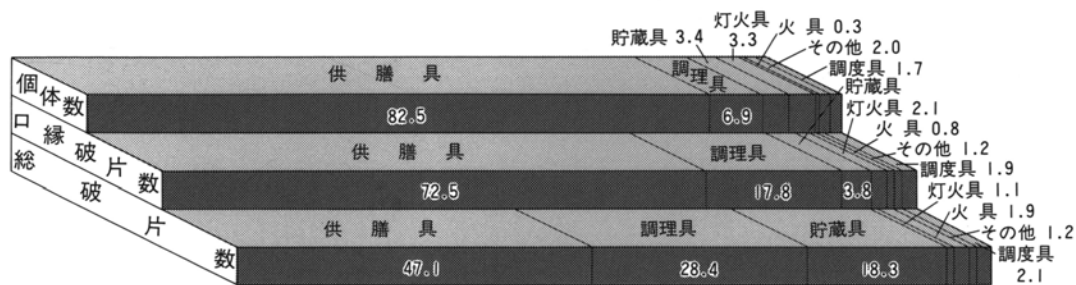
第57図 近世の遺物 (8) SD101⑧ (1:3)

SD129 本遺構の時期は、18世紀前葉～中葉である。

93年度調査区の東側で検出された溝で、屋敷地境を示す溝であると思われる。出土した遺物は総破片数で3,143点、接合前口縁破片数が1,071点、個体数は109.25個体である。第1節でも述べたように近世前期に属する遺構であり、廃棄土坑に近い性格を持つ遺構と考えられる。

この内、供膳具が87.67個体・82.5%とその大半を占め、調理具が7.33個体・6.9%、貯蔵具が3.58個体・3.4%、灯火具が3.50個体・3.3%、火具が0.33個体・0.3%、化粧具・神仏具ともに1.00個体・1.0%、喫煙具が0.08個体・0.1%、調度具が1.83個体・1.7%となっている。供膳具・調理具・貯蔵具という日常的な生活に関連する遺物群で92.7%と出土遺物のほとんどが占められ、その他の副次的な生活に関連する遺物群の出土量が極端に減少しているのが特徴としてあげることができる。供膳具において、椀類：皿類＝1：2.82とその比率が逆転しているように、土師器皿の出土量が多いことが影響しているものと思われる。また、蓋類は、総破片数で26点、接合前口縁破片数で18点、個体数では2.92個体とやはりその出土量が極めて少ない。

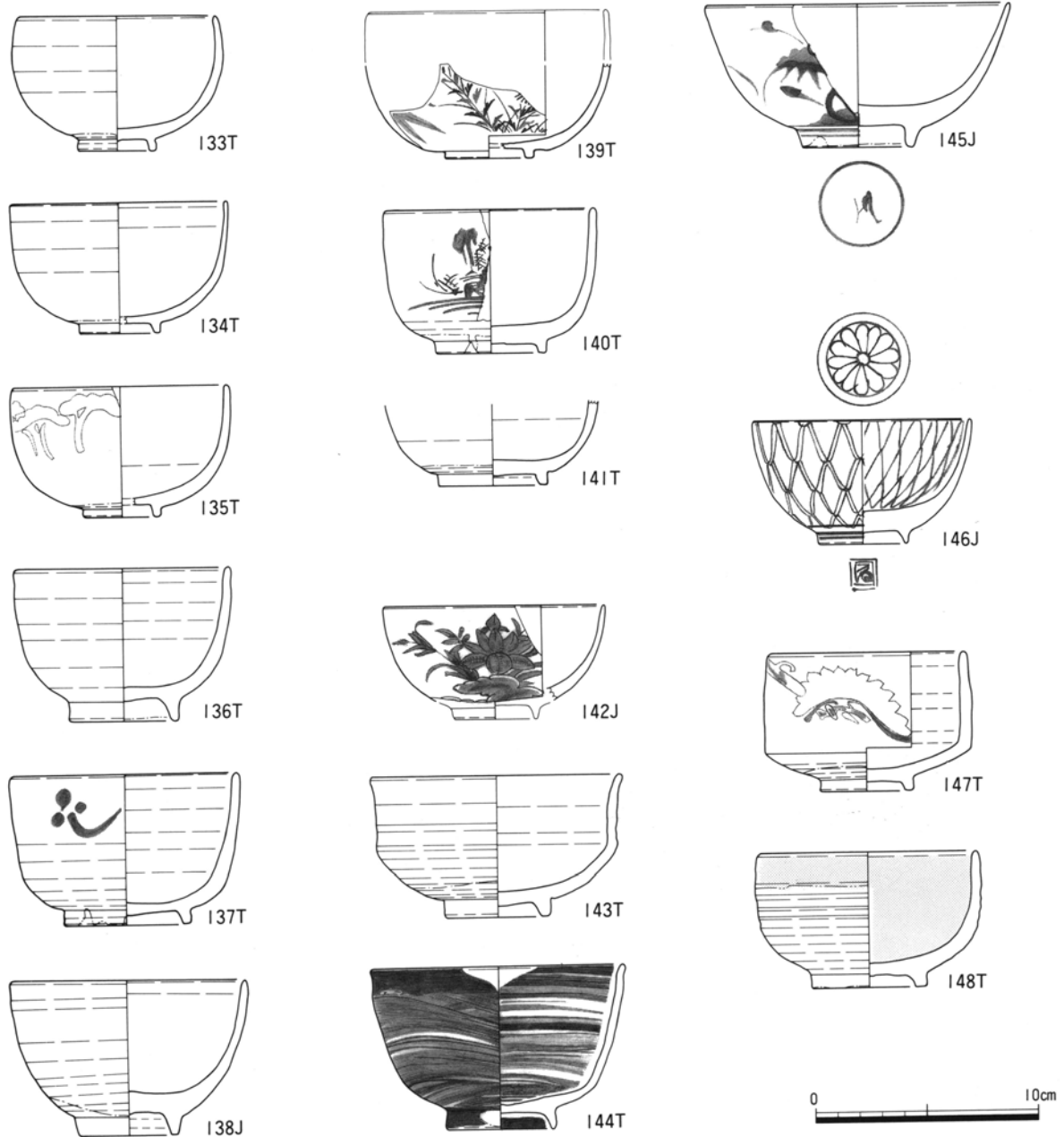
材質面においても、土師質製品が56.5%と異常に高い割合を占めている。土師質製品の内、91.0%を土師器皿が占めており、灯火具のものも含めると、全出土遺物の53.6%にもなっている。これに対して、陶磁器類では陶器製品が24.5%、磁器製品が19.0%と極端に減少していることがわかる。



第58図 SD129出土陶磁器類の用途組成

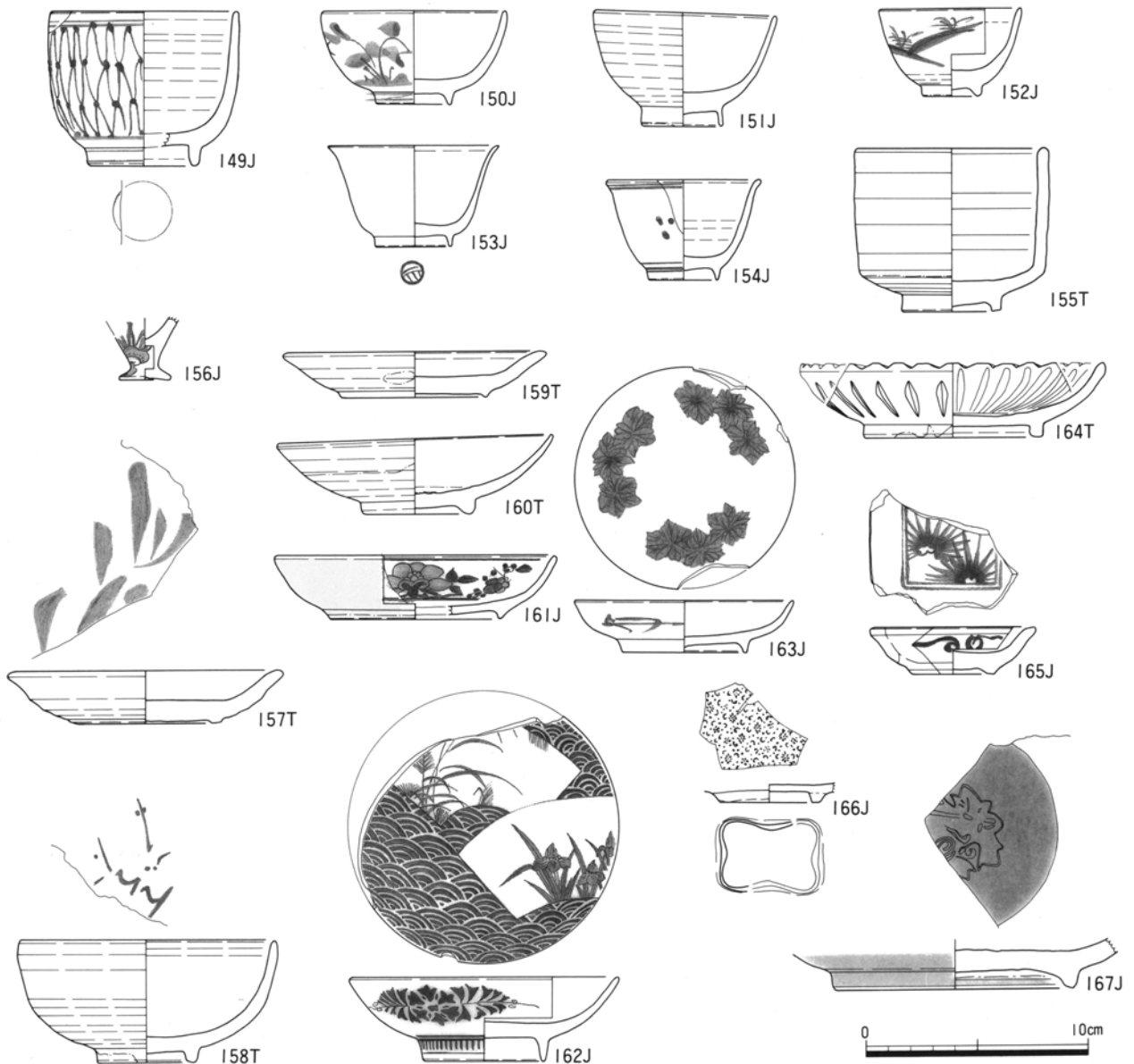
用途	器種	接合後口縁残存率				接合前口縁破片数				総破片数							
		土器	陶器	磁器	その他	計	土器	陶器	磁器	その他	計	土器	陶器	磁器	その他	計	
供膳具	椀		93	63		156		130	78		208		330	197		527	
	小椀		13	102		115		13	70		83		22	107		129	
	皿	656	64	44		764	338	65	40		443	488	153	97		738	
	鉢		9	8		17		16	13		29		53	20		73	
	その他					0					0					0	
	小計	656	179	217	0	1052	338	224	201	0	763	488	558	421	0	1467	
調理具	鍋、釜		37			37	107				1	108	619	19		2	640
	鉢			12		12		19			19		54			54	
	播鉢			31		31		53			53		158			158	
	瓶			8		8		7			7		31	2		33	
	その他					0					0					0	
	小計	37	51	0	0	88	107	79	0	1	187	619	262	2	2	885	
貯蔵具	瓶		6			6		2			2		94	3		97	
	壺		5	5		10		6	2		8		24	11		35	
	甕A		10			10		11			11		364			364	
	甕B		9			9		11			11		53			53	
	鉢			8		8			8		8		3	18		21	
	その他					0					0					0	
	小計	0	30	13	0	43	0	30	10	0	40	0	538	32	0	570	
灯火具		28	14		42	10	12			22	16	19			35		
火具		0	4		4	2	6			8	18	36		4	58		
化粧具			12		12			1		1		1	3		4		
神仏具		12			12		11			11		21	9		30		
喫煙具		1			1		1			1		3			3		
調度具			22	0		22		19	1		20		62	3		65	
	蓋		25	10		35		11	7		18		15	11		26	
合計		721	338	252	0	1311	457	393	220	1	1071	1141	1515	481	6	3143	

第8表 SD129出土陶磁器類集計表



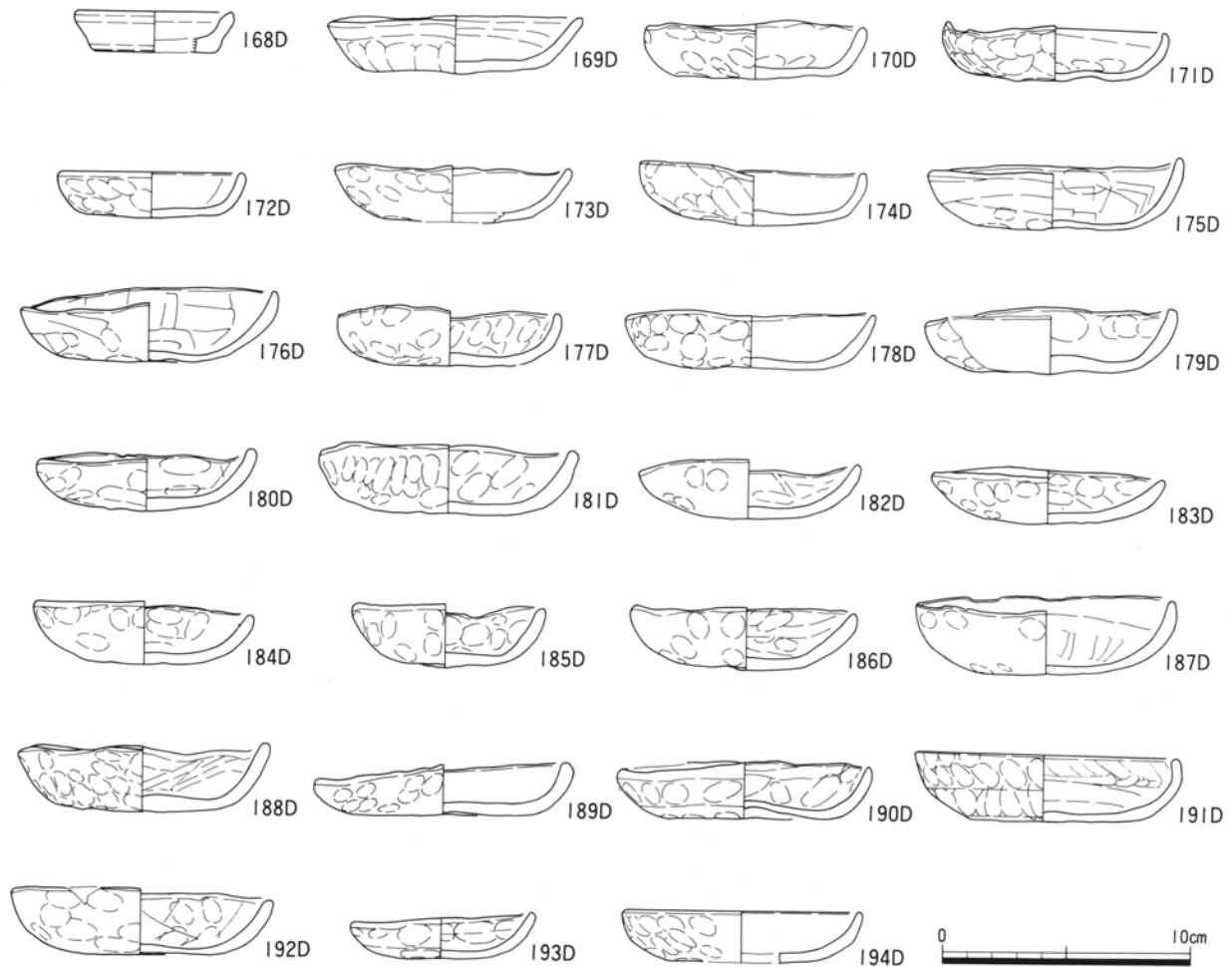
遺物 番号	調査地点		用途	器種	器形	法量 (cm)				釉薬・調整等		産地	備考	PL	登録 番号
	調査区	遺構				器高	口径	胴径	底径	内面	外面				
133	93B	SD129	供膳具	碗	丸碗	5.9	(8.6)	—	3.3	灰釉	灰釉	瀬・美			E-243
134	"	"	"	"	"	5.8	(9.6)	—	(3.5)	"	"	京・信	色絵碗か	23	E-244
135	"	"	"	"	"	(5.7)	(9.5)	—	(3.2)	"	"	関西系	上絵付・三階松文, 18世紀代		E-245
136	"	"	"	"	"	6.7	(9.2)	—	(4.5)	"	"	瀬・美	高台に使用による摩滅痕	23	E-246
137	"	"	"	"	"	6.6	(9.9)	—	(5.2)	"	"	"	呉須絵		E-247
138	"	"	"	"	"	6.9	10.3	—	4.4	—	—	肥前	白磁, 高台無釉, 焼成不良, 1640~1660		E-248
139	"	"	"	"	"	—	—	—	(3.8)	透明釉	透明釉	関西系	鉄絵+色絵(緑)・草花文, 18世紀代		E-249
140	"	"	"	"	"	6.3	(9.2)	—	4.8	灰釉	灰釉	肥前	呉須絵・山水樓閣文, 17世紀末~18世紀前半	23	E-250
141	"	"	"	"	"	—	—	—	4.8	"	"	瀬・美	高台内に刻印「新山」, 18世紀前半		E-251
142	"	"	"	"	"	—	(9.7)	—	—	—	—	肥前	染付・草花文, 18世紀代		E-252
143	"	"	"	"	腰折碗	6.2	(11.0)	—	4.5	灰釉	灰釉	瀬・美		26	E-253
144	"	"	"	"	端反碗	7.2	11.1	—	4.6	白泥+透明釉	白泥+透明釉	肥前	白泥による刷毛目, 17世紀末~18世紀前半	23	E-254
145	"	"	"	"	丸碗	6.3	(13.4)	—	4.9	—	—	"	染付・雪の輪に草花文+「天明年製」, 高台に砂融着, 18世紀中~末		E-255
146	"	"	"	"	"	5.4	(9.6)	—	3.9	—	—	"	染付・菊花文・網目文+二角満福, 高台に砂融着, 18世紀前半~中	24	E-256
147	"	"	"	"	筒碗	6.1	(8.5)	—	4.0	灰釉	灰釉	瀬・美	上絵付(赤・緑)・松文	25	E-257
148	"	"	"	"	丸碗	6.0	(9.5)	—	4.9	"	灰釉+鉄釉	"	高台にトチン痕, 使用による摩滅痕		E-258

第59図 近世遺物 (9) SD129① (1 : 3)



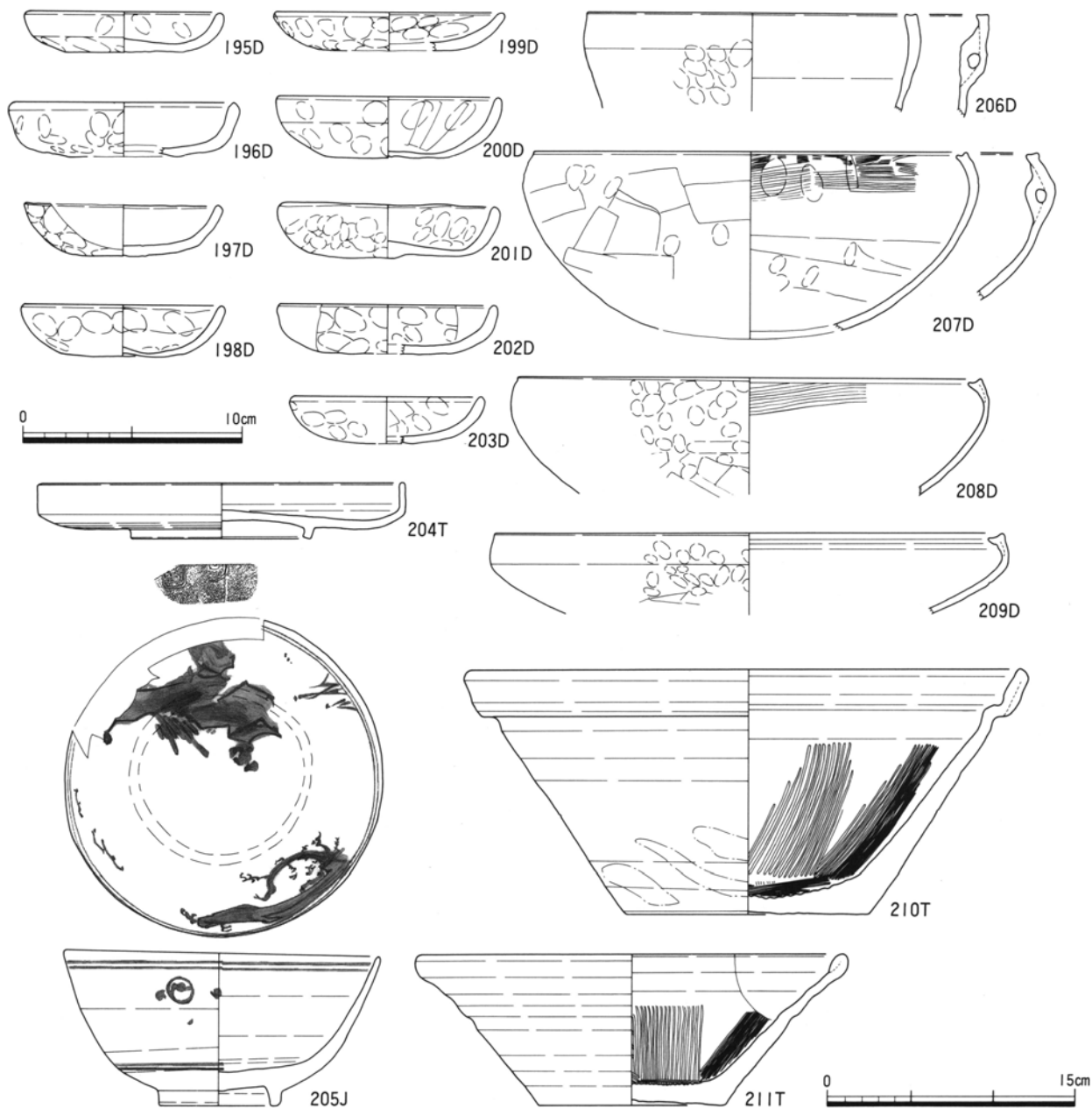
遺物 番号	調査地点		器種		法量 (cm)				釉薬・調整等		産地	備考	PL	登録 番号	
	調査区	遺構	用途	器種	器形	器高	口径	胴径	底径	内面					外面
149	93B	SD129	供膳具	小椀	丸椀	6.8	(8.1)	—	(4.7)	—	—	肥前	染付・網目文, 高台に砂融着, 1640~1660	24	E-259
150	"	"	"	"	"	4.1	(8.1)	—	3.2	—	—	"	染付・草花文, 高台に砂融着, 1690~18世紀前半		E-260
151	"	"	"	"	"	5.0	8.0	—	3.4	—	—	肥前系	白磁, 18世紀後半	26	E-261
152	"	"	"	"	"	3.8	(6.2)	—	(2.3)	—	—	肥前	染付・山水文, 1640~1650	26	E-262
153	"	"	"	"	端反椀	4.5	(7.5)	—	3.3	—	—	"	染付・丸に変形文字, 1660~1680	26	E-263
154	"	"	"	"	"	4.4	(6.7)	—	(3.0)	—	—	"	染付・梅花文, 17世紀後半~18世紀前半		E-264
155	"	"	"	"	筒椀	7.2	(8.2)	—	4.3	鉄釉	鉄釉	瀬・美		25	E-265
156	"	"	"	"	その他	—	—	—	2.2	—	—	肥前	染付・草花文, 18世紀後半~19世紀前半	26	E-266
157	"	"	"	皿	丸皿	2.3	(11.7)	—	(6.0)	灰釉	灰釉	瀬・美	鉄絵・笹文, 高台内にトチン痕		E-267
158	"	"	"	"	"	5.4	(11.2)	—	4.3	"	"	"	呉須絵・梅樹文	27	E-268
159	"	"	"	"	"	2.0	(11.6)	—	(6.3)	"	"	"	見込み・高台内にトチン痕		E-269
160	"	"	"	"	"	3.3	12.0	—	4.8	青緑釉	青緑釉	肥前	輪壳皿, 見込み・高台に砂目痕, 18世紀前半	27	E-270
161	"	"	"	"	"	2.8	(12.2)	—	(7.5)	—	青磁	"	青磁染付・折枝文+五弁花か, 18世紀中~末		E-271
162	"	"	"	"	"	3.7	11.8	—	5.2	—	—	"	染付・青海波に扇面散し文+花唐草文+柳高台, 19世紀前半~幕末	28	E-272
163	"	"	"	"	"	2.3	9.6	—	5.4	—	—	"	染付・草花文(コンニャク印)-折れ松葉文, 高台砂融着, 1690~18世紀前半	28	E-273
164	"	"	"	"	菊皿	3.3	(13.4)	—	(7.7)	灰釉	灰釉	瀬・美		29	E-274
165	"	"	"	"	型打皿	(2.1)	(7.0)	—	(3.6)	—	—	肥前	染付・松文+飛雲文, 高台砂融着, 1630~1640	29	E-275
166	"	"	"	"	"	—	—	—	—	—	—	"	染付・型紙摺, 高台は糸切り細工による成形, 1690~18世紀前半	29	E-276
167	"	"	"	"	丸皿	—	—	—	(10.5)	—	—	"	青磁, 押印・草花文, 高台内蛇の目軸刺ぎ+鉄錆, 1650~1660	28	E-277

第60図 近世の遺物 (10) SD129② (1 : 3)



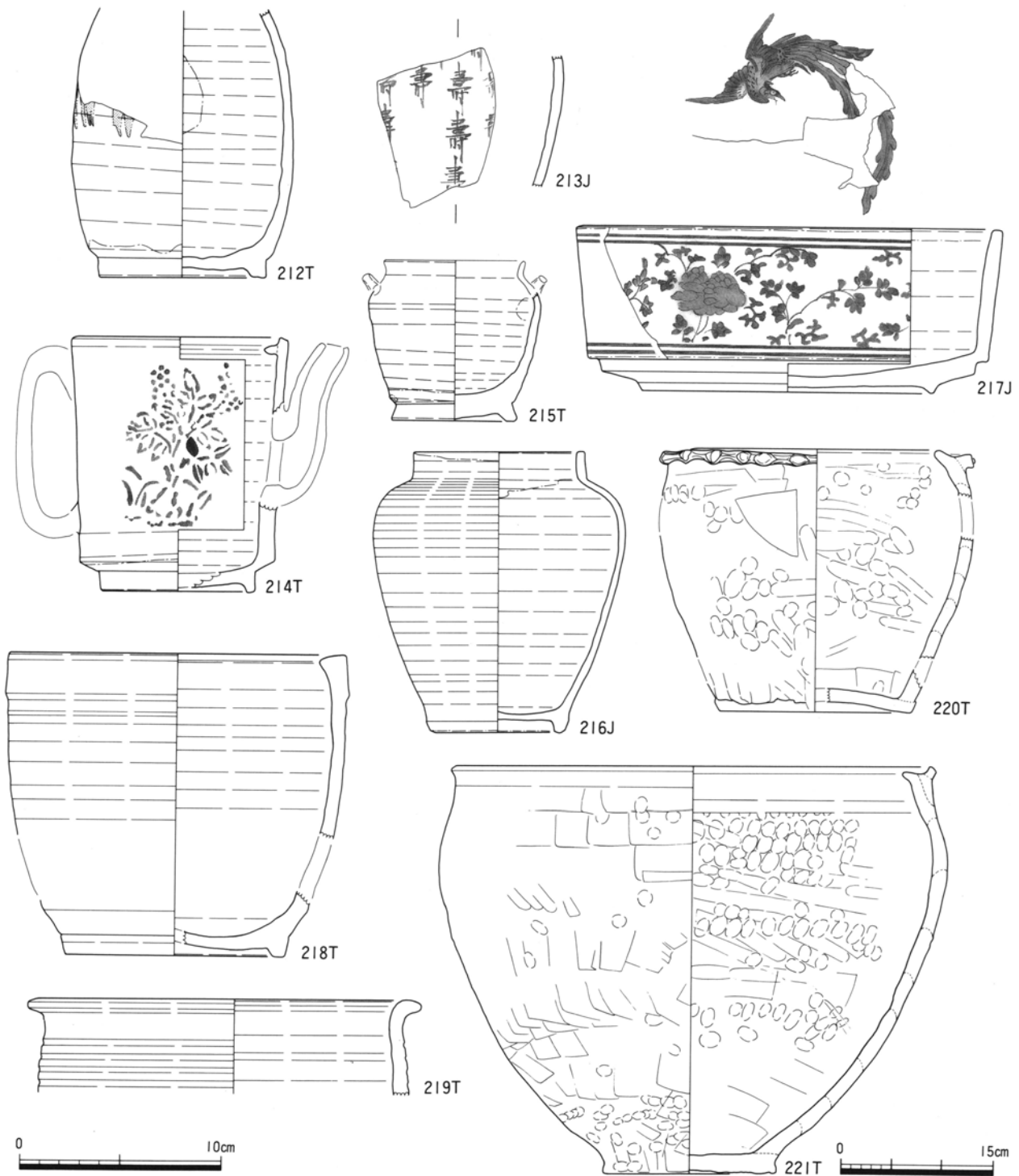
遺物 番号	調査地点		用途	器種		法量 (cm)				釉薬・調整等		産地	備考	PL	登録 番号
	調査区	遺構		器種	器形	器高	口径	胴径	底径	内面	外面				
168	93B	SD129	供膳具	皿	土師器ⅢA	(1.6)	(6.1)	—	(4.6)	ナデ	ナデ	不明	色調：浅黄橙色		E-278
169	"	"	"	"	土師器ⅢB	2.1	9.8	—	—	"	指押え+ナデ	"	色調：淡黄橙色		E-279
170	"	"	"	"	"	2.1	8.5	—	—	指押え+ナデ	"	"	色調：淡黄橙色		E-280
171	"	"	"	"	"	2.1	8.5	—	—	"	指押え	"	色調：淡黄橙色	34	E-281
172	"	"	"	"	"	1.8	(7.0)	—	—	ナデ	"	"	色調：淡橙色		E-282
173	"	"	"	"	"	2.2	9.2	—	—	"	"	"	色調：にふい橙色		E-283
174	"	"	"	"	"	2.3	8.8	—	—	"	"	"	色調：淡橙色	34	E-284
175	"	"	"	"	"	2.6	9.9	—	—	ケズリ+ナデ	指押え+ナデ	"	色調：にふい黄橙色		E-285
176	"	"	"	"	"	2.4	9.7	—	—	"	指押え	"	内面に油附着，色調：浅黄橙色		E-286
177	"	"	"	"	"	2.1	8.6	—	—	指押え+ケズリ	"	"	色調：にふい黄橙色		E-287
178	"	"	"	"	"	2.1	9.2	—	—	ナデ	"	"	色調：浅黄橙色		E-288
179	"	"	"	"	"	2.3	9.5	—	—	指押え+ナデ	"	"	色調：にふい黄橙色		E-289
180	"	"	"	"	"	2.3	8.3	—	—	"	"	"	色調：にふい黄橙色		E-290
181	"	"	"	"	"	2.6	9.8	—	—	"	"	"	色調：浅黄橙色	34	E-291
182	"	"	"	"	"	2.1	8.6	—	—	"	"	"	色調：にふい黄橙色		E-292
183	"	"	"	"	"	1.9	9.0	—	—	"	"	"	色調：にふい黄橙色，内面明赤褐色に変色		E-293
184	"	"	"	"	"	2.3	8.3	—	—	"	"	"	色調：にふい黄橙色		E-294
185	"	"	"	"	"	2.5	7.3	—	—	"	"	"	色調：にふい黄橙色，内面明赤褐色に変色	29	E-295
186	"	"	"	"	"	2.4	8.6	—	—	"	"	"	色調：にふい黄橙色		E-296
187	"	"	"	"	"	2.8	10.1	—	—	ケズリ+ナデ	指押え+ナデ	"	色調：にふい黄橙色	34	E-297
188	"	"	"	"	"	2.6	9.5	—	—	"	指押え	"	色調：浅黄橙色		E-298
189	"	"	"	"	"	1.8	9.8	—	—	ナデ	"	"	色調：浅黄橙色		E-299
190	"	"	"	"	"	2.2	9.8	—	—	指押え+ナデ	"	"	色調：浅黄橙色		E-300
191	"	"	"	"	"	2.6	10.2	—	—	ケズリ+ナデ	"	"	色調：浅黄橙色		E-301
192	"	"	"	"	"	2.4	10.0	—	—	指押え+ケズリ	"	"	色調：浅黄橙色		E-302
193	"	"	"	"	"	1.6	7.1	—	—	指押え+ナデ	指押え+ナデ	"	色調：にふい橙色		E-303
194	"	"	"	"	"	2.0	(9.3)	—	—	ナデ	指押え	"	色調：灰黄色		E-304

第61図 近世の遺物 (11) SD129③ (1 : 3)



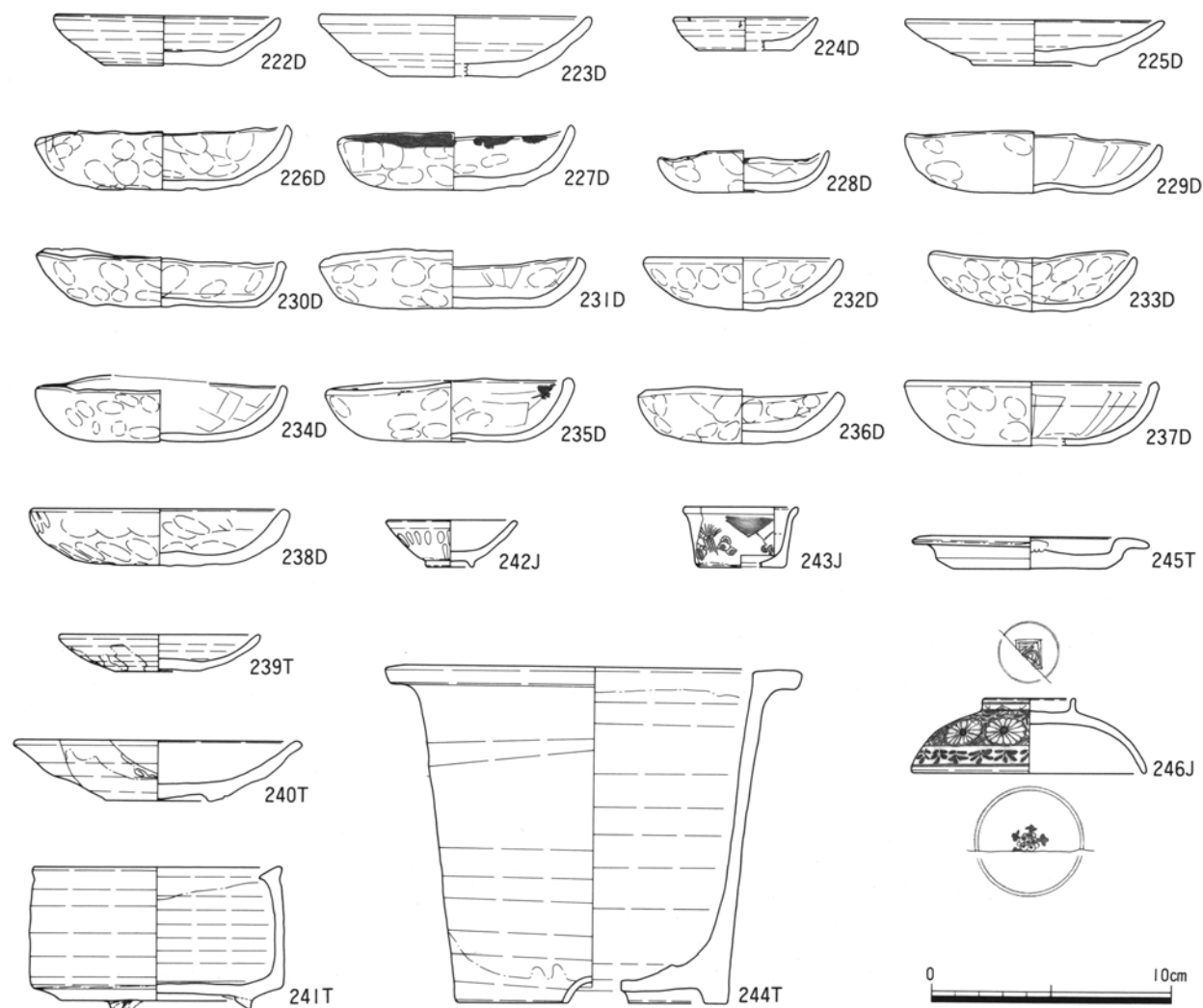
遺物 番号	調査地点		器種		法量 (cm)				釉薬・調整等		産地	備考	PL	登録 番号	
	調査区	遺構	用途	器種	器形	器高	口径	胴径	底径	内面					外面
195	93B	SD129	供膳具	皿	土師器皿B	1.9	(8.5)	—	—	指押え+ナデ	指押え+ナデ	不明	色調：灰黄色		E-305
196	"	"	"	"	"	(2.4)	(9.9)	—	—	ナデ	"	"	色調：灰白色		E-306
197	"	"	"	"	"	(2.3)	8.6	—	—	"	指押え	"	色調：にぶい黄橙色		E-307
198	"	"	"	"	"	(2.3)	(8.9)	—	—	指押え+ナデ	"	"	色調：浅黄橙色		E-308
199	"	"	"	"	"	1.7	(10.2)	—	—	"	"	"	色調：橙色		E-309
200	"	"	"	"	"	2.8	(10.0)	—	—	指押え+ナズリ	指押え+ナデ	"	色調：浅黄橙色		E-310
201	"	"	"	"	"	(2.4)	(9.5)	—	—	"	指押え	"	色調：にぶい黄橙色		E-311
202	"	"	"	"	"	(2.2)	(9.6)	—	—	指押え+ナデ	"	"	色調：にぶい黄橙色		E-312
203	"	"	"	"	"	(2.1)	(8.4)	—	—	指押え+ナズリ	"	"	色調：浅黄橙色		E-313
204	"	"	"	鉢	その他	3.3	(21.7)	—	11.6	灰釉	灰釉	肥前采	高台内に櫛引き・押印「國」,17世紀末~18世紀初	29	E-314
205	"	"	"	丸鉢	丸鉢	9.2	19.0	—	7.0	—	—	肥前	染付・網子文+宝文,高台に砂融着,漆継ぎ痕, 1630~1640	30	E-315
206	"	"	調理具	鍋・釜	鍋	—	(19.8)	(20.4)	—	ヨコナデ	指押え+ナデ	不明	色調：にぶい黄橙色,外面煤付着		E-316
207	"	"	"	内耳鍋	内耳鍋	—	(26.2)	—	—	ヨコハケ	"	"	色調：明赤褐色,外面に煤付着		E-317
208	"	"	"	焙烙	焙烙	—	(28.0)	—	—	"	"	"	色調：にぶい黄橙色,外面に煤付着		E-318
209	"	"	"	"	"	—	(30.8)	—	—	ナデ	"	"	色調：にぶい黄橙色,外面に煤付着		E-319
210	"	"	"	播鉢	VI類	14.7	33.3	—	14.7	鉄釉	鉄釉	瀬・美	底部回転糸切痕,櫛目数14本,1cmに4本	31	E-320
211	"	"	"	"	VIII類	9.1	(25.5)	—	(11.2)	"	"	"	櫛目数17本,1cm単位に5本,内面使用による摩滅痕		E-321

第62図 近世の遺物 (12) SD129④ (204~211は1:4, 他は1:3)



遺物 番号	調査地点		器種		法量 (cm)				釉薬・調整等		産地	備考	PL 登録 番号
	調査区	遺構	用途	器形	器高	口径	胴径	底径	内面	外面			
212	93B	SD129	貯蔵具	瓶 德利 A	—	—	10.9	8.1	鉄釉	鉄釉	瀬・美	うのふ釉流し掛け	E-322
213	"	"	"	" その他	—	—	—	—	ナデ	—	肥前	染付・壽文字文, 1640~1660	32 E-323
214	"	"	"	" 汁次 B	12.4	(9.9)	—	7.5	灰釉	灰釉	瀬・美	鉄絵・摺絵・草花文	32 E-324
215	"	"	"	壺 蓋付壺	—	—	(8.5)	6.0	ナデ	鉄釉	"	うのふ釉流し掛け	E-325
216	"	"	"	" "	(13.7)	(8.4)	(12.4)	6.1	白磁	白磁	肥前	白磁蓋付壺, 高台に砂融着, 17世紀後半	32 E-326
217	"	"	"	鉢 蓋物 A	—	(19.2)	(19.8)	—	—	—	"	染付・牡丹唐草文, 17世紀末~18世紀前半	32 E-327
218	"	"	"	甕 B 半胴 A	—	(16.4)	—	(10.7)	鉄釉	鉄釉	瀬・美	口縁部にトチン痕	E-328
219	"	"	"	" 半胴 B	—	(17.0)	—	—	"	"	"		E-329
220	"	"	"	甕 A II類	(25.7)	(23.6)	(30.9)	(18.4)	指押え+ナデ	指押え+ナズリ	常滑	焼き締め	E-330
221	"	"	"	" "	39.8	(46.4)	(50.0)	16.4	"	"	"	赤物	E-331

第63図 近世の遺物 (13) SD129⑤ (220・221は1:6, 他は1:3)



遺物 番号	調査地点		器種		法量 (cm)				釉薬・調整等		産地	備考	PL 登録 番号	
	調査区	遺構	用途	器種	器形	器高	口径	胴径	底径	内面				外面
222	93B	SD129	灯火具	皿	灯明皿	2.1	9.1	—	4.8	ナデ	ナデ	不明	色調：黄橙色，内外面油煙付着，底部回転糸切痕	E-332
223	"	"	"	"	"	2.5	(11.1)	—	(5.2)	"	"	"	色調：橙色，内外面油煙付着，底部回転糸切痕	E-333
224	"	"	"	"	"	1.4	(5.8)	—	(4.8)	"	"	"	色調：橙色，口縁油煙付着，底部回転糸切痕	E-334
225	"	"	"	"	"	1.9	(10.6)	—	(5.2)	"	"	"	色調：橙色，内外面油煙付着，底部回転糸切痕	E-335
226	"	"	"	"	"	2.4	10.1	—	—	指押え+ナデ	指押え	"	色調：にふい黄橙色，内外面に油煙付着	E-336
227	"	"	"	"	"	2.4	9.3	—	—	"	"	"	口縁部に油煙付着，色調：にふい黄橙色	33 E-337
228	"	"	"	"	"	1.5	7.0	—	—	ケズリ+ナデ	"	"	口縁部に油煙付着，色調：浅黄橙色	33 E-338
229	"	"	"	"	"	2.3	10.3	—	—	"	"	"	口縁部に油煙付着，色調：浅黄橙色	E-339
230	"	"	"	"	"	2.1	9.8	—	—	指押え+ナデ	"	"	色調：にふい黄橙色，内外面油煙付着	E-340
231	"	"	"	"	"	2.1	10.4	—	—	指押え+ケズリ	"	"	色調：にふい橙色，外面油煙付着	E-341
232	"	"	"	"	"	2.2	(7.8)	—	—	指押え+ナデ	指押え+ナデ	"	色調：橙色，内外面油煙付着	E-342
233	"	"	"	"	"	2.2	8.1	—	—	"	指押え	"	色調：橙色，内外面油煙付着	E-343
234	"	"	"	"	"	2.3	10.0	—	—	ケズリ+ナデ	"	"	色調：にふい黄橙色，内面油煙付着	E-344
235	"	"	"	"	"	2.4	9.9	—	—	指押え+ケズリ	指押え+ナデ	"	色調：にふい黄橙色，口縁油煙付着	E-345
236	"	"	"	"	"	2.1	7.9	—	—	ナデ	指押え	"	色調：にふい黄橙色，内外面に油煙付着	E-346
237	"	"	"	"	"	2.7	(10.2)	—	—	指押え+ケズリ	"	"	色調：浅黄橙色，内面油煙付着	E-347
238	"	"	"	"	"	2.3	(10.2)	—	—	指押え+ナデ	"	"	色調：にふい黄橙色，内外面に油煙付着	E-348
239	"	"	"	"	"	1.5	(8.2)	—	(3.4)	鉄釉	ケズリ	瀬・美	見込みに重ね焼きの剝離痕(径約3.6cm)	E-349
240	"	"	"	"	"	2.5	(11.2)	—	4.2	鉄釉	鉄釉	"	見込みトチン痕，基筋底，底部重ね焼きによる剝離痕	E-350
241	"	"	神仏具	香炉	筒型	5.8	(10.0)	—	(7.8)	"	"	肥前系		34 E-351
242	"	"	化粧具	紅皿	—	1.9	5.2	—	1.8	—	—	瀬・美	白磁，型打ち成形，19世紀前半～幕末	34 E-352
243	"	"	調度具	餌鉢	餌鉢	(2.5)	(4.7)	—	(3.4)	—	—	肥前	色絵(赤)・紫東文，型押し成形，18世紀後半～19世紀前半	35 E-353
244	"	"	"	植木鉢	植木鉢	13.7	14.9	—	11.0	ナデ	灰釉	瀬・美	底部切込み(2ヶ所)，穿孔(径2.3cm)，墨書	35 E-354
245	"	"	その他	蓋 B	蓋 B	1.3	(9.8)	—	—	ケズリ+ナデ	錆釉	"		E-355
246	"	"	"	蓋 E	蓋 E	3.1	(9.5)	—	—	—	—	肥前	染付・四方だすき文+三角満福+五弁花(手書き)，18世紀前半	36 E-356

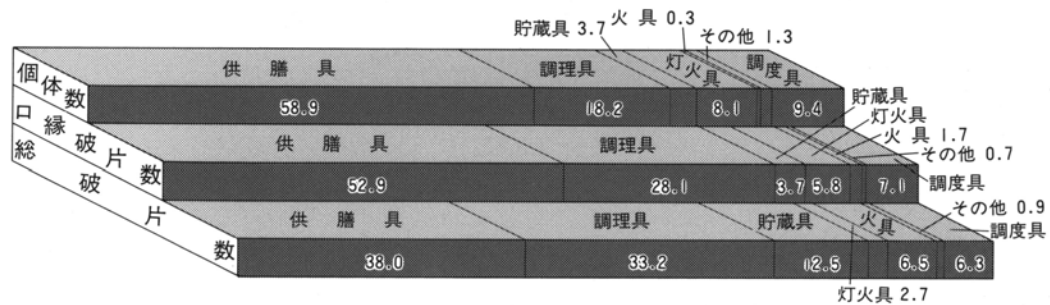
第64図 近世の遺物 (14) SD129⑥ (1 : 3)

SD102 本遺構の時期は、18世紀中葉～後葉である。

93年度調査区の南側で検出された溝で、屋敷地境を示し、SD129と直交する溝である。出土した遺物は総破片数で877点、接合前口縁破片数が305点、個体数は25.08個体である。出土量は少量ではあるが、SD129と同時期の遺構として注目される。

この内、供膳具が14.58個体・58.9%とやや低く、調理具が4.50個体・18.2%、貯蔵具が0.92個体・3.7%、灯火具が2.00個体・8.1%、火具・神仏具ともにかが0.08個体・0.3%、化粧具が0.25個体・1.0%、調度具が2.33個体・9.4%となっている。喫煙具は破片のみが出土している。調理具と調度具が多く出土しており、全体の平均値や同時期の遺構であるSD129とも組成を異にしているところがこの遺構の特徴である。また、蓋類は、総破片数で10点、接合前口縁破片数も10点、個体数は0.33個体と僅かにしか出土していない。

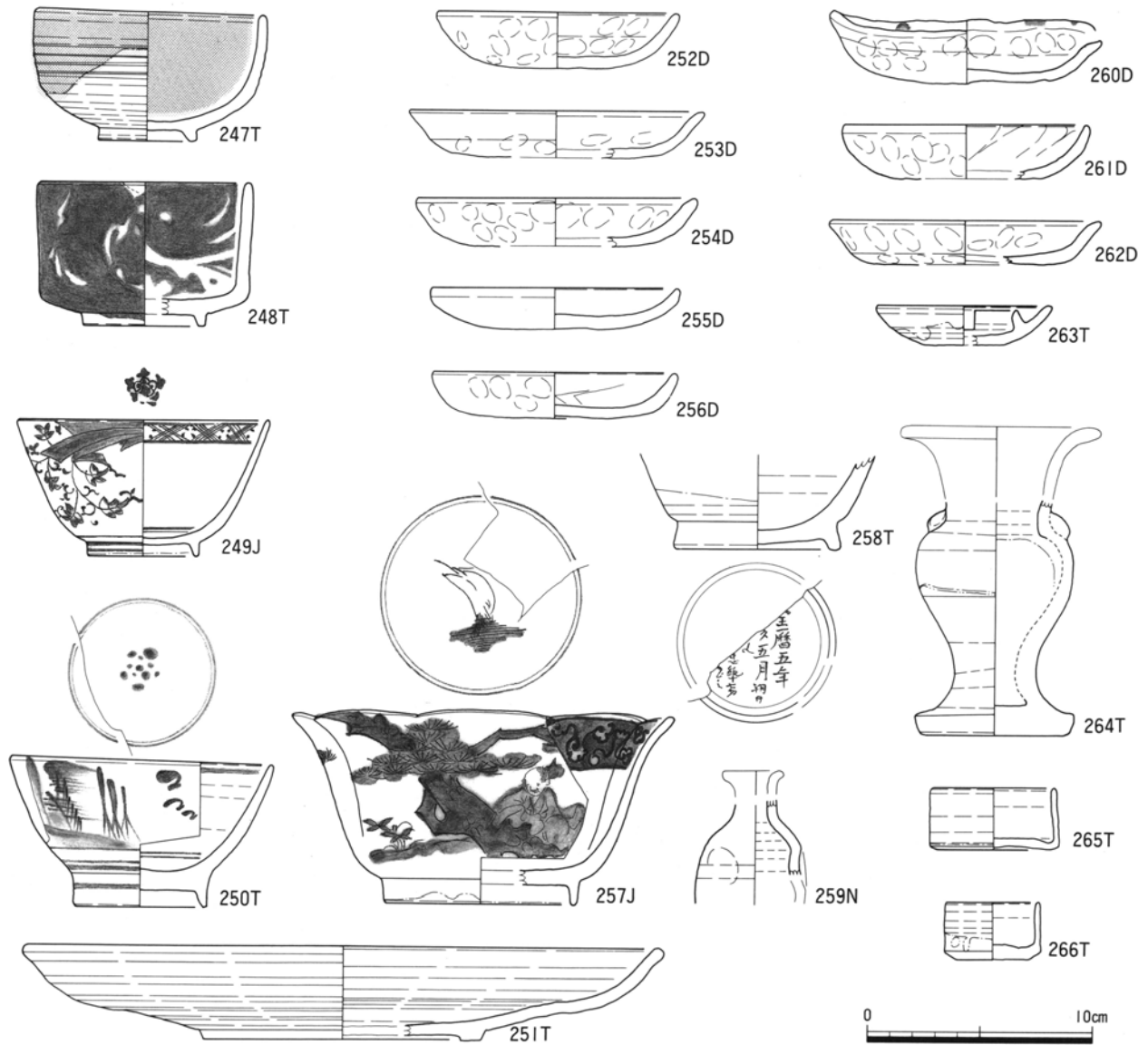
材質面においては、SD129程ではないが土師質製品が34.0%と高く、やはり供膳具の土師器皿が全土師質製品の75.2%と高い比率で出土しており、鍋・釜類をも含めると88.1%となっている。これに対し、陶磁器類は陶器製品が45.5%と増加しているが、その分磁器製品が19.2%と激減しているのである。これが、何に起因しているのか詳しいことはわからないが、SD129と同一遺構として捉えた方が理解しやすいように思われる。



第65図 SD102出土陶磁器類の用途組成

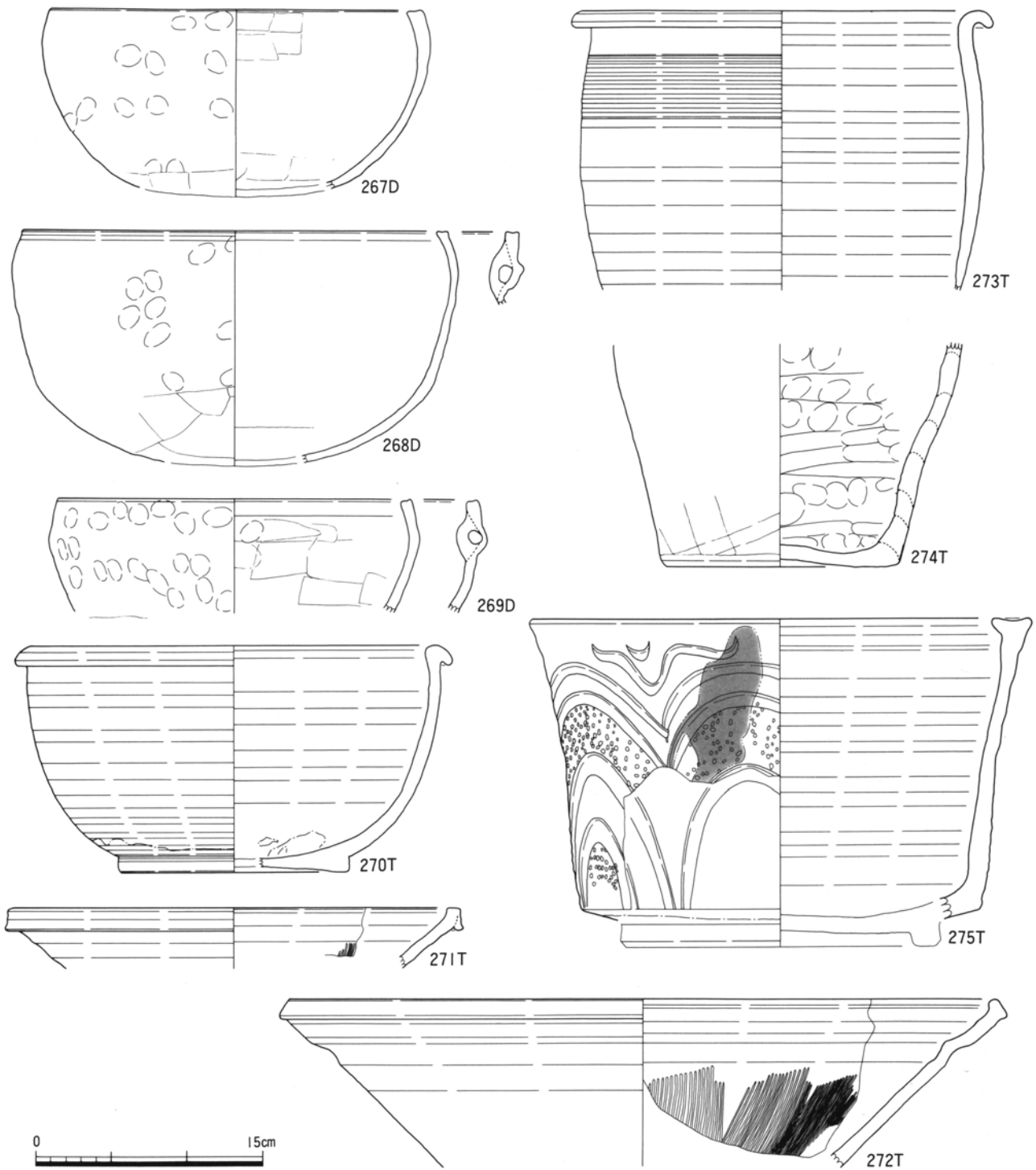
用途	器種	接合後口縁残存率				接合前口縁破片数					総破片数					
		土器	陶器	磁器	その他	計	土器	陶器	磁器	その他	計	土器	陶器	磁器	その他	計
供膳具	碗		23	14		37		26	26		52		60	42		102
	小碗		0	35		35		1	21		22		5	32		37
	皿	76	24	1		101	59	16	2		77	129	29	14		172
	鉢			2		2			5		5		9	9		18
	その他					0					0					0
	小計	76	47	52	0	175	59	43	54	0	156	129	103	97	0	329
調理具	鍋、釜	13	7		4	24	32	7		5	44	170	17		7	194
	鉢	1	15			16	1	13			14	1	42			43
	播鉢		8			8		20			20		50			50
	瓶		6			6		5			5		1			1
	その他					0					0					0
	小計	14	36	0	4	54	33	45	0	5	83	171	110	0	7	288
貯蔵具	瓶		2			2		1			1		19		2	21
	壺		2			2		2			2		8			8
	甕A		1			1		3			3		53			53
	甕B		6			6		5			5		26			26
	鉢					0					0					0
	その他					0					0					0
	小計	0	11	0	0	11	0	11	0	0	11	0	106	0	2	108
灯火具		10	14		24	7	10			17	9	14			23	
火具		1			1	4	1			5	48	4		4	56	
化粧具				3	3			1		1			1		1	
神仏具			1		1		1			1		1	4		5	
喫煙具					0					0		2			2	
調度具	蓋		26	2		28		18	3		21		51	4		55
	蓋	1	1	2		4	1	5	4		10	1	5	4		10
合計		102	136	59	4	301	104	134	62	5	305	358	396	110	13	877

第9表 SD102出土陶磁器類集計表



遺物 番号	調査地点		器種			法量 (cm)			釉薬・調整等		産地	備考	PL	登録 番号	
	調査区	遺構	用途	器種	器形	器高	口径	胴径	底径	内面					外面
247	93B	SD102	供膳具	椀	腰鎗椀	5.6	9.7	—	4.2	灰釉	灰釉+鉄釉	瀬・美	高台疊付部分に重ね焼きの剝離痕	26	E-357
248	"	"	"	"	筒椀	6.2	(9.0)	—	(5.3)	白泥+灰釉	白泥+灰釉	肥前系	白泥による刷毛目か	25	E-358
249	"	"	"	"	平椀	5.9	(10.8)	—	(4.8)	—	—	肥前	染付・梨斗文・花唐草文+割小菱・五弁花、漆継ぎ痕、18世紀前半	25	E-359
250	"	"	"	"	広東椀	6.4	(11.3)	—	5.8	灰釉	灰釉	瀬・美	呉須絵・山水文+五弁花	25	E-360
251	"	"	"	"	皿	4.1	(27.8)	—	(12.1)	ナデ	ナデ+ケズリ	"	焼き締め		E-361
252	"	"	"	"	土師器皿B	2.5	(10.3)	—	—	指押え+ナデ	指押え	不明	色調：橙色		E-362
253	"	"	"	"	"	2.1	(12.8)	—	—	指押え+ナデ	指押え+ナデ	"	色調：浅黄橙色		E-363
254	"	"	"	"	"	2.1	(12.0)	—	—	指押え	指押え	"	色調：浅黄橙色		E-364
255	"	"	"	"	"	1.8	(10.6)	—	—	ナデ	"	"	色調：橙色		E-365
256	"	"	灯火具	皿	灯明皿	2.0	(10.5)	—	—	指押え+ケズリ	"	"	色調：にぶい橙色、内面・口縁油煙付着		E-366
257	"	"	供膳具	鉢	型打鉢	8.4	16.1	—	8.2	—	—	肥前	染付・松下人物文、1820~1860	30	E-367
258	"	"	貯蔵具	壺	蓋付壺	—	—	—	(7.0)	ナデ	鉄釉	瀬・美	高台内に墨書「宝暦五年亥五月朔日□忠純一七〇泉之」	32	E-368
259	"	"	"	瓶	德利D	—	—	(4.9)	—	"	透明釉	不明	色調：橙色		E-369
260	"	"	灯火具	皿	灯明皿	2.6	11.8	—	—	指押え+ナデ	指押え+ナデ	"	色調：橙色、内外面・口縁油煙付着		E-370
261	"	"	"	"	"	2.4	(10.6)	—	—	"	指押え	"	色調：浅黄色、内外面油煙付着		E-371
262	"	"	"	"	"	1.9	(11.6)	—	—	指押え+ナデ	不明	"	色調：浅黄橙色、内外面油煙付着		E-372
263	"	"	"	"	灯蒸	1.7	(7.5)	—	(3.6)	鉄釉	鉄釉	瀬・美	内径(4.5)cm、内区上部・底部に重ね焼きによる剝離痕		E-373
264	"	"	調度具	花生	壺型	—	—	6.9	6.0	灰釉	灰釉+鉄釉	"	底部回転糸切痕、灰釉・鉄釉掛け分け	35	E-374
265	"	"	"	餌鉢	餌鉢	2.7	(5.2)	—	5.0	灰釉	灰釉	"	底部回転糸切痕、底部重ね焼きの剝離痕か		E-375
266	"	"	"	"	"	2.5	(4.0)	—	3.1	"	"	"	底部回転糸切痕、底部に墨書		E-376

第66図 近世の遺物 (15) SD102① (1:3)



遺物 番号	調査地点	用途	器種		器高	法量 (cm)			釉薬・調整等		産地	備考	PL	登録 番号
			器種	器形		口径	胴径	底径	内面	外面				
267	93B SD102	調理具	鍋・釜	鍋	—	(24.4)	(25.6)	—	ヨコハケ	指押え+ケズリ	不明	色調：にぶい黄橙色，外面煤付着		E-377
268	"	"	"	"	—	(28.0)	(29.4)	—	指押え+ナア	"	"	色調：にぶい黄橙色，外面煤付着		E-378
269	"	"	"	"	—	(23.2)	(24.4)	—	"	"	"	色調：淡黄色，外面煤付着	31	E-379
270	"	"	鉢	捏ね鉢	14.8	(26.5)	—	(14.6)	灰釉	灰釉	瀬・美	見込み釉剥ぎ(1ヶ所残存)		E-380
271	"	"	播鉢	II類	—	(28.2)	—	—	錆釉	錆釉	"	"		E-381
272	"	"	"	VIII類	—	(46.6)	—	—	鉄釉	鉄釉	"	楀目数18本・1cmに4本，内面使用による摩滅痕		E-382
273	"	貯蔵具	甕B	甕	—	(26.2)	—	—	鉄釉	鉄釉	"	"	32	E-383
274	"	"	壺	土師壺	—	—	—	14.3	指押え+ナア	ケズリか	不明	色調：浅黄橙色		E-384
275	"	調度具	水甕	水甕	—	(28.4)	—	—	灰釉	灰釉	"	銅緑釉流し掛け		E-385

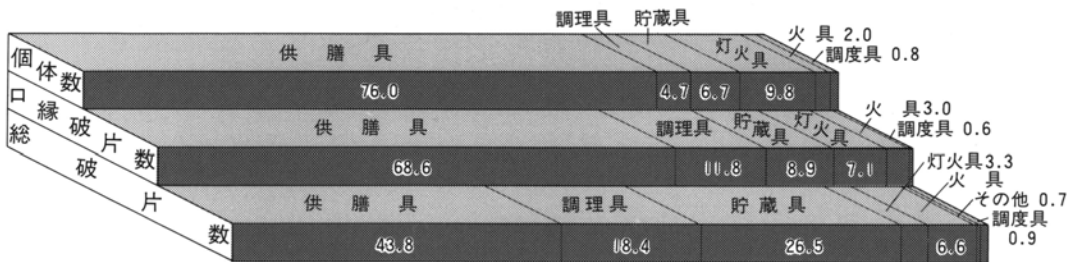
第67図 近世の遺物 (16) SD102② (1:4)

SE106 遺構の時期は、18世紀前葉～中葉と考えられる。

92年度調査区の北端で検出された井戸である。出土した遺物は総破片数で462点、接合前口縁破片数が174点、個体数は23.08個体である。出土量は少ないが、近世前期の遺構として注目される。近世陶磁器類以外にも大量の木製品が出土しており、興味深い遺構と思われる。

この内、供膳具が16.08個体・76.0%とその大半を占め、調理具が1.00個体・4.7%、貯蔵具が1.42個体・6.7%、灯火具が2.08個体・9.8%、火具が0.42個体・2.0%、調度具が0.17個体・0.8%となっている。化粧具・神仏具はともに破片のみが出土しており、喫煙具は出土していない。供膳具において、椀類対皿類の比率が2.02：1と、椀類が皿類の2倍以上出土している。これは、名古屋城三の丸遺跡において指摘されていることであるが、18世紀代に椀類の使用量が増大し皿類を凌ぐことが確認されており、これに符合するものであろう。ただし、鉢類の出土量は極端に落ち込んでいる。また、蓋類は、総破片数で5点、接合前口縁破片数も5点、個体数では1.92個体とやはりその出土量は極めて少ない。

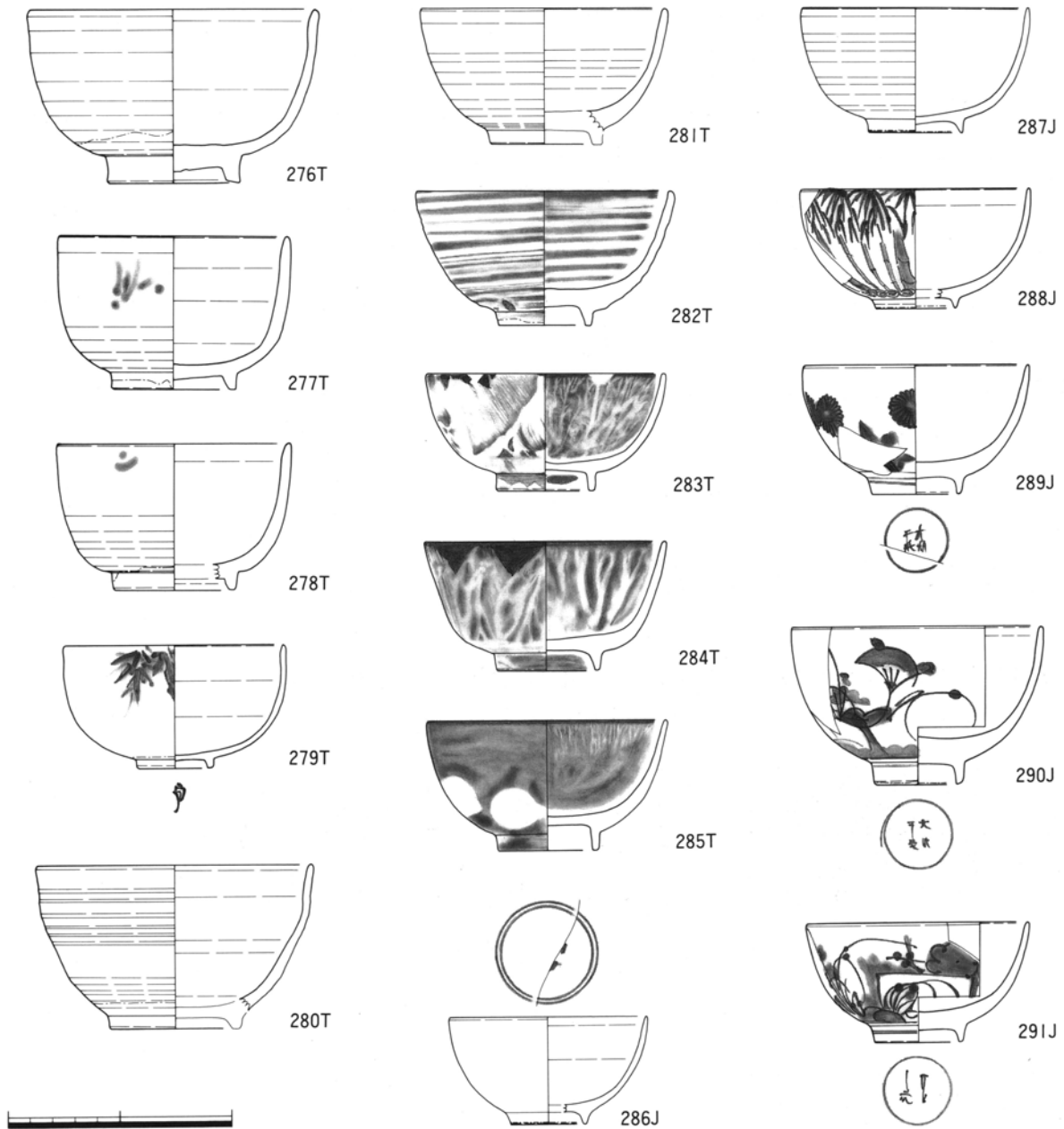
材質面においても、土師質製品が22.1%と全体の平均値に近いのに対して、陶磁器類では陶器製品が44.9%とやや多くなり、逆に磁器製品が31.1%とやや減少していることがわかる。しかし、まだまだ磁器製品の占める割合が高く、名古屋城三の丸遺跡に代表される尾張地区よりも多くの肥前磁器が流入していたことが窺われるのではないだろうか。



第68図 SE106出土陶磁器類の用途組成

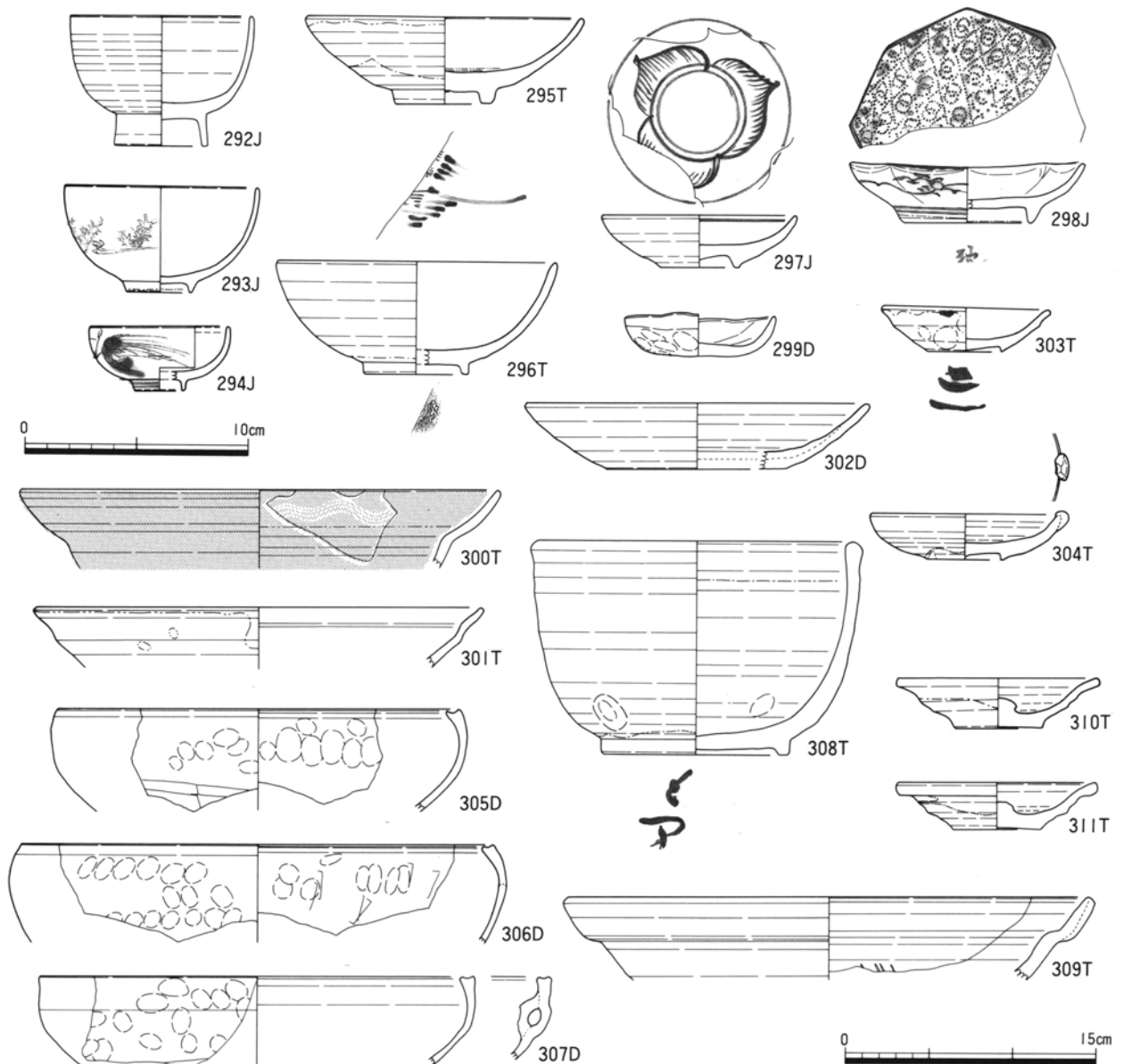
用途	器種	接合後口縁残存率				接合前口縁破片数				総破片数				計		
		土器	陶器	磁器	その他	土器	陶器	磁器	その他	土器	陶器	磁器	その他			
供膳具	椀		62	48			35	38			45	73		118		
	小椀		0	17			1	7			4	14		18		
	皿	38	15	10		15	9	8		23	15	16		54		
	鉢		3				3				10			10		
	その他													0		
	小計	38	80	75	0	193	15	48	53	0	116	23	74	103	0	200
調理具	鍋、釜	5				5	10				10	48		48		
	鉢		2				3				4			4		
	播鉢		3				5				9			9		
	瓶		2				2				23			23		
	その他													0		
	小計	5	7	0	0	12	10	10	0	0	20	48	36	0	0	84
貯蔵具	瓶		0				1				14	1		15		
	壺		10				6				24			24		
	甕A		2				4				62			62		
	甕B		1				3				19			19		
	鉢			4				1				1		1		
	その他													0		
	小計		13	4	0	17	0	14	1	0	15	0	119	2	0	121
灯火具		13	12			25	8	4			12	11	4		15	
火具				5		5			5		10	1		19	30	
化粧具					0								1		1	
神仏具					0							2			2	
喫煙具					0										0	
調度具		2				2		1			1		4		4	
蓋		18	5			23	4	1			5	4	1		5	
合計		56	132	84	5	277	33	81	55	5	174	92	244	107	19	462

第10表 SE 106出土陶磁器類集計表



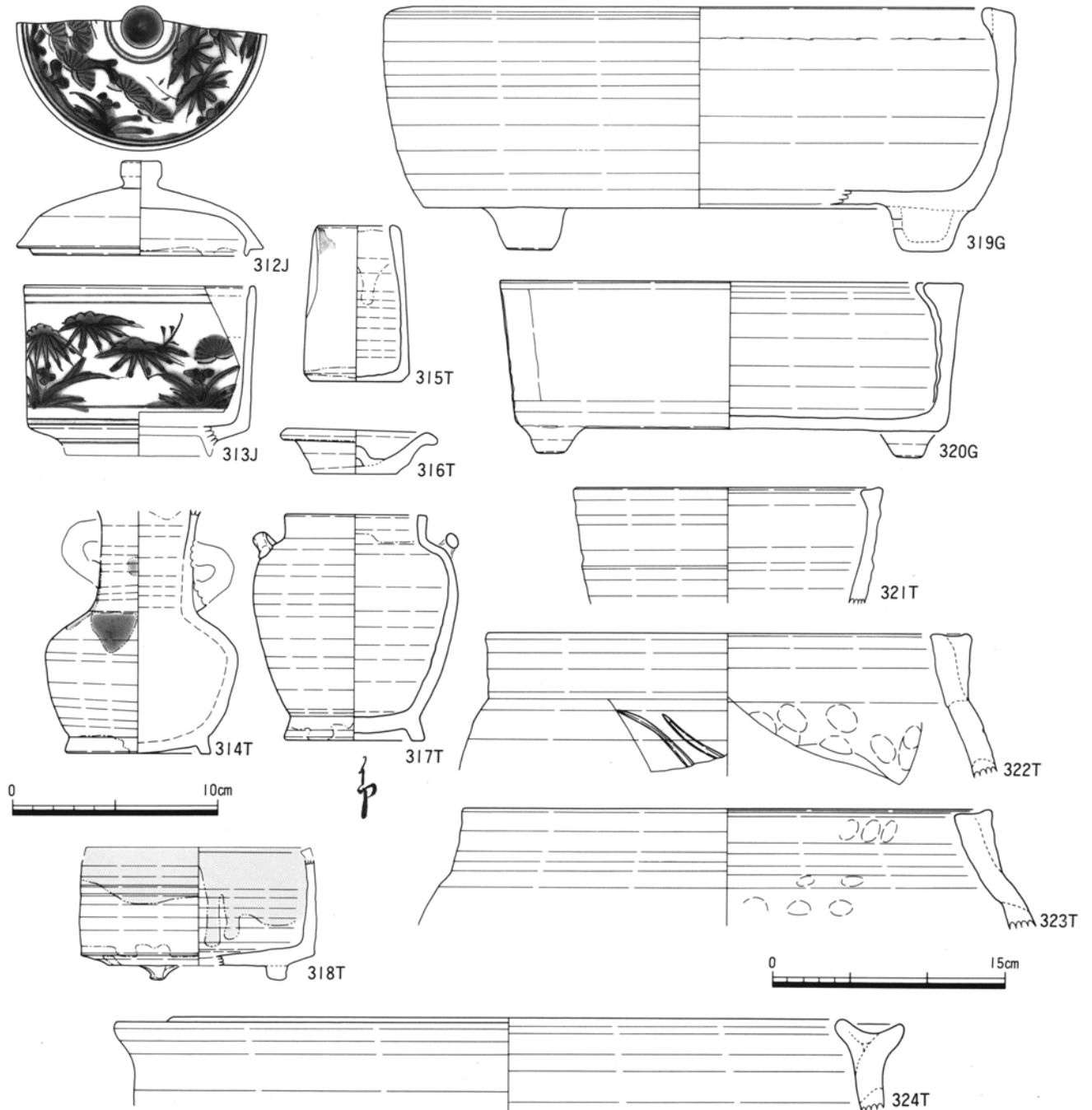
遺物 番号	調査地点		器種			法量 (cm)				釉薬・調整等		産地	備考	PL	登録 番号
	調査区	遺構	用途	器種	器形	器高	口径	胴径	底径	内面	外面				
276	92A	SE106	供膳具	椀	丸椀	7.6	(12.5)	—	(5.7)	灰釉	灰釉	瀬・美		23	E-386
277	"	"	"	"	"	6.7	(10.0)	—	(5.4)	"	"	"	呉須絵・山水文か	23	E-387
278	"	"	"	"	"	6.5	(10.2)	—	(5.2)	"	"	"	呉須絵	23	E-388
279	"	"	"	"	"	5.4	(9.6)	—	3.2	"	"	"	鉄絵＋呉須絵・笹文，高台内墨書	23	E-389
280	"	"	"	"	その他	—	(12.1)	—	—	"	"	肥前			E-390
281	"	"	"	"	丸椀	—	(10.7)	—	—	白泥＋透明釉	白泥＋透明釉	肥前系	白泥による刷毛目		E-391
282	"	"	"	"	"	5.9	11.2	—	4.1	透明釉	透明釉	肥前	白泥による刷毛目，高台内に砂融着，17世紀末～18世紀初	23	E-392
283	"	"	"	"	"	5.2	(10.4)	—	(4.2)	白泥＋透明釉	白泥＋透明釉	"	白泥による打ち刷毛目，高台に砂融着，18世紀前半	23	E-393
284	"	"	"	"	"	5.7	10.5	—	4.4	"	"	"	白泥による打ち刷毛目，高台に砂融着，18世紀前半	23	E-394
285	"	"	"	"	"	5.7	10.5	—	4.4	"	"	"	白泥による打ち刷毛目・蛍手，高台に砂融着，1690	23	E-395
286	"	"	"	"	"	4.8	(8.6)	—	(3.2)	—	—	"	青磁染付・五弁花，口鏽，18世紀前～中	25	E-396
287	"	"	"	"	"	5.5	(10.1)	—	4.1	—	—	"	白磁，18世紀前～中	24	E-397
288	"	"	"	"	"	5.3	(10.0)	—	(3.5)	—	—	"	染付・笹竹文，18世紀前～中		E-398
289	"	"	"	"	"	5.7	(9.8)	—	3.9	—	—	"	染付(コンニャク印)・紅葉文・沢瀉文+「大明年製」18世紀前～中	24	E-399
290	"	"	"	"	"	6.9	(10.9)	—	3.7	—	—	"	染付・雪の輪に梅樹文+「大明年製」，高台に砂融着，18世紀前～中		E-400
291	"	"	"	"	"	5.3	(9.7)	—	3.8	—	—	"	染付・岩に梅樹文+「大明年製」，高台に砂融着，18世紀前～中	24	E-401

第69図 近世の遺物 (17) SE106① (1:3)



遺物 番号	調査地点		器種		法量 (cm)				釉薬・調整等		産地	備考	PL	登録 番号		
	調査区	遺構	用途	器種	器形	器高	口径	胴径	底径	内面					外面	
292	92A	SE106	供膳具	小碗	丸碗	5.7	(8.1)	—	(4.1)	—	—	肥前	白磁碗, 18世紀前~中	26	E-402	
293	"	"	"	"	"	4.7	8.4	—	2.8	—	—	"	色絵(赤・金)・紅葉散らし文+口化粧, 18世紀前~中	26	E-403	
294	"	"	"	"	"	2.9	(6.1)	—	(2.1)	—	—	"	染付・海老文, 見込み砂融着, 18世紀前~中		E-404	
295	"	"	"	"	皿	丸皿	3.8	12.1	—	4.2	灰釉+銅緑釉	灰釉	"	見込み蛇ノ目釉剥ぎ, 18世紀前~中	27	E-405
296	"	"	"	"	"	5.0	(12.2)	—	(4.5)	灰釉	"	"	呉須絵・樓閣山水文, 高台内に押印「清水」, 17世紀末	27	E-406	
297	"	"	"	"	"	2.3	(8.5)	—	3.5	—	—	"	染付・連弁文, 高台砂融着, 1630~1640	28	E-407	
298	"	"	"	"	型打皿	2.6	(10.2)	—	(5.6)	—	—	"	染付・型紙摺・折枝文+口銹, 18世紀前半	29	E-408	
299	"	"	"	"	土師器皿B	1.8	6.6	—	—	ナデ	指押え	不明	色調: にぶい黄橙色		E-409	
300	"	"	"	"	鉢	端反鉢	—	(21.1)	—	—	—	肥前	白泥による刷毛目, 18世紀前~中		E-410	
301	"	"	"	"	折縁鉢	—	(19.6)	—	—	灰釉+銅緑釉	灰釉	"	18世紀前~中		E-411	
302	"	"	灯火具	皿	灯明皿	2.9	(15.0)	—	(8.1)	ナデ	ナデ	不明	色調: 橙色, 内外面油煙付着		E-412	
303	"	"	"	"	"	1.9	7.4	—	3.3	灰釉	灰釉	瀬・美	口縁部油煙付着, 碁筒底, 底部墨書	33	E-413	
304	"	"	"	"	"	2.0	(8.2)	—	(3.3)	"	"	"	碁筒底		E-414	
305	"	"	調理具	鍋, 釜	焙烙	—	(23.8)	—	—	指押え+ナデ	指押え+ナデ	不明	色調: にぶい橙色, 外面煤付着		E-415	
306	"	"	"	"	"	—	(27.8)	—	—	"	"	"	色調: にぶい橙色, 内外面煤付着		E-416	
307	"	"	"	"	"	—	(25.6)	—	—	ナデ	"	"	色調: 灰黄色, 内外面煤付着		E-417	
308	"	"	"	鉢	片口	12.6	(18.6)	—	10.8	鉄釉	鉄釉	瀬・美	見込み・高台にトチン痕, 高台内墨書		E-418	
309	"	"	"	播鉢	V1類	—	(30.9)	—	—	"	"	"			E-419	
310	"	"	その他	蓋	蓋A	3.0	(11.9)	—	—	"	"	"	回転糸切痕, 内面煤付着		E-420	
311	"	"	"	"	"	2.8	(11.8)	—	—	"	"	"	つまみ径1.6cm, 底部回転糸切痕, 内面煤付着		E-421	

第70図 近世の遺物 (18) SE106② (304~311は1:4, 他は1:3)



遺物 番号	調査地点		器種		法量 (cm)				釉薬・調整等		産地	備考	PL	登録 番号	
	調査区	遺構	用途	器種	器形	器高	口径	胴径	底径	内面					外面
312	92A	SE106	その他	蓋	蓋D	4.5	(10.2)	—	—	—	—	肥前	染付・雪持笹文, 肩稜推定11.8cm, 18世紀前半~中	36	E-422
313	"	"	貯蔵具	鉢	蓋物A	—	(11.0)	—	—	—	—	"	染付・雪持笹文, 18世紀前半~中	32	E-423
314	"	"	調度具	花生	壺型	—	—	9.2	(6.9)	ナデ	鉄釉	瀬・美	緑釉筆散らし, 18世紀初	35	E-424
315	"	"	"	その他	筒型	7.5	(3.4)	—	4.4	灰釉+鉄釉	灰釉+鉄釉	"	上絵付(緑), 尺立てか	35	E-425
316	"	"	その他	蓋	蓋A	2.2	7.5	—	4.1	ナデ	鉄釉	"	底部回転糸切痕	32	E-426
317	"	"	貯蔵具	壺	有蓋壺	10.8	(6.8)	(9.8)	6.6	"	"	"	墨書, 高台に剝離痕	32	E-427
318	"	"	神仏具	香炉	筒型	—	—	(15.2)	(11.5)	鉄釉	"	"	灰釉流し掛け, 底部墨書		E-428
319	"	"	火具	鉢	火桶	15.6	(37.0)	—	(35.4)	—	—	不明	内外面に煤付着, 3足, 足穿孔(径0.6cm)		E-429
320	"	"	"	"	"	11.1	24.8	29.8	27.0	—	—	"	内外面に煤付着, 4足		E-430
321	"	"	貯蔵具	甕B	半胴A	—	(19.2)	—	—	鉄釉	鉄釉	瀬・美			E-431
322	"	"	"	甕A	I類	—	(26.6)	—	—	ナデ	指押え+ナデ	常滑	焼き締め, 色調: 赤褐色		E-432
323	"	"	"	"	"	—	(33.7)	—	—	指押え+ナデ	"	"	焼き締め, 外面自然釉		E-433
324	"	"	"	"	II類	—	(42.8)	—	—	ナデ	ナデ	"	赤物, 色調: にぶい橙色		E-434

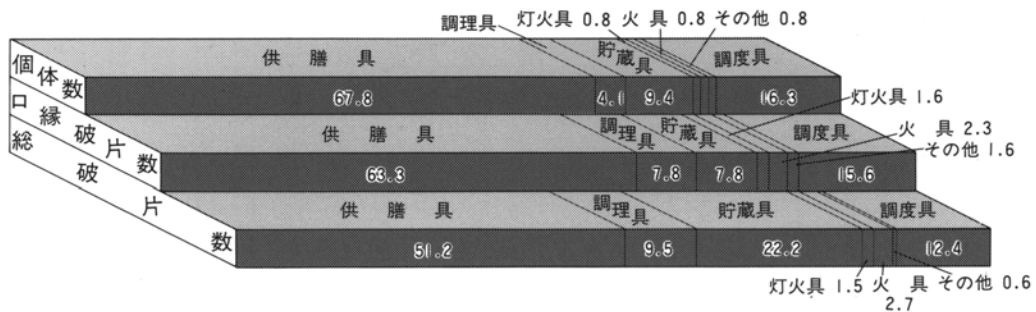
第71図 近世の遺物 (19) SE106③ (318~324は1:4, 他は1:3)

SE104 本遺構の時期は、18世紀中葉～後葉と考えられる。

93年度調査区の中央で検出された井戸である。出土した遺物は総破片数で345点、接合前口縁破片数が134点、個体数は25.75個体である。出土量は少ないが、近世前期の遺構として注目される。SE106と同様に、近世陶磁器類以外にも木製品が出土しており、重要な遺構と思われる。

この内、供膳具が13.83個体・67.8%を占めており、調理具が0.83個体・4.1%、貯蔵具が1.92個体・9.4%、灯火具・火具・神仏具がそれぞれ0.17個体・0.8%となっており、調度具が3.33個体・16.3%とかなり高くなっている。化粧具・喫煙具は出土していない。供膳具において、碗類：皿類＝1：2.09と、ここでは皿類の出土量の多さが目立っている。しかし、土師器皿を除いてみると、1.15：1とやや碗類の出土量が増えてくる。ここで調度具が高い比率を占めるのは、植木鉢がまとめて出土していることが影響しているものと考えられる。また、蓋類は、総破片数で7点、接合前口縁破片数が6点、個体数では3.67個体出土している。

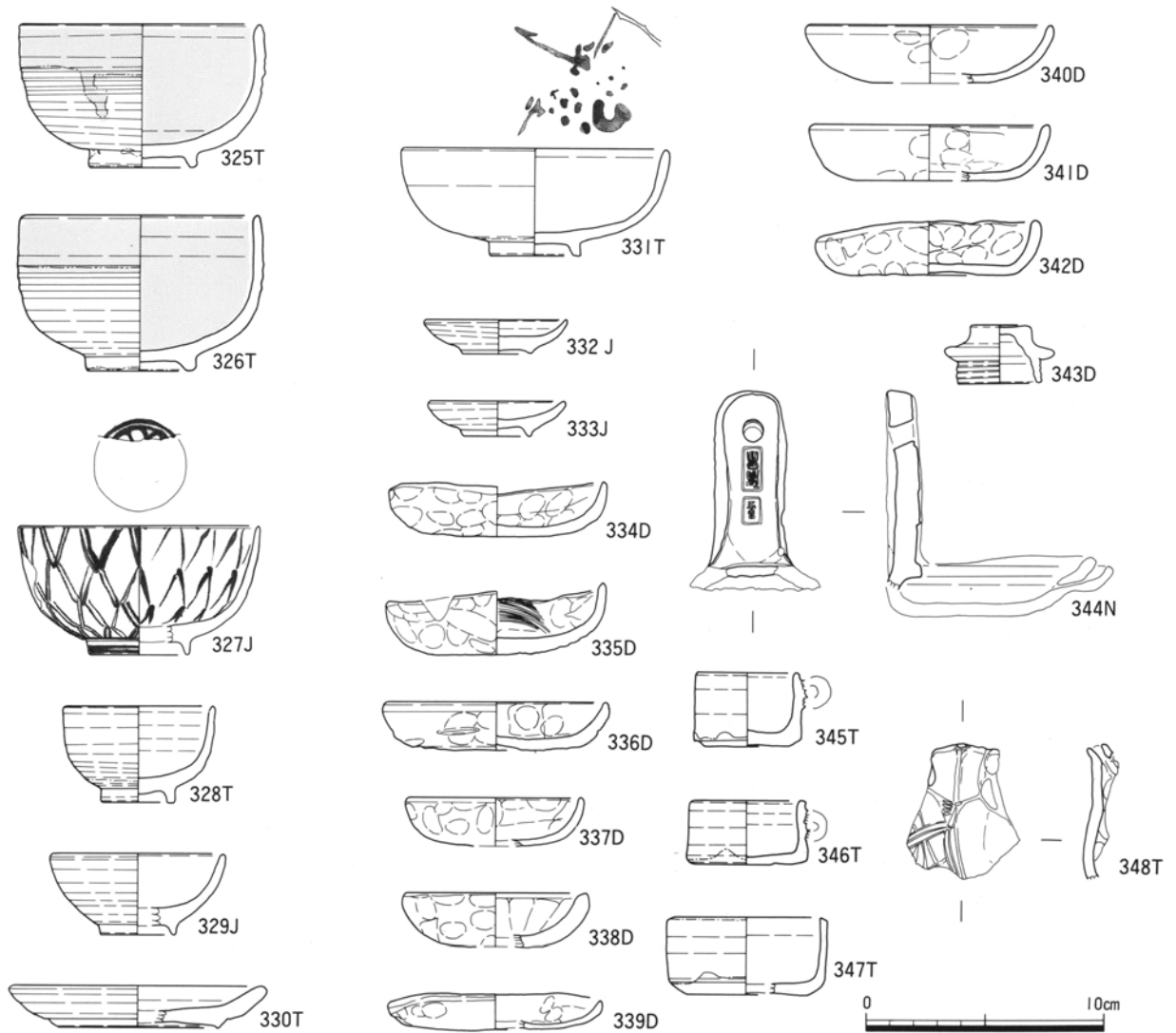
材質面においても、土師質製品が27.4%と全体の平均値に近いのに対して、陶磁器類では陶器製品が63.7%と多くなり、逆に磁器製品が9.0%と極端に減少していることがわかる。これは、同時期の同じ井戸であるSE106とも様相を異にしている。これが、居住者の階級や身分によるものなのか、廃棄の仕方が異なっているのかは、明らかにはできない。



第72図 SE104出土陶磁器類の用途組成

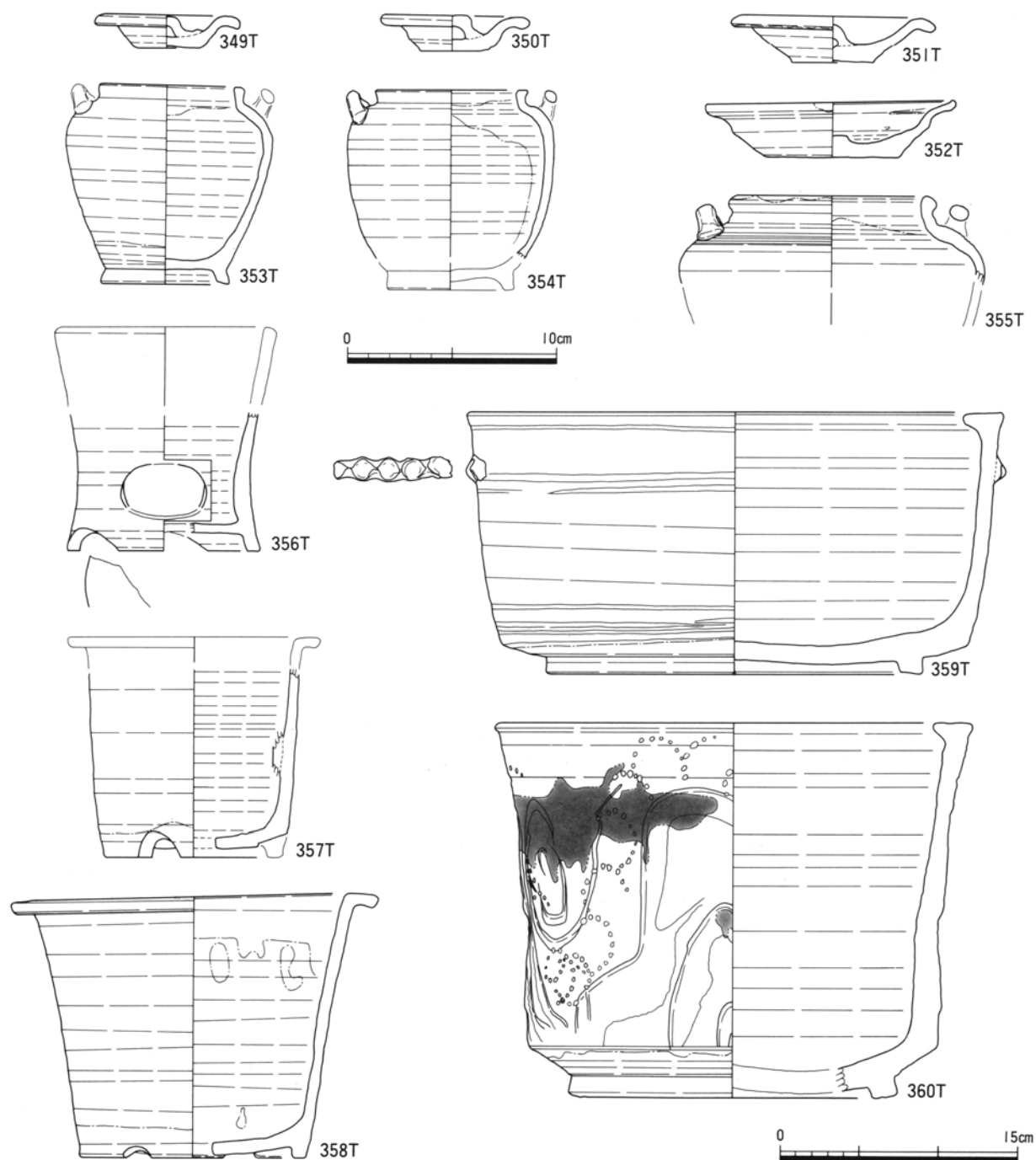
用途	器種	接合後口縁残存率				接合前口縁破片数				総破片数						
		土器	陶器	磁器	その他	計	土器	陶器	磁器	その他	計	土器	陶器	磁器	その他	計
供膳具	碗		23	13		36		15	22		37		36	53		89
	小碗		12	5		17		2	4		6		11		11	
	皿	65	44	2		111	23	8	4		35	31	19	9		59
	鉢		2			2		3			3		13	1		14
	その他					0					0					0
	小計	65	81	20	0	166	23	28	30	0	81	31	68	74	0	173
調理具	鍋、釜	1	2			3	1	2			3	3	8			11
	鉢		3			3		2			2		6			6
	播鉢		4			4		5			5		13			13
	瓶					0					0		2			2
	その他					0					0					0
	小計	1	9	0	0	10	1	9	0	0	10	3	29	0	0	32
貯蔵具	瓶		4			4		3			3		17	1		18
	壺		19			19		7			7	4	14			18
	甕A					0					0		27			27
	甕B					0					0		12			12
	鉢					0					0					0
	その他					0					0					0
	小計	0	23	0	0	23	0	10	0	0	10	4	70	1	0	75
灯火具		1	1			2	1	1			2	2	2		1	5
火具		0	2			2	1	1		1	3	3	2		4	9
化粧具						0					0					0
神仏具				2		2			2		2		2			2
喫煙具						0					0					0
調度具			40			40		20			20		42			42
蓋		12	52			64	1	5			6	1	6			7
合計		79	208	22	0	309	27	74	32	1	134	44	219	77	5	345

第11表 SE 104出土陶磁器類集計表



遺物 番号	調査地点		器種		法量 (cm)				釉薬・調整等		産地	備考	PL	登録 番号	
	調査区	遺構	用途	器種	器形	器高	口径	胴径	底径	内面					外面
325	93B	SE104	供膳具	椀	丸椀	5.0	9.8	—	4.3	灰釉	灰釉+鉄釉	瀬・美	高台に使用による摩滅痕, トチン痕	26	E-435
326	"	"	"	"	"	6.5	(9.7)	—	4.4	"	"	"	高台にトチン痕, 使用による摩滅痕		E-436
327	"	"	"	"	"	5.4	(10.0)	—	(4.0)	—	—	肥前	染付・一重網目文・菊花文+二重網目文, 高台に砂融着18世紀前-中		E-437
328	"	"	"	小椀	"	4.0	6.1	—	3.0	灰釉	灰釉	瀬・美		26	E-438
329	"	"	"	"	"	3.4	(7.1)	—	(3.1)	青磁	青磁	肥前系	青磁, 高台に砂融着		E-439
330	"	"	"	皿	丸皿	1.7	(10.4)	—	(6.6)	長石釉	長石釉	瀬・美	高台内にトチン痕, 17世紀後半		E-440
331	"	"	"	"	"	4.5	(10.8)	—	3.8	灰釉	灰釉	"	呉須絵+鉄絵・梅樹文	27	E-441
332	"	"	"	"	"	1.4	5.9	—	2.9	—	—	肥前	白磁, 高台内に砂融着, 18世紀代	28	E-442
333	"	"	"	"	"	1.5	5.6	—	2.8	—	—	"	白磁, 高台内に砂融着, 18世紀代	28	E-443
334	"	"	"	"	土師器皿 B	2.1	8.8	—	—	指押え+ナデ	指押え	不明	色調: 浅黄橙色	34	E-444
335	"	"	"	"	"	2.6	8.9	—	—	"	"	"	色調: 淡橙色	34	E-445
336	"	"	"	"	"	(2.0)	(9.1)	—	—	"	"	"	色調: 浅黄橙色		E-446
337	"	"	"	"	"	(2.0)	(7.1)	—	—	"	"	"	色調: にぶい橙色		E-447
338	"	"	"	"	"	(2.2)	(7.5)	—	—	ケズリ+ナデ	"	"	色調: にぶい黄橙色		E-448
339	"	"	"	"	"	(1.2)	(8.8)	—	—	指押え+ナデ	"	"	色調: 橙色		E-449
340	"	"	"	"	"	(2.4)	(10.0)	—	—	"	"	"	色調: 浅黄橙色		E-450
341	"	"	"	"	"	(2.3)	(9.8)	—	—	"	"	"	色調: にぶい黄橙色		E-451
342	"	"	"	"	"	2.0	8.9	—	—	"	"	"	色調: にぶい黄橙色		E-452
343	"	"	その他	蓋	蓋 D	2.4	3.4	—	—	ナデ	ナデ	"	色調: 浅黄橙色, 回転糸切痕	36	E-453
344	"	"	灯火具	乗燭	その他	—	—	—	—	透明釉	透明釉	"	脚部基部に押印		E-454
345	"	"	調度具	餌鉢	餌鉢	6.0	4.1	—	3.6	灰釉	灰釉	瀬・美	底部回転糸切痕		E-455
346	"	"	"	"	"	2.6	(4.6)	—	(4.1)	"	"	"	底部回転糸切痕をナデ消している		E-456
347	"	"	"	"	"	3.2	(6.1)	—	(5.0)	"	"	"	底部煤付着		E-457
348	"	"	"	水指	水滴	—	—	—	—	指押え	"	関西系	水滴・神仏像(大黒天または布袋), 18世紀-19世紀代	35	E-458

第73図 近世の遺物 (20) SE104① (1:3)



遺物 番号	調査地点		器種		法量 (cm)				釉薬・調整等		産地	備 考	PL	登録 番号	
	調査区	遺構	用途	器種	器形	器高	口径	胴径	底径	内面					外面
349	93B	SE104	その他	蓋	蓋 A	1.6	6.8	—	—	ナテ	灰釉	瀬・美	底部回転系切痕	35	E-459
350	〃	〃	〃	〃	〃	1.7	6.5	—	—	〃	〃	〃	底部回転系切痕	35	E-460
351	〃	〃	〃	〃	〃	2.6	11.7	—	—	ナテ	〃	〃	つまみ径1.3cm, 底部回転系切痕, 重ね焼きの剥離痕	35	E-461
352	〃	〃	〃	〃	〃	2.2	9.5	—	—	灰釉+ナテ	灰釉	〃	底部回転系切痕	35	E-462
353	〃	〃	貯蔵具	壺	蓋付壺	9.3	6.6	9.7	5.9	ナテ	〃	〃		32	E-463
354	〃	〃	〃	〃	〃	—	(7.0)	(9.7)	—	〃	〃	〃			E-464
355	〃	〃	〃	〃	〃	—	(8.8)	(14.4)	—	〃	〃	〃	口縁部に重ね焼きの剥離痕		E-465
356	〃	〃	火具	鉢	こん炉 A	—	—	—	(12.0)	〃	ナテ	不明	底部墨書「比嘉」か		E-466
357	〃	〃	調度具	植木鉢	植木鉢	—	—	—	11.1	〃	灰釉	瀬・美	底部穿孔径2.6cm, 底部切込み3ヶ所, 内面に重ね焼きの剥離痕		E-467
358	〃	〃	〃	〃	〃	16.4	19.8	—	14.1	灰釉	〃	〃	底部穿孔径3.0cm, 底部切込み2ヶ所	35	E-468
359	〃	〃	〃	水甕	水甕	16.3	(33.3)	—	23.3	〃	〃	〃	貼付文, 見込みにトチン痕	35	E-469
360	〃	〃	〃	〃	〃	23.4	(25.3)	—	(18.4)	〃	〃	〃	銅緑釉流し掛け, 見込みにトチン痕	35	E-470

第74図 近世の遺物 (21) SE104② (356~360は1:4, 他は1:3)

SE107 本遺構の時期は、19世紀前葉～中葉と考えられる。

92年度調査区の東側で検出された井戸である。出土した遺物は総破片数で260点、接合前口縁破片数が70点、個体数は6.42個体である。出土量は少ないが、近世後期の遺構として注目される。

この内、供膳具が1.92個体・39.7%と減少しているが、調理具が1.33個体・27.6%、灯火具が0.50個体・10.3%、火具が0.25個体・5.2%、神仏具が0.83個体・17.2%と平均値に比べてそれぞれかなり高くなっている。貯蔵具は口縁部の破片が、化粧具・調度具は口縁部以外の破片が出土しているが、喫煙具については出土していない。また、第1節でも述べたが、井戸枠として常滑の赤物が4段積み重ねられて利用されており、口縁部の形態から年代を推定している。今回の近世陶磁器類の分類や集計には加えていないが、カウントした数字を紹介しておく、総破片数は732点、接合前口縁破片数は58点、個体数は2.67個体となっている。さらに、蓋類は、総破片数で7点、接合前口縁破片数が5点、個体数では1.58個体とやはり出土量は少ない。

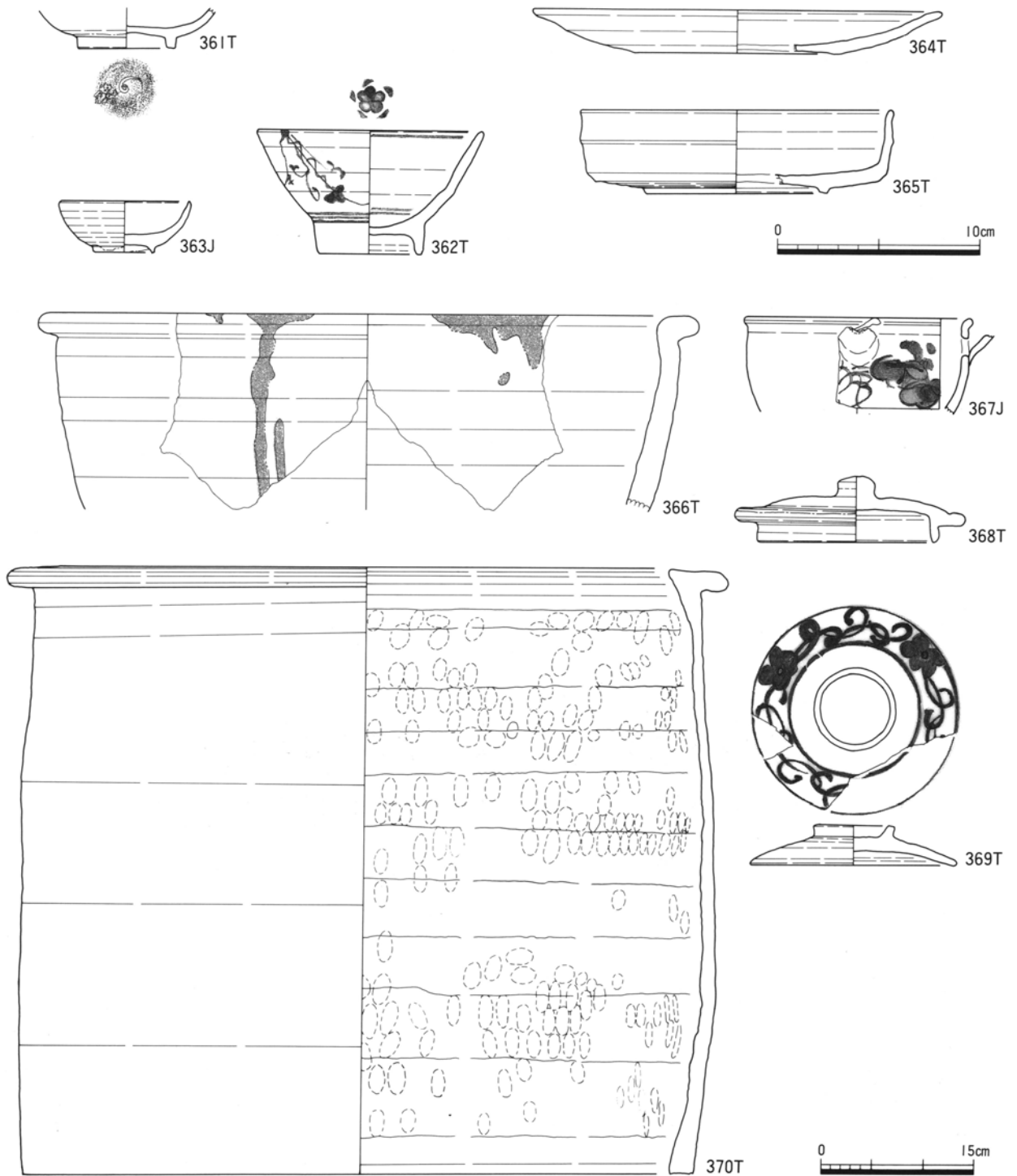
材質面では、土師質製品が24.4%、陶磁器類では陶器製品が48.3%、磁器製品が25.9%となっている。19世紀代になれば、土師質製品の比率が減少し、磁器製品の比率が増大すると思われるが、本遺跡においては言い切れないところがありそうである。



第75図 SE107出土陶磁器類の用途組成

用途	器種	接合後口縁残存率				接合前口縁破片数				総破片数						
		土器	陶器	磁器	その他	計	土器	陶器	磁器	その他	計	土器	陶器	磁器	その他	計
供膳具	碗		6	3		9		13	3		16		27	14		41
	小碗			4		4			1		1			2		2
	皿	9	1			10	7	3			10	15	7	2	1	25
	鉢					0		2			2		6			6
	その他					0					0					0
	小計	9	7	7	0	23	7	18	4	0	29	15	40	18	1	74
調理具	鍋、釜	0			1	1	2			1	3	7			4	11
	鉢		7			7		8		8		14			14	
	搗鉢		3			3		5		5		26			26	
	瓶		3	2		5		2	1	3		5	1		6	
	その他					0					0				0	
	小計	0	13	2	1	16	2	15	1	1	19	7	45	1	4	57
貯蔵具	瓶					0				0		15	1		16	
	壺					0				0					0	
	甕A		0			0		3		3		63			63	
	甕B					0				0		8			8	
	鉢					0				0					0	
	その他					0				0					0	
	小計	0	0	0	0	0	0	3	0	0	3	0	86	1	0	87
灯火具		5	1		6	2	1			3	2	2			4	
火具			3		3		5			5	2	18			20	
化粧具					0					0			1		1	
神仏具			4	6	10		3	3		6		3	6		9	
喫煙具					0					0					0	
調度具					0					0		1			1	
蓋			19		19		5			5		7			7	
合計		14	47	15	1	77	11	50	8	1	70	26	202	27	5	260

第12表 SE 107出土陶磁器類集計表



遺物 番号	調査地点		用途	器種		法量 (cm)				釉薬・調整等		産地	備考	PL 登録 番号
	調査区	遺構		器種	器形	器高	口径	胴径	底径	内面	外面			
361	92A	SE107	供膳具	碗	丸碗	—	—	—	4.7	灰釉	灰釉	肥前	高台内押印「中村金」, 18世紀前~中	E-471
362	"	"	"	"	広東碗	6.0	(10.9)	—	4.9	"	"	瀬・美	呉須絵・花唐草文+五弁花, 高台剝離痕	25 E-472
363	"	"	"	小碗	丸碗	2.5	(6.2)	—	2.8	—	—	肥前	白磁, 18世紀代	E-473
364	"	"	"	皿	丸皿	2.1	(19.8)	—	(9.8)	鉄釉	鉄釉	瀬・美		E-474
365	"	"	"	鉢	その他	4.1	(15.2)	—	(8.9)	"	"	"		25 E-475
366	"	"	調理具	鉢	捏ね鉢	—	(31.2)	—	—	灰釉	灰釉	"	鉄釉流し掛け	E-476
367	"	"	"	"	片口	—	(10.6)	(10.8)	—	—	—	肥前	染付・草文か	31 E-477
368	"	"	その他	蓋	蓋 D	3.2	8.6	—	—	ナデ	鉄釉	瀬・美	つまみ径1.8cm	36 E-478
369	"	"	"	"	蓋 E	2.0	9.9	—	—	長石釉	長石釉	"	鉄絵・花唐草文・口銹, つまみ径3.9cm	36 E-479
370	"	"	"	その他	その他	59.0	59.4	68.2	65.0	摺漉しナデ	ナデ	常滑	赤物, 井戸枠	E-480

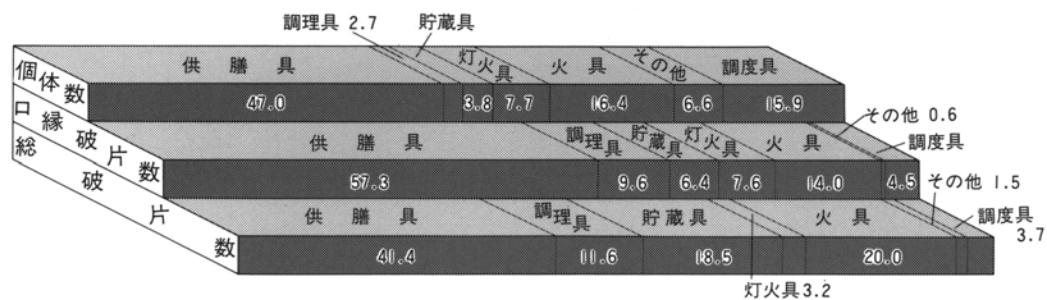
第76図 近世の遺物 (22) SE107 (370は1 : 6, 他は1 : 3)

SK180 本遺構の時期は、19世紀中葉と考えられる。

92年度調査区の南部で検出された土坑である。出土した遺物は総破片数で467点、接合前口縁破片数が160点、個体数は15.50個体である。出土量は少ないが、近世後期の遺構として注目される。本遺跡における、数少ない廃棄土坑の1つである。

この内、供膳具が7.17個体・47.0%、調理具が0.42個体・2.7%、貯蔵具が0.58個体・3.8%、灯火具が1.17個体・7.7%、火具が2.50個体・16.4%、神仏具が1.00個体・6.6%、調度具が2.42個体・15.9%となっている。化粧具は破片のみ出土しているが、喫煙具は出土していない。供膳具等の日常生活に関連する遺物群が減少し、それ以外の副次的な生活に関連する遺物群が増加しているのは、名古屋城三の丸遺跡において指摘されている19世紀代の器種組成の特徴を表しているものと思われる。とくに、火具・神仏具・調度具の増加が著しく、平均値よりもそれぞれ5.1倍・1.9倍・3.2倍となっている。また、蓋類は、総破片数で3点、接合前口縁破片数が3点、個体数では0.25個体と出土量が極端に少なくなっている。

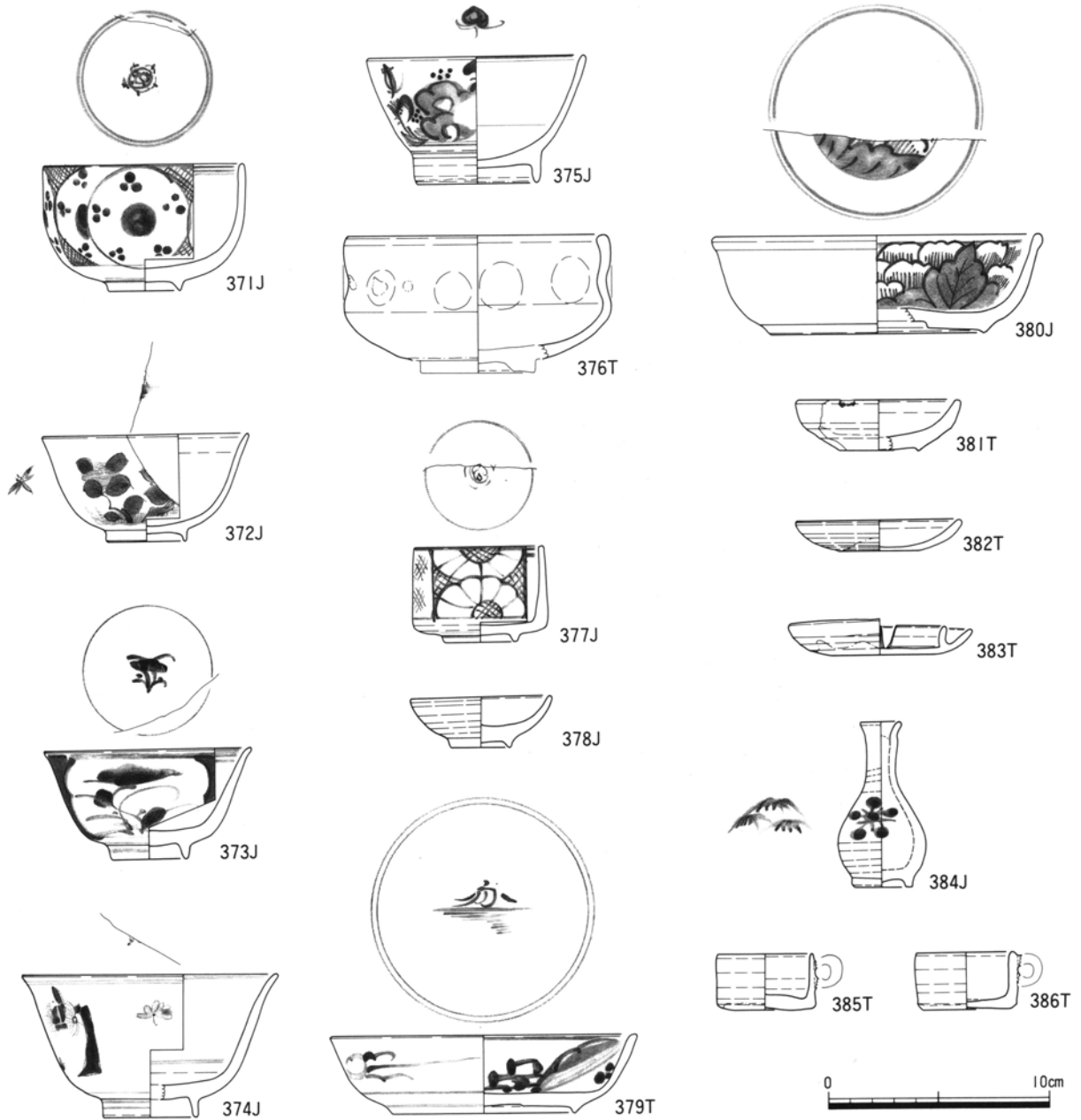
材質面では、土師質製品が個体数が0.00個体であるが、破片数から10%以下であることが読み取れる。陶磁器類では陶器製品が59.0%、磁器製品が33.9%であるが、その他の材質とした軟質陶器や瓦質製品が7.1%と平均値の7.4倍に急増していることがこの遺構の特徴でもある。



第77図 SK180出土陶磁器類の用途組成

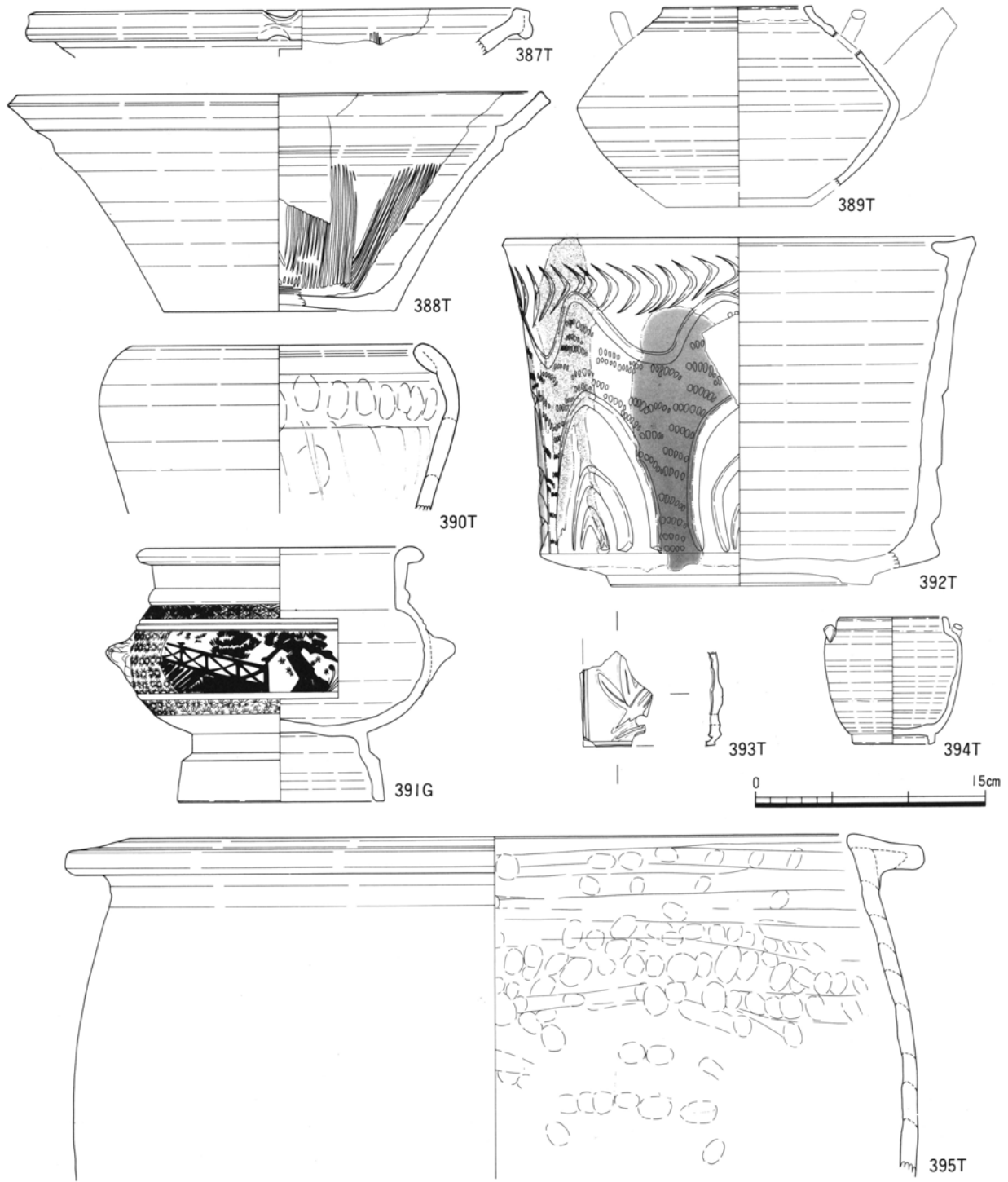
用途	器種	接合後口縁残存率				接合前口縁破片数				総破片数						
		土器	陶器	磁器	その他	計	土器	陶器	磁器	その他	計	土器	陶器	磁器	その他	計
供膳具	碗		8	43		51		11	35		46		26	72		98
	小碗		2	14		16		9	12		21		13	21		34
	皿	0	13			13	2	8			10	21	22		43	
	鉢		1	5		6		5	8		13		8	9		17
	その他					0					0					0
	小計	0	24	62	0	86	2	33	55	0	90	21	69	102	0	192
調理具	鍋、釜	0	1			1	8	2			10	26	4			30
	鉢					0		1			1		2		2	
	播鉢		4			4		4			4		16		16	
	瓶					0					0		6		6	
	その他					0					0		0		0	
	小計	0	5	0	0	5	8	7	0	0	15	26	28	0	0	54
貯蔵具	瓶					0					0		10		10	
	壺					0					0		0		0	
	甕A		6			6		9			9		58		58	
	甕B		1			1		1			1		17		17	
	鉢					0					0		1		1	
	その他					0					0		0		0	
	小計	0	7	0	0	7	0	10	0	0	10	0	86	0	0	86
灯火具		0	14			14	2	10			12	3	12		15	
火具			17		13	30		14		8	22	1	46		46	93
化粧具					0					0		1			1	
神仏具			12			12		1			1		6		6	
喫煙具					0					0					0	
調度具			29			29		7			7		17		17	
蓋			3			3		3			3		3		3	
合計		0	111	62	13	186	12	85	55	8	160	51	268	102	46	467

第13表 SK 180出土陶磁器類集計表



遺物 番号	調査地点	遺構	器種		法量 (cm)				釉薬・調整等		産地	備考	PL	登録 番号		
			用途	器形	器高	口径	胴径	底径	内面	外面						
371	92A	SK180	供膳具	碗	丸碗	5.6	8.8	—	3.2	—	—	肥前	染付・雲の輪文+五弁花, 高台砂融着, 漆継ぎ痕, 1780~1810	24	E-481	
372	"	"	"	"	端反碗	4.7	(9.1)	—	(3.5)	—	—	"	染付・花卉文+水辺に白鷺, 高台砂融着, 19世紀前半	26	E-482	
373	"	"	"	"	"	4.9	(9.2)	—	(3.2)	—	—	瀬・美	染付・花卉文, 1820~幕末	25	E-483	
374	"	"	"	"	"	6.3	(11.2)	—	(4.2)	—	—	肥前	染付・桜文, 焼き継ぎ痕, 1820~幕末	25	E-484	
375	"	"	"	"	広東碗	5.6	(9.6)	—	5.3	—	—	瀬・美	染付・岩に草花文+花卉文, 1810~19世紀中	25	E-485	
376	"	"	"	"	その他	—	(11.5)	—	—	鉄釉	鉄釉	"	長石釉筆散らしか, 凹み10ヶ所か	26	E-486	
377	"	"	"	"	小碗	4.3	(5.7)	—	3.1	—	—	肥前系	染付・菊花散らし文・幾何文+五弁花, 1780~1810	26	E-487	
378	"	"	"	"	皿	丸皿	2.3	6.1	—	2.7	—	—	"	白磁, 高台砂融着, 18世紀代	28	E-488
379	"	"	"	"	"	3.5	(13.5)	—	8.1	灰釉	灰釉	瀬・美	典類絵・唐草文+波に帆掛け舟, 蛇ノ目凹形高台, 19世紀前半	27	E-489	
380	"	"	"	"	鉢	その他	4.4	(14.4)	—	(9.5)	—	青磁釉	肥前	青磁染付・花卉文, 蛇ノ目凹形高台, 焼き継ぎ痕, 18世紀末~19世紀初頭	30	E-490
381	"	"	灯火具	皿	灯明皿	2.3	(7.2)	—	(3.5)	灰釉	灰釉	瀬・美	碁筒底, 口縁部油煙付着, 底部剝離痕		E-491	
382	"	"	"	"	"	1.4	(7.2)	—	(3.5)	鉄釉	鉄釉	"	見込みに剝離痕		E-492	
383	"	"	"	"	灯蓋	1.6	8.0	—	4.2	"	"	"	内外面に剝離痕, 油煙付着		E-493	
384	"	"	神仏具	瓶	神酒徳利B	7.3	1.7	3.9	2.6	—	—	肥前系	染付・梅花文+笛文, 高台砂融着, 18世紀末~19世紀前半	34	E-494	
385	"	"	調度具	餌鉢	餌鉢	2.5	(4.2)	—	2.7	灰釉	灰釉	瀬・美	底部回転糸切痕	35	E-495	
386	"	"	"	"	"	3.5	4.2	—	3.7	"	"	"	底部回転糸切痕		E-496	

第78図 近世の遺物 (23) SK180① (1:3)



遺物 番号	調査地点		器種		法量 (cm)				釉薬・調整等		産地	備考	PL	登録 番号	
	調査区	遺構	用途	器種	器形	器高	口径	胴径	底径	内面					外面
387	92A	SK180	調理具	搗鉢	II類	—	(30.8)	—	—	鉄釉	鉄釉	瀬・美			E-497
388	"	"	"	"	VII類	14.1	(34.2)	—	(15.0)	"	"	"	柵目数19本・1cm単位に3本、内面摩滅破、底部ト チン痕	31	E-498
389	"	"	"	瓶	土瓶	—	(9.6)	(21.0)	—	ナデ	"	"	外面下部煤付着		E-499
390	"	"	火具	鉢	火鉢	—	(18.6)	(23.5)	—	指押え+ナデ	ナデ	常滑	焼き締め、色調：赤橙色		E-500
391	"	"	"	"	瓶掛	16.4	17.2	22.7	13.3	—	—	不明	貼付文・松竹梅文、型打ち成形か？	33	E-501
392	"	"	調度具	水甕	水甕	—	(30.4)	—	—	灰釉	灰釉	瀬・美	銅緑釉・鉄釉流し掛け		E-502
393	"	"	"	水指	水滴	—	—	—	—	指押え	"	"	型押し成形、穿孔(径0.7cm)	35	E-503
394	"	"	貯蔵具	壺	蓋付壺	8.2	(6.7)	(8.9)	5.0	灰釉	"	"	口縁部釉剥ぎ		E-504
395	"	"	"	甕A	V類	—	(47.2)	(55.0)	—	指押え+ナデ	ナデ	常滑	焼き締め		E-505

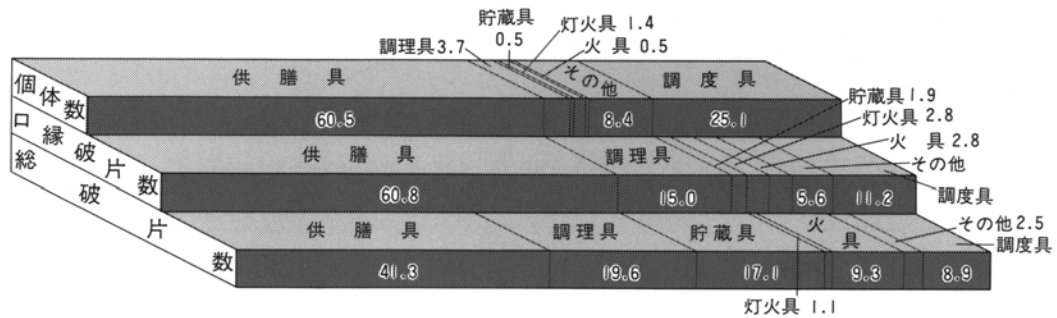
第79図 近世の遺物 (24) SK180② (1 : 4)

SK032 本遺構の時期は、19世紀中葉と考えられる。

93年度調査区の南側で検出された土坑である。出土した遺物は総破片数で290点、接合前口縁破片数が115点、個体数は20.08個体である。出土量は少ないが、近世後期の遺構として注目される。前述したSD102を切っており、一部にこの遺構の遺物を含んでいる可能性がある。

この内、供膳具が10.83個体・60.5%と多く、調理具が0.67個体・3.7%、貯蔵具・火具がそれぞれ0.08個体・0.5%、灯火具が0.25個体・1.4%と極端に減少し、神仏具が1.50個体・8.4%、調度具が4.50個体・25.1%と平均値に比べてそれぞれ2.4倍・5.1倍とかなり高くなっている。化粧具・喫煙具は出土していない。供膳具において、椀類：皿類=1.60：1となっているが、土師器皿を除いてみると、7.27：1と極端に椀類の出土量が増えている。全体的に鉢類の出土量が少ないことは概要でも述べているが、この遺構からの出土が4点しかないことも特筆される。調度具が高い比率を示しているのは、土錘がまとまって出土していることに影響しているものと思われる。また、蓋類は、総破片数で10点、接合前口縁破片数が8点、個体数では2.16個体とやはり出土量は少ない。

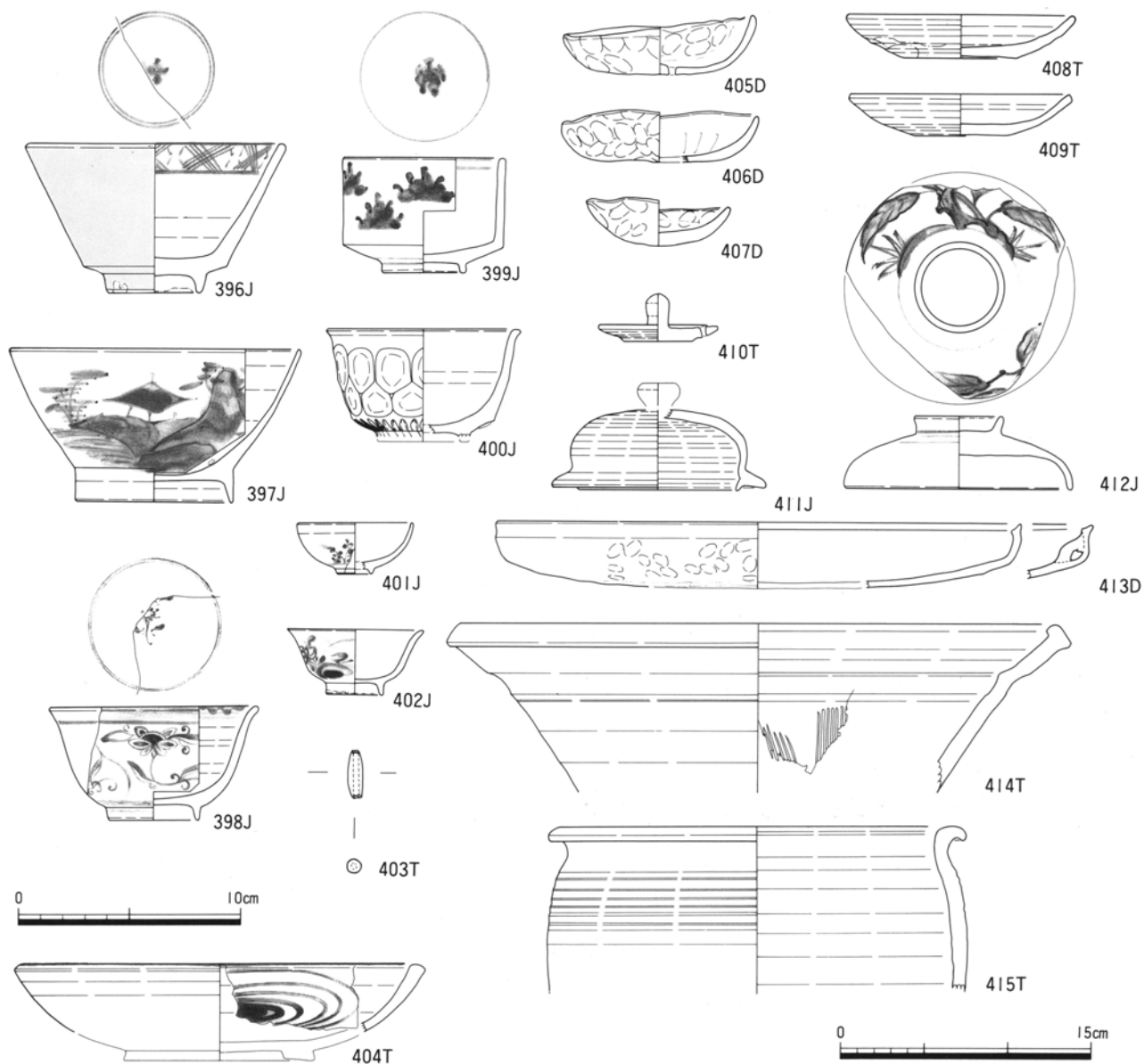
材質面では、土師器製品が土師器皿と土錘の影響で42.8%と高くなり、陶磁器類では陶器製品が22.8%、磁器製品が33.5%となっており、陶器製品が極端に低いことがわかる。その他の材質とした軟質陶器や瓦質製品も、0.9%とほぼ平均値に近い割合で出土している。



第80図 SK032出土陶磁器類の用途組成

用途	器種	接合後口縁残存率				接合前口縁破片数				総破片数						
		土器	陶器	磁器	その他	計	土器	陶器	磁器	その他	計	土器	陶器	磁器	その他	計
供膳具	椀		7	20		27		10	17		27		25	23		48
	小椀		14	39		53		7	11		18		10	14		24
	皿	39	10	1		50	11	7	2		20	19	14	7		40
	鉢					0					0		3	1		4
	その他					0					0					0
	小計	39	31	60	0	130	11	24	30	0	65	19	52	45	0	116
調理具	鍋、釜	1	2			3	5	2			7	25	3		6	34
	鉢		2			2		3			3	4			4	
	搦本		2			2		5			5	14			14	
	瓶		1			1		1			1	3			3	
	その他					0					0				0	
	小計	1	7	0	0	8	5	11	0	0	16	25	24	0	6	55
貯蔵具	瓶					0					0		2		2	
	壺					0					0	2			2	
	甕A		0			0		1			1	31			31	
	甕B		1			1		1			1	13			13	
	鉢					0					0				0	
	その他					0					0				0	
	小計	0	1	0	0	1	0	2	0	0	2	0	48	0	0	48
灯火具		3	0		3		2	1		3	2	1			3	
火具		1	0		1		1		1	3	20	4		2	26	
化粧具					0					0					0	
神仏具		4	12	2	18		2	1	3	6		2	2	3	7	
喫煙具					0					0					0	
調度具	蓋	48	6	0		54	4	7	1	12	4	20	1		25	
	蓋		20	6		26		6	2	8		7	3		10	
合計		92	69	78	2	241	23	54	34	4	115	70	158	51	11	290

第14表 SK032出土陶磁器類集計表



遺物 番号	調査地点		器種		法量 (cm)				釉薬・調整等		産地	備考	PL	登録 番号		
	調査区	遺構	用途	器形	器高	口径	胴径	底径	内面	外面						
396	93B	SK032	供膳具	椀	平椀	6.6	(11.1)	—	(4.0)	—	青磁	肥前	青磁染付・割小菱・五弁花(コンニャク印), 18世紀後半	25	E-506	
397	"	"	"	"	広東椀	6.8	(12.7)	—	6.9	—	—	肥前系	染付・山水樓閣文, 見込みにハマ破, 1780~19世紀前半	25	E-507	
398	"	"	"	"	端反椀	5.0	(9.1)	—	(3.9)	—	—	関西系	染付・草花文, 焼成不良, 1820~1860		E-508	
399	"	"	"	"	小椀	筒椀	5.1	7.0	—	3.6	—	—	肥前	染付・若松文+五弁花(コンニャク印), 高台に砂融着, 1780~1820	26	E-509
400	"	"	"	"	端反椀	—	(8.3)	—	—	—	—	関西系	焼成不良, 19世紀代	26	E-510	
401	"	"	"	"	丸椀	2.3	(5.0)	—	(1.5)	—	—	肥前	染付・葦文, 18世紀後半~19世紀前半		E-511	
402	"	"	"	"	端反椀	2.9	(5.9)	—	(2.5)	—	—	瀬・美	染付・草花文, 1820~1860		E-512	
403	"	"	調度具	その他	その他	2.1	—	0.7	—	—	—	不明	土鍾, 色調: 橙色, 穴径0.3cm		E-513	
404	"	"	供膳具	皿	丸皿	—	(23.4)	—	—	—	長石釉	長石釉	瀬・美	鉄絵・馬の目文		E-514
405	"	"	"	"	土師器皿B	2.2	8.4	—	—	指押え+ナテ	指押え	不明	色調: 浅黄橙色, 底部穿孔(径0.4cm)	34	E-515	
406	"	"	"	"	"	1.9	8.5	—	—	ケズリ+ナテ	"	"	色調: 淡橙色		E-516	
407	"	"	"	"	"	1.9	6.2	—	—	指押え+ナテ	"	"	色調: 淡橙色	29	E-517	
408	"	"	灯火具	皿	灯明皿	1.9	(9.8)	—	4.9	鉄釉	鉄釉	瀬・美	見込み・底部に重ね焼きの剝離痕		E-518	
409	"	"	"	"	"	1.8	(9.7)	—	4.1	"	"	"	見込み・底部に重ね焼きの剝離痕		E-519	
410	"	"	その他	蓋	蓋I	2.1	(5.3)	—	—	—	ナテ	不明	つまみ径1.1cm, 底部回転糸切痕, 底部押印, 焼き締め		E-520	
411	"	"	"	"	蓋H	—	(9.4)	—	—	—	—	肥前	白磁, 17世紀後半~18世紀前半	36	E-521	
412	"	"	"	"	蓋E	3.2	(10.0)	—	—	—	—	"	染付・折り枝文, 内面ハマ破, つまみ径3.9cm, 1780~1810	36	E-522	
413	"	"	調理具	鍋, 釜	焙烙	—	(31.2)	—	—	ナテ	指押え+ケズリ	不明	色調: 明赤褐色, 外面煤付着		E-523	
414	"	"	"	"	播鉢	VIII類	—	(35.3)	—	—	鉄釉	鉄釉	瀬・美	櫛目数不明, 1cm単位に4本		E-524
415	"	"	貯蔵具	甕B	甕	—	(23.0)	(25.0)	—	—	"	"	"		E-525	

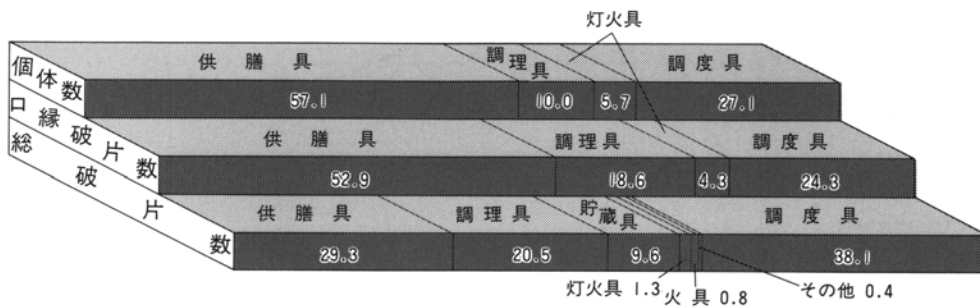
第81図 近世の遺物 (25) SK032 (404, 413~415は1:4, 他は1:3)

SK092 本遺構の時期は、19世紀中葉と考えられる。

93年度調査区の中央で検出された土坑である。出土した遺物は総破片数で254点、接合前口縁破片数が80点、個体数は8.50個体である。出土量は少ないが、近世後期の遺構として注目される。

この内、供膳具が3.33個体・57.1%と多く、調理具が0.58個体・10.0%、灯火具が0.33個体・5.7%、調度具が1.58個体・27.1%となっている。貯蔵具・火具・喫煙具については破片が出土しているが、化粧具・神仏具は出土していない。用途組成にはかなりの片寄りがみられるが、供膳具等の日常的な生活に関連する遺物群の比率が減少し、副次的な生活に関連する遺物群の割合が高くなっており、19世紀代の様相を示しているものと思われる。調度具については、平均値の5.5倍にも増えていることを読み取ることができる。また、蓋類は、総破片数で15点、接合前口縁破片数が10点、個体数では2.67個体と出土量は少ない。

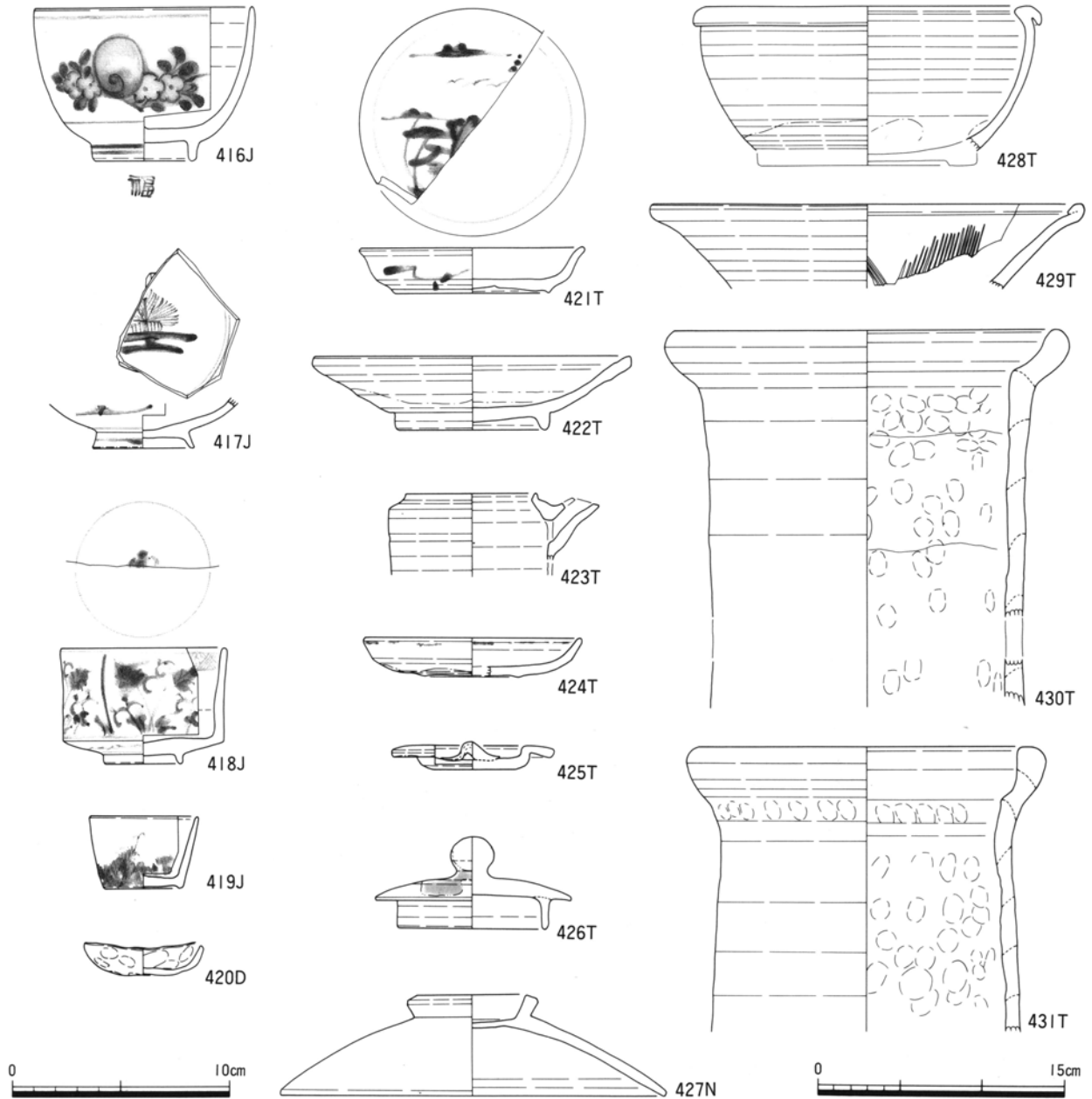
材質面については、土師質製品が21.4%とやや低くなり、陶磁器類では陶器製品が62.9%、磁器製品が15.7%となっており、磁器製品が極端に低いことがわかる。しかし、土師質製品の比率が本遺跡においては依然高く、19世紀代に土師質製品が減少する傾向にあるとしても、その割合は名古屋城三の丸遺跡よりも緩やかなのではないだろうか。



第82図 SK092出土陶磁器類の用途組成

用途	器種	接合後口縁残存率					接合前口縁破片数					総破片数				
		土器	陶器	磁器	その他	計	土器	陶器	磁器	その他	計	土器	陶器	磁器	その他	計
供膳具	碗		6	4		10		9	9		18		23	14		37
	小碗			3		3			2		2		2	2		4
	皿	15	8	4		27	6	7	3		16	14	6	7		27
	鉢		0			0		1			1		1	1		2
	その他					0					0					0
	小計		15	14	11	0	40	6	17	14	0	37	14	32	24	0
調理具	鍋、釜	0	1			1	2	2			4	12	3			11
	鉢		3			3		5		5		11				11
	播鉢		2			2		3		3		9				9
	瓶		1			1		1		1		3				3
	その他					0					0					0
	小計		0	7	0	0	7	2	11	0	0	13	12	26	0	11
貯蔵具	瓶					0					0		6			6
	壺					0				0						0
	甕A					0				0		13				13
	甕B					0				0		4				4
	鉢					0				0						0
	その他					0					0					0
小計		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	23	0	0	23	
灯火具		0	4			4	2	1			3	2	1			3
火具						0				0	1	1				2
化粧具						0				0						0
神仏具						0				0						0
喫煙具						0				0		1				1
調度具			19			19		17			17		91			91
蓋			24		8	32		2		8		2			13	15
合計		15	68	11	8	102	10	48	14	8	80	29	177	24	24	254

第15表 SK 092出土陶磁器類集計表



遺物 番号	調査地点		器種		量法 (cm)				釉薬・調整等		産地	備考	PL	登録 番号	
	調査区	遺構	用途	器形	器高	口径	胴径	底径	内面	外面					
416	93B	SK092	供膳具	碗	丸碗	6.9	(9.8)	—	4.4	—	—	肥前	染付・折り枝文+「福」字文, 1650~1660	24	E-526
417	〃	〃	〃	〃	〃	—	—	—	4.5	—	—	〃	染付・若松文, 18世紀第四半期~1810	25	E-527
418	〃	〃	〃	小碗	筒碗	5.2	(7.4)	—	(3.4)	—	—	〃	染付・唐草文・飛龍文+割小蓋・五弁花(コンニャク印), 1780~1810	26	E-528
419	〃	〃	〃	〃	蕎麦猪口	3.3	4.9	—	3.4	—	—	〃	染付・草文, 18世紀後半~19世紀初	26	E-529
420	〃	〃	〃	皿	土師器皿B	1.5	5.2	—	—	指押え+ナデ	指押え	不明	色調: 橙色, 底部は火を受け明赤褐色に変色	29	E-530
421	〃	〃	〃	〃	端反皿	2.1	(10.0)	—	(7.0)	灰釉	灰釉	瀬・美	呉須絵・山水文+折り枝文, 蛇ノ目高台, 19世紀前半		E-531
422	〃	〃	〃	〃	丸皿	3.3	(14.2)	—	6.6	〃	〃	〃	輪禿皿		E-532
423	〃	〃	貯蔵具	瓶	汁次B	—	(5.8)	(6.6)	—	鉄釉	鉄釉	〃	口縁部釉剥ぎ		E-533
424	〃	〃	灯火具	皿	灯明皿	1.8	(9.8)	—	(4.2)	〃	〃	〃	口縁部油煙付着, 見込み・底部に重ね焼きの剥離痕		E-534
425	〃	〃	その他	蓋	蓋B	1.3	7.3	—	3.6	〃	〃	〃	底部回転糸切痕		E-535
426	〃	〃	〃	〃	蓋D	4.2	(6.6)	8.9	—	ナデ	〃	〃	縁釉かかる, つまみ径1.9cm	36	E-536
427	〃	〃	〃	〃	蓋E	4.5	17.4	—	—	鉛釉	鉛釉	不明		36	E-537
428	〃	〃	調理具	鉢	捏ね鉢	—	(19.6)	(20.1)	—	灰釉	灰釉	〃	見込み釉剥ぎ(2ヶ所残存)		E-538
429	〃	〃	〃	播鉢	VIII類	—	(26.0)	—	—	鉄釉	鉄釉	〃	櫛目数19本か		E-539
430	〃	〃	調度具	その他	土管	—	(22.6)	(19.1)	—	指押え+ナデ	ナデ	常滑		35	E-540
431	〃	〃	〃	〃	〃	—	(18.6)	(18.2)	—	〃	〃	常滑	外面に指押え痕残る	35	E-541

第83図 近世の遺物 (26) SK092 (428~431は1:4, 他は1:3)

その他の遺構合計

今回の発掘調査で数多くの遺構を検出しているが、まとめて遺物を出土しているのは屋敷地境の溝や井戸がほとんどで、廃棄土坑等の大型の遺構を見ることができない。前出した遺構以外の遺構をここでまとめて見ることにしたい。集計表・組成図については、近世遺構出土分より前掲の9つの遺構分を引いたもので表している。これらの遺構は、18世紀後葉までのものと18世紀末から19世紀中葉までのものの2つの時期に分けることができる。出土した遺物の合計は、総破片数で15,313点、接合前口縁破片数は3,989点、個体数は291.42個体である。

この内、供膳具が164.33個体・60.7%、調理具が21.67個体・8.0%、貯蔵具が20.75個体・7.7%、灯火具が33.08個体・12.2%、火具が10.33個体・3.8%、化粧具が2.67個体・1.0%、神仏具が6.33個体・2.3%、喫煙具が0.67個体・0.3%、調度具が10.75個体・4.0%で、日常的な生活に関連する遺物群の比率が下がり、他の遺物群の出土量が多くなっている。これは、江戸後期の遺構が多いことに起因しているものと思われる。また、蓋類は、総破片数で207点、接合前口縁破片数が141点、個体数では20.83個体とやはり出土量は少ない。

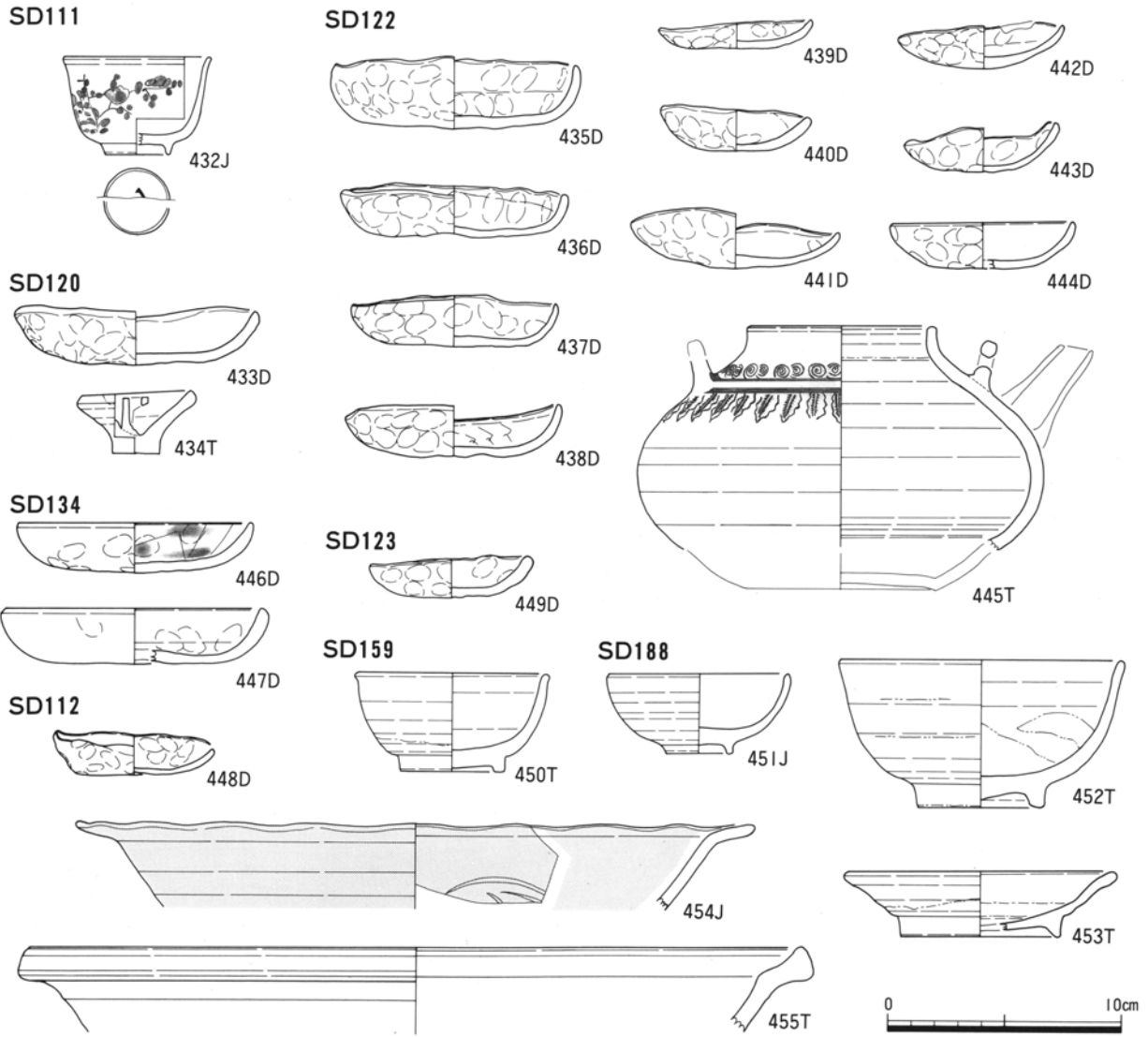
材質面では、土師質製品が31.5%に対して、陶磁器類では陶器製品が41.4%、磁器製品が26.0%となっている。その他の材質とした軟質陶器や瓦質製品については、1.1%である。



第84図 その他の遺構出土陶磁器類の用途組成

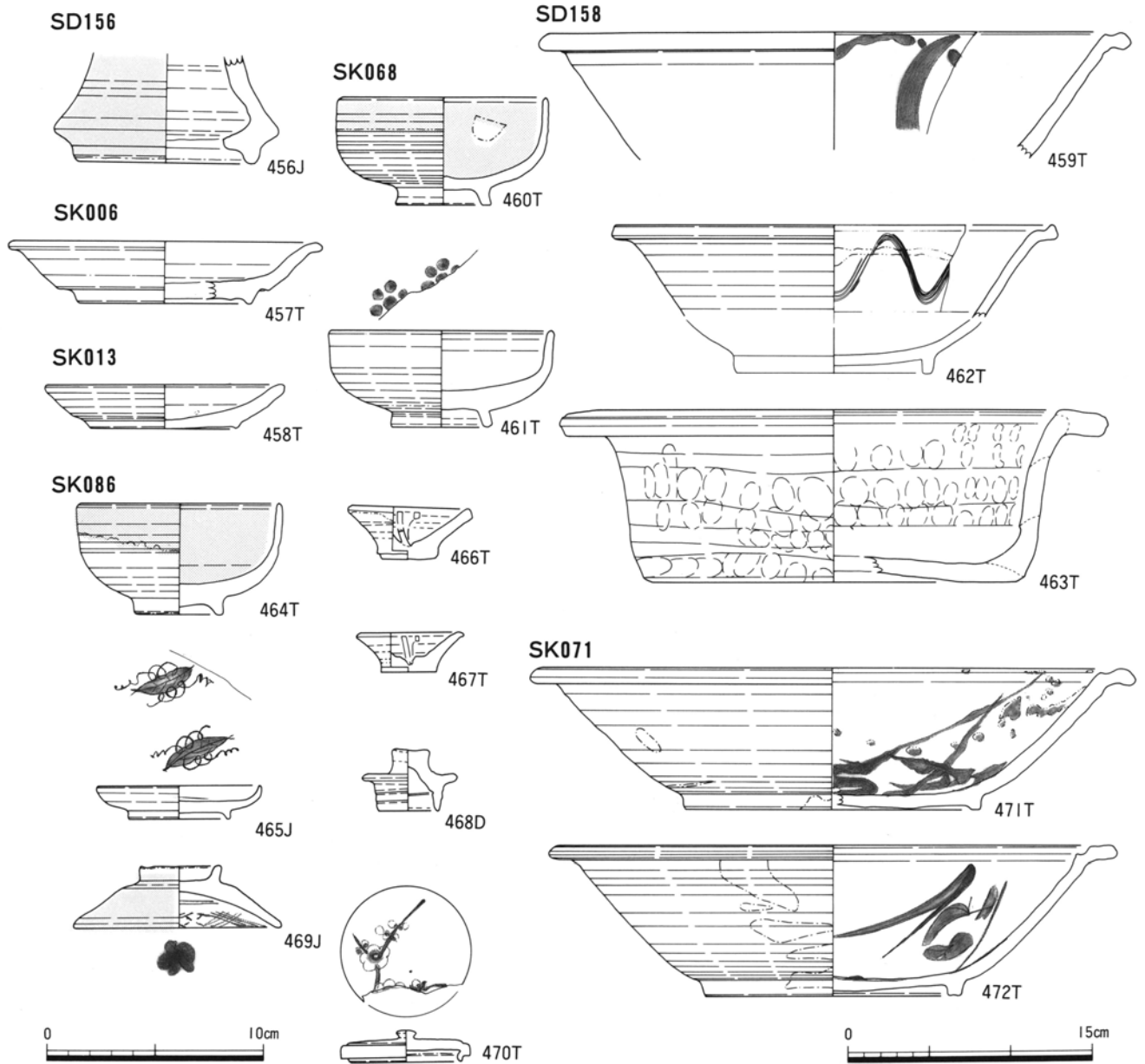
用途	器種	接合後口縁残存率				接合前口縁破片数				総破片数						
		土器	陶器	磁器	その他	計	土器	陶器	磁器	その他	計	土器	陶器	磁器	その他	計
供膳具	碗	0	208	308	0	516	0	360	449	0	809	0	1155	1081	2	2238
	小碗	0	65	286	0	351	0	51	251	0	302	0	102	465	0	567
	皿	746	181	113	0	1040	767	247	174	1	1189	1733	548	425	1	2707
	鉢	0	37	27	1	65	0	84	39	1	124	0	293	92	7	392
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	小計	746	491	734	1	1972	767	742	913	2	2424	1733	2098	2063	10	5904
調理具	鍋、釜	34	30	0	2	66	255	29	0	11	295	1788	110	0	53	1951
	鉢	3	43	2	0	48	2	74	2	0	78	2	189	2	0	193
	播鉢	0	81	0	0	81	0	186	0	0	186	0	662	0	0	662
	瓶	0	37	28	0	65	0	23	13	0	36	0	231	58	1	290
	その他	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	1	2	0	3
	小計	37	191	30	2	260	257	313	15	11	596	1790	1193	62	54	3099
貯蔵具	瓶	0	65	4	0	69	0	9	1	0	10	0	272	27	1	300
	壺	4	49	0	0	53	3	21	0	0	24	32	128	2	0	162
	甕A	0	68	0	0	68	0	113	0	0	113	0	2570	0	0	2570
	甕B	0	35	0	0	35	0	44	0	0	44	0	329	0	0	329
	鉢	0	17	7	0	24	0	12	15	0	27	0	20	29	0	49
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	小計	4	234	11	0	249	3	199	16	0	218	32	3319	58	1	3410
灯火具		199	182	0	12	397	167	69	0	10	246	290	144	1	27	462
火具		32	75	0	21	124	43	118	0	16	177	467	868	0	102	1437
化粧具		0	24	8	0	32	0	7	4	0	11	0	17	20	0	37
神仏具		0	32	44	0	76	0	29	15	0	44	0	60	46	0	106
喫煙具		0	6	2	0	8	0	7	3	0	10	0	16	4	0	20
調度具		4	110	15	0	129	4	114	4	0	122	38	554	37	2	631
蓋		20	166	61	3	250	3	84	47	7	141	4	135	61	7	207
合計		1042	1511	905	39	3497	1244	1682	1017	46	3989	4354	8404	2352	203	15313

第16表 その他の遺構出土陶磁器類集計表



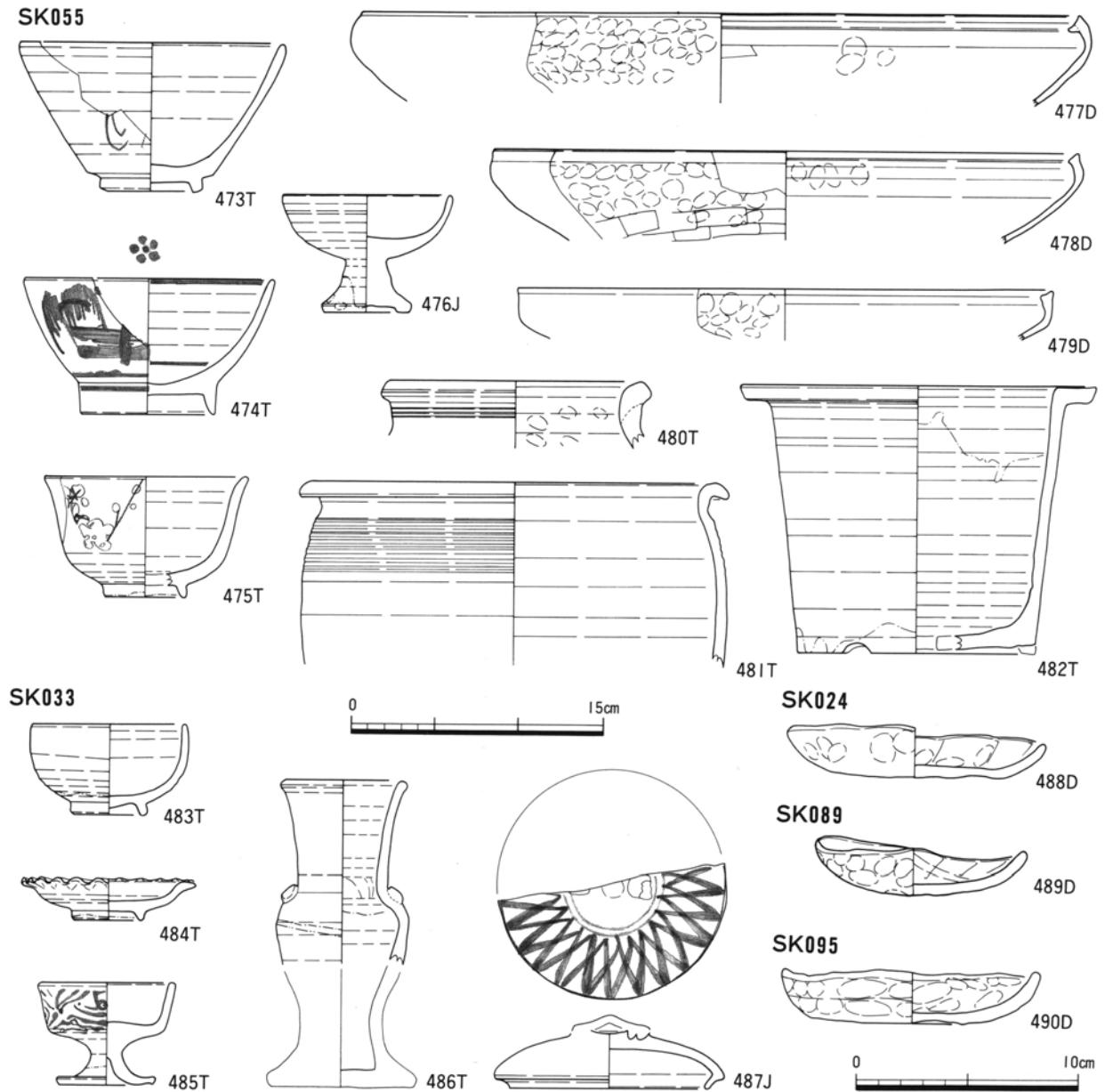
遺物 番号	調査地点 調査区	遺構	器種		法量 (cm)				釉薬・調整等		産地	備考	PL	登録 番号	
			用途	器種	器形	器高	口径	胴径	底径	内面					外面
432	93B	SD111	供膳具	小碗	端反碗	4.1	(6.2)	—	(2.6)	—	—	肥前	染付・草花文・蝶文+変形文字, 18世紀代	26	E-542
433	"	SD120	"	皿	土師器皿B	2.3	9.9	—	—	ナテ	指押え+ナテ	不明	色調：浅黄橙色		E-543
434	"	"	灯火具	秉燭	III類	2.5	4.6	—	(2.0)	灰釉	ナテ	瀬・美	底部回転糸切痕		E-544
435	"	SD122	供膳具	皿	土師器皿B	2.7	10.0	—	—	指押え+ナテ	指押え	不明	色調：黄橙色	34	E-545
436	"	"	"	"	"	1.9	9.2	—	—	"	"	"	色調：にふい黄橙色, 短径8.9cm	34	E-546
437	"	"	"	"	"	1.8	8.6	—	—	"	"	"	色調：浅黄橙色, 短径8.1cm	34	E-547
438	"	"	"	"	"	2.0	8.8	—	—	"	"	"	色調：浅黄橙色	34	E-548
439	"	"	"	"	"	1.1	6.3	—	—	"	"	"	色調：にふい橙色		E-549
440	"	"	"	"	"	1.7	6.0	—	—	"	"	"	色調：にふい黄橙色		E-550
441	"	"	灯火具	皿	灯明皿	1.8	8.6	—	—	"	"	"	色調：淡橙色, 内面油煙付着, 短径8.1cm		E-551
442	"	"	供膳具	皿	土師器皿B	1.6	6.9	—	—	"	"	"	色調：浅黄橙色		E-552
443	"	"	"	"	"	1.7	6.1	—	—	"	"	"	色調：浅黄橙色, 短径5.8cm	29	E-553
444	"	"	灯火具	皿	灯明皿	2.0	(7.6)	—	—	ナテ	"	"	色調：にふい黄橙色, 内外面油煙付着		E-554
445	"	"	調理具	瓶	土瓶	—	(7.6)	(17.2)	—	"	緑釉	瀬・美	押印・渦巻文・木の葉文		E-555
446	"	SD134	灯火具	皿	灯明皿	2.1	(9.8)	—	—	指押え+ナテ	指押え	不明	色調：灰白色, 内外面油煙付着		E-556
447	"	"	供膳具	皿	土師器皿B	2.3	(10.7)	—	—	指押え+ナテ	"	"	色調：浅黄橙色		E-557
448	"	SD112	灯火具	皿	灯明皿	1.5	6.7	—	—	"	"	"	色調：明黄褐色, 内外面油煙付着, 短径6.0cm	29	E-558
449	"	SD123	供膳具	皿	土師器皿B	1.7	6.6	—	—	"	"	"	色調：にふい橙色, 短径5.9cm		E-559
450	92A	SD159	"	小碗	天目碗	4.1	(8.0)	—	(4.3)	鉄釉	鉄釉	瀬・美		26	E-560
451	"	SD188	"	"	丸碗	3.4	7.7	—	3.6	—	—	肥前	白磁, 高台内に砂融着, 18世紀代		E-561
452	"	"	"	"	碗	6.2	(11.8)	—	5.2	鉄釉	鉄釉	瀬・美	灰釉筆散らし		E-562
453	"	"	"	皿	端反皿	2.7	(11.2)	—	(6.8)	灰釉	灰釉	"	見込み蛇ノ目釉剥ぎ	28	E-563
454	"	"	"	鉢	稜花鉢	—	(28.8)	—	—	青磁	青磁	肥前	陰刻, 1650~1660	30	E-564
455	"	"	調理具	播鉢	III類	—	(32.8)	—	—	鉄釉	鉄釉	瀬・美		28	E-565

第85図 近世の遺物 (27) その他の遺構① (1:3)



遺物 番号	調査地点	遺構	器種		法量 (cm)				釉薬・調整等		産地	備考	PL	登録 番号
			用途	器形	器高	口径	胴径	底径	内面	外面				
456	92A	SD156	調度具	花生 壺型	—	—	(10.3)	(8.0)	青磁	青磁	肥前	17世紀末~18世紀前半	35	E-566
457	93B	SK006	供膳具	皿 稜皿	2.8	(13.8)	—	(7.7)	灰釉	灰釉	瀬・美	見込み・高台にトチン痕	28	E-567
458	"	SK013	灯火具	皿 灯明皿	2.0	10.7	—	6.7	"	"	"	内面に油煙付着, 見込み・底部にトチン痕		E-568
459	92A	SD158	供膳具	鉢 折縁鉢	—	(35.5)	—	—	"	"	"	鉄絵・黍文か, 銅緑釉筆散らし		E-569
460	93B	SK068	"	碗 腰錆碗	4.9	(9.2)	—	4.3	"	灰釉+鉄釉	"	見込みトチン痕・高台登付部分重ね焼きによる 剝離痕		E-570
461	"	"	"	皿 丸皿	4.4	(10.1)	—	(4.4)	"	灰釉	"	鉄絵・梅花文	27	E-571
462	"	"	"	鉢 折縁鉢	—	(26.7)	—	—	"	"	"	銅緑釉筆散らし, 黄瀬戸鉢か		E-572
463	"	"	火具	火鉢 火桶	10.5	(28.4)	—	(22.2)	指押え+ナデ	指押え+ナデ	常滑		33	E-573
464	"	SK086	供膳具	碗 丸碗	5.1	(9.0)	—	3.7	灰釉	灰釉+鉄釉	瀬・美	高台にトチン痕, 使用による摩滅痕		E-574
465	"	"	"	皿 丸皿	1.5	(7.4)	—	4.5	—	—	肥前	染付・宝文, 18世紀末~幕末	28	E-575
466	"	"	灯火具	乗燭 皿類	2.4	5.3	—	2.5	灰釉	ケズリ	瀬・美	底部回転糸切痕		E-576
467	"	"	"	"	—	1.8	4.4	—	(2.5)	"	ナデ		33	E-577
468	"	"	その他	蓋 蓋D	2.8	2.8	—	—	ナデ	—	不明	色調: 浅橙色	36	E-578
469	"	"	"	蓋 蓋E	2.8	9.2	—	—	—	青磁	肥前	青磁染付・割小菱・五弁花(コンニャク印), 18世紀後半	36	E-579
470	"	"	"	蓋 蓋D	1.4	5.0	—	—	灰釉	灰釉	関西系	鉄絵+呉須絵+白泥, 梅樹文, 19世紀代	36	E-580
471	"	SK071	供膳具	鉢 折縁鉢	8.6	(35.3)	—	(18.0)	"	"	瀬・美	鉄絵・葛文, 銅緑釉筆散らし, 見込み・高台にト チン痕	30	E-581
472	"	"	"	"	9.1	(33.3)	—	(15.6)	"	"	"	鉄絵・黍文	30	E-582

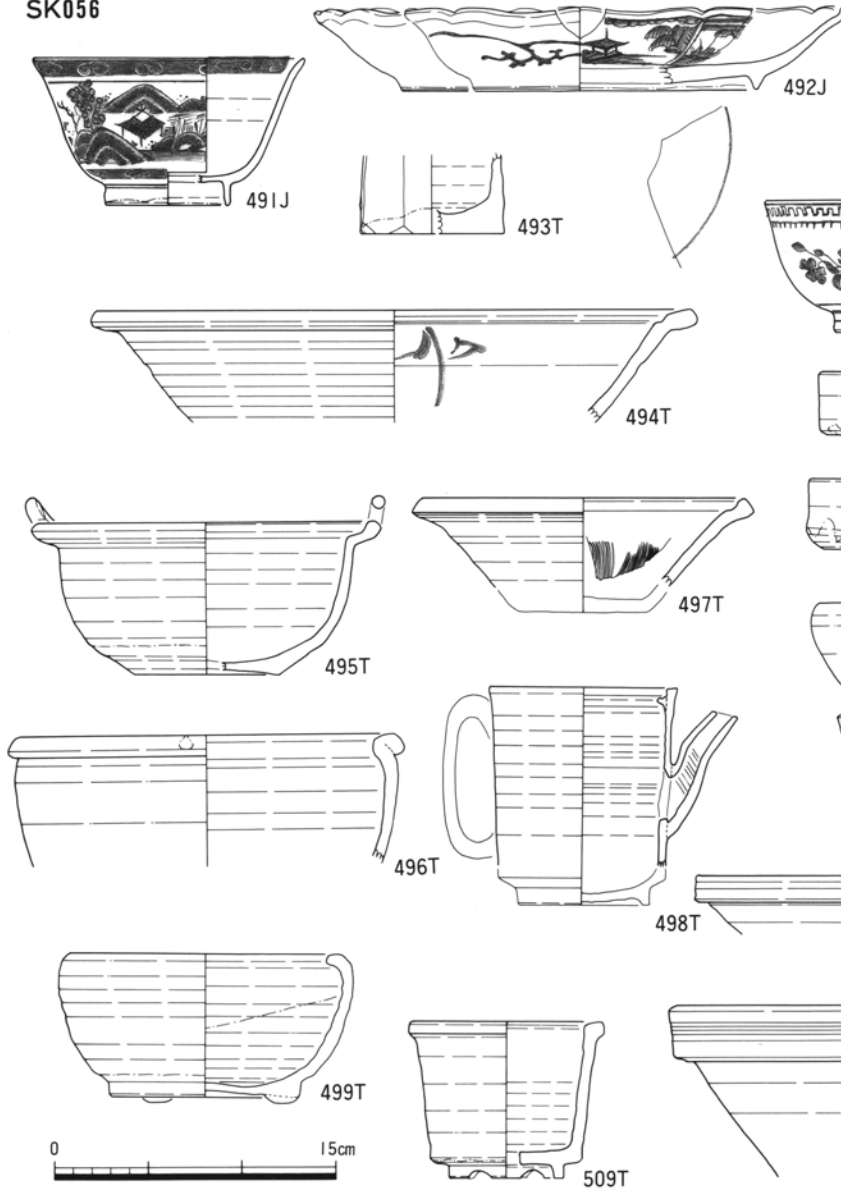
第86図 近世の遺物 (28) その他の遺構② (459・562・463・471・472は1:4, 他は1:3)



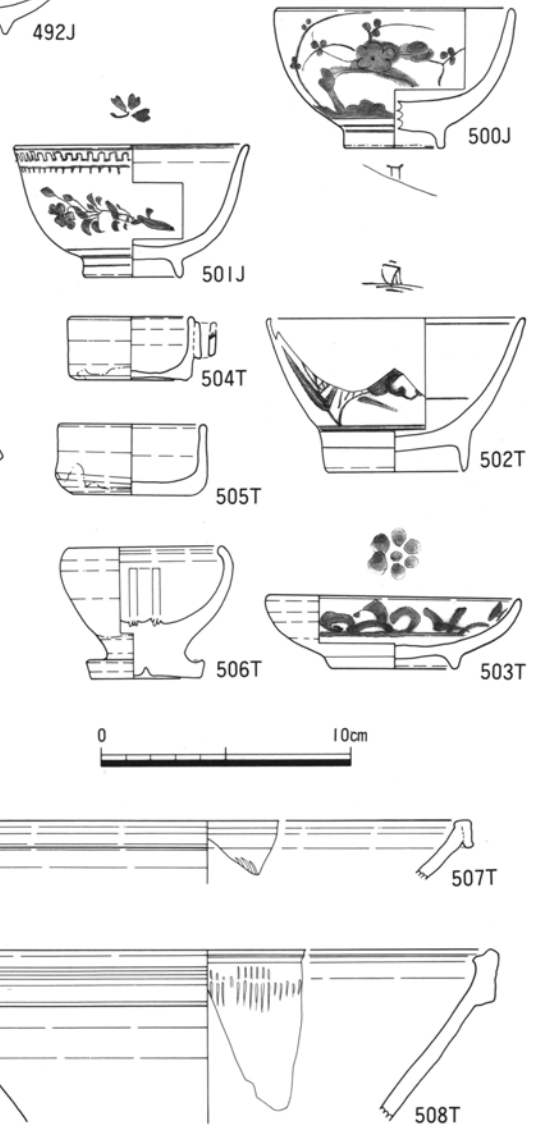
遺物 番号	調査地点		器種		法量 (cm)				釉薬・調整等		産地	備考	PL 登録 番号			
	調査区	遺構	用途	器種	器形	器高	口径	胴径	底径	内面				外面		
473	93B	SK055	供膳具	椀	平椀	6.6	(11.6)	—	(3.6)	灰釉	灰釉	瀬・美	鉄絵・柳文	25	E-583	
474	"	"	"	"	広東椀	6.1	(10.9)	—	5.8	"	"	"	呉須絵・山水文+五弁花	25	E-584	
475	"	"	"	"	端反椀	5.4	(8.9)	—	(3.5)	白泥+透明釉	透明釉	関西系	白泥+鉄絵・梅樹文, 19世紀代		E-585	
476	"	"	神仏具	仏飯器	—	5.3	(7.3)	—	3.8	—	—	肥前	白磁, 18世紀前半	34	E-586	
477	"	"	調理具	鍋, 釜	焙烙	—	(42.8)	—	—	指押え+ナデ	指押え+ナデ	不明	色調: 浅黄橙色, 外面煤付着		E-587	
478	"	"	"	"	"	—	(34.8)	—	—	"	"	"	色調: 赤褐色, 外面煤付着		E-588	
479	"	"	"	"	"	—	(31.9)	—	—	ナデ	"	"	色調: にぶい橙色, 外面煤付着		E-589	
480	"	"	貯蔵具	壺	無蓋壺	—	(15.0)	—	—	指押え+ナデ	ナデ	常滑	焼き締め		E-590	
481	"	"	"	甕B	甕	—	(23.6)	—	—	鉄釉	鉄釉	瀬・美			E-591	
482	"	"	調度具	植木鉢	植木鉢	15.9	(21.0)	—	(14.1)	ナデ	灰釉	"			E-592	
483	"	SK033	供膳具	小椀	丸椀	4.0	6.7	—	3.0	灰釉	"	"			26	E-593
484	"	"	"	皿	ひだ・桜花皿	1.9	(7.6)	—	3.0	"	"	"	口縁部を調整している		29	E-594
485	"	"	神仏具	仏飯器	—	4.5	(5.7)	—	(4.2)	"	"	"	呉須絵		34	E-595
486	"	"	調度具	花生	壺型	—	(5.2)	(5.9)	—	灰釉+ナデ	灰釉+鉄釉	"	灰釉・鉄釉掛け分け		E-596	
487	"	"	その他	蓋	蓋D	—	(8.8)	—	—	—	—	肥前	染付・格子目文, 18世紀後半~19世紀前半	36	E-597	
488	"	SK024	供膳具	皿	土師器皿B	1.8	11.3	—	—	指押え+ナデ	指押え	不明	色調: 浅黄橙色		E-598	
489	"	SK089	"	"	"	2.2	9.2	—	—	ケズリ+ナデ	"	"	色調: にぶい橙色		E-599	
490	"	SK095	灯火具	皿	灯明皿	2.4	11.2	—	—	指押え+ナデ	指押え+ナデ	"	色調: にぶい橙色, 内面油煙付着		E-600	

第87図 近世の遺物 (29) その他の遺構③ (477~482は1:4, 他は1:3)

SK056

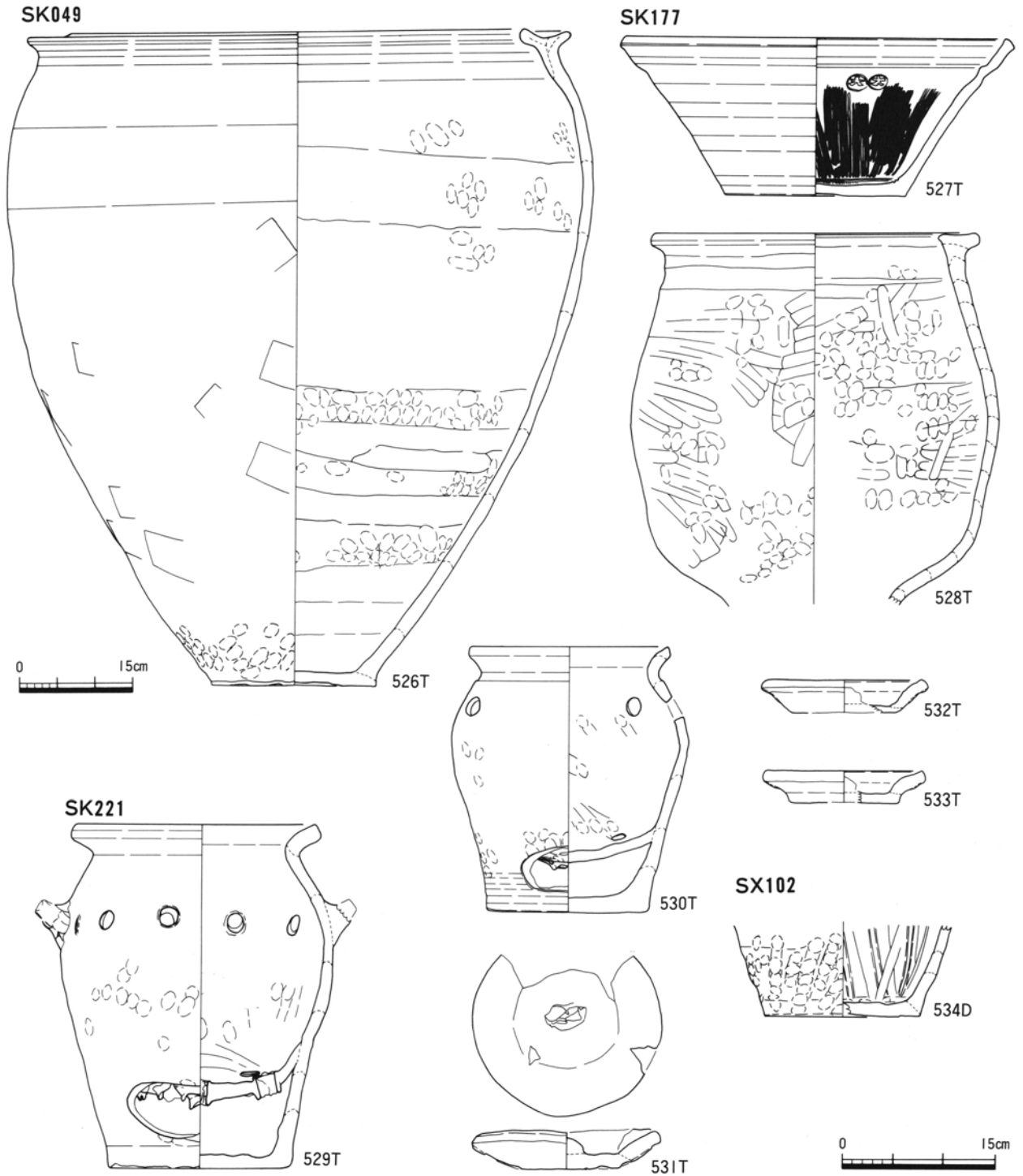


SK053



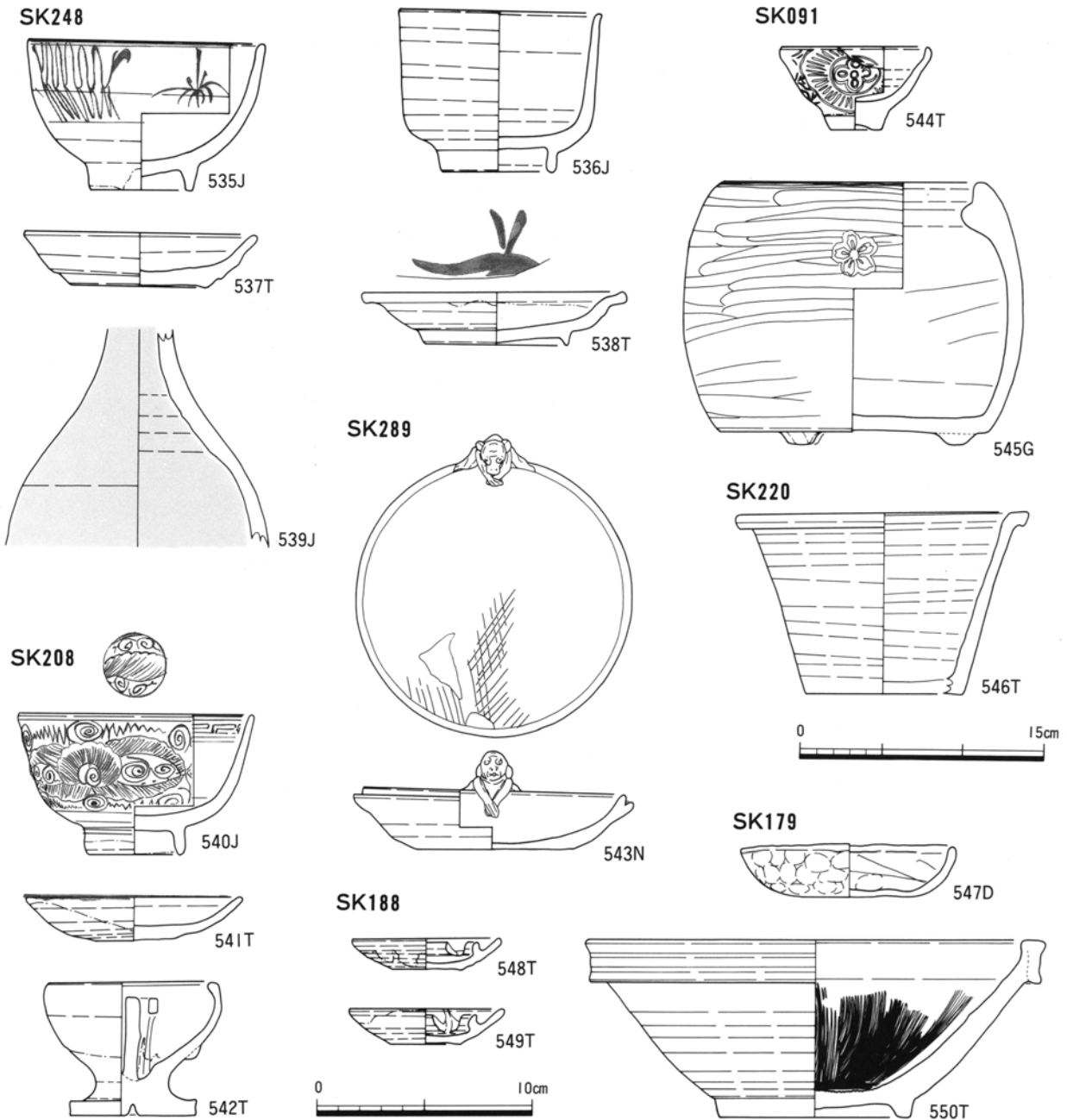
遺物 番号	調査地点		器種		法量 (cm)				釉薬・調整等		産地	備 考	PL	登録 番号	
	調査区	遺構	用途	器種	器形	器高	口径	胴径	底径	内面					外面
491	93B	SK056	供膳具	椀	端反椀	5.8	(10.6)	—	(4.8)	—	—	瀬・美	染付・山水楼閣文, 1820~1860	25	E-601
492	"	"	"	皿	型打皿	3.3	(20.9)	—	(14.0)	—	—	肥前	染付・山水楼閣文+唐草文, 1690~18世紀初	29	E-602
493	"	"	調度具	その他	筒型容器	—	—	—	(5.7)	ナデ	灰釉	瀬・美	練り込み, 八角形	35	E-603
494	"	"	供膳具	鉢	折縁鉢	—	(31.4)	—	—	灰釉	"	"	鉄絵・薦文		E-604
495	"	"	調理具	鍋, 釜	鍋	(7.7)	(17.7)	—	(7.6)	鉄釉	鉄釉	"	底部外面煤付着		E-605
496	"	"	"	鉢	捏鉢	—	(20.1)	—	—	灰釉	灰釉	"	銅緑釉筆散らし		E-606
497	"	"	"	播鉢	VIII類	—	(17.2)	—	—	鉄釉	鉄釉	"	櫛目数15本か, 1cm単位に7本		E-607
498	"	"	"	瓶	汁次B	—	(9.9)	—	—	ナデ	灰釉	"	鉄摺絵・花文	32	E-608
499	"	"	火具	鉢	火鉢	(7.9)	(14.0)	—	(9.8)	鉄釉	鉄釉	"			E-609
500	"	SK053	供膳具	椀	丸椀	5.5	(9.2)	—	(3.9)	—	—	肥前	染付・雪の輪に梅樹文・略字, 高古に砂融着, 18世紀後半		E-610
501	"	"	"	椀	端反椀	5.2	9.1	—	3.8	—	—	瀬・美	染付・桜に折枝文・幾何文+桜花文, 19世紀前半	25	E-611
502	"	"	"	皿	広東椀	6.1	(10.0)	—	(5.5)	—	—	"	染付・水辺に帆掛け舟文, 1780~1820		E-612
503	"	"	"	皿	丸皿	2.9	9.9	—	4.7	灰釉	灰釉	"	呉須絵・草花文・梅文, 高古に使用による摩滅痕	27	E-613
504	"	"	調度具	餌鉢	餌鉢	2.5	(4.7)	—	4.3	"	"	"		35	E-614
505	"	"	"	鉢	"	2.8	5.7	—	4.6	"	"	"	口縁部釉剥ぎ	35	E-615
506	"	"	灯火具	乗燭	II類	5.2	(6.0)	—	4.4	鉄釉	鉄釉	"	底部回転糸切痕, 底部穿孔(径約0.3cm)		E-616
507	"	"	調理具	播鉢	II類	—	(27.7)	—	—	錆釉	錆釉	"			E-617
508	"	"	"	鉢	IX類	—	(29.8)	—	—	—	—	堺	色調: 明赤褐色, 焼成不良, 内面使用による摩滅痕	31	E-618
509	"	"	調度具	植木鉢	植木鉢	8.3	(10.0)	—	(5.9)	鉄釉+ナデ	鉄釉	瀬・美	高古切込み2ヶ所, 見込みに重ね焼きの剥離痕		E-619

第88図 近世の遺物 (30) その他の遺構④ (494~499・507~509は1:4, 他は1:3)



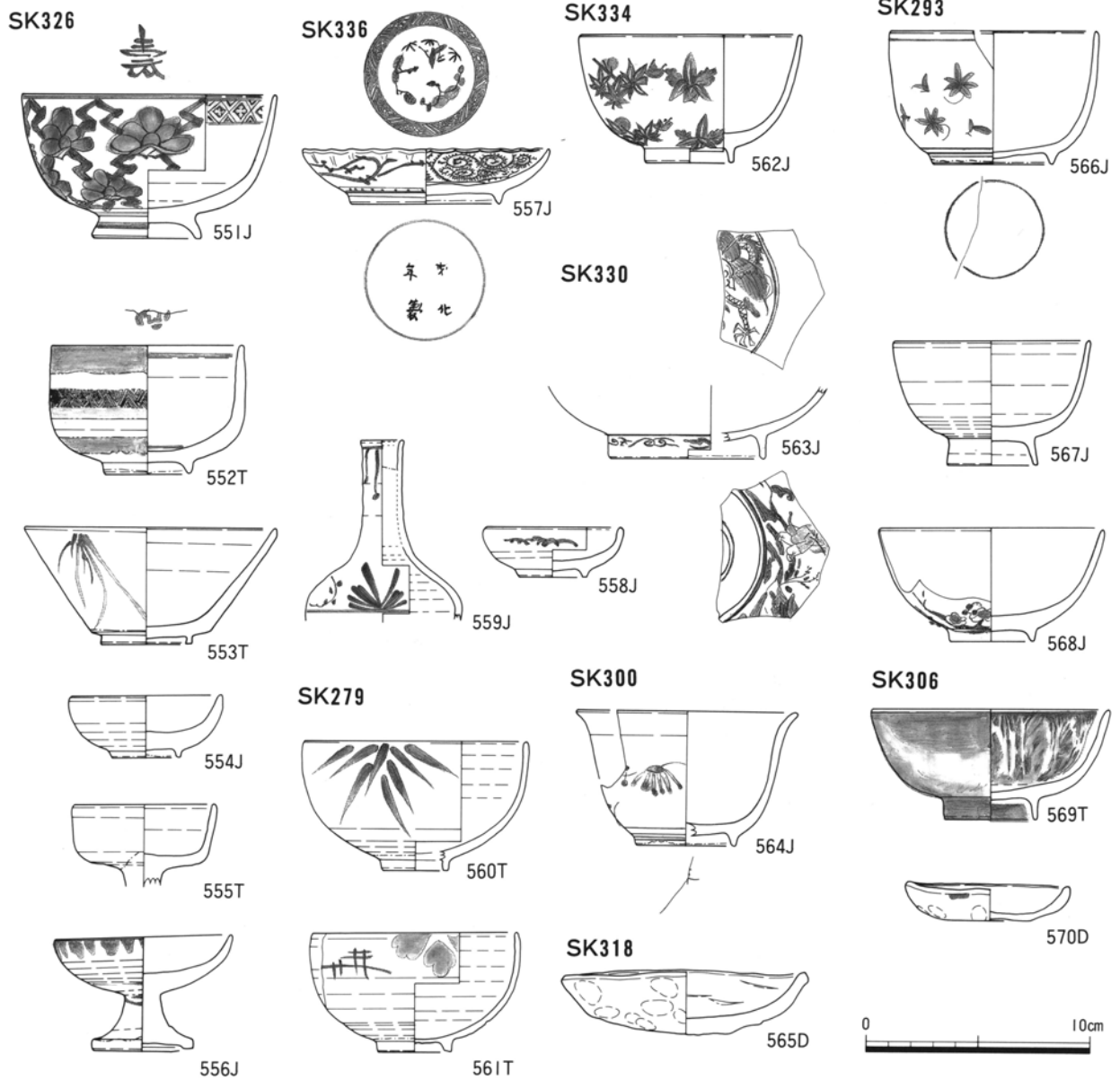
遺物 番号	調査区	調査地点	用途	器種		法量 (cm)				釉薬・調整等		産地	備考	PL	登録 番号
				器種	器形	器高	口径	胴径	底径	内面	外面				
526	93B	SK049	貯蔵具	甕 A	III類	85.9	60.4	78.3	21.7	指押え+ナデ	ナデ	常滑	赤物		E-636
527	"	SK177	調理具	搗鉢	VII類	15.4	(36.7)	—	(17.7)	鉄釉	鉄釉	瀬・美	拂目数16本、1cm単位に4本、押印「高」, 内面使用による摩滅痕		E-637
528	"	"	貯蔵具	甕 A	V類	—	(30.8)	(35.9)	—	指押え+ナデ	指押え+ナズリ	常滑	焼き締め		E-638
529	92A	SK221	火具	鉢	蚊いぶし	33.4	(23.3)	(26.7)	16.3	"	"	"	内部煤付着, 穿孔10ヶ所か	33	E-639
530	"	"	"	"	"	26.0	(19.3)	(23.3)	15.7	"	"	"	内部煤付着, 穿孔6ヶ所	33	E-640
531	"	"	その他	蓋	蓋 A	3.6	17.1	—	9.5	ナデ	ナデ	"	内面煤付着	35	E-641
532	"	"	"	"	"	(3.3)	(16.5)	—	(10.0)	"	"	"	内面煤付着		E-642
533	"	"	"	"	"	(3.1)	(15.8)	—	(10.8)	"	"	"	内面煤付着		E-643
534	93B	SX102	貯蔵具	壺	土師壺	—	—	—	(14.8)	指押え+ナデ	指押え+ナデ	不明	色調: 橙色		E-644

第90図 近世の遺物 (32) その他の遺構⑥ (526は1:8, 他は1:6)



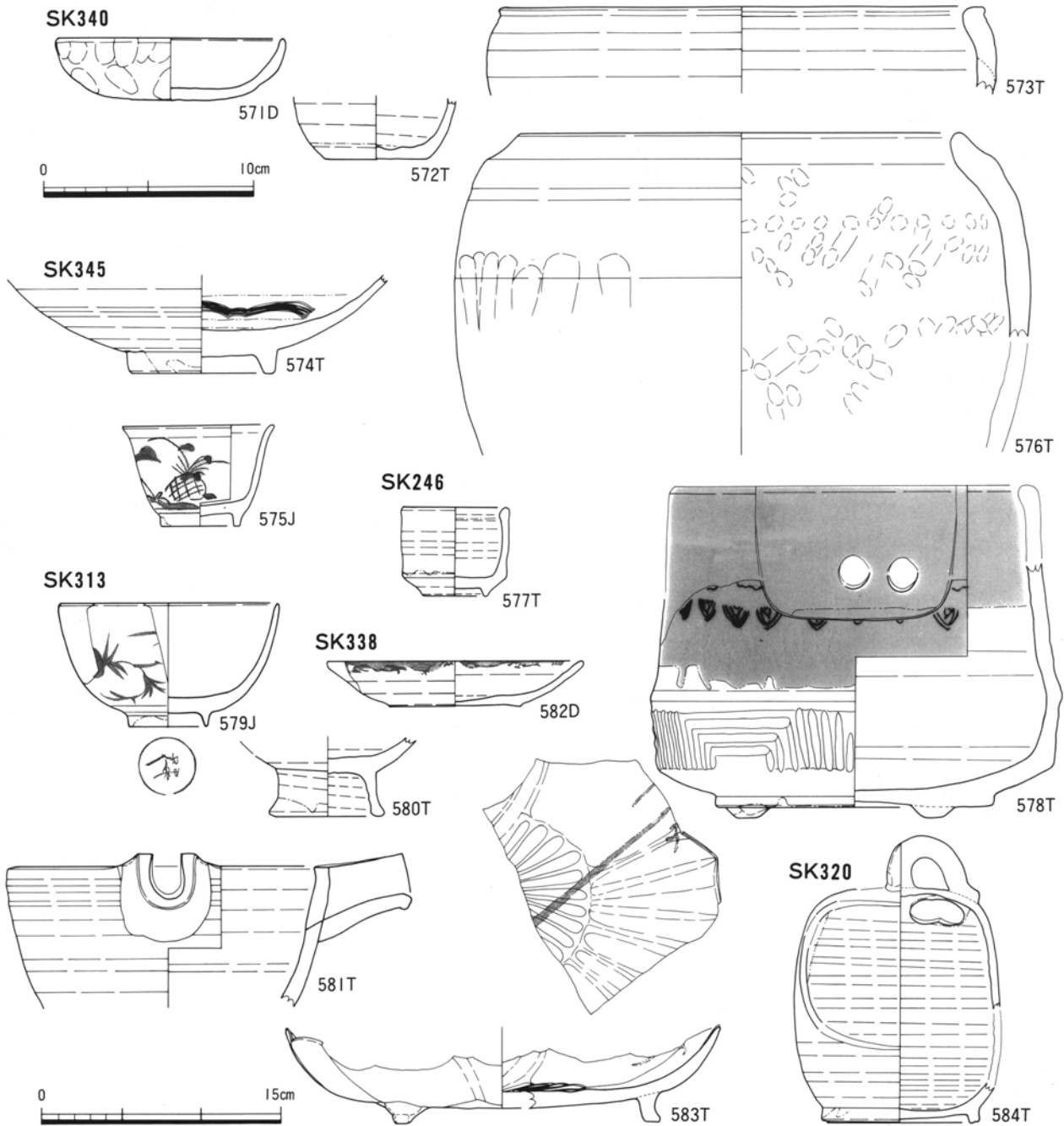
遺物 番号	調査地点		器種		法量 (cm)				釉薬・調整等		産地	備考	PL	登録 番号	
	調査区	遺構	用途	器種	器形	器高	口径	胴径	底径	内面					外面
535	92A	SK248	供膳具	碗	丸碗	6.8	10.7	—	4.6	—	—	肥前	染付・編目文・笹文、高台内露胎、1640~1650	24	E-645
536	"	"	"	"	筒碗	7.5	9.4	—	5.2	—	—	"	白磁か、高台に砂融着、1640~1650	24	E-646
537	"	"	"	皿	丸皿	2.5	10.7	—	6.3	長石釉	長石釉	瀬・美	見込み・高台内にトチン痕、17世紀中		E-647
538	"	"	"	皿	折縁皿	2.5	11.7	—	6.6	灰釉	灰釉	"	鉄絵、笹文、見込みに重ね焼きの刺離痕(径約6.5cm)		E-648
539	"	"	貯蔵具	瓶	その他	—	—	—	—	—	—	肥前	青磁、1630~17世紀後半		E-649
540	"	SK208	供膳具	碗	丸碗	6.4	10.6	—	4.2	—	—	肥前系	染付・花唐草文、1820~1860	25	E-650
541	"	"	灯火具	皿	灯明皿	2.0	9.8	—	3.7	鉄釉	鉄釉	瀬・美	口縁油煙付着、外面底部軸拭き取り、19世紀初	33	E-651
542	"	"	"	乗燭	皿類	6.1	7.4	—	5.8	"	"	"	底部回転系切痕、底部に穿孔(径約0.4cm)、18世紀末		E-652
543	"	SK289	"	皿	灯明皿	2.8	12.0	—	7.2	鉛釉	鉛釉	不明	口縁油煙付着、樽引き、土人形(痕)、色調：橙色	33	E-653
544	93B	SK091	供膳具	小碗	その他	3.8	(6.7)	—	2.4	透明釉	白泥+透明釉	関西系	陰刻・象嵌花文、19世紀代	26	E-654
545	"	"	火具	壺	火消壺	16.1	16.0	20.9	(16.4)	ナデ	ケズリ+ナデ	不明	押印・桜文、口縁部に敲打痕	33	E-655
546	92A	SK220	調度具	植木鉢	植木鉢	11.1	17.7	—	9.6	"	ナデ	"	常滑の赤物か		E-656
547	"	SK179	供膳具	皿	土師器皿B	2.2	9.7	—	—	"	指押え	"	色調：浅黄橙色		E-657
548	"	SK188	灯火具	皿	灯蓋	1.4	6.7	—	3.1	鉄釉	鉄釉	瀬・美			E-658
549	"	"	"	"	"	1.6	7.0	—	3.1	"	"	"	油煙付着、外面体部剥離痕	33	E-659
550	"	"	調理具	播鉢	その他	8.3	(19.9)	—	(8.8)	"	"	"	櫛目数20本、1cm単位に7本		E-660

第91図 近世の遺物 (33) その他の遺構⑦ (547・548は1:4, 他は1:3)



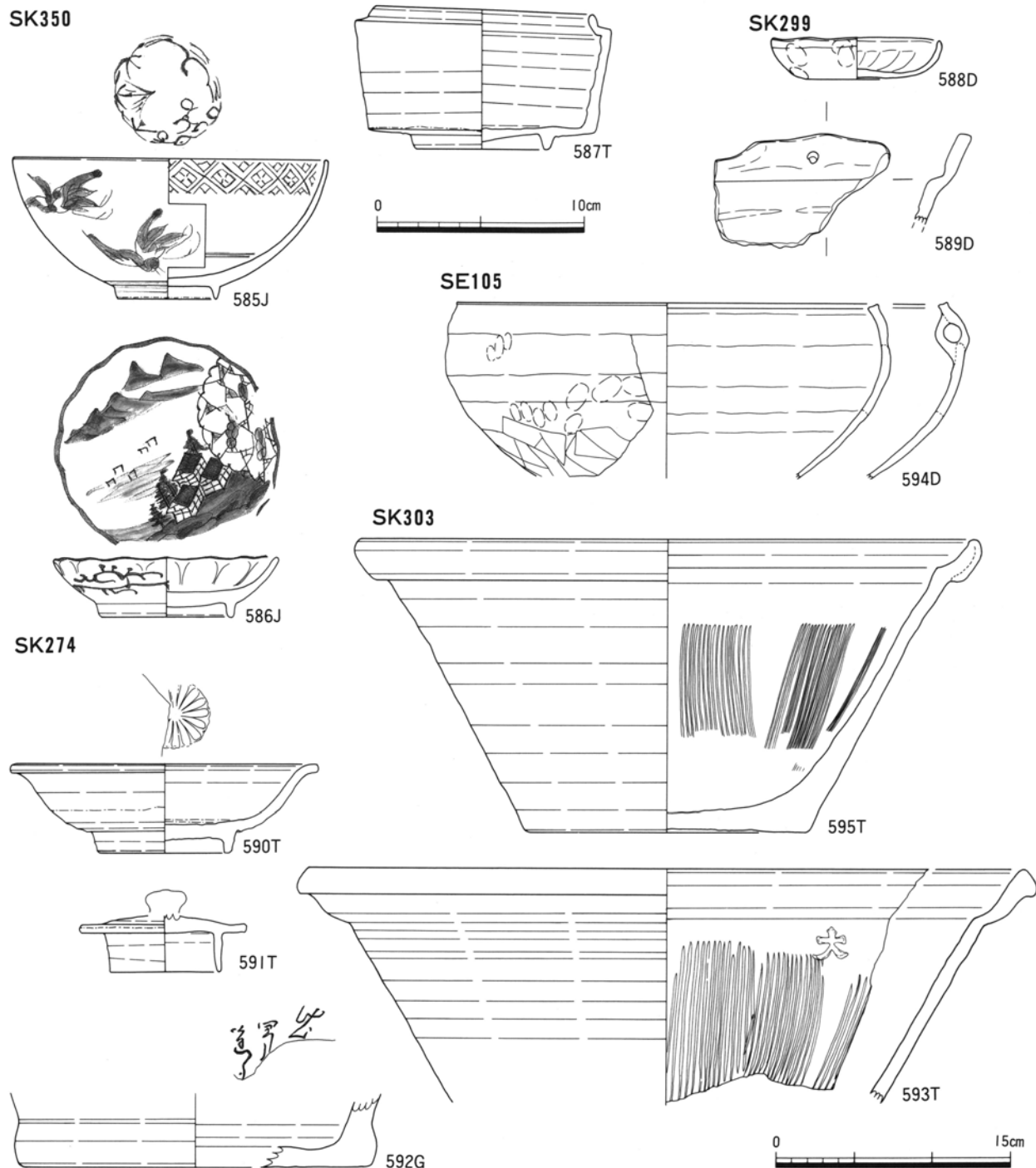
遺物 番号	調査地点		器種		法量 (cm)				釉薬・調整等		産地	備考	PL	登録 番号	
	調査区	遺構	用途	器種	器形	器高	口径	胴径	底径	内面					外面
551	92A	SK326	供膳具	椀	丸椀	6.3	11.1	—	4.6	—	—	肥前	染付・松皮蓋・割小菱・変形壽, 高台内に砂融着, 18世紀後半	24	E-661
552	"	"	"	"	"	5.6	(8.4)	—	(3.7)	灰釉	灰釉	瀬・美	鉄絵+呉須絵・幾何文+五弁花, 19世紀中	23	E-662
553	"	"	"	"	平椀	5.2	11.0	—	4.0	"	"	"	小杉椀, 鉄絵・柳文	25	E-663
554	"	"	"	"	小椀	2.7	6.7	—	2.9	—	—	肥前	白磁か, 高台に砂融着		E-664
555	"	"	神仏具	仏飯器	—	—	6.2	—	—	灰釉	灰釉	瀬・美			E-665
556	"	"	"	"	—	5.0	7.7	—	4.2	—	—	肥前	染付・雨降文, 18世紀前半	34	E-666
557	"	SK336	供膳具	皿	型打皿	2.4	(10.8)	—	(6.6)	—	—	肥前系	染付・繪唐草文・松竹梅文+唐草文+「成化年製」, 1820-幕末	29	E-667
558	"	"	"	小椀	丸椀	2.2	6.0	—	2.9	—	—	肥前	染付・笹文, 18世紀代	28	E-668
559	"	"	神仏具	瓶	神酒徳利 A	—	(1.9)	(6.8)	—	—	—	瀬・美	染付・松竹梅文, 1820-幕末	34	E-669
560	"	SK279	供膳具	椀	丸椀	5.7	(9.6)	—	(2.9)	灰釉	灰釉	関西系	色絵(赤・緑)・笹文か, 18世紀代	23	E-670
561	"	"	"	"	"	5.2	(9.0)	—	3.2	"	"	"	色絵(赤・緑か), 18世紀代	23	E-671
562	"	SK334	"	"	"	(5.6)	(9.7)	—	3.7	—	—	肥前	染付・沢瀉文・紅葉文, 高台に砂融着, 1690-18世紀前半	24	E-672
563	"	SK330	"	"	"	—	—	—	(6.8)	—	—	中国	染錦(赤・緑・黄緑)・龍文+人物文, 17世紀代	24	E-673
564	"	SK300	"	"	端反椀	5.9	(9.7)	—	(4.3)	—	—	肥前	染付・笹文+変形文字, 高台に砂融着, 1660-1680		E-674
565	"	SK318	"	皿	土師器皿 B	2.8	10.5	—	—	指押え+ナズリ	指押え	不明	色調：浅黄橙色	34	E-675
566	"	SK293	"	椀	丸椀	5.9	(9.0)	—	(5.2)	—	—	肥前	染付・紅葉文, 高台内に一重團縁, 1660-1680	24	E-676
567	"	"	"	"	"	5.5	(8.6)	—	3.9	—	—	"	白磁, 18世紀代		E-677
568	"	"	"	"	"	4.9	(9.8)	—	(3.8)	—	—	"	染付・梅樹文・笹文, 18世紀前半~中		E-678
569	"	SK306	"	"	"	4.8	(10.4)	—	(4.1)	白泥+透明釉	白泥+透明釉	"	白泥による打ち刷毛目, 高台に砂融着, 18世紀前半	23	E-679
570	"	"	灯火具	皿	灯明皿	1.6	7.1	—	3.6	ナデ	指押え+ナズリ	不明	色調：淡橙色, 口縁部油煙付着, 見込み押圧痕, 非ロクロ成形		E-680

第92図 近世の遺物 (34) その他の遺構⑧ (1:3)



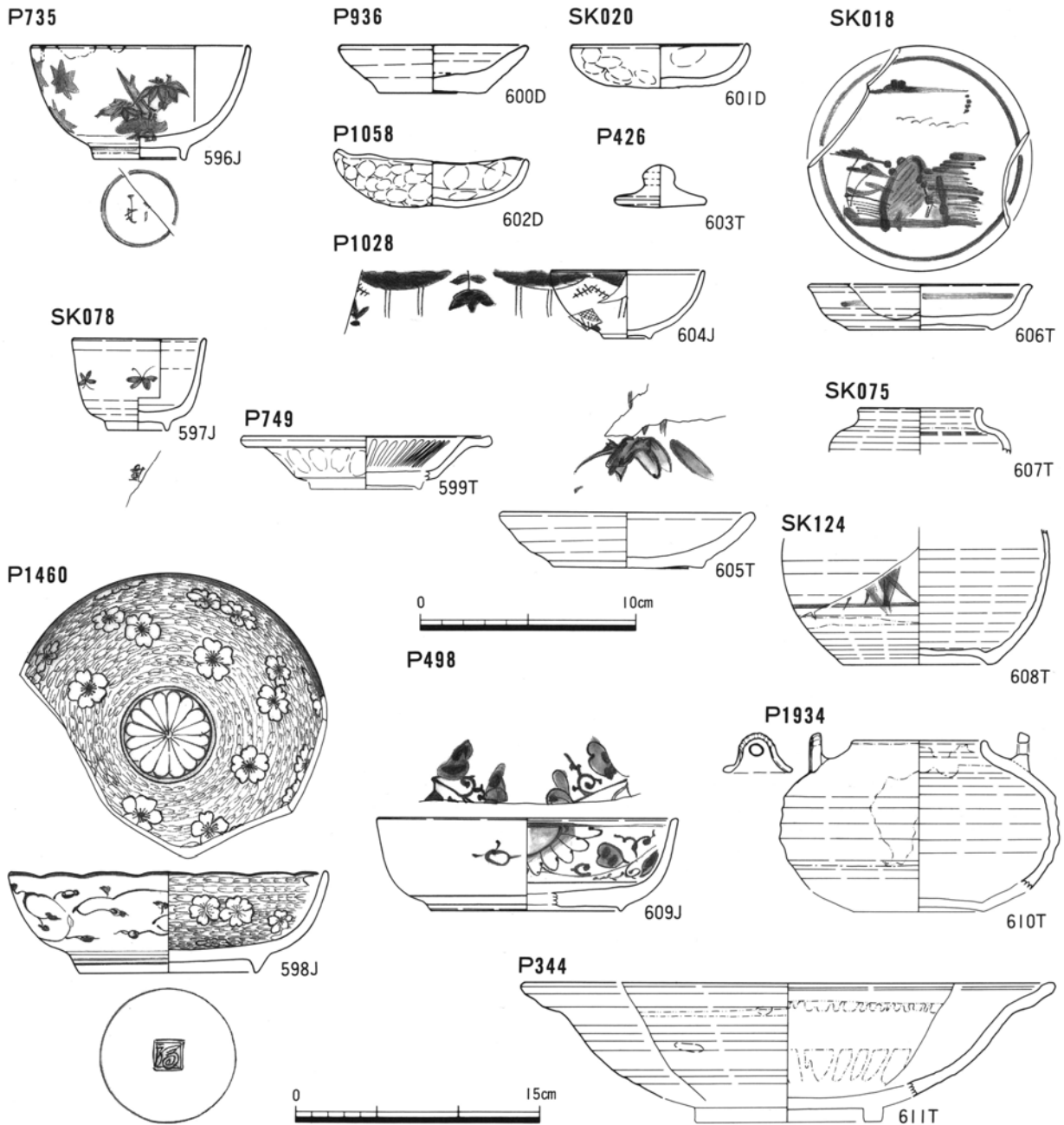
遺物 番号	調査地点 調査区	遺構	器種		法量 (cm)				釉薬・調整等		産地	備考	PL 登録 番号	
			用途	器形	器高	口径	胴径	底径	内面	外面				
571	92A	SK340	灯火具	皿	灯明皿	2.9	(10.5)	—	—	ナデ	指押え	不明	色調：にぶい橙色，内外面油煙付着	E-681
572	"	"	貯蔵具	瓶	その他	—	—	—	4.8	鉄釉	鉄釉	瀬・美	底部回転糸切痕，炭化物付着	E-682
573	"	"	喫煙具	火入れ	—	—	(29.6)	—	—	ナデ	ナデ	常滑	赤物，無蓋壺の転用か	E-683
574	"	SK345	供膳具	鉢	その他	—	—	—	6.6	白泥+灰釉	灰釉	肥前	白泥による刷毛目，17世紀後半～18世紀初頭	30 E-684
575	"	"	"	小椀	端反椀	4.8	7.1	—	3.6	—	—	"	込付・乾籠に山水文，高古に砂融着， 17世紀後半	26 E-685
576	"	"	貯蔵具	壺	無蓋壺	—	27.6	36.1	—	指押え	ナデ	常滑		32 E-686
577	"	SK246	神仏具	その他	—	4.2	4.6	—	2.8	ナデ	灰釉	瀬・美		34 E-687
578	"	"	火具	鉢	風炉	—	—	25.9	17.0	銅緑釉+鉄釉	銅緑釉+鉄釉	"	押印，ヘラによる筋彫り	33 E-688
579	"	SK313	供膳具	椀	丸椀	5.7	(10.2)	—	3.7	—	—	肥前	込付・紅葉文+「太明年製」，高古砂融着， 1690～18世紀前半	24 E-689
580	"	"	"	"	その他	—	—	—	4.5	灰釉	灰釉	不明	関西系か福岡	23 E-690
581	"	"	調理具	鉢	片口	—	(13.8)	—	—	鉄釉	鉄釉	瀬・美		E-691
582	"	SK338	灯火具	皿	灯明皿	2.1	(11.9)	—	(6.1)	ナデ	ナデ	不明	色調：橙色，口縁部油煙付着， 底部回転糸切痕	E-692
583	"	"	供膳具	鉢	型打鉢	5.9	(27.2)	—	—	灰釉	灰釉	瀬・美	呉須筆散らし	30 E-693
584	"	SK320	火具	その他	その他	18.0	—	9.0	12.1	ナデ	鉄釉	"	火もらいか	33 E-694

第93図 近世の遺物 (35) その他の遺構⑨ (573・576・578・583・584は1:4, 他は1:3)



遺物 番号	調査地点		器種		法量 (cm)				釉薬・調整等		産地	備考	PL	登録 番号	
	調査区	遺構	用途	器種	器形	器高	口径	胴径	底径	内面					外面
585	92A	SK350	供膳具	鉢	丸鉢	6.7	(14.9)	—	4.7	—	—	肥前系	染付・鶴文+割小菱・松竹梅文, 19世紀代	30	E-695
586	"	"	"	皿	型打皿	2.8	10.6	—	6.2	—	—	肥前	染付・桜間山水文+唐草文, 口化粧, 19世紀前半	29	E-696
587	"	"	貯蔵具	鉢	蓋物B	6.8	10.4	—	6.3	ナデ	灰釉	瀬・美	肩径12.2cm	32	E-697
588	"	SK299	供膳具	皿	土師器皿B	2.0	7.9	—	3.6	—	指押え+ナデ	不明	色調：淡橙色		E-698
589	"	"	調理具	鍋, 釜	鍋	—	—	—	—	指押え+ナデ	"	"			E-699
590	"	SK274	供膳具	皿	端反皿	4.2	(14.2)	—	(6.2)	灰釉	灰釉	瀬・美	見込み印花, 見込み蛇ノ目釉刺ぎ	28	E-700
591	"	"	その他	蓋	蓋D	—	5.2	—	—	ナデ	"	不明	肩径7.7cm	36	E-701
592	"	"	火具	鉢	その他	—	—	—	(16.0)	"	ナデ	"	内側底部に刻書	33	E-702
593	"	"	調理具	搦鉢	VII類	—	(45.6)	—	—	鉄釉	鉄釉	瀬・美	横目数15本・1cm単位に3本, 押印「大」, 内面摩 滅痕		E-703
594	"	SE105	"	鍋・釜	内耳鍋	—	(26.8)	—	—	ナデ	指押え+ナデ	不明	色調：赤褐色, 外面煤付着		E-704
595	"	SK303	"	搦鉢	VI類	18.6	(39.2)	—	(17.4)	鉄釉	鉄釉	瀬・美	横目数16本, 1cm単位に4本, 内面・見込み摩滅 痕	31	E-705

第94図 近世の遺物 (36) その他の遺構⑩ (593~594は1:4, 他は1:3)



遺物 番号	調査地点		用途	器種		法量 (cm)				釉薬・調整等		産地	備考	PL	登録 番号
	調査区	遺構		器種	器形	器高	口径	胴径	底径	内面	外面				
596	93B	P 735	供膳具	椀	丸椀	5.2	(9.9)	—	4.1	—	—	肥前	染付(コンニャク印)・松・竹・紅葉文+「大明年製」, 1690-18世紀前半	24	E-706
597	"	SK078	"	小椀	丸椀	4.2	(6.0)	—	2.6	—	—	"	染付・蝶文+変形文字, 18世紀代	27	E-707
598	92A	P1460	"	皿	ひだ・桜花皿	4.6	(14.4)	—	8.0	—	—	"	口化粧, 染付・菊花文・桜花文+唐草文+二角満福, 18世紀後半	30	E-708
599	93B	P 749	"	"	折縁皿	—	(11.2)	—	—	灰釉	灰釉	瀬・美	丸ノミ調整	28	E-709
600	"	P 938	"	"	土師器皿A	2.2	8.4	—	4.7	ナデ	ナデ	不明	色調: 淡黄色, 底部回転糸切痕	34	E-710
601	"	SK020	"	"	土師器皿B	(2.0)	(8.0)	—	—	指押え+ナデ	指押え	"	色調: 浅黄橙色		E-711
602	"	P1058	"	"	"	2.4	8.5	—	—	"	"	"	色調: 淡橙色		E-712
603	"	P 426	その他	蓋	蓋C	1.9	4.1	—	—	ナデ	灰釉	瀬・美	つまみ径約1.5cm, 回転糸切痕	35	E-713
604	"	P1028	供膳具	小椀	丸椀	3.1	(6.9)	—	(2.2)	—	—	肥前	染付・羽根つき文, 18世紀末~19世紀前半	27	E-714
605	"	"	"	皿	丸皿	2.6	11.6	—	6.8	長石釉	長石釉	瀬・美	鉄絵・番文, 見込み, 底部にトチン痕, 口縁の一部に重ね焼きの剝離痕	27	E-715
606	"	SK018	"	端反皿		2.1	10.0	—	6.6	灰釉	灰釉	"	呉須絵・山水文, 蛇ノ目凹形高台, 19世紀前半	27	E-716
607	"	SK075	貯蔵具	壺	茶入	—	(5.2)	(8.2)	—	ナデ	鉄釉	"			E-717
608	"	SK124	調理具	瓶	土瓶	—	—	(16.4)	9.1	ナデ	白泥+透明釉	肥前系	鉄絵・草花文	31	E-718
609	"	P 498	供膳具	皿	丸皿	4.2	(13.7)	—	(8.7)	—	—	瀬・美	染付・唐草文+宝文, 蛇ノ目凹形高台, 1820-幕末		E-719
610	92A	P1934	調理具	瓶	土瓶	—	(7.6)	(17.0)	—	ナデ	鉄釉+灰釉	"	口縁部釉剥ぎ	31	E-720
611	93B	P 344	供膳具	鉢	端反鉢	—	(32.4)	—	—	白土+鉄系釉+銅緑釉	鉄釉+銅緑釉	肥前		30	E-721

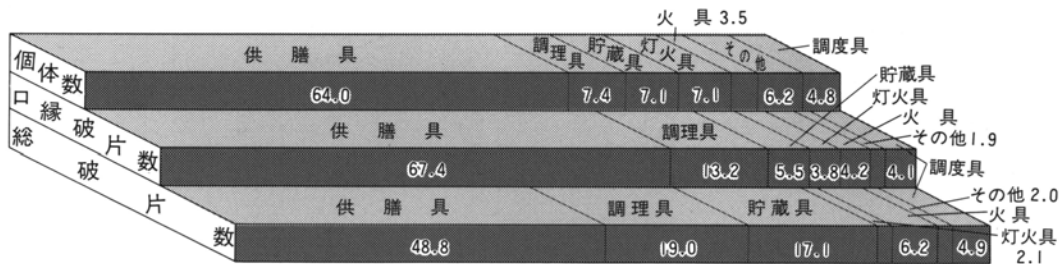
第95図 近世の遺物 (37) その他の遺構① (608・610・611は1:4, 他は1:3)

検出合計

今回の発掘調査で包含層掘り下げや遺構検出段階において出土した遺物の合計を、「検出合計」として取り扱うこととする。ただし、時間的な制約の中でカウントを基礎整理の中心に据えたため、接合等の整理作業を途中で切り上げることとなり、遺構出土遺物との接合が完全には終了していない。そのため、本来は遺構の遺物となるべきものも、この合計の中に加算されていることをここで断わっておきたい。出土した遺物の合計は、総破片数で24,083点、接合前口縁破片数が7,154点、個体数は428.08個体となっている。全出土遺物に占める割合は35.5%と高い割合を示している。

この内、供膳具が247.00個体・64.0%、調理具が28.50個体・7.4%、貯蔵具が27.42個体・7.1%、灯火具が27.25個体・7.1%、火具が13.33個体・3.5%、化粧具が6.50個体・1.7%、神仏具が15.58個体・4.0%、喫煙具が1.67個体・0.4%、調度具が18.58個体・4.8%と、数値の増減があるものの全体の平均値に近い数字を示している。これは、前出した「その他の遺構合計」とも同様であり、本遺跡における近世陶磁器類の組成を表しているものと想定される。また、蓋類は、総破片数で498点、接合前口縁破片数が338点、個体数では42.25個体出土している。

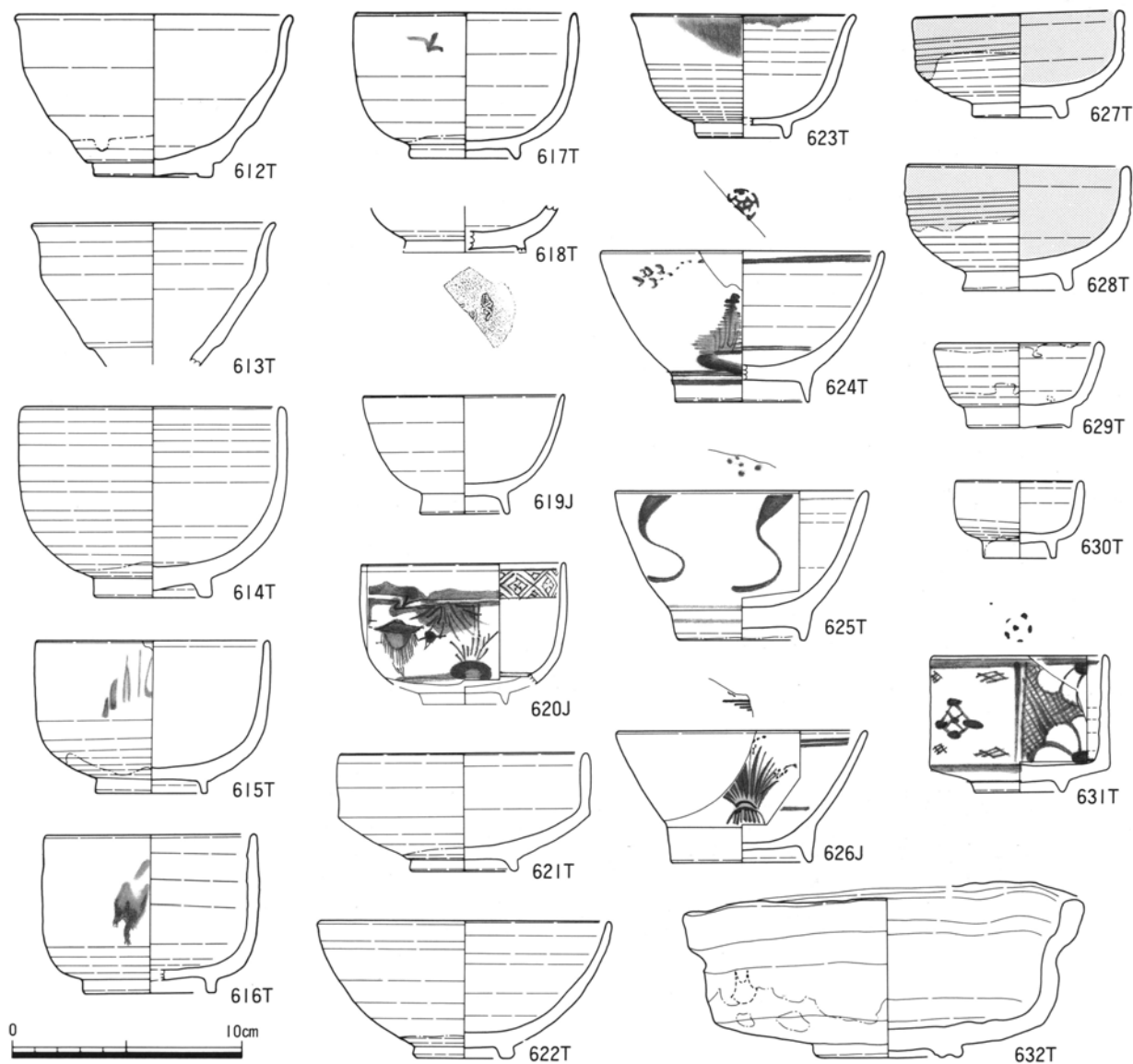
材質面では、土師質製品が15.3%と減少しているのに対して、陶磁器類では陶器製品が40.4%、磁器製品が43.5%となり、磁器製品の出土比率が急増しており、新しい時期の様相を示している。



第96図 検出合計陶磁器類の用途組成

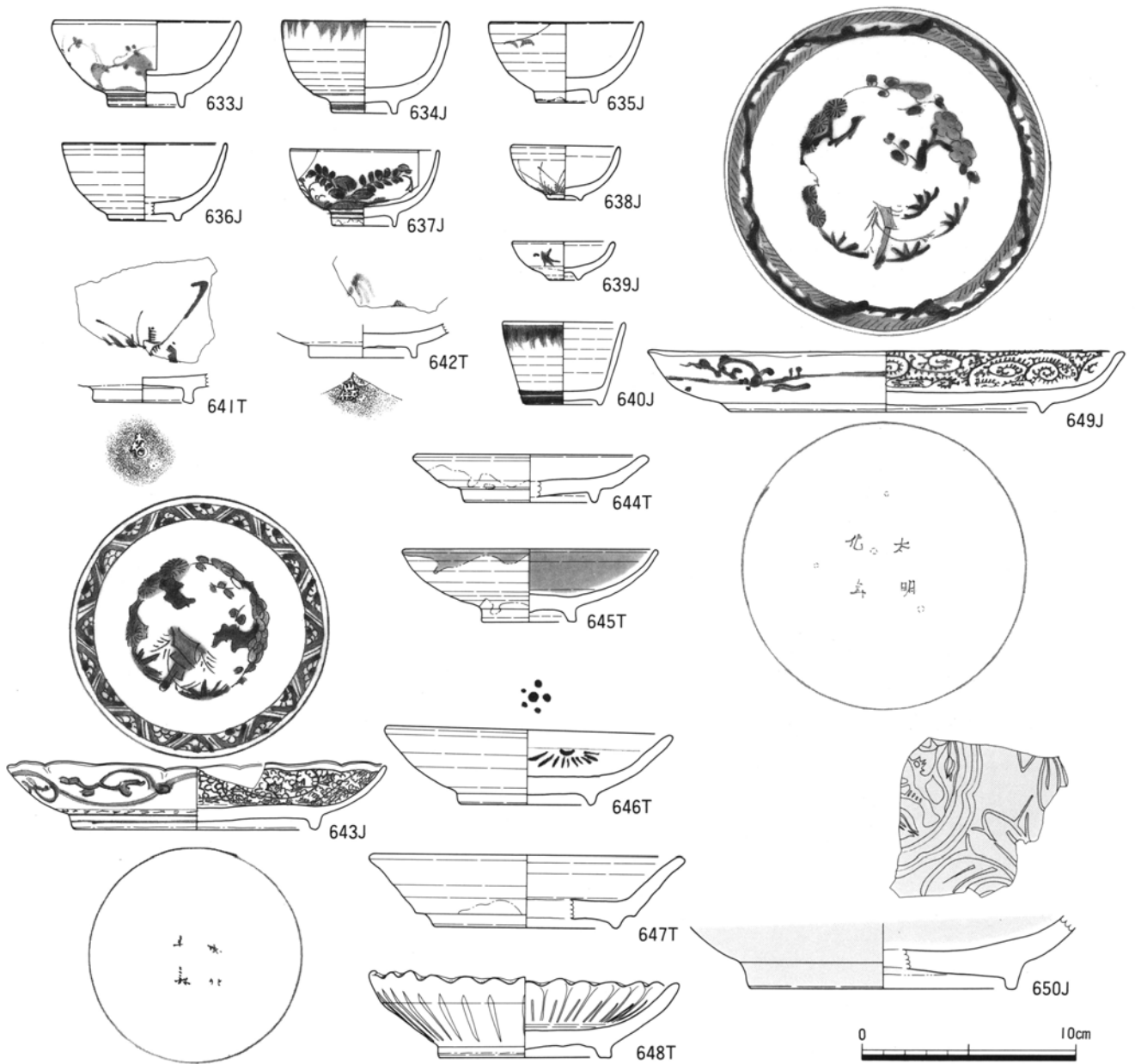
用途	器種	接合後口縁残存率					接合前口縁破片数					総破片数				
		土器	陶器	磁器	その他	計	土器	陶器	磁器	その他	計	土器	陶器	磁器	その他	計
供膳具	椀	0	436	669	8	1113	0	813	1209	5	2027	0	2610	3045	18	5673
	小椀	0	139	634	0	773	0	181	647	0	827	0	363	1190	0	1553
	皿	515	188	263	0	966	674	404	441	0	1519	1331	1060	1137	1	3529
	鉢	0	46	65	1	112	0	124	90	3	217	0	531	220	4	755
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	小計	515	809	1631	9	2964	674	1522	2387	8	4591	1331	4564	5592	23	11510
調理具	鍋、釜	42	46	0	20	108	333	70	0	28	431	1964	365	0	136	2465
	鉢	0	61	1	0	62	0	113	2	0	115	0	377	11	0	388
	播鉢	0	67	0	0	67	0	264	0	0	264	0	1009	0	0	1009
	瓶	0	63	39	0	102	0	63	21	0	84	1	455	158	0	614
	その他	0	0	3	0	3	0	0	2	0	2	0	6	2	1	9
	小計	42	237	43	20	342	333	510	25	28	896	1965	2212	171	137	4485
貯蔵具	瓶	0	66	22	0	88	0	30	5	0	35	0	769	107	1	877
	壺	4	75	2	0	81	6	63	2	0	71	20	428	7	0	455
	甕A	0	28	0	0	28	0	82	0	0	82	0	1779	0	0	1779
	甕B	0	44	0	1	45	0	89	0	1	90	11	704	1	1	717
	鉢	0	20	67	0	87	0	28	69	0	97	0	102	96	0	198
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
小計	4	233	91	1	329	6	292	76	1	375	31	3783	211	2	4027	
灯火具		98	225	4	0	327	111	147	3	1	262	208	253	5	17	483
火具		43	108	1	8	160	109	156	2	21	288	569	786	6	99	1460
化粧具		0	14	64	0	78	0	5	19	0	24	0	29	62	0	91
神仏具		0	36	151	0	187	0	38	53	0	91	0	99	165	0	264
喫煙具		0	8	12	0	20	0	11	1	0	12	0	88	25	0	113
調度具		5	200	15	3	223	5	254	14	4	277	30	1007	100	15	1152
蓋		1	259	230	17	507	2	188	140	8	338	6	272	206	14	498
合計		708	2129	2242	58	5137	1240	3123	2720	71	7154	4140	13093	6543	307	24083

第17表 検出合計陶磁器類集計表



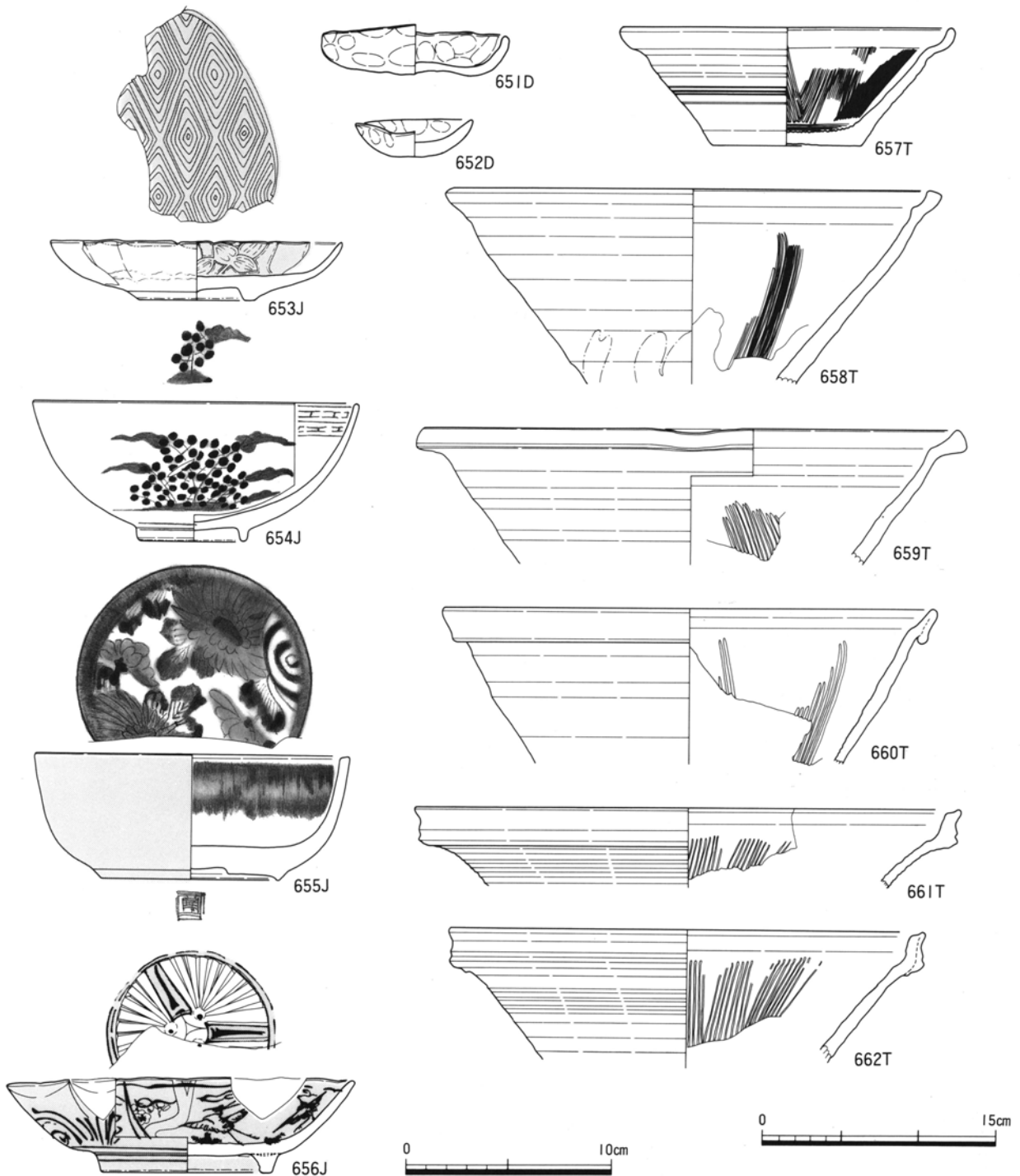
遺物 番号	調査地点 調査区	遺構	用途	器種		法量 (cm)				釉薬・調整等		産地	備考	PL 登録 番号
				器種	器形	器高	口径	胴径	底径	内面	外面			
612	93B	検I	供膳具	椀	天目椀	7.0	(11.7)	—	5.0	鉄釉	鉄釉	瀬・美		23 E-722
613	92A	検III	〃	〃	〃	—	(10.4)	—	—	灰釉	灰釉	〃		E-723
614	93B	検I	〃	〃	丸椀	8.2	(11.1)	—	4.9	〃	〃	〃	尾呂茶碗か	E-724
615	92A	検III	〃	〃	〃	6.6	(10.0)	—	4.8	〃	〃	〃	呉須絵・山水文か	23 E-725
616	〃	検I	〃	〃	〃	6.7	(8.9)	—	(5.6)	〃	〃	肥前	鉄絵, 17世紀後半~18世紀初	23 E-726
617	〃	〃	〃	〃	〃	6.3	(9.6)	—	(4.7)	〃	〃	瀬・美	呉須絵	23 E-727
618	〃	〃	〃	〃	〃	—	—	—	—	〃	〃	肥前	高台内に押印「清水」, 17世紀後半	E-728
619	93B	検II	〃	〃	〃	5.1	8.6	—	3.7	—	—	〃	白磁, 18世紀代	24 E-729
620	〃	〃	〃	〃	〃	—	(8.6)	—	—	—	—	〃	染付・竹の子掘り文, 1780~1810	24 E-730
621	〃	検I	〃	〃	腰折椀	5.0	(10.6)	—	(4.3)	—	—	瀬・美		25 E-731
622	〃	検III	〃	〃	平椀	5.9	(12.4)	—	4.0	灰釉	灰釉	〃	柳茶碗か, 19世紀初	23 E-732
623	〃	検I	〃	〃	端反椀	5.3	(9.5)	—	(3.8)	〃	〃	〃	呉須流し掛け, 18世紀後半~19世紀前半	25 E-733
624	〃	検III	〃	〃	広東椀	6.4	(12.1)	—	(5.7)	〃	〃	〃	呉須絵・山水文+五弁花(コンニャク印か)	25 E-734
625	92A	〃	〃	〃	〃	(6.5)	(10.8)	—	(5.5)	〃	〃	〃	呉須絵・ねじり花文+五弁花	25 E-735
626	〃	検II	〃	〃	〃	(5.6)	(10.6)	—	(6.0)	—	—	肥前	染付・東稲文+岩に波濤文, 1780~19世紀前半	E-736
627	〃	検III	〃	〃	腰錆椀	4.5	(8.9)	—	3.8	灰釉+鉄釉	灰釉+鉄釉	瀬・美	高台豊付部分に剝離痕	E-737
628	〃	検I	〃	〃	〃	5.4	9.5	—	4.7	灰釉	灰釉+鉄釉	〃		26 E-738
629	93B	〃	〃	小椀	丸椀	3.6	(6.9)	—	(4.4)	〃	灰釉	〃	見込みトチン痕	26 E-739
630	92A	〃	〃	〃	〃	3.3	5.4	—	3.0	〃	〃	〃		26 E-740
631	93B	検III	〃	〃	筒椀	5.9	(7.2)	—	3.8	〃	〃	〃	呉須絵・菊花散し文・幾何文+梅花文	26 E-741
632	92A	検I	〃	椀	その他	7.0	15.5	—	5.8	鉄釉	鉄釉	〃	沓茶椀, 瀬戸黒か	25 E-742

第97図 近世の遺物 (38) 検出① (1:3)



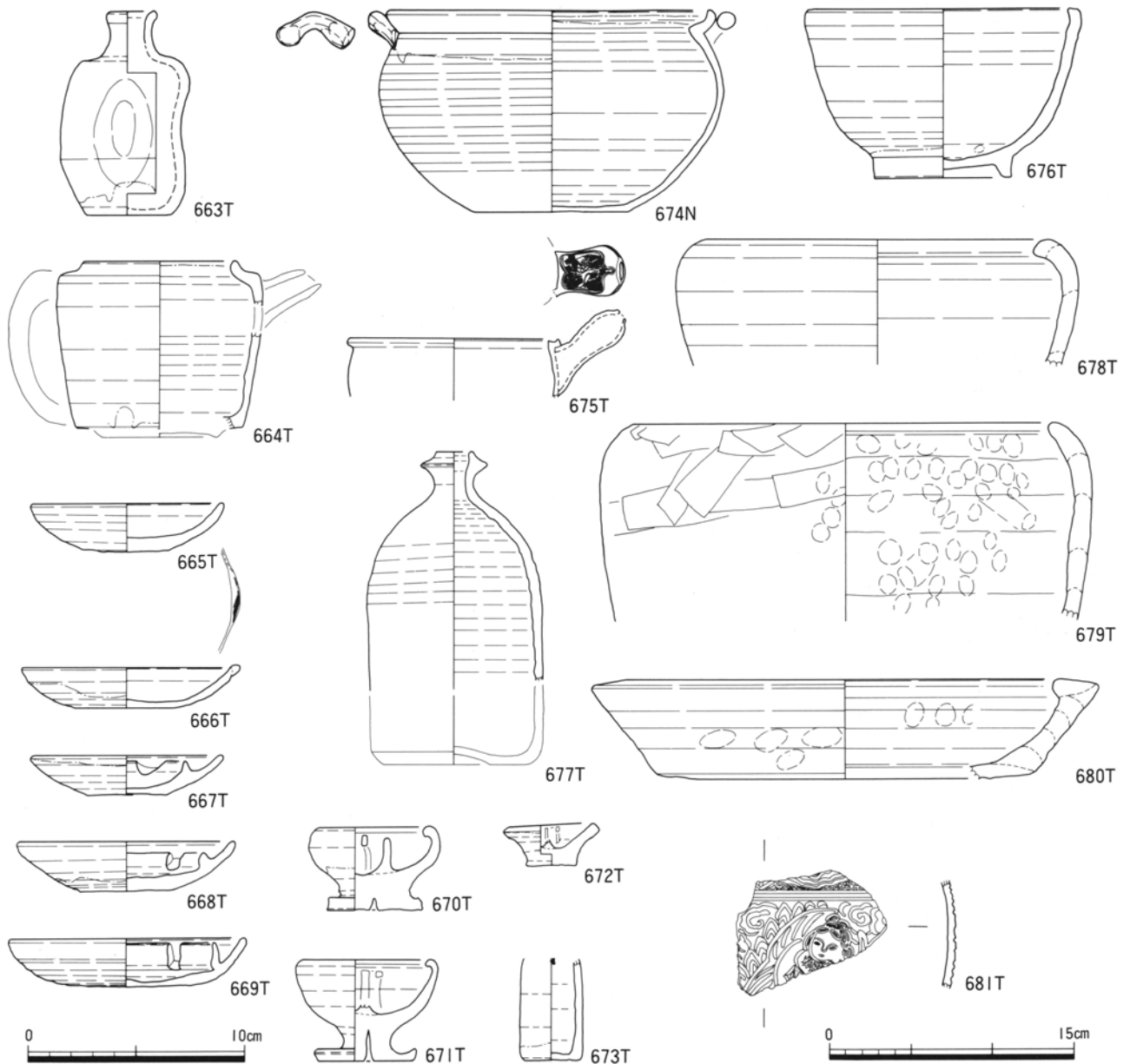
遺物 番号	調査地点		器種		法量 (cm)				釉薬・調整等		産地	備考	PL	登録 番号
	調査区	遺構	用途	器種	器形	器高	口径	胴径	底径	内面				
633	93B	検II	供膳具	小碗	丸碗	(4.0)	8.4	-	(3.4)	-	-	肥前	染付・雪輪に梅樹文、「くらわんか」手, 18世紀後半	E-743
634	92A	検I	"	"	"	4.2	(7.6)	-	3.1	-	-	"	染付・雨降り文, 高台に砂融着, 18世紀後半	26 E-744
635	93B	"	"	"	"	3.7	(7.0)	-	2.6	-	-	肥前系	染付・草花文, 焼成不良	E-745
636	92A	検II	"	"	"	3.6	(7.5)	-	(3.3)	-	-	肥前	白磁か, 18世紀代	E-746
637	"	検I	"	"	"	3.5	(6.8)	-	2.9	-	-	"	染付・草花文, 高台内に砂融着, 17世紀末-18世紀前半	26 E-747
638	93B	"	"	"	"	2.5	5.0	-	1.5	-	-	"	染付・草文, 18世紀後半~19世紀初	26 E-748
639	92A	"	"	"	"	1.8	(4.6)	-	(1.3)	-	-	瀬・美	染付・笹文	27 E-749
640	93B	"	"	"	蕎麦猪口	3.8	4.8	-	3.6	-	-	肥前	染付・雨降り文, 18世紀前半	26 E-750
641	"	検II	"	"	皿	丸皿	-	-	(4.5)	灰釉	灰釉	"	呉須絵・楼閣山水文, 高台内押印「森」, 17世紀末-18世紀初	28 E-751
642	92A	検I	"	"	"	-	-	-	(5.0)	"	"	"	呉須絵・山水文, 高台内「山原住」	28 E-752
643	"	"	"	"	型打皿	2.9	17.4	-	11.1	-	-	"	染付・鹿子唐草文・円環松竹梅文+唐草文+「成 化年製」, 19世紀前半-幕末	29 E-753
644	93B	"	"	"	丸皿	2.2	(10.5)	-	(6.0)	灰釉	灰釉	瀬・美	見込みに重ね焼きの剥離痕	E-754
645	92A	"	"	"	"	3.3	(11.8)	-	(4.4)	青緑釉	青緑釉	肥前	見込み蛇ノ目刺ぎ, 18世紀前半	E-755
646	"	検III	"	"	"	3.5	13.1	-	6.1	灰釉	灰釉	瀬・美	呉須絵・菊花文+五弁花, 見込み蛇ノ目刺ぎ	28 E-756
647	"	検I	"	"	稜皿	3.3	(14.0)	-	(8.4)	"	"	"	見込み・高台内にトチン痕, 体部重ね焼きの剥離痕	E-757
648	"	"	"	"	菊皿	3.7	13.9	-	7.8	"	"	"	高台内にトチン痕	29 E-758
649	"	"	"	"	ひだ・菱花皿	2.8	21.7	-	14.3	-	-	肥前	染付・繪唐草文・円環松竹梅文+唐草文+「大明 化年」, 18世紀後半	E-759
650	93B	"	"	"	丸皿	-	-	-	(12.1)	-	-	"	青磁, ヘラ削り, 高台内鉄錆, チャツ痕, 1650-1660	28 E-760

第98図 近世の遺物 (39) 検出② (1:3)



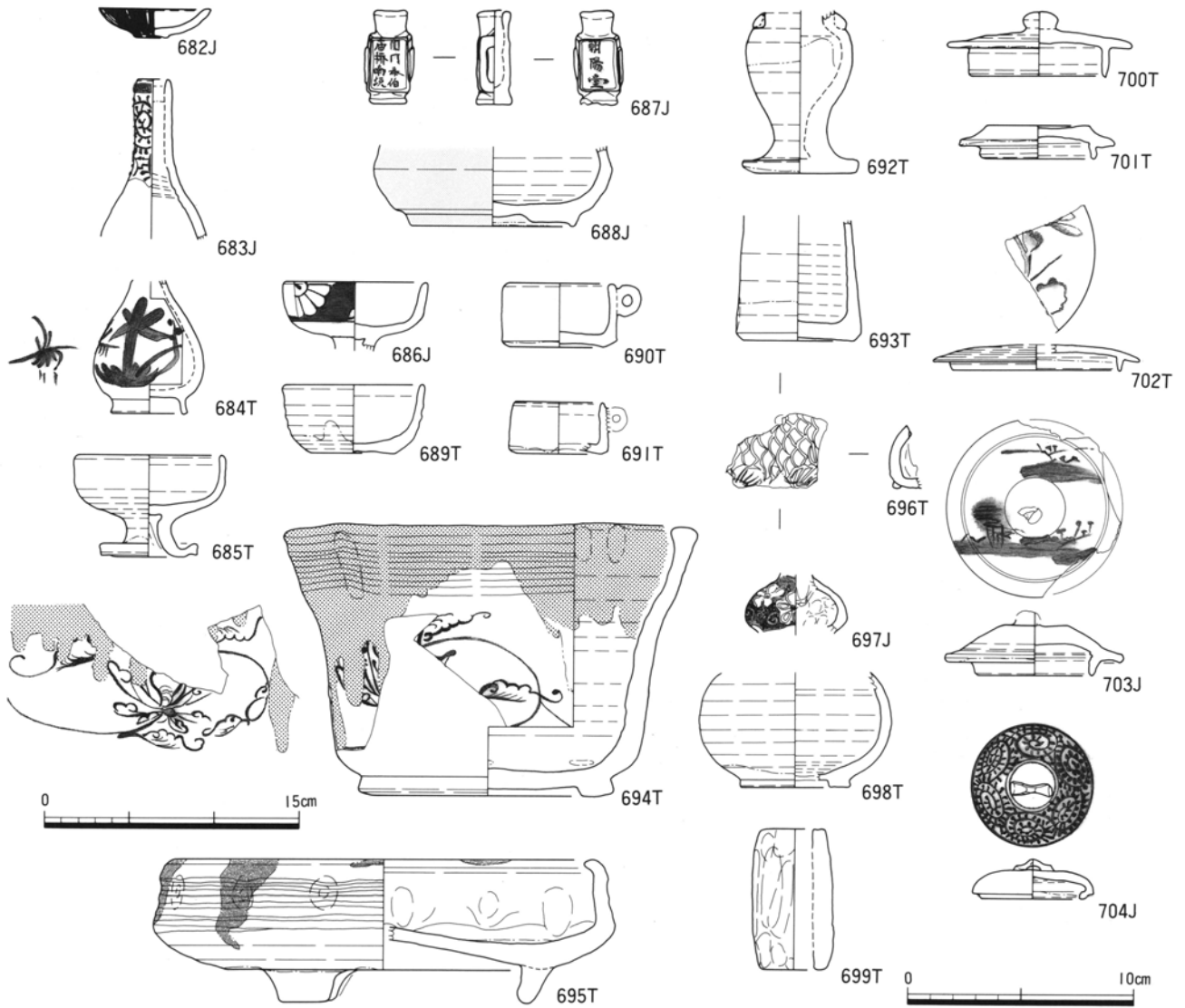
遺物 番号	調査地点		器種		法量 (cm)				釉薬・調整等		産地	備考	PL	登録 番号	
	調査区	遺構	用途	器種	器形	器高	口径	胴径	底径	内面					外面
651	93B	検II	供膳具	皿	土師器皿B	1.9	8.6	-	-	指押え+ナデ	指押え	不明	色調：浅黄橙色	29	E-761
652	92A	"	"	"	"	1.8	5.7	-	-	"	指押え+ナデ	"	色調：淡黄橙色	29	E-762
653	"	"	"	"	型打皿	2.8	(13.9)	-	5.3	青磁	白磁	肥前	陽刻・草文+幾何文、青白磁掛け分け、高台砂藏著、1630-1640	29	E-763
654	"	検I	"	鉢	丸鉢	6.7	15.4	-	4.8	-	-	"	染付・葦文・蝶文、焼き継ぎ痕、19世紀初-幕末	30	E-764
655	"	"	"	"	"	5.9	(15.0)	-	(8.5)	-	-	"	染付・菊流水文+「簡江」、蛇ノ目凹型高台、18世紀後半	30	E-765
656	"	"	"	"	型打鉢	4.5	16.3	-	8.1	青磁	青磁	関西系	青磁色絵+陽刻・雲に菊・草花文+梅樹文、三田、1810-幕末	30	E-766
657	"	"	調理具	播鉢	VII類	7.6	(21.2)	-	(9.5)	鉄釉	鉄釉	瀬・美	櫛目18本、1cm単位に4本		E-767
658	"	検III	"	"	III類	-	(30.7)	-	-	"	"	"	櫛目数14本、1cm単位に5本、内面摩滅痕	31	E-768
659	"	"	"	"	"	-	(34.4)	-	-	"	"	"	櫛目数不明、1cm単位に4本	31	E-769
660	"	"	"	"	VI類	-	(31.4)	-	-	"	"	"	櫛目数不明、1cm単位に3本		E-770
661	"	検I	"	"	IX類	-	(34.8)	-	-	-	-	備前	焼き締め、櫛目数8本、1cm単位に4本		E-771
662	"	"	"	"	"	-	(30.5)	-	-	-	-	"	焼き締め、櫛目数8本、1cm単位に4本、口縁部自然釉	31	E-772

第99図 近世の遺物 (40) 検出③ (657~662は1:4, 他は1:3)



遺物 番号	調査地点 調査区 遺構	器種			法量 (cm)				釉薬・調整等		産地	備考	PL	登録 番号	
		用途	器種	器形	器高	口径	胴径	底径	内面	外面					
663	92A 検I	貯蔵具	瓶	德利D	9.3	2.1	6.3	3.9	灰釉+鉄釉	灰釉+鉄釉	瀬・美		32	E-773	
664	" "	"	"	汁次B	-	(6.8)	(9.2)	-	鉄釉	鉄釉	"			E-774	
665	93B "	灯火具	皿	灯明皿	2.2	8.6	-	3.8	"	"	"	内外面に油煙付着, 見込み・底部に重ね焼きによる剝離痕		E-775	
666	" "	"	"	"	"	1.9	(9.6)	-	(4.3)	"	"	口縁部油煙付着		E-776	
667	92A 検III	"	"	灯蒸	1.8	(8.4)	-	(3.5)	灰釉	灰釉	京・信		33	E-777	
668	93B 検II	"	"	"	2.3	9.7	-	4.2	鉄釉	鉄釉	瀬・美	内区径6.9cm, 油煙付着, 体部に重ね焼きによる剝離痕		33	E-778
669	" 検I	"	"	"	2.2	10.6	-	3.7	"	"	"	内区径7.9cm, 油煙付着, 外面体部に重ね焼きによる剝離痕		E-779	
670	" 検II	"	乗燭	II類	3.8	4.9	-	4.3	"	"	"	底部回転糸切痕, 底部穿孔(径0.4cm)		E-780	
671	92A 検I	"	"	III類	4.6	(5.8)	-	4.3	"	"	"	底部回転糸切痕, 底部に穿孔(径約0.4cm)		E-781	
672	" "	"	"	"	1.8	3.9	-	2.2	灰釉	灰釉	"	底部回転糸切痕	33	E-782	
673	" "	"	"	その他	-	-	-	(2.4)	ナテ	透明釉	不明	鉄絵		E-783	
674	93B "	調理具	鍋, 釜	鍋	12.3	19.4	21.0	9.2	透明釉	"	"	外面煤付着		E-784	
675	92A 検II	"	"	行平	-	(12.7)	-	-	灰釉	灰釉	関西系	型押し成形か・鶴と亀	31	E-785	
676	" "	"	"	鉢	片口	13.0	(15.7)	-	8.4	鉄釉	鉄釉	瀬・美	見込みにトチン痕	31	E-786
677	93B 検I	貯蔵具	瓶	油德利	-	2.2	10.7	-	ナテ	ナテ	"		32	E-787	
678	" 検II	火具	鉢	火鉢	-	(20.8)	-	-	ナテ	ナテ	常滑	赤物		E-788	
679	" "	"	"	"	-	(26.0)	(30.1)	-	指押え+ナテ	指押え+ナテ	"	赤物	33	E-789	
680	" "	"	"	火桶	6.1	(25.8)	-	(23.2)	指押え+ナテ	"	"	赤物		E-790	
681	" 検I	"	"	その他	-	-	-	-	ナテ	"	不明	内面煤付着, へら彫りか	33	E-791	

第100図 近世の遺物 (41) 検出④ (674~681は1:4, 他は1:3)



遺物 番号	調査地点	用途	器種		法量 (cm)				釉薬・調整等		産地	備考	PL	登録 番号	
			器種	器形	器高	口径	胴径	底径	内面	外面					
682	92A	検II	化粧具	紅皿	—	1.3	4.9	—	1.3	—	—	肥前	白磁, 型押し成形, 19世紀代	34	E-792
683	"	"	神仏具	瓶	神酒徳利 A	—	1.4	—	—	—	—	関西系	染付・蛸唐草文, 19世紀初頭		E-793
684	"	"	"	"	神酒徳利 B	—	—	4.8	(3.2)	—	—	瀬・美	染付・若松に笹文, 高台に砂融着	34	E-794
685	93B	検I	"	仏飯器	—	4.5	(6.3)	—	(4.1)	灰釉	灰釉	"		34	E-795
686	92A	"	"	"	—	—	(6.2)	—	—	—	—	"	上絵付(赤)・菊花文		E-796
687	"	"	喫煙具	その他	—	4.1	1.4	—	1.4	—	—	中国	鼻煙壺, 染付・文字文, 底部に刺雕痕, 18世紀-19世紀代	34	E-797
688	"	検III	火入れ	香炉型	—	—	(10.5)	(7.0)	—	青磁	—	肥前	鉄鉢, 蛇ノ目凹形高台, 刺雕痕, 17世紀末-18世紀前半	34	E-798
689	"	"	調度具	餌鉢	餌鉢	3.0	(6.0)	—	3.6	鉄釉	鉄釉	瀬・美	柿釉か	35	E-799
690	"	検II	"	"	"	2.8	(4.5)	—	4.2	灰釉	灰釉	"	底部回転糸切痕	35	E-800
691	"	検I	"	"	"	2.3	3.8	—	3.7	—	—	"	底部回転糸切痕		E-801
692	"	"	"	花生	壺型	—	—	4.7	4.3	灰釉+鉄釉	—	"	底部回転糸切痕		E-802
693	93B	検II	"	その他	筒型容器	—	—	—	4.8	灰釉	—	"		35	E-803
694	92A	検I	"	水甕	その他	15.7	22.4	—	(13.0)	—	—	"	鉄絵, 呉須流し掛け, 見込みトチン痕	35	E-804
695	93B	"	"	水指	水盤	(8.3)	(24.4)	(27.0)	(18.4)	—	—	"	鉄釉流し掛け, 凹部16ヶ所	35	E-805
696	"	検III	"	"	水滴	—	—	—	—	指押え	—	"	型押し成形, 御深井か	35	E-806
697	"	検I	"	"	—	—	—	(4.5)	—	指押え+ナデ	—	肥前	型押し成形, 染付・蛸唐草文・梅花文, 18世紀後半-19世紀前半	35	E-807
698	"	"	"	"	その他	—	—	(8.4)	(4.8)	灰釉	灰釉	関西	呉須流し掛けか, 18世紀後半~幕末	35	E-808
699	"	"	"	その他	その他	6.1	2.9	3.5	—	—	—	常滑	土鍾, 穴径1.9cm		E-809
700	92A	"	その他	蓋	蓋 D	2.8	5.9	—	—	灰釉	ナデ	不明	肩径約8.1cm・つまみ径約1.5cm	36	E-810
701	"	検II	"	"	蓋 G	1.5	4.8	—	—	—	灰釉	瀬・美	肩径6.6cm	36	E-811
702	"	検I	"	"	"	(1.1)	(7.3)	—	—	透明釉	透明釉	京・信	上絵付(青・緑)・草花文, 18世紀前葉		E-812
703	93B	検II	"	"	蓋 H	—	(4.9)	—	—	ナデ	—	肥前	染付・山水文, 1630~1640	36	E-813
704	"	"	"	"	"	1.7	4.4	—	—	—	—	"	染付・蛸唐草文, 肩径5.3cm, 19世紀前半~幕末	36	E-814

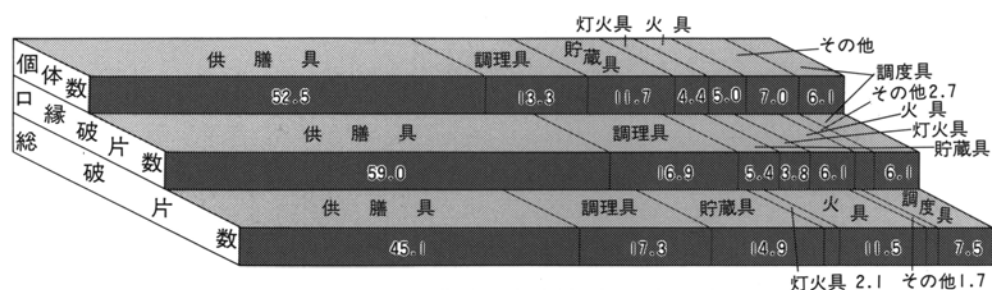
第101図 近世の遺物 (42) 検出⑤ (694・695は1:4, 他は1:3)

その他合計

今回の発掘調査で表土剥ぎやトレンチ掘削等、掘り下げ・検出・遺構以外で出土した遺物の合計を、「その他合計」として取り扱うこととする。出土した遺物の合計は、総破片数で5,411点、接合前口縁破片数が1,669点、個体数は123.83個体となっている。

この内、供膳具が58.17個体・52.5%、調理具が14.75個体・13.3%、貯蔵具が13.00個体・11.7%、灯火具が4.92個体・4.4%、火具が5.50個体・5.0%、化粧具が2.92個体・2.6%、神仏具が4.67個体・4.2%、喫煙具が0.17個体・0.2%、調度具が6.75個体・6.1%となっている。また、蓋類は、総破片数で141点、接合前口縁破片数が99点、個体数では13.00個体出土している。

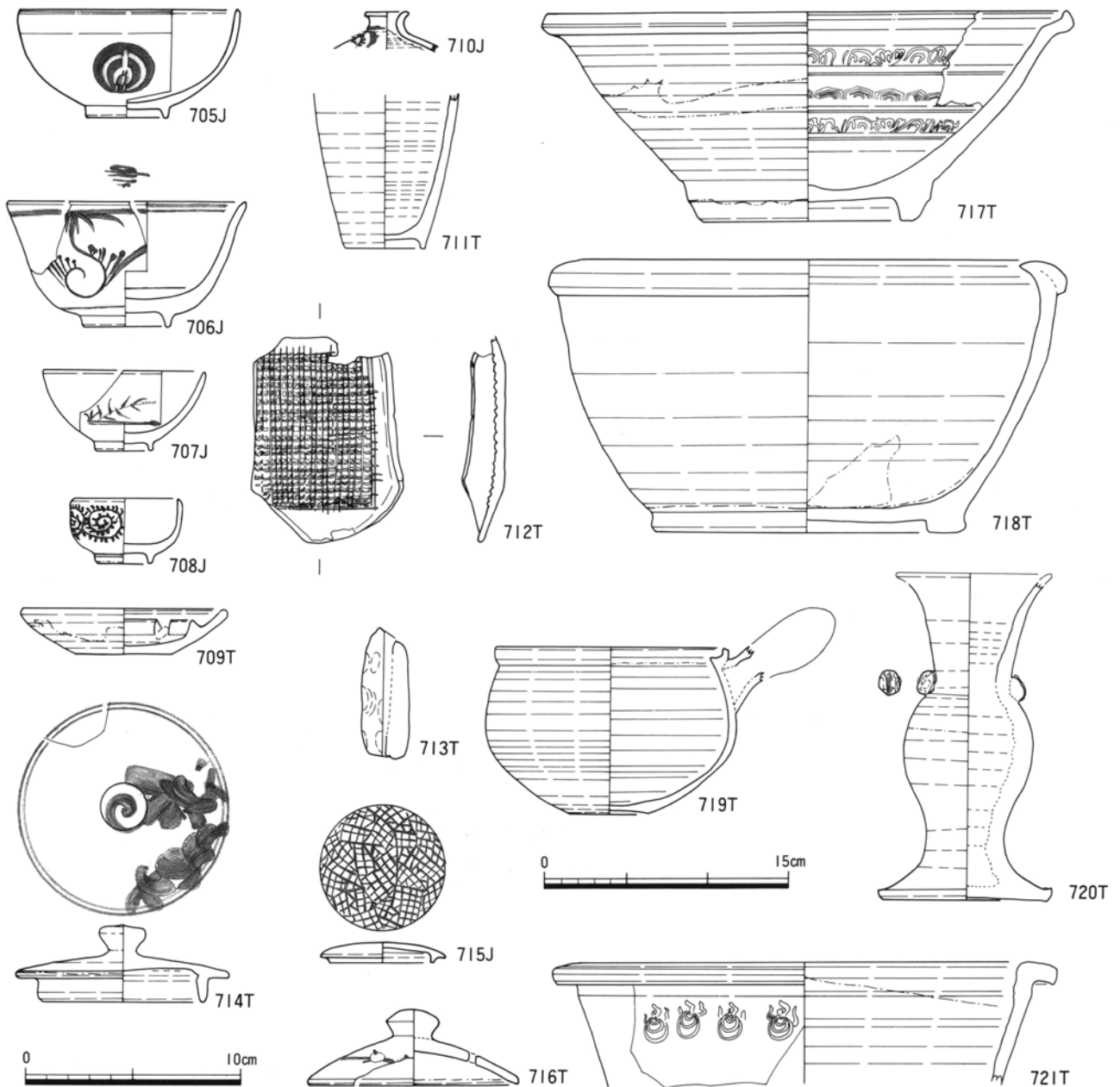
材質面では、土師質製品が8.5%と激減しているのに対して、陶磁器類では陶器製品が41.1%、磁器製品が48.6%と、磁器製品の出土比率が「検出合計」と同様に急増している。これが、全体の磁器製品の比率を引き上げているため、「検出合計」とともに注意する必要があると思われる。(小嶋廣也)



第102図 その他合計陶磁器類の用途組成

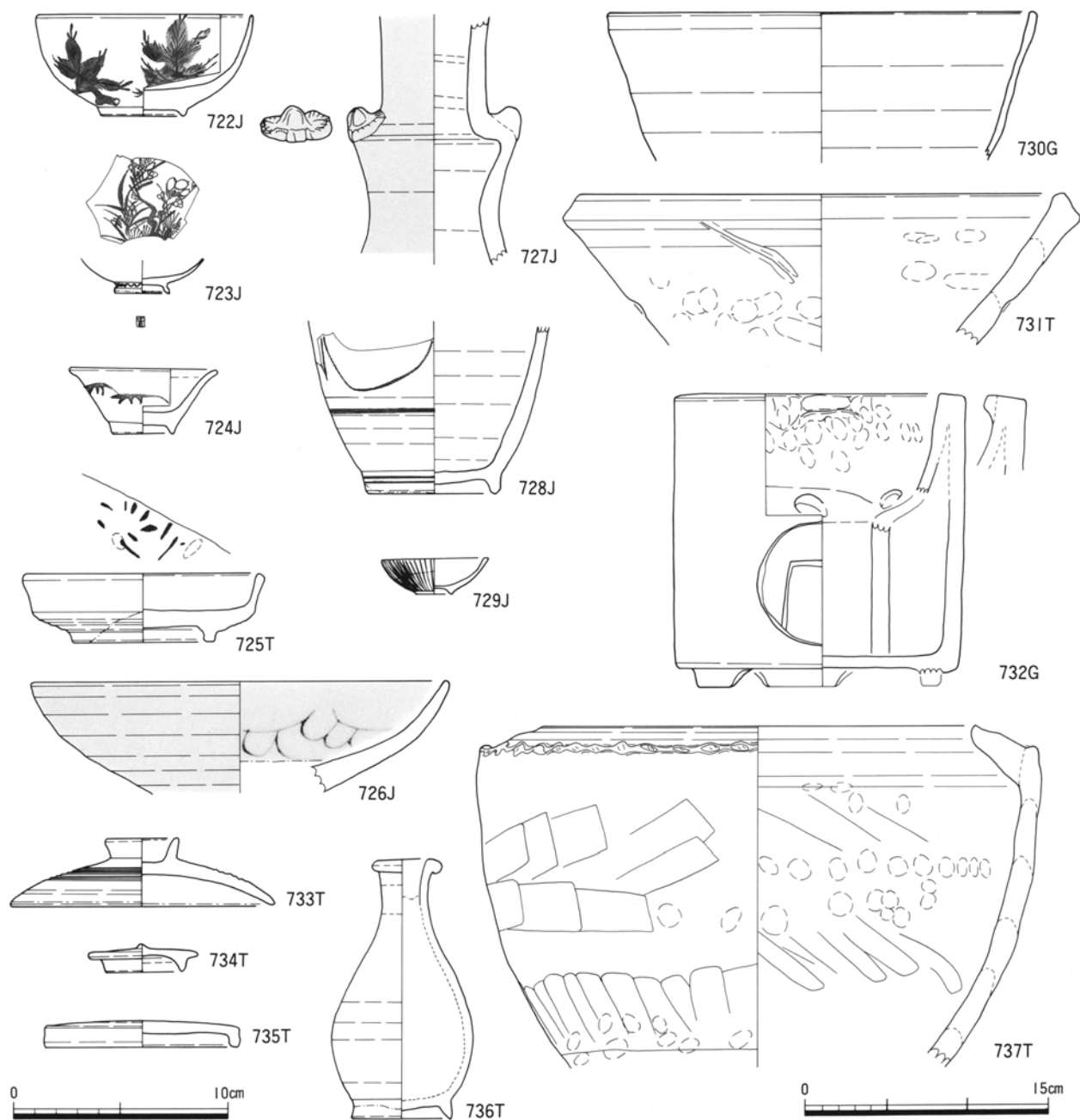
用途	器種	接合後口縁残存率				接合前口縁破片数				総破片数						
		土器	陶器	磁器	その他	計	土器	陶器	磁器	その他	計	土器	陶器	磁器	その他	計
供膳具	椀	0	64	169	0	233	0	111	245	0	356	0	363	685	0	1048
	小椀	0	23	181	0	204	0	19	182	0	201	0	47	378	0	425
	皿	83	31	105	0	219	100	63	141	0	304	188	164	329	0	681
	鉢	0	14	28	0	42	0	28	38	0	66	0	143	81	0	224
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	小計	83	132	483	0	698	100	221	606	0	927	188	717	1473	0	2378
調理具	鍋、釜	6	16	0	7	29	47	19	0	24	90	222	80	0	76	378
	鉢	0	26	0	0	26	0	52	0	0	52	0	122	0	0	122
	播鉢	0	31	0	0	31	0	74	0	0	74	0	169	0	0	169
	瓶	0	28	59	0	87	0	29	17	0	46	0	149	86	0	235
	その他	0	4	0	0	4	0	4	0	0	4	0	5	0	0	5
	小計	6	105	59	7	177	47	178	17	24	266	222	525	86	76	909
貯蔵具	瓶	0	94	5	0	99	0	13	1	0	14	0	325	33	0	358
	壺	0	7	0	0	7	0	9	0	0	9	5	22	1	0	28
	甕A	0	6	0	0	6	0	18	0	0	18	0	242	0	0	242
	甕B	0	14	0	0	14	0	21	0	0	21	0	116	0	0	116
	鉢	0	8	22	0	30	0	5	17	0	22	0	10	30	0	40
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	小計	0	129	27	0	156	0	66	18	0	84	5	715	64	0	784
灯火具		20	34	5	0	59	27	27	4	1	59	48	58	6	1	113
火具		4	45	0	17	66	3	79	0	14	96	32	508	0	64	604
化粧具		0	1	34	0	35	0	1	8	0	9	0	4	18	0	22
神仏具		0	25	31	0	56	0	5	19	0	24	0	14	38	0	52
喫煙具		0	1	1	0	2	0	6	3	0	9	0	10	5	0	15
調度具		0	74	7	0	81	1	86	9	0	96	3	354	34	2	393
蓋		0	103	44	9	156	0	53	35	11	99	0	80	47	14	141
合計		113	649	691	33	1486	178	722	719	50	1669	498	2985	1771	157	5411

第18表 その他合計陶磁器類集計表



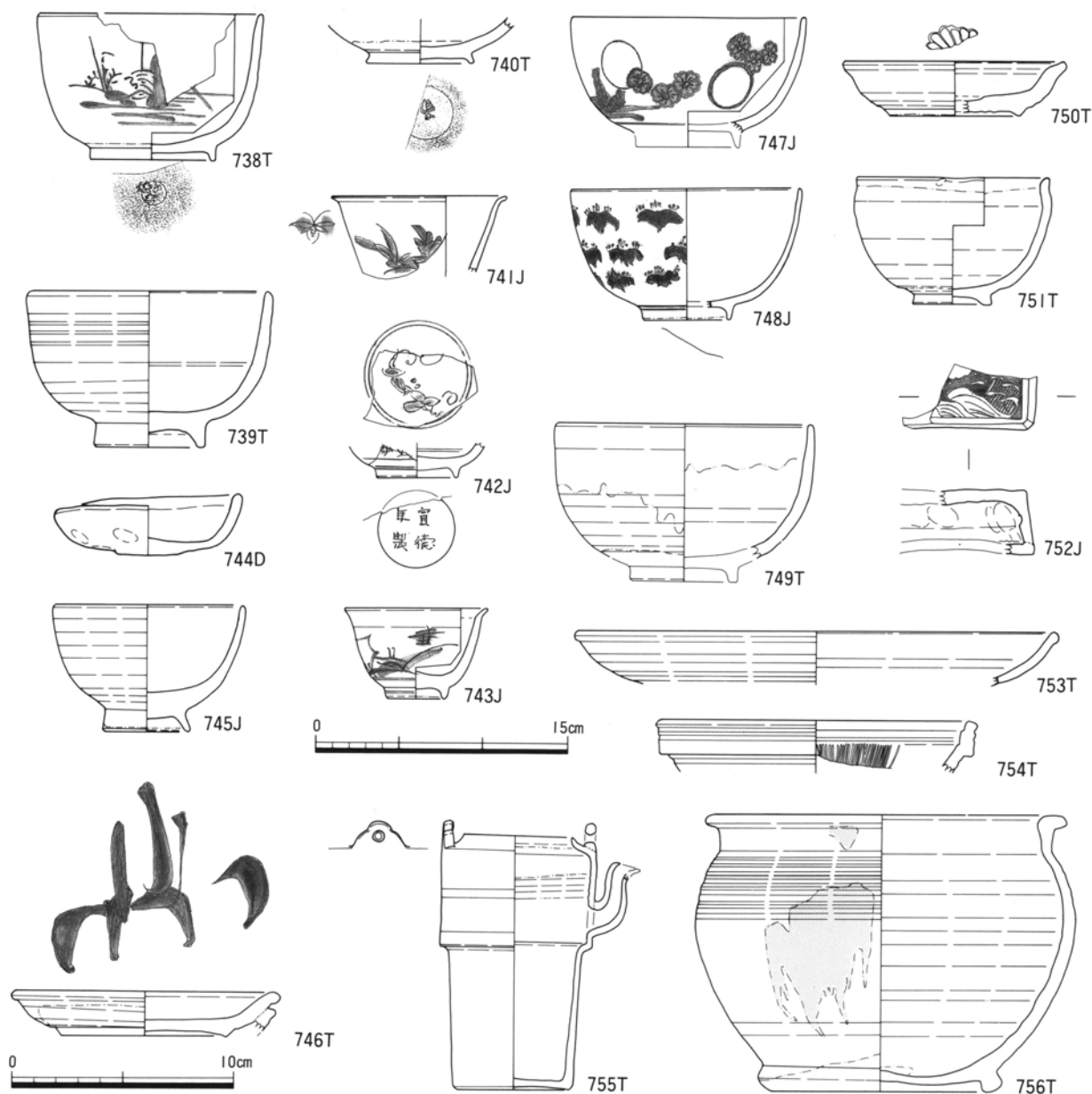
遺物 番号	調査地点	用途	器種	器形	法量 (cm)				釉薬・調整等		産地	備考	PL	登録 番号	
					器高	口径	胴径	底径	内面	外面					
705	93B	暗渠	供膳具	碗	丸碗	4.9	10.0	—	3.7	—	—	肥前	染付・丸熨斗文, 18世紀中～後半	24	E-815
706	〃	〃	〃	〃	端反碗	(5.7)	(10.7)	—	4.0	—	—	瀬・美	染付・笹竹文・岩に波濤文, 1820～1860		E-816
707	〃	〃	〃	小碗	丸碗	3.6	(7.4)	—	2.6	—	—	肥前	染付・葉文, 高台に砂融着, 18世紀後半～19世紀前半		E-817
708	〃	〃	〃	〃	〃	3.0	4.8	—	2.4	—	—	〃	染付・蛸唐草文	26	E-818
709	〃	〃	灯火具	皿	灯蓋	2.1	(9.3)	—	(4.4)	灰釉	灰釉	瀬・美	内区径(6.2cm), 内区上端・外面体部に重ね焼きの剝離痕	33	E-819
710	〃	〃	化粧具	壺	髪油壺	—	(1.8)	—	—	ナデ	—	肥前	染付・蛸唐草文, 18世紀後半		E-820
711	〃	〃	貯蔵具	瓶	その他	—	—	—	3.7	〃	灰釉	関西	18世紀後半～19世紀代		E-821
712	〃	〃	調理具	その他	卸皿	(2.6)	—	—	—	鉄釉	鉄釉	瀬・美	最大幅(10.4)cm	31	E-822
713	〃	〃	調度具	その他	その他	5.8	1.2	2.2	—	—	指押え	不明	土錘, 色調: 浅黄橙色, 穴径0.5cm		E-823
714	〃	〃	〃	その他	蓋	蓋D	3.5	7.4	—	—	ナデ	白泥+灰釉	呉須絵・草花文か, つまみ径2.5cm, 肩径9.8cm		E-824
715	〃	〃	〃	〃	蓋G	0.9	4.6	—	—	—	—	肥前	染付・氷裂文, 18世紀後半～19世紀前半	36	E-825
716	〃	〃	〃	〃	蓋I	3.4	(9.6)	—	—	白泥+灰釉	白泥+灰釉	関西系	白泥+鉄絵・梅樹文か, つまみ径2.5cm	36	E-826
717	〃	〃	供膳具	鉢	折縁鉢	12.8	(31.8)	—	12.8	〃	灰釉+鉄釉	肥前	三島手, 見込みに重ね焼きの剝離痕, 18世紀代	30	E-827
718	〃	〃	調理具	鉢	捏ね鉢	16.6	27.7	—	18.3	灰釉	灰釉	瀬・美	見込み釉割ぎ(5ヶ所), 高台盤付使用による摩滅痕	31	E-828
719	〃	〃	〃	鍋・釜	行平	(10.1)	(14.0)	(15.4)	(4.8)	〃	〃	関西系	外面底部に煤付着		E-829
720	〃	〃	調度具	花生	壺型	—	—	8.1	10.1	〃	灰釉+鉄釉	瀬・美	底部回転糸切痕, 掛け分け	35	E-830
721	〃	〃	〃	植木鉢	植木鉢	—	(27.4)	—	—	〃	灰釉	〃	押印・宝珠文		E-831

第103図 近世の遺物 (43) その他① (717～721は1:4, 他は1:3)



遺物 番号	調査地点 調査区	用途	器種	器形	法量 (cm)				釉薬・調整等		産地	備考	PL	登録 番号	
					器高	口径	胴径	底径	内面	外面					
722	93B	表土	供膳具	椀	丸椀	4.7	9.9	—	3.8	—	—	肥前	染付・若松文, 高台に砂融着, 18世紀代	24	E-832
723	92A	トレンチ	〃	小椀	平椀	—	—	—	2.5	—	—	瀬・美	上絵付・草花文+変形文字, 幕末期		E-833
724	〃	〃	〃	端反椀		3.0	6.7	—	2.7	—	—	肥前	染付・笹文, 高台に砂融着, 18世紀代	26	E-834
725	〃	〃	〃	皿	丸皿	3.2	(10.8)	—	(6.4)	灰釉	灰釉	瀬・美	鉄絵(摺絵)・梅花文, 見込みにトチン剥離痕		E-835
726	〃	〃	〃	〃	〃	—	(19.0)	—	—	青磁釉	青磁釉	肥前	青磁・陰刻, 見込み蛇ノ目釉刺ぎ, 17世紀後半		E-836
727	〃	〃	調度具	花生	壺型	—	—	—	—	ナテ	青磁	〃	貼付文, 肩径(6.6cm), 17世紀末~18世紀前半	35	E-837
728	93B	攪乱	貯蔵具	瓶	德利A	—	—	—	5.8	—	—	〃	染付, 高台砂融着, 17世紀後半		E-838
729	92A	トレンチ	化粧具	紅皿	—	1.6	4.5	—	1.6	—	—	〃	白磁, 型打ち成形, 18世紀代	34	E-839
730	〃	〃	調理具	鍋・釜	鍋	—	(25.8)	—	—	—	—	不明			E-840
731	〃	〃	火具	鉢	火桶	—	(29.8)	—	—	指押え+ナテ	指押え+ナテ	常滑	赤物, 口縁部・内面に煤付着	33	E-841
732	〃	北壁	〃	〃	こん炉A	18.0	14.8	19.2	16.8	—	—	不明	内面下に煤付着	33	E-842
733	〃	〃	その他	蓋	蓋E	3.1	12.0	—	—	灰釉	灰釉	瀬・美	つまみ径約3.2cm, 櫛引き7本	36	E-843
734	〃	表土	〃	〃	蓋D	0.9	3.3	—	—	—	—	不明		36	E-844
735	〃	〃	〃	〃	蓋F	1.2	(8.0)	—	—	ナテ	灰釉	瀬・美	肩径(8.9cm)		E-845
736	〃	トレンチ	神仏具	瓶	神酒德利B	11.9	3.1	6.5	4.6	灰釉	〃	〃			E-846
737	93B	攪乱	貯蔵具	甕B	その他	—	(26.7)	(34.8)	—	指押え+ナテ	指押え+ナテ	常滑	赤物		E-847

第104図 近世の遺物 (44) その他② (730~732・737は1:4, 他は1:3)



遺物 番号	調査地点		器種		法量 (cm)				釉薬・調整等		産地	備考	PL	登録 番号	
	調査区	遺構	用途	器種	器形	器高	口径	胴径	底径	内面					外面
738	92A	攪乱	供膳具	椀	丸椀	6.6	9.8	—	5.5	灰釉	灰釉	肥前	呉須絵・山水桜蘭文、高台内に押印「小松吉」、17世紀末	23	E-848
739	〃	〃	〃	〃	〃	6.9	(10.7)	—	4.8	〃	〃	瀬・美	高台畳付部分に剝離痕	23	E-849
740	〃	〃	〃	〃	〃	—	—	—	(4.8)	〃	〃	肥前	高台内に押印「清水」、17世紀後半		E-850
741	〃	〃	〃	小椀	端反椀	—	(7.6)	—	—	—	—	〃	染付・草花文・蝶文、17世紀後半		E-851
742	〃	〃	〃	〃	その他	—	—	—	3.5	—	—	〃	染付・朝顔文+「宣徳年製」	26	E-852
743	〃	〃	〃	〃	端反椀	4.0	6.3	—	2.6	—	—	〃	染付・山水文、見込み・高台内に砂融着、17世紀後半	26	E-853
744	〃	〃	〃	皿	土師器皿B	2.4	8.2	—	—	ナデ	指押え	不明	色調：淡黄橙色	34	E-854
745	〃	〃	〃	小椀	丸椀	5.6	(8.3)	—	3.7	—	—	肥前系	白磁、18世紀代	26	E-855
746	93B	〃	〃	皿	丸皿	2.0	11.4	—	7.3	長石釉	長石釉	瀬・美	鉄絵・莚文、見込み・底部にトチン痕、外面に重ね焼きの剝離片融着	27	E-856
747	〃	〃	〃	椀	丸椀	—	10.4	—	—	—	—	肥前	染付・丸に若松・桜花文、1690~18世紀前半	24	E-857
748	〃	〃	〃	〃	〃	—	(5.8)	—	(10.2)	—	—	〃	染付・型紙摺・桐葉文か、1690~18世紀前半	24	E-858
749	〃	〃	〃	〃	〃	—	(11.4)	—	—	灰釉	灰釉	瀬・美			E-859
750	92A	〃	〃	皿	折縁皿	2.4	(9.7)	—	(5.8)	〃	〃	〃	見込み印花、底部トチン痕	28	E-860
751	93B	〃	〃	椀	その他	5.6	(8.5)	—	3.4	長石釉	長石釉	〃	口鏝	26	E-861
752	〃	〃	調理具	水指	水滴	2.9	—	—	—	指押え+ナデ	—	〃	染付・波文、型作り	35	E-862
753	〃	〃	供膳具	皿	丸皿	—	(28.4)	—	—	ナデ	ナデ	〃	焼き締め		E-863
754	〃	〃	調理具	播鉢	IX類	—	(18.1)	—	—	—	—	堺	色調：明赤褐色、焼き締め、栞目数10本・1cm単位に6本		E-864
755	〃	〃	〃	瓶	燗德利B	15.8	6.4	—	6.6	ナデ	灰釉	不明		31	E-865
756	92A	〃	貯蔵具	甕B	甕	16.5	(20.3)	(22.9)	12.8	鉄釉	鉄釉	瀬・美	灰釉流し掛け、見込みにトチン痕	32	E-866

第105図 近世の遺物 (45) その他③ (753~756は1:4, 他は1:3)

2. 焼塩壺

吉田城の本調査区から出土した焼塩壺は、身50点、蓋32点（個体識別）であった。身、蓋ともに成形技法が異なるタイプが出土しており、時期的にもそれぞれ時間幅が認められた。出土状況は、同一遺構からある程度まとまって出土した例がみられず、有印のものも少なかったため、各遺構の時期を判断する好資料にはなり得なかった。これらの器種分類については、渡辺誠氏によって詳細に行われているものに依拠し、これに従うこととする。

(1) 身

身は成形技法の差などにより、4類に分かれる。

身A類 柱状の芯で粘土紐を輪積み成形しているもの。

身C類 板状粘土を芯に巻き付け、底部に粘土塊を充填し、口縁部は段状に削り出された蓋受けが退化して痕跡的になったもの。

身D類 C類の蓋受けの痕跡もなくなったもの。

身E類 器形全体を同時に型によってつくり、小型で器壁が厚く、蓋受けをもたないもの。

1は身A類である。円盤状粘土による底部から、粘土紐を輪積みに成形している。成形時の影響によるものか、六角柱形を呈するものと思われ、内・外面ともに角の稜線がわずかに認められる。口縁部は、内・外両側に成形時の指頭圧痕が認められる。体部内・外面には、粘土紐による継ぎ目の痕跡が認められ、接合痕は内傾である。この身A類には、時期・生産地を決定する判断材料となる刻印が押されているものが多い。しかし、遺存部分には刻印が確認できなかったため、印の有無、時期、生産地等は不明であるが、成形技法が輪積みであるため17世紀代の可能性が強い。2～7は身C類である。2には一重枠に「泉湊伊織」の刻印、4には一重枠に「泉州磨生（両脇に、サカイ・御塩所）」という3行分割して記された刻印がみられる。製作・使用年代は「泉湊～」が18世紀中頃以降、「～磨生～」が18世紀前半以降のもので、いずれも下限が不明である。8～11は身D類である。いずれも口縁部は平坦で、10を除いて体部の器壁は薄手である。13～26は身E類で、出土した身の中ではもっとも多い。内側には、成形時にわずかに回転させながら引き抜いた痕跡が多くみられる。いずれも無印で、容量が極端に少なく形態も特異であるため、不明な点が多い。

(2) 蓋

蓋は形態上4類に大別できる。

蓋A類 上面がやや曲面的で、側面が緩やかに外側へ開くもの。

蓋B類 上面が平坦で、側面への変換点がはっきりしていて、垂下か、やや内側に傾くもの。

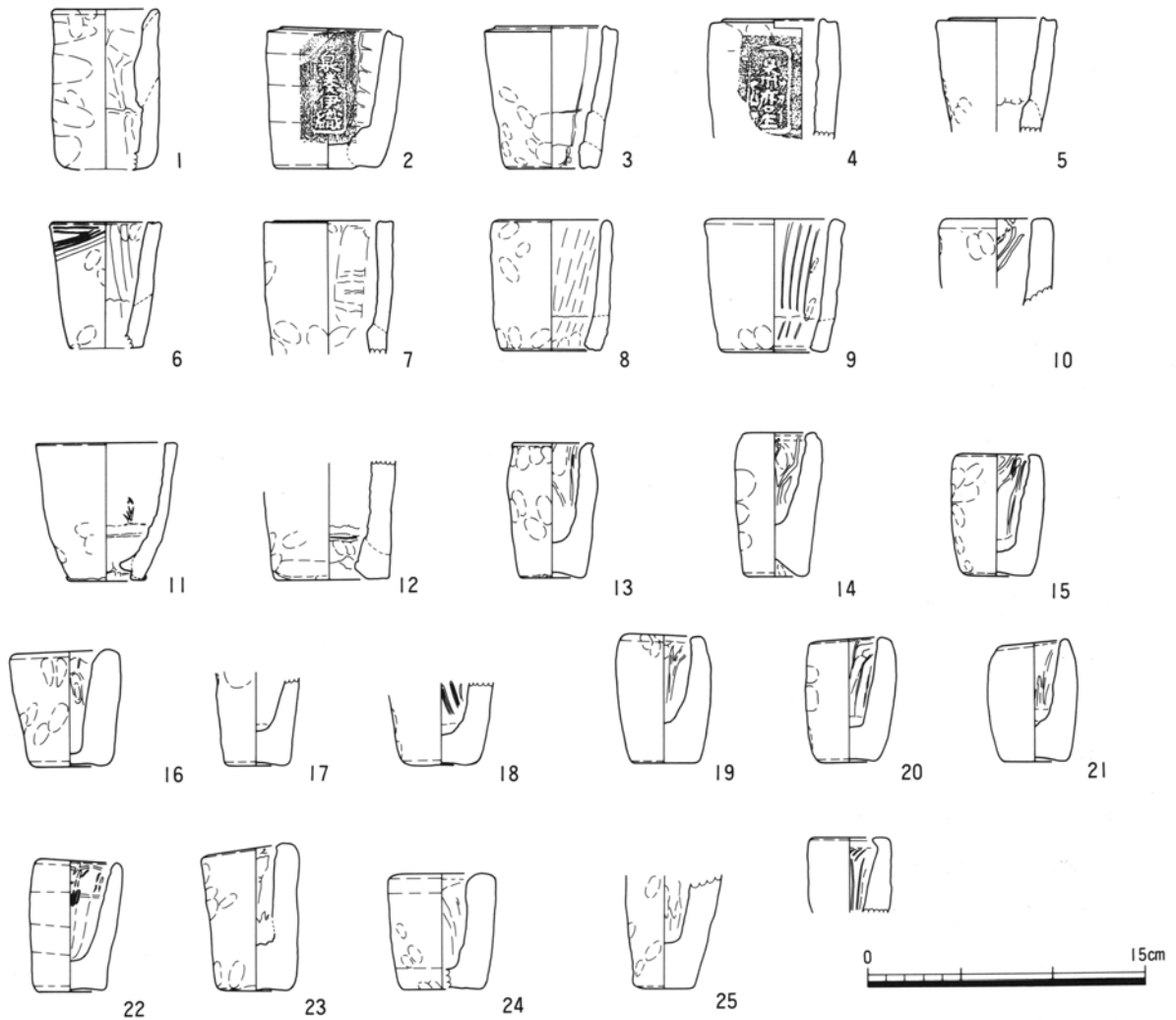
蓋C類 B類の身にかかる部分が退化し、断面形態は内側が平坦か、わずかにくぼむもの。

蓋X類 A類の極端に厚手なもの。（渡辺未分類）

27は蓋A類である。身A類に伴うものと思われる。34～46は蓋B類である。身C類のように蓋受けが退化する以前の身に伴うものと思われる。47～50は蓋C類である。身C類に伴うものと思われる。28～33は蓋X類である。身E類に伴うものと思われる。 (松田 訓)

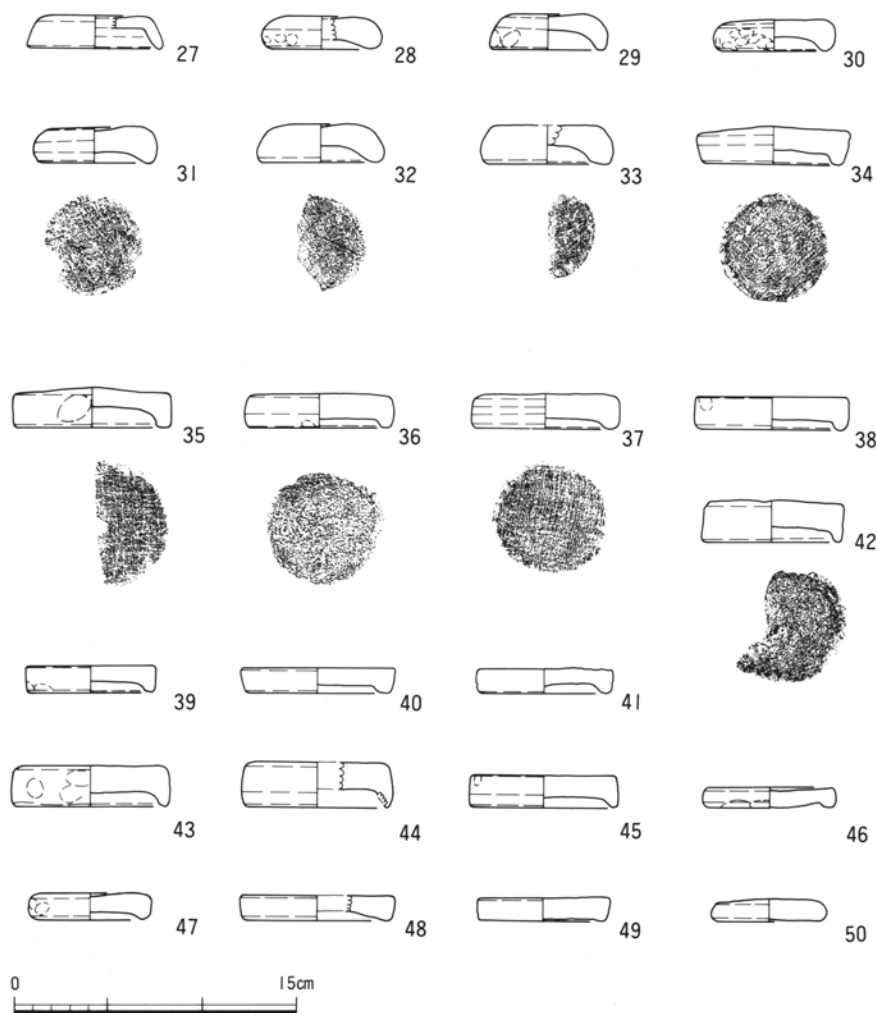
<参考文献>

渡辺 誠 「焼塩」 『講座日本技術の社会史2 塩業・漁業』 日本評論社 1985



遺物 番号	調査地点	器種		法量 (cm・cc)					色調	釉薬・調整等		備考	PL 登録 番号	
		調査区	遺構	器種	器形	器高	口径	肩径		底径	容量			内面
1	92A	SD101	焼塩壺	身A	(8.6)	(5.5)	—	(3.0)	—	橙色	—	指押え	内面：明赤褐色	37 E-867
2	93B	SE104	〃	身C	7.5	5.7	7.5	5.5	105	にふい橙色	—	ナデ	内面：にふい赤褐色，刻印「泉湊伊織」	37 E-868
3	〃	SK055	〃	〃	(7.6)	(6.0)	(7.2)	(4.8)	—	橙色	—	指押え+ナデ	内面：縄目痕	37 E-869
4	〃	検出	〃	〃	—	(5.4)	(6.8)	—	—	〃	—	指押え	内面：縄目痕，刻印「サカイ 泉州磨生 御塩所」	37 E-870
5	〃	〃	〃	〃	—	(5.0)	(6.4)	—	—	にふい橙色	—	〃	内面：縄目痕，外面一部剥離	E-871
6	92A	〃	〃	〃	(6.8)	(4.5)	(5.8)	(3.6)	—	〃	—	指押え+ナデ	内面：橙色	E-872
7	〃	北壁	〃	〃	—	5.6	(6.8)	—	—	橙色	—	〃	〃	E-873
8	93B	SK055	〃	身D	7.0	(5.8)	—	(5.3)	—	にふい橙色	—	指押え	内面：橙色	E-874
9	〃	SK020	〃	〃	(7.1)	(6.4)	—	(5.4)	—	〃	—	指押え+ナデ	〃	37 E-875
10	〃	SD129	〃	〃	—	(5.6)	—	—	—	〃	—	指押え	内面：布目痕，赤褐色	E-876
11	〃	検出	〃	〃	(7.3)	(7.4)	—	(4.0)	—	〃	—	指押え+ナデ	内面：縄目痕	E-877
12	〃	〃	〃	身Bか	—	—	—	5.8	—	〃	—	ナデ	内面：縄目痕	E-878
13	〃	〃	〃	身E	(7.2)	(4.4)	—	(3.2)	—	〃	—	〃	内面：赤褐色	37 E-879
14	92A	SK326	〃	〃	7.7	(3.5)	—	(3.0)	30	〃	—	〃	内面：明赤褐色	E-880
15	93B	SK053	〃	〃	(6.5)	(4.0)	—	3.0	—	橙色	—	〃	内面：明赤褐色	E-881
16	〃	SD129	〃	〃	6.2	5.3	—	3.5	25	にふい橙色	—	指押え	内面：赤褐色	37 E-882
17	92A	SK180	〃	〃	—	—	—	3.0	—	〃	—	ナデ	内面：明赤褐色	E-883
18	93B	SK086	〃	〃	—	—	—	3.0	—	〃	—	〃	内面：赤褐色，断面に鉄塊附着	E-884
19	92A	検出	〃	〃	6.9	3.8	—	(3.3)	18	〃	—	指押え	内面：明赤褐色	37 E-885
20	〃	〃	〃	〃	6.6	3.6	—	2.8	25	〃	—	ナデ	内面：明赤褐色	E-886
21	93B	〃	〃	〃	6.4	3.7	—	3.4	18	〃	—	ナデ	〃	37 E-887
22	〃	〃	〃	〃	7.0	4.1	—	3.4	30	赤橙色	—	〃	内面：赤褐色	E-888
23	〃	〃	〃	〃	7.6	4.2	—	3.4	24	赤色	—	指押え+ナデ	内面：布目痕	37 E-889
24	〃	〃	〃	〃	(6.2)	(4.4)	—	(4.0)	—	明赤褐色	—	〃	内面：にふい赤褐色	E-890
25	92A	〃	〃	〃	—	—	—	2.5	—	橙色	—	指押え	内面：赤褐色	E-891
26	93B	〃	〃	〃	—	(3.8)	—	—	—	にふい橙色	—	〃	内面に布目痕，明赤褐色，外面全体に剥離	E-892

第106図 近世の遺物 (46) 焼塩壺① (1 : 4)



2



4

遺物 番号	調査地点	器種		法量 (cm・cc)					色調	釉薬・調整等		備考	PL	登録 番号
		器種	器形	器高	口径	肩径	底径	容量		内面	外面			
27	93B	SK103	焼塩壺 蓋 A	(1.7)	(7.0)	(5.0)	—	—	橙色	—	ナデ			37 E-893
28	"	SD113	" 蓋 X	(1.7)	(5.3)	(3.6)	—	—	にぶい橙色	—	指押え+ナデ			37 E-894
29	"	SD102	" "	1.9	5.8	3.7	—	—	黄橙色	—	"	内面：布目痕		37 E-895
30	"	SD129	" "	1.7	5.5	4.6	—	—	"	—	"	内面：布目痕		37 E-896
31	"	"	" "	1.8	5.7	4.7	—	—	橙色	—	ナデ	内面：布目痕		37 E-897
32	92A	SD101	" "	2.0	(6.1)	(3.4)	—	—	"	—	—	内面：布目痕		37 E-898
33	"	SD117	" "	2.0	(6.4)	(5.5)	—	—	にぶい橙色	—	指押え+ナデ	内面：布目痕		E-899
34	"	SD101	蓋 B	2.0	7.0	8.1	—	—	"	指押え	ナデ	内面：布目痕		37 E-900
35	"	"	" "	2.1	(8.0)	(8.3)	—	—	"	—	指押え+ナデ	内面：布目痕		E-901
36	93B	SD102	" "	(1.8)	(7.3)	(7.2)	—	—	橙色	—	ナデ	内面：布目痕		37 E-902
37	"	SE104	" "	1.8	7.2	7.0	—	—	にぶい黄橙色	—	"	内面：布目痕、橙色		37 E-903
38	"	SK053	" "	(1.7)	(7.4)	(7.3)	—	—	橙色	—	指押え+ナデ	内面：布目痕		E-904
39	"	SK033	" "	1.4	(6.5)	(6.9)	—	—	にぶい橙色	—	"	内面：布目痕		E-905
40	92A	SK221	" "	1.3	(7.6)	(8.0)	—	—	橙色	—	ナデ	内面一部剝離		E-906
41	"	"	" "	(1.3)	(6.8)	(7.2)	—	—	にぶい橙色	—	—	内・外面全体に剝離		E-907
42	"	検出	" "	2.2	7.2	7.1	—	—	橙色	—	ナデ	内面：布目痕、明赤褐色		37 E-908
43	93B	"	" "	(2.1)	(8.0)	(7.0)	—	—	にぶい橙色	指押え	指押え+ナデ	内面：布目痕		E-909
44	"	"	" "	2.4	(7.4)	(7.6)	—	—	"	—	ナデ	内面：布目痕		E-910
45	"	西壁トレンチ	" "	1.8	(7.3)	(7.4)	—	—	橙色	—	"	内面：布目痕		E-911
46	92A	検出	" "	1.1	(6.6)	(6.4)	—	—	にぶい橙色	—	指押え+ナデ	内面：布目痕		E-912
47	"	SK086	蓋 C	(1.4)	(5.6)	(4.8)	—	—	"	—	"	内面：布目痕		E-913
48	93B	"	" "	(1.3)	(7.5)	(8.0)	—	—	橙色	—	ナデ	内面：赤橙色		E-914
49	"	"	" "	1.3	6.5	6.8	—	—	"	—	—			37 E-915
50	"	"	" "	1.2	5.5	5.5	—	—	にぶい橙色	—	ナデ	内面：布目痕		37 E-916

第107図 近世の遺物 (47) 焼塩壺② (拓影は原寸, 他は 1 : 4)

3. 瓦類

今回の発掘調査において、近世陶磁器類について瓦類が大量に出土している。瓦溜りから出土した瓦類をカウントすることによって、建物の規模を推定することができるのかも知れないが、良好な遺構が存在しないこともあり、今回は実施していない。

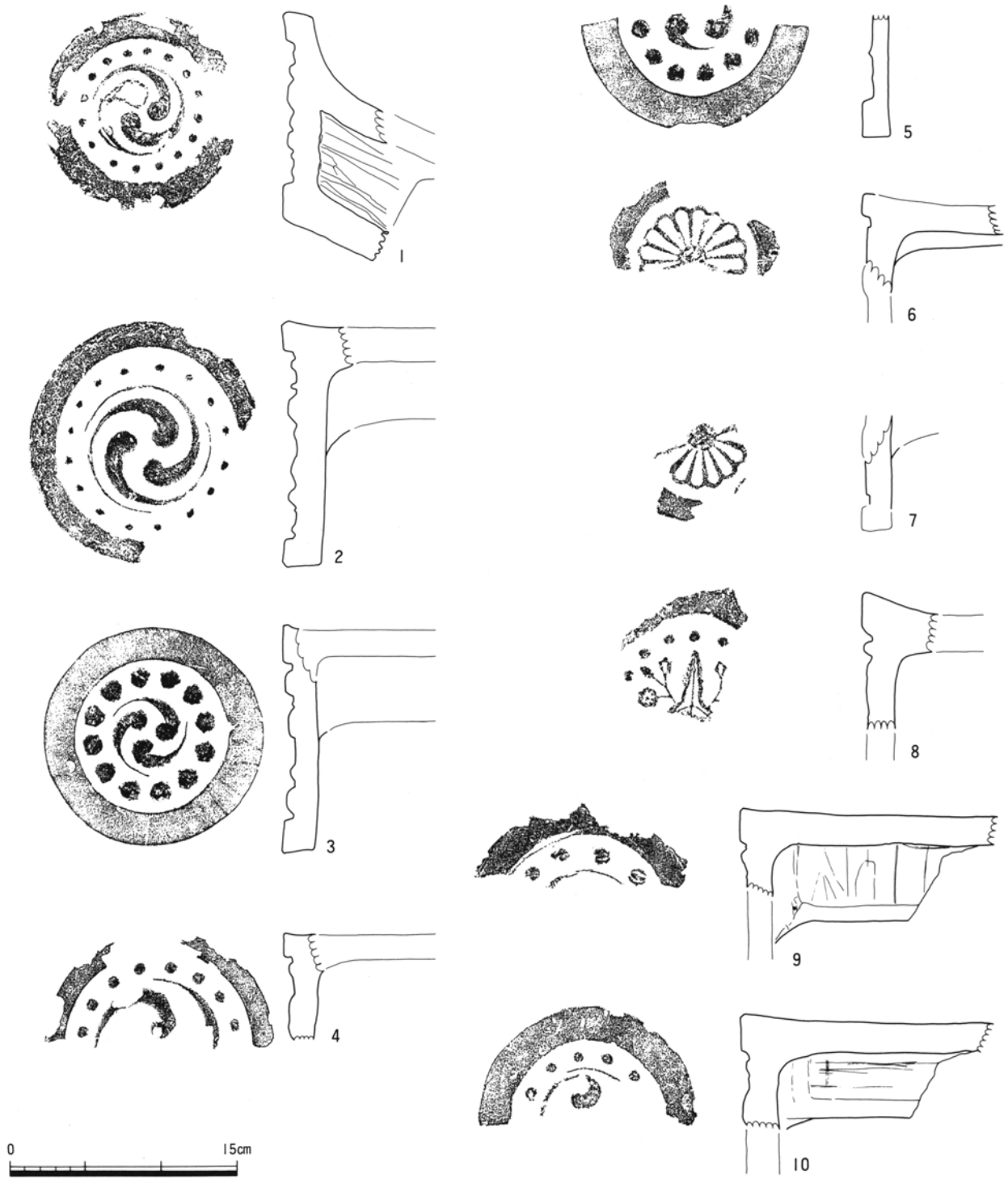
瓦類については、明確な分類がないが、大きく本瓦である軒丸瓦・軒平瓦と、軒棧瓦・棧瓦・丸瓦等に分けられる他、特殊なものとして鬼瓦・鯨瓦・鳥衾や拝巴等がある。今回の報告では、細かな分類を実施していないことを予め断わっておく。

1は、鳥衾といわれる瓦で、鳥伏間とも書き、鬼瓦の上部に置かれて伏間に接続して葺かれる。形は、伏間の一端に鳥休という突出部がつき、鳥休にもさまざまな形がある。鳥休部分のみの残存で全体の形態は不明であるが、鳥休部がかなり反り返っており、瓦当面には連珠文と左三ツ巴文が陽刻されている。2～10は軒丸瓦であり、全体的に見てもその出土量は多くない。径は吉田城三の丸出土の軒丸瓦と同様でほぼ15cm前後であるが、6・7が11cmとやや小型である。瓦当面には、連珠文と左三ツ巴文が多いが、連珠も10個・12個・16個・18個と分けられ、巴も径や長さにより分類できそうである。6・7の瓦当面には菊花文が、8の瓦当面には連珠文と沢瀉文が陽刻されている。特に、8の沢瀉文は家紋瓦とも考えられ興味深い資料である。11～14は軒平瓦で、やはり出土量は多くない。その外区幅は吉田城三の丸で出土する軒平瓦とほぼ同様に29cm前後であるが、13がやや小さくなっている。11は断面をみると中心が灰黒色で周囲が淡灰色のサンドイッチ状を呈し、全体に焼きムラが見られることから、戦国期を想定することができる。ただし、12～14については17に類似しており、軒棧瓦である可能性がある。瓦当面には中央に葉を配しその左右に均整唐草文を陽刻したものが多く、やはり中央葉の形と子葉の組合せにより分類ができそうである。15・16～28は軒棧瓦で、16・24～28は軒棧瓦の軒丸部で、17～23は軒棧瓦の軒平部であり、出土した瓦の大半を占めている。15は、拝巴といわれる瓦とも思われる。拝巴とは、拝本掛瓦という破風板の最上部すなわち拝部分に葺かれる瓦の1種で、拝巴・拝唐草・敷平・二の平・面戸の1組で構成される瓦である。しかし、拝巴以外の瓦については、抽出できていない。軒丸部については、径がほぼ8cm前後で、16のみ9cmとやや大きめで掛瓦であるかも知れない。瓦当面には、軒丸瓦と同様に連珠文と左三ツ巴文が陽刻されている。26は右三ツ巴文であり、16は左三ツ巴文のみで連珠文は見られず、28では連珠文のかわりに唐草文が左三ツ巴文の周りに配されている。軒平部については、軒平瓦と同様に中心に葉を配し左右に均整唐草文を陽刻している。21は波のような文様が施され、新しい時期の瓦である可能性がある。29・30は棧瓦で、上部に切込みがみられる。31～33は丸瓦で、その大きさは様々である。凹面には布目痕や棒状圧痕が見られ、凸面には全体に篋磨きが施されている。

図化した遺物の他に、鯨瓦の一部や、破片資料で瓦の種類は不明であるが「川<三>牛」という刻印の見られるものがある。これが製作者を示す刻印で「三州牛川」とすれば瓦の供給元として豊橋市の牛川が想定され、地元の瓦が武家屋敷の屋根に葺かれていたこととなろう。(小嶋廣也)

<参考文献>

玉置豊次郎監修 坪井利弘著 『日本の瓦屋根』 理工学社 1976



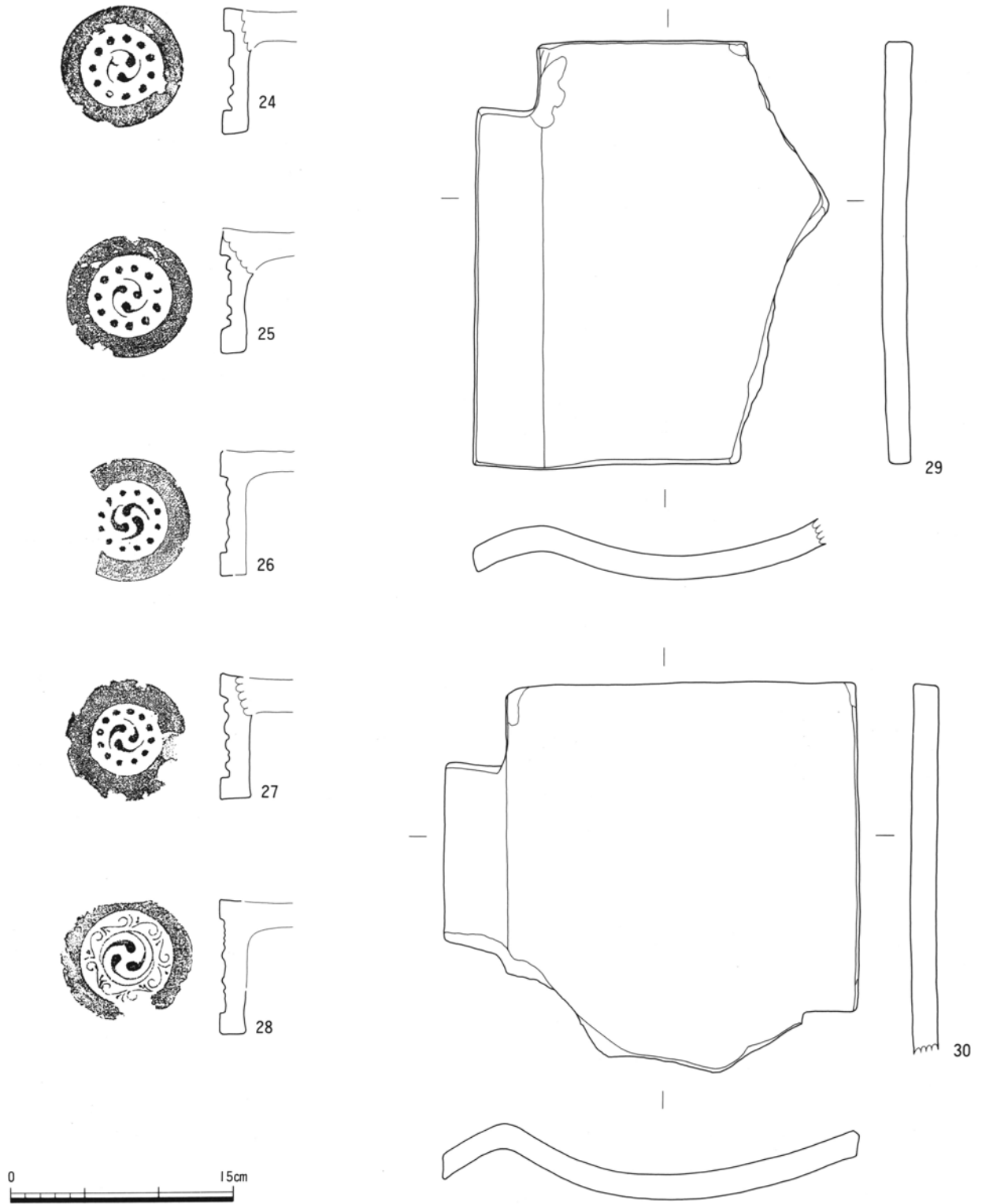
遺物 番号	調査地点 調査区 遺構	種類	軒丸部 (cm)			軒平部 (cm)				備考	PL	登録 番号
			径	内区径	珠文数	幅	内区幅	厚さ	内区厚			
1	92A 検I	鳥衾	13.0	9.5	16	—	—	—	—	左三ツ巴文+連珠文, 鳥体部のみ残存	37	E-917
2	" SD101	軒丸瓦	15.5	12.5	16	—	—	—	—	左三ツ巴文+連珠文	37	E-918
3	" "	"	14.7	10.4	12	—	—	—	—	左三ツ巴文+連珠文	37	E-919
4	" 検I	"	(15.4)	(13.0)	(16)	—	—	—	—	左三ツ巴文+連珠文	37	E-920
5	93B SK124	"	(15.0)	(10.0)	(12)	—	—	—	—	左三ツ巴文+連珠文		E-921
6	92A SK246	"	(11.1)	(8.7)	—	—	—	—	—	菊丸文, 全長 残8.8cm	37	E-922
7	" 検II	"	(11.2)	(8.4)	—	—	—	—	—	菊丸文		E-923
8	" 検I	"	(15.4)	(10.8)	(18)	—	—	—	—	沢瀉文+連珠文	37	E-924
9	" SE107	"	(15.2)	(10.8)	(10)	—	—	—	—	左三ツ巴文+連珠文		E-925
10	" SK274	"	(14.2)	(9.8)	(12)	—	—	—	—	左三ツ巴文+連珠文, 全長 残16.6cm		E-926

第108図 近世の遺物 (48) 瓦類① (1:4)



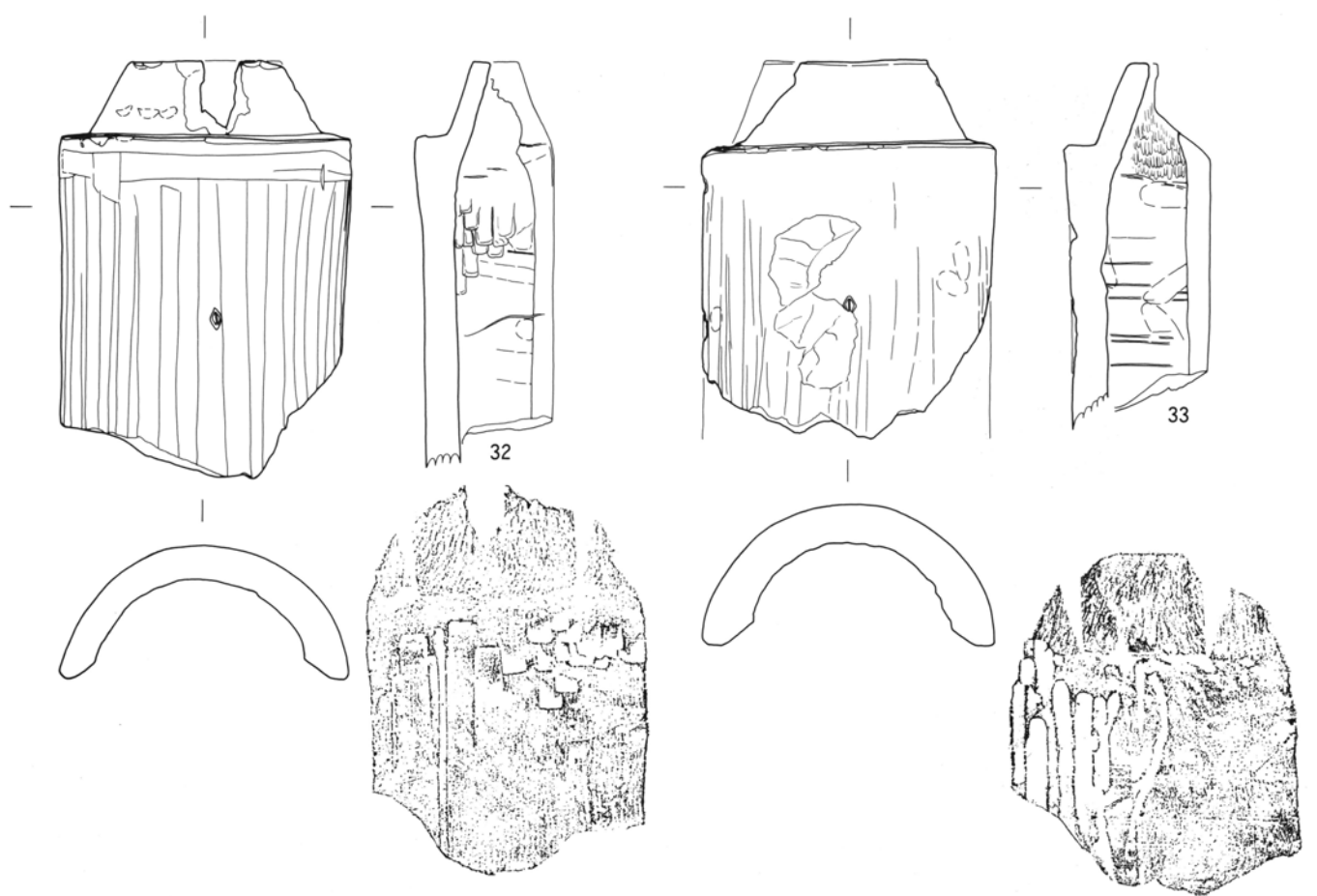
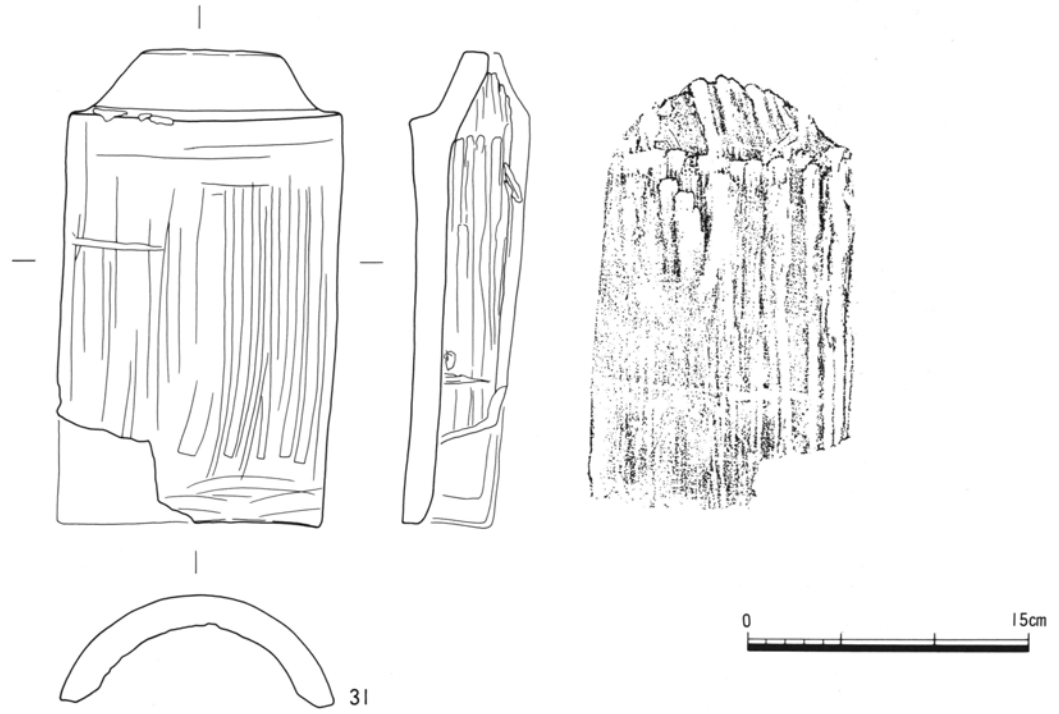
遺物 番号	調査地点		種類	軒丸部 (cm)			軒平部 (cm)				備考	PL	登録 番号	
	調査区	遺構		径	内区径	珠文数	幅	内区幅	厚さ	内区厚				
11	93B	SD129	軒平瓦	—	—	—	(29.6)	(21.2)	(5.2)	3.1	唐草文, 全長 残9.8cm	37	E-927	
12	92A	SK306	"	—	—	—	—	—	4.9	3.5	唐草文		E-928	
13	"	検I	"	—	—	—	23.9	13.8	3.9	2.8	唐草文, 全長 残9.8cm	37	E-929	
14	"	検III	"	—	—	—	(28.4)	(18.0)	4.5	3.0	唐草文, 全長 残13.9cm	37	E-930	
15	93B	SK124	軒棧瓦	(9.1)	(7.4)	—	—	—	—	—	左三つ巴文, 拜巴か	37	E-931	
16	92A	SD101	"	7.7	4.7	12	—	—	4.4	2.7	左三つ巴文+連珠文・唐草文, 掛瓦か	37	E-932	
17	"	トレンチ	"	—	—	—	—	—	(21.2)	4.5	3.2	唐草文, 全長 残14.6cm	37	E-933
18	"	SK124	"	—	—	—	—	—	(12.6)	(4.3)	(2.7)	唐草文, 全長 残10.1cm		E-934
19	92A	SK323	"	—	—	—	—	—	3.7	2.8	唐草文		E-935	
20	93B	攪乱	"	—	—	—	—	—	(13.0)	4.1	2.7	唐草文, 全長 残8.3cm	37	E-936
21	92A	SK274	"	—	—	—	—	—	(13.6)	(6.2)	(4.0)	唐草文?		E-937
22	"	SE106	"	—	—	—	—	—	4.5	3.0	唐草文, 全長 残14.1cm		E-938	
23	"	検I	"	—	—	—	—	—	(16.8)	3.5	2.4	唐草文, 全長 残16.4cm	37	E-939

第109図 近世の遺物 (49) 瓦類② (1:4)



遺物 番号	調査地点		種類	軒丸部 (cm)			軒平部 (cm)				備考	PL	登録 番号
	調査区	遺構		径	内区径	珠文数	幅	内区幅	厚さ	内区厚			
24	92A	検I	軒棧瓦	8.3	5.5	11	—	—	—	—	左三ツ巴文+連珠文		E-940
25	"	"	"	8.2	4.9	12	—	—	—	—	左三ツ巴文+連珠文		E-941
26	"	SK274	"	8.1	5.1	12	—	—	—	—	右三ツ巴文+連珠文		E-942
27	93B	SK053	"	8.3	5.6	11	—	—	—	—	左三ツ巴文+連珠文		E-943
28	"	検出	"	(8.8)	(6.4)	—	—	—	—	—	左三ツ巴文+唐草文		E-944
29	92A	SD101	棧瓦	—	—	—	—	—	—	—	全長28.7cm, 幅 残24.0cm, 厚さ1.7cm		E-945
30	93B	SK104	"	—	—	—	—	—	—	—	全長 残26.2cm, 幅28.3cm, 厚さ1.8cm		E-946

第110図 近世の遺物 (50) 瓦類③ (1:4)



遺物 番号	調査地点		種類	軒丸部 (cm)			軒平部 (cm)			備考	PL	登録 番号
	調査区	遺構		径	内区径	珠文数	幅	内区幅	厚さ			
31	92A	検 I	丸瓦	—	—	—	—	—	—	全長24.9cm, 幅14.6cm, 高さ5.7cm, 厚さ1.7cm	E-947	
32	93B	SD129	"	—	—	—	—	—	—	全長残22.9cm, 幅16.1cm, 高さ7.6cm, 厚さ1.8cm	E-948	
33	92A	SK179	"	—	—	—	—	—	—	全長残20.8cm, 幅16.3cm, 高さ7.8cm, 厚さ2.2cm	E-949	

第111図 近世の遺物 (51) 瓦類④ (1 : 4)

4. 人形類

今回の発掘調査において、人形やミニチュア製品が出土している。これまでに紹介してきた近世陶磁器類の分類においては、全く触れられていない製品である。ここで、人形類としてまとめて紹介しておきたいと思う。人形類の分類も、近世陶磁器類の分類同様に『名古屋城三の丸遺跡(Ⅳ)』を参考にして、以下のように4つに分類して見ていきたい。

- | | | |
|--------|--------|---------------------------------|
| 1. 人形 | 1. 人物 | 1—小僧、2—神様、3—その他 |
| | 2. 動物 | 1—鳥、2—馬(騎馬人物)、3—猫、4—その他 |
| 2. 器材 | 1. 建造物 | 1—家、2—灯籠、3—橋、4—船、5—その他 |
| | 2. 調理具 | 1—鍋、2—釜、3—竈、4—土瓶、5—銚子、6—蓋、7—その他 |
| | 3. その他 | 1—紅皿、2—文具、3—その他 |
| 3. その他 | | 1—合子、2—型抜き、3—鈴、4—貨幣、5—その他 |
| 4. 不明 | | |

名古屋城三の丸遺跡における人形類の分類では、上記の他に土錘や水滴等も含まれているが、本報告書では近世陶磁器類に分類している(土錘・水指・水滴は調度具にそれぞれ分類している)。そのため、近世陶磁器類の組成については単純な数値の比較は難しいかもしれないが、いずれも出土量が少量であるため影響は少ないものと考えている。

1～12が人形類、13～19、21～31が器材、20・32がその他に分類される。まず人形類であるが、1～9が人物で、1～6が神様に分類される。全て土師質製品で、型押し成形、底部に穿孔の見られるものがある。1～4は天神、5は大黒天と恵比寿、6は多聞天の頭部と推定される。ただし、天神については雛人形の男雛の可能性もあるが、出土遺物に女雛が出土していないところから天神と判断している。7～9は小僧とは断定しにくかったためにその他に分類した。特に9は、手捏ね成形で、1点のみ確認している。10～12は動物で、その内10・11は鳥、12は桃を抱いた猿を象っているものと思われる。11は中に土玉が入っており、土鈴として利用されたのだろうか。器材としては、13・14は建造物で塔と考えられる。15～17と21は調理具に分類され、15は蓋、16・17は釜、21は竈である。16には外面に緑釉が施されている。18・19・22・27～31は調理具とも考えられるがその他とした。18・19・29は椀類、27は瓶類、28は壺類、30は瓶類或いは壺類、22・31は鉢類のミニチュア製品で、特に22には内面の楡目から播鉢を象ったものと考えられる。23～26は白磁の紅皿で、外面に菊花文や蓮弁文が施されている。20・32はその他に分類した。20は将棋の駒で、「桂馬」と染付られている。32は人形の台座で、表面には白泥が塗られ上部に朱が入っている。

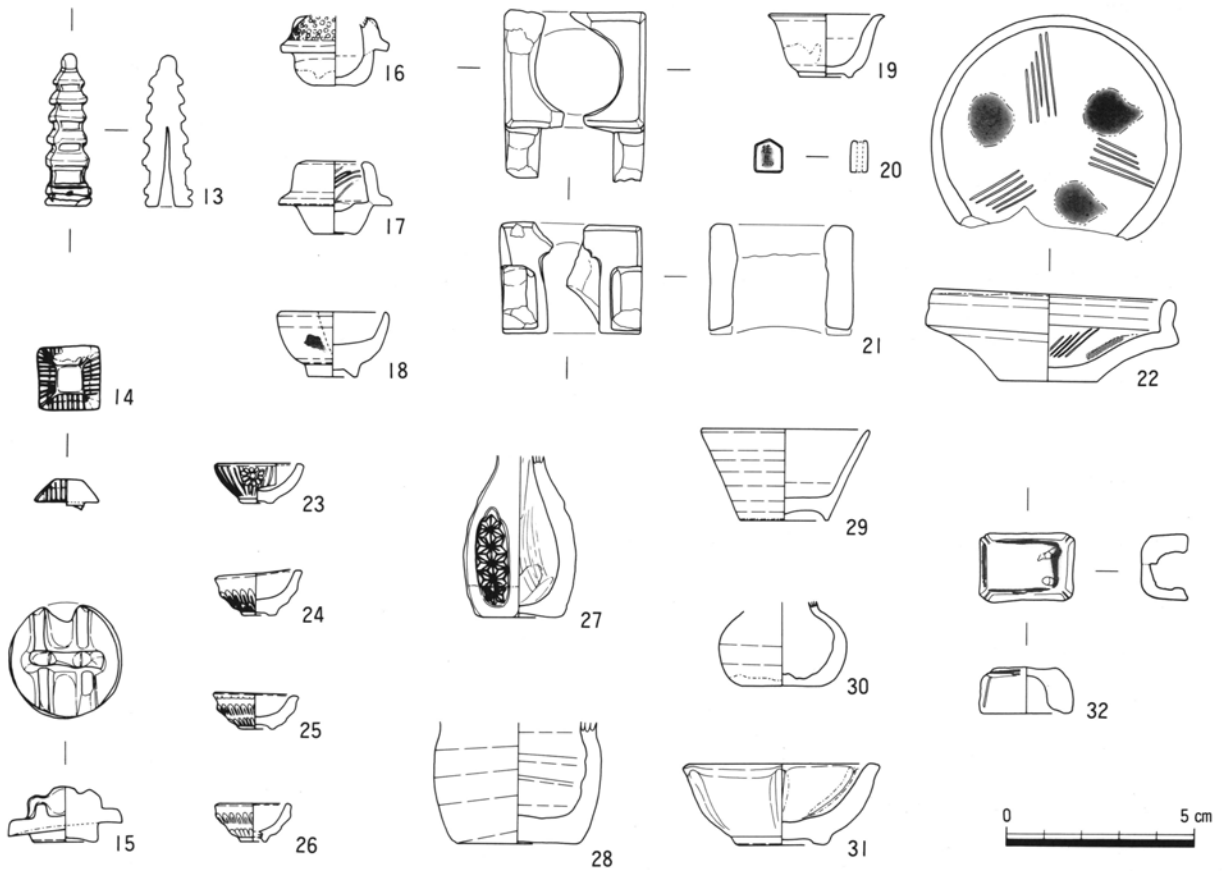
なお、今回の整理において人形類のカウントは実施していない。そのために、それぞれの具体的な数値を提示することはできない。また、出土地点を確定し得る資料が少量であったために、空間的な広がりあるいは集中を捉えるまでには至っていない。(小嶋廣也)

<参考文献>

- (財)愛知県埋蔵文化財センター 『名古屋城三の丸遺跡(Ⅲ)』 1992
 (財)愛知県埋蔵文化財センター 『名古屋城三の丸遺跡(Ⅳ)』 1993



第112図 近世の遺物 (52) 人形類① (1 : 2)



遺物 番号	調査地点 調査区 遺構	材質	種類			法量 (cm)			釉薬	成形 技法	備考	PL	登録 番号
			種類	用途	形状	高さ	最大幅	その他					
1	93B SD129	土師質	人形類	人物	神様	残 4.6	6.0	最大厚 2.3	—	型押し	天神, 底部穿孔 (径1.6cm)	38	E-950
2	92A 検 I	"	"	"	"	残 2.9	2.4	最大厚 1.5	—	"	堂入り天神	38	E-951
3	93B "	"	"	"	"	残 2.4	2.8	最大厚 1.3	—	"	天神, 底部穿孔 (径0.3cm)		E-952
4	" SK055	"	"	"	"	残 2.1	2.5	最大厚 1.1	—	"	天神, 底部穿孔 (径0.3cm)		E-953
5	" SD129	"	"	"	"	残 3.6	3.8	最大厚 1.9	—	"	大黒天と恵比寿, 底部穿孔 (径0.4cm)	38	E-954
6	92A SD101	"	"	"	"	残 3.5	残 3.0	最大厚 1.5	—	"	多聞天か, 裏穿孔径0.3cm		E-955
7	93B 検 I	"	"	"	その他	残 5.0	4.8	—	—	"	内面押圧痕	38	E-956
8	92A SD101	"	"	"	"	残 3.8	残 5.1	—	緑釉	"	西行後姿, 内面布目痕・指圧痕	38	E-957
9	93B SK011	"	"	"	"	4.3	2.5	最大厚 1.9	—	手捏ね	人型, 外面指圧痕	38	E-958
10	92A SK330	"	"	動物	鳥	3.6	残 1.9	—	—	"	外面に指押し痕残る	38	E-959
11	93B SK053	"	"	"	"	残 5.0	3.5	全長 7.1	—	"	底部穿孔 (径0.6cm), 中に土玉あり, 土鈴か	38	E-960
12	92A 検 I	"	"	"	その他	残 6.1	残 3.7	—	—	型押し	内面に指押し痕残る	38	E-961
13	93B SD129	"	器 材	建造物	その他	4.0	—	底径 1.2	—	"	底部穿孔 (径0.5cm)	38	E-962
14	92A 検III	陶器質	"	"	"	残 0.8	1.7	—	白泥	"	塔の一部か		E-963
15	" SD101	"	"	調理具	蓋	1.5	3.0	口径 1.6	透明釉	"	鍋・釜の蓋	38	E-964
16	93B SD129	"	"	"	釜	—	—	底径 1.0	緑釉	"		38	E-965
17	92A 検 I	"	"	"	"	1.9	(1.6)	底径 (1.1)	"	"			E-966
18	" "	磁器質	"	その他	その他	1.7	(2.8)	底径 1.3	透明釉	ロクロ	白磁, 鉄絵か		E-967
19	93B 暗渠	"	"	"	"	1.7	(2.9)	底径 1.4	"	型押し	白磁		E-968
20	92A 検II	"	その他	—	その他	0.9	0.8	最大厚 0.5	"	"	染付・文字文「桂馬」, 将棋の駒	38	E-969
21	" 検 I	土師質	器 材	調理具	籠	2.9	3.8	—	—	"			E-970
22	" SD101	陶器質	"	"	鉢	2.4	6.3	底径 2.6	黄釉	ロクロ	底部回転糸切痕, 緑釉掛かる, 櫛目5本3ヶ所	38	E-971
23	93B 検 I	磁器質	"	その他	紅皿	1.1	2.2	底径 0.8	透明釉	型押し	白磁・菊花文	38	E-972
24	" SD102	"	"	"	"	1.1	2.1	底径 0.8	"	"	白磁・蓮弁文	38	E-973
25	92A 検 I	"	"	"	"	0.9	2.1	底径 0.8	"	"	白磁・蓮弁文		E-974
26	93B "	"	"	"	"	1.0	(1.8)	底径 (0.7)	"	"	白磁・蓮弁文	38	E-975
27	" "	陶器質	"	"	その他	—	—	底径 (2.0)	緑釉	"		38	E-976
28	92A 検II	土師質	"	"	"	—	—	底径 3.1	—	ロクロ	底部回転糸切痕		E-977
29	" 検 I	磁器質	"	"	"	2.4	(4.4)	底径 2.3	透明釉	"	白磁		E-978
30	93B 検II	陶器質	"	"	"	—	—	底径 2.2	緑釉	手捏ね	内面押圧痕	38	E-979
31	92A "	"	"	"	"	2.1	(4.9)	底径 (2.2)	褐釉	型押し		38	E-980
32	" SD101	"	その他	—	その他	残 1.2	2.5	—	白泥	"	人形の台座か, 朱が入る		E-981

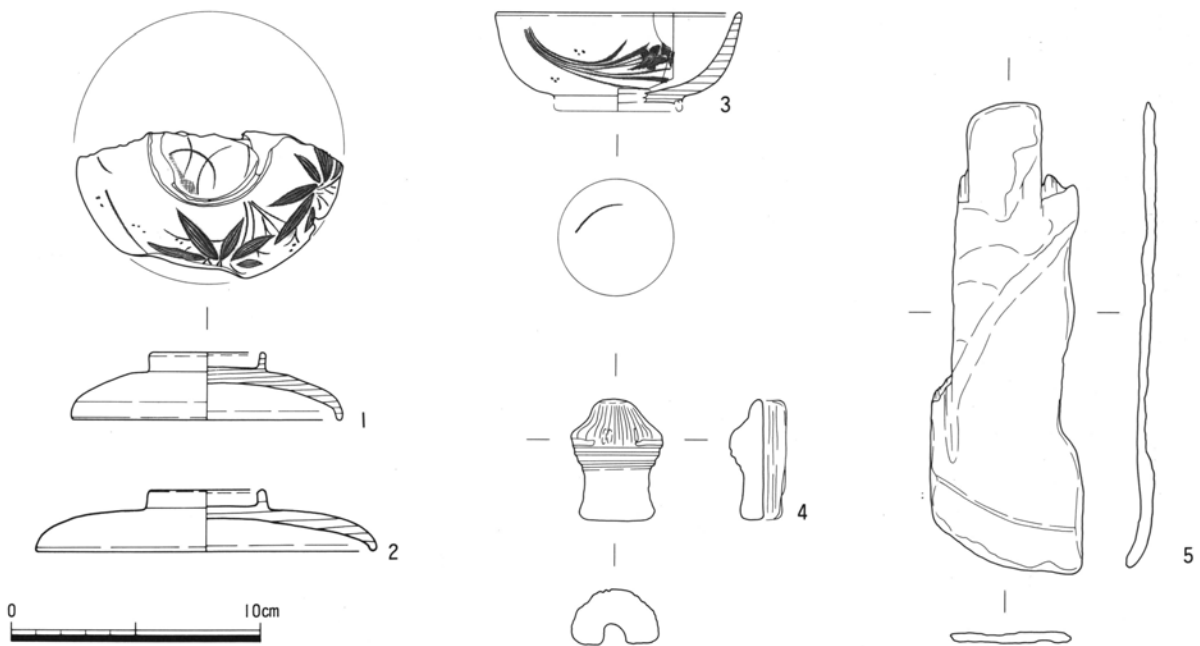
第113図 近世の遺物 (53) 人形類② (1:2)

5. 木製品

今回の発掘調査において出土した木製品は、漆碗の身と蓋等の漆器製品をはじめ、箸・櫛・曲物・下駄・箱・建築廃材等が見られる。出土遺構は、井戸や外堀に限定され、SE106からは一部に炭化した建築部材が見られ、火災により焼失したものを一括投棄した可能性があり、興味深い遺構として注目される。

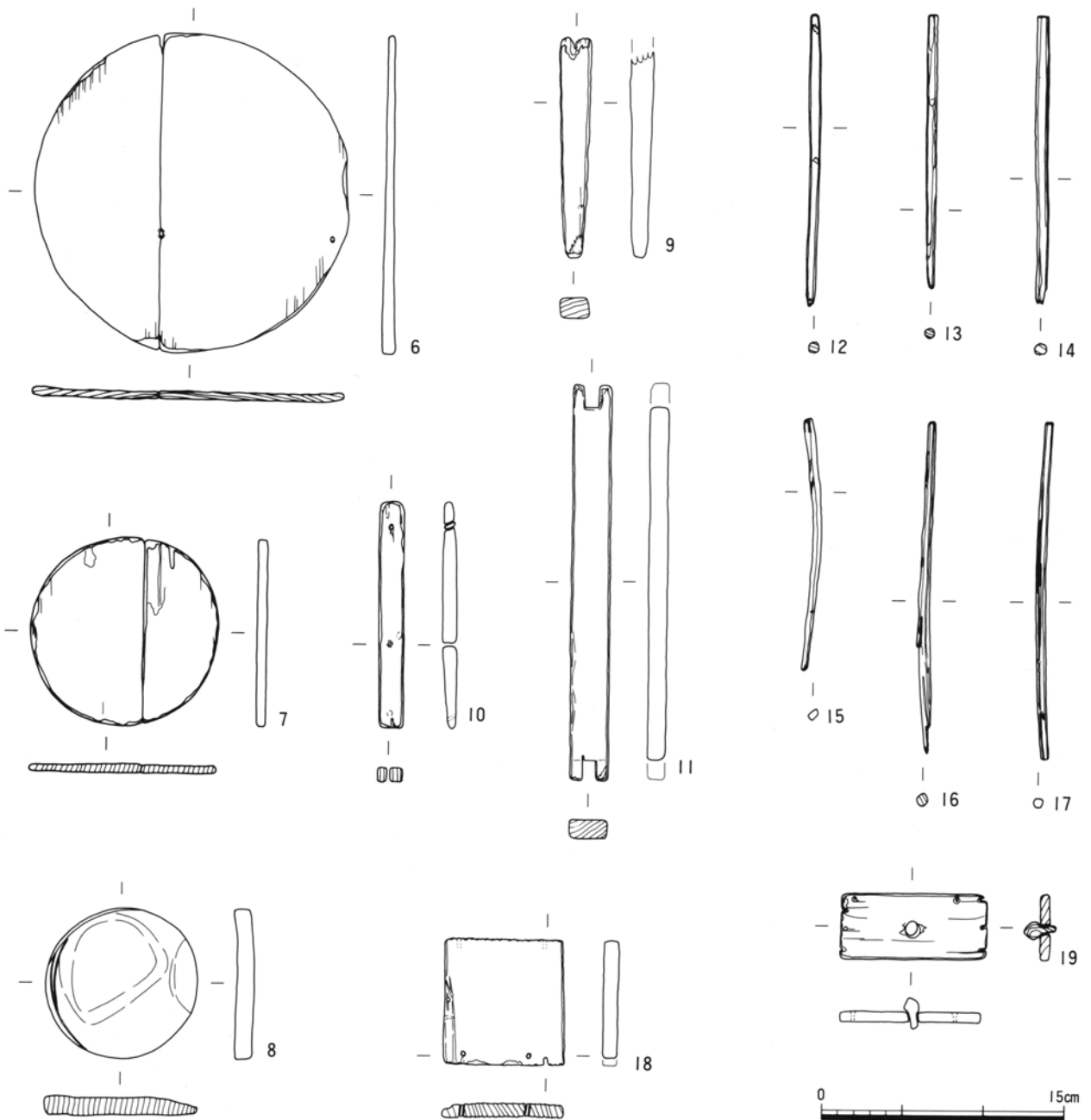
1～26は、SE106より出土した木製品である。1・2は漆碗の蓋で、1には灰色漆による文様が施されている。3は漆碗の身で、赤色漆による文様が見られる。4は、傘の軸部分で、他にも中に軸の詰まったものも出土している。5はお盆で赤色漆と黒色漆が内面で塗り分けられている。6～8は曲物の底板で、6には片面に黒色漆が残っている。9は柄杓の柄の一部、10・11は建具、12～17は箸、18・19は箱物の一部で同一個体と思われる。20～24は下駄で、差し歯のものと一木造りのものが確認されている。25は樽の上板で焼印が見られ、26は箒である。27～39は、SE104より出土した木製品である。27～29は漆碗の身、30は漆碗の蓋で、灰色漆による文様が施されている。31は櫛、32～34は曲物の底板、35は曲物の側板、36は戸車、37は不明、38は柄杓の柄、39は建具と考えられる。32・35・38で一個体になるものと推定される。40～48は、その他の遺構（SE103・SD101・SE107・SK226）より出土した木製品である。40～43は漆碗の身で、40には赤色漆の文様が施されている。SE106やSE104出土の漆碗よりも古い時期の様相を示している。45は櫛で、背の部分に灰色漆による装飾が施されている。44・46は曲物の底板、47は建具、48は曲物と思われる。

(小嶋廣也)



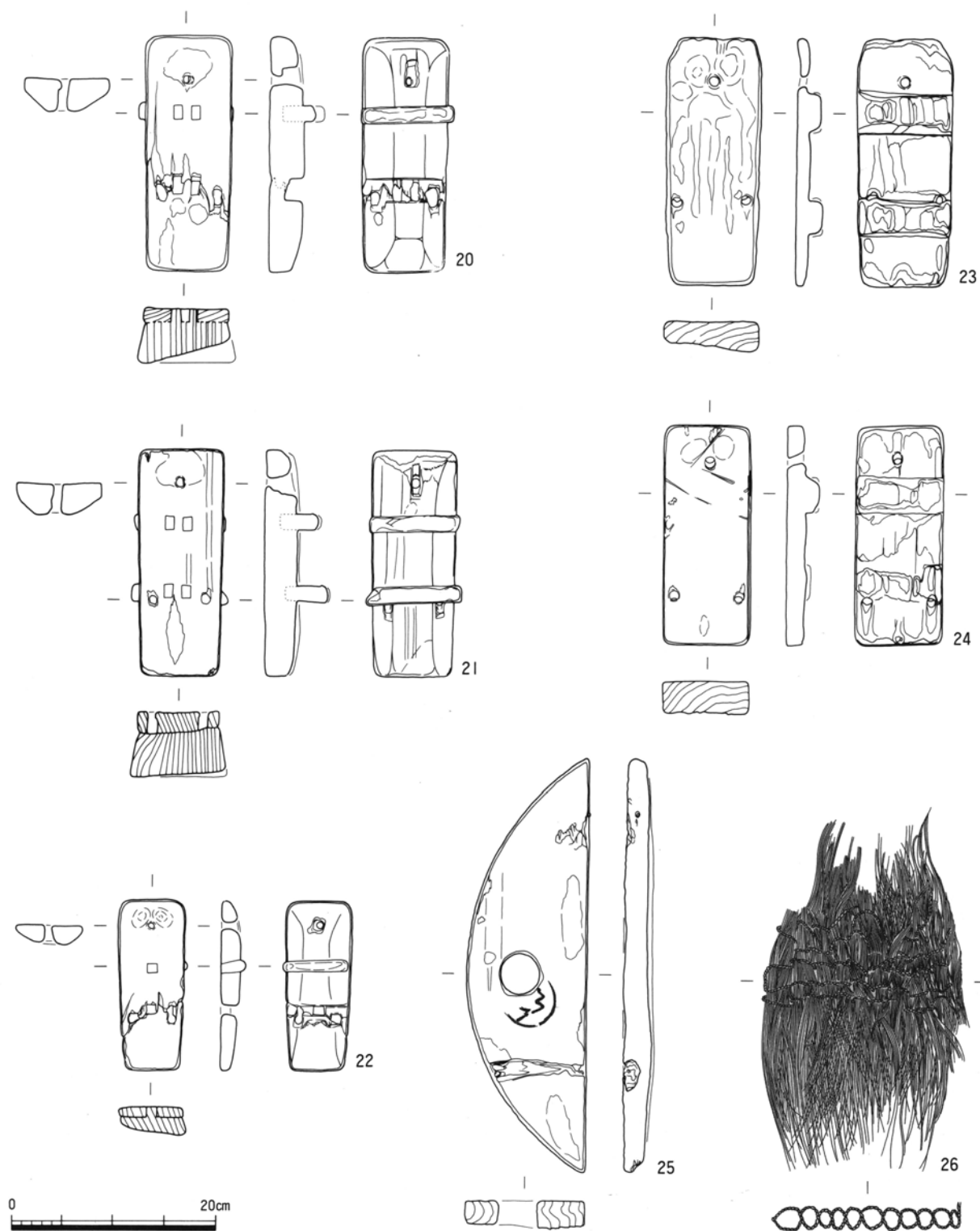
遺物 番号	調査地点		種類		法 量 (cm)			備 考	PL	登録 番号
	調査区	遺 構	種類	部分	高さ	口径	つまみ径			
1	92A	SE106	漆碗	蓋	高さ (2.7)	口径 (10.7)	つまみ径 (4.4)	内面：赤色漆，外面：黒色漆，文様：灰色漆(草文か)	38	W-001
2	"	"	"	"	高さ (2.5)	口径 (13.4)	つまみ径 (4.4)	内面：赤色漆，外面：黒色漆	38	W-002
3	"	"	"	身	高さ (3.9)	口径 (9.7)	底径 (4.9)	内面：赤色漆，外面：黒色漆，文様：赤色漆(桔梗文か)		W-003
4	"	"	傘	軸部	長さ 4.8	—	最大幅 3.6	赤色漆・黒色漆塗り分け	38	W-004
5	"	"	盆	—	高さ 1.1	径 (25.6)	最大厚 0.7	内面：赤色漆・黒色漆塗り分け，外面：黒色漆	38	W-005

第114図 近世の遺物 (54) 木製品① (1 : 3)



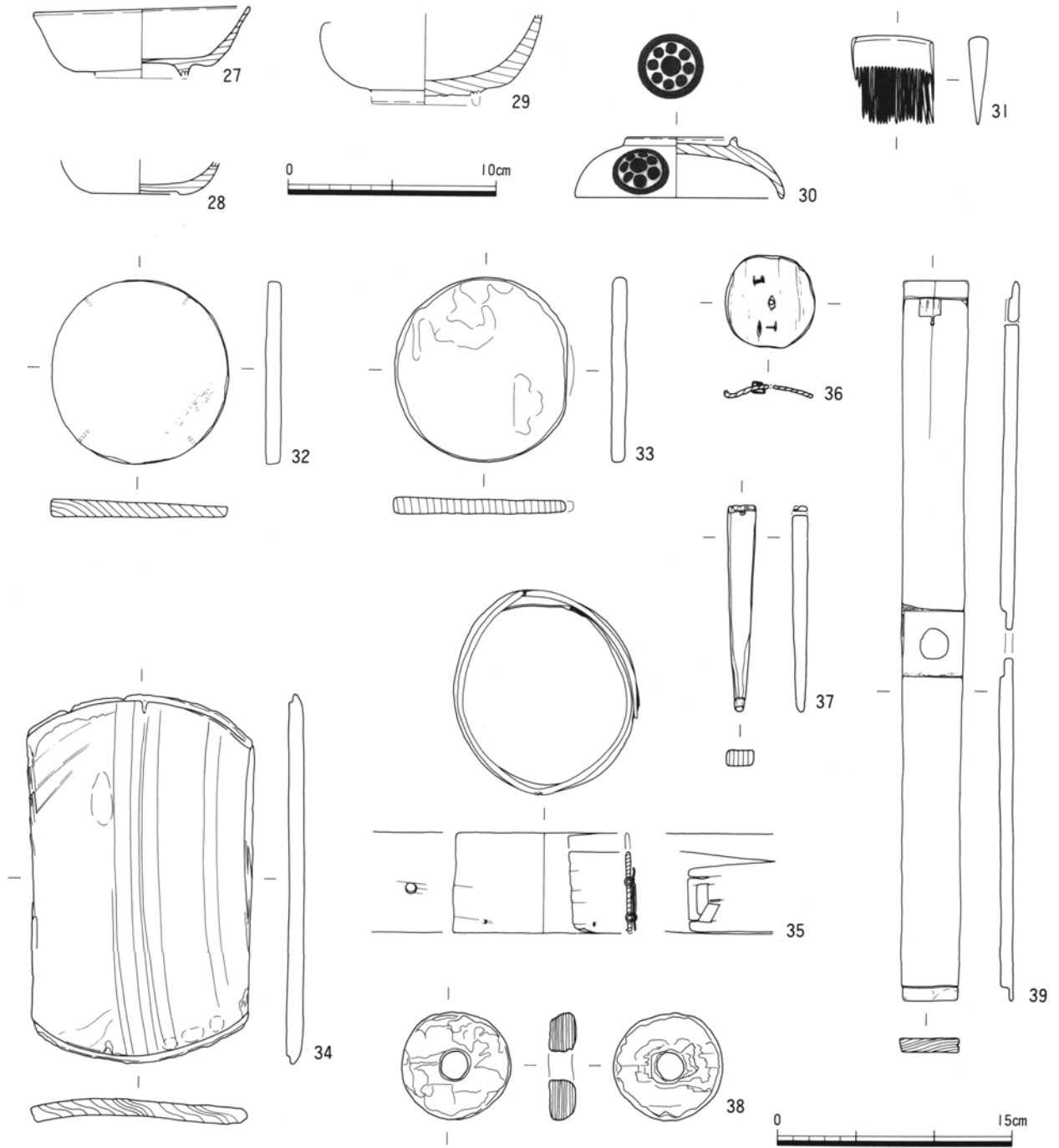
遺物 番号	調査地点 調査区 遺構	種類		法 量 (cm)				備 考	PL	登録 番号
		種類	部分	長径	短径	最大厚	その他			
6	92A SE106	曲物	底板	長径 19.6	短径 19.6	最大厚 0.8		片面黒色漆, 端部穿孔径0.2cm		W-006
7	"	"	"	長径 11.5	短径 11.4	最大厚 0.6				W-007
8	"	"	"	長径 9.4	短径 9.3	最大厚 1.2				W-008
9	"	"	柄杓 柄	長さ 残13.5	最大幅 2.0	最大厚 1.4				W-009
10	"	"	建具	長さ 残13.9	最大幅 1.5	最大厚 0.9		両端と中央に穿孔3ヶ所(径0.2cm)		W-010
11	"	"	"	長さ 24.3	最大幅 2.3	最大厚 1.1		上下に幅1.0cm, 深さ1.3cmの切込み		W-011
12	"	"	箸	長さ 残18.0		厚さ 0.7				W-012
13	"	"	"	長さ 残16.8		厚さ 0.7				W-013
14	"	"	"	長さ 残17.8		厚さ 0.8				W-014
15	"	"	"	長さ 残15.6		厚さ 0.6				W-015
16	"	"	"	長さ 残20.4		厚さ 0.7				W-016
17	"	"	"	長さ 残20.7		厚さ 0.6				W-017
18	"	"	箱物 底板	縦 7.7	横 7.5	最大厚 2.9		表面と側面に2ヶ所づつ穿孔(径0.2~0.3cm)	38	W-018
19	"	"	箱物 前板	縦 4.1	横 9.0	最大厚0.7, つまみ全長2		両端3ヶ所づつと底部2ヶ所穿孔(径0.2~0.3cm)	38	W-019

第115図 近世の遺物 (55) 木製品② (1:4)



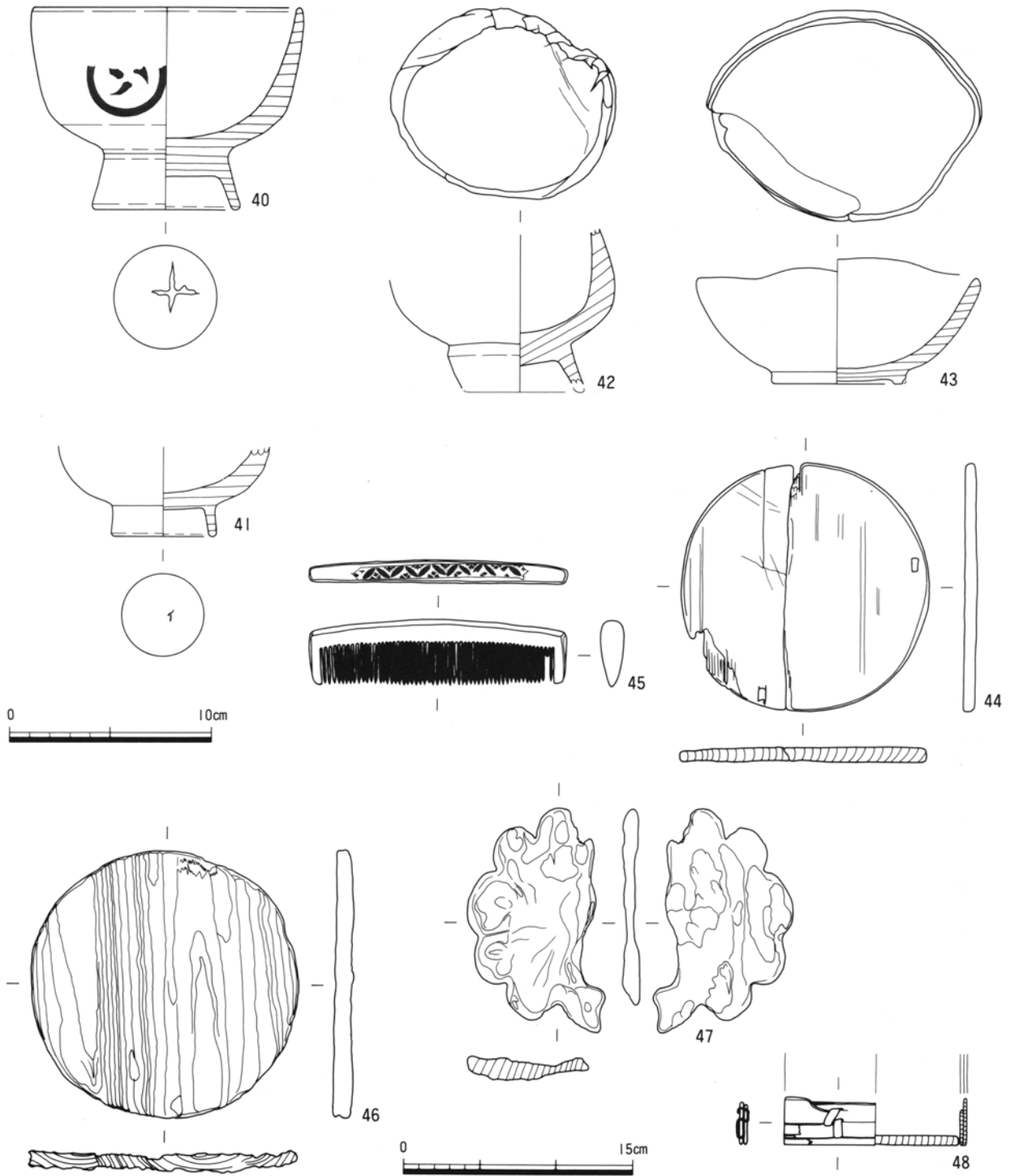
遺物 番号	調査地点		種類		法 量 (cm)				備 考	PL	登録 番号
	調査区	遺 構	種類	部分	縦	横	歯の厚さ	歯の高さ			
20	92A	SE106	下駄	—	縦 23.1	横 8.5	歯の厚さ 1.6	高さ 5.4	差し歯	38	W-020
21	"	"	"	—	縦 22.3	横 9.5	歯の厚さ 1.7	高さ 6.4	差し歯	38	W-021
22	"	"	"	—	縦 16.8	横 6.5	歯の厚さ 1.1	高さ 2.9	差し歯	38	W-022
23	"	"	"	—	縦 24.4	横 9.4	歯の厚さ 4.2	高さ 3.1	一木造り	38	W-023
24	"	"	"	—	縦 21.6	横 8.6	歯の厚さ 3.6	高さ 3.3	一木造り		W-024
25	"	"	樽	上板	縦 40.9	横 残11.9	最大厚 3.1		穿孔径3.9cm, 焼印		W-025
26	"	"	箒	—	縦 36.3	横 20.7	最大厚 2.3			38	W-026

第116図 近世の遺物 (56) 木製品③ (1 : 6)



遺物 番号	調査地点 調査区	種 類	種 類	種 類	法 量 (cm)				備 考	PL	登録 番号
					部分	高さ	口径	底径			
27	93B	SE104	漆碗	身	高さ (3.3)	口径 (10.2)	底径 (4.4)		内外面：赤色漆		W-027
28	"	"	"	"	—	—	底径 (3.8)		内面：赤色漆，外面：黒色漆		W-028
29	"	"	"	"	高さ 残 3.9	—	底径 (4.9)		内面：赤色漆，外面：黒色漆		W-029
30	"	"	"	蓋	—	口径 (9.8)	つまみ径 5.2		内面：赤色漆，外面：黒色漆，文様：灰色漆(丸に九曜)		W-030
31	"	"	櫛	—	縦 4.2	横 残 3.9	最大厚 0.9				W-031
32	"	"	曲物	底板	径 11.6	—	最大厚 1.1		側面に止め穴4ヶ所，35と同一個体か		W-032
33	"	"	"	"	径 11.7	—	最大厚 1.0				W-033
34	"	"	"	"	径 23.4	—	最大厚 1.0		片面黒色漆，端部彫り込み		W-034
35	"	"	"	側板	高さ 6.4	長径 13.0	短径 11.6		体部穿孔(径0.7cm)，底部4ヶ所穿孔(径0.2cm)		W-035
36	"	"	不明	—	長径 6.1	短径 5.7	最大厚 0.3		中央穿孔(径0.3~0.4cm)，2ヶ所針金巻き付く		W-036
37	"	"	柄杓	柄	長さ 残13.0	最大幅 1.8	最大厚 1.0				W-037
38	"	"	戸車	—	径 7.0	—	最大厚 1.7		穿孔径1.7cm	38	W-038
39	"	"	建具	—	長さ 45.5	幅 4.1	最大厚 0.9		穿孔径1.8cm・径0.2cm，切込み		W-039

第117図 近世の遺物 (57) 木製品④ (27~30は1:3, 他は1:4)



遺物 番号	調査地点 調査区 遺構	種類 種類 部分	法 量 (cm)				備 考	PL	登録 番号
			高さ	口径	底径	最大厚			
40	93B SE103	漆碗 身	高さ (10.0)	口径 (13.0)	底径 (6.9)	—	内外面：黒色漆，文様：赤色漆(丸に三ツ巴文)	38	W-040
41	" "	" "	高さ 残 4.4	—	底径 (4.8)	—	内面：赤色漆，外面：黒色漆，文様：赤色漆(文字「イ」)	38	W-041
42	92A SD101	" "	長径 11.1	短径 9.2	底径 (5.7)	—	内外面：赤色漆	38	W-042
43	" "	" "	高さ 6.2	長径 13.5	短径 10.4, 底径 (6.5)	—	内面：赤色漆，外面：黒色漆	38	W-043
44	" "	曲物 底板	径 12.2	—	最大厚 0.7	—	—	—	W-044
45	" SE107	櫛 身	縦 3.3	横 12.7	最大幅 1.1	—	黒色漆+蒔絵(金)	38	W-045
46	" "	曲物 底板	径 17.4	—	最大厚 1.2	—	—	—	W-046
47	" 攪乱	建具 一	縦 9.6	横 6.3	最大厚 1.1	—	欄間の一部か	—	W-047
48	" SK226	曲物 一	高さ 残 3.1	口径 (11.8)	底板厚 0.6, 側板厚 0.5	—	柄杓か	—	W-048

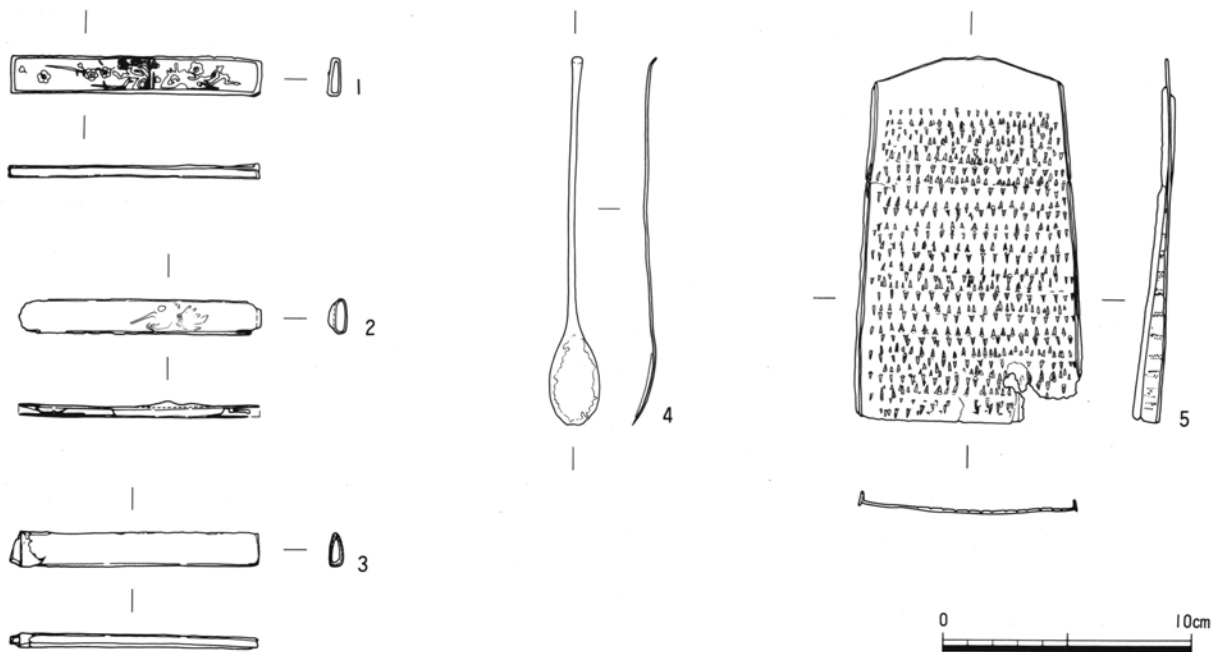
第118図 近世の遺物 (58) 木製品⑤ (40~43・45は1:3, 他は1:4)

6. 金属製品

今回の発掘調査で出土した金属製品としては、鉄製・銅製・真鍮製の釘・飾り金具・小柄・煙管・簪・皿・銭貨等の他、匙や卸金がある。今回は、細かな分類やカウント等による集計については実施していない。

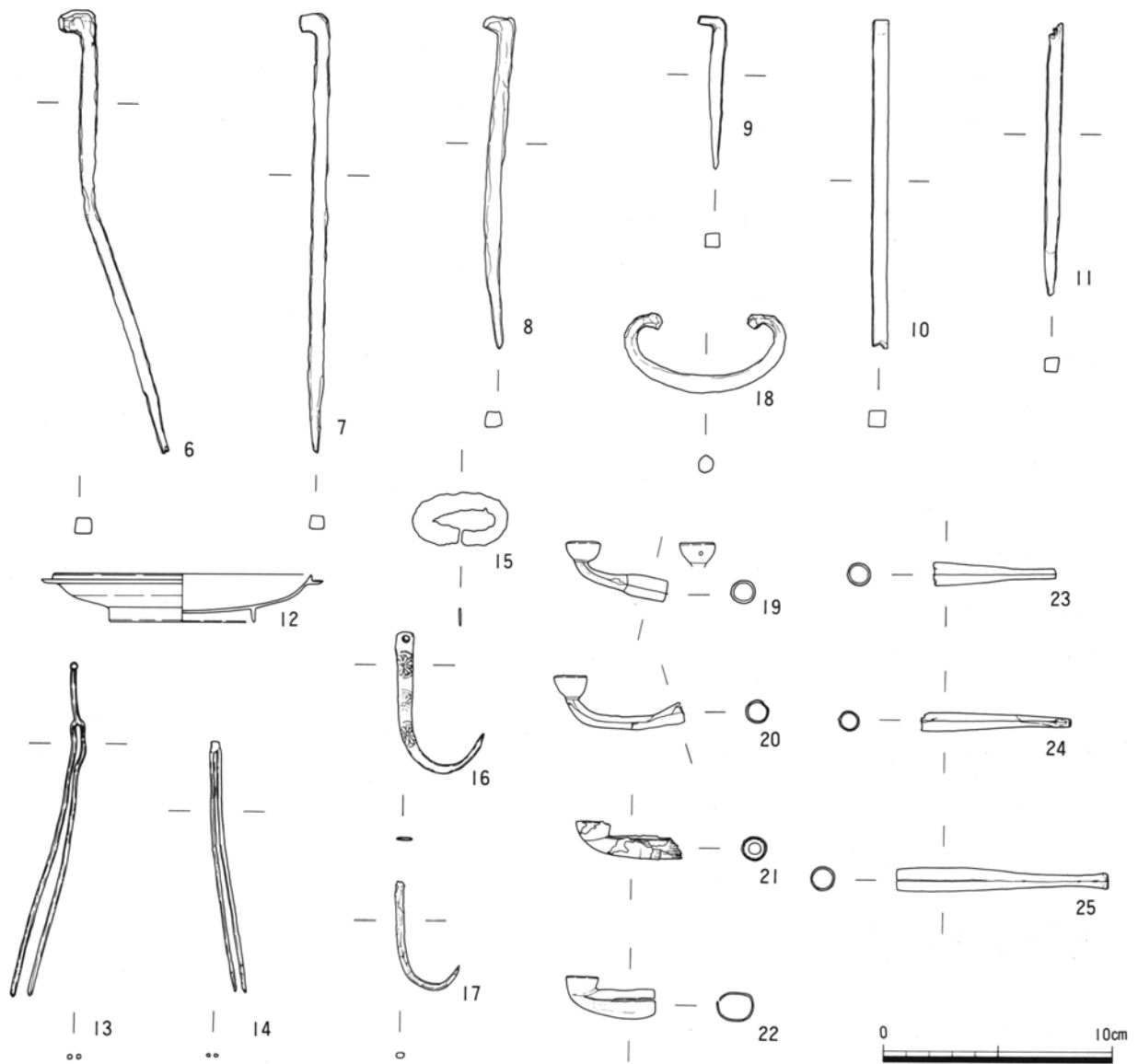
1～3は武具である銅製の小柄で、1・2には彫金による装飾が見られ、3では中に刃が入ったままで出土している。4は真鍮製の匙で、表面には金メッキが施されている。5は銅製の卸金で、上部が欠損しているが、取っ手がつくものと思われる。6～9は工具である鉄製の釘で、各種の大きさがあるようである。瓦止めとして利用されることから、瓦溜りの周辺の遺構から出土する例が多いようであるが、本遺跡においては瓦類にもそのような痕跡は見られず、瓦類との出土は確認されていない。10・11は鉄製の火箸で、同一個体のものと思われる。12は供膳具である銅製の皿と思われる。13・14は装身具である銅製の簪で、上部に花等の装飾がついていたものであろう。15は刀装具の1つである。16・17は銅製の釣り針であるが、実用品とはやや考えにくい。16には菊花の装飾がみられる。19～22は喫煙具である銅製または真鍮製の煙管の雁首、23～25は銅製または真鍮製の煙管の吸口で、年代的に幅が見られる。出土遺物の中には、ラウと呼ばれる木製品部分が残っているものもある。

26～41は銭貨である。遺構から出土したものよりも検出段階の遺物が多く、26～28のような中世の輸入銭も見ることができ。大半は「寛永通寶」で、古寛永と新寛永があり、38～41のように「文」や「元」という背文の見られるものもある。 (小嶋廣也)



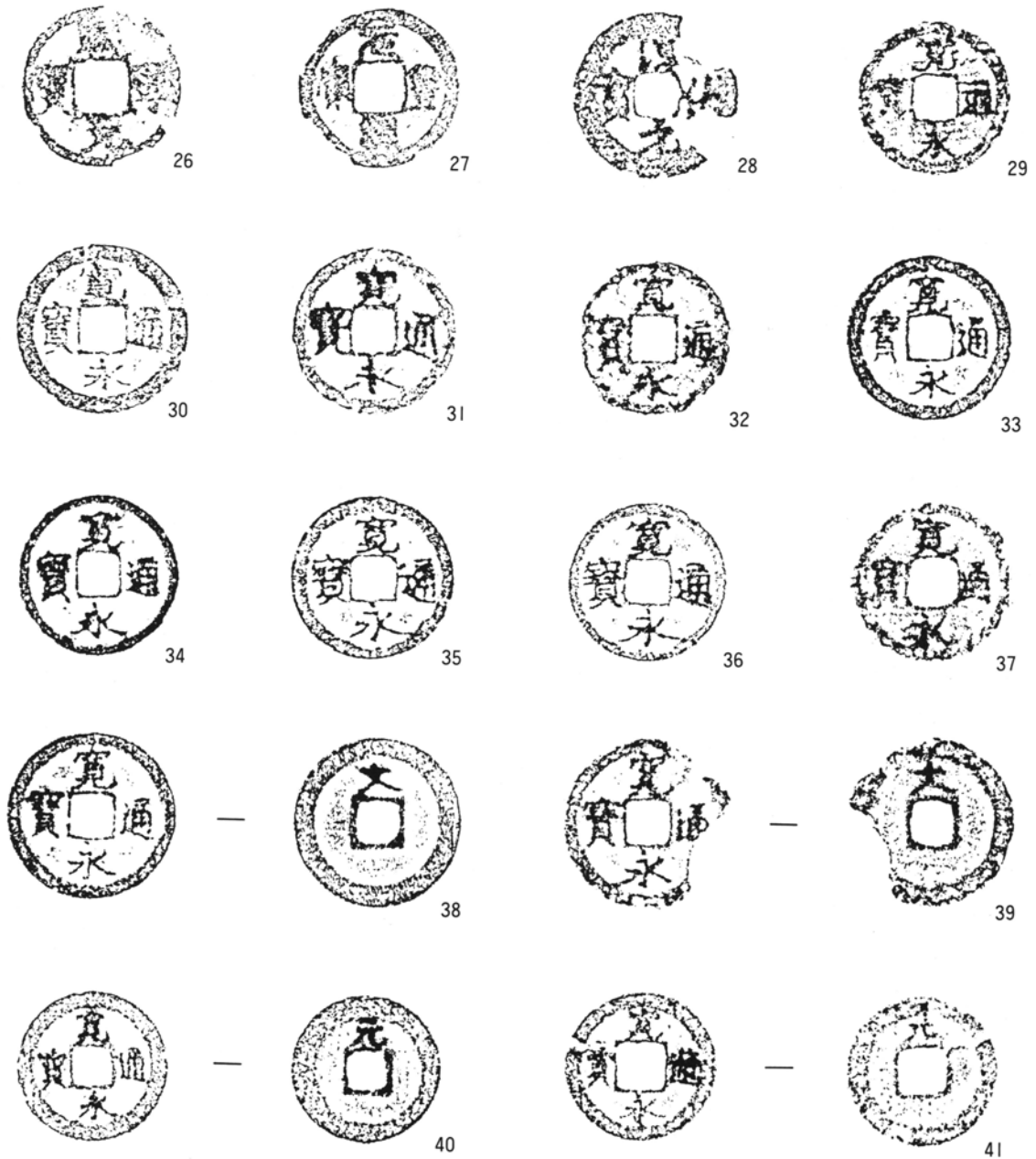
遺物 番号	調査地点		種類		材質	法 量 (cm)				備 考	PL	登録 番号
	調査区	遺構	用途	種類		長さ	最大幅	最大厚	縦 残			
1	92A	SD101	装身具	小柄	銅	長さ 10.0	最大幅 1.5	最大厚 0.5		草花文 (彫金)	39	M-001
2	"	検III	"	"	"	長さ 残 9.6	最大幅 1.8	最大厚 0.7		文様不明 (彫金)	39	M-002
3	"	検I	"	"	"	長さ 9.5	最大幅 1.4	最大厚 0.6		中に刀子の刃 (鉄製) が入っている	39	M-003
4	"	SE106	供膳具	匙	真鍮	長さ 14.7	最大幅 2.1	—		金メッキか	39	M-004
5	"	検II	調理具	卸金	銅	高さ 0.9	縦 残 14.6	幅 9.0			39	M-005

第119図 近世の遺物 (59) 金属製品① (1 : 3)



遺物 番号	調査地点		種類		材質	法 量 (cm)				備 考	PL	登録 番号
	調査区	遺構	用途	種類		長さ	幅	頭部径	底径			
6	93B	SD129	建具	釘	鉄	長さ 19.5	幅 0.8	頭部径 1.5			39	M-006
7	"	検II	"	"	"	長さ 19.0	幅 0.7	頭部径 1.2			39	M-007
8	"	暗渠	"	"	"	長さ 14.4	幅 0.8	頭部径 1.2				M-008
9	"	検I	"	"	"	長さ 6.6	幅 0.6	頭部径 1.1				M-009
10	"	"	火具	火箸	"	長さ 残14.2	幅 0.7	—		11と同一遺物		M-010
11	"	"	"	"	"	長さ 残11.8	幅 0.7	—		10と同一遺物		M-011
12	92A	SD101	供膳具	皿か	銅	器高 (2.1)	口径 (11.1)	底径 6.2		杯か	39	M-012
13	93B	暗渠	装身具	簪	"	長さ 14.6	最大幅 0.3	—			39	M-013
14	92A	SK279	"	"	"	長さ 残10.8	最大幅 0.4	—			39	M-014
15	"	SD187	刀装具	飾り金具	"	縦 2.3	横 4.1	最大幅 1.0			39	M-015
16	"	SD101	その他	釣り針	"	長さ 9.3	最大幅 0.8	—		菊花文	39	M-016
17	93B	検III	"	"	"	長さ 残 7.1	最大幅 0.4	—			39	M-017
18	"	SD165	調度具	引き手	鉄	縦 3.4	横 7.0	径 0.7			39	M-018
19	"	SK061	喫煙具	煙管	銅	首の長さ 4.4	火皿径 1.4	高さ 2.6		雁首	39	M-019
20	"	SK036	"	"	"	首の長さ 5.6	火皿径 1.3	高さ 2.3		雁首	39	M-020
21	92A	SD101	"	"	"	首の長さ 残3.3	火皿径 1.4	高さ 1.6		雁首		M-021
22	93B	検I	"	"	真鍮	首の長さ 3.9	火皿径 1.4	高さ 1.8		雁首	39	M-022
23	92A	SD101	"	"	銅	長さ 5.4	最大径 1.0	—		吸口	39	M-023
24	93B	検I	"	"	真鍮	長さ 残 6.5	最大径 0.9	—		吸口	39	M-024
25	"	"	"	"	"	長さ 9.2	最大径 1.0	—		吸口		M-025

第120図 近世の遺物 (60) 金属製品② (1:3)



遺物 番号	調査地点	種類	種類	器種	材質	法 量 (cm)			備 考	PL	登録 番号
						径	孔 径	重 さ			
26	92A	検 I	銭貨	熙寧元寶	銅	2.4	0.7	2.3	北宋, 初鑄1068年		M-026
27	"	"	"	元豐通寶	"	2.4	0.7	2.1	北宋, 初鑄1078年		M-027
28	93B	P189	"	淳祐元寶	"	2.5	0.6	1.9	南宋, 初鑄1241年		M-028
29	92A	SD118	"	寛永通寶	"	2.2	0.6	1.8	古寛永		M-029
30	93B	SK013	"	"	"	2.5	0.5	2.4	古寛永		M-030
31	92A	SD129	"	"	"	2.4	0.6	2.9	新寛永		M-031
32	"	SK246	"	"	"	2.2	0.6	1.6	新寛永		M-032
33	"	検 I	"	"	"	2.4	0.6	3.4	新寛永		M-033
34	93B	"	"	"	"	2.4	0.5	4.6	古寛永		M-034
35	"	"	"	"	"	2.4	0.6	2.6	古寛永		M-035
36	"	"	"	"	"	2.3	0.6	2.6	古寛永		M-036
37	"	"	"	"	"	2.3	0.7	1.7	新寛永		M-037
38	92A	検 I	"	"	"	2.5	0.6	3.4	新寛永, 背文		M-038
39	"	SD101	"	"	"	2.5	0.6	2.6	新寛永, 背文		M-039
40	93B	検 I	"	"	"	2.2	0.6	2.1	新寛永, 背元		M-040
41	92A	"	"	"	"	2.2	0.7	1.7	古寛永, 背元		M-041

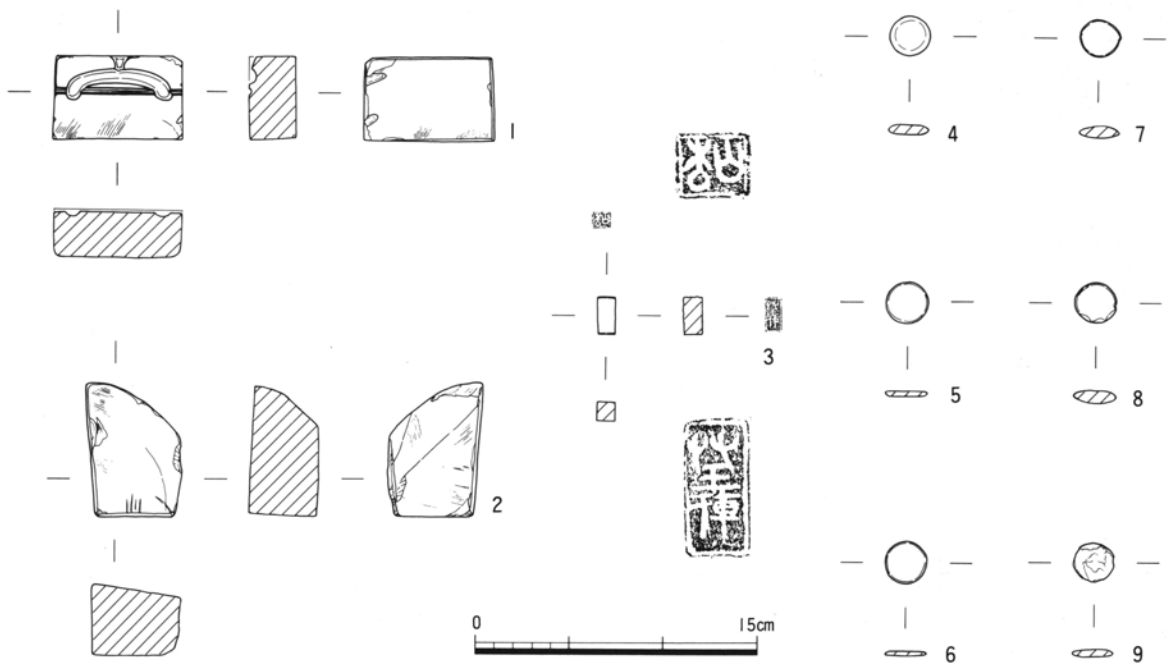
第121図 近世の遺物 (61) 金属製品③ (1:1)

7. 石・ガラス製品

今回の発掘調査において出土した石製品は、石臼・砥石・硯・碁石等の他、鋳型や印がある。どの遺構からどれだけの石製品が出土しているかについては、今回は集計していない。

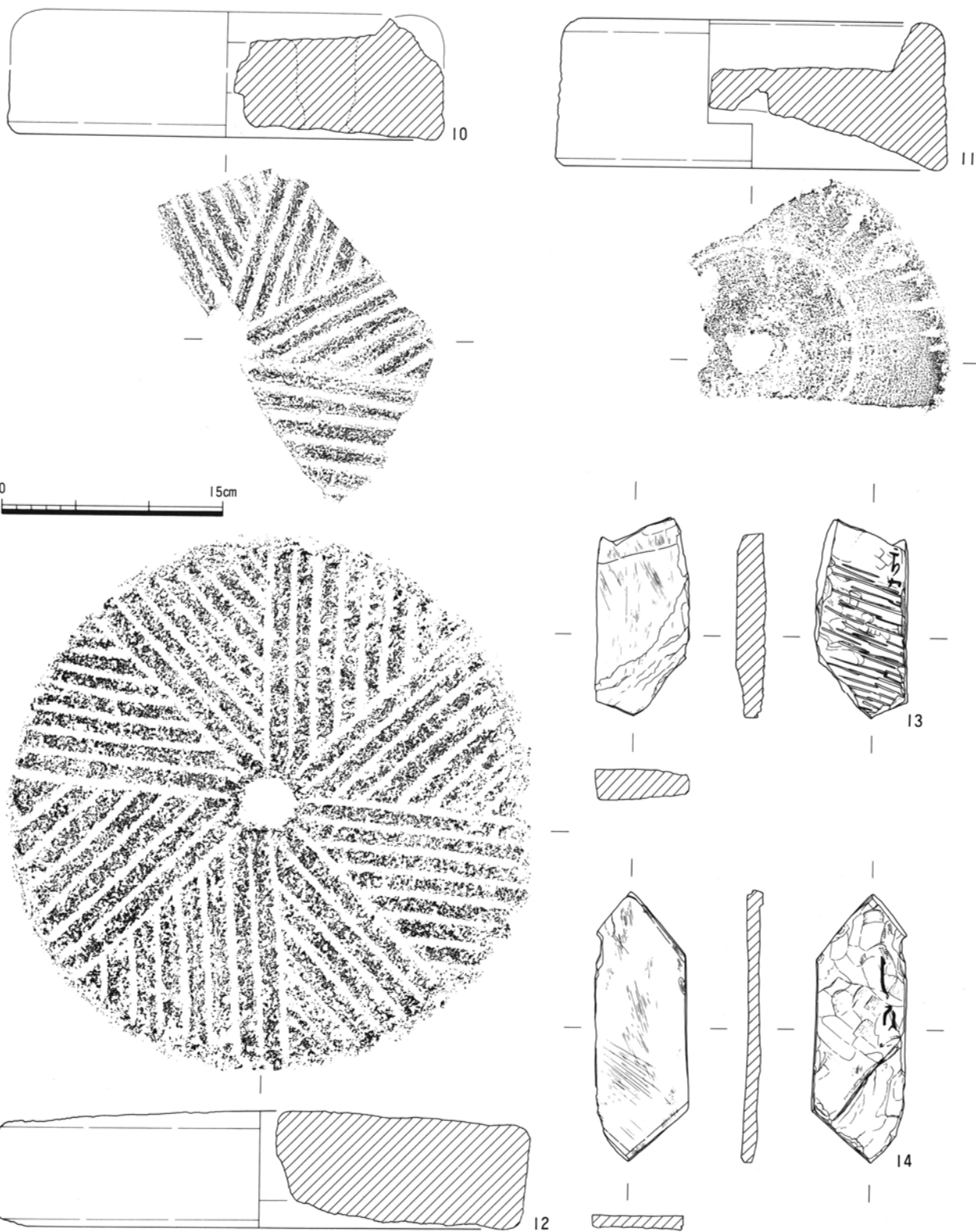
1は投網漁に使う錘を作る鋳型と考えられ、凹部には鉛が付着している。趣味で作っていたのか、或いは内職で作っていたのかはわからないが、当時の人々の生活の実態を考える上で興味深い資料である。2は用途不明であるが、砥石とも考えられる。3は印と思われるが、文字は読み取ることができなかった。鋳型同様に興味深い資料である。4～9は碁石で、黒石・白石とも確認している。黒石はすべて頁岩製であり、白石は貝製のものが多いようが、石英製のものも確認されている。10～12は石臼で、全て挽臼であるが、上臼・下臼とも出土している。13～21は砥石で、大きさは様々であるが、仕上げ用の砥石が多くみられている。中には13・14のように、墨書の見られるものも確認している。22～27は硯で、長方形をしたものが多いが、24のように装飾を施された不定形の硯も出土している。22の硯は、裏側まで使用痕が確認されている。

また、ガラス製品については、外堀や暗渠から明治期以降と思われる瓶類が多く出土しているが、ここでは取り上げることはしない。名古屋城三の丸遺跡において出土している簪等についても、本遺跡では金属製品以外には確認されていない。(小嶋廣也)



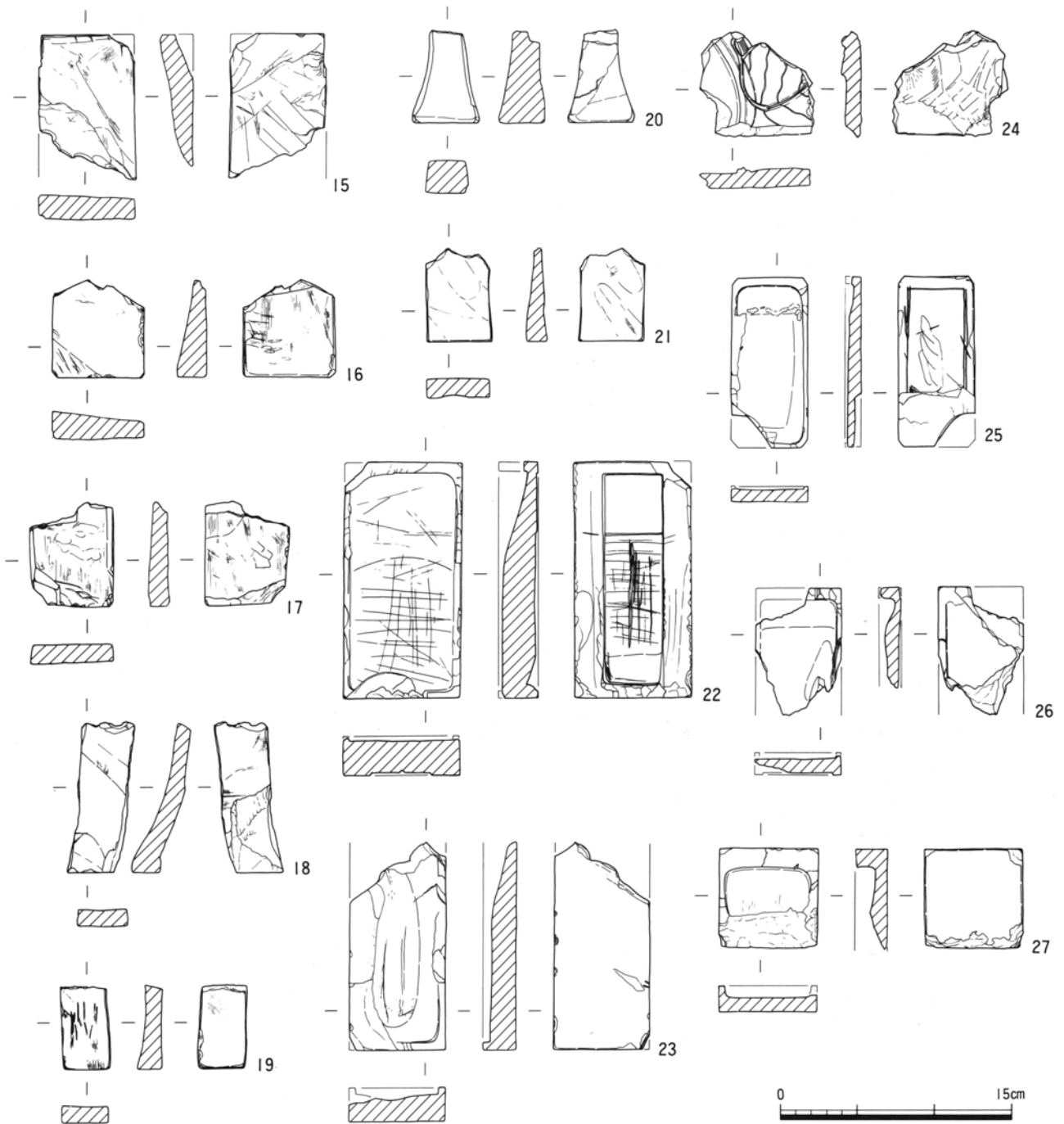
遺物 番号	調査地点	種類		法 量 (cm)				石材	備 考		PL	登録 番号
		遺 構	用途	種類	縦	横	最大厚					
1	92A	検III	その他	鋳型	縦 4.4	横 4.4	最大厚 2.5	安山岩	投網錘の鋳型		39	S-001
2	93B	SX104	"	砥石か	長さ 残 7.1	幅 残 4.8	厚さ 3.7	—				S-002
3	92A	SD101	"	印	縦 2.0	横 1.0	最大厚 1.1	—			39	S-003
4	93B	SK092	遊戯具	碁石	径 2.1	最大厚 0.5	—	頁岩	黒石			S-004
5	"	SD134	"	"	径 2.2	最大厚 0.3	—	"	黒石			S-005
6	"	"	"	"	径 2.2	最大厚 0.2	—	"	黒石			S-006
7	"	"	"	"	径 2.1	最大厚 0.6	—	貝	白石			S-007
8	"	"	"	"	径 2.2	最大厚 0.7	—	石英	白石			S-008
9	"	"	"	"	径 2.1	最大厚 0.4	—	貝	白石			S-009

第122図 近世の遺物 (62) 石製品① (1 : 4)



遺物 番号	調査地点		種類		法 量 (cm)			石 材	備 考	PL	登録 番号
	調査区	遺 構	用途	種類	高さ	径	最大径				
10	92A	トレンチ	調理具	石臼	高さ 10.0	径 (22.7)	最大径 (26.5)	安山岩	上白		S-010
11	"	SK274	"	"	高さ 8.4	径 (24.8)	最大径 (27.8)	花崗岩	上白		S-011
12	93B	検 I	"	"	高さ 7.9	径 32.4	最大径 36.3	"	下白	39	S-012
13	"	SK103	その他	砥石	長さ 残13.6	幅 残 6.3	厚さ 2.1	珪質頁岩	裏面墨書, のみ痕か	39	S-013
14	"	"	"	"	長さ 残18.2	幅 残 6.3	厚さ 0.9	"	裏面墨書	39	S-014

第123図 近世の遺物 (63) 石製品② (1:4)



遺物 番号	調査地点		種類		法 量 (cm)				石材	備 考	PL	登録 番号
	調査区	遺構	用途	種類	長さ	幅	厚さ	残				
15	92A	SD101	その他	砥石	長さ	残 8.6	幅	6.2	厚さ	残 1.6	頁岩	S-015
16	93B	検 I	"	"	長さ	残 6.3	幅	6.0	厚さ	1.9	"	S-016
17	"	"	"	"	長さ	残 6.8	幅	残 5.4	厚さ	1.2	"	S-017
18	"	P402	"	"	長さ	残 9.7	幅	残 3.3	厚さ	残 3.3	"	S-018
19	92A	SK208	"	"	長さ	残 5.3	幅	3.0	厚さ	1.6	安山岩	S-019
20	"	検 I	"	"	長さ	残 6.0	幅	残 4.2	厚さ	2.2	石英片岩	39 S-020
21	93B	SK055	"	"	長さ	残 6.0	幅	残 4.2	厚さ	1.2	流紋岩	S-021
22	"	暗渠	文房具	硯	長さ	15.2	幅	7.5	厚さ	2.5	頁岩	裏面も硯として利用 39 S-022
23	"	SD102	"	"	長さ	残 13.4	幅	6.2	厚さ	2.2	泥岩	S-023
24	92A	SK313	"	"	長さ	残 6.8	幅	残 7.1	厚さ	2.1	頁岩	蓮弁か 39 S-024
25	93B	SK005	"	"	長さ	10.9	幅	5.0	厚さ	1.0	"	39 S-025
26	"	SD102	"	"	長さ	残 7.5	幅	残 7.5	厚さ	5.6	—	S-026
27	"	"	"	"	長さ	残 6.4	幅	6.4	厚さ	残 2.1	頁岩	S-027

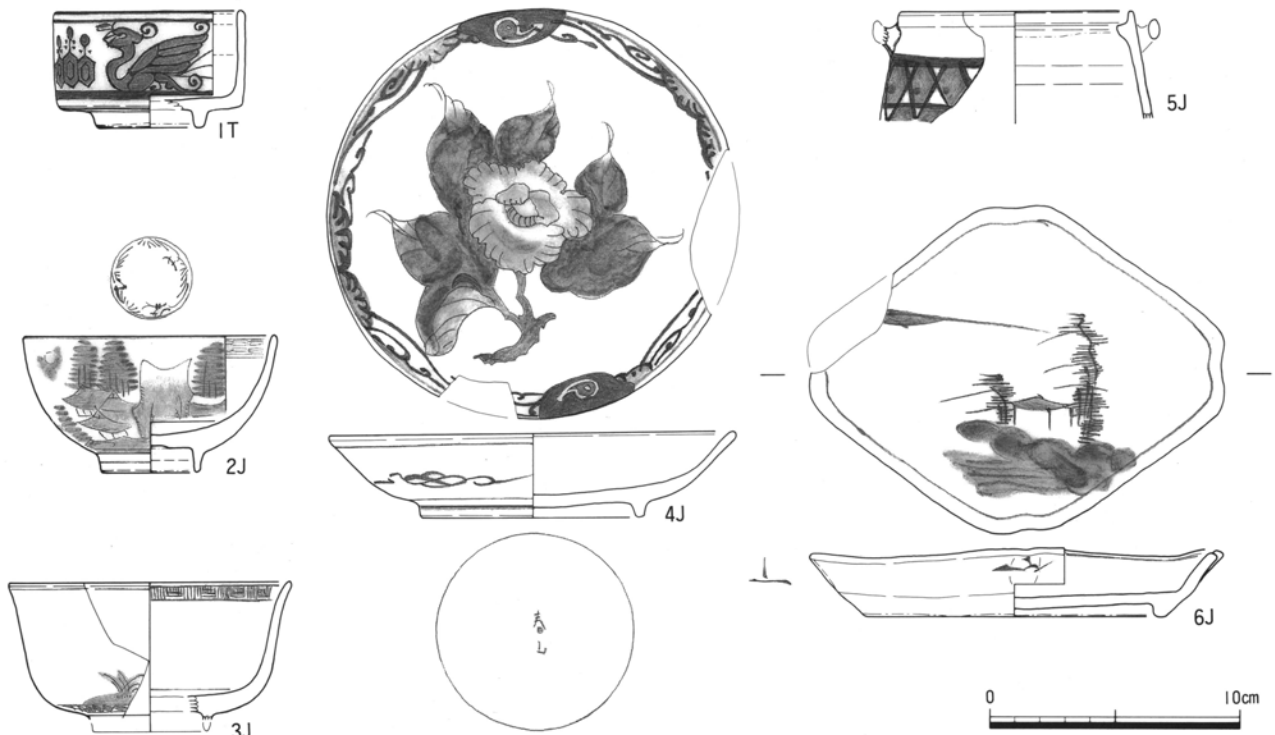
第124図 近世の遺物 (64) 石製品③ (1:4)

8. 近代の遺物

今回の発掘調査において、これまで見てきた古代・中世の遺物や近世の陶磁器類・瓦類等の他に、暗渠や外堀上層、攪乱等から、明治期以降の陶磁器類が出土している。近代の遺物については、今回のカウントからは除外しているので詳しいことはわからないが、近世と比べて肥前系のものよりも瀬戸・美濃系の磁器が急増している感がある。

供膳具である椀・皿・鉢類の出土が多く、1は陶器製品である色絵の筒椀で、緑と青で鳥と五三の桐が染色されている。2～6は磁器製品で、2は蛇の目凹型高台の丸椀で山水楼阁文と円環松竹梅文が、3は端反椀で草花文が、4は丸皿で折り枝に花文・唐草文に、高台内には「春山」と書かれている。4には染付の他に赤絵による装飾も施されている。6は型打皿で、山水楼阁文が描かれている。5は調理具の瓶類で、呉須と鉄絵で格子を描いている。ここで図示したのは出土した遺物の極一部であるが、コバルト呉須による染付が行われていたり、文様も手書きによるものは少なく、プリントやゴム印によるものが多いようである。

これ以外にも、星印のついたどんぶりや、「鉄道省」と書かれた汽車土瓶、「豊橋陸軍偕行社」と書かれた磁器製の表札や「江戸乃華」と書かれたガラス瓶等が出土している。写真図版（図版40）を参考にしていきたい。
 (小嶋廣也)



遺物 番号	調査地点		器種		法量 (cm)				釉薬・調整等		産地	備考	PL	登録 番号	
	調査区	遺構	用途	器種	器形	器高	口径	胴径	底径	内面					外面
1	93B	検I	供膳具	小椀	筒椀	4.6	7.3	—	(4.0)	透明釉	透明釉	瀬・美	鉄絵＋色絵(青・緑)	40	E-982
2	"	"	"	"	丸椀	5.4	9.9	—	3.8	—	—	"	染付・山水楼阁文＋円環松竹梅文、蛇ノ目凹型高台	40	E-983
3	"	"	"	"	端反椀	—	11.1	—	—	—	—	肥前系	染付・山水文＋寿字文		E-984
4	"	"	"	"	皿	3.3	16.0	—	8.6	—	—	肥前	染付＋赤絵・折り枝に花文＋唐草文＋「春山」	40	E-985
5	"	"	調理具	瓶	その他	—	(9.1)	—	—	—	—	瀬・美	染付＋鉄絵・格子文		E-986
6	"	"	供膳具	皿	型打皿	2.7	(15.6)	—	11.9	—	—	"	染付・山水楼阁文	40	E-987

第125図 近代の遺物 (1:3)

第V章 科学分析



第1節 胎土重鉍物分析

1. 焼塩壺

はじめに

近世の素焼きの製品の中では、瓦以上に重要視されている焼塩壺についても胎土分析を行う。これまでに当社では、大消費地である江戸の遺跡から出土した焼塩壺の分析を中心に進めてきた結果、焼塩壺の成形技法及び刻印と胎土との間に相関のあることを見出し、しかもこれまで刻印から播磨で作られていたと考えられてきた焼塩壺の胎土は、関東産であることを明らかにした（矢作ほか，1994）。本分析は、焼塩の主要な産地とされている大阪地域と大消費地である江戸との中間にある愛知県での分析例となり、その結果を重要な資料としたい。

(1) 試料

試料は、愛知県豊橋市に所在する吉田城遺跡の武家屋敷より出土した焼塩壺20点である。このうち身が15点（試料番号1～15）、蓋が5点（試料番号16～20）である。試料は全て無刻印であり、身は「型抜き成形」により作られたとされている器壁の厚い小型のものである。時期は概ね18世紀末～19世紀のものと考えられている。

(2) 分析方法

これまで、愛知県の胎土分析では、一貫して胎土中の砂分の重鉍物組成を胎土の特徴としてきた。本分析でも、この方法に従う。処理方法は以下の通りである。

土器片をアルミナ製乳鉢を用いて粉碎し、水を加え超音波洗浄装置により分散、#250の分析篩により水洗、粒径1/16mm以下の粒子を除去する。乾燥の後、篩別し、得られた1/4—1/8mmの粒子をポリタングステン酸ナトリウム（比重約2.96）により重液分離、重鉍物を偏光顕微鏡下にて同定した。同定の際、斜め上方からの落斜光下で黒色金属光沢を呈するものを不透明鉍物とし、それ以外の不透明粒および変質等で同定の不可能な粒子は「その他」とした。鉍物の同定粒数は250個を目標とし、その粒数%を算出し、グラフに示す。グラフでは、同定粒数が100個未満の試料については粒数%を求めずに主な産出鉍物を呈示するにとどめる。

(3) 分析結果

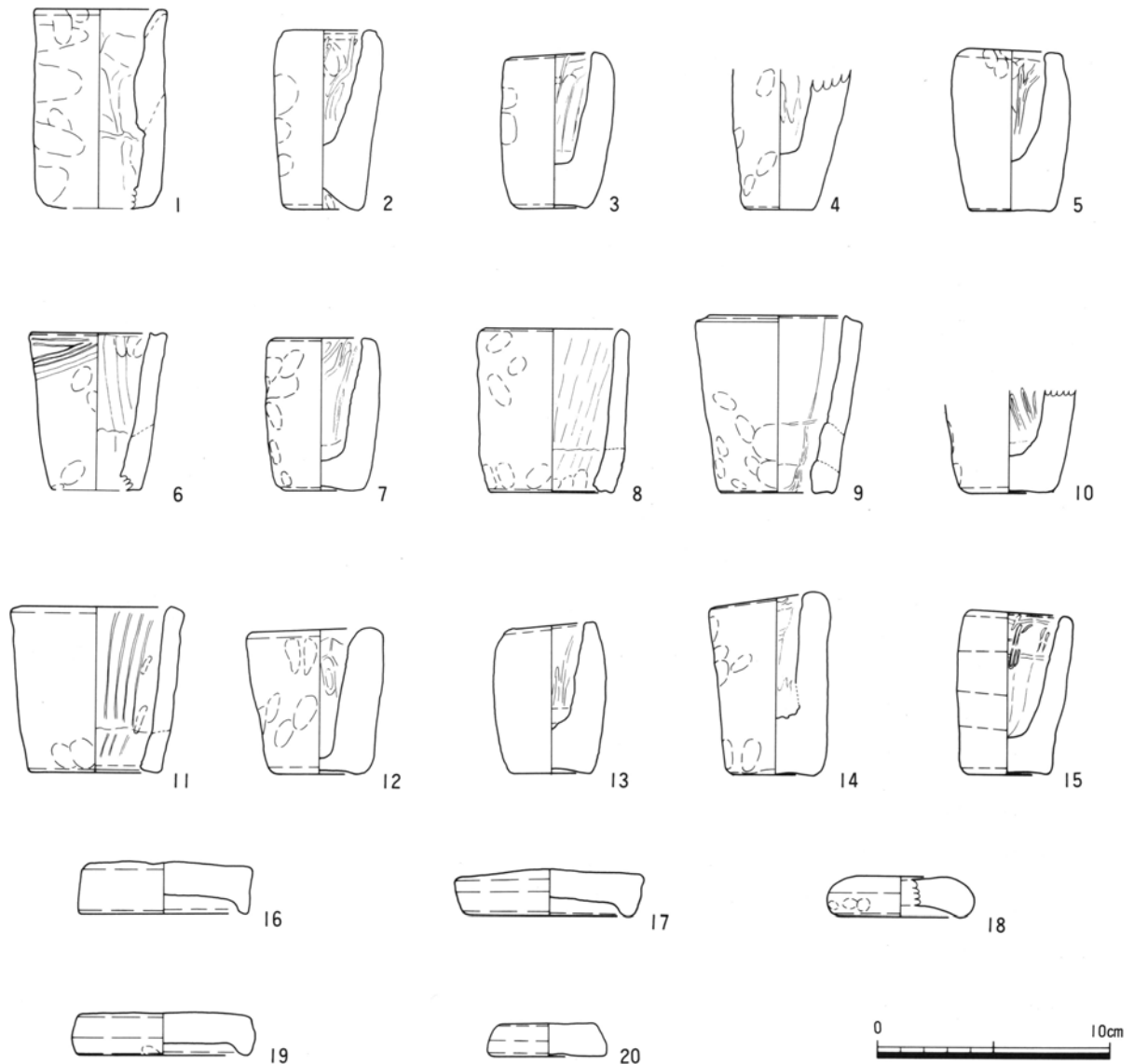
a) 身（試料番号1～15）

15点の試料のうち、同定粒数100個以上を得られたのは、試料番号4と9の2点のみである。これは、これまでの焼塩壺の分析例からみて、本分析の各試料の分量が少なかったためであり、特に重鉍物の含量が少ないわけではない。上記2点の試料は、他の試料よりも特に分量が多かっただけである。

上記2点の試料は、どちらも「その他」を除けば酸化角閃石が多く、少量の斜方輝石、角閃石を伴う。ただし、試料番号9には少量の黒雲母も含まれる。同定粒数100個未満の試料では、ほとんどの試料で角閃石または酸化角閃石が含まれる。

b) 蓋（試料番号16～20）

5点の試料のうち同定粒数100個未満の試料は試料番号20のみである。これを除く4点の試料のうち



試料 番号	調査 区	Gr.	遺構	器種		法量 (cm・cc)					色調	釉薬・調整等		備考
				器種	器形	器高	口径	肩径	底径	容量		内面	外面	
1	92A	-	SD101	焼塩壺	身	(8.6)	(5.5)	-	(3.0)	-	橙色	-	指押え	内面：明赤褐色
2	"	IF5g	SK326	"	"	7.7	(3.5)	-	(3.0)	30	にょい橙色	-	指押え+ナデ	内面：明赤褐色
3	"	IF4d	検出	"	"	6.6	3.6	-	2.8	25	"	ナデ	"	内面：明赤褐色
4	"	IF3e	"	"	"	-	-	-	2.5	-	橙色	-	指押え	内面：赤褐色
5	"	IF4e	"	"	"	6.9	3.8	-	(3.3)	18	にょい橙色	-	"	内面：明赤褐色
6	"	IF6q	"	"	"	(6.8)	(4.5)	(5.8)	(3.6)	-	"	-	指押え+ナデ	内面：橙色
7	93B	IE7j	SK053	"	"	(6.5)	(4.0)	-	3.0	-	橙色	-	"	内面：明赤褐色
8	"	IE8i-j	SK055	"	"	7.0	(5.2)	-	(5.3)	-	にょい橙色	-	指押え	内面：橙色
9	"	"	"	"	"	(7.6)	(6.0)	(7.2)	(4.8)	-	橙色	-	指押え+ナデ	内面：縄目痕
10	"	IE4l	SK086	"	"	-	-	-	3.0	-	にょい橙色	-	"	内面：赤褐色，断面に鉄塊付着
11	"	IE4g-h	SK020	"	"	(7.2)	(6.0)	-	(5.4)	-	"	-	"	
12	"	IE7-8o	SD129	"	"	6.2	5.3	-	3.5	25	"	-	指押え	内面：赤褐色
13	"	IE7g	検出	"	"	6.4	3.7	-	3.4	18	"	-	ナデ	
14	"	IE3l	"	"	"	7.6	4.2	-	3.4	24	赤色	-	指押え+ナデ	内面：布目痕
15	"	IE8n	"	"	"	7.0	4.1	-	3.4	30	赤橙色	-	ナデ	内面：赤褐色
16	92A	IF11p	"	"	"	2.2	7.2	7.1	-	-	橙色	-	"	内面：明赤褐色，布目痕
17	93B	-	SD101	"	蓋	2.0	7.0	8.1	-	-	にょい橙色	指押え	"	内面：布目痕
18	"	IE4j-k	SD113	"	"	(1.7)	(5.3)	(3.6)	-	-	"	-	指押え+ナデ	
19	"	IE8j-k	SD102	"	"	(1.8)	(7.3)	(7.2)	-	-	橙色	-	ナデ	内面：布目痕
20	"	IE9n	検出	"	"	1.4	4.0	4.6	-	-	淡黄橙色	-	"	

第126図 焼塩壺胎土分析試料実測図 (1:3)

試料番号17、18、19の3点は酸化角閃石を主体とする。ただし、試料番号17は少量の角閃石と黒雲母を伴い、試料番号18は微量の斜方輝石、角閃石、黒雲母、ジルコンなどを含む。試料番号20には角閃石が認められる。

(4) 考察

これまでに当社で行った江戸の遺跡から出土した焼塩壺の胎土分析では、いわゆる「ロクロ成形」以外のものは、刻印の種類にかかわらずほとんどが角閃石または酸化角閃石を主体とする組成を示すことが確かめられている。本分析の同定粒数100個体未満の試料については、その組成を正しく評価することはできないが、その出現鉱物の傾向は上述の江戸遺跡の結果とほぼ調和するものと見てよい。

同定粒数100個以上の2点の身の試料の組成は、以前分析した愛知県名古屋市に所在する名古屋城三の丸遺跡出土試料では、「泉湊」や「泉州麻生」さらに無刻印薄手の試料に認められており、また、江戸遺跡の出土例では、「泉州麻生」の多くおよび「泉湊伊織」の一部に認められている。一方、この組成は、名古屋城三の丸遺跡出土試料の「サカイ御塩所」や「泉湊伊織」、「御壺塩師」、厚手小型などにみられる角閃石を主体とする組成とは異なる。これらの角閃石を主体とする組成は、江戸遺跡では「輪積み成形」のものや「伊織系無刻印」に多く見られ、「泉湊伊織」の一部にも認められている。

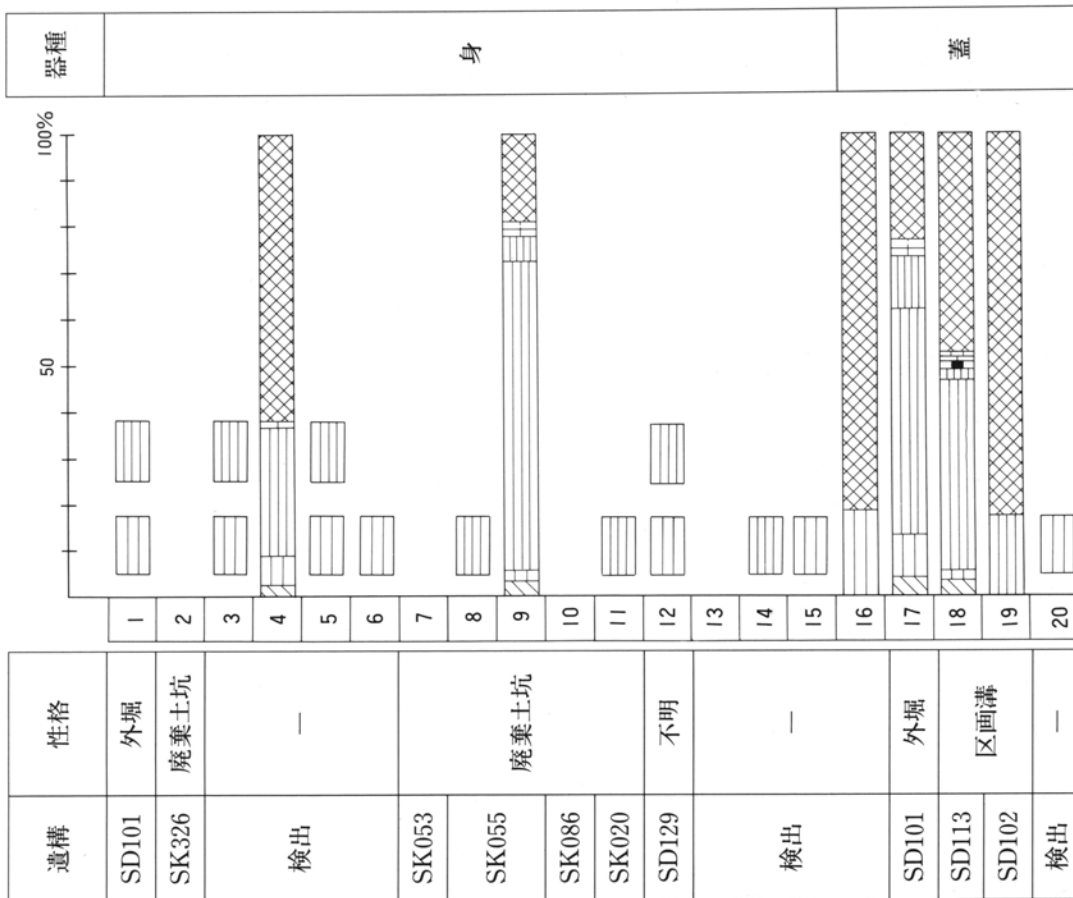
ところで、前述した矢作(1994)では、焼塩壺の胎土の特徴として重鉱物組成のほかに吸水率を指標として用いている。吸水率は、試料を水に漬け、ある一定時間後にどれだけの水を吸ったかという、いわば胎土の物理性を数字にしたものである。算出は、試料の乾燥重量と吸水重量を測定し、その差を乾燥重量で割り、百分率で表す。本分析試料についてもこれを求めた。結果は第19表に併記する。矢作ほか(1994)では、吸水率を用いることにより、おなじ角閃石を主体とする組成の「輪積み」と「伊織系無刻印」とを区別することができ、重鉱物組成の全く異なる「ロクロ成形」の胎土の違いにより明瞭にした。本分析では、重鉱物組成が十分に求められなかったが、吸水率から次のような区別をすることができる。まず、実測図から他の試料とは形態や器壁の厚さがやや異なると判断される試料番号1は、やはり吸水率でも他の試料とは離れた値を示す。また、同様に比較的器壁の薄い試料番号6、8、9、11は、18～22の範囲にあり、15～18の範囲に入る他の多くの試料とは区別される。吸水率の違いが、何に起因するものかはまだ詳細には確かめられていないが、重鉱物以外の砂粒や粘土の調整の違いが現れていると考えれば、上記で区別された試料は胎土が異なると考えて良い。

蓋の試料では、試料番号17～19の3点は、上記の2点の身の試料とほぼ同様の組成を示すが、吸水率を合わせてみると試料番号17は器壁の薄い身の方に近いと考えられ、試料番号18は他の多くの身に近いと考えることができる。試料番号19は、試料番号1に近い。この結果から、即座にそれぞれの蓋が上記の身にそれぞれ対応すると判断することはできないが、今後さらに調査例および分析例が増えることにより推定が可能となる。試料番号16の組成は、他の蓋および上記2点の身の試料とは異質であり、本分析では、これに対応する可能性のある身の試料を認めることができない。名古屋城三の丸遺跡では、「サギサカ」の刻印のある蓋の試料が全て角閃石主体の組成を示した。これらの試料との関係は、未だ解明することはできないが、身と同様に資料の蓄積が必要であろう。

冒頭に述べたように、焼塩壺は近世考古学において重要な指標になると考えられることから、その胎土分析の効果も高いと考えられる。今後は、その流通の性格から、より広範囲な地域での分析例が

試料番号	斜方輝石	単斜輝石	角閃石	酸化角閃石	黒雲母	紅柱石	ジルコン	ザクロ石	緑レン石	電気石	不透明鉱物	その他	同定鉱物粒数	吸水率 (%)
1	0	1	5	3	0	0	0	0	2	0	0	66	77	12.6
2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	16.3
3	0	0	2	3	0	0	0	1	0	0	0	0	6	17.7
4	6	1	16	70	0	1	0	3	2	0	2	149	250	17.6
5	2	0	10	6	0	0	0	0	0	1	0	10	29	15.3
6	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	19.9
7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	17.7
8	4	0	2	9	0	1	0	0	0	0	0	12	28	18.6
9	8	1	6	167	13	0	0	4	4	0	0	47	250	19.1
10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	23	23	7.2
11	3	1	9	26	0	0	2	0	1	0	0	41	83	21.7
12	2	0	11	17	0	0	0	1	0	0	0	13	44	16.3
13	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	2	4	15.4
14	0	0	0	3	1	0	0	0	0	2	0	23	29	17.7
15	2	0	8	0	1	0	0	0	1	0	0	1	13	22.1
16	0	0	46	1	2	0	0	1	2	0	2	194	250	12.5
17	10	1	23	122	28	0	0	4	5	1	0	56	250	17.9
18	6	0	4	75	4	0	3	1	2	2	1	84	182	17.6
19	1	0	1	43	1	0	2	0	2	0	0	200	250	12.5
20	7	0	18	1	0	1	0	1	1	4	0	21	54	15.1

第19表 焼塩壺試料の胎土重鉱物分析結果



(1. 斜方輝石 2. 角閃石 3. 酸化角閃石 4. 黒雲母 5. ジルコン 6. ザクロ石 7. 緑レン石 8. 電気石 9. 不透明鉱物 10. その他)

第127図 焼塩壺試料の胎土重鉱物組成

蓄積されることと重鉍物、吸水率以外にも胎土の特徴を捉えることが必要である。そしてこれまでに進められてきた刻印や成形技法等による分類、編年等との総合的な解析をすることにより、近世における生産・流通の一端を解明することができるかも知れない。

<参考文献>

矢作健二・植木真吾・菅原 道・中山経一 「焼塩壺の研究(その1)―胎土分析による問題提起とその検討―」 『日本文化財科学会第11回大会発表要旨集』 1994

2. 瓦類

はじめに

近世の城郭や武家屋敷に多量に使用されている瓦は、その生産地や流通において不明瞭な部分が意外に多い。例えば、大名の江戸屋敷に使用されている瓦が国元から取り寄せられたものか江戸で調達されたものかは、文献資料がある場合は別であるが、客観的な証拠が得られていることは少ない。瓦の刻印は産地の指標ともなるが、刻印のある瓦は全体から見れば少数であり、また当世における偽ブランド商品の横行を見るにつけ客観的な証拠とはいえない。本分析は、胎土分析の手法を瓦に応用することにより、その生産や流通を考える。解析は、本分析の試料間の比較はもちろんのことこれまでに当社が行った瓦およびその他の土器の胎土分析の結果とも比較を行う。そこから、近世の三河地域における瓦の生産流通状況を探りたい。

(1) 試料

試料は、愛知県豊橋市に所在する吉田城遺跡、新城市に所在する島田陣屋遺跡、西尾市に所在する西尾城東之丸遺跡の各遺跡から出土した瓦30点である。内訳は、吉田城遺跡武家屋敷地点出土が12点(試料番号1~12)、同遺跡三の丸地点出土が6点(試料番号13~18)、島田陣屋遺跡出土が6点(試料番号19~24)、西尾城東之丸遺跡出土が6点(試料番号25~30)である。

各試料の出土した遺跡名、遺構及びその性格、種類は、分析結果を呈示した第131図中に併記するが、詳しくは試料実測図下の観察表を参考にさせていただきたい。

(2) 分析方法

1. 焼塩壺の(2)と同様。

(3) 分析結果

a) 吉田城遺跡武家屋敷地点(試料番号1~12)

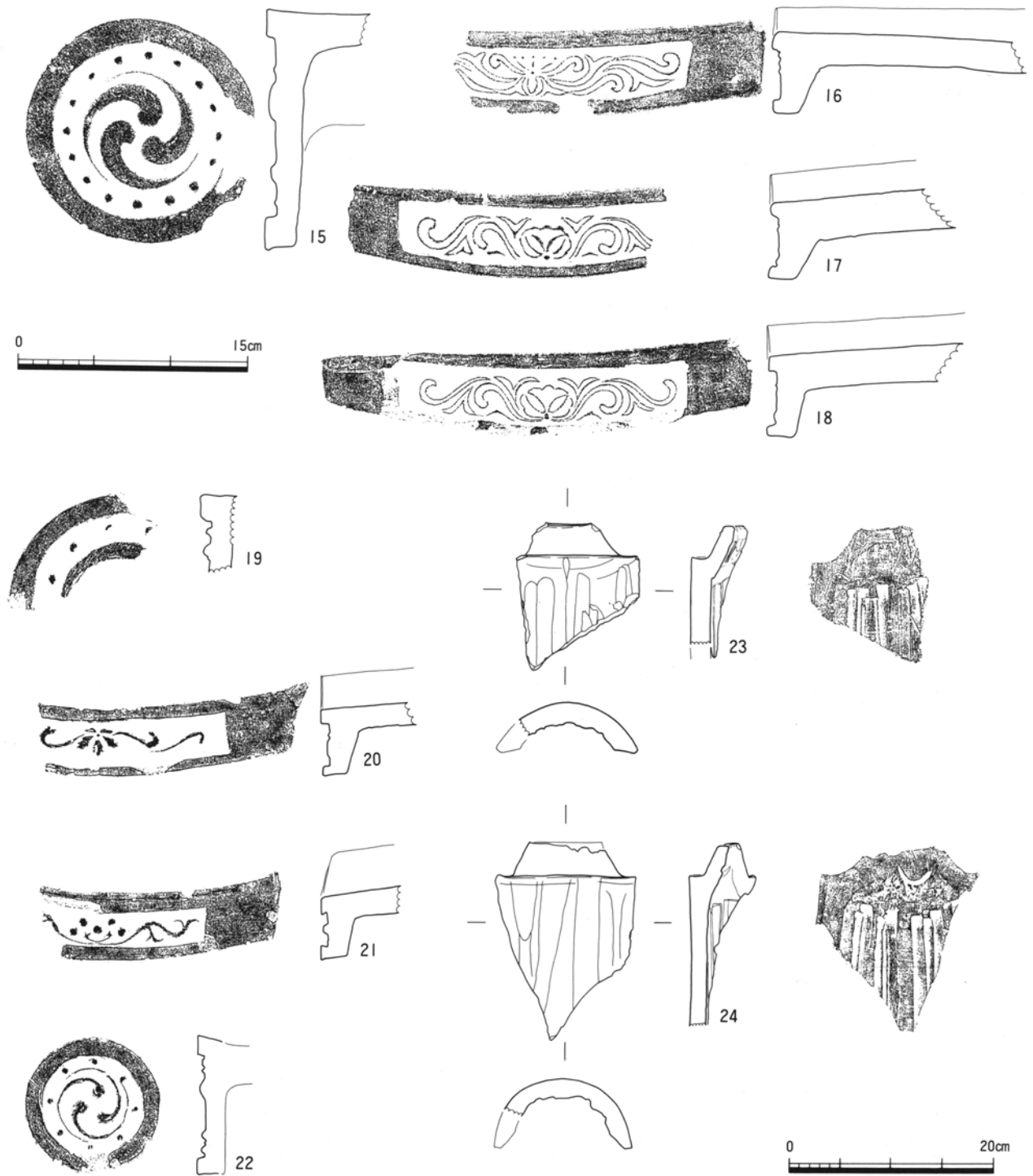
全体的に「その他」とした変質粒が多いが、それを除いた場合の鉍物の組み合わせを見ると次に述べるようなまとまりが見出だせる。

試料番号1、3、4、5は、斜方輝石、角閃石、ジルコン、ザクロ石が少量ずつあり、黒雲母を微量含むことが特徴である。試料番号2、9、10は、「その他」が非常に多く、少量の角閃石と黒雲母を含む。試料番号6、7、8は、「その他」が他の試料に比べれば少なく、角閃石を主体とする。試料番号11は「その他」が非常に多く、少量の黒雲母とジルコンが特徴となる。試料番号12は、角閃石と黒雲母、ジルコン、ザクロ石が少量ずつある。



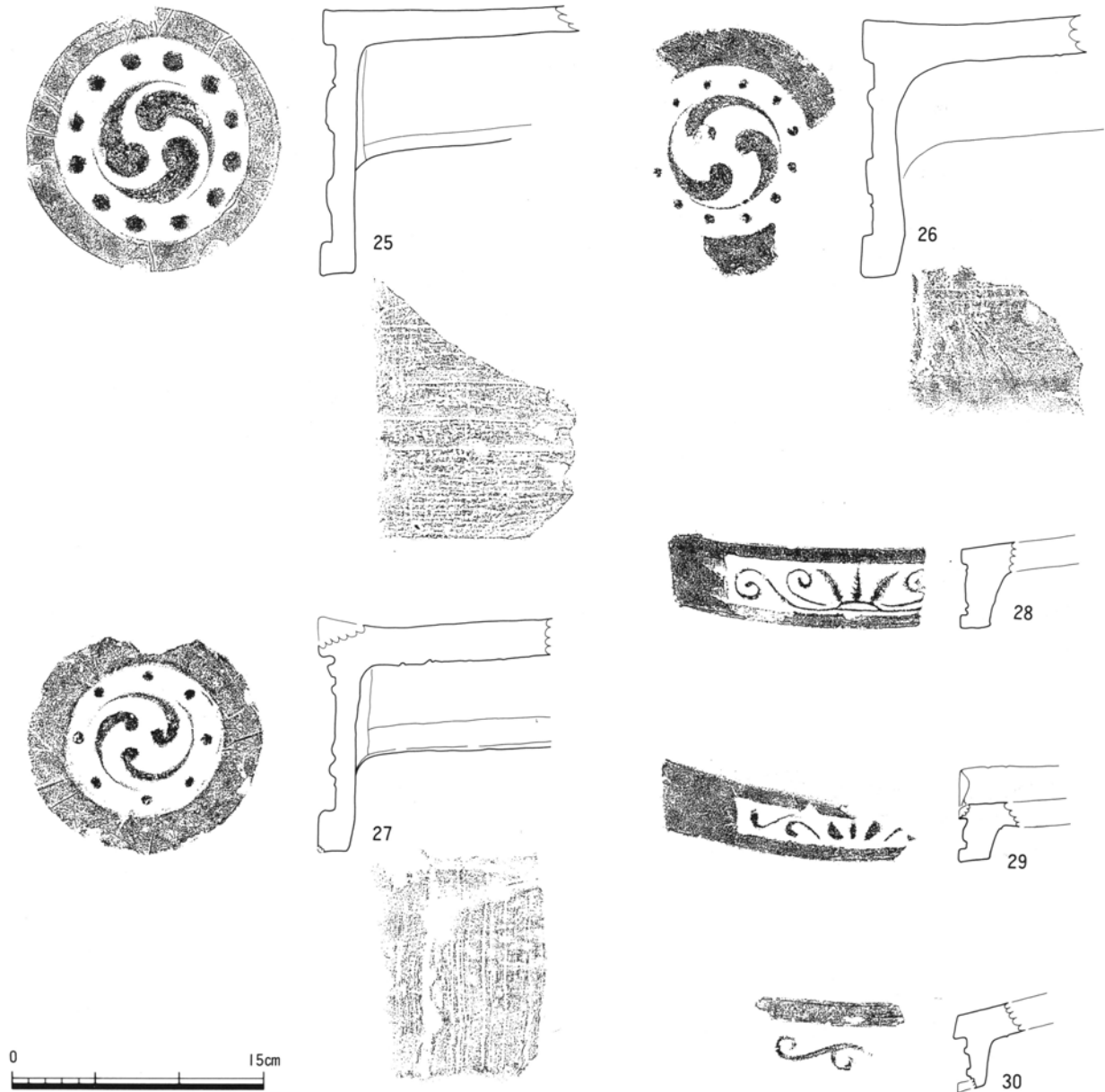
試料番号	遺跡名	Gr.	遺構	種類	軒丸部 (cm)				軒平部 (cm)				丸瓦 (cm)			備考	
					径	内区径	厚さ	珠文数	幅	内区幅	厚さ	内区厚	高さ	最大幅	厚さ		
1	IVTY92	IF5l	SD101	軒丸瓦	-	-	-	(12)	-	-	-	-	-	-	-	-	右三ツ巴文に連珠文
2	"	-	"	"	-	-	-	(12)	-	-	-	-	-	-	-	-	左三ツ巴文に連珠文
3	"	-	"	軒丸瓦	-	-	-	-	-	-	4.0	2.3	-	-	-	-	唐草文
4	"	IF6p	SD159	"	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	唐草文
5	"	-	SD101	軒棧瓦	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	唐草文
6	"	IF5-6o	SK274	"	8.5	5.2	(2.2)	12	-	-	-	-	-	-	-	-	右三ツ巴文に連珠文
7	"	"	"	"	8.2	5.0	1.8	(12)	-	-	-	-	-	-	-	-	左三ツ巴文に連珠文
8	"	"	"	"	(8.7)	(5.4)	1.9	12	-	-	-	-	-	-	-	-	右三ツ巴文に連珠文
9	"	"	"	"	-	-	-	-	-	-	4.2	1.8	-	-	-	-	瓦当面文様なし
10	"	"	"	"	-	-	-	-	-	-	(4.7)	(2.4)	-	-	-	-	唐草文
11	"	"	"	"	-	-	-	-	-	-	4.1	2.3	-	-	-	-	唐草文
12	"	IF6q	SD159	丸瓦	-	-	-	-	-	-	-	-	7.1	15.2	3.1	-	唐草文,内面:玉縁部に網痕
13	YDC	K5-J3	SK01	軒丸瓦	(14.6)	(11.8)	2.3	16	-	-	-	-	-	-	-	-	左三ツ巴文に連珠文
14	"	K5-J1l	"	"	15.7	11.3	2.2	16	-	-	-	-	-	-	-	-	左三ツ巴文に連珠文,内面:コビキB

第128図 瓦類胎土分析試料実測図① (1:4)



試料番号	遺跡名	Gr.	遺構	種類	軒丸部 (cm)				軒平部 (cm)				丸瓦 (cm)			備考
					径	内区径	厚さ	珠文数	幅	内区幅	厚さ	内区厚	高さ	最大幅	厚さ	
15	YDC	K5-Jil	SK01	軒丸瓦	15.5	11.5	2.1	16	—	—	—	—	—	—	—	左三ツ巴文に連珠文, 内面: コヒキ B+叩板調整痕
16	"	"	"	軒平瓦	—	—	—	—	(31.2)	(20.8)	5.1	3.3	—	—	—	均整唐草文
17	"	"	"	"	—	—	—	—	(28.8)	(19.6)	4.8	3.3	—	—	—	均整唐草文
18	"	"	"	"	—	—	—	—	28.2	19.1	5.1	3.6	—	—	—	均整唐草文
19	IIISJ93		SK1313	軒丸瓦	—	—	—	(16)	—	—	—	—	—	—	—	左三ツ巴文に連珠文
20	IIISJ92		南部落込	軒平瓦	—	—	—	—	(26.0)	(17.0)	(4.2)	2.7	—	—	—	桐に唐草文
21	IIISJ93		SD05	"	—	—	—	—	(23.6)	(14.2)	4.0	2.1	—	—	—	均整唐草文
22	IIISJ92		南部落込	軒棧瓦	9.0	6.7	—	8	—	—	—	—	—	—	—	左三ツ巴文に連珠文
23	IIISJ93		SK1313	丸瓦	—	—	—	—	—	—	—	—	4.9	(14.2)	2.0	内面: コヒキ B+叩板調整痕
24	IIISJ92		SD05	"	—	—	—	—	—	—	—	—	6.8	13.6	1.8	内面: コヒキ B+叩板調整痕

第129図 瓦類胎土分析試料実測図② (23:24は1:6, 他は1:4)



試料番号	遺跡名	Gr.	遺構	種類	軒丸部 (cm)				軒平部 (cm)				丸瓦 (cm)			備考	
					径	内区径	厚さ	珠文数	幅	内区幅	厚さ	内区厚	高さ	最大幅	厚さ		
25	1BNH	-	SK19	軒丸瓦	15.7	11.9	2.0	12	-	-	-	-	-	-	-	-	右三ツ巴文に連珠文,内面:コビキB+叩板調整痕
26	BNH	-	-	"	(13.9)	9.0	2.1	8	-	-	-	-	-	-	-	-	左三ツ巴文に連珠文,内面:コビキB+叩板調整痕
27	"	-	"	"	15.1	10.5	2.3	12	-	-	-	-	-	-	-	-	右三ツ巴文に連珠文,内面:コビキB
28	2CNH	-	SX10	軒平瓦	-	-	-	-	(22.2)	(15.6)	4.6	3.0	-	-	-	-	均整唐草文
29	BNH	-	-	"	-	-	-	-	(22.6)	(14.0)	(3.3)	1.8	-	-	-	-	均整唐草文
30	1BNH	-	SD04	"	-	-	-	-	-	-	4.4	(2.5)	-	-	-	-	均整唐草文

第130図 瓦類胎土分析試料実測図③ (1:4)

〈註〉 観察表の遺跡名の記号等については、以下の通りである。

遺跡記号	遺跡名 (調査主体)	遺構	性格	時代	備考
IV TY92	吉田城遺跡 (財愛知県埋蔵文化財センター) 愛知県豊橋市八町通	SK274	瓦溜り	江戸時代	武家屋敷地点
		SK101	外堀		
		SD159	排水溝		
YDC	吉田城遺跡 (豊橋市教育委員会) 愛知県豊橋市今橋町	SK01	廃棄土坑	江戸時代	三の丸地点
III SJ92 III SJ93	島田陣屋遺跡 (財愛知県埋蔵文化財センター) 愛知県新城市野田字西ノ郷	落込	-	戦国時代 江戸時代	陣屋跡
		SK1313	瓦溜り		
		SD05	近世の溝		
BNH 1 BNH 2 CNH	西尾城東之丸遺跡 (西尾市教育委員会) 愛知県西尾市錦城町	-	長葎跡	江戸時代	東之丸地点
		SK19	廃棄土坑		
		SX10	廃棄土坑		
		SD04	区画溝		

b) 吉田城遺跡三の丸地点（試料番号13～18）

全体的に「その他」とした変質粒が多いが、それを除いた場合の鉱物の組み合わせは、全点ともほぼ同様である。すなわち、斜方輝石、角閃石、黒雲母、ジルコン、ザクロ石の5つである。試料によっては、斜方輝石やジルコン、黒雲母は微量か極微量になる。

c) 島田陣屋遺跡（試料番号19～24）

6点の試料のうち、試料番号19～22までの4点は、角閃石を主体とし少量の黒雲母を伴い、微量または極微量のザクロ石を含む。試料番号23は、これら4点と鉱物の組み合わせは同じであるが、黒雲母の方が角閃石よりも多い。試料番号24は、「その他」が非常に多く、少量の角閃石、黒雲母、ジルコンを含む。

d) 西尾城東之丸遺跡（試料番号25～30）

全点とも「その他」とした変質粒が多いが、それを除けば角閃石、黒雲母、ジルコン、ザクロ石の組み合わせが特徴となる。角閃石はどの試料においても比較的多いが、黒雲母は試料によって多いものもあり少量のものもある。ジルコンとザクロ石は、どの試料も少量である。

4. 考察

結果記載より、吉田城遺跡から出土した瓦の胎土は、少なくとも5種類程度のものが混在するといえる。三の丸地点出土試料は、武家屋敷地点出土試料に比べて胎土のばらつきが少ないように見えるが、これは、1ヵ所の土坑から出土していることによるものであろう。これらの胎土の違いは、概ね本瓦と棧瓦に対応している可能性がある。

まず、本瓦では、三の丸地点出土試料の状況から軒丸瓦も軒平瓦もほぼ同様の素地土が使われていたと考えられ、両者の間で土の使い分けはなかったと推定される。このことは、武家屋敷地点や島田陣屋遺跡、西尾城東之丸遺跡でも同様であったと考えられる。一方で、吉田城遺跡の武家屋敷では同じ軒丸瓦の中で胎土の違いが認められている。2点だけの結果ではあるが、両者には紋様の違いがあることから異なる製作者から供給を受けていたのかもしれない。

棧瓦では、出土遺構の異なる瓦も胎土が異なり、同一遺構の中の瓦にも複数種の胎土が認められる。まず、SD101出土の軒棧瓦の胎土は、同じ遺構から出土した軒丸瓦や軒平瓦および三の丸地点の軒平瓦や軒丸瓦の胎土に酷似し、SK274出土の出土の軒棧瓦の胎土とは明らかに異なっている。SK274出土の軒棧瓦は、3種類程度の胎土が混在する。しかも武家屋敷地点および三の丸地点の本瓦に多く見られた胎土とは全て異質な胎土を示す。このことは、吉田城下においては、本瓦と棧瓦との間に生産や流通事情に変化があったことを窺わせる。

ところで、吉田城遺跡、島田陣屋遺跡、西尾城東之丸遺跡の3遺跡の瓦胎土を比較すると互いにはほとんど類似するものはないことがわかる。特に、島田陣屋遺跡と西尾城東之丸遺跡では、胎土の均一性が高いように見える。これらの遺跡では、地元で製作された瓦が多く使われていたのかも知れない。吉田城遺跡では、おそらくこれら2遺跡よりも多少広い範囲から瓦が集まっていたと考えられる。しかし、上記2遺跡の瓦の胎土をそれぞれ豊川中流域と西三河地域を表すものとする、これらの地域からの搬入は多くなかったといえる。さらに、これまでの分析例から、尾張地域で多く使われている

100%
50%

遺跡名	性格			
吉田城遺跡	武家屋敷地点			
		三之丸地点		
			陣屋跡	
				東の丸地点

遺構	性格	種類
SD101	外堀	軒丸瓦
SD159	排水溝	軒丸瓦
SD101	外堀	
SK274	瓦溜り	軒棧瓦
SD159	排水溝	丸瓦
SK01	廃棄土坑	軒丸瓦
SK1313	—	軒丸瓦
南部落込	—	軒平瓦
SD05	近世の溝	軒平瓦
南部落込	—	軒棧瓦
SK1313	—	丸瓦
SD05	近世の溝	軒丸瓦
SK19	廃棄土坑	軒丸瓦
SX10	廃棄土坑	軒平瓦
SD04	区画溝	軒平瓦



(1. 斜方輝石 2. 単斜輝石 3. 角閃石 4. 普通角閃石以外の角閃石 5. 黒雲母 6. 紅柱石 7. ジルコン 8. サクロ石 9. 緑レン石 10. 電気石 11. 不透明鉱物 12. その他)

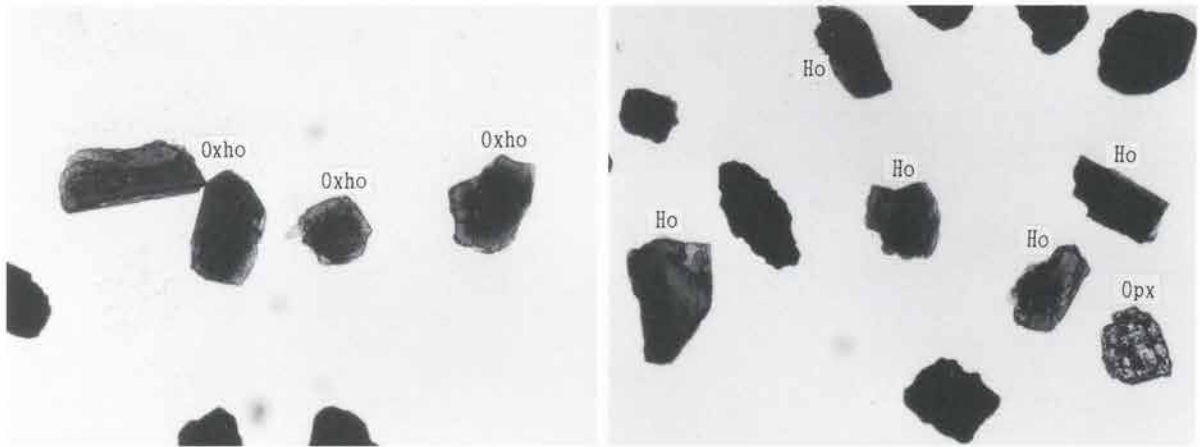
第131図 瓦類試料の胎土重鉱物組成

試料番号	カンラン石	斜方輝石	単斜輝石	角閃石	酸化角閃石	黒雲母	紅柱石	ジルコン	ザクロ石	緑レン石	電気石	不透明鉱物	その他	同定鉱物粒数
1	0	16	0	13	1	2	0	7	7	0	0	0	0	250
2	0	0	0	30	0	26	0	1	0	0	0	0	0	250
3	0	4	1	23	0	2	0	9	29	0	4	15	163	250
4	0	30	2	50	0	3	2	3	27	0	0	5	129	250
5	0	17	2	48	0	1	2	7	31	0	11	5	124	250
6	0	0	0	108	9	14	0	0	1	0	0	0	118	250
7	0	1	0	60	0	3	0	0	1	1	2	0	182	250
8	0	0	0	155	0	8	0	0	1	6	0	0	80	250
9	0	0	0	4	0	11	0	0	0	0	0	0	235	250
10	0	2	0	13	0	7	0	0	1	0	0	0	227	250
11	0	0	0	1	1	23	2	7	3	0	0	0	213	250
12	0	0	0	25	0	10	1	11	15	0	3	1	184	250
13	0	17	0	22	0	5	0	8	20	0	0	2	176	250
14	1	2	0	15	0	4	0	1	13	0	0	5	209	250
15	0	15	1	25	0	6	1	5	20	0	0	1	176	250
16	0	16	0	44	0	1	0	1	15	1	2	7	163	250
17	0	3	0	67	0	20	0	3	7	1	2	3	144	250
18	0	1	0	42	0	7	1	1	6	0	0	0	192	250
19	0	3	0	100	0	38	0	0	13	0	1	4	91	250
20	0	1	0	91	0	38	0	1	6	0	1	0	112	250
21	0	0	0	129	0	47	0	2	3	0	0	0	69	250
22	0	1	0	152	0	30	0	1	1	0	1	0	64	250
23	0	1	0	20	0	91	0	0	4	0	1	0	132	250
24	0	0	0	12	0	20	0	5	2	0	0	0	211	250
25	0	3	0	62	0	66	0	5	3	0	1	0	110	250
26	0	3	0	50	0	19	3	8	7	0	3	0	157	250
27	0	1	0	21	0	5	2	7	6	0	0	0	208	250
28	0	1	0	53	0	41	6	13	8	1	0	1	126	250
29	0	0	0	27	0	60	1	15	5	0	0	1	141	250
30	0	2	0	41	0	9	2	23	16	0	1	1	155	250

第20表 瓦類試料の胎土重鉱物分析結果

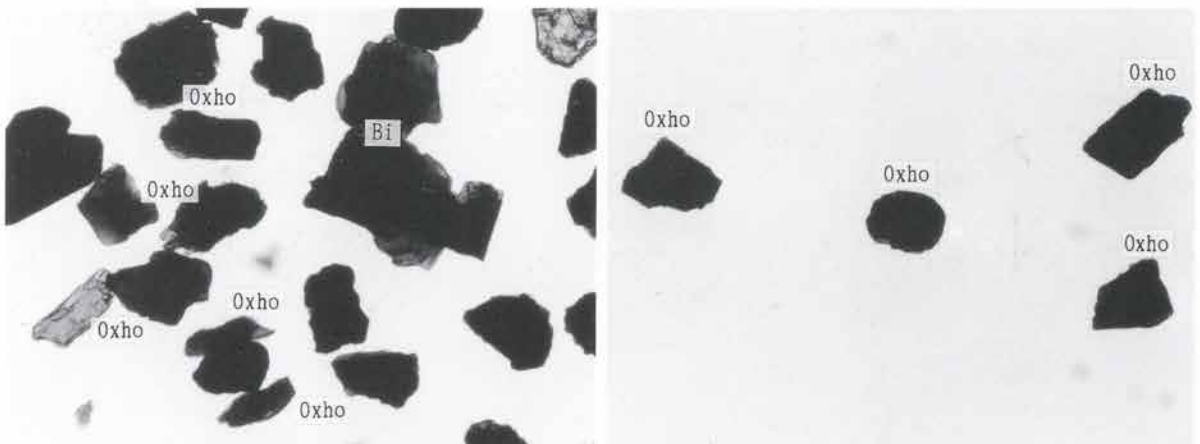
瓦もほとんど搬入されなかったと考えられる。尾張地域の瓦の胎土は、ほとんどが両輝石の多い組成を示すからである。

一般に考えられる瓦の量を考えれば、瓦の分析例は本分析を含めてもまだほんの一端にすぎない。本分析では、それを承知で考察をした結果であり、今後の資料の蓄積により、より確かで具体的な解析を行えると考える。
(パリノ・サーヴェイ株式会社)



1. 試料番号9

2. 試料番号16



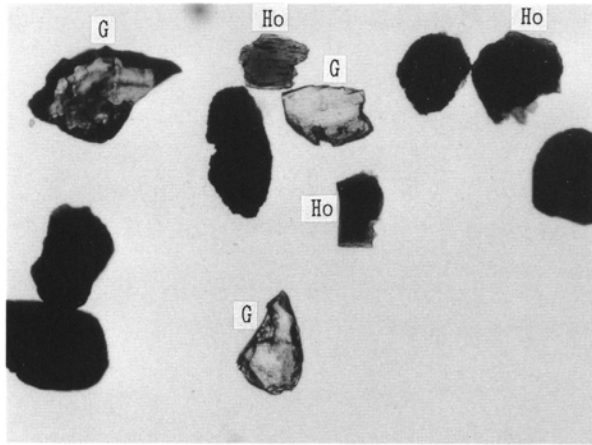
3. 試料番号17

4. 試料番号18

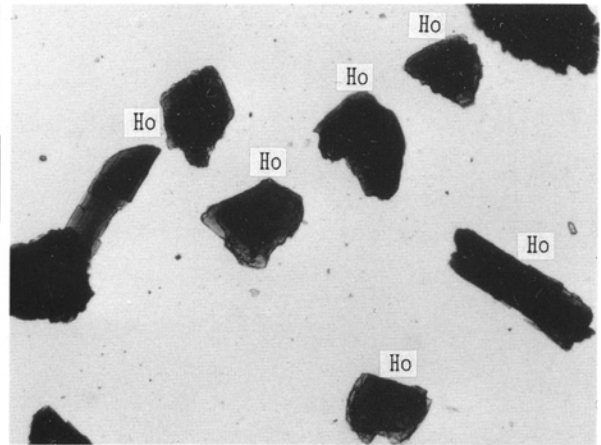
Opx：斜方輝石，Ho：角閃石，Oxho：酸化角閃石，Bi：黒雲母。

0.5mm

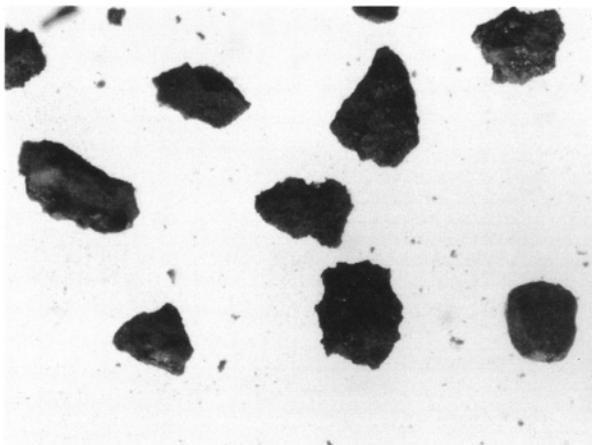
第132図 焼塩壺試料胎土中の重鉱物



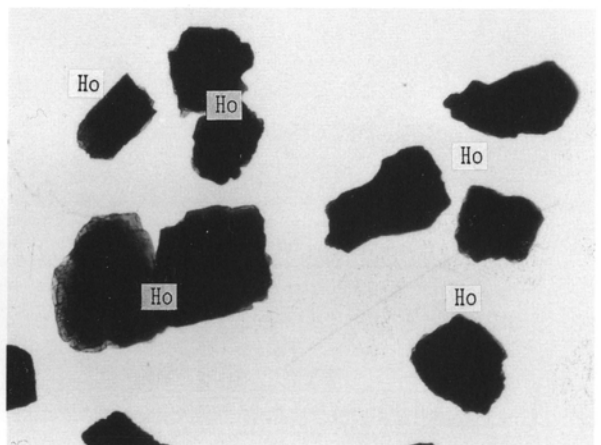
1. 試料番号 5



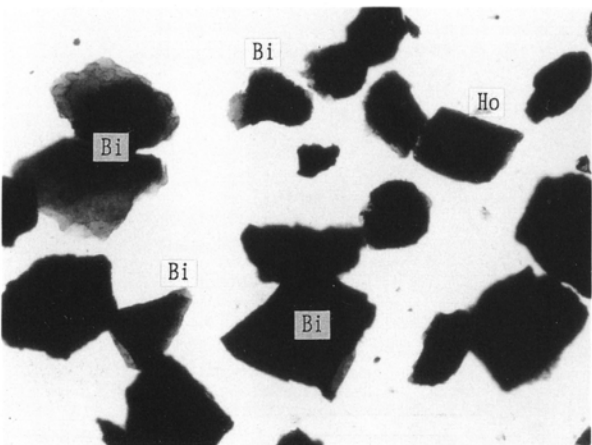
2. 試料番号 8



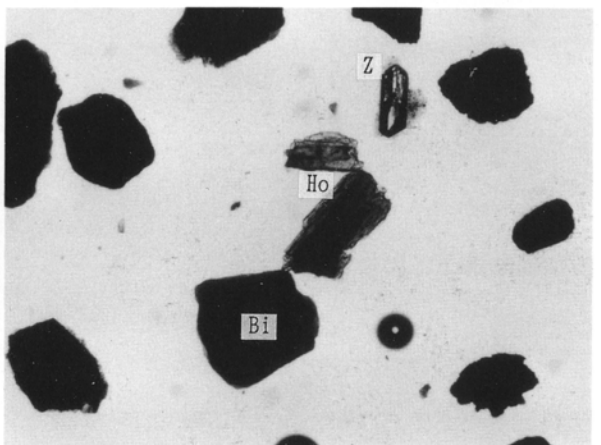
3. 試料番号 9



4. 試料番号 22



5. 試料番号 23



6. 試料番号 28

Ho:角閃石, Bi:黒雲母, Z:ジルコン, G:ザクロ石.

0.5mm

第133図 瓦類試料胎土中の重鉱物

第2節 中世の井戸出土の自然遺物

1. 試料

中世の井戸 SE001は、山茶椀類を多く含む層準と貝類を多く含む層準によって埋められていた。そこで貝類等を多く含む層準より、約25kgの土壌サンプルを採取し1mmメッシュの篩を用いて水洗選別を実施したところ、貝類・昆虫遺体・植物種子・動物遺体を得ることができた。

2. 貝類

総重量888.5gの試料を得た。最も多いものはハマグリで、総重量は610.9gである。右殻77個・左殻83個より最少個体数は83個と推定される。他にアサリ(3.8g)、マテガイ(7.6g)イタボガキ科の破片95.9g等が出土している(第21表)。これらの貝類で、陸生貝類以外のものはすべて食用になる貝類であることから、食した後に廃棄されたものと推定される。陸生貝類(巻貝)は殻頂が25個とかなりまとまって出土しているが、SE001が井戸の廃棄されたものであることから、土坑内に棲息していたものと思われる。

科名	種名	学名	重量(g)	殻頂数	
アッキガイ科	アカニシ	Rapana thomasi	31.4		
タマガイ科	ツメタガイ	Neverita (Glossaulax) didyma	54.8	10	
イタボガキ科		OSTREIDAE	95.9		
				右	左
マルスダレガイ科	ハマグリ	Meretrix lusoria	610.9	77	83
マルスダレガイ科	アサリ	Tapes (Amygdala) japonica	3.8		1
マテガイ科	マテガイ	Solen strictus	7.6		
タニシ科	マルタニシ?	Cipangopaludina chinensis malleata	3.7		
	陸生貝類不明		1.8	25	
	不明貝片		78.6		
合計			888.5		

第21表 SE001出土貝類一覧

3. 昆虫類

昆虫遺体は総数184点であるが、種等が同定されたものは計68点である(第22表)。最も多いものは、ゴミムシ科やオサムシ科などの食肉性の地表生歩行虫(34点)である。次いでドウガネブイブイ等の食植性昆虫(19点)がみられる。

4. 植物種子・動物遺体

植物種子は、1~1.5mm程度の小型のものが約10cc出土した。大半がナデシコ科の種子であり、タデ科、トウダイグサ科、キク科、ナス科の種子がわずかに認められた。今回出土した種子類は、いずれも民家周辺に生えている草本類である。動物遺体は、ハタネズミと思われる齧歯目の上顎、上腕骨、頸骨、橈骨が出土している。また、カエル類の椎骨が1点出土している。(堀木真美子)

種名	学名	出土点数
ガムシ	Hydrophilus acuminatus	1
セマルガムシ	Coelostoma stultum	5
エンマコガネ属	Onthophagus spp.	1
コブマルエンマコガネ	Onthophagus atripennis	1
マグソコガネ	Aphodius rectus	1
コマグソコガネ	Aphodius pusilus	1
シテムシ科	SILPHIDAE	1
オサムシ科	CARABIDAE	5
ゴミムシ科	HARPALIDAE	24
ハネカクシ科	STAPHYLINIDAE	3
アリ科	FORMICIDAE	1
コガネムシ科	SCARABAEIDAE	4
スジコガネ亜科	RUTELINAE	2
サクラコガネ属	Anomala spp.	2
ドウガネブイブイ	Anomala cuprea	5
アオドウガネ	Anomala albopulosa	1
コアオハナムグリ	Oxycetonia jucunda	1
コメツキムシ科	ELATERIDAE	1
ハムシ科	CHRYSOMELIDAE	3
双翅目開蝨	DIPTERA	2
不明甲虫		3
合計		68

第22表 SE001出土昆虫類一覧

謝辞：貝類の同定は豊橋市自然史博物館の松岡敬二氏に、昆虫遺体の同定は三重大学の森勇一氏に御指導頂きました。記して感謝の意を表します。

第VI章 総括とまとめ



第1節 屋敷地の検証

1. はじめに

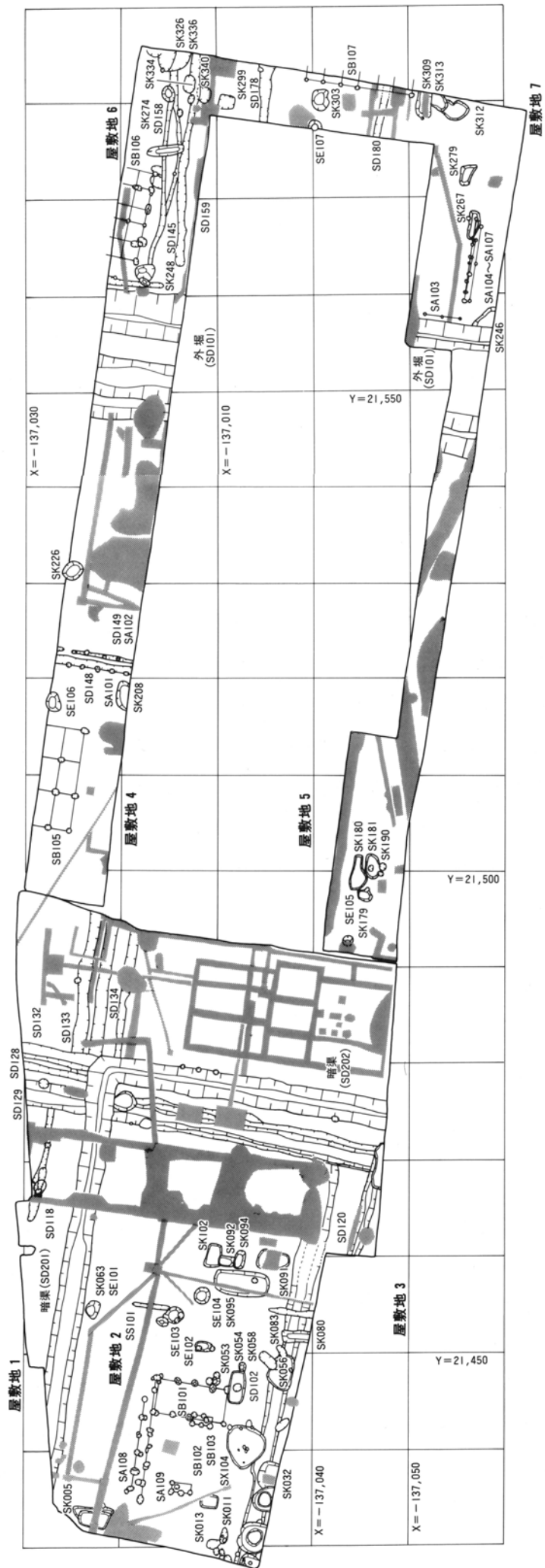
近世、江戸時代を対象として考古学が開始されたのは、ここ10数年とまだ浅い。これに対し、文献の分野においてはかなりの成果が示されてきている。そのため他の時代の遺跡と異なり、確認された遺構・遺物等から、それが何であるのか、また誰によって使用されていたのか、ということが文献資料によりある程度捉えられることがある。近世の考古学を行う場合には、このような歴史学、文献史学、建築史等の多くの学問領域の成果を踏まえた上で、今回検出された遺構がどのような性格を持ち、誰によって利用されていたのかを、残された絵図や史料によって明らかにし、当時の人々の生活の実相に近づいてみたいと思う。

2. 屋敷地の推定

今回検出された遺構群が近世吉田城の城下町を構成する武家屋敷であることは明かである。この城下町は、池田照政が入封した際に城地の拡大と城下町の整備をした時期にまで遡ることができるものと思われる。それは、照政以後の譜代大名たちは、財政的に照政の計画を完成することなく、明治に至っていることや、江戸時代を通じてその屋敷地の数に大きな変化が見られないこと⁽¹⁾、また現在残されている絵図の屋敷割りにも大きな変化が見られないことから、ほぼ照政の時期の屋敷割りが近世を通じて幕末期まで残っていた可能性が高いものと考えられる。

名古屋城三の丸遺跡等の近世遺跡を見てみると、屋敷地の周囲に溝や柵、石垣等の遺構が確認されており、これらの構造物が隣の屋敷地との境を表していることが多い。近世城下町の町づくりには計画性を持った町割りが実施され、これらの屋敷地境はある程度の規則性が想定されてくる。本遺跡においても同様で、今回の調査で検出された外堀の持つ方向性が吉田城下町の町割りの鍵となっているようである。外堀は、N-9°-Eの方向性を示し、以前当センターにおいて調査を実施した豊橋警察署地点においても、検出された区画溝がN-8.5°-EやE-7°~12°-Wの方向性を示しており⁽²⁾、外堀の持つ方向性にほぼ一致していることが確認される。本遺跡においてもその方向性に一致する遺構としては、SD129・SD128・SD132・SD148・SD149・SA101・SA102・SA103、また、外堀の方向性に直交する遺構としては、SD102・SD120・SD133・SD134・SD109・SD178・SD180・SA104・SA105・SA106・SA107等多くの遺構があげられる。これらの溝や柵列はその規模や時期にばらつきが見られるが、これらによって区画された空間に、建物跡や井戸、土坑が展開する様相を伺うことができ、ある程度の屋敷地を想定することができるのではないだろうか。

ここで、7軒の屋敷地を想定してみたい。93年度調査区のSD129以西で3軒分、SD118以北の空間を屋敷地1、SD118・SD102に区画された空間を屋敷地2、SD102以南の空間を屋敷地3とする。また、SD129以東で4軒分、外堀の西側SD148・SA101とSD133及びSD134に囲まれる空間を屋敷地4、SD133及びSD134以南の空間を屋敷地5、外堀の東側SD178またはSD180以北の部分の空間を屋敷地6、SD178またはSD180以南の空間を屋敷地7として想定しておく。



第134図 屋敷地と主要遺構配置図 (1 : 600)

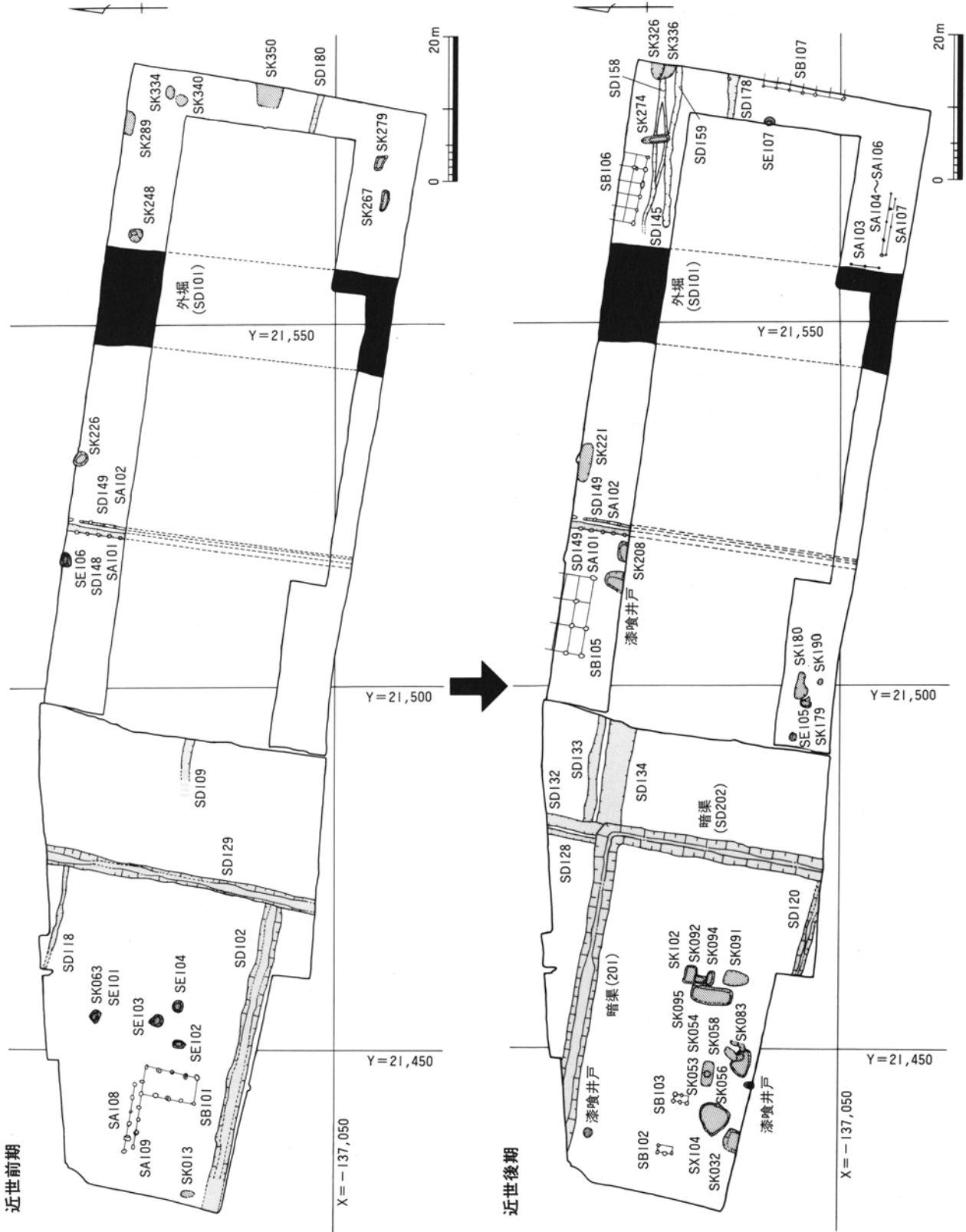
3. 屋敷地の変遷

前項で呈示した7軒の屋敷地のうち、屋敷地のほぼ全域を確認しているのは屋敷地2のみで、他の6軒の屋敷地についてはその背割り部分や屋敷地の一部を確認したのにとどまっている。また、これらの屋敷地については調査当初に絵図等から想定したもので確認はなく、今後変更される可能性がある部分が残されていることも予め断わっておきたい。遺構の重複等が影響しているため、順序を追って見ていきたい。出土遺物から、18世紀後葉までの近世前期、18世紀末～19世紀中葉までの近世後期の大きく2時期に分けてまとめておきたい。

まず、屋敷地1では、その大半は調査区外に展開しており極一部を検出するにとどまり、屋敷地に直接結び付くような遺構は確認されていない。屋敷地2との境としたSD118は、その規模等から明確に区画溝とは想定しにくい。そこで新たに区画溝として考えられる遺構として、暗渠がある。これが近世後期の区画溝であり、陸軍が再利用している可能性が高いものと考えられる。

屋敷地2では、ほぼその全域を検出することができた。SB101・SB102・SB103の建物跡やSA108・SA109の建物になりそうな柵列跡、SE101・SE103・SE104・SE102の井戸、SK092・SK094・SK095・SK102等の土坑が集中している。建物跡と考えられるSB101は、径・深さともにほぼ0.6m程の柱穴の中に根石と思われる拳大の河原石が検出されているが、礎石や柱根については確認されていない。また、建物跡と想定されるSA108・SA109における柱穴についても同様の状態であった。出土遺物はないために時期の決定は困難であるが、他にこれだけしっかりした柱穴を持つ建物跡が確認されていないこと、さらにその事業の規模から照政の時期（近世前期）が想定される。残るSB102・SB103については、ベース近くまで検出面を掘り下げたこともあり、ほぼ検出面直上で根石と思われる河原石の集石を検出している。2棟の建物とも1間×2間という小さなもので、特にSB102については北側の1間四方の中央部分で甕が埋設されていたことから便所跡と考えている。2棟の建物とも近世後期の遺構と想定される。井戸についても、ある程度限定された地域に3カ所集中して検出されている。4つの井戸とも、出土遺物から近世前期に属する遺構と考えられる。後期については、井戸が存在しないとは考えられず、暗渠の南に検出された漆喰の井戸が使われていた可能性があろう（明治期に廃絶）。土坑については、近世の遺構で前述したようにゴミ穴や廃棄土坑のような大型遺構が少なく、明確な時期の決定が難しいが、近世後期に属する土坑が多いように思われる。数少ないがSK005やSK013等の近世前期の遺構も見られるが、近世後期の土坑としてSK092・SK094・SK095・SK102やSK032・SK055・SK056のように、同じ所を何度も掘り返して廃棄している様子や屋敷地全体に土坑が展開している様子を伺うことができる。また、性格不明の遺構としてSX104があるが、池のような構造物が想定される。

これらを区画している溝であるSD129・SD102については、他の区画溝と異なりその規模は群を抜いている。2条の溝とも断面観察により、数回の掘り返しを受けていることが確認されている。出土遺物は非常に多く、その時代幅もかなり広いが、18世紀中葉～後葉までと考えている。近世前期の廃棄土坑等が見られないことから、日常のゴミや廃棄物がこれらの溝に捨てられたものと想定せざるを得ない。また、SD102が近世後期の遺構と思われるSK032やSK056等に切られていることから、19世紀には完全に埋設されていたことが確認された。では、江戸後期の区画溝はというと、SD129の東側



第135図 遺構変遷図 (1 : 750)

にある暗渠と SD128・SD132、SD102の南で検出された SD120が想定される。暗渠については前述の通りで、SD132と SD128は SD129・SD102に比べかなり小規模になり、短期間のうちに2～3回の掘り返しを受けていることが断面観察により確認されている。特に、SD120については、掘り形が他の区画溝と異なり断面V字形に近い形を呈している点が気かりである。攪乱による遺物の混じりがあるかも知れないが、土師質製品が多く明確な時期の決定が困難である。

屋敷地3も、屋敷地1と同様で屋敷地の背割りラインのみ確認されただけで、明確な遺構等は確認してはいない。

屋敷地4では、屋敷地の一部を確認している。SB104・SB105の建物跡やSD011の排水溝、SE106の井戸、SK208等の土坑が展開している。SB104はコの字状の浅い溝に数cm程の礫が敷き詰められたようなかたちで検出されている。土蔵のような建物を想定することができるが、出土遺物がなく時期の決定ができない。SB105では、2つの柱穴から柱根と根石が良好に残存していた。また、北壁にも柱穴が確認されており少なくとも2間×4間程の建物が存在していたことが確認された。時期は、SB104同様不明である。井戸であるSE106からは、近世陶磁器類等の遺物とともに大量の木製品が出土しており、井戸の廃絶とともに多くの遺物が廃棄されたことを示しているものと思われる。出土した木製品の中には、炭化した建築部材と思われる遺物が含まれており、火災により消失したものを一括投棄された可能性が高い。出土遺物から、18世紀前葉～中葉の時期が想定されることから、前述した建物はそれ以降の時期すなわち近世後期の遺構とも想定されるが、不明な点が多い。SK208は廃棄土坑、SD145は排水溝で、時期はともに19世紀中葉と思われる。

区画については、SD148とSA101が検出されている。前後関係は不明であるが、切り合い関係からSA101の方が新しいものと思われる。そのすぐ東側で検出されたSD149とSA102は、塀跡と想定され、武家屋敷地と外堀あるいは馬場や矢場とを区画するための施設ではないだろうか。屋敷地5との境であるが、近世前期がSD109、近世後期がSD133とSD134と想定され、後期の2条の溝については、前述したSD128やSD132と同様の結果を得ている。

屋敷地5についても、屋敷地の一部を確認している。攪乱がかなり激しいために大半を喪失していたが、その中からSE105の井戸、SK178やSK180等の廃棄土坑、その他にも埋襲遺構が検出されており、人々が生活していた痕跡が確認されたことから屋敷地を想定している。どの遺構も出土遺物から19世紀前葉～中葉の時期が想定され、近世後期に属する遺構群である。屋敷地を区画する溝等は確認されていないが、屋敷地4で確認されたSD148・SA101・SD149・SA102等が屋敷地5にも存在したものである。

屋敷地6でも、屋敷地の一部が確認された。建物跡であるSB106、井戸と想定されるSK289、廃棄土坑であるSK326・SK334・SK336等、瓦溜り土坑であるSK274、排水溝であるSD158・SD159・SD166が展開している。SB106では、全ての柱穴において根石が確認されており、建物自体は調査区外北側に展開するものと思われるが、時期は不明である。この区画内においては明確な井戸は検出されていないが、SK289が井戸である可能性が高い。また、SK248やSK340等の他の区画では見られない大型土坑が確認されている。SK289・SK248・SK340ともに、出土遺物より近世前期の遺構と考えられる。さらに、本遺跡で唯一瓦溜り遺構であるSK274が確認されており、近世後期に属する遺構と思われる。



第136図 「吉田藩土屋敷図」(「吉田城遺跡」より転載、一部修正)

他に、SK326・SK334・SK336等の廃棄土坑も検出されている。

屋敷地7でも、屋敷地の一部を確認している。SB107の礎石建物跡、SE107の井戸、SK267やSK279等の廃棄土坑が検出されている。SB107では、調査区東端において6つの礎石が確認されており、建物の主体は調査区外の東側に展開しているものと思われるが、時期は不明である。井戸であるSE107では、常滑の赤物が井戸枠に利用されており、江戸後期に属する。廃棄土坑と思われるSK267・SK279等では、遺物とともに大量の礫が出土しており、江戸前期に属する遺構が多い。

屋敷地6・屋敷地7を区画する遺構として、SD178とSD180が想定される。建物跡や井戸等の位置関係からSD178が近世後期の区画溝として想定できるが、SD180が近世前期の区画溝として断定できる資料は得られていない。また、SA105～SA107についても明確な時期は不明である。

4. 屋敷地の居住者

今回の調査においてほぼ7軒の屋敷地を確認したわけであるが、これが吉田城下町のどこに位置していたのであろうか。川井氏により現在の地図と「三州吉田城図」との照合がなされており⁽³⁾、これによれば今回検出された外堀が二重の堀の内側に当り、その周囲の武家屋敷であることが理解される(第136図のアミフセ部分が今回の調査地点)。

では、誰が住んでいたのであろうか。数十点現存している絵図の中で、居住者の氏名が書かれている絵図は意外と少なく、確認しているだけで4点のみ⁽⁴⁾である。4枚の絵図ともに吉田藩最後の大河内松平家の家臣と考えられ、絵図で居住者の氏名を確認し、それを「従古代役人以上寄帳」⁽⁵⁾・「吉田藩分限帳」⁽⁶⁾を基にして確認していった。年代のわかっている絵図は、「仮吉田城図」(深井正敏氏蔵)の文化5年(1822)の銘のある絵図と、「吉田藩士屋敷図」(豊橋市美術博物館所蔵)の天保6年(1835)～嘉永2年(1849)⁽⁷⁾の2点である。「吉田御城内惣絵図」(愛知大学総合郷土研究所所蔵)は、屋敷地の面積が他の3枚の絵図と異なっている点や居住者の氏名から、正徳2年(1712)～享保14年(1729)を描いたもの⁽⁸⁾と判断した。また、「吉田藩士屋敷図」(深井正敏氏蔵)については、居住者の氏名から最も新しいもので、幕末期頃を描いているものと判断している⁽⁹⁾。

絵図以外として「吉田藩元禄役寄帳」(橋良文庫)⁽¹⁰⁾があり、元禄10年(1697)に小笠原家から久世家へ引渡しの際の資料である。役職・石高の確認できたものをある程度まとめたものが第23表であるが、やはり収入の割には屋敷地がかなり広いことが読み取れ、照政の町割りが幕末期まである程度存続していたことが改めて確認された。

5. おわりに

以上、大まかに屋敷地の変遷や居住者について確認してきた。遺構の方からほぼ18世紀後葉～末頃に屋敷割りに変化がみられている。しかし、これが大規模な変化ではなくこれまでの区画に添う形で行われているのである。この時期には、火災や地震の記録の記録が残されており、何等かの形で影響しているのかも知れないが、明確には捉えることができなかった。他の地点における発掘調査等による成果を期待したい。

	屋敷地 1	屋敷地 2	屋敷地 3	屋敷地 4	屋敷地 5	屋敷地 6	屋敷地 7	
「吉田藩 元禄役寄帳」 元禄10年(1697) <橋良文庫蔵> 上段：小笠原家 下段：久世家	高原作十郎	—	—	黒岩傳八	合沢忠助 片岡茂左衛門	牧野甚五兵衛	渡部十右衛門	
	下枝吉太夫 *御鑓大将 200石	—	—	市川勘助 *御武具奉行 40俵	鳥山又藏 *御武具奉行 40俵	伊藤官兵衛 *御広間番 100石	佐藤武右衛門 *御広間番 150石	
「吉田御城内 惣絵図」 <愛知大学総合 郷土研究所蔵> 正徳2(1712) ~享保14(1729)	加治藤左衛門 *4代季伴 ◎正徳3(1713) 使番 300石 ◎正徳4(1714) 者頭 300石 ◎享保3(1718) 奏者番 300石 ◎享保8(1723) 兼旗奉行 300石 ◎享保8(1723) 用人 300石 ○奥勤 50石	—	—	—	—	—	—	
	990坪5分5厘	411坪4分6厘 8毛	382坪8分7厘 7毛	477坪7分5厘	417坪5厘5毛	348坪8分8厘 8毛	352坪5分7厘	
「仮吉田城図 文化5(1822)」 <深井正敏氏 所蔵> 文化5(1822)か	倉垣 *源左衛門 3代長世 ◎慶応4(1868) 中老之通 230石 ◎年月不明 小姓頭 230石 ◎安政3(1856) 用人 230石 ◎安政3(1856) 用人拵 230石 ◎嘉永4(1851) 奏者番 230石 ◎安政3(1856) 者頭 230石 ○惣奉行御用 人拵 150石2人扶持 △用人 230石 *主鈴	野呂 *千之助 8代一載 ◎慶応2(1866) 新居目付 70石 ----- *新蔵 6代一貫 ◎天保3(1832) 鑓奉行 使番拵 70石5人扶持 ◎文化7(1824) 兼新居普請 奉行 70石5人扶持 ◎文化7(1824) 新居目付 70石5人扶持	川野 *六右衛門 *7代堯生 ◎慶応3(1867) 使番 80石2人扶持 ◎慶応2(1866) 目付 80石2人扶持 ----- *6代政治 ◎天保12(1841) 鑓奉行 使番拵 70石3人扶持 ◎天保5(1834) 用役 使番拵 70石3人扶持 ◎天保2(1831) 使番 70石3人扶持 ◎文政6(1823) 鑓奉行・使 番拵 70石 ◎享和2(1802) 用役見習 目付拵 70石 ○御目付 70石2人扶持 △馬廻 70石	若原 *源之助 不詳正行 ◎元治元(1864) 勝手掛 目付拵 60石4人扶持 ◎元治元(1864) 勘定奉行 目付拵 60石4人扶持 △大納戸 60石	中根 *多米次 5代正巳 ◎文化6(1809) 兼勝手掛 50石2人扶持 ◎文化6(1809) 兼普請奉行 使番拵 50石2人扶持 ◎享和元(1801) 勘定奉行 目付拵 50石2人扶持 御中小姓 60石	室賀 *五左衛門 6代正賀 ◎慶応4(1868) 城番者頭 60石8人扶持 ◎慶応2(1866) 高足軽頭 60石8人扶持 ◎安政3(1856) 目付 60石4人扶持 ◎天保2(1831) 目付 60石5人扶持 ○目付 60石	能勢 *清太夫 7代最正 ◎安政5(1858) 目付 60石4人扶持 ----- *栄之進 6代最正 ◎弘化3(1846) 町奉行 60石9人扶持 ◎弘化3(1846) 兼郡奉行 60石9人扶持 ◎天保11(1840) 目付 50石5人扶持 ○清太夫 目付 60石	
	○惣奉行御用 人拵 150石2人扶持 △用人 230石 *主鈴	◎嘉永4(1851) 奏者番 230石 ◎安政3(1856) 者頭 230石	◎天保5(1834) 用役 使番拵 70石3人扶持 ◎天保2(1831) 使番 70石3人扶持 ◎文政6(1823) 鑓奉行・使 番拵 70石 ◎享和2(1802) 用役見習 目付拵 70石	◎天保5(1834) 用役 使番拵 70石3人扶持 ◎天保2(1831) 使番 70石3人扶持 ◎文政6(1823) 鑓奉行・使 番拵 70石 ◎享和2(1802) 用役見習 目付拵 70石	◎元治元(1864) 勘定奉行 目付拵 60石4人扶持	◎享和元(1801) 勘定奉行 目付拵 50石2人扶持	◎天保2(1831) 目付 60石5人扶持	◎天保11(1840) 目付 50石5人扶持
	◎安政3(1856) 者頭 230石	◎天保3(1832) 鑓奉行 使番拵 70石5人扶持 ◎文化7(1824) 兼新居普請 奉行 70石5人扶持 ◎文化7(1824) 新居目付 70石5人扶持	◎慶応3(1867) 使番 80石2人扶持 ◎慶応2(1866) 目付 80石2人扶持	◎天保5(1834) 用役 使番拵 70石3人扶持 ◎天保2(1831) 使番 70石3人扶持 ◎文政6(1823) 鑓奉行・使 番拵 70石 ◎享和2(1802) 用役見習 目付拵 70石	◎元治元(1864) 勘定奉行 目付拵 60石4人扶持	◎享和元(1801) 勘定奉行 目付拵 50石2人扶持	◎天保2(1831) 目付 60石5人扶持	◎天保11(1840) 目付 50石5人扶持
	◎安政3(1856) 者頭 230石	◎天保3(1832) 鑓奉行 使番拵 70石5人扶持 ◎文化7(1824) 兼新居普請 奉行 70石5人扶持 ◎文化7(1824) 新居目付 70石5人扶持	◎慶応3(1867) 使番 80石2人扶持 ◎慶応2(1866) 目付 80石2人扶持	◎天保5(1834) 用役 使番拵 70石3人扶持 ◎天保2(1831) 使番 70石3人扶持 ◎文政6(1823) 鑓奉行・使 番拵 70石 ◎享和2(1802) 用役見習 目付拵 70石	◎元治元(1864) 勘定奉行 目付拵 60石4人扶持	◎享和元(1801) 勘定奉行 目付拵 50石2人扶持	◎天保2(1831) 目付 60石5人扶持	◎天保11(1840) 目付 50石5人扶持

【参考文献】

- 豊橋市史編集委員会 『豊橋市史 第4巻 史料編 近世』
 * 「従古代役人以上寄帳」
 ◎ 「吉田藩分限帳」 安永9年(1780)
 ○ 「吉田藩分限帳 上巻」 安政6年(1859) 吉田・新居・大津分
 △ 「吉田藩分限帳 下巻」 嘉永7年(1854) 江戸分

第23表 各屋敷地居住者の変遷

第2節 吉田城遺跡における近世陶磁器類の組成と他遺跡との比較

1. はじめに

本報告書においては、出土した近世陶磁器類や土器の用途組成や材質組成を中心にまとめてきた。ただし、近世陶磁器類の分類や集計、統計処理の方法等、各報告書において異なっており、統一的なものが確立されていないのが現状である。これをどのように統一させていくのか、まだまだ多くの課題が残されているものと思われる。

今回ここで取り上げるのは、用途別の分類による統計処理を実施している愛知県内の3つの近世遺跡における用途組成・材質組成を紹介し、本遺跡と比較することによって今回得られたものが近世陶磁器類の平均的なものであるのか、地域的な差異が見られるものなのかということを確認してみたいと思う。ただし、出土遺物の絶対量が根本的に異なっていることを無視しており、単なる割合でしか比較できていないことを予め断わっておきたい。

2. 比較方法

これから見ていく4つの遺跡ともに用途による近世陶磁器類の分類を実施し、器形よりも使用痕を重視した集計を実施している。しかし、本遺跡と同様の分類を行っている遺跡としては外町遺跡のみで、名古屋城三の丸遺跡については家庭・簡易裁判所地点と県警本部地点の2遺跡についてもやや異なっている。そのあたりをやや修正する必要があるので、ここで簡単にまとめておきたい。

名古屋城三の丸遺跡（家庭・簡易裁判所地点）においては、用途により9つに分類されているが、天目茶椀が喫茶具として独立させ、土師器皿が灯火具に、喫煙具・調度具がその他に集計されている点である。天目茶椀については供膳具に加算し直している。名古屋城三の丸遺跡（県警本部地点）においては、分類・統計方法ともに参考にさせていただいているので大差はないが、土師器皿がすべて灯火具に集計されている。また、水注・水滴・土錘が分類には含まれていない点もあげられる。外町遺跡・吉田城遺跡については、名古屋城三の丸遺跡と異なり土師器皿は口縁部に油煙が付着していない限り供膳具の皿類に分類しているため、灯火具に集計し直す必要があろう。そのあたりを注意して図化したものが第137図～第145図、第32表～第37表、第40表～第42表である。

3. 吉田城遺跡

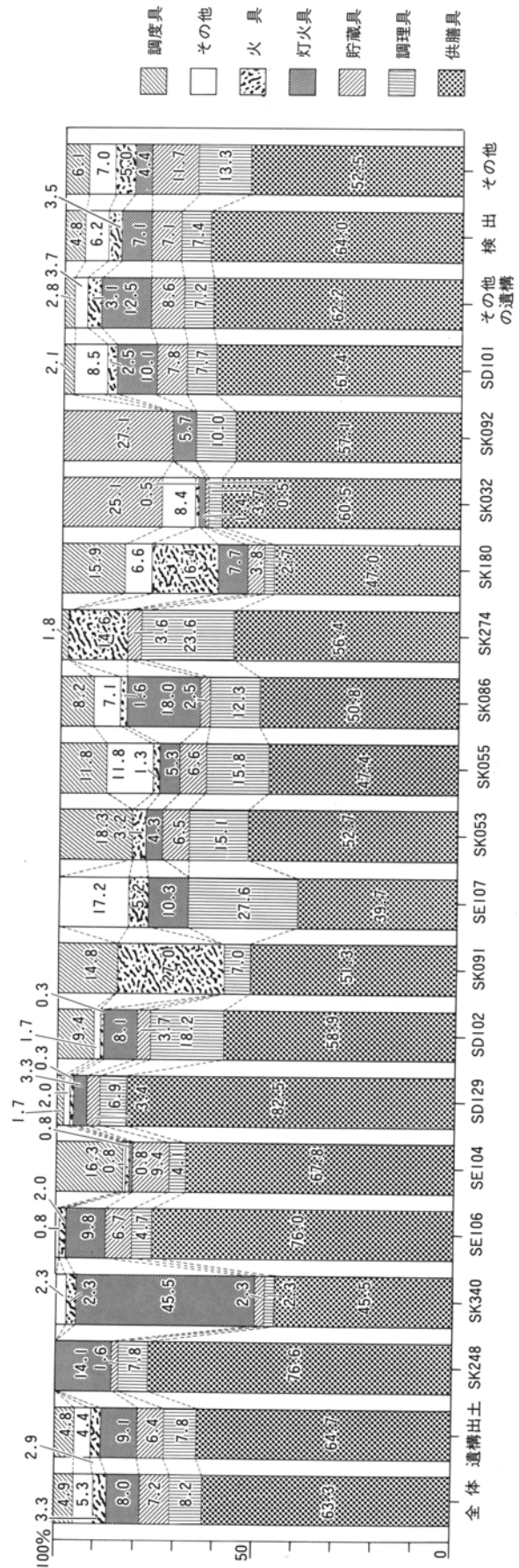
第IV章の近世の遺物で述べたように、出土遺物が多く明確な時期を決定できる遺構はほとんどなく、比較資料としては良好とは言えない。これまでに提示してきた出土陶磁器類の用途組成図と材質組成（ともに接合後の口縁残存率）に、新たに比較的出土遺物が多く時期のある程度おさえられる遺構であるSK248・SK340・SK274・SK053・SK055・SK086・SK091を加えてまとめ直したものが第137図・第139図である。そのため、その他の遺構については、SK248等の7遺構を引き集計し直してあるので、本文編とは異なっているので注意されたい。なお、比較検討のために土師器皿を灯火具として集

計し直したものが、第138図である。

本遺跡より出土した全近世陶磁器類は、総破片数で56,271点に及び、接合前口縁破片数は16,496点、推定個体数では1,292.83個体となっている。全体とは、本遺跡より出土した全陶磁器類の合計であり、本遺跡における近世陶磁器類のあり方の平均値として考えておきたい。各遺構の時期は、SK248が17世紀前葉、SK340が17世紀末葉～18世紀前葉、SE106・SE104が18世紀前葉～中葉、SD129・SD102が18世紀中葉～後葉、SK091が19世紀前葉、SK053・SK032・SK086・SE107が19世紀前葉～中葉、SK274・SK180・SK055・SK092が19世紀中葉、SD101は19世紀中葉までである。概ねSK248が17世紀代、SK340～SD102が18世紀代、SK081～SK092が19世紀代の様相を示しているものと思われる。ただしSD101は19世紀中葉までということであるが、全体または遺構出土に近いものと考えられる。また、遺構出土合計・その他の遺構合計・検出合計・その他合計も参考資料としてあげてある。なお、ここでは接合後口縁残存率(切り捨て)を利用している。以下、用途組成・材質組成について見ていくが、絶対量については考慮には入っていない。

用途組成については、供膳具が63.3%と大半を占めており、供膳具・調理具・貯蔵具等の日常的な生活に関連する遺物群が78.6%と全出土陶磁器類の4分の3以上を占めている。これに対して、灯火具・火具は11.2%、化粧具・神仏具・喫煙具等の副次的な生活に関連する遺物群は5.3%と少なく、調度具は4.9%を占めるにとどまっている。

個別に見てみると、供膳具は50～60%前後とほぼ安定した出土率を表している。しかし、SE106・SE104・SD129の3遺構については、

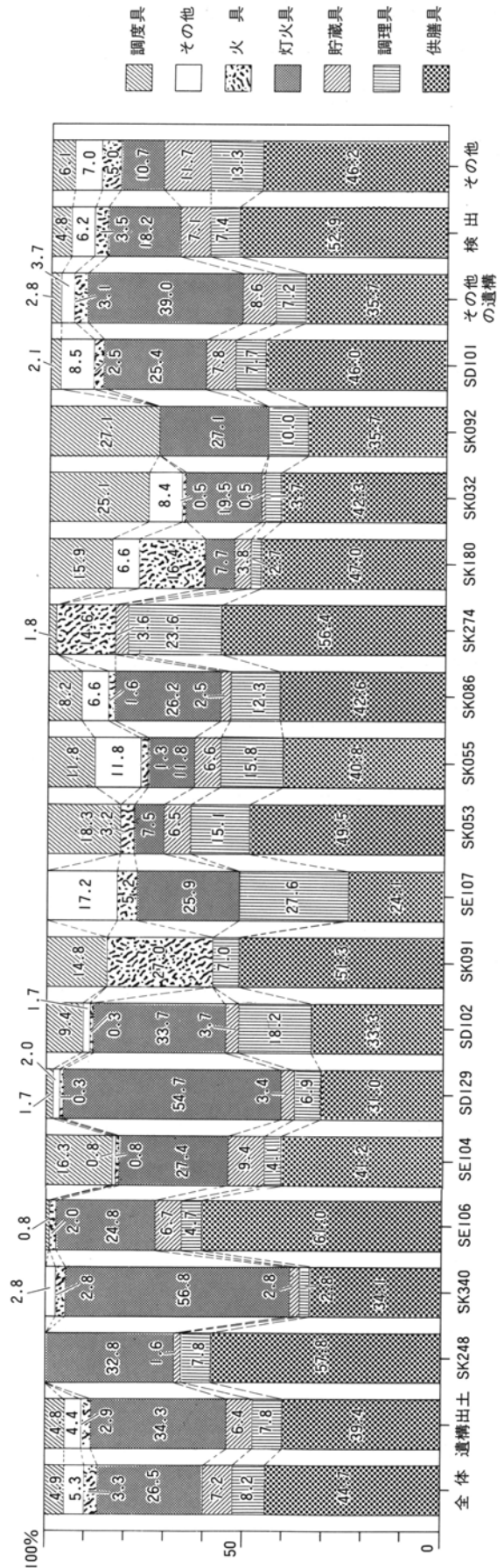


第137図 吉田城遺跡出土近世陶磁器類の用途組成

70~80%とかなり高い占有率を示している。これが年代的な差異に基づいているのか、または廃棄の仕方に差異が見られるものであるのかは、明らかにはできなかった。調理具についてもややばらつきは見られるが、年代が下がるに従い増加する傾向にある。貯蔵具も同様であるが、18世紀代にピークが見られ、19世紀には減少している。灯火具については、資料数が少ないため正確なことは言えないが、17世紀~18世紀前葉または中葉までは高い比率を示すが、それ以後は10%またはそれ以下と急速に減少している。火具については、19世紀に入り出土が目立ってくる。化粧具・神仏具・喫煙具についても、火具同様に19世紀以後の出土率が增大している。調度具については、遺構によるばらつきがかなり見られることもあり、それぞれの遺構の持つ性格によるところが多いとは思うが、18世紀以降の増加傾向を指摘することができよう。

また、土師器皿を灯火具として集計し直してみると、全体で供膳具が44.7%と減少し、灯火具が26.5%に増加して、それぞれの占有率に約20%前後の変化が見られ、他の近世遺跡とよく似た数値を示すこととなる。しかし、供膳具の出土率の安定、灯火具の減少傾向という用途組成の変化については、前述した通りである。

また、材質面において見てみると、全体で土師質製品が24.2%、陶器製品が39.7%、磁器製品が35.2%、その他の材質とした軟質陶器や瓦質製品が1.0%となっている。他の近世遺跡と比較しても、陶器製品の比率が低く、磁器製品の比率が極端に高くなっていることが確認される。これがこの地点だけの特徴であるのか、または吉田城遺跡全体のものであるのか、あるいはこれまでに提示された名古屋

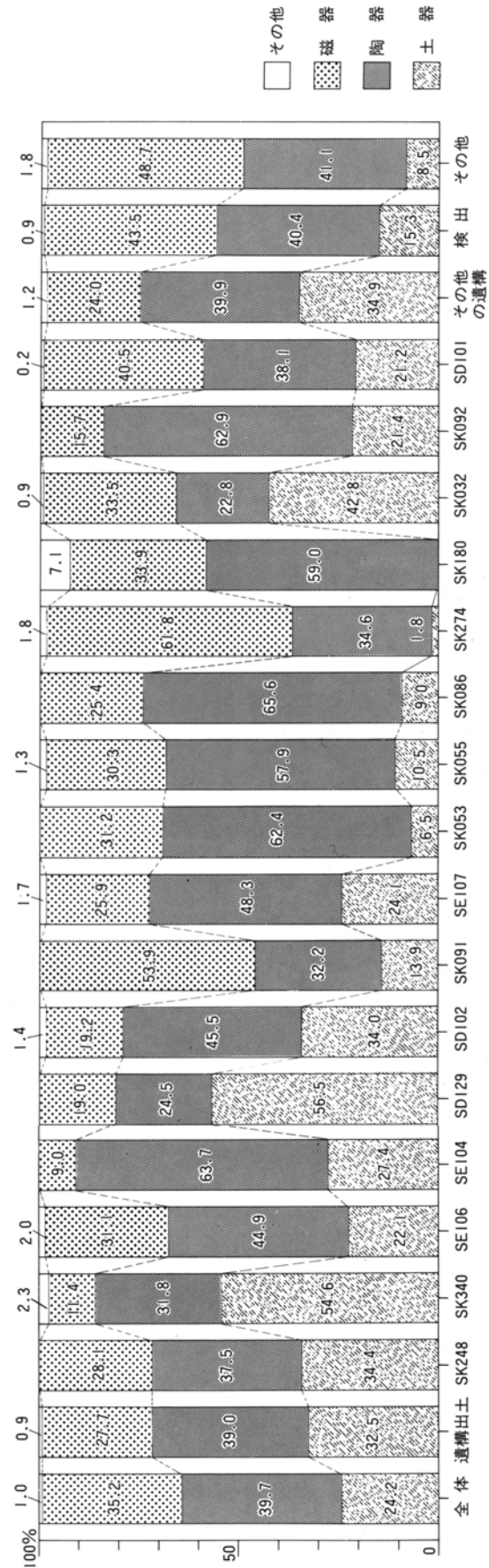


第138図 吉田城遺跡出土近世陶磁器類の用途組成 2

屋城三の丸遺跡等の尾張とは違う三河地域全体の様相であるのか、あるいは単に時期的な差異に由来しているのかは明らかにすることはできていない。

1つ興味深い資料として、前山博氏により天保6年(1835)の「伊万里津積出陶器荷高国分」という史料が紹介されている⁽¹¹⁾。これによれば、尾張には1,500俵に対し三河には4,000俵と示されており、三河地方には肥前産の陶磁器類が尾張の2.7倍運ばれていたことがわかる。これが直接本遺跡における磁器製品の出土の多さに影響していたとは言及できないが、興味深い資料なのでここで紹介しておきたい。

個別に見ておくと、土師質製品は18世紀後葉までをピークとして、それ以後は減少傾向が見られるが、名古屋城三の丸遺跡で見られる程の急激な減少ではないようである。ただし、SK055・SK092が高い比率を示しているが、これは土師器皿と土錘が集中して出土していることが影響しているのであろう。陶器製品は、SE104・SK032・SK086・SK180のように50~60%と高い比率を占める遺構も見られるが、全体的にはほぼ40%前後で安定している。磁器製品では、やや遺構によるばらつきはあるが、19世紀以降急増しているようである。これは、瀬戸での新製焼(磁器生産)の開始に影響している可能性が高いと思われるが、その出土量は余り多くないように感じられる。特に、供膳具における磁器製品の割合が高いことがあげられよう。その他の材質の製品についても、19世紀以降増加傾向にあることも確認されている。



第139図 吉田城遺跡出土近世陶磁器類の材質組成

4. 名古屋城三の丸遺跡（家庭・簡易裁判所地点）

名古屋城三の丸遺跡は、名古屋市中区三の丸に所在する古代から近世にかけての複合遺跡である。名古屋城は御三家の1つ尾張徳川家62万石の居城として有名ではあるが、三の丸廓内は一大官庁街に変貌しており、遺跡としては疑問視されていた。しかし、名古屋市教育委員会が行った試掘調査により近世の遺構・遺物が確認されたことにより、名古屋城の内堀と外堀に囲まれた地域が名古屋城三の丸遺跡として認定されたのである。名古屋市家庭・簡易裁判所地点は、外堀のすぐ北側に位置し、4軒の武家屋敷を確認している。

名古屋城三の丸遺跡（家庭・簡易裁判所地点）においては、遺跡より出土した全陶磁器類の集計まではなされておらず、16の遺構のみ用途・材質・産地別に集計されている。そこで、提示された16遺構の合計を、裁判所地点における平均と想定したい。16遺構で、2,095.9個体が出土している。近世の上級武士階級の資料として注目される。報告書に掲載されている用途組成・材質組成を、前述の通り修正してまとめて図化したものが第140図と第141図である。各遺構の時期は、SK033・SK075はほぼ17世紀中葉～後半、SK080・SK149・SD008・SD012・SX004が17世紀中葉～末、SK052・SK078が17世紀末～18世紀前半、SK144・SK135が18世紀前半～中葉、SK084・SK136・SK145が18世紀末～19世紀初頭、SD003・SK056が19世紀初頭～幕末期となる。ただし、SK136・SK145は、植木鉢が埋められた特殊な遺構であることを予め断わっておく。概ねSK033～SX004が17世紀代、SK052～SK135が18世紀代、SK084～SK056が19世紀代の様相を示していることとなる。なお、ここでは推定個体数(小数点以下第二位を四捨五入)を利用している。また、絶対量については考慮していない。

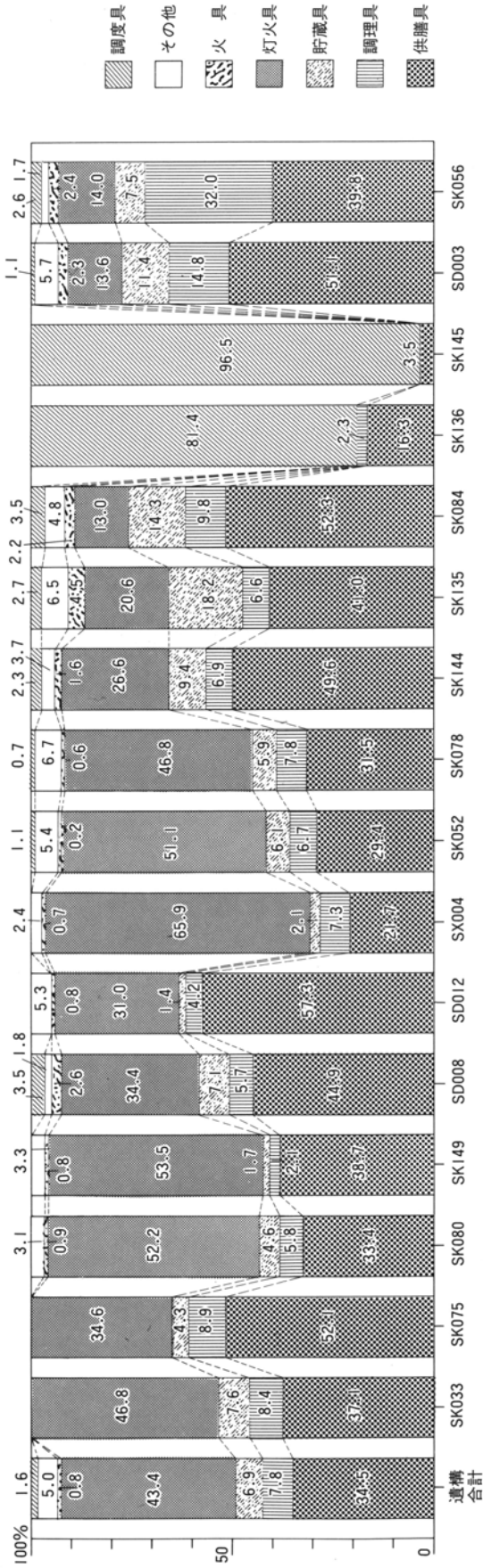
用途組成については、供膳具・調理具・貯蔵具等の日常的な生活に関連する遺物群が半数を占め、灯火具が40%程、火具や副次的な生活に関連する遺物群である化粧具・神仏具等の出土量は10%以下である。まず、灯火具の占有率が目につく。18世紀中葉までは40%以上を占め、以後急激な減少傾向を示している。供膳具はほぼ40%前後を推移し、安定した出土量を示しているようである。調理具・貯蔵具等も10%以下であるが、18世紀後半以降増加傾向を示している。その他の化粧具・神仏具等についても18世紀後半以降増大する傾向が伺われる。

材質面については、遺構全体で土師質製品が47.7%、陶器製品が37.1%、磁器製品が15.1%、その他の材質とした軟質陶器や瓦質製品が0.1%となっている。特に、土師質製品の変化が目立っている。17世紀代～18世紀前葉にかけては30～40%を占めていたものが、18世紀中葉以後減少傾向に転じ、19世紀代には10%前後にまでに大きく落ち込んでいる。陶器製品については、17世紀後葉に一時的に30%程に減少しているが、ほぼ40～50%台と安定して出土しているが、19世紀にはやや減少しているようにも思われる。磁器製品については、ほぼ10%台と安定した出土をしているが、19世紀に入り20%にまで増加している。磁器製品が増加した分、陶器製品が減少しているようである。

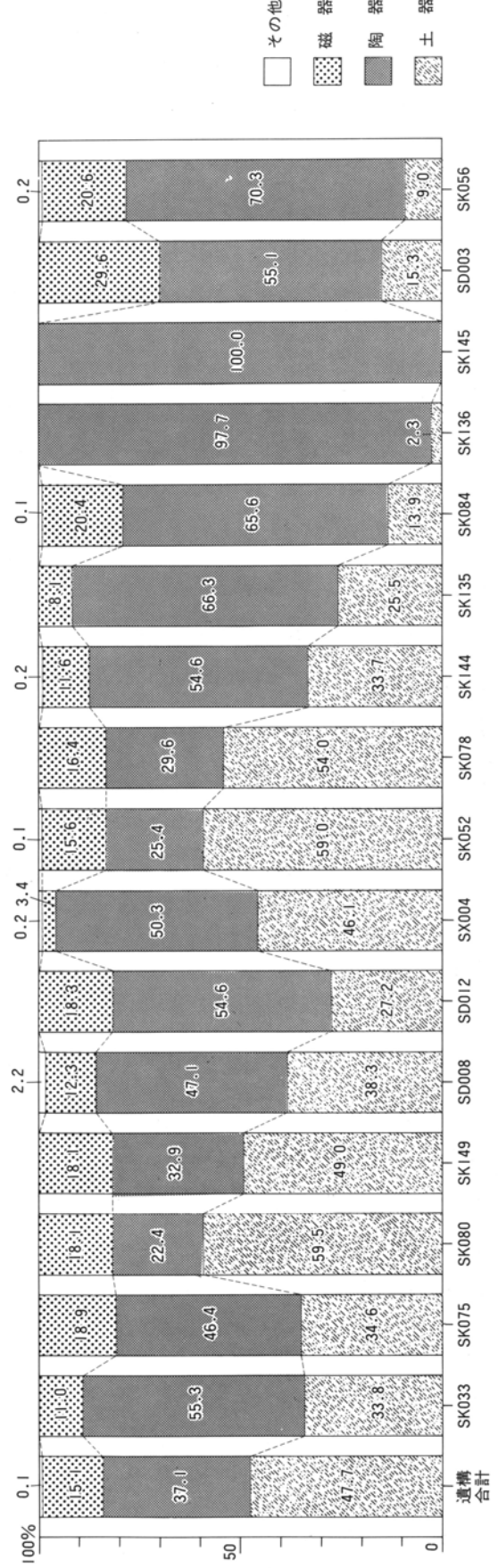
<参考文献>

(財)愛知県埋蔵文化財センター 『名古屋城三の丸遺跡III』 1992

金子健一 「名古屋城三の丸遺跡にみる陶磁器・土器の組成と灯火具の変遷について」 『(財)瀬戸市埋蔵文化財センター 研究紀要 第1輯』 (財)瀬戸市埋蔵文化財センター 1993



第140図 名古屋城三の丸遺跡（家庭・簡易裁判所地点）出土陶磁器類の用途組成



第141図 名古屋城三の丸遺跡（家庭・簡易裁判所地点）出土陶磁器類の材質組成

5. 名古屋城三の丸遺跡（県警本部地点）

名古屋城三の丸遺跡については、前述の通りである。県警本部地点は、二の丸の正面に位置し西側には大手筋である大名小路が通る等、三の丸内でも重要な場所にあたり、3軒の武家屋敷が検出されている。北半には幕府から藩に直接付けられた御付家老である竹腰氏（美濃今尾領主・3万石）、南西端には家老職級の家臣である山澄氏（4千石）、南東端には物頭以上に属する熊谷氏（6百石）の拝領屋敷となっている。

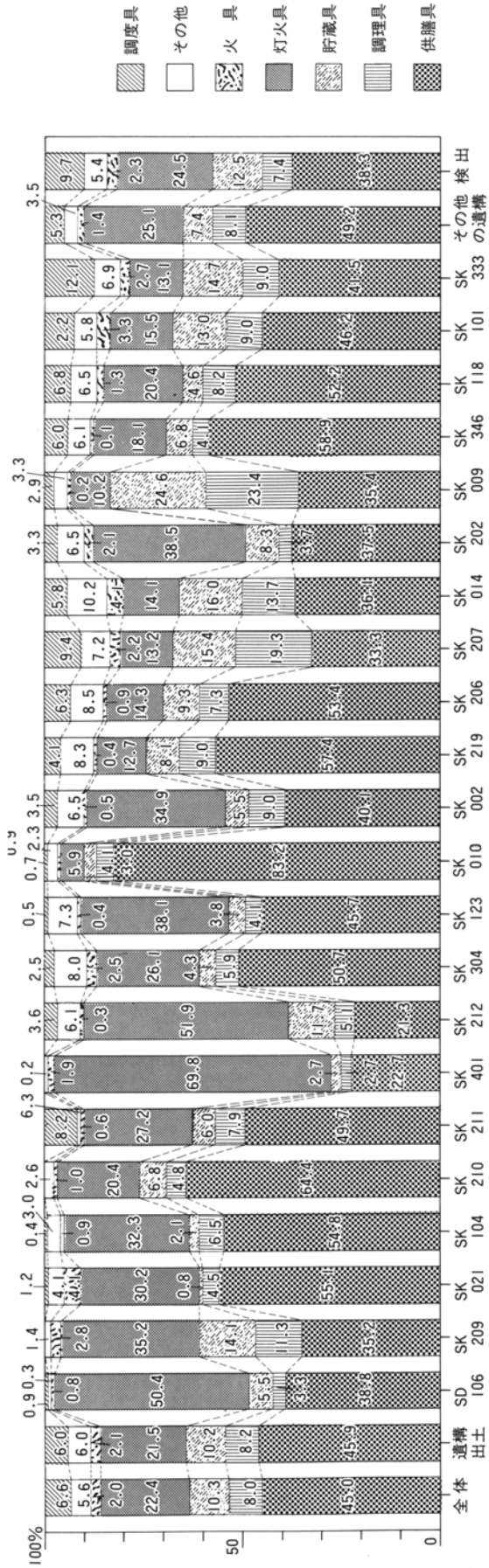
名古屋城三の丸遺跡（県警本部地点）において出土した近世陶磁器類は、接合前口縁破片数で37,179点、総個体数は3,686.50個体である。総破片数については集計されていない。報告書に掲載されている用途組成・材質組成をまとめて図化したものが、第142図と第143図である。全体とは県警本部地点で出土した全近世陶磁器類の合計であり、県警本部地点における平均値として捉えている。各遺構の時期は、SD106が17世紀第3四半期～18世紀前葉、SK209・SK021が17世紀末、SD104・SK210・SK211・SK401が17世紀第3四半期、SK212が18世紀後葉～19世紀初頭、SK304が18世紀前葉、SK123が18世紀中葉～19世紀初頭、SK010が19世紀前葉、SK002が18世紀後葉～19世紀初頭、SK219・SK206が18世紀中葉～後葉、SK207が18世紀末～19世紀初頭、SK014・SK202・SK009が19世紀前葉、SK346が18世紀後葉～19世紀前葉、SK118が19世紀前葉～中葉、SK101・SK333が19世紀中葉である。遺構の存続期間まで含めて考えると、SD106～SK401までが17世紀代、SK212～SK206が18世紀代、SK207～SK333が19世紀代となる。また、遺構出土・その他の遺構・検出合計については参考資料としてあげておく。なお、ここでは接合後口縁接合率（切り捨て）を利用している。また、絶対量については考慮していない。

用途組成については、供膳具が45.0%を占めており、次いで灯火具が22.4%となっている。やはり、供膳具・調理具・貯蔵具等の日常的な生活に関連する遺物群が63.3%を占めており、灯火具・火具を含めると87.8%と大半を占めることとなる。これに対し、副次的な生活に関連する遺物群である化粧具・神仏具・喫煙具については5.6%、調度具は6.6%に過ぎず、合わせても12.2%にすぎない。個々に見てみると、供膳具はほぼ安定した出土量を示し、調理具・貯蔵具は増加傾向を示し18世紀後葉にピークが認められる。灯火具・火具は18世紀代まで多いが、19世紀に入り減少している。化粧具・神仏具・喫煙具は遺構によりかなりばらつきが見られるが、19世紀に入り増加する傾向にあるように思われる。調度具については、年代を下るに従って増加傾向を示しているようである。

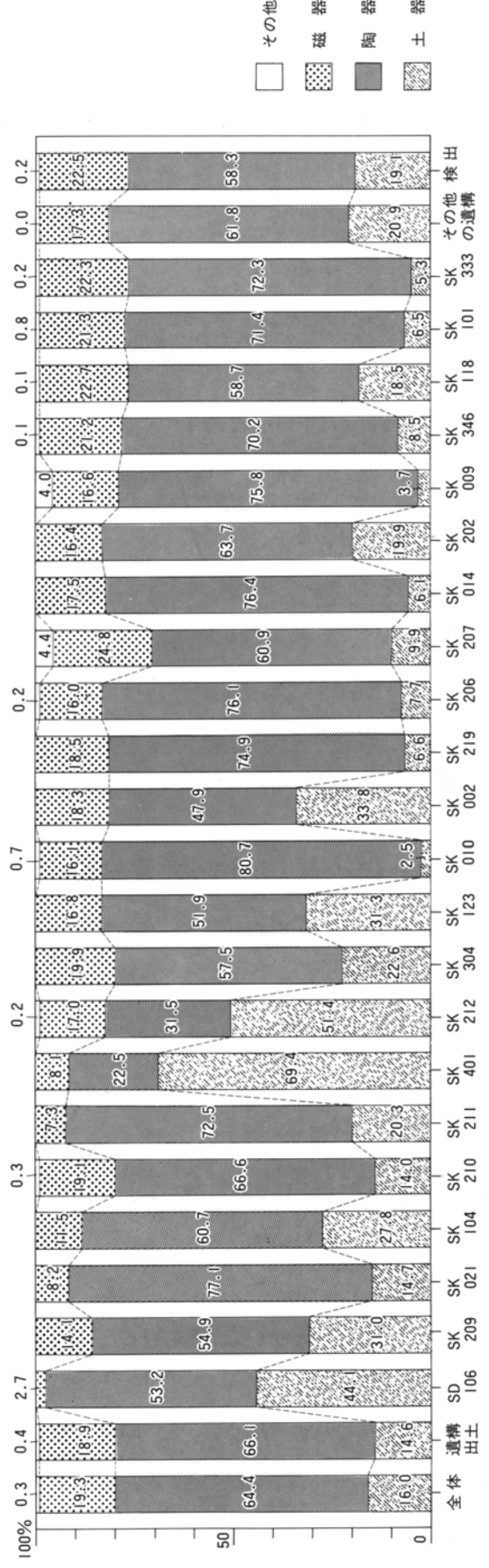
材質面について見てみると、全体では土師質製品が16.0%、陶器製品が64.4%、磁器製品が19.3%、その他の材質とした軟質陶器や瓦質製品が0.3%となっている。土師質製品は、17世紀代～18世紀中葉までは30～40%を占めているが、18世紀後半には10%台、19世紀には数%と確実に減少傾向を示している。陶器製品は、17世紀後半に一時的に減少するが、ほぼ安定した出土量を示している。磁器製品は、17・18世紀ともに10%前後から15%前後、さらに19世紀に入り約20%以上へと増加する傾向を読み取ることができる。

<参考文献>

(財) 愛知県埋蔵文化財センター 『名古屋城三の丸遺跡Ⅳ』 1993



第142図 名古屋城三の丸遺跡 (県警本部地点) 出土陶磁器類の用途組成



第143図 名古屋城三の丸遺跡 (県警本部地点) 出土陶磁器類の材質組成

6. 外町遺跡

外町遺跡とは、西春日井郡清洲町・新川町に所在する江戸時代を中心とした遺跡である。織田信長の居城として知られる清須城とその城下町は、外町遺跡のすぐ北側に位置している。その城下町は、この地方の中心都市として機能し、慶長年間の「清須越し」の時期には人口数万を擁した全国でも有数の城下町となっていた。城下町期の後期には城郭が拡張され、城郭の外郭に外町が形成されている。「清須越し」以後は、美濃街道沿いの「清須宿」と農村へと変化したのである。

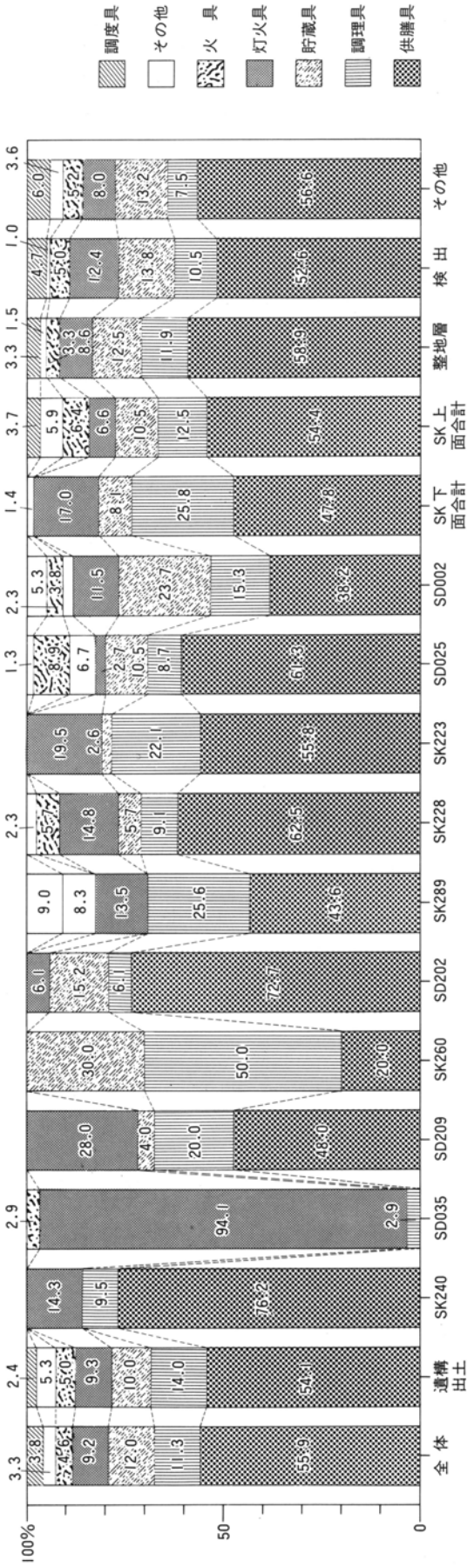
外町遺跡より出土した全近世陶磁器類は、総破片数で34,633点、接合前口縁破片数は9,488点、総個体数は688.75個体である。数量的には少量ではあるが、数少ない近世における町屋或は農村における資料として注目される。報告書に掲載されている用途組成・材質組成を、修正してまとめて図化したものが第144図と第145図である。全体とは外町遺跡から出土した全陶磁器類の合計であり、本遺跡における平均値として捉えておく。SK 合計と整地層は18世紀代と19世紀代の資料としてあげてある。各遺構の時期は、SK240が16世紀末～17世紀初頭、SD035が17世紀初頭、SD209が17世紀中葉、SK260が17世紀末～18世紀初頭、SD202が18世紀後葉、SK289が18世紀後葉～末、SK228・SK223が18世紀末、SD025・SD002が19世紀中葉である。ほぼSK240～SD209は17世紀代、SK260～SK289とSK（下面）合計は18世紀代、SK228～SD002とSK（上面）合計、整地層が19世紀代の様相を示しているものと考えられる。また、検出合計・その他合計は参考資料としてあげてある。なお、ここでは接合後口縁存率（切り捨て）を利用しているが、絶対量については考慮に入れていない。

まず、用途組成については、全体では供膳具の占める割合が55.8%と圧倒的に多く、供膳具・調理具・貯蔵具という日常的な生活に関連する遺物群が79.4%を占めている。さらに、灯火具・火具の占める割合が13.8%、化粧具・神仏具・喫煙具等の副次的な生活に関連する遺物群が3.3%、調度具が3.8%を占めている。これまでの吉田城遺跡や名古屋城三の丸遺跡と比較してみると、供膳具や調理具・貯蔵具等の日常的な生活に関連する遺構群の占める割合が高いように思われる。灯火具については、遺構によりばらつきがみられるが、18世紀代には10%台を占めているが、19世紀になると10%以下に減少していることが確認される。火具やその他の用途とした化粧具・神仏具・喫煙具については、18世紀代後半になってようやくみられるようになってくる。調度具についても、ほぼ同様である。

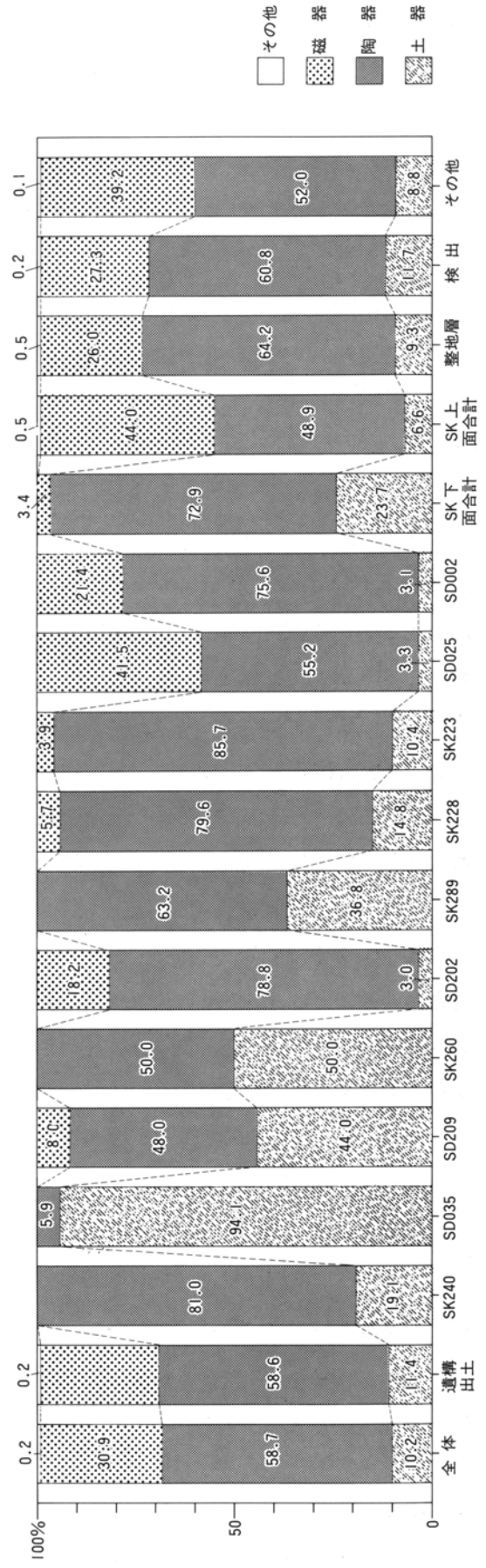
ついで、材質組成については、全体では土師質製品が10.2%、陶器質製品が58.7%、磁器質製品が30.9%、その他の材質とした軟質陶器や瓦質製品が0.2%を占めている。他の遺跡に比べ、磁器製品の占める割合が高くなっている。これは、19世紀代の遺構が多く存在していることに起因しているものと思われる。土師質製品は、他の遺跡同様に極端な減少傾向を示している。また、陶器製品は、60%台でほぼ安定した割合を占めていることが確認される。他の遺跡と比べ異なっている点として磁器製品が上げられよう。17～18世紀には破片のみの出土しかみられず、19世紀になり30%を超える出土量を示すように激増している。

<参考文献>

(財)愛知県埋蔵文化財センター 『清洲城下町遺跡Ⅲ・外町遺跡』 1994



第144図 外町遺跡出土陶磁器類の用途組成



第145図 外町遺跡出土陶磁器類の材質組成

7. まとめと今後の課題

以上、近世陶磁器類の消費地における用途組成や材質組成の変化について、本遺跡を含め名古屋城三の丸遺跡（家庭・簡易裁判所地点）、同遺跡（県警本部地点）、外町遺跡と同様の分析を行っている遺跡の例をあげて、近世陶磁器類の様相を明らかにしようとした。しかし、まだまだ4遺跡のみの成果であり、現状では分類や統計処理の方法等に検討すべき課題が多く残されている。今後同様の分析による結果が蓄積されていくことで、初めてデータとして利用することが可能となることであろう。これらのデータを比較検討することにより、年代による近世陶磁器類の様相の変化、例えば用途組成や材質組成等に特徴がみられたり、画期が想定されたり、社会的な身分や階級による格差が遺物の点から確認されたり、さまざまなことが明かとなることであろう。しかし、ここで提示した結果がすぐに近世陶磁器類の様相を忠実に反映しているとは言い難く、詳しい検討は今後のデータの増加に委ね、1つの傾向を提示できれば幸いである。

用途や材質組成について触れる前に、遠藤氏による絶対量より見た遺物分析の方法⁽¹²⁾を紹介しておきたい。本来、本遺跡においても分析すべきであるが、良好な一括資料が少なく、また時間的な制約もあって実施していない。分析の視点としては、近世陶磁器類の消費における用途・器種等の組成の変化を出土した近世陶磁器類の絶対量の増減との関わりで見ることにある。例えば、土師質製品について見てみると、材質組成を見る限り年代が下るに従って減少していることが確認される。これが単に土師質製品の生産が縮小していることを示しているようであるが、出土量はほぼ一定量を示しているのである。すなわち、出土する陶磁器類等の遺物量が増えることにより、あたかも土師質製品が減少しているように捉えられるのである。絶対量の変化を見る1つの目安として、編年がある程度確立されている播鉢があげられている。理由としては、播鉢はどの遺構からも出土しており、その消費される期間が短く遺構の時期が決定される重要な遺物であるからである。そのため、遺物分類においても9つに細分されている⁽¹³⁾。播鉢のⅨ類は備前や堺産の播鉢であり、Ⅰ類～Ⅷ類に分類された瀬戸・美濃産の播鉢のみを対象とされ、名古屋城三の丸遺跡（県警本部地点）の資料を基に、播鉢の類型別の消費絶対量の変化⁽¹⁴⁾、消費量基準増加率⁽¹⁵⁾、消費量増加率⁽¹⁶⁾を提示され、供膳具の椀類、皿類、鉢類や調理具の鍋・釜類や鉢類、瓶類等が播鉢に対してどのぐらいの比率で出土しているのかを求められ、絶対量の変化の指標とされている。

また、金子氏は、名古屋城三の丸遺跡（家庭・簡易裁判所地点）出土陶磁器類資料を利用して遠藤氏と同様の分析を試みられ、絶対量の比較から18世紀代に遺物の増加比率がピークを示していることを見い出している⁽¹⁷⁾。遺物量の増加については、17世紀代は増加率は少なく、19世紀代は出土遺物量はかなり増えるがその比率は18世紀代のそれよりも低くなっている。また、材質の面においても、土師質製品は減少傾向、陶器製品は18世紀代にピークを示し、磁器製品は17世紀代は少ないが、18世紀・19世紀ともに同様の増加傾向を示している。さらに、用途組成においても、供膳具や化粧具・神仏具・喫煙具は減少傾向が、灯火具は半減している、調理具は増加傾向が、調度具はやや増加し、貯蔵具や火具には変化がみられないとも指摘されている。また、愛知県小牧市に所在する中宮遺跡（近世農村遺跡）との比較を試みられ、絶対量の違いが、場や階層・人口差等の本来的な違いなのか、廃棄行為のあり方の差異を示すものなのか、という疑問も残されている。

これまで、遠藤氏と金子氏の分析についてまとめて見てきたわけであるが、このような分析を行った上で絶対量の変化に留意しつつ近世陶磁器類の用途や材質の組成を明らかにすることにより、近世陶磁器類の様相が明確に浮かび上がってくるものと思われる。以下、これまで概観してきた4つの遺跡より見られる用途や材質組成についてまとめておきたい。

まず、近世陶磁器類の用途組成であるが、各遺跡より出土した遺物量が大きく異なっているために単純に比較することは難しいが、概ね次のようにまとめることができよう。まず、17世紀代には、日常的な生活に関連する遺物群である供膳具・調理具・貯蔵具と灯火具によりその大半が占められている。出土する器種も限定されてくることから、この段階においては器種の細分化が進んではいないことが想定できるのではないだろうか。18世紀代になると、出土遺物量は確実に増加してくる。17世紀代に比べ、供膳具等の日常的な生活に関連する遺物群の比率が相対的に減少し、灯火具や火具等の出土量が増大するようである。これが19世紀代になると、出土遺物量は急激に増加し、これまで出土遺物の大半を占めていた供膳具・調理具・貯蔵具・灯火具・火具等がさらに減少し、副次的な生活に関連する遺物群である化粧具・神仏具・喫煙具や調度具に分類した遺物の占める割合が高くなっている。陶磁器類の多様化が、この段階になって進んできていることを示しているのであろうか。

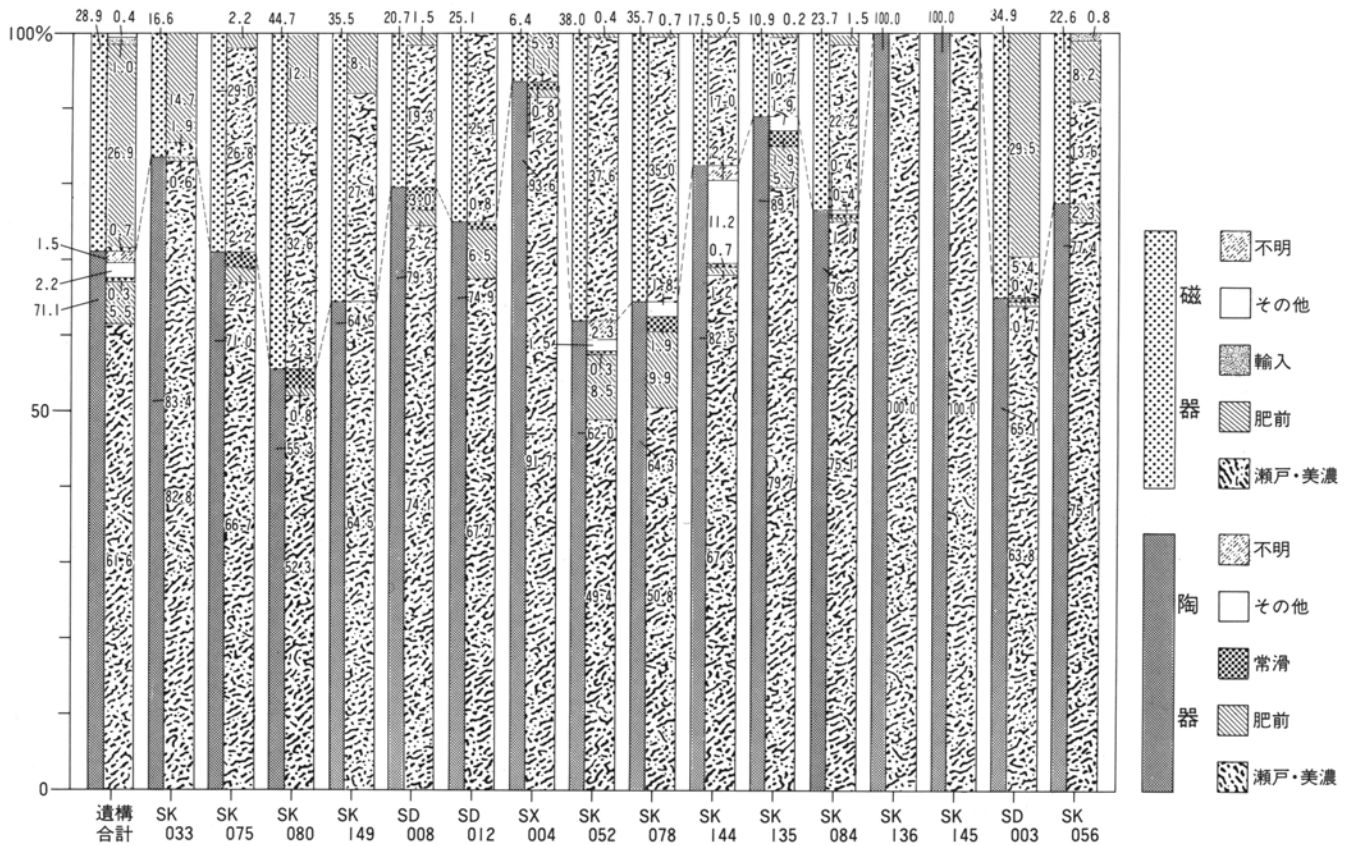
近世陶磁器類の材質組成であるが、これも用途組成と同様で一概には言えないところが多いが、次のようにまとめることができる。17世紀代には、土師質製品と陶器製品により出土遺物の大半を占める状況であり、磁器製品の占める割合はかなり少ない。しかし、遺跡により状況がやや異なり、名古屋城三の丸遺跡では10%前後であるのに対し、外町遺跡や中宮遺跡では1%以下という数値を示している。磁器製品は、この段階では高級品として流通し、一般的な生活道具として利用されていなかったのではないだろうか。18世紀代には、土師質製品がやや減少し、磁器製品の占める割合が増加している。しかし、まだまだ外町遺跡や中宮遺跡では数%しか占めてはいない。また、吉田城遺跡においては、名古屋城三の丸遺跡よりも高い割合を占めており、これが前述したような理由によるものなのか、地域差によるものなのか、結論は出ていない。19世紀代になると、土師質製品の比率はさらに減少し、磁器製品の占める割合が増大する。名古屋城三の丸遺跡では20%台、外町遺跡や中宮遺跡でも20%前後、吉田城遺跡では30%前後を占めている。磁器製品が増大する背景の1つとしては、享和年間(1801~1804)に瀬戸で磁器製品の生産が開始されたこと⁽¹⁸⁾があげられよう。これまで、肥前でしか生産されていなかった磁器製品が、地元瀬戸で生産されるようになり、ようやく一般的な生活用具として多くの人々に利用されるようになったものと思われる。

以上、年代をおって用途組成と材質組成について見てきたわけであるが、大きく2つの時期に画期を見出すことができよう。まず、1つ目としては17世紀末~18世紀前葉頃で、灯火具や火具が増加することや、土師質製品が減少し磁器製品が増加する時期である。また、2つ目としては18世紀末~19世紀中葉頃で、化粧具等の副次的な生活に関連する遺物群が増大することや、土師質製品が激減し磁器製品が急増する時期である。このような時期に、人々の生活において何等かの変化があったであろうことは窺うことはできるが、それが単に社会変化としての人口増や生活様式の変化に直接結びついていくのかは確認できてはいない。また、社会的な身分や階級による格差という点については、17~18世紀における磁器製品の比率が町屋や農村部において極端に低いことが示しているようであるが、

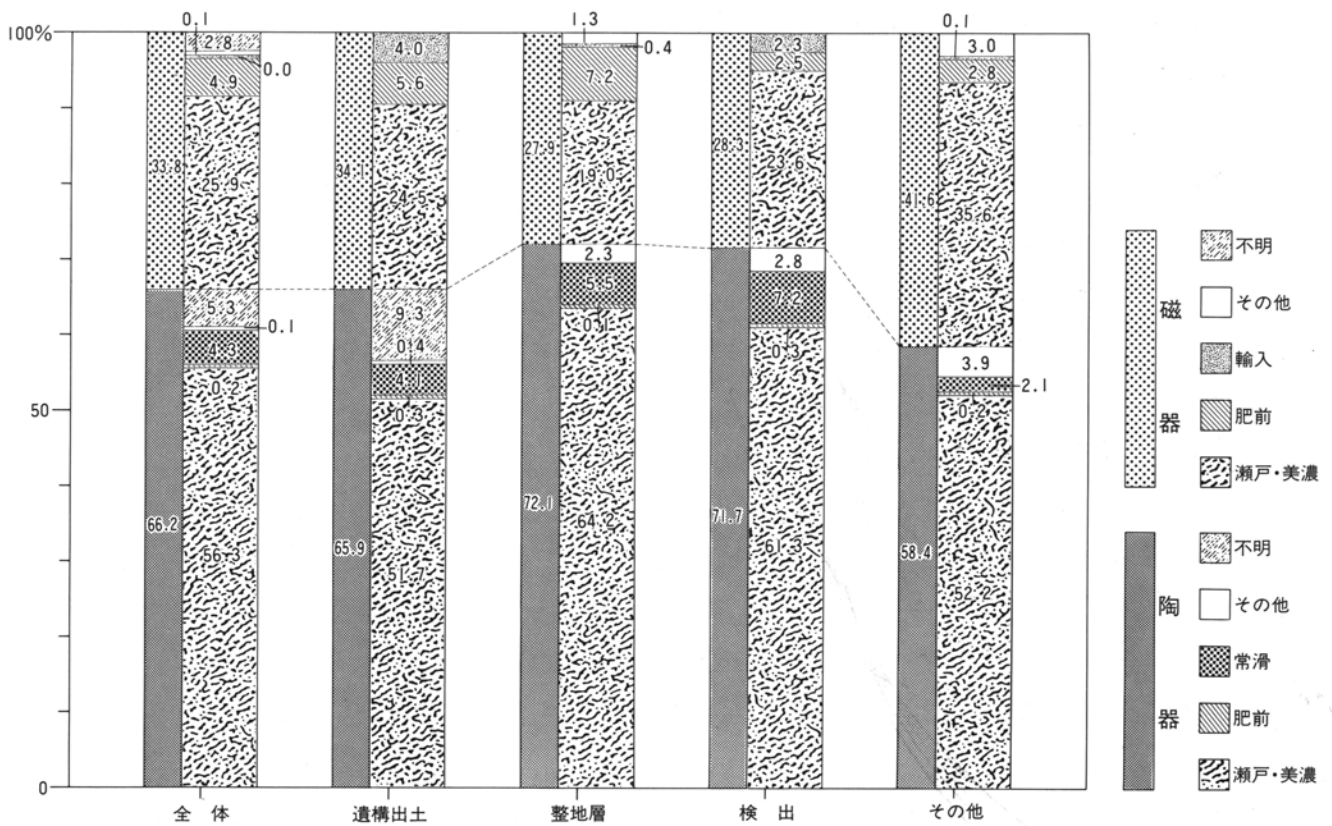
名古屋城三の丸遺跡に対して吉田城遺跡における磁器製品の割合が高い点が気になるため、ここでの判断は避けておきたいと思う。以上に示してきた結果は、4遺跡の比較における成果であり、これが近世の遺跡にそのままあてはまるものではなく、あくまでも1つの傾向を示したものにすぎない。まだまだ多くの課題や問題点が含まれていることは、前述の通りである。これからの近世遺跡における資料整理には、カウント等の統計処理が欠かせなくなるものと考えられるが、その遺跡毎に分類や統計が異なっているようでは、さまざまな点で不都合が生じてくることであろう。当センターにおいてさえも統一がとれていないのに、全国になればなおさらであろう。早く近世遺跡における分類や統計等の分析方法の統一が強く感じられるのである。

その1つの例として、これまで見てきた用途組成による分析以外の方法ではあるが、新宿区遺跡調査会の井隆夫氏により、出土遺物の器形による器種組成がある⁽¹⁹⁾。これは、遺跡毎に不統一であった陶磁器類の計測方法を統一し定量化していこうというもので、器形から椀類・皿類等124器種の器種項目、磁器・陶器・炆器・土器等の材質項目、肥前系・瀬戸・美濃系等の製作地項目を設定され、器種別・材質別・製作地別に推定個体数⁽²⁰⁾によって集計表が作成されている。このようなデータであれば、それぞれの目的により資料化することが可能となってくる。このように各地で集計されたデータをも総合的に利用、比較、検討することによって、より近世陶磁器類の様相が明かたされていくことであろう。また、その中で「これら一括廃棄のごみに含まれるやきものとしては、四谷三丁目遺跡と同様に、“世帯”を思わせる日常生活用品としての碗や片口、灯明皿等が一通りあり、さらにその上に、各世帯の事情に合わせて特殊な器種が加わるとか、大量に集中する器種があるとか、あるいはその逆に欠落する器種がみえるとかのパターンを示す。」とされ、その組成の違いには、「そのごみの所有者・使用者、及び廃棄者の、(1)時代性、(2)地域性、(3)身分・階層性、(4)個性、(5)特殊事情等を反映したものであり、複雑な要素が絡みあっている。」と述べられている。これは、我々と同じことを提示されており、大変興味深い分析方法と思われる。

最後に、近世陶磁器類の産地による組成について見ておきたい。吉田城遺跡においては、残念ながら産地組成までの集計や分析はできていない。しかし、一部に集計されているので紹介しておきたい。1つは、名古屋城三の丸遺跡(家庭・簡易裁判所地点)であり、土師質製品やその他の材質製品を除いて見てみると、16遺構の集計で瀬戸・美濃産の陶磁器類が62.2%を示し、常滑産が0.3%、肥前産(肥前系を含む)が32.7%、貿易陶磁器が1.1%、その他・不明の陶磁器類が3.7%となっている。その他の産地としては、京都・信楽・丹波・備前等がある。もう1つ例が外町遺跡であり、全出土遺物で瀬戸・美濃産の陶磁器類が80.6%とその大半を占めており、常滑産が4.3%、肥前産(肥前系を含む)が5.1%、その他・不明の陶磁器類が9.9%、輸入陶磁器類も極僅かではあるが確認されている。その他の産地としては、やはり京都・信楽・備前があげられる。吉田城遺跡においては、名古屋城三の丸遺跡に近い割合を示しているものと考えられるが、カウントしていた様子から輸入貿易陶磁器類の出土量は少なく、肥前産(肥前系を含む)の陶磁器類の割合が多くなる可能性が高いように思われる。前出の2つの遺跡においてさえ、かなりの違いがみられている。このような産地組成の違いが、何に起因しているのだろうか。使用者による趣味・趣向という要素が強いようにも思われるが、このような産地別の組成を明らかにすることにより、新しい知見が得られるものと考えられる。

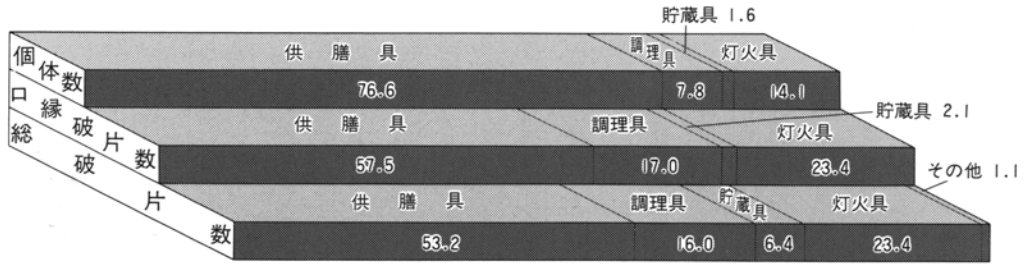


第146図 名古屋城三の丸遺跡（家庭・簡易裁判所地点）遺跡出土陶磁器類の産地組成



第147図 外町遺跡出土陶磁器類の産地組成

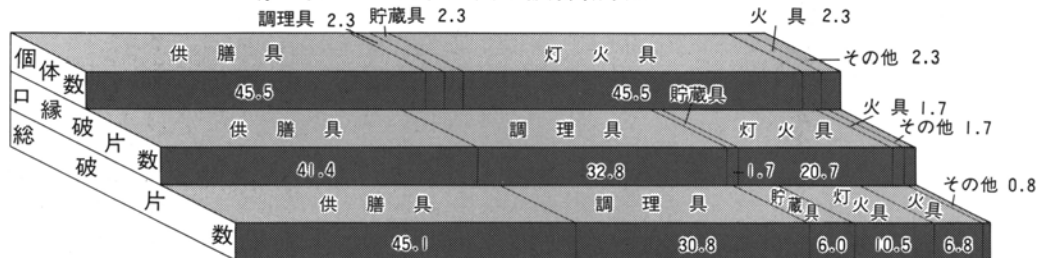
参考資料 1



第148図 SK248出土陶磁器類の用途組成

用途	器種	接合後口縁残存率					接合前口縁破片数					総破片数				
		土器	陶器	磁器	その他	計	土器	陶器	磁器	その他	計	土器	陶器	磁器	その他	計
供膳具	碗		4	15		19		2	9		11		2	17		19
	小碗			2		2		1		1			2		2	
	皿	12	16	0		28	7	7	1		15	20	8	1	29	
	鉢					0					0				0	
	その他					0					0				0	
	小計	12	20	17	0	49	7	9	11	0	27	20	10	20	0	50
調理具	鍋、釜	1				1	3				3	8				8
	鉢		1			1		1		1		1			1	
	播鉢		2			2		3		3		4			4	
	瓶		1			1		1		1		2			2	
	その他					0					0				0	
	小計	1	4	0	0	5	3	5	0	0	8	8	7	0	0	15
貯蔵具	瓶					0				0		1	2		3	
	壺					0				0		2			2	
	甕A					0				0					0	
	甕B					0				0					0	
	鉢			1		1			1		1		1		1	
	その他					0				0					0	
	小計	0	0	1	0	1	0	0	1	0	1	0	3	3	0	6
灯火具		9			9	11				11	21	1			22	
火具					0					0					0	
化粧具					0					0			1		1	
神仏具					0					0					0	
喫煙具					0					0					0	
調度具					0					0					0	
蓋			5		5		2			2		2	1		3	
合計		22	29	18	0	69	21	16	12	0	49	49	23	25	0	97

第24表 SK248出土陶磁器類集計表

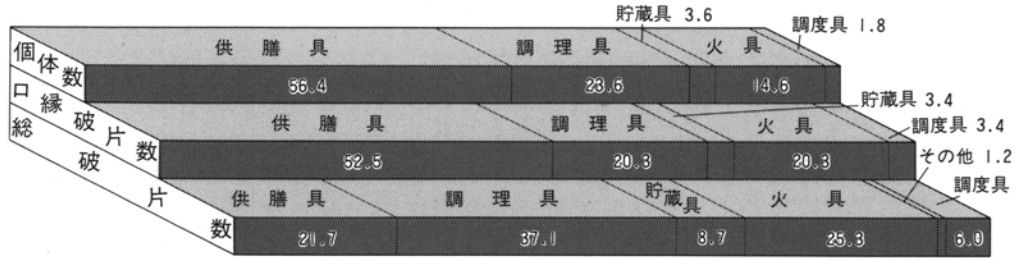


第149図 SK340出土陶磁器類の用途組成

用途	器種	接合後口縁残存率					接合前口縁破片数					総破片数				
		土器	陶器	磁器	その他	計	土器	陶器	磁器	その他	計	土器	陶器	磁器	その他	計
供膳具	碗		7			7		6	1		7		12	6		18
	小碗			1		1		1		1		1	1		2	
	皿	5	4	3		12	7	7	2		16	17	15	4	36	
	鉢					0					0		3	1	4	
	その他					0					0				0	
	小計	5	11	4	0	20	7	13	4	0	24	17	31	12	0	60
調理具	鍋、釜	1				1	17				17	32			32	
	鉢					0				0		1			1	
	播鉢					0		2		2		8			8	
	瓶					0				0					0	
	その他					0				0					0	
	小計	1	0	0	0	1	17	2	0	0	19	32	9	0	0	41
貯蔵具	瓶					0				0					0	
	壺		1			1		1		1		4			4	
	甕A					0				0		4			4	
	甕B					0				0					0	
	鉢					0				0					0	
	その他					0				0					0	
	小計	0	1	0	0	1	0	1	0	1	0	8	0	0	8	
灯火具		18	2		20	11	1			12	13	1			14	
火具					1				1	1				2	9	
化粧具					0					0					0	
神仏具				1	1			1		1			1		1	
喫煙具					0					0					0	
調度具					0					0					0	
蓋					0					0					0	
合計		24	14	5	1	44	35	17	5	1	58	62	56	13	2	133

第25表 SK340出土陶磁器類集計表

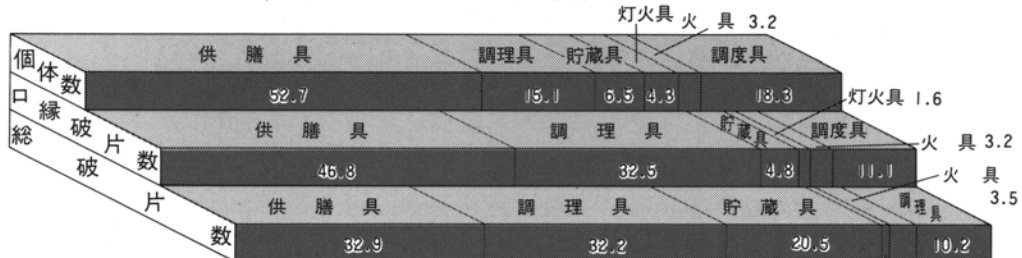
参考資料 2



第150図 SK274出土陶磁器類の用途組成

用途	器種	接合後口縁残存率					接合前口縁破片数					総破片数				
		土器	陶器	磁器	その他	計	土器	陶器	磁器	その他	計	土器	陶器	磁器	その他	計
供膳具	碗		3	2		5		3	4		7		11	11		22
	小碗			3		3			4		4			6		6
	皿	0	3	5		8	2	5	4		11	7	10	11		28
	鉢		0	15		15		1	8		9		2	14		16
	その他					0					0					0
	小計	0	6	25	0	31	2	9	20	0	31	7	23	42	0	72
調理具	鍋, 釜	0				0	2				2	92				92
	鉢		1			1		1		1		1			1	
	播鉢		3			3		6		6		14			14	
	瓶			9		9			3	3		3	13		16	
	その他					0				0					0	
	小計	0	4	9	0	13	2	7	3	0	12	92	18	13	0	123
貯蔵具	瓶					0				0		4			4	
	壺		2			2		1		1		2			2	
	甕A					0				0		11			11	
	甕B					0				0		9			9	
	鉢			0		0			1	1			3		3	
	その他					0				0					0	
小計	0	2	0	0	2	0	1	1	0	2	0	26	3	0	29	
灯火具					0					0					0	
火具		1	6		1	8	5	6		1	12	38	43		84	
化粧具					0					0					0	
神仏具					0					0		3	1		4	
喫煙具					0					0					0	
調度具			1		1		2			2	2	18			20	
蓋			11		11		1	3		4		1	3		4	
合計		1	30	34	1	66	9	26	27	1	63	139	132	62	336	

第26表 SK274出土陶磁器類集計表

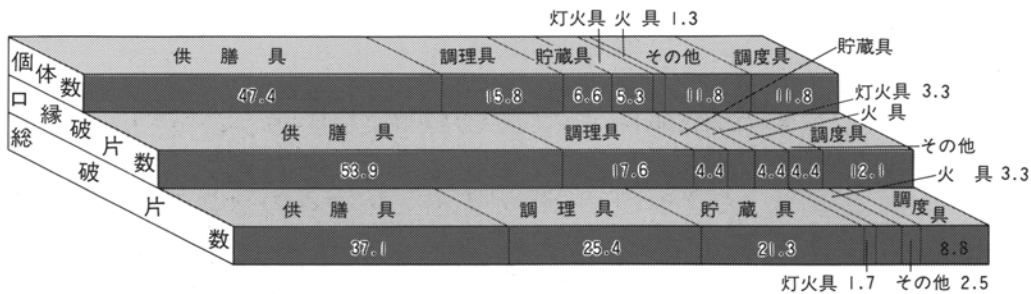


第151図 SK053出土陶磁器類の用途組成

用途	器種	接合後口縁残存率					接合前口縁破片数					総破片数				
		土器	陶器	磁器	その他	計	土器	陶器	磁器	その他	計	土器	陶器	磁器	その他	計
供膳具	碗		6	17		23		9	22		31		32	41		73
	小碗		3	10		13		4	7		11		6	10		16
	皿	3	9	0		12	5	4	4		13	9	13	12		34
	鉢		0	1		1		2	2		4		7	2		9
	その他					0					0					0
	小計	3	18	28	0	49	5	19	35	0	59	9	58	65	0	132
調理具	鍋, 釜	0	0		0	0	6	1		1	8	20	8		1	29
	鉢		7			7		12		12		26			26	
	播鉢		6			6		20		20		57			57	
	瓶		1			1		1		1		16	1		17	
	その他					0				0					0	
	小計	0	14	0	0	14	6	34	0	1	41	20	107	1	1	129
貯蔵具	瓶					0				0		5	3		8	
	壺					0				0		5			5	
	甕A		2			2		3		3		51			51	
	甕B		3			3		2		2		17			17	
	鉢			1		1			1	1			1		1	
	その他					0				0					0	
小計	0	5	1	0	6	0	5	1	0	6	0	78	4	0	82	
灯火具			4		4		2			2		3			3	
火具		3			3	2			2	4	8	2		4	14	
化粧具					0					0					0	
神仏具					0					0					0	
喫煙具					0					0					0	
調度具			17		17		14			14		41			41	
蓋			0		0		1	1		2		2	1		3	
合計		6	58	29	0	93	13	75	37	3	128	37	291	71	5	404

第27表 SK053出土陶磁器類集計表

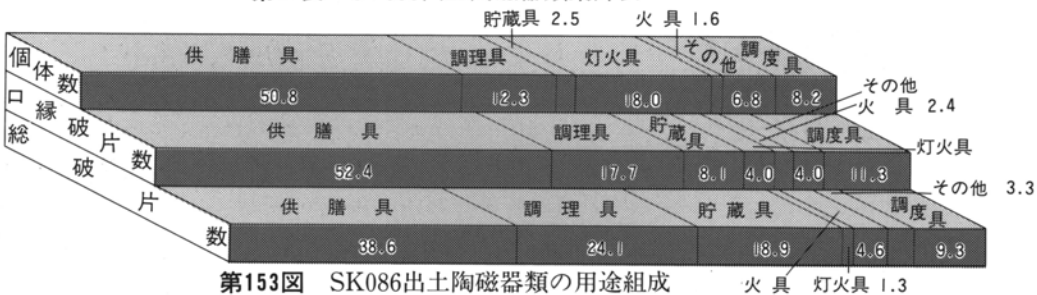
参考資料 3



第152図 SK055出土陶磁器類の用途組成

用途	器種	接合後口縁残存率					接合前口縁破片数					総破片数				
		土器	陶器	磁器	その他	計	土器	陶器	磁器	その他	計	土器	陶器	磁器	その他	計
供膳具	碗		17	8		25		17	15		32		73	38		111
	小碗		5	5		10		3	5		8		8	10		18
	皿	10	3	12		25	13	4	5		22	15	6	14		35
	鉢		0	2		2		1	2		3		10	4		14
	その他					0					0					0
	小計	10	25	27	0	62	13	25	27	0	65	15	97	66	0	178
調理具	鍋、釜	1				1	6				6	27	11			38
	鉢		2			2		1		1		17			17	
	播鉢		6			6		9		9		42			42	
	瓶		6			6		6		6		14			14	
	その他					0					0				0	
	小計	1	14	0	0	15	6	16	0	0	22	27	84	0	0	111
貯蔵具	瓶					0				0		10			10	
	壺		2			2		2		2		18			18	
	甕A					0		4		4		43			43	
	甕B		1			1		4		4		15			15	
	鉢					0				0		1			1	
	その他					0				0					0	
	小計	0	3	0	0	3	0	10	0	10	0	87	0	0	87	
灯火具			22		22			5		5		6			6	
火具			2		2			3		3	13	6		2	21	
化粧具			2		2			1		1		3			3	
神仏具			1	4	5			2	1	3		5	3		8	
喫煙具			1		1			1		1		4			4	
調度具			10		10			14		14		43			43	
蓋			11		11			4		4		7			7	
合計		11	91	31	0	133	19	81	28	0	128	55	342	69	2	468

第28表 SK055出土陶磁器類集計表

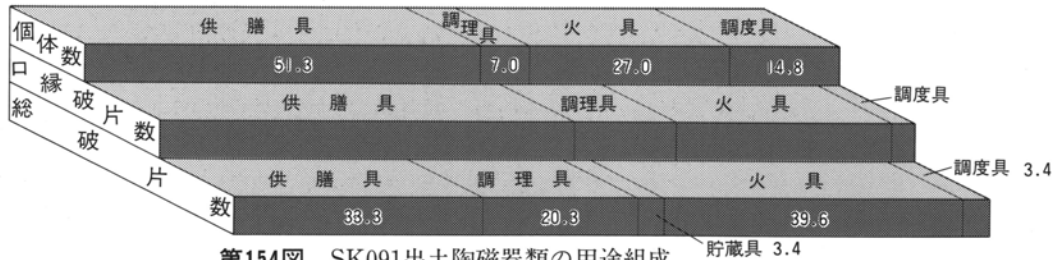


第153図 SK086出土陶磁器類の用途組成

用途	器種	接合後口縁残存率					接合前口縁破片数					総破片数				
		土器	陶器	磁器	その他	計	土器	陶器	磁器	その他	計	土器	陶器	磁器	その他	計
供膳具	碗		15	8		23		20	8		28		39	14		53
	小碗			8		8			10		10			11		11
	皿	5	0	0		5	5	2	1		8	13	4	5		22
	鉢		0			0		3			3		3			3
	その他					0					0					0
	小計	5	15	16	0	36	5	25	19	0	49	13	46	30	0	89
調理具	鍋、釜	2	1		1	4	6	1		1	8	33	3		1	37
	鉢		6			6		5		5		11			11	
	播鉢		2			2		3		3		8			8	
	瓶					0					0		5		5	
	その他					0					0				0	
	小計	2	9	0	1	12	6	9	0	1	16	33	27	0	1	61
貯蔵具	瓶		0			0		1		1		8			1	9
	壺		3			3		2		2	1	2			3	
	甕A					0				0		32			32	
	甕B		2			2		1		1		7			7	
	鉢					0					0				0	
	その他					0					0				0	
	小計	0	5	0	0	5	0	4	0	4	1	49	0	1	51	
灯火具			1		1			2		2		3			4	
火具			1		1			3		3	2	4			8	
化粧具				5	5				2	2			3		3	
神仏具			2	2	4			1	1	2		2	1		3	
喫煙具					0					0					0	
調度具			9		9			11		11		21			21	
蓋				2	2				1	1			1		1	
合計		8	44	25	1	78	12	55	23	2	92	50	152	35	4	241

第29表 SK086出土陶磁器類集計表

参考資料 4



第154図 SK091出土陶磁器類の用途組成

用途	器種	接合後口縁残存率					接合前口縁破片数					総破片数				
		土器	陶器	磁器	その他	計	土器	陶器	磁器	その他	計	土器	陶器	磁器	その他	計
供膳具	椀			31		31			22		22		4	32		36
	小椀		3	19		22	1	7		8		2	8		10	
	皿		0	0		0	4	1		5	1	4	3		8	
	鉢		6			6	2			2		4	1		5	
	その他					0				0					0	
小計	0	9	50	0	59	0	7	30	0	37	1	14	44	0	59	
調理具	鍋、釜	3	5			8	4	5		9	22	10		2	34	
	鉢					0				0				0		
	播鉢					0				0		1		1		
	瓶					0				0		1		1		
	その他					0				0				0		
小計	3	5	0	0	8	4	5	0	0	9	22	12	0	36		
貯蔵具	瓶					0				0		2		2		
	壺					0				0				0		
	甕A					0				0		3		3		
	甕B					0				0		1		1		
	鉢					0				0				0		
その他					0				0				0			
小計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	6		
灯火具					0				0					0		
火具		13	18		31	5	14		19	16	54			70		
化粧具					0				0					0		
神仏具					0				0					0		
喫煙具					0				0					0		
調度具			5	12	17		1	1		2		2	4	6		
蓋			5	1	6		3	1		4		5	1	6		
合計		16	42	63	0	121	9	30	32	0	71	39	93	49	2	183

第30表 SK091出土陶磁器類集計表



第155図 その他の遺構2出土陶磁器類の用途組成

用途	器種	接合後口縁残存率					接合前口縁破片数					総破片数				
		土器	陶器	磁器	その他	計	土器	陶器	磁器	その他	計	土器	陶器	磁器	その他	計
供膳具	椀	0	156	227	0	383	0	303	368	0	671	0	982	922	2	1906
	小椀	0	54	238	0	292	0	43	216	0	259	0	85	417	0	502
	皿	711	146	93	0	950	728	214	156	1	1099	1651	488	375	1	2515
	鉢	0	31	9	1	41	0	75	27	1	103	0	264	70	7	341
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小計	711	387	567	1	1666	728	635	767	2	2132	1651	1819	1784	10	5264	
調理具	鍋、釜	26	24	0	1	51	211	22	0	9	242	1554	78	0	49	1681
	鉢	3	26	2	0	31	2	54	2	0	58	2	132	2	0	136
	播鉢	0	62	0	0	62	0	143	0	0	143	0	528	0	0	528
	瓶	0	29	19	0	48	0	15	10	0	25	0	190	44	1	235
	その他	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	1	2	0	3
小計	29	141	21	1	192	213	235	12	9	469	1556	929	48	50	2583	
貯蔵具	瓶	0	65	4	0	69	0	8	1	0	9	0	242	22	0	264
	壺	4	41	0	0	45	3	15	0	0	18	31	97	2	0	130
	甕A	0	66	0	0	66	0	106	0	0	106	0	2424	0	0	2424
	甕B	0	29	0	0	29	0	37	0	0	37	0	280	0	0	280
	鉢	0	17	5	0	22	0	12	12	0	24	0	19	24	0	43
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
小計	4	218	9	0	231	3	178	13	0	194	31	3062	48	0	3141	
灯火具		171	151	0	12	334	144	59	0	10	213	255	130	1	27	413
火具		15	48	0	19	82	31	92	0	11	134	390	752	0	89	1231
化粧具		0	22	3	0	25	0	6	2	0	8	0	14	16	0	30
神仏具		0	29	37	0	66	0	26	12	0	38	0	50	40	0	90
喫煙具		0	5	2	0	7	0	6	3	0	9	0	12	4	0	16
調度具		4	68	3	0	75	4	72	3	0	79	36	429	33	2	500
蓋		20	134	58	3	215	3	73	41	7	124	4	118	54	7	183
合計		954	1203	700	36	2893	1126	1382	853	39	3400	3923	7315	2028	185	13451

第31表 その他の遺構2出土陶磁器類集計表

参考資料5

	供膳具	調理具	貯蔵具	灯火具	火 具	化粧具	神仏具	その他	合 計
遺構合計	722.1	164.0	144.5	909.7	17.1	26.5	78.1	33.9	2095.9
	34.45	7.82	6.89	43.40	0.82	1.26	3.73	1.62	100.00
SK033	8.8	2.0	1.8	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	23.7
	37.13	8.44	7.59	46.84	0.00	0.00	0.00	0.00	100.00
SK075	14.6	2.5	1.2	9.7	0.0	0.0	0.0	0.0	28.0
	52.14	8.93	4.29	34.64	0.00	0.00	0.00	0.00	100.00
SK080	10.9	1.9	1.5	17.0	0.3	0.0	1.0	0.0	32.6
	33.44	5.83	4.60	52.15	0.92	0.00	3.07	0.00	100.00
SK149	9.4	0.5	0.4	13.0	0.2	0.0	0.8	0.0	24.3
	38.68	2.06	1.65	53.50	0.82	0.00	3.29	0.00	100.00
SD008	10.2	1.3	1.6	7.8	0.6	0.2	0.2	0.8	22.7
	44.93	5.73	7.05	34.36	2.64	0.88	0.88	3.52	100.00
SD012	20.7	1.5	0.5	11.2	0.3	0.0	0.0	1.9	36.1
	57.34	4.16	1.39	31.02	0.83	0.00	0.00	5.26	100.00
SX004	26.6	8.9	2.6	80.9	0.8	0.0	3.0	0.0	122.8
	21.66	7.25	2.12	65.88	0.65	0.00	2.44	0.00	100.00
SK052	253.0	57.6	52.0	439.2	1.6	8.6	38.0	9.4	859.4
	29.44	6.70	6.05	51.11	0.19	1.00	4.42	1.09	100.00
SK078	158.9	39.3	29.7	236.3	2.8	10.0	24.0	3.6	504.6
	31.49	7.79	5.89	46.83	0.55	1.98	4.76	0.71	100.00
SK144	76.1	10.5	14.4	40.7	2.5	1.5	4.1	3.5	153.3
	49.64	6.85	9.39	26.55	1.63	0.98	2.67	2.28	100.00
SK135	29.2	4.7	13.0	14.7	3.2	3.2	1.4	1.9	71.3
	40.95	6.59	18.23	20.62	4.49	4.49	1.96	2.66	100.00
SK084	72.6	13.6	19.8	18.1	3.1	2.5	4.2	4.9	138.8
	52.31	9.80	14.27	13.04	2.23	1.80	3.03	3.53	100.00
SK136	0.7	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	3.5	4.3
	16.28	0.00	0.00	2.33	0.00	0.00	0.00	81.40	100.00
SK145	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.8	2.9
	3.45	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	96.55	100.00
SD003	9.0	2.6	2.0	2.4	0.4	0.4	0.6	0.2	17.6
	51.14	14.77	11.36	13.64	2.27	2.27	3.41	1.14	100.00
SK056	21.3	17.1	4.0	7.5	1.3	0.1	0.8	1.4	53.5
	39.81	31.96	7.48	14.02	2.43	0.19	1.50	2.62	100.00

第32表 名古屋城三の丸遺跡（家庭・簡易裁判所地点）出土陶磁器類の用途組成表

	土 器	陶 器	磁 器	その他	合 計
遺構合計	1000.1	777.7	316.6	1.5	2095.9
	47.72	37.11	15.11	0.07	100.00
SK033	8.0	13.1	2.6	0.0	23.7
	33.76	55.27	10.97	0.00	100.00
SK075	9.7	13.0	5.3	0.0	28.0
	34.64	46.43	18.93	0.00	100.00
SK080	19.4	7.3	5.9	0.0	32.6
	59.51	22.39	18.10	0.00	100.00
SK149	11.9	8.0	4.4	0.0	24.3
	48.97	32.92	18.11	0.00	100.00
SD008	8.7	10.7	2.8	0.5	22.7
	38.33	47.14	12.33	2.20	100.00
SD012	9.8	19.7	6.6	0.0	36.1
	27.15	54.57	18.28	0.00	100.00
SX004	56.6	61.8	4.2	0.2	122.8
	46.09	50.33	3.42	0.16	100.00
SK052	506.9	218.4	133.9	0.2	859.4
	58.98	25.41	15.58	0.02	100.00
SK078	272.4	149.3	82.9	0.0	504.6
	53.98	29.59	16.43	0.00	100.00
SK144	51.6	53.7	17.7	0.3	153.3
	33.66	54.60	11.55	0.20	100.00
SK135	18.2	47.3	5.8	0.0	71.3
	25.53	66.34	8.13	0.00	100.00
SK084	19.3	91.0	28.3	0.2	138.8
	13.90	65.56	20.39	0.14	100.00
SK136	0.1	4.2	0.0	0.0	4.3
	2.33	97.67	0.00	0.00	100.00
SK145	0.0	2.9	0.0	0.0	2.9
	0.00	100.00	0.00	0.00	100.00
SD003	2.7	9.7	5.2	0.0	17.6
	15.34	55.11	29.55	0.00	100.00
SK056	4.8	37.6	11.0	0.1	53.5
	8.97	70.28	20.56	0.19	100.00

第33表 名古屋城三の丸遺跡（家庭・簡易裁判所地点）出土陶磁器類の材質組成表

参考資料6

全体	土器	陶器	磁器	その他	合計
6254	25169	7555	134	39112	
15.99	64.35	19.32	0.34	100.00	
遺構出土	4136	18781	5368	122	28407
14.56	66.11	18.90	0.43	100.00	
SD106	282	340	17	0	639
44.13	53.21	2.66	0.00	100.00	
SK209	22	39	10	0	71
30.99	54.93	14.08	0.00	100.00	
SK021	36	189	20	0	245
14.69	77.14	8.16	0.00	100.00	
SD104	211	461	87	0	759
27.80	60.74	11.46	0.00	100.00	
SK210	85	404	116	2	607
14.00	66.56	19.11	0.33	100.00	
SK211	64	229	23	0	316
20.25	72.47	7.28	0.00	100.00	
SK401	360	117	42	0	519
69.36	22.54	8.09	0.00	100.00	
SK212	302	185	100	1	588
51.36	31.46	17.01	0.17	100.00	
SK304	367	933	322	0	1622
22.63	57.52	19.85	0.00	100.00	
SK123	363	601	195	0	1159
31.32	51.86	16.82	0.00	100.00	
SK010	11	355	71	3	440
2.50	80.68	16.14	0.68	100.00	
SK002	507	719	274	0	1500
33.80	47.93	18.27	0.00	100.00	
SK219	48	543	134	0	725
6.62	74.90	18.48	0.00	100.00	
SK206	117	1153	242	3	1515
7.72	76.11	15.97	0.20	100.00	
SK207	36	221	90	16	363
9.92	60.88	24.79	4.41	100.00	
SK014	51	635	145	0	831
6.14	76.41	17.45	0.00	100.00	
SK202	134	428	110	0	672
19.94	63.69	16.37	0.00	100.00	
SK009	23	475	104	25	627
3.67	75.76	16.59	3.99	100.00	
SK346	81	669	202	1	953
8.50	70.20	21.20	0.10	100.00	
SK118	212	674	261	1	1148
18.47	58.71	22.74	0.09	100.00	
SK101	537	5883	1758	63	8241
6.52	71.39	21.33	0.76	100.00	
SK333	251	3443	1064	7	4765
5.27	72.26	22.33	0.15	100.00	
その他	875	2595	725	1	4196
の遺構	20.85	61.84	17.28	0.02	100.00
検出	1243	3793	1462	11	6509
19.10	58.27	22.46	0.17	100.00	

第35表 名古屋城三の丸遺跡（県警本部地点）出土陶磁器類の材質組成表

全体	供膳具	調理具	貯蔵具	灯火具	火具	化粧具	神仏具	喫煙具	調度具	合計
17605	3140	4029	8770	798	518	1238	446	2568	39112	
45.01	8.03	10.30	22.42	2.04	1.32	3.17	1.14	6.57	100.00	
遺構出土	13051	2319	2906	6120	594	421	954	1717	28407	
45.94	8.16	10.23	21.54	2.09	1.48	3.33	1.18	6.04	100.00	
SD106	248	21	35	322	5	0	2	6	639	
38.81	3.29	5.48	50.39	0.78	0.00	0.00	0.31	0.94	100.00	
SK209	25	8	10	25	2	0	0	0	71	
35.21	11.27	14.08	35.21	2.82	0.00	1.41	0.00	0.00	100.00	
SK021	135	11	2	74	10	0	10	3	245	
55.10	4.49	0.82	30.20	4.08	0.00	0.00	4.08	1.22	100.00	
SD104	416	49	16	245	7	8	5	3	759	
54.81	6.46	2.11	32.28	0.92	1.05	1.32	0.66	0.40	100.00	
SK210	391	29	41	124	6	0	3	0	607	
64.42	4.78	6.75	20.43	0.99	0.00	2.14	0.49	0.00	100.00	
SK211	157	25	19	86	2	0	1	26	316	
49.68	7.91	6.01	27.22	0.63	0.00	0.00	0.32	8.23	100.00	
SK401	118	14	14	362	10	1	0	0	519	
22.74	2.70	2.70	69.75	1.93	0.00	0.19	0.00	0.00	100.00	
SK212	125	30	69	305	2	16	6	21	588	
21.26	5.10	11.73	51.87	0.34	2.72	2.38	1.02	3.57	100.00	
SK304	822	96	70	424	40	48	42	40	1622	
50.68	5.92	4.32	26.14	2.47	2.96	2.47	2.59	2.47	100.00	
SK123	530	48	44	441	5	8	56	21	1159	
45.73	4.14	3.80	38.05	0.43	0.69	4.83	1.81	0.52	100.00	
SK010	366	18	13	26	4	2	3	5	440	
83.18	4.09	2.95	5.91	0.91	0.45	0.68	1.14	0.68	100.00	
SK002	602	135	83	523	8	18	70	9	1500	
40.13	9.00	5.53	34.87	0.53	1.20	4.67	0.60	3.47	100.00	
SK219	416	65	59	92	3	18	23	30	725	
57.38	8.97	8.14	12.69	0.41	2.48	3.17	2.62	4.14	100.00	
SK206	809	111	141	216	13	25	67	37	1515	
53.40	7.33	9.31	14.26	0.86	1.65	4.42	2.44	6.34	100.00	
SK207	121	70	56	48	8	6	18	2	363	
33.33	19.28	15.43	13.22	2.20	1.65	4.96	0.55	9.37	100.00	
SK014	300	114	133	117	34	8	63	14	831	
36.10	13.72	16.00	14.08	4.09	0.96	7.58	1.68	5.78	100.00	
SK202	252	25	56	259	14	0	32	12	672	
37.50	3.72	8.33	38.54	2.08	0.00	4.76	1.79	3.27	100.00	
SK009	222	147	154	64	1	0	20	18	627	
35.41	23.44	24.56	10.21	0.16	0.00	3.19	0.16	2.87	100.00	
SK346	561	39	65	172	1	6	49	3	953	
58.87	4.09	6.82	18.05	0.10	0.63	5.14	0.31	5.98	100.00	
SK118	599	94	53	234	15	35	34	6	1148	
52.18	8.19	4.62	20.38	1.31	3.05	2.96	0.52	6.79	100.00	
SK101	3809	738	1071	1275	275	275	75	594	8241	
46.22	8.96	13.00	15.47	3.34	1.57	3.34	0.91	7.21	100.00	
SK333	1976	427	701	623	129	94	217	18	4765	
41.47	8.96	14.71	13.07	2.71	1.97	4.55	0.38	12.17	100.00	
その他	2064	340	310	1054	57	66	60	223	4196	
の遺構	49.19	8.10	7.39	25.12	1.36	0.52	1.57	1.43	100.00	
検出	2490	481	813	1596	147	75	227	52	6509	
38.25	7.39	12.49	24.52	2.26	1.15	3.49	0.80	9.65	100.00	

第34表 名古屋城三の丸遺跡（県警本部地点）出土陶磁器類の用途組成表

参考資料 7

	供膳具	調理具	貯蔵具	灯火具	火 具	化粧具	神仏具	喫煙具	調度具	合 計
全 体	4179	848	895	685	342	15	203	31	285	7483
	55.85	11.33	11.96	9.15	4.57	0.20	2.71	0.41	3.81	100.00
遺構出土	1437	371	266	248	132	1	125	14	63	2657
	54.08	13.96	10.01	9.33	4.97	0.04	4.70	0.53	2.37	100.00
SK240	16	2	0	3	0	0	0	0	0	21
	76.19	9.52	0.00	14.29	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	100.00
SD035	0	1	0	32	0	0	0	1	0	34
	0.00	2.94	0.00	94.12	0.00	0.00	0.00	2.94	0.00	100.00
SD209	12	5	1	7	0	0	0	0	0	25
	48.00	20.00	4.00	28.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	100.00
SK260	2	5	3	0	0	0	0	0	0	10
	20.00	50.00	30.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	100.00
SD202	24	2	5	2	0	0	0	0	0	33
	72.73	6.06	15.15	6.06	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	100.00
SK289	58	34	0	18	0	0	11	0	12	133
	43.61	25.56	0.00	13.53	0.00	0.00	8.27	0.00	9.02	100.00
SK228	55	8	5	13	5	0	2	0	0	88
	62.50	9.09	5.68	14.77	5.68	0.00	2.27	0.00	0.00	100.00
SK223	43	17	2	15	0	0	0	0	0	77
	55.84	22.08	2.60	19.48	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	100.00
SD025	387	55	66	17	42	1	55	0	8	631
	61.33	8.72	10.46	2.69	6.66	0.16	8.72	0.00	1.27	100.00
SD002	50	20	31	15	3	0	2	3	7	131
	38.17	15.27	23.66	11.45	2.29	0.00	1.53	2.29	5.34	100.00
下面土坑 合計	141	76	24	50	0	0	4	0	0	295
	47.80	25.76	8.14	16.95	0.00	0.00	1.36	0.00	0.00	100.00
上面土坑 合計	476	109	92	58	56	0	46	6	32	875
	54.40	12.46	10.51	6.63	6.40	0.00	5.26	0.69	3.66	100.00
整地層 合計	1200	242	255	176	67	10	19	2	67	2038
	58.88	11.87	12.51	8.64	3.29	0.49	0.93	0.10	3.29	100.00
検 出	461	92	121	109	44	0	5	4	41	877
	52.57	10.49	13.80	12.43	5.02	0.00	0.57	0.46	4.68	100.00
その他	1081	143	253	152	99	4	54	11	114	1911
	56.57	7.48	13.24	7.95	5.18	0.21	2.83	0.58	5.97	100.00

第36表 外町遺跡出土陶磁器類の用途組成表

	土 器	陶 器	磁 器	その他	合 計
全 体	764	4390	2311	18	7483
	10.21	58.67	30.88	0.24	100.00
遺構出土	304	1556	792	5	2657
	11.44	58.56	29.81	0.19	100.00
SK240	4	17	0	0	21
	19.05	80.95	0.00	0.00	100.00
SD035	32	2	0	0	34
	94.12	5.88	0.00	0.00	100.00
SD209	11	12	2	0	25
	44.00	48.00	8.00	0.00	100.00
SK260	5	5	0	0	10
	50.00	50.00	0.00	0.00	100.00
SD202	1	26	6	0	33
	3.03	78.79	18.18	0.00	100.00
SK289	49	84	0	0	133
	36.84	63.16	0.00	0.00	100.00
SK228	13	70	5	0	88
	14.77	79.55	5.68	0.00	100.00
SK223	8	66	3	0	77
	10.39	85.71	3.90	0.00	100.00
SD025	21	348	262	0	631
	3.33	55.15	41.52	0.00	100.00
SD002	4	99	28	0	131
	3.05	75.57	21.37	0.00	100.00
下面土坑 合計	70	215	10	0	295
	23.73	72.88	3.39	0.00	100.00
上面土坑 合計	58	428	385	4	875
	6.63	48.91	44.00	0.46	100.00
整地層 合計	189	1308	531	10	2038
	9.27	64.18	26.05	0.49	100.00
検 出	103	533	239	2	877
	11.74	60.78	27.25	0.23	100.00
その他	168	993	749	1	1911
	8.79	51.96	39.19	0.05	100.00

第37表 外町遺跡出土陶磁器類の材質組成表

参考資料 8

	陶器					磁器					陶器・磁器 以外の製品	合計	備考(その他の産地)
	瀬戸・美濃	肥前	常滑	その他	不明	瀬戸・美濃	肥前	輸入	その他	不明			
遺構合計	673.7	60.3	3.5	23.6	16.6	7.4	294.3	11.0	3.9	0.0	1001.6	2095.9	京都・信楽,丹波, 関西,備前
	61.56	5.51	0.32	2.16	1.52	0.68	26.89	1.01	0.36	0.00	—	100.00	
SK033	13.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.3	2.3	0.0	0.0	8.0	23.7	
	82.80	0.00	0.64	0.00	0.00	0.00	1.91	14.65	0.00	0.00	—	100.0	
SK075	12.2	0.0	0.4	0.4	0.0	0.0	4.9	0.4	0.0	0.0	9.7	28.0	丹波
	66.67	0.00	2.19	2.19	0.00	0.00	26.78	2.19	0.00	0.00	—	100.0	
SK080	6.9	0.1	0.0	0.3	0.0	0.0	4.3	1.6	0.0	0.0	19.4	32.6	関西
	52.27	0.76	0.00	2.27	0.00	0.00	32.58	12.12	0.00	0.00	—	100.0	
SK149	8.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.4	1.0	0.0	0.0	11.9	24.3	
	64.52	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	27.42	8.06	0.00	0.00	—	100.0	
SD008	10.0	0.0	0.3	0.4	0.0	0.0	2.6	0.2	0.0	0.0	9.2	22.7	丹波
	74.07	0.00	2.22	2.96	0.00	0.00	19.26	1.48	0.00	0.00	—	100.0	
SD012	17.8	1.7	0.0	0.0	0.2	0.0	6.6	0.0	0.0	0.0	9.8	36.1	
	67.68	6.46	0.00	0.00	0.76	0.00	25.10	0.00	0.00	0.00	—	100.0	
SX004	60.5	0.8	0.0	0.0	0.5	0.0	0.7	0.0	3.5	0.0	56.8	122.8	
	91.67	1.21	0.00	0.00	0.76	0.00	1.06	0.00	5.30	0.00	—	100.0	
SK052	174.1	30.1	1.0	5.2	8.0	0.0	132.5	1.4	0.0	0.0	507.1	859.4	京都・信楽, 関西
	49.42	8.54	0.28	1.48	2.27	0.00	37.61	0.40	0.00	0.00	—	100.0	
SK078	118.0	22.9	0.0	4.3	4.1	0.0	81.2	1.7	0.0	0.0	272.4	504.6	京都・信楽,丹波, 関西,備前
	50.82	9.86	0.00	1.85	1.77	0.00	34.97	0.73	0.00	0.00	—	100.0	
SK144	68.2	1.2	0.7	11.4	2.2	0.0	17.2	0.5	0.0	0.0	51.9	153.3	京都・信楽, 関西
	67.26	1.18	0.69	11.24	2.17	0.00	16.96	0.49	0.00	0.00	—	100.0	
SK135	42.3	3.0	1.0	1.0	0.0	0.0	5.7	0.1	0.0	0.0	18.2	71.3	京都・信楽, 関西
	79.66	5.65	1.88	1.88	0.00	0.00	10.73	0.19	0.00	0.00	—	100.0	
SK084	89.6	0.4	0.0	0.5	0.5	0.0	26.5	1.8	0.0	0.0	19.5	138.8	京都・信楽
	75.10	0.34	0.00	0.42	0.42	0.00	22.21	1.51	0.00	0.00	—	100.0	
SK136	4.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	4.3	
	100.0	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	—	100.0	
SK145	2.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.9	
	100.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	—	100.0	
SD003	9.5	0.1	0.0	0.1	0.0	0.8	4.4	0.0	0.0	0.0	2.7	17.6	関西
	63.76	0.67	0.00	0.67	0.00	5.37	29.53	0.00	0.00	0.00	—	100.0	
SK056	36.5	0.0	0.0	0.0	1.1	6.6	4.0	0.0	0.4	0.0	4.9	53.5	関西
	75.10	0.00	0.00	0.00	2.26	13.58	8.23	0.00	0.82	0.00	—	100.0	

第38表 名古屋城三の丸遺跡(家庭・簡易裁判所地点)出土陶磁器類の産地組成表

	陶器					磁器					陶器・磁器 以外の製品	合計	備考(その他の産地)
	瀬戸・美濃	肥前	常滑	その他	不明	瀬戸・美濃	肥前	輸入	その他	不明			
全体	4186	18	321	10	391	1926	365	2	8	211	827	8265	京都・信楽,備前, 関西
遺構出土	56.28	0.24	4.32	0.13	5.26	25.89	4.91	0.03	0.11	2.84	—	100.00	
	1350	9	108	10	243	639	145	0	0	105	319	2928	京都・信楽,備前, 関西
整地層	51.74	0.34	4.14	0.38	9.31	24.49	5.56	0.00	0.00	4.02	—	100.00	
	1261	2	108	0	45	373	142	0	8	26	208	2173	関西
検出	64.17	0.10	5.50	0.00	2.29	18.98	7.23	0.00	0.41	1.32	—	100.00	
	539	3	63	0	25	207	22	0	0	20	105	984	関西
その他	61.32	0.34	7.17	0.00	2.84	23.55	2.50	0.00	0.00	2.28	—	100.00	
	1036	4	42	0	78	707	56	2	0	60	195	2180	関西
	52.19	0.20	2.12	0.00	3.93	35.62	2.82	0.10	0.00	3.02	—	100.00	

第39表 外町遺跡出土陶磁器類の産地組成表

参考資料 9

全体	土器	陶器	磁器	その他	合計
全体	3266	5351	4745	129	13491
遺構出土	24.21	39.66	35.17	0.96	100.00
SK248	2446	2935	2086	64	7531
SK340	32.48	38.97	27.70	0.85	100.00
SE106	22	24	18	0	64
SE104	34.38	37.50	28.13	0.00	100.00
SD129	24	14	5	1	44
SD102	54.55	31.82	11.36	2.27	100.00
SK091	56	114	79	5	254
SE107	22.05	44.88	31.10	1.97	100.00
SK053	67	156	22	0	245
SK055	27.35	63.67	8.98	0.00	100.00
SK086	721	313	242	0	1276
SK274	56.50	24.53	18.97	0.00	100.00
SK180	101	135	57	4	297
SK032	34.01	45.45	19.19	1.35	100.00
SK092	16	37	62	0	115
SD101	13.91	32.17	53.91	0.00	100.00
その他の遺構合計	14	28	15	1	58
検出	24.14	48.28	25.86	1.72	100.00
その他	6	58	29	0	93
	6.45	62.37	31.18	0.00	100.00
	8	44	23	1	76
	10.53	57.89	30.26	1.32	100.00
	11	80	31	0	122
	9.02	65.57	25.41	0.00	100.00
	1	19	34	1	55
	1.82	34.55	61.82	1.82	100.00
	0	108	62	13	183
	0.00	59.02	33.88	7.10	100.00
	92	49	72	2	215
	42.79	22.79	33.49	0.93	100.00
	15	44	11	0	70
	21.43	62.86	15.71	0.00	100.00
	358	643	682	3	1686
	21.23	38.14	40.45	0.18	100.00
	934	1069	642	33	2678
	34.88	39.92	23.97	1.23	100.00
	707	1870	2012	41	4630
	15.27	40.39	43.46	0.89	100.00
	113	546	647	24	1330
	8.50	41.05	48.65	1.80	100.00

第41表 吉田城遺跡出土陶磁器類の材質組成表

全体	供膳具	調理具	貯蔵具	灯火具	火具	化粧具	神仏具	喫煙具	調度具	合計
全体	8534	1108	967	1073	438	195	477	37	662	13491
遺構出土	63.26	8.21	7.17	7.95	3.25	1.45	3.54	0.27	4.91	100.00
SK248	4872	589	482	683	216	82	234	15	358	7531
SK340	64.69	7.82	6.40	9.07	2.87	1.09	3.11	0.20	4.75	100.00
SE106	49	5	1	9	0	0	0	0	0	64
SE104	76.56	7.81	1.56	14.06	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	100.00
SD129	20	1	1	20	1	0	1	0	0	44
SD102	45.45	2.27	2.27	45.45	2.27	0.00	2.27	0.00	0.00	100.00
SK091	193	12	17	25	5	0	0	0	2	254
SE107	75.98	4.72	6.69	9.84	1.97	0.00	0.00	0.00	0.79	100.00
SK053	166	10	23	2	2	0	2	0	40	245
SK055	67.76	4.08	9.39	0.82	0.82	0.00	0.82	0.00	16.33	100.00
SK086	1052	88	43	42	4	12	12	1	22	1276
SK274	82.45	6.90	3.37	3.29	0.31	0.94	0.94	0.08	1.72	100.00
SK180	175	54	11	24	1	3	1	0	28	297
SK032	58.92	18.18	3.70	8.08	0.34	1.01	0.34	0.00	9.43	100.00
SK092	59	8	0	0	31	0	0	0	17	115
SD101	51.30	6.96	0.00	0.00	26.96	0.00	0.00	0.00	14.78	100.00
その他の遺構合計	23	16	0	6	3	0	10	0	0	58
検出	39.66	27.59	0.00	10.34	5.17	0.00	17.24	0.00	0.00	100.00
その他	49	14	6	4	3	0	0	0	17	93
	52.69	15.05	6.45	4.30	3.23	0.00	0.00	0.00	18.28	100.00
	36	12	5	4	1	5	4	0	9	76
	47.37	15.79	6.58	5.26	1.32	6.58	5.26	0.00	11.84	100.00
	62	15	3	22	2	2	5	1	10	122
	50.82	12.30	2.46	18.03	1.64	1.64	4.10	0.82	8.20	100.00
	31	13	2	0	8	0	0	0	1	55
	56.36	23.64	3.64	0.00	14.55	0.00	0.00	0.00	1.82	100.00
	86	5	7	14	30	0	12	0	29	183
	46.99	2.73	3.83	7.65	16.39	0.00	6.56	0.00	15.85	100.00
	130	8	1	3	1	0	18	0	54	215
	60.47	3.72	0.47	1.40	0.47	0.00	8.37	0.00	25.12	100.00
	40	7	0	4	0	0	0	0	19	70
	57.14	10.00	0.00	5.71	0.00	0.00	0.00	0.00	27.14	100.00
	1035	129	131	170	42	35	103	6	35	1686
	61.39	7.65	7.77	10.08	2.49	2.08	6.11	0.36	2.08	100.00
	1666	192	231	334	82	25	66	7	75	2678
	62.21	7.17	8.63	12.47	3.06	0.93	2.46	0.26	2.80	100.00
	2964	342	329	327	160	78	187	20	223	4630
	64.02	7.39	7.11	7.06	3.46	1.68	4.04	0.43	4.82	100.00
	698	177	156	59	66	35	56	2	81	1330
	52.48	13.31	11.73	4.44	4.96	2.63	4.21	0.15	6.09	100.00

第40表 吉田城遺跡出土陶磁器類の用途組成表

参考資料10

	供膳具	調理具	貯蔵具	灯火具	火 具	化粧具	神仏具	喫煙具	調度具	合 計
全 体	6033	1108	967	3574	438	195	477	37	662	13491
	44.72	8.21	7.17	26.49	3.25	1.45	3.54	0.27	4.91	100.00
遺構出土	2969	589	482	2586	216	82	234	15	358	7531
	39.42	7.82	6.40	34.34	2.87	1.09	3.11	0.20	4.75	100.00
SK248	37	5	1	21	0	0	0	0	0	64
	57.81	7.81	1.56	32.81	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	100.00
SK340	15	1	1	25	1	0	1	0	0	44
	34.09	2.27	2.27	56.82	2.27	0.00	2.27	0.00	0.00	100.00
SE106	155	12	17	63	5	0	0	0	2	254
	61.02	4.72	6.69	24.80	1.97	0.00	0.00	0.00	0.79	100.00
SE104	101	10	23	67	2	0	2	0	40	245
	41.22	4.08	9.39	27.35	0.82	0.00	0.82	0.00	16.33	100.00
SD129	396	88	43	698	4	12	12	1	22	1276
	31.03	6.90	3.37	54.70	0.31	0.94	0.94	0.08	1.72	100.00
SD102	99	54	11	100	1	3	1	0	28	297
	33.33	18.18	3.70	33.67	0.34	1.01	0.34	0.00	9.43	100.00
SK091	59	8	0	0	31	0	0	0	17	115
	51.30	6.96	0.00	0.00	26.96	0.00	0.00	0.00	14.78	100.00
SE107	14	16	0	15	3	0	10	0	0	58
	24.14	27.59	0.00	25.86	5.17	0.00	17.24	0.00	0.00	100.00
SK053	46	14	6	7	3	0	0	0	17	93
	49.46	15.05	6.45	7.53	3.23	0.00	0.00	0.00	18.28	100.00
SK055	31	12	5	9	1	5	4	0	9	76
	40.79	15.79	6.58	11.84	1.32	6.58	5.26	0.00	11.84	100.00
SK086	52	15	3	32	2	2	5	1	10	122
	42.62	12.30	2.46	26.23	1.64	1.64	4.10	0.82	8.20	100.00
SK274	31	13	2	0	8	0	0	0	1	55
	56.36	23.64	3.64	0.00	14.55	0.00	0.00	0.00	1.82	100.00
SK180	86	5	7	14	30	0	12	0	29	183
	46.99	2.73	3.83	7.65	16.39	0.00	6.56	0.00	15.85	100.00
SK032	91	8	1	42	1	0	18	0	54	215
	42.33	3.72	0.47	19.53	0.47	0.00	8.37	0.00	25.12	100.00
SK092	25	7	0	19	0	0	0	0	19	70
	35.71	10.00	0.00	27.14	0.00	0.00	0.00	0.00	27.14	100.00
SD101	776	129	131	429	42	35	103	6	35	1686
	46.03	7.65	7.77	25.44	2.49	2.08	6.11	0.36	2.08	100.00
その他の 遺構合計	955	192	231	1045	82	25	66	7	75	2678
	35.66	7.17	8.63	39.02	3.06	0.93	2.46	0.26	2.80	100.00
検 出	2449	342	329	842	160	78	187	20	223	4630
	52.89	7.39	7.11	18.19	3.46	1.68	4.04	0.43	4.82	100.00
その他	615	177	156	142	66	35	56	2	81	1330
	46.24	13.31	11.73	10.68	4.96	2.63	4.21	0.15	6.09	100.00

第42表 吉田城遺跡出土陶磁器類の用途組成表2

第3節 まとめ

以上、吉田城遺跡(愛知県東三河事務所地点)5,300㎡における発掘調査によって得られた成果を項目毎に区分し、事実関係をでき得る限り詳細に報告してきた。本文中にも述べてきたように、近世吉田城下町の遺跡として調査が開始されたのであるが、それ以外に古代や中世の遺構・遺物も確認されている。最後に、明かにし得た内容をまとめておきたい。

古 代

平安時代に編纂された『和名類聚抄』⁽²¹⁾によれば、渥美郡の郷名として幡太・和太・渥美・高蘆・磯部・大壁の6つがあげられ、この6郷が律令制度によって定められた古代の渥美郡の集落を示している。その所在地については、さまざまな説があり、1カ所に比定することは難しい。今回の調査地点の所在する八町に隣接する今橋町や飽海町は、渥美郷の比定地として最有力候補地であり、古代より大きな集落があったことが、文献の方からも確認されている。今回検出された遺構群が、これらであることを証明しているのかを窺い知ることはできなかったが、柱穴列の示す方向性が豊橋警察署地点で検出された竪穴住居跡の主軸方向ともほぼ同様であることから⁽²²⁾、奈良時代の時期にある程度の広がりを持つ集落が存在していたことが確認された。出土遺物は、遺構から出土したものは少なく、近世遺構の埋土中や検出段階でのものがほとんどである。大きく2つの時期に分けることができ、1つは8世紀前半を中心とした湖西窯の須恵器が出土する奈良時代と、10世紀前半を中心とする二川窯の灰釉陶器と甕等の土師器が出土する平安時代であり、奈良時代の遺物がその大半を占めている。

中 世

中世において、三河湾沿岸地域は伊勢神宮の勢力が強く、調査区の所在する周辺にも「飽海神戸」や「吉田御薊」等が設置されており⁽²³⁾、この地域に住む人々と伊勢神宮とは深い関係があったことが想定されます。今回、出土遺物等から鎌倉時代の溝や竪穴住居跡、井戸等が検出されているが、これらが伊勢神宮との関係を直接に示すものではなかった。溝は全体に浅く、後世の削平を受けているものと思われるが、古代や近世の方向性とは異なっており、南北軸より東西に30～40度を示している。6条の溝は一定の方向性を持っていることから、屋敷を区画する溝ではないかと考えられる。どの遺構においても、出土する遺物は小片ばかりで、年代決定にまで至っていない。唯一、1基のみ検出された井戸において、大量の山茶碗類と多くの自然遺物(貝類・昆虫類・植物遺体・動物遺体等)が確認されている。出土遺物等から、13世紀中頃には完全に埋設されていると考えられるが、井戸としての機能を失ってからすぐに埋められたのではなく、しばらくの間はごみ穴として利用されていたことが、出土した多くの資料からも窺い知ることができる。出土遺物は、古代と同様で近世遺構の埋土中や検出段階での出土が多いが、12世紀後半～13世紀前半の渥美窯の山茶碗類が中心で、他に常滑窯の甕類や壺類、貿易陶磁器である青磁碗片も確認されている。

また、豊橋警察署地点や豊橋市教育委員会による発掘調査において、中世吉田城すなわち今橋城に関連する時期の遺構が確認されている⁽²⁴⁾が、今回の調査においては確認されてはいない。ただし、こ

の時期の遺物は、外堀等の近世遺構埋土中や検出段階では確認されている。これが単に、今橋城の範囲がこの地点にまで及んでいなかったことを示しているのであろうか、ここだけの結果では不明なことが多いので、今後の発掘調査の成果により明らかにしていただければ幸いである。

近世

「吉田藩士屋敷図」等の絵図に描かれている外堀と武家屋敷が、今回の発掘調査において地中より現実に我々の目の前にその姿を表わしたのである。これまでその存在は確認されていた外堀が、初めて検出されその規模に目を見張らされたり、また、屋敷地境が溝や柵列、または塀とさまざまな形で区画されていること、建物跡や井戸等の検出、大量の出土遺物等、当時の人々の生活の痕跡を確認し得たことは、今回の発掘調査の成果としてあげることができよう。検出された多くの遺構の中から7軒の武家屋敷地と、そこに住んでいた人々を文献資料や絵図等から推定してきた。近世の遺跡の調査において、絵図や文献資料における成果の重要性は高いが、安易に絵図や文献資料に依存するのではなく、これを検証していく姿勢が必要ではないだろうか。これまで言われてきたように池田照政の時期の町割りが近世を通じて幕末にまで続いていたことは今回の調査においても証明されている。しかし、少なくとも18世紀後葉～末葉頃に照政の町割りに合わせた形ではあるが屋敷地境がやや変更されているようである。これは、出土遺物から、18世紀後葉までの遺物群と18世紀末から19世紀中葉までの遺物群とに大きく分けられることからこのように想定されるが、同様のことが豊橋警察署地点においても指摘されていることもあり⁽²⁵⁾、この時期に何等かの変化を窺うことができる。

また、大量に出土した遺物は、27ℓ入りコンテナ約400箱余に及んでいる。その大半を占めているのは、近世陶磁器類や土器、瓦類であるが、その他にも焼塩壺・人形類・木製品・金属製品・石製品等、さまざまな遺物がある。個々の遺物に関する記述を省略して、近世陶磁器類と土器を用途により分類し、口縁残存率・口縁破片数・総破片数を求め、遺構毎にその用途や材質による組成の変化を明らかにしようとした。しかし、良好な遺構に恵まれなかったこともありそれぞれの組成の相違を明確にし得たとは言い切れない。また、同様の分析を実施している名古屋城三の丸遺跡や外町遺跡との比較・検討についても、単なるデータの紹介に終始し、出土遺物の絶対量の変化についてにまで言及することができずに、用途や材質組成の相違、地域差、身分・階級による遺物組成の格差等、すべてが不十分なままで終わってしまっている。このような遺物分析を実施している遺跡は少なく、他の近世遺跡による分析方法もさまざまである。そのバラバラのデータをどのように利用していけばいいのであろうか。でき得れば、近世遺跡における遺物分析の統一が図れないものであろうか。統一化は困難であるとしても、さまざまな分析に対応できるような遺物分類やデータの共有が果たせないものであろうか。大量に出土する近世陶磁器類においては無理かも知れないが、そのような方向にこれから進んでいくことが強く希望される。近世考古学が現在抱えている大きな課題であろう。

さらに今回、近世陶磁器類の用途・材質組成の整理に力点を置きすぎたため、それ以外の遺物がほとんど検討されることなくおざりにされた感がある。全出土遺物の総合的な分析により、初めて当時の人々の生活の実態に迫ることができるものと思われる。これは単に編者の力量不足に他ならず、記して謝罪しておきたい。

(小嶋廣也)



第156図 吉田城遺跡周辺の地籍図（「吉田城址（I）」より転載）

西暦	年号	歴代城主	吉田城関連事項	日本
1467	応仁元			応仁の乱(~77)
1505	永正2	牧野古白	この年牧野古白、今橋城を築くという<一説に明応5年(1496)>	
1506	永正3	戸田宣成	10月 今川氏親今橋城を攻略、戸田憲光が牧野古白を敗る	
1519	永正16	牧野成三	この年牧野成三、戸田宣成を逐い今橋城に入る	
1522	大永2	牧野信成	この年牧野信成、今橋を吉田に改めるという	
1529	享禄2		この年松平清康、吉田城を攻め東三河の主部を支配下に置く	
1532	天文元	松平家臣	5月 松平清康、牧野信成を討ち吉田城落城という	山城法華一揆
1536	天文5	大橋知尚	12月 今川氏親、大橋知尚を吉田城に置くという	天文法華の乱
1537	天文6	戸田宣成	この年渥美郡大崎在城の戸田憲光、牧野伝兵衛を逐い吉田城を奪うという	
1543	天文12			鉄砲伝来
1546	天文15	大原資良	11月 今川義元、戸田憲光を逐い吉田城を攻略する	
1549	天文18			ザヴィエル来航
1560	永禄3			桶狭間の戦い
1564	永禄7	小原鎮実	5月 吉田城代小原鎮実、松平勢と下地に戦う	
			6月 松平家康、吉田を攻め酒井忠次に吉田小郷一円を宛行う	
1565	永禄8	酒井忠次	3月 松平家康、三河を統一し後吉田城開城される	
1567	永禄10		この年酒井忠次、橋尾井堰を開鑿する	
1568	永禄11			織田信長入京
1570	元亀元		この年豊川に土橋架橋されるという	姉川の戦い
1571	元亀2		4月 武田信玄、吉田城等を攻める	
1573	天正元			室町幕府滅亡
1575	天正3			
1579	天正7		11月 酒井忠次、吉田方新田へ横須賀原切発屋敷田畠の条々を下す	
1582	天正10			本能寺の変
1584	天正12			小牧・長久手の戦い
1588	天正16	酒井家次	10月 酒井忠次、致仕して京都桜井に住し、嗣子家次封を継ぐ	刀狩令
1589	天正17		11月 徳川家康、東三河郷村に年貢定書を下す	
1590	天正18		8月 徳川家康関東に移封とともに、酒井家次下総白井に移封	小田原征伐
		池田照政	8月 池田照政美濃岐阜より吉田城主となり、15万2千石を領す	
			9月 豊臣秀吉、この頃から三河の検地を実施する	
1600	慶長5		12月 池田照政、播磨姫路52万石に移封となる	関ヶ原の戦い
1601	慶長6	松平家清	2月 松平(竹谷)家清、武蔵八幡山より吉田3万石に移封となる	
1603	慶長8			江戸幕府開府
1610	慶長15	松平忠清	12月 松平家清没し、忠清遺領を継ぐ	
1612	慶長17		4月 松平忠清没し、後嗣なく絶家となる(後、宝飯郷中に5千石で再興)	
		松平忠利	11月 松平(深溝)忠利、三河深溝より吉田3万石に移封となる	
1615	元和元			大坂城落城 武家書法度等制定
1622	元和8		11月 吉田城本丸御殿完成する	
1632	寛永9	松平忠房 水野忠清	6月 松平忠利没す 8月 松平忠房遺領を継ぎ、三河刈谷に移封となる	
			8月 水野忠清、三河刈谷より吉田4万石に移封となる(後5千石加増)	
1637	寛永14			島原の乱(~38)
1642	寛永19	水野忠善	7月 水野忠清信濃松本に転封となり、水野忠善駿河田中より吉田4万5千石に移封となる	
1645	正保2	小笠原忠知	7月 水野忠善三河岡崎に転封となり、小笠原忠知豊後杵築より吉田4万5千石に移封となる	
1654	承応3		この年向山池を築立て、城下の外堀に流入させる	
1663	寛文3	小笠原長矩	7月 小笠原忠知没す 10月 小笠原長矩遺領を継ぐ	
1669	寛文9		3月 小笠原長矩、前芝燈明台を建設する	
1678	延宝6	小笠原長佑	2月 小笠原長矩没す 3月 小笠原長佑遺領を継ぐ	
1690	元禄3	小笠原長重	6月 小笠原長佑没す 10月 小笠原長重遺領を継ぐ	湯島聖堂落成
1693	元禄6		8月 吉田城下の下水道改修されるという	
1697	元禄10		4月 小笠原長重老中となり、武蔵岩槻へ転封となる	
		九世重之	6月 九世重之、丹波亀山より吉田5万石に移封となる	
1702	元禄15		8月 九世重之、新居関番を命じられる(以後吉田藩管轄)	赤穂浪士討入

第43表 吉田城関連略年表(1)

西暦	年号	歴代城主	吉田城関連事項	日 本
1705	宝永 2	牧野成春	10月 九世重之若年寄となり(同年9月)、下総関宿に転封となり、牧野成春関宿より吉田8万石に移封となる	
1707	宝永 4	牧野成央	3月 牧野成春没す 5月 牧野成央遺領を継ぐ 10月 大地震により吉田城本丸御殿倒壊する	
1712	正徳 2	松平信祝	7月 牧野成央日向延岡に転封となり、松平(大河内)信祝下総古河より吉田7万石に移封となる	
1716	享保元			享保の改革(~45)
1729	享保14	松平資訓	2月 松平信祝大坂城代となり、遠江浜松に転封となり、松平(本庄)資訓浜松より吉田7万石に移封となる	
1749	寛延 2	松平信復	10月 松平資訓京都所司代となり、遠江浜松に転封となり、松平(大河内)信復浜松より吉田7万石に移封となる	
1752	宝暦 2		7月 藩校時習館創設される	
1768	明和 5	松平信礼	9月 松平信復没す 11月 松平信礼遺領を継ぐ	
1770	明和 7	松平信明	6月 松平信礼没す 7月 松平信明遺領を継ぐ	
1779	安永 8		10月 吉田本町医師藤井宗淳方より出火、4百余軒が焼亡する	
1782	天明 2			天明の大飢饉(~87)
1787	天明 7			寛政の改革(~93)
1788	天明 8		4月 松平信明、老中となる	
1817	文化14	松平信順	8月 松平信明没し、松平信順遺領を継ぐ	
1837	天保 8		5月 松平信順、老中となる(同年8月辞職する)	
1841	天保12			天保の改革(~43)
1842	天保13	松平信宝	12月 松平信順隠居し、松平信宝遺領を継ぐ	異国船打払令
1844	弘化元	松平信璋	10月 松平信宝没す 12月 松平信璋遺領を継ぐ	
1849	嘉永 2	松平信古	7月 松平信璋没す 11月 松平信古遺領を継ぐ	
1853	嘉永 6			ペリー来航
1854	安政元		11月 大地震により城内建物倒壊多し	日米和親条約締結
1858	安政 5			日米修好通称条約締結・安政の大獄
1860	万延元			桜田門外の変
1862	文久 2		6月 松平信古、大坂城代となる	坂下門外の変
1863	文久 3			薩英戦争
1864	文久 4			長州征伐
1865	慶応元		2月 松平信古、大坂城代を辞職する	条約勅許
1866	慶応 2			
1867	慶応 3			大政奉還
1868	明治元			鳥羽・伏見の戦い
1869	明治 2		2月 大河内信古、版籍奉還を奏請する	

第44表 吉田城関連略年表(2)

<参考文献>

豊橋市美術博物館 『吉田城と歴代城主』 1989

豊橋市史編纂委員会 『豊橋市史 第1巻・第2巻』 1973・1975

<註>

- 1) 川井啓介 『吉田城遺跡』 (財)愛知県埋蔵文化財センター 1992
豊橋市史編纂委員会 『豊橋市史 第2巻 本文編 近世』 1975
- 2) 註1) 川井氏報告書
- 3) 註2) と同じ
- 4) 全部で6点確認している。他の2点は、1つは豊橋市美術博物館所蔵の絵図であるが、深井氏所蔵の「吉田藩士屋敷図」と同様であるため割愛した。もう1点は、豊橋市中央図書館所蔵の「松平豊後守資訓公時代吉田城武家屋敷図」(本庄松平氏、享保14(1729)～寛延2(1749)を描いたもの)であるが、文字が不鮮明で不明な点が多いため、今回の調査からは省いている。
- 5) 豊橋市史編纂委員会 『豊橋市史 第6巻 史料編 近世編藩史料』 1976
- 6) 註5) と同じ、「吉田藩分限帳」は大河内松平家の家臣を記したものであるが、3種類残されている。1つ目は表題に「寛延吉田藩分限帳」とあるが安永9年(1780)のもの、2つ目は表題に「松平伊豆守家中分限帳」とあり、これが上・下に分かれていて、上巻は吉田・新居・大津分で安政6年(1859)、下巻は江戸分で嘉永7年(1854)である。それに弘化2年(1845)の「吉田藩高附帳」、元治元年(1864)の「御用達連名」等が付記されている。全て、『豊橋市史』に収録されている。
- 7) 「吉田藩士屋敷図」については、郡奉行であった柴田猪助(善伸)の屋敷が新町の柳生門脇にあり、同人は天保6年(1835)に代官町より新町に屋敷替えとなり、嘉永2年(1849)には没しているため、この間の状況を描いたものであると考えられる。
- 8) 「吉田御城内惣絵図」については、その記載されている藩士の氏名から、大河内松平氏が最初に吉田藩に入封した段階を描いているものと判断される。そのため、正徳2年(1712)～享保14年(1729)が想定される。(第42表・第43表の吉田城関連年表を参照)
- 9) 「吉田藩士屋敷図」については、絵図の中に柴田収治の名前が見えている。これは、註7) で前述した柴田猪助の子供であることがわかっていることから、この絵図よりは後の時期の様子を描いているものであると、豊橋市美術博物館の増山真一郎氏、同高橋洋充氏より御教示いただいた。
- 10) 「吉田藩元禄役寄帳(仮題)」については、元々は徳国文庫に所蔵されていた史料で、元禄10年(1697)8月に小笠原家と久世家との交替を記したもので、前半は藩士屋敷図、後半には役目及び禄高について書かれた郷土史料である。昭和18年(1943)に近藤恒次氏により書き記されたものが現在は橋良文庫に残されているが、原本は昭和20年(1945)6月の豊橋空襲の際に焼失したものとされている。
- 11) 前山 博 『伊万里焼の流通—記録に求めて』 『別冊太陽 古伊万里』 平凡社 1988
同 『近世、伊万里焼の流通—記録から探る—』 『国内出土の肥前陶磁 古唐津・伊万里の流通を探る』 九州陶磁文化館
- 12) 遠藤才文 『名古屋城三の丸における陶磁器の消費動向—遺物分析試論(1) 播鉢に焦点をあてて—』 『近世陶磁器の諸様相—消費地における17・18世紀の器種構成— 第5回関西近世考古学研究会発表要旨』 1993
- 13) 播鉢の分類については、本報告書60～61頁を参照していただきたい。
- 14) 播鉢の消費絶対量の変化とは、Ⅰ類からⅧ類に分類された播鉢を各形態毎に数値で示したものの。数値には、接合後口縁残存率、接合前口縁破片数、さらに残存率/破片数の3つで示している。
- 15) 播鉢の消費量基準増加率とは、註14) で求められた播鉢の消費絶対量の変化の数値を利用し、それぞれの数値を、Ⅲ類に分

類された播鉢を基準としてこれを100とした場合に、他の形態の播鉢がどれだけ増減をしているのかを百分率で示したものである。

- 16) 播鉢の消費量増加率とは、註14)で求められた播鉢の消費絶対量の変化の数値を利用し、古い播鉢から次の播鉢へどのぐらゐの比率で増加しているのかを百分率で示したもの。個体増加率と破片増加率を求められている。播鉢の消費絶対量の変化や播鉢の消費量基準増加率では、VI類に分類された播鉢だけが極端に落ち込んでいるように見えていたが、これによりIII類→IV類→V類→VI類と播鉢の消費量が徐々に減少していることが確認されている。
- 17) 金子健一 「名古屋とその周辺における18・19世紀の陶磁器と土器」 『近世陶磁器の諸様相—消費地における18・19世紀の器種構成— 第6回関西近世考古学研究会発表要旨』1994
- 18) 服部 郁 「幕末から明治の瀬戸窯—瀬戸新製焼—」 『遺跡にみる幕末から明治 江戸遺跡研究会第6回大会発表要旨』1993
- 19) 井汲隆夫 「消費地(7) 江戸」 『近世陶磁器の諸様相—消費地における18・19世紀の器種構成— 第6回関西近世考古学研究会発表要旨』1994
- 20) 器種分類については、碗類11器種、皿類11器種、鉢類31器種、甕類4器種、壺類6器種、瓶類16器種、鐘形類5器種、鍋類4器種、釜類2器種、水注類8器種、箱類2器種、杓子類2器種、乗燭類2器種、器台類10器種、その他の特殊類10器種の計124器種に分類されている。また、製作地別は材質とともに分けられ、磁器が肥前系、波佐見・平戸系、瀬戸・美濃系、他・不明の4つ、陶器が肥前系、瀬戸・美濃系、信楽系、京焼系、志戸呂系、他・不明の6つ、炆器は備前系、明石・堺系、丹波系・常滑系、他・不明の5つ、土器は江戸在地系、泉州系、播磨系、他・不明の4つに細分されている。

また、推定個体数の算出方法としては、同一遺構内の陶磁器類・土器類について個別別資料と破片資料に分ける。個別資料については、そのまま1個体として数える。破片資料については、底部の残存率を1/8単位で数え、1/8以下の破片には1/16を、1/8～2/8の破片には3/16を、2/8～3/8の破片には5/16を、3/8～4/8の破片には7/16を、4/8以上の破片には1をそれぞれに掛け合わせた数値(小数点以下四捨五入)に、個別資料数を合わせて得られた数値が推定個体数とされている。

詳細については、以下の報告書を参照していただきたい。

新宿区四谷三丁目遺跡調査団他 『四谷三丁目遺跡』1991

新宿区内藤町遺跡調査会他 『内藤町遺跡』1992

新宿区南町遺跡調査団他 『南町遺跡』1994

- 21) 承平年間(931～937)に、源順により編纂されたわが国最初の分類体百科辞典である。
- 22) 註2)と同じ
- 23) 建久三年八月「伊勢大神宮神領注文」 『鎌倉遺文 第2巻』
- 24) 註2)と同じ
豊橋市教育委員会・豊橋遺跡調査会 『吉田城址(1)』1994
- 25) 註2)と同じ



付 表

(遺構一覧表)

凡 例

1. 計測値は、cmで表示した。
2. 計測できるものはそのまま表示してあり、推定できるものについては、指定した値に()をつけてある。推定できないものについては、最大値を長径に()をつけて表示し、短径には — をつけてある。計測不能または観察不能には — で表示した。
3. 時期は、古代・中世・江戸前期・江戸後期の4つで表示したが、江戸前期か後期か判断のつかないものについては、江戸とだけ表示した。

建物跡 (SB)

調査区	新遺構番号	グリッド	旧遺構番号	時期
92A	SB 001	IF4h-4i	SK004・SK005・SK007	中世
92A	SB 002	IF4h	SK001	中世
93B	SB 101	IE5i-6j	P241・P248・P238・P224 P174・P1493・SK035・P191 P193・P204	江戸前期
93B	SB 102	IE6g-6h	P179・P180・P181・P1480	江戸後期
93B	SB 103	IE6i	P184・P142・P183・P1483 P1484	江戸後期

調査区	新遺構番号	グリッド	旧遺構番号	時期
93B	SB 104	IE4s	—	江戸後期
92A	SB 105	IF3a-3c	P474・P806・P406・P446 P427・SK028	江戸後期
92A	SB 106	IF5m-5o	P511・P532・P522・P174 P175・P173・P176・P185	江戸後期
92A	SB 107	IE8q-11q	P229・P673・P671・P672 P257・P259	江戸後期

柵列跡 (SA)

調査区	新遺構番号	グリッド	旧遺構番号	時期
93B	SA 001	IF3k-3m	P600・P626・P601・P704 P603・P221・P756	古代
92A	SA 101	IE3e-5e	P037・P036・P438・P439 P440	江戸
92A	SA 102	IE3e-5e	P894・P893・P892・P891 P092	江戸
92A	SA 103	IE111-121	P644・P646・P654	江戸

調査区	新遺構番号	グリッド	旧遺構番号	時期
92A	SA 104	IE12l-12n	P659・P641・P638・P635 P652	江戸
92A	SA 105	IE12l-12n	P642・P640・P1021・P634	江戸
92A	SA 106	IE12l-12n	P642・P640・P637・P1011	江戸
92A	SA 107	IE12l-12n	P643・P639・P653	江戸
93B	SA 108	IF5i-5j	P053・P137・P242・P415	江戸
93B	SA 109	IF5h-5j	P093・P128・P100・P124 P247・P266・P283	江戸

溝 (SD)

調査区	新遺構番号	グリッド	旧遺構番号	規模 (cm)			時期
				長さ	幅	深さ	
92A	SD 101		SD 001	(4060)	(1380)	315	江戸
93B	SD 102	IE7f-9n	SD 016 SD 014 SD 015 SX 112 SX 113 Pit 998	(7240)	240	73	江戸後期
93B	SD 103	IE5h	SD 003	(470)	76	19	江戸
93B	SD 104	IE4i	SD 013	(270)	60	—	江戸前期
93B	SD 105	IE3k	SD 011	(312)	33	15	江戸後期
93B	SD 106	IE4k-k	SD 012 SD 010	660	52	22	江戸後期
93B	SD 107	IE5k	SD 173	402	62	—	—
93B	SD 108	IE6k-6s	SD 147	(654)	(78)	15	江戸後期
93B	SD 109	IE6k-6s	SD 146 SD 160	(380)	130	330	江戸前期
93B	SD 110	IE6k-6m	SD 111 SD 115	(604)	57	8	江戸
93B	SD 111	IE7k	SD 005	494	339	11	江戸後期
93B	SD 112	IE8k	SD 017	(444)	72	24	江戸前期
93B	SD 113	IE3l	SD 109	(184)	40	22	江戸前期
93B	SD 114	IE3l-6m	SD 101 SD 102 SK 117	(1919)	194	11	江戸前期
93B	SD 115	IE5l	SD 105 SD 108	(330)	40	10	江戸後期
93B	SD 116	IE6l-6m	SD 107 SD 114	(670)	44	11	江戸前期
93B	SD 117	IE3m	SD 106	(584)	90	13	江戸後期
93B	SD 118	IE3m-3p	SD 113 SD 125 SD 127 SD 128	(1190)	98	24	江戸
93B	SD 119	IE5m-8m	SD 122 SX 105	(1386)	167	13	江戸
93B	SD 120	IE9m-10n	SD 157	(1052)	152	55	江戸後期
93B	SD 121	IE9m	SD 145	(740)	(148)	15	江戸後期
93B	SD 122	IE3n	SD 119	(223)	90	24	江戸後期
93B	SD 123	IE3n	SD 129	(150)	—	19	江戸
93B	SD 124	IE6n	SD 123	(355)	33	7	江戸
93B	SD 125	IE6n	SD 126	(390)	60	9	江戸前期
93B	SD 126	IE9n	SD 163	(374)	51	9	—
93B	SD 127	IE4o-6o	SD 140	920	76	12	—
93B	SD 128	IE3p-4p	SD 131	(680)	83	17	江戸後期
93B	SD 129	IE3p-10o	SD 116 SD 133 SX 110 SX 128	(3780)	255	53	江戸後期

調査区	新遺構番号	グリッド	旧遺構番号	規模 (cm)			時期
				長さ	幅	深さ	
93B	SD 130	IE5p	SD 135	346	62	15	—
93B	SD 131	IE5p-7n	SD 174	(1370)	—	15	—
93B	SD 132	IE3q-4q	SD 164 SD 132	(813)	185	14	江戸後期
93B	SD 133	IE4q-4t	SD 139	(1414)	148	19	江戸前期
93B	SD 134	IE4q-4t	SD 142	(1326)	(375)	18	江戸後期
93B	SD 135	IE5q-5s	SD 138 SD 150 SD 151	(3320)	54	7	—
93B	SD 136	IE5q-5s	SD 152 SD 148	(1332)	64	11	—
93B	SD 137	IE6r	SD 175	(250)	50	—	—
93B	SD 138	IE3s	SD 006	(182)	60	5	戦国期か
93B	SD 139	IE5s	SD 155	(202)	—	5	江戸前期
92A	SD 140	IE9s-9t	SD 307	(102)	29	10	—
93B	SD 141	IE3t	SD 165	(470)	32	11	—
92A	SD 142	IE9t	SD 308	(294)	66	8	—
92A	SD 143	IE9t	SD 305	(88)	63	10	—
92A	SD 144	IF3a-4a	SD 009	(520)	92	12	中世
92A	SD 145	IF4a-4c	SD 010 SD 011 SK 052	(1098)	59	15	江戸
92A	SD 146	IF3d	SD 012	(62)	47	15	江戸後期
92A	SD 147	IF10d-11e	SD 302	(892)	66	26	江戸後期
92A	SD 148	IF3e-5e	SD 006	(802)	94	27	江戸後期
92A	SD 149	IF3e-5e	SD 007	(654)	41	14	江戸前期
92A	SD 150	IF4i-5i	SD 014	(183)	—	18	—
92A	SD 151	IF5i	SD 013	(49)	26	23	古代
92A	SD 152	IF11i	SD 301	(280)	64	8	中世
92A	SD 153	IF4m	SD 128	(174)	—	15	—
92A	SD 154	IF4m	SD 125	(96)	43	13	江戸
92A	SD 155	IF4m	SD 120	(113)	44	8	古代
92A	SD 156	IF4m-5m	SD 121 SD 122	(277)	78	16	江戸後期
92A	SD 157	IF4m-5m	SD 123 SD 124	(578)	73	35	江戸後期
92A	SD 158	IF5m-6q	SD 106 SD 107 SD 110 SD 114	(2034)	60	41	江戸後期
92A	SD 159	IF6m-6q	SD 102 SD 109 SD 112 SD 113 SK 150	(2220)	99	34	江戸後期
92A	SD 160	IF11m	SD 229	(218)	34	10	—
92A	SD 161	IF11m	SD 227	142	20	12	—
92A	SD 162	IF11m	SD 221	(271)	26	26	—

第45表 遺構一覧表 (1)

調査区	新遺構番号	グリッド	旧遺構番号	規模 (cm)			時期
				長さ	幅	深さ	
92A	SD 163	IF11m-11n	SD 228	(112)	26	7	—
92A	SD 164	IF5n-6n	SD 119	(140)	56	21	—
92A	SD 165	IF5n-6n	SD 118	(117)	52	16	—
92A	SD 166	IF5n-6q	SD 108 SD 111	(1523)	48	15	江戸前期
92A	SD 167	IF5n-6n	SD 115 SD 116	(414)	38	13	中世
92A	SD 168	IF11n	SD 223	(133)	38	7	—
92A	SD 169	IF11n	SD 224	(132)	51	12	—
92A	SD 170	IF11n	SD 222	(169)	42	14	—
92A	SD 171	IF12n-12o	SD 226	(88)	25	5	—
92A	SD 172	IF6o	SD 117	(163)	27	19	—
92A	SD 173	IF11o-13p	SD 219	(1144)	113	5	中世
92A	SD 174	IF12o	SD 215	87	39	15	—
92A	SD 175	IF12o	SD 225	(178)	42	15	—
92A	SD 176	IF12o-12p	SD 217	327	56	30	江戸後期

井戸 (SE)

調査区	新遺構番号	グリッド	旧遺構番号	規模 (cm)			時期
				長さ	幅	深さ	
92A	SE 001	IF10a	SK 318	170	165	(349)	中世
93B	SE 101	IE4k	SE 101	(90)	—	(318)	江戸前期
93B	SE 102	IE6k	SK 032	180	111	(438)	江戸前期
93B	SE 103	IE6k	SK 046	210	178	(354)	江戸前期

土坑 (SK)

調査区	新遺構番号	グリッド	旧遺構番号	規模 (cm)			時期
				長さ	幅	深さ	
93B	SK 001	IE7f	SK 172	100	50	—	—
93B	SK 002	IE7f	SK 048	(200)	—	20	江戸
93B	SK 003	IE4g	SK 038	72	65	35	江戸後期
93B	SK 004	IE4g	SK 039	(66)	36	15	江戸前期
93B	SK 005	IE4g	SK 006 SK 036	400	240	37	江戸前期
93B	SK 006	IE5g	SK 011 SK 012	192	128	16	江戸前期
93B	SK 007	IE5g	SK 010	(174)	(103)	26	江戸後期
93B	SK 008	IE5g	SK 007	(145)	—	19	—
93B	SK 009	IE5g	SK 008	116	63	21	江戸前期
93B	SK 010	IE6g	SK 014	(96)	—	46	江戸
93B	SK 011	IE6g	SK 024	187	124	8	江戸後期
93B	SK 012	IE6g	SK 004	(133)	68	48	古代
93B	SK 013	IE6g	SK 009	(150)	102	16	江戸前期
93B	SK 014	IE6g	SX 002	214	142	11	江戸
93B	SK 015	IE7g	Pit 662	130	62	7	—
93B	SK 016	IE7g	SX 003	204	150	9	江戸後期
93B	SK 017	IE7g	SK 005	170	78	22	江戸後期
93B	SK 018	IE3h	SX 006	145	121	27	江戸
93B	SK 019	IE4h	SE 001	(124)	(110)	—	江戸後期
93B	SK 020	IE4h	SX 007	168	148	33	江戸
93B	SK 021	IE5h	Pit 024	100	48	34	—
93B	SK 022	IE5h	SK 029	100	62	19	江戸後期
93B	SK 023	IE6h	SK 018	(140)	—	5	江戸
93B	SK 024	IE6h	SK 016	(185)	(130)	16	江戸前期
93B	SK 025	IE6h-7h	SK 013 SK 019	257	125	26	江戸
93B	SK 026	IE6h	SK 015	150	147	—	—
93B	SK 027	IE6h	SK 026	227	192	15	江戸前期
93B	SK 028	IE7h	SK 023	242	170	12	江戸
93B	SK 029	IE7h	SK 021	186	102	19	—
93B	SK 030	IE7h	SK 020	(200)	—	15	江戸前期
93B	SK 031	IE7h	Pit 125	123	42	5	—
93B	SK 032	IE8h	SK 056	(312)	—	42	江戸後期
93B	SK 033	IE4i	SK 041	114	108	—	江戸
93B	SK 034	IE4i	Pit 635	104	44	—	江戸後期
93B	SK 035	IE4i	Pit 524	(130)	—	34	江戸前期
93B	SK 036	IE4i	SK 043	182	84	40	江戸
93B	SK 037	IE5i	SK 063	52	47	—	江戸
93B	SK 038	IE6i	SK 170	(103)	—	32	—
93B	SK 039	IE6i	SK 042	97	95	15	江戸
93B	SK 040	IE6i	Pit 161	144	(100)	5	—
93B	SK 041	IE7i	SK 022	(180)	87	12	江戸
93B	SK 042	IE7i	SK 028	132	57	11	—

調査区	新遺構番号	グリッド	旧遺構番号	規模 (cm)			時期
				長さ	幅	深さ	
92A	SD 177	IF5p-5q	SD 105	(230)	24	11	—
92A	SD 178	IF7p-8q	SD 202	(568)	126	33	江戸後期
92A	SD 179	IF9p-10p	SD 206 SK 217	(630)	(142)	27	中世
92A	SD 180	IF10p-10q	SD 210	(415)	75	37	江戸前期
92A	SD 181	IF11p	SD 220	(103)	24	17	—
92A	SD 182	IF11p-12p	SD 213	(563)	68	18	中世
92A	SD 183	IF12p	SD 216	(126)	41	20	江戸前期
92A	SD 184	IF5q	SD 104	(250)	45	24	江戸後期
92A	SD 185	IF6q	SD 103	(164)	—	12	—
92A	SD 186	IF7q	SD 201	(241)	—	29	江戸後期
92A	SD 187	IF8q-9p	SD 203	(940)	150	27	中世
92A	SD 188	IF9q-10q	SD 204	(586)	—	55	江戸前期
93B	SD 201	IF3h-4q	SD 001	(4592)	310	109	明治
93B	SD 202	IF4p-10p	SD 002	(3150)	300	108	明治

調査区	新遺構番号	グリッド	旧遺構番号	規模 (cm)			時期
				長さ	幅	深さ	
93B	SE 104	IE6l	SK 107	177	156	(426)	江戸前期
92A	SE 105	IE9s	SK 316	(108)	106	(372)	江戸後期
92A	SE 106	IF3d	SK 016	206	162	(462)	江戸前期
92A	SE 107	IF8p-9p	SE 201	152	(130)	(410)	江戸後期

調査区	新遺構番号	グリッド	旧遺構番号	規模 (cm)			時期
				長さ	幅	深さ	
93B	SK 043	IE8i	SK 058	170	87	26	江戸後期
93B	SK 044	IE8i	SK 059	(218)	—	6	江戸後期
93B	SK 045	IE3j	Pit1423	101	90	39	—
93B	SK 046	IE4j	Pit 489	114	60	19	江戸後期
93B	SK 047	IE5j	SK 027	(75)	59	—	江戸後期
93B	SK 048	IE5j	Pit1495	118	57	—	—
93B	SK 049	IE5j	SK 062	92	90	—	江戸前期
93B	SK 050	IE5j	Pit 266	112	63	46	江戸後期
93B	SK 051	IE7j	Pit 579	(120)	70	11	江戸後期
93B	SK 052	IE7j	SK 030	116	56	7	江戸後期
93B	SK 053	IE7j	SK 025	336	153	35	江戸後期
93B	SK 054	IE7j	SK 174	90	90	—	—
93B	SK 055	IE8j	SK 053	(380)	—	8	江戸後期
93B	SK 056	IE8j	SK 066	368	260	—	江戸後期
93B	SK 057	IE8j	SK 065	131	96	38	江戸
93B	SK 058	IE8j	SK 055	235	106	29	江戸後期
93B	SK 059	IE3k	SK 051	(140)	104	6	江戸
93B	SK 060	IE4k	SK 040	120	118	28	江戸
93B	SK 061	IE4k	SX 010	192	126	17	江戸
93B	SK 062	IE4k-5k	SK 044	184	81	25	—
93B	SK 063	IE4k	SX 011	172	139	157	江戸
93B	SK 064	IE4k	SK 047	113	51	9	江戸
93B	SK 065	IE5k	SX 009	92	—	18	江戸
93B	SK 066	IE5k	SK 049	155	114	27	江戸
93B	SK 067	IE5k	SK 031	(120)	47	10	江戸前期
93B	SK 068	IE5k	SK 034	126	98	87	江戸後期
93B	SK 069	IE5k	Pit 611	100	(89)	5	江戸
93B	SK 070	IE5k	Pit 438	165	105	9	江戸後期
93B	SK 071	IE5k	SK 045	(295)	144	22	江戸前期
93B	SK 072	IE6k	SK 061	72	60	—	江戸後期
93B	SK 073	IE6k	SK 173	57	41	—	—
93B	SK 074	IE6k	SK 060	62	58	—	江戸
93B	SK 075	IE6k	SX 008	(176)	—	10	江戸前期
93B	SK 076	IE6k	Pit 692	107	50	25	古代
93B	SK 077	IE7k	SK 033	140	76	8	江戸前期
93B	SK 078	IE7k	Pit 472	114	44	3	江戸前期
93B	SK 079	IE8k	Pit 683	(112)	(76)	—	—
93B	SK 080	IE8k	SK 057	(295)	120	72	江戸前期
93B	SK 081	IE8k	SK 052	(122)	—	7	—
93B	SK 082	IE8k	SK 177	(134)	70	—	—
93B	SK 083	IE8k	SK 064	154	76	24	—
93B	SK 084	IE4l	SK 109	94	88	27	江戸前期
93B	SK 085	IE4l	Pit 732	104	76	24	江戸後期
93B	SK 086	IE4l	SK 101	133	127	37	江戸後期
93B	SK 087	IE4l	SK 102	(154)	132	9	江戸後期

第46表 遺構一覧表(2)

調査区	新遺構番号	グリッド	旧遺構番号	規模 (cm)			時 期
				長さ	幅	深さ	
93B	SK 088	IE5l	Pit 737	203	—	24	—
93B	SK 089	IE6l	SK 108	120	80	18	江戸後期
93B	SK 090	IE6l	Pit 487	102	70	3	—
93B	SK 091	IE7l-8l	SK 105	332	200	21	江戸後期
93B	SK 092	IE7l	SK 118	162	107	43	江戸後期
93B	SK 093	IE7l	SK 159	(162)	86	5	—
93B	SK 094	IE7l	SK 115	194	100	49	—
93B	SK 095	IE7l	SK 114 SK 121	582	359	39	江戸前期
93B	SK 096	IE7l	SX 103	(345)	—	11	江戸後期
93B	SK 097	IE3m	SX 102	(480)	175	11	中世
93B	SK 098	IE3m	Pit1445	152	50	11	江戸後期
93B	SK 099	IE3m	Pit1446	104	62	16	江戸前期
93B	SK 100	IE4m	SK 104	(165)	(140)	8	江戸前期
93B	SK 101	IE4m-5m	SK 103	(300)	—	—	江戸後期
93B	SK 102	IE5m-7m	SK 113	245	177	50	江戸後期
93B	SK 103	IE5m	SK 106	(177)	155	23	江戸後期
93B	SK 104	IE5m	Pit1408	100	67	—	江戸前期
93B	SK 105	IE5m	SK 110	(110)	28	9	—
93B	SK 106	IE6m	Pit 850	(132)	—	9	—
93B	SK 107	IE10m	Pit1362	114	—	4	江戸後期
93B	SK 108	IE3n-3o	SK 124	(216)	37	9	江戸
93B	SK 109	IE3n-3o	SK 125	(114)	—	—	—
93B	SK 110	IE5n	Pit 811	122	78	22	江戸後期
93B	SK 111	IE5n	SK 112	184	48	20	—
93B	SK 112	IE6n	SK 132	(210)	50	4	—
93B	SK 113	IE6n	SK 133	116	22	—	古代
93B	SK 114	IE7n-8n	SK 150	107	91	15	江戸後期
93B	SK 115	IE7n	Pit 940	127	43	30	江戸後期
93B	SK 116	IE8n	SK 126	110	70	7	江戸後期
93B	SK 117	IE8n	Pit1392	(130)	(116)	9	—
93B	SK 118	IE8n	Pit1396	(210)	—	16	—
93B	SK 119	IE8n	SK 148	(180)	—	8	—
93B	SK 120	IE8n	SK 122	122	90	14	江戸後期
93B	SK 121	IE9n	Pit1360	(107)	—	14	—
93B	SK 122	IE9n	SK 165	(90)	25	—	—
93B	SK 123	IE10n	SX 124	462	—	33	江戸後期
93B	SK 124	IE3o	SK 127	(102)	42	4	江戸
93B	SK 125	IE4o	Pit 970	125	38	—	—
93B	SK 126	IE5o	SK 134	(116)	26	5	—
93B	SK 127	IE5o	SX 115	(76)	—	24	江戸前期
93B	SK 128	IE5o	SX 108	(154)	114	—	江戸後期
93B	SK 129	IE8o	SK 167	(180)	—	27	—
93B	SK 130	IE8o	Pit1268	(112)	60	10	江戸後期
93B	SK 131	IE8o	Pit1400	(146)	—	6	中世
93B	SK 132	IE8o	Pit1150	(80)	—	3	古代
93B	SK 133	IE3p	SK 168 SK 169 Pit1412	260	208	29	古代
93B	SK 134	IE3p	SX 109	105	98	22	江戸前期
93B	SK 135	IE4p-5p	SX 129	(296)	200	53	江戸後期
93B	SK 136	IE10p	Pit1402	102	52	6	—
93B	SK 137	IE3q	SK 135	200	54	5	江戸
93B	SK 138	IE5q	SK 166	(186)	—	—	江戸後期
93B	SK 139	IE5q	SK 175	(188)	—	—	—
93B	SK 140	IE7q	SX 118	(195)	—	4	—
93B	SK 141	IE7q	SK 138	168	(126)	—	—
93B	SK 142	IE7q-7r	SK 139	228	220	27	江戸前期
93B	SK 143	IE8q	SK 147	(136)	110	21	江戸
93B	SK 144	IE8q	Pit1124	(129)	42	—	—
93B	SK 145	IE8q	SK 140	136	135	6	江戸後期
93B	SK 146	IE8q	SK 145	(108)	77	8	—
93B	SK 147	IE8q	Pit1123	(120)	27	8	—
93B	SK 148	IE8q	SX 123	(398)	—	—	—
93B	SK 149	IE8q	SK 161	(88)	—	9	江戸後期
93B	SK 150	IE2r-3r	Pit1081	118	53	8	古代
93B	SK 151	IE3r	SK 156	(100)	—	5	江戸前期
93B	SK 152	IE3r	Pit1343	(108)	56	7	古代
93B	SK 153	IE3r	Pit1114	102	88	16	—
93B	SK 154	IE3r	SK 155	(90)	—	—	—
93B	SK 155	IE3r	SK 136	(154)	82	4	—
93B	SK 156	IE5r	Pit1345	(135)	65	18	江戸後期
93B	SK 157	IE5r	SK 164	(160)	(70)	3	江戸
93B	SK 158	IE6r	Pit1136	215	202	13	—
93B	SK 159	IE7r	SK 152	(222)	—	17	古代
93B	SK 160	IE7r	Pit1136	(102)	85	36	中世
93B	SK 161	IE7r	SK 176	(94)	70	—	—

調査区	新遺構番号	グリッド	旧遺構番号	規模 (cm)			時 期
				長さ	幅	深さ	
93B	SK 162	IE7r	SX 119	(154)	—	18	江戸後期
93B	SK 163	IE8r	SK 141	(92)	—	24	—
93B	SK 164	IE8r	Pit1164	142	(118)	12	—
93B	SK 165	IE8r	Pit1359	(108)	—	10	—
93B	SK 166	IE8r	SK 143	104	102	6	江戸後期
93B	SK 167	IE8r	SK 146	83	—	4	—
93B	SK 168	IE3s	Pit1071	(107)	—	12	江戸後期
93B	SK 169	IE3s	SK 163	240	218	11	江戸後期
93B	SK 170	IE3s	SK 137	296	271	11	江戸後期
93B	SK 171	IE7s	SK 162	(182)	37	7	中世
92A	SK 172	IE9s-9t	SK 333	156	61	14	—
92A	SK 173	IE10s	SK 320	(86)	67	7	—
92A	SK 174	IE4t	SK 047	72	(64)	5	—
93B	SK 175	IE4t	SK 160	46	30	3	—
92A	SK 176	IE4t	SK 046	109	76	8	—
93B	SK 177	IE6t	SK 171	50	47	—	—
92A	SK 178	IE9t-IF9a	SK 334	(288)	—	15	—
92A	SK 179	IE9t-10t	SK 312	150	142	37	江戸後期
92A	SK 180	IE9t-IF10a	SK 311	375	180	30	江戸後期
92A	SK 181	IE10t-IF10a	SK 323	261	162	16	江戸前期
92A	SK 182	IE10t-IF10a	SK 332	(538)	—	15	—
92A	SK 183	IE10t	SK 314	58	41	19	—
92A	SK 184	IF3a	Pit 803	(116)	51	37	江戸
92A	SK 185	IF3a	SK 062	(84)	—	10	—
92A	SK 186	IF3a	Pit 805	117	59	10	江戸前期
92A	SK 187	IF4a	SK 051	(148)	80	18	江戸後期
92A	SK 188	IF4a	SK 053	(337)	—	11	江戸後期
92A	SK 189	IF10a	Pit 343	107	24	39	中世
92A	SK 190	IF10a	SK 319	78	76	20	江戸前期
92A	SK 191	IF10a	SK 331	(100)	49	5	—
92A	SK 192	IF4b	SK 044	(202)	—	6	江戸後期
92A	SK 193	IF9b-10b	SK 330	(74)	—	23	—
92A	SK 194	IF9b-10b	SK 327	(308)	—	13	—
92A	SK 195	IF9b-10b	SK 329	129	70	12	—
92A	SK 196	IF9b-10c	SK 309	64	63	21	江戸前期
92A	SK 197	IF10b	SK 328	(191)	113	19	—
92A	SK 198	IF3c-3d	SK 015	(216)	—	10	江戸前期
92A	SK 199	IF3c-3d	SK 018	92	71	15	中世
92A	SK 200	IF4c	SK 028	84	63	18	—
92A	SK 201	IF4c-4d	SK 037	118	43	18	—
92A	SK 202	IF9c-10c	SK 308	93	66	15	江戸
92A	SK 203	IF3d-4d	SK 024	(136)	133	94	江戸前期
92A	SK 204	IF3d-4d	SK 035	76	(70)	22	江戸後期
92A	SK 205	IF3d	SK 014	(272)	—	16	江戸後期
92A	SK 206	IF3d	SK 019	(138)	68	10	—
92A	SK 207	IF4d	SK 027	(156)	—	16	江戸後期
92A	SK 208	IF4d	SK 025	(274)	—	48	江戸後期
92A	SK 209	IF4d	SK 032	(125)	77	15	江戸後期
92A	SK 210	IF4d	SK 036	70	54	16	—
92A	SK 211	IF10d	SK 325	51	32	13	—
92A	SK 212	IF11d	SK 307	99	77	11	—
92A	SK 213	IF11d	SK 326	(172)	(57)	16	—
92A	SK 214	IF4e-5e	SK 021	(209)	81	6	戦国か
92A	SK 215	IF4e	SK 022	79	36	5	—
92A	SK 216	IF4e-5e	SK 038	(238)	—	15	—
92A	SK 217	IF4e	SK 020	(105)	56	7	中世
92A	SK 218	IF5e	SK 031	(92)	—	5	中世
92A	SK 219	IF10e-11e	SK 304	(97)	—	8	江戸後期
92A	SK 220	IF11e	SK 305	120	79	5	江戸後期
92A	SK 221	IF3f-3g	SK 013	(523)	—	9	江戸後期
92A	SK 222	IF4f	SK 026	84	58	9	中世
92A	SK 223	IF4f	SK 029	78	73	10	—
92A	SK 224	IF5f	SK 023 SK 030	(530)	—	7	江戸前期
92A	SK 225	IF11f	SK 303	(83)	(54)	5	—
92A	SK 226	IF3g	SK 017	218	197	(251)	江戸
92A	SK 227	IF4h	SK 033	(239)	—	17	江戸後期
92A	SK 228	IF4h	SK 006	104	57	13	中世
92A	SK 229	IF5h	SK 057	(127)	(80)	5	—
92A	SK 230	IF11h	SK 301	(78)	—	14	中世
92A	SK 231	IF4i	SK 002	(126)	(66)	14	—
92A	SK 232	IF4i	SK 061	(108)	62	5	—
92A	SK 233	IF4i	Pit 005	(108)	(90)	9	中世
92A	SK 234	IF4i	SK 003	(184)	(108)	9	—
92A	SK 235	IF5i	SK 050	53	28	13	—
92A	SK 236	IF5i	SK 049	28	19	14	中世
92A	SK 237	IF5i	SK 048	(83)	(66)	11	中世

第47表 遺構一覧表 (3)

調査区	新遺構番号	グリッド	旧遺構番号	規模 (cm)			時期
				長さ	幅	深さ	
92A	SK 238	IF4j	SK 059	64	19	50	—
92A	SK 239	IF4j	SK 058	(147)	—	17	江戸
92A	SK 240	IF111-12n	SK 274	440	230	45	—
92A	SK 241	IF111	SK 261	62	(42)	20	—
92A	SK 242	IF111	SK 258	(77)	—	16	—
92A	SK 243	IF111-11m	SK 252	125	112	13	江戸後期
92A	SK 244	IF111	SK 257	(141)	—	16	江戸後期
92A	SK 245	IF111	SK 256	(102)	(76)	6	江戸後期
92A	SK 246	IF12l	SK 262	(216)	—	44	江戸後期
92A	SK 247	IF5m	SK 148	124	55	15	江戸前期
92A	SK 248	IF5m	SK 149	198	167	172	江戸前期
92A	SK 249	IF6m	SK 151	(86)	—	32	江戸
92A	SK 250	IF11m	SK 271	(172)	167	6	—
92A	SK 251	IF11m	SK 272	59	38	22	—
92A	SK 252	IF11m	SK 259	(223)	—	24	江戸前期
92A	SK 253	IF11m	SK 254	132	108	8	江戸後期
92A	SK 254	IF11m	SK 255	(134)	73	11	—
92A	SK 255	IF11m-11n	SK 248	112	91	18	—
92A	SK 256	IF11m	SK 264	58	41	21	—
92A	SK 257	IF11m	SK 253	98	66	10	江戸後期
92A	SK 258	IF11m	SK 260	(88)	—	8	—
92A	SK 259	IF5n	SK 137	(110)	63	24	江戸前期
92A	SK 260	IF5n	SK 138	96	(85)	5	—
92A	SK 261	IF5n	SK 139	74	70	46	江戸前期
92A	SK 262	IF5n-5o	SK 127	(178)	160	17	江戸
92A	SK 263	IF5n	SK 145	(122)	74	27	江戸
92A	SK 264	IF6n	SK 154	98	52	27	—
92A	SK 265	IF12n	SK 273	(120)	—	7	—
92A	SK 266	IF12n	SK 268	(182)	—	16	—
92A	SK 267	IF12n	SK 247	291	111	41	江戸後期
92A	SK 268	IF5o	SK 140	(200)	—	13	江戸前期
92A	SK 269	IF5o	Pit170	(111)	(55)	17	—
92A	SK 270	IF5o	SK 130	134	71	12	江戸後期
92A	SK 271	IF5o	Pit191	67	(38)	6	—
92A	SK 272	IF5o	SK 133	(110)	(86)	22	中世
92A	SK 273	IF5o	SK 128	(163)	122	20	—
92A	SK 274	IF5o-6p	SK 124	379	106	59	江戸後期
92A	SK 275	IF5o	SK 129	(144)	76	24	中世
92A	SK 276	IF11o-12o	SK 267	103	(92)	12	—
92A	SK 277	IF11o-12o	SK 249	(132)	92	22	—
92A	SK 278	IF12o	SK 250	69	44	11	—
92A	SK 279	IF12o	SK 246	249	131	41	江戸後期
92A	SK 280	IF13o-13p	SK 243	(120)	—	13	江戸後期
92A	SK 281	IF13o	SK 244	(85)	—	16	江戸
92A	SK 282	IF5p	SK 159	162	119	35	江戸前期
92A	SK 283	IF5p	SK 122	(131)	74	11	江戸
92A	SK 284	IF5p	SK 156	154	(119)	18	—
92A	SK 285	IF5p	SK 131	(110)	(97)	23	—
92A	SK 286	IF5p	SK 115	117	104	43	江戸前期
92A	SK 287	IF5p	SK 116	(93)	72	5	—
92A	SK 288	IF5p	SK 147	(118)	75	6	—
92A	SK 289	IF5p	SK 120	(356)	—	(356)	江戸前期
92A	SK 290	IF5p	SK 144	(130)	—	15	—
92A	SK 291	IF5p	Pit183	121	36	34	—
92A	SK 292	IF5p	SK 121	90	66	5	江戸後期
92A	SK 293	IF5p-5q	SK 119	(153)	—	22	江戸前期
92A	SK 294	IF5p	SK 134	(113)	78	10	—
92A	SK 295	IF6p	SK 104	(88)	79	9	江戸後期

石列 (SS)

調査区	新遺構番号	グリッド	旧遺構番号	規模 (cm)			時期
				長さ	幅	深さ	
93B	SS 101	IE5k-6l	—	(421)	42	—	江戸

不明遺構 (SX)

調査区	新遺構番号	グリッド	旧遺構番号	規模 (cm)			時期
				長さ	幅	深さ	
93B	SX 101	IE7g	SX 012	(364)	328	33	江戸後期
93B	SX 102	IE7g	SK 054	286	255	14	江戸後期
93B	SX 103	IE4i	SX 001	180	—	—	中世
93B	SX 104	IE7i	SX 005	434	368	15	江戸後期
93B	SX 105	IE3t	SX 120	(548)	—	13	江戸後期
92A	SX 106	IE3t-4t	SX 004	(464)	—	8	中世
92A	SX 107	IE3t-IF4a	SX 005	(868)	—	11	中世
92A	SX 108	IF10a-10b	SX 301	(490)	—	(8)	中世

調査区	新遺構番号	グリッド	旧遺構番号	規模 (cm)			時期
				長さ	幅	深さ	
92A	SK 296	IF6p	Pit156	(113)	(67)	12	—
92A	SK 297	IF7p-7q	SK 202	(286)	—	10	江戸
92A	SK 298	IF7p-8p	SK 203	(354)	—	18	江戸前期
92A	SK 299	IF7p-7q	SK 201	163	148	40	江戸後期
92A	SK 300	IF8p-8q	SK 212	(150)	106	83	江戸前期
92A	SK 301	IF8p-8q	SK 209	(296)	(90)	14	江戸後期
92A	SK 302	IF8p-9p	SK 213	(314)	—	48	江戸前期
92A	SK 303	IF9p-9q	SK 220	224	188	46	江戸後期
92A	SK 304	IF9p	SK 265	(128)	—	29	—
92A	SK 305	IF10p-11p	SK 230	(198)	(109)	17	—
92A	SK 306	IF10p-11p	SK 231	242	222	58	江戸後期
92A	SK 307	IF11p	SK 266	(236)	—	10	—
92A	SK 308	IF11p	SK 237	(94)	—	12	江戸前期
92A	SK 309	IF11p-11q	SK 234	(274)	—	46	江戸後期
92A	SK 310	IF11p	SK 238	(150)	115	15	江戸後期
92A	SK 311	IF11p	SK 236	(60)	—	11	—
92A	SK 312	IF11p-12p	SK 235	(310)	206	14	—
92A	SK 313	IF11p-11q	SK 233	(218)	—	17	江戸後期
92A	SK 314	IF11p	SK 239	166	84	18	江戸前期
92A	SK 315	IF12p	SK 240	130	(112)	13	江戸前期
92A	SK 316	IF12p	SK 275	62	36	32	—
92A	SK 317	IF12p	SK 270	62	43	23	—
92A	SK 318	IF13p	SK 241	(112)	—	18	—
92A	SK 319	IF13p	SK 269	123	75	18	—
92A	SK 320	IF5q	SK 117	(257)	—	49	江戸前期
92A	SK 321	IF5q-5r	SK 107	(228)	—	28	江戸後期
92A	SK 322	IF5q	SK 114	(200)	—	20	江戸前期
92A	SK 323	IF5q-6q	SK 153	(522)	—	44	江戸前期
92A	SK 324	IF5q-6q	SK 142	167	138	63	江戸後期
92A	SK 325	IF5q	SK 111	(88)	52	21	—
92A	SK 326	IF5q-6q	SK 125	(214)	—	36	江戸後期
92A	SK 327	IF5q	SK 110	(133)	88	13	江戸後期
92A	SK 328	IF5q	SK 123	(118)	51	14	江戸
92A	SK 329	IF5q-5r	SK 109	(165)	—	23	—
92A	SK 330	IF5q	SK 118	(182)	—	28	江戸前期
92A	SK 331	IF5q	SK 161	88	77	31	—
92A	SK 332	IF5q	SK 143	(98)	81	58	江戸
92A	SK 333	IF5q	SK 108	(316)	56	62	江戸後期
92A	SK 334	IF6q	SK 158	172	123	51	江戸後期
92A	SK 335	IF6q	SK 101	77	54	7	—
92A	SK 336	IF6q-6r	SK 126	(214)	—	49	江戸後期
92A	SK 337	IF6q	SK 103	(114)	(77)	11	—
92A	SK 338	IF6q	SK 112	90	60	48	江戸前期
92A	SK 339	IF6q	SK 102	(100)	(80)	6	—
92A	SK 340	IF6q	SK 152	(165)	(155)	(347)	江戸前期
92A	SK 341	IF7q	SK 208	(97)	—	30	江戸後期
92A	SK 342	IF7q	SK 207	103	89	66	古代
92A	SK 343	IF7q	SK 206	204	115	10	中世
92A	SK 344	IF7q	SK 204	(187)	—	12	江戸前期
92A	SK 345	IF8q	SK 211	245	172	18	江戸前期
92A	SK 346	IF8q	SK 210	180	73	23	江戸前期
92A	SK 347	IF9q	SK 219	(145)	(116)	37	江戸後期
92A	SK 348	IF9q-10q	SK 223	(129)	—	16	江戸前期
92A	SK 349	IF10q	SK 222	(97)	—	52	—
92A	SK 350	IF8r-9r	SK 216	(368)	—	12	江戸前期
93B	SK 351	IE5j	SK 035	112	(46)	33	—

第48表 遺構一覧表 (4)

柱穴 (Pit)

調査区	新遺構番号	グリッド	旧遺構番号	規模 (cm)			時期
				長さ	幅	深さ	
93B	Pit 001	IE5q	Pit1085	(53)	—	9	—
93B	Pit 002	IE6f	Pit 148	(76)	46	49	—
93B	Pit 003	IE6f	Pit 147	(60)	(47)	—	江戸前期
93B	Pit 004	IE7f	Pit 010	56	50	19	江戸
93B	Pit 005	IE7f	Pit 652	(54)	37	15	—
93B	Pit 006	IE7f	Pit 158	(98)	42	34	江戸
93B	Pit 007	IE7f	Pit 654	24	24	11	—
93B	Pit 008	IE7f	Pit 003	58	50	34	江戸前期
93B	Pit 009	IE7f	Pit 653	22	17	8	—
93B	Pit 010	IE7f	Pit 284	(62)	40	14	—
93B	Pit 011	IE7f	Pit1485	20	17	15	—
93B	Pit 012	IE7f	Pit 236	(77)	50	58	江戸
93B	Pit 013	IE7f	Pit 651	32	32	18	江戸前期
93B	Pit 014	IE7f	Pit 004	76	35	7	江戸
93B	Pit 015	IE7f	Pit 002	74	57	30	江戸
93B	Pit 016	IE7f	Pit 188	(85)	—	67	—
93B	Pit 017	IE7f	Pit 009	64	51	34	戦国期か
93B	Pit 018	IE3g	Pit 452	25	24	—	—
93B	Pit 019	IE3g	Pit 561	43	(42)	7	—
93B	Pit 020	IE3g	Pit 449	42	40	20	—
93B	Pit 021	IE3g	Pit 451	37	30	13	江戸
93B	Pit 022	IE3g	Pit 450	(28)	26	11	—
93B	Pit 023	IE3g	Pit 453	52	48	23	古代
93B	Pit 024	IE3g	Pit 480	65	51	3	江戸前期
93B	Pit 025	IE4g	Pit 069	28	27	15	—
93B	Pit 026	IE4g	Pit1459	(30)	20	10	—
93B	Pit 027	IE4g	Pit 555	68	58	34	江戸前期
93B	Pit 028	IE4g	Pit 070	23	14	5	—
93B	Pit 029	IE4g	Pit1460	(48)	—	—	—
93B	Pit 030	IE4g	Pit 693	(49)	—	29	—
93B	Pit 031	IE4g	Pit 610	(55)	—	23	—
93B	Pit 032	IE5q	Pit1086	(46)	40	22	—
93B	Pit 033	IE5g	Pit 120	23	21	26	江戸
93B	Pit 034	IE5g	Pit 034	96	64	29	江戸前期
93B	Pit 035	IE5g	Pit 633	(96)	—	—	—
93B	Pit 036	IE5g	Pit 615	(52)	30	—	—
93B	Pit 037	IE5g	Pit 634	(88)	(64)	—	—
93B	Pit 038	IE5g	Pit 079	34	27	5	—
93B	Pit 039	IE5g	Pit 056	42	34	35	江戸
93B	Pit 040	IE5g	Pit 617	(52)	—	—	江戸前期
93B	Pit 041	IE5g	Pit 057	29	27	29	中世
93B	Pit 042	IE5g	Pit 616	(36)	—	20	江戸
93B	Pit 043	IE5g	Pit 119	24	22	6	—
93B	Pit 044	IE5q	Pit1089	28	21	6	—
93B	Pit 045	IE5g	Pit 121	20	16	25	江戸
93B	Pit 046	IE6g	Pit 255	84	51	46	江戸後期
93B	Pit 047	IE6g	Pit 105	66	43	55	江戸
93B	Pit 048	IE6g	Pit 185	46	35	4	—
93B	Pit 049	IE6g	Pit 259	(37)	23	17	江戸
93B	Pit 050	IE6g	Pit 311	76	62	31	江戸前期
93B	Pit 051	IE6g	Pit 208	60	48	30	—
93B	Pit 052	IE6g	Pit 016	62	47	29	—
93B	Pit 053	IE6g	Pit1477	(34)	30	—	—
93B	Pit 054	IE6g	Pit 235	37	30	14	—
93B	Pit 055	IE6g	Pit 312	37	32	6	—
93B	Pit 056	IE6g	Pit 186	(40)	(32)	—	—
93B	Pit 057	IE6g	Pit1478	(46)	38	4	—
93B	Pit 058	IE6g	Pit 253	29	29	14	—
93B	Pit 059	IE6g	Pit 313	32	30	27	江戸後期
93B	Pit 060	IE6g	Pit 041	72	64	42	—
93B	Pit 061	IE6g	Pit 196	32	24	8	—
93B	Pit 062	IE6g	Pit 260	33	33	17	—
93B	Pit 063	IE6g	Pit 176	60	45	36	江戸
93B	Pit 064	IE6g	Pit 042	78	60	—	江戸後期
93B	Pit 065	IE6g	Pit 035	63	62	24	江戸後期
93B	Pit 066	IE6g	Pit 081	48	35	22	—
93B	Pit 067	IE6g	Pit 104	43	40	8	—
93B	Pit 068	IE6g	Pit 187	40	30	35	江戸
93B	Pit 069	IE6g	Pit 001	73	67	53	江戸前期
93B	Pit 070	IE6g	Pit 258	30	22	18	—
93B	Pit 071	IE6g	Pit 254	33	32	16	—
93B	Pit 072	IE6g	Pit 082	45	37	19	—
93B	Pit 073	IE7g	Pit2003	24	18	10	—
93B	Pit 074	IE7g	Pit 131	28	21	17	—
93B	Pit 075	IE7g	Pit 088	50	28	22	—

調査区	新遺構番号	グリッド	旧遺構番号	規模 (cm)			時期
				長さ	幅	深さ	
93B	Pit 076	IE7g	Pit 043	36	32	26	中世
93B	Pit 077	IE7g	Pit 089	34	32	25	—
93B	Pit 078	IE7g	Pit 149	52	42	22	古代
93B	Pit 079	IE7g	Pit 072	49	30	27	—
93B	Pit 080	IE7g	Pit2004	44	16	29	—
93B	Pit 081	IE7g	Pit 015	56	27	36	古代
93B	Pit 082	IE7g	Pit 013	30	30	25	江戸前期
93B	Pit 083	IE7g	Pit 005	40	34	20	—
93B	Pit 084	IE7g	Pit 155	50	34	34	古代
93B	Pit 085	IE7g	Pit 074	28	24	12	—
93B	Pit 086	IE7g	Pit 014	40	38	31	—
93B	Pit 087	IE7g	Pit 134	22	20	18	江戸前期
93B	Pit 088	IE7g	Pit 058	37	37	7	—
93B	Pit 089	IE7g	Pit 133	24	19	7	—
93B	Pit 090	IE7g	Pit 048	39	35	30	—
93B	Pit 091	IE7g	Pit 106	33	32	27	—
93B	Pit 092	IE7g	Pit 007	42	42	35	江戸後期
93B	Pit 093	IE7g	Pit 036	36	(34)	21	—
93B	Pit 094	IE7g	Pit 156	55	50	39	—
93B	Pit 095	IE7g	Pit1488	59	27	15	—
93B	Pit 096	IE7g	Pit 132	(21)	15	—	—
93B	Pit 097	IE7g	Pit1486	(37)	24	3	—
93B	Pit 098	IE7g	Pit 008	42	42	8	—
93B	Pit 099	IE7g	Pit 108	38	21	18	—
93B	Pit 100	IE7g	Pit 107	26	26	22	—
93B	Pit 101	IE7g	Pit 229	(82)	—	32	江戸前期
93B	Pit 102	IE7g	Pit 039	96	—	38	江戸
93B	Pit 103	IE7g	Pit 083	24	18	5	—
93B	Pit 104	IE7g	Pit 006	44	30	19	—
93B	Pit 105	IE7g	Pit 084	20	19	5	—
93B	Pit 106	IE7g	Pit 102	14	14	8	—
93B	Pit 107	IE7g	Pit 011	44	19	25	—
93B	Pit 108	IE7g	Pit 608	(29)	23	15	—
93B	Pit 109	IE7g	Pit 085	25	21	13	—
93B	Pit 110	IE7g	Pit 038	92	—	49	江戸
93B	Pit 111	IE7g	Pit 012	47	40	26	江戸
93B	Pit 112	IE7g	Pit1487	27	25	13	—
93B	Pit 113	IE7g	Pit 037	53	40	33	古代
93B	Pit 114	IE7g	Pit 145	30	30	34	—
93B	Pit 115	IE7g	Pit 103	20	17	32	—
93B	Pit 116	IE9q	Pit1209	23	23	11	—
93B	Pit 117	IE10q	Pit1184	20	17	15	—
93B	Pit 118	IE3h	Pit2001	48	37	25	—
93B	Pit 119	IE3h	Pit 481	(94)	—	27	江戸後期
93B	Pit 120	IE3h	Pit 577	32	28	12	—
93B	Pit 121	IE4h	Pit 092	22	(22)	5	—
93B	Pit 122	IE4h	Pit 028	23	22	11	—
93B	Pit 123	IE4h	Pit 029	40	30	19	江戸
93B	Pit 124	IE4h	Pit1461	52	36	—	—
93B	Pit 125	IE4h	Pit 030	42	40	25	江戸
93B	Pit 126	IE4h	Pit 510	(64)	(50)	30	中世
93B	Pit 127	IE4h	Pit 556	(97)	—	43	—
93B	Pit 128	IE4h	Pit 506	30	28	16	—
93B	Pit 129	IE4h	Pit 063	24	20	4	中世
93B	Pit 130	IE4h	Pit 086	17	16	5	—
93B	Pit 131	IE4h	Pit 061	32	27	13	—
93B	Pit 132	IE4h	Pit 499	53	(34)	35	—
93B	Pit 133	IE4h	Pit 060	20	18	11	—
93B	Pit 134	IE4h	Pit 497	42	42	24	古代
93B	Pit 135	IE4h	Pit 479	72	50	27	江戸
93B	Pit 136	IE4i	Pit 525	(48)	34	23	中世
93B	Pit 137	IE4h	Pit 471	20	15	4	—
93B	Pit 138	IE4h	Pit 078	26	22	10	—
93B	Pit 139	IE4h	Pit 470	40	22	6	江戸前期
93B	Pit 140	IE4h	Pit 027	47	44	25	江戸後期
93B	Pit 141	IE4h	Pit 469	34	20	14	—
93B	Pit 142	IE4h	Pit 045	40	29	26	—
93B	Pit 143	IE4h	Pit 468	66	56	49	江戸
93B	Pit 144	IE4h	Pit 599	(24)	17	7	—
93B	Pit 145	IE4h	Pit 467	38	28	19	—
93B	Pit 146	IE4h	Pit 498	(43)	30	20	—
93B	Pit 147	IE4h	Pit 466	55	44	21	—
93B	Pit 148	IE4h	Pit 528	30	18	28	—
93B	Pit 149	IE4h	Pit 465	34	25	13	—
93B	Pit 150	IE4h	Pit 514	34	28	38	江戸前期

第49表 遺構一覧表 (5)

調査区	新遺構番号	グリッド	旧遺構番号	規模 (cm)			時期
				長さ	幅	深さ	
93B	Pit 151	IE4h	Pit 464	(62)	(62)	14	江戸後期
93B	Pit 152	IE4h	Pit 500	36	32	32	江戸前期
93B	Pit 153	IE4h	Pit2002	(68)	34	21	—
93B	Pit 154	IE4h	Pit 025	46	39	16	—
93B	Pit 155	IE4h	Pit 496	64	60	39	古代
93B	Pit 156	IE4h	Pit 509	46	30	9	—
93B	Pit 157	IE4h	Pit 623	(80)	(50)	18	—
93B	Pit 158	IE5h	Pit 080	(32)	19	7	江戸
93B	Pit 159	IE5h	Pit 054	(44)	37	25	江戸
93B	Pit 160	IE5h	Pit 118	25	21	26	江戸
93B	Pit 161	IE5h	Pit 053	68	52	39	中世
93B	Pit 162	IE5h	Pit 116	67	54	54	江戸
93B	Pit 163	IE5h	Pit 049	83	53	12	—
93B	Pit 164	IE5h	Pit 109	92	63	8	江戸
93B	Pit 165	IE5h	Pit 044	48	43	29	—
93B	Pit 166	IE5i	Pit 123	46	45	45	—
93B	Pit 167	IE5h	Pit 153	28	26	5	—
93B	Pit 168	IE5h	Pit 096	22	20	11	—
93B	Pit 169	IE5h	Pit 040	56	50	41	—
93B	Pit 170	IE5h	Pit 094	(30)	26	11	—
93B	Pit 171	IE5h	Pit 033	24	22	5	—
93B	Pit 172	IE5h	Pit 128	(72)	60	35	—
93B	Pit 173	IE5h	Pit 032	52	42	40	江戸
93B	Pit 174	IE5h	Pit 129	75	72	34	中世
93B	Pit 175	IE5h	Pit 168	36	26	47	江戸前期
93B	Pit 176	IE5h	Pit 087	38	38	28	江戸
93B	Pit 177	IE5h	Pit 171	(54)	—	4	古代
93B	Pit 178	IE5h	Pit 077	42	35	10	—
93B	Pit 179	IE5h	Pit 031	51	48	30	古代
93B	Pit 180	IE5h	Pit 139	(38)	16	35	—
93B	Pit 181	IE5h	Pit 182	50	27	44	—
93B	Pit 182	IE5h	Pit 067	35	28	6	—
93B	Pit 183	IE5h	Pit 026	50	36	15	—
93B	Pit 184	IE5h	Pit 065	44	40	32	江戸後期
93B	Pit 185	IE5h	Pit 023	39	34	33	—
93B	Pit 186	IE5h	Pit 055	40	34	9	—
93B	Pit 187	IE5h	Pit 022	60	47	33	—
93B	Pit 188	IE5h	Pit 110	48	38	18	—
93B	Pit 189	IE5h	Pit 021	62	57	33	江戸前期
93B	Pit 190	IE5h	Pit 126	54	46	23	江戸
93B	Pit 191	IE5h	Pit 020	48	42	5	—
93B	Pit 192	IE5h	Pit 127	74	47	37	江戸
93B	Pit 193	IE5i	Pit 230	30	24	—	—
93B	Pit 194	IE5h	Pit 130	80	74	37	江戸後期
93B	Pit 195	IE5h	Pit 019	70	68	41	江戸前期
93B	Pit 196	IE5h	Pit 076	40	39	5	—
93B	Pit 197	IE5h	Pit 018	44	42	30	—
93B	Pit 198	IE5h	Pit 066	28	25	14	—
93B	Pit 199	IE5h	Pit 194	44	37	24	江戸後期
93B	Pit 200	IE5h	Pit 117	27	24	5	—
93B	Pit 201	IE5h	Pit 195	(48)	36	35	—
93B	Pit 202	IE5h	Pit 095	28	20	6	中世
93B	Pit 203	IE5h	Pit 017	31	31	17	—
93B	Pit 204	IE5h	Pit 209	32	30	6	—
93B	Pit 205	IE5h	Pit1475	46	40	23	—
93B	Pit 206	IE5h	Pit 062	28	28	5	—
93B	Pit 207	IE5i	Pit 201	68	56	46	—
93B	Pit 208	IE5h	Pit 093	74	53	37	江戸
93B	Pit 209	IE5h	Pit 122	(80)	—	26	—
93B	Pit 210	IE5h	Pit 073	60	47	9	江戸
93B	Pit 211	IE5h	Pit1476	(30)	—	3	—
93B	Pit 212	IE6h	Pit 225	24	21	5	—
93B	Pit 213	IE6h	Pit1479	(64)	50	15	—
93B	Pit 214	IE6h	Pit 140	38	27	8	—
93B	Pit 215	IE6h	Pit1480	51	41	—	—
93B	Pit 216	IE6h	Pit 099	28	22	12	江戸
93B	Pit 217	IE6h	Pit1482	27	27	—	—
93B	Pit 218	IE6h	Pit 159	39	38	8	—
93B	Pit 219	IE6h	Pit 146	77	66	31	江戸
93B	Pit 220	IE6h	Pit 233	70	50	13	—
93B	Pit 221	IE6h	Pit 211	46	36	25	—
93B	Pit 222	IE6h	Pit 237	43	32	11	江戸前期
93B	Pit 223	IE5i	Pit 251	20	19	9	—
93B	Pit 224	IE6h	Pit 097	47	42	45	古代
93B	Pit 225	IE6h	Pit 207	40	32	17	—
93B	Pit 226	IE6h	Pit 551	44	40	—	—
93B	Pit 227	IE6h	Pit 205	35	25	18	江戸

調査区	新遺構番号	グリッド	旧遺構番号	規模 (cm)			時期
				長さ	幅	深さ	
93B	Pit 228	IE6h	Pit 162	44	38	23	—
93B	Pit 229	IE6h	Pit 115	49	38	21	古代
93B	Pit 230	IE6h	Pit 181	60	50	—	—
93B	Pit 231	IE6h	Pit 198	34	26	16	—
93B	Pit 232	IE6h	Pit 180	60	60	—	—
93B	Pit 233	IE6h	Pit 150	23	19	5	—
93B	Pit 234	IE6h	Pit 179	59	37	35	—
93B	Pit 235	IE6h	Pit 152	38	38	20	—
93B	Pit 236	IE6h	Pit 163	77	60	8	—
93B	Pit 237	IE6h	Pit 252	34	26	12	—
93B	Pit 238	IE6h	Pit 165	40	38	21	—
93B	Pit 239	IE6h	Pit 210	32	28	17	江戸前期
93B	Pit 240	IE6h	Pit 166	67	36	17	—
93B	Pit 241	IE6h	Pit 206	72	60	13	江戸後期
93B	Pit 242	IE6h	Pit1481	27	23	—	—
93B	Pit 243	IE6h	Pit 199	41	25	7	—
93B	Pit 244	IE6h	Pit 173	43	36	15	—
93B	Pit 245	IE6h	Pit 151	24	19	—	—
93B	Pit 246	IE6h	Pit 172	90	40	28	江戸前期
93B	Pit 247	IE6h	Pit 212	40	22	9	—
93B	Pit 248	IE6h	Pit 167	45	44	30	—
93B	Pit 249	IE6h	Pit 249	24	18	11	—
93B	Pit 250	IE6h	Pit 170	19	19	6	—
93B	Pit 251	IE6h	Pit 157	50	32	22	—
93B	Pit 252	IE6h	Pit 197	44	337	11	—
93B	Pit 253	IE6h	Pit 222	27	23	17	江戸後期
93B	Pit 254	IE6h	Pit 169	26	25	14	—
93B	Pit 255	IE7h	Pit 658	40	29	10	—
93B	Pit 256	IE7h	Pit1491	22	22	10	—
93B	Pit 257	IE7h	Pit 565	(95)	83	40	中世
93B	Pit 258	IE7h	Pit 607	16	15	11	—
93B	Pit 259	IE7h	Pit 567	(63)	—	—	江戸
93B	Pit 260	IE7h	Pit 178	25	20	5	—
93B	Pit 261	IE7h	Pit 655	23	17	10	—
93B	Pit 262	IE7h	Pit 046	30	24	12	—
93B	Pit 263	IE7h	Pit 075	33	28	24	—
93B	Pit 264	IE7h	Pit 064	41	30	22	—
93B	Pit 265	IE7h	Pit 068	30	22	7	—
93B	Pit 266	IE7h	Pit1489	32	28	34	—
93B	Pit 267	IE7h	Pit 059	40	36	26	—
93B	Pit 268	IE7h	Pit 154	41	38	5	—
93B	Pit 269	IE7h	Pit 272	40	34	11	—
93B	Pit 270	IE7h	Pit 135	20	19	8	—
93B	Pit 271	IE7h	Pit 144	58	39	26	—
93B	Pit 272	IE7h	Pit1490	16	14	4	—
93B	Pit 273	IE7h	Pit 564	70	50	19	江戸
93B	Pit 274	IE7h	Pit 090	24	19	10	—
93B	Pit 275	IE7h	Pit 047	37	28	7	—
93B	Pit 276	IE8h	Pit 666	32	24	8	江戸前期
93B	Pit 277	IE8h	Pit 667	(44)	—	11	—
93B	Pit 278	IE3i	Pit 584	(60)	46	25	—
93B	Pit 279	IE3i	Pit 580	(57)	34	13	—
93B	Pit 280	IE4i	Pit 444	38	38	21	江戸
93B	Pit 281	IE4i	Pit 495	50	36	10	江戸
93B	Pit 282	IE4i	Pit 553	(60)	52	36	江戸
93B	Pit 283	IE4i	Pit 518	55	(50)	31	江戸
93B	Pit 284	IE4i	Pit 586	(62)	54	34	—
93B	Pit 285	IE4i	Pit 516	97	(70)	33	江戸前期
93B	Pit 286	IE4i	Pit 964	48	28	25	古代
93B	Pit 287	IE4i	Pit 515	44	40	40	—
93B	Pit 288	IE4i	Pit 545	(44)	36	15	古代
93B	Pit 289	IE4i	Pit 445	50	50	34	—
93B	Pit 290	IE4i	Pit 624	21	20	7	—
93B	Pit 291	IE4i	Pit 446	25	25	7	—
93B	Pit 292	IE4i	Pit 966	66	38	7	—
93B	Pit 293	IE4i	Pit 447	67	53	8	江戸後期
93B	Pit 294	IE4i	Pit 570	60	50	—	—
93B	Pit 295	IE4i	Pit 448	30	(28)	10	—
93B	Pit 296	IE4i	Pit 554	(62)	60	23	—
93B	Pit 297	IE4i-4j	Pit 494	62	52	16	江戸
93B	Pit 298	IE4i	Pit 625	38	(38)	31	—
93B	Pit 299	IE4i	Pit 490	39	35	25	江戸
93B	Pit 300	IE4i	Pit 967	(70)	42	18	—
93B	Pit 301	IE4i	Pit 488	46	38	31	江戸
93B	Pit 302	IE4i	Pit 546	23	21	7	—
93B	Pit 303	IE4i	Pit1462	70	62	17	—
93B	Pit 304	IE4i	Pit 965	52	28	59	—

第50表 遺構一覧表(6)

調査区	新遺構番号	グリッド	旧遺構番号	規模 (cm)			時 期
				長さ	幅	深さ	
93B	Pit 305	IE4i	Pit 486	70	54	—	江戸前期
93B	Pit 306	IE5i	Pit 246	52	40	26	—
93B	Pit 307	IE5i	Pit 101	60	38	41	—
93B	Pit 308	IE5i	Pit 298	46	40	41	—
93B	Pit 309	IE5i	Pit 100	65	45	41	江戸前期
93B	Pit 310	IE5i	Pit 137	50	45	35	古代
93B	Pit 311	IE5i	Pit 242	60	58	41	江戸後期
93B	Pit 312	IE5i	Pit 052	63	60	48	—
93B	Pit 313	IE5i	Pit 189	68	68	59	江戸前期
93B	Pit 314	IE5i	Pit 247	62	55	51	—
93B	Pit 315	IE5i	Pit 136	46	34	27	江戸
93B	Pit 316	IE5i	Pit 050	54	38	22	—
93B	Pit 317	IE5i	Pit 216	(52)	—	39	—
93B	Pit 318	IE5i	Pit 138	36	34	29	古代
93B	Pit 319	IE5i	Pit 277	42	38	12	—
93B	Pit 320	IE5i	Pit 184	60	45	—	江戸後期
93B	Pit 321	IE5i	Pit 124	75	51	49	戦国期か
93B	Pit 322	IE5i	Pit 051	38	30	—	—
93B	Pit 323	IE5i	Pit 241	56	50	30	江戸
93B	Pit 324	IE5i	Pit 217	35	34	38	—
93B	Pit 325	IE5i	Pit 240	52	49	38	江戸前期
93B	Pit 326	IE5i	Pit 248	60	59	52	江戸前期
93B	Pit 327	IE5i	Pit 243	56	48	35	江戸前期
93B	Pit 328	IE5i	Pit 183	56	54	—	—
93B	Pit 329	IE5i	Pit 278	58	50	48	江戸
93B	Pit 330	IE6i	Pit 214	58	54	—	—
93B	Pit 331	IE6i	Pit 143	76	40	8	—
93B	Pit 332	IE6i	Pit 141	60	50	16	—
93B	Pit 333	IE6i	Pit1483	56	54	—	—
93B	Pit 334	IE6i	Pit 174	56	50	55	江戸後期
93B	Pit 335	IE6i	Pit 238	63	60	51	江戸後期
93B	Pit 336	IE6i	Pit 200	34	28	9	—
93B	Pit 337	IE6i	Pit 142	50	47	—	江戸
93B	Pit 338	IE6i	Pit 226	54	50	—	—
93B	Pit 339	IE6i	Pit1484	52	48	—	—
93B	Pit 340	IE6i	Pit 113	37	25	25	—
93B	Pit 341	IE6i	Pit 160	30	30	32	古代
93B	Pit 342	IE6i	Pit 239	48	42	3	—
93B	Pit 343	IE6i	Pit 223	46	42	14	江戸前期
93B	Pit 344	IE6i	Pit 224	64	57	60	江戸前期
93B	Pit 345	IE6i	Pit 111	30	30	25	戦国期か
93B	Pit 346	IE6i	Pit 213	48	46	—	—
93B	Pit 347	IE6i	Pit 227	41	40	21	江戸前期
93B	Pit 348	IE6i	Pit 215	(42)	(42)	4	—
93B	Pit 349	IE6i	Pit 112	34	29	17	古代
93B	Pit 350	IE7i	Pit 175	54	50	17	—
93B	Pit 351	IE7i	Pit 661	38	27	44	—
93B	Pit 352	IE7i	Pit 285	43	42	47	—
93B	Pit 353	IE7i	Pit 114	55	44	50	古代
93B	Pit 354	IE7i	Pit 228	80	78	29	江戸後期
93B	Pit 355	IE7i	Pit1492	(35)	—	9	江戸
93B	Pit 356	IE7i	Pit 657	40	27	18	江戸
93B	Pit 357	IE7i	Pit 270	57	50	15	江戸
93B	Pit 358	IE7i	Pit 532	(40)	32	8	—
93B	Pit 359	IE7i	Pit 609	52	40	39	中世
93B	Pit 360	IE7i	Pit 263	(83)	—	—	江戸後期
93B	Pit 361	IE7i	Pit 590	(40)	26	5	—
93B	Pit 362	IE7i	Pit 219	(92)	57	14	江戸後期
93B	Pit 363	IE7i	Pit 591	18	16	—	—
93B	Pit 364	IE7i	Pit 232	52	50	41	—
93B	Pit 365	IE7i	Pit 656	98	42	10	—
93B	Pit 366	IE7i	Pit 262	32	30	26	江戸
93B	Pit 367	IE7i	Pit 316	(60)	32	35	—
93B	Pit 368	IE7i	Pit 530	19	18	—	—
93B	Pit 369	IE7i	Pit 660	39	39	16	—
93B	Pit 370	IE7i	Pit 261	28	28	12	—
93B	Pit 371	IE7i	Pit 220	52	47	22	—
93B	Pit 372	IE7i	Pit 531	21	18	10	—
93B	Pit 373	IE7i	Pit 659	30	20	7	—
93B	Pit 374	IE8i	Pit1532	28	22	—	—
93B	Pit 375	IE8i	Pit 665	40	24	11	—
93B	Pit 376	IE8i	Pit 699	22	21	—	—
93B	Pit 377	IE8i	Pit 700	33	32	23	—
93B	Pit 378	IE8i	Pit1533	(30)	(30)	—	—
93B	Pit 379	IE3j	Pit1425	36	28	24	—
93B	Pit 380	IE3j	Pit1424	72	35	41	—
93B	Pit 381	IE4j	Pit 493	74	41	28	江戸

調査区	新遺構番号	グリッド	旧遺構番号	規模 (cm)			時 期
				長さ	幅	深さ	
93B	Pit 382	IE4j	Pit1463	50	48	21	—
93B	Pit 383	IE4j	Pit 644	71	54	—	—
93B	Pit 384	IE4j	Pit1464	32	28	13	—
93B	Pit 385	IE4k	Pit 598	26	22	10	—
93B	Pit 386	IE4j	Pit1465	30	24	4	—
93B	Pit 387	IE4j	Pit 585	(82)	40	27	—
93B	Pit 388	IE4j	Pit1466	50	29	22	—
93B	Pit 389	IE4j	Pit 568	44	22	48	江戸
93B	Pit 390	IE4j	Pit 523	54	(38)	25	中世
93B	Pit 391	IE4j	Pit 552	58	32	4	—
93B	Pit 392	IE4j	Pit 522	40	32	19	—
93B	Pit 393	IE4j	Pit 548	32	30	13	—
93B	Pit 394	IE4j	Pit 521	28	23	23	—
93B	Pit 395	IE4j	Pit 543	41	(30)	15	—
93B	Pit 396	IE4j	Pit 517	52	50	27	江戸前期
93B	Pit 397	IE4j	Pit 534	22	22	4	—
93B	Pit 398	IE4j	Pit 512	43	30	18	—
93B	Pit 399	IE4j	Pit 526	40	28	29	古代
93B	Pit 400	IE4j	Pit 511	46	44	14	—
93B	Pit 401	IE4j	Pit 596	62	40	30	—
93B	Pit 402	IE4j	Pit 505	67	(50)	7	中世
93B	Pit 403	IE4i	Pit 557	30	25	23	江戸
93B	Pit 404	IE4j	Pit 503	87	55	21	江戸
93B	Pit 405	IE4j	Pit 544	27	25	6	—
93B	Pit 406	IE4j	Pit 491	53	51	26	—
93B	Pit 407	IE4j	Pit 533	(68)	47	7	—
93B	Pit 408	IE4j	Pit 485	60	56	7	—
93B	Pit 409	IE4j	Pit 569	88	45	—	江戸前期
93B	Pit 410	IE4j	Pit 484	42	42	6	—
93B	Pit 411	IE4j	Pit 535	22	20	8	—
93B	Pit 412	IE4j	Pit 549	80	58	25	—
93B	Pit 413	IE4j	Pit 643	54	32	—	江戸後期
93B	Pit 414	IE4j	Pit 482	33	31	13	—
93B	Pit 415	IE5j	Pit 370	86	58	21	—
93B	Pit 416	IE5j	Pit 424	22	18	7	古代
93B	Pit 417	IE5j	Pit 423	39	36	16	—
93B	Pit 418	IE5j	Pit2005	52	(30)	—	—
93B	Pit 419	IE5j	Pit 422	32	28	18	—
93B	Pit 420	IE5j	Pit 426	61	40	39	—
93B	Pit 421	IE5j	Pit 619	48	35	—	—
93B	Pit 422	IE5j	Pit 281	40	36	11	江戸
93B	Pit 423	IE5j	Pit 244	63	45	35	—
93B	Pit 424	IE5j	Pit 461	(48)	—	49	江戸
93B	Pit 425	IE5j	Pit 334	26	22	11	—
93B	Pit 426	IE5j	Pit 671	45	34	14	江戸前期
93B	Pit 427	IE5j	Pit 346	50	45	41	江戸前期
93B	Pit 428	IE5j	Pit 672	28	22	6	古代
93B	Pit 429	IE5j	Pit 348	48	38	37	—
93B	Pit 430	IE5j	Pit 415	60	52	34	—
93B	Pit 431	IE5j	Pit 637	22	17	11	—
93B	Pit 432	IE5j	Pit 416	29	19	8	—
93B	Pit 433	IE5j	Pit 305	67	53	19	—
93B	Pit 434	IE5j	Pit 417	29	25	8	中世
93B	Pit 435	IE5k	Pit 538	(59)	40	41	古代
93B	Pit 436	IE5j	Pit 418	63	60	14	江戸後期
93B	Pit 437	IE5j	Pit 537	18	17	27	—
93B	Pit 438	IE5j	Pit 419	20	18	15	—
93B	Pit 439	IE5j	Pit1496	64	58	—	—
93B	Pit 440	IE5j	Pit 420	43	32	15	—
93B	Pit 441	IE5j	Pit1493	44	40	31	—
93B	Pit 442	IE5j	Pit 421	35	30	18	—
93B	Pit 443	IE5j	Pit 536	17	14	7	—
93B	Pit 444	IE5j	Pit 458	36	24	12	—
93B	Pit 445	IE5j	Pit 335	22	16	5	—
93B	Pit 446	IE5j	Pit 283	90	58	42	江戸
93B	Pit 447	IE5j	Pit 575	(42)	(42)	—	—
93B	Pit 448	IE5j	Pit 454	38	31	—	中世
93B	Pit 449	IE5j	Pit 364	30	32	42	江戸
93B	Pit 450	IE5j	Pit 190	70	48	12	—
93B	Pit 451	IE5j	Pit 304	90	68	28	江戸後期
93B	Pit 452	IE5j	Pit 425	50	38	19	江戸後期
93B	Pit 453	IE5j	Pit 299	69	64	42	古代
93B	Pit 454	IE5j	Pit 443	41	39	23	古代
93B	Pit 455	IE5j	Pit 347	52	40	40	江戸
93B	Pit 456	IE5j	Pit 442	35	30	24	江戸
93B	Pit 457	IE5j	Pit 371	50	44	14	—
93B	Pit 458	IE5j	Pit 441	17	16	11	—

第51表 遺構一覧表 (7)

調査区	新遺構番号	グリッド	旧遺構番号	規模 (cm)			時期
				長さ	幅	深さ	
93B	Pit 459	IE5j	Pit 440	24	24	14	—
93B	Pit 460	IE5j	Pit1494	29	25	11	—
93B	Pit 461	IE5j	Pit 574	23	23	7	—
93B	Pit 462	IE5j	Pit 279	46	37	27	江戸前期
93B	Pit 463	IE6j	Pit 321	22	17	6	—
93B	Pit 464	IE6j	Pit 291	23	22	10	—
93B	Pit 465	IE6j	Pit 276	34	28	5	—
93B	Pit 466	IE6j	Pit 273	42	32	23	古代
93B	Pit 467	IE6j	Pit 280	65	63	—	江戸
93B	Pit 468	IE6j	Pit 478	27	24	28	中世
93B	Pit 469	IE6j	Pit 320	24	19	4	—
93B	Pit 470	IE6j	Pit 529	(98)	—	—	—
93B	Pit 471	IE6j	Pit 234	58	338	44	江戸前期
93B	Pit 472	IE6j	Pit 297	32	28	9	江戸後期
93B	Pit 473	IE6j	Pit 282	43	42	26	—
93B	Pit 474	IE6j	Pit 374	53	49	27	江戸
93B	Pit 475	IE6j	Pit 192	45	35	30	江戸
93B	Pit 476	IE6j	Pit 369	25	22	23	—
93B	Pit 477	IE6j	Pit 413	24	24	29	—
93B	Pit 478	IE6j	Pit 306	40	30	12	中世
93B	Pit 479	IE6j	Pit 460	42	30	24	—
93B	Pit 480	IE6j	Pit 245	46	44	16	古代
93B	Pit 481	IE6j	Pit 463	32	30	12	—
93B	Pit 482	IE6j	Pit 256	32	28	9	江戸後期
93B	Pit 483	IE6j	Pit 204	89	64	80	古代
93B	Pit 484	IE6j	Pit 309	32	30	14	—
93B	Pit 485	IE6j	Pit 191	75	61	45	江戸
93B	Pit 486	IE6j	Pit 355	28	26	29	—
93B	Pit 487	IE6j	Pit 459	55	43	23	—
93B	Pit 488	IE6j	Pit 267	77	73	19	江戸前期
93B	Pit 489	IE6j	Pit 287	47	36	5	江戸
93B	Pit 490	IE6j	Pit 257	25	24	5	—
93B	Pit 491	IE6j	Pit 218	32	22	12	—
93B	Pit 492	IE6j	Pit 265	82	69	6	江戸前期
93B	Pit 493	IE6j	Pit 286	30	24	6	—
93B	Pit 494	IE6j	Pit 275	35	32	8	—
93B	Pit 495	IE6j	Pit 193	60	58	53	—
93B	Pit 496	IE6j	Pit 264	25	23	28	古代
93B	Pit 497	IE7j	Pit 274	80	60	15	—
93B	Pit 498	IE7j	Pit 414	90	66	—	江戸後期
93B	Pit 499	IE7j	Pit1516	28	(27)	6	—
93B	Pit 500	IE7j	Pit 317	36	26	15	江戸
93B	Pit 501	IE7j	Pit 379	60	35	36	—
93B	Pit 502	IE7j	Pit 322	20	19	5	—
93B	Pit 503	IE7j	Pit 628	50	34	27	中世
93B	Pit 504	IE7j	Pit1513	25	25	10	—
93B	Pit 505	IE7j	Pit 288	64	52	12	江戸後期
93B	Pit 506	IE7j	Pit1514	54	50	17	—
93B	Pit 507	IE7j	Pit 367	49	36	32	江戸
93B	Pit 508	IE7j	Pit1515	27	24	15	—
93B	Pit 509	IE7j	Pit 359	26	20	—	—
93B	Pit 510	IE7j	Pit 439	87	63	4	—
93B	Pit 511	IE7j	Pit 310	31	28	17	—
93B	Pit 512	IE7j	Pit 640	(42)	40	27	中世
93B	Pit 513	IE7j	Pit 344	38	29	45	中世
93B	Pit 514	IE7j	Pit 202	98	74	13	江戸後期
93B	Pit 515	IE7j	Pit 380	46	44	4	—
93B	Pit 516	IE7j	Pit 268	48	37	30	—
93B	Pit 517	IE7j	Pit 296	33	31	7	—
93B	Pit 518	IE7j	Pit 203	94	93	33	江戸後期
93B	Pit 519	IE7j	Pit 365	30	24	10	—
93B	Pit 520	IE7j	Pit 382	32	24	28	—
93B	Pit 521	IE7j	Pit1512	(26)	24	20	—
93B	Pit 522	IE7j	Pit 323	26	23	6	—
93B	Pit 523	IE7j	Pit 376	(30)	19	—	—
93B	Pit 524	IE7j	Pit 269	36	32	30	古代
93B	Pit 525	IE7j	Pit 358	(70)	26	5	—
93B	Pit 526	IE7j	Pit 368	42	24	30	—
93B	Pit 527	IE7j	Pit 338	38	32	11	—
93B	Pit 528	IE7j	Pit 331	41	40	29	江戸前期
93B	Pit 529	IE8j	Pit 680	(32)	20	12	—
93B	Pit 530	IE8j	Pit 698	40	32	3	—
93B	Pit 531	IE8j	Pit 676	28	27	26	—
93B	Pit 532	IE8j	Pit 675	35	25	32	—
93B	Pit 533	IE8j	Pit 685	54	34	26	—
93B	Pit 534	IE8j	Pit 674	62	56	8	—
93B	Pit 535	IE8j	Pit 677	28	24	10	江戸後期

調査区	新遺構番号	グリッド	旧遺構番号	規模 (cm)			時期
				長さ	幅	深さ	
93B	Pit 536	IE8k	Pit 571	64	46	5	—
93B	Pit 537	IE8j	Pit 663	30	25	—	—
93B	Pit 538	IE8j	Pit 673	44	31	9	—
93B	Pit 539	IE3k	Pit1457	(27)	20	17	—
93B	Pit 540	IE3k	Pit1430	30	30	6	—
93B	Pit 541	IE3k	Pit1456	(32)	25	8	—
93B	Pit 542	IE3k	Pit1426	(44)	—	38	—
93B	Pit 543	IE3k	Pit1431	20	18	5	—
93B	Pit 544	IE3k	Pit1428	50	38	14	—
93B	Pit 545	IE3k	Pit1432	28	28	14	—
93B	Pit 546	IE3k	Pit 668	32	16	6	古代
93B	Pit 547	IE3k	Pit 632	(25)	23	15	—
93B	Pit 548	IE3k	Pit 669	40	28	25	—
93B	Pit 549	IE3k	Pit 600	50	42	41	古代
93B	Pit 550	IE3k	Pit1429	34	24	14	—
93B	Pit 551	IE3k	Pit1433	32	30	11	—
93B	Pit 552	IE3l	Pit 782	44	25	23	—
93B	Pit 553	IE3k	Pit 601	(74)	60	47	古代
93B	Pit 554	IE3k	Pit1455	32	30	7	—
93B	Pit 555	IE3k	Pit 626	73	68	58	古代
93B	Pit 556	IE3k	Pit1427	42	29	5	—
93B	Pit 557	IE3k	Pit 670	46	38	22	—
93B	Pit 558	IE3l	Pit 764	22	22	26	—
93B	Pit 559	IE3k	Pit1434	48	27	17	江戸前期
93B	Pit 560	IE4k	Pit 573	67	39	23	江戸
93B	Pit 561	IE4k	Pit 558	50	38	29	中世
93B	Pit 562	IE4k	Pit 547	20	20	4	—
93B	Pit 563	IE4k	Pit 605	52	(52)	20	江戸前期
93B	Pit 564	IE4k	Pit1467	37	36	5	—
93B	Pit 565	IE4k	Pit 581	33	29	14	—
93B	Pit 566	IE4k	Pit 620	24	24	7	—
93B	Pit 567	IE4k	Pit 582	(44)	34	—	—
93B	Pit 568	IE4k	Pit 622	50	46	—	—
93B	Pit 569	IE4j	Pit 562	32	32	5	江戸前期
93B	Pit 570	IE4k	Pit 492	74	54	11	中世
93B	Pit 571	IE4k	Pit 594	(50)	33	17	江戸後期
93B	Pit 572	IE4k	Pit 502	44	43	11	江戸前期
93B	Pit 573	IE4k	Pit 613	26	22	14	古代
93B	Pit 574	IE4k	Pit 504	32	24	16	—
93B	Pit 575	IE4k	Pit 636	36	32	4	—
93B	Pit 576	IE4k	Pit 507	62	32	6	—
93B	Pit 577	IE4k	Pit 595	57	42	—	—
93B	Pit 578	IE4k	Pit 508	35	32	10	—
93B	Pit 579	IE4k	Pit 614	(77)	65	10	—
93B	Pit 580	IE4k	Pit 630	26	23	—	江戸
93B	Pit 581	IE4k	Pit 627	21	20	28	—
93B	Pit 582	IE4k	Pit 519	34	34	6	—
93B	Pit 583	IE5k	Pit 648	45	36	40	古代
93B	Pit 584	IE5k	Pit 437	29	21	5	—
93B	Pit 585	IE5k	Pit 589	25	24	20	—
93B	Pit 586	IE5k	Pit1499	52	50	—	—
93B	Pit 587	IE5k	Pit 649	46	42	—	—
93B	Pit 588	IE5k	Pit 457	(56)	34	6	—
93B	Pit 589	IE5k	Pit 587	32	30	—	—
93B	Pit 590	IE5k	Pit 372	30	19	—	—
93B	Pit 591	IE5k	Pit 689	66	45	22	江戸
93B	Pit 592	IE5k	Pit 373	69	58	11	古代
93B	Pit 593	IE5k	Pit 688	48	38	6	古代
93B	Pit 594	IE5k	Pit1498	28	22	8	—
93B	Pit 595	IE5k	Pit 576	36	28	8	古代
93B	Pit 596	IE5k	Pit1497	55	48	—	—
93B	Pit 597	IE5k	Pit1500	43	32	—	—
93B	Pit 598	IE5k	Pit 629	29	26	—	古代
93B	Pit 599	IE5k	Pit 588	22	20	8	—
93B	Pit 600	IE5k	Pit 462	(72)	50	19	—
93B	Pit 601	IE5k	Pit 690	58	42	18	中世
93B	Pit 602	IE5k	Pit 642	(76)	(46)	—	江戸
93B	Pit 603	IE5k	Pit 333	39	30	26	江戸
93B	Pit 604	IE5k	Pit 645	29	29	—	江戸後期
93B	Pit 605	IE5k	Pit 436	40	34	25	—
93B	Pit 606	IE5k	Pit 650	24	20	—	—
93B	Pit 607	IE5k	Pit1501	68	57	—	—
93B	Pit 608	IE5k	Pit 314	60	42	16	江戸
93B	Pit 609	IE5k	Pit 435	42	40	38	中世
93B	Pit 610	IE5k	Pit 520	58	30	15	—
93B	Pit 611	IE6k	Pit 412	38	28	12	—
93B	Pit 612	IE6k	Pit 352	57	36	—	—

第52表 遺構一覧表(8)

調査区	新遺構番号	グリッド	旧遺構番号	規模 (cm)			時 期
				長さ	幅	深さ	
93B	Pit 613	IE6k	Pit 381	24	22	4	—
93B	Pit 614	IE6k	Pit 407	27	20	—	—
93B	Pit 615	IE6k	Pit 301	58	49	33	古代
93B	Pit 616	IE6k	Pit 408	44	36	16	—
93B	Pit 617	IE6k	Pit 303	27	23	41	—
93B	Pit 618	IE6k	Pit1508	49	37	—	—
93B	Pit 619	IE6k	Pit 295	38	36	19	古代
93B	Pit 620	IE6k	Pit1509	34	28	9	—
93B	Pit 621	IE6k	Pit 293	66	57	12	江戸後期
93B	Pit 622	IE6k	Pit 409	22	18	—	—
93B	Pit 623	IE6k	Pit 290	30	28	10	—
93B	Pit 624	IE6k	Pit 315	37	34	5	—
93B	Pit 625	IE6k	Pit 399	24	20	7	—
93B	Pit 626	IE6k	Pit 410	50	36	34	—
93B	Pit 627	IE6k	Pit 366	34	32	14	江戸
93B	Pit 628	IE6k	Pit 343	54	52	15	江戸前期
93B	Pit 629	IE6k	Pit 403	(30)	26	8	—
93B	Pit 630	IE6k	Pit 342	(30)	25	—	—
93B	Pit 631	IE6k	Pit 362	45	40	19	—
93B	Pit 632	IE6k	Pit 341	26	(25)	8	—
93B	Pit 633	IE6k	Pit 360	54	35	26	—
93B	Pit 634	IE6k	Pit 340	25	25	5	—
93B	Pit 635	IE6k	Pit 405	25	22	3	—
93B	Pit 636	IE6k	Pit 411	42	33	21	—
93B	Pit 637	IE6k	Pit1506	(28)	22	5	—
93B	Pit 638	IE6k	Pit 691	50	40	23	江戸
93B	Pit 639	IE6k	Pit 354	33	22	11	江戸前期
93B	Pit 640	IE6k	Pit 319	27	23	—	江戸後期
93B	Pit 641	IE6k	Pit 302	24	21	3	—
93B	Pit 642	IE6k	Pit 687	20	17	6	—
93B	Pit 643	IE6k	Pit 300	72	51	30	—
93B	Pit 644	IE6k	Pit 432	84	82	—	江戸後期
93B	Pit 645	IE6k	Pit 292	72	68	21	江戸後期
93B	Pit 646	IE6k	Pit 433	36	36	12	—
93B	Pit 647	IE6k	Pit 400	29	25	23	—
93B	Pit 648	IE6k	Pit 434	(62)	18	6	—
93B	Pit 649	IE6k	Pit 363	42	35	8	—
93B	Pit 650	IE6k	Pit 476	21	21	12	—
93B	Pit 651	IE6k	Pit 404	24	26	3	—
93B	Pit 652	IE6k	Pit 330	50	34	15	江戸
93B	Pit 653	IE6k	Pit1507	(30)	19	9	—
93B	Pit 654	IE6k	Pit 329	24	22	8	—
93B	Pit 655	IE6k	Pit 378	(42)	33	19	—
93B	Pit 656	IE6k	Pit 328	51	(44)	19	古代
93B	Pit 657	IE6k	Pit 398	29	24	6	中世
93B	Pit 658	IE6k	Pit 327	38	32	19	江戸
93B	Pit 659	IE6k	Pit1504	42	31	13	—
93B	Pit 660	IE6k	Pit 326	78	40	14	—
93B	Pit 661	IE6k	Pit 353	54	41	37	江戸
93B	Pit 662	IE6k	Pit 477	32	30	23	—
93B	Pit 663	IE6k	Pit 402	(90)	84	22	—
93B	Pit 664	IE6k	Pit 294	33	33	8	—
93B	Pit 665	IE6k	Pit1505	50	46	—	—
93B	Pit 666	IE6k	Pit 583	33	32	14	—
93B	Pit 667	IE7k	Pit1519	30	23	9	—
93B	Pit 668	IE7k	Pit 396	(30)	24	8	—
93B	Pit 669	IE7k	Pit 397	45	38	44	江戸前期
93B	Pit 670	IE7k	Pit 325	40	32	—	—
93B	Pit 671	IE7k	Pit 401	20	17	15	—
93B	Pit 672	IE7k	Pit 336	(32)	31	6	—
93B	Pit 673	IE7k	Pit1518	18	18	5	—
93B	Pit 674	IE7k	Pit 337	20	20	—	—
93B	Pit 675	IE7k	Pit1520	38	26	12	—
93B	Pit 676	IE7k	Pit 349	70	60	28	—
93B	Pit 677	IE7k	Pit 427	22	22	29	—
93B	Pit 678	IE7k	Pit 356	39	37	29	—
93B	Pit 679	IE7k	Pit 428	22	20	17	—
93B	Pit 680	IE7k	Pit 307	68	39	6	—
93B	Pit 681	IE7k	Pit 430	75	50	22	江戸後期
93B	Pit 682	IE7k	Pit 361	(32)	23	—	—
93B	Pit 683	IE7k	Pit 431	56	50	22	—
93B	Pit 684	IE7k	Pit 377	42	41	13	—
93B	Pit 685	IE7k	Pit 455	(72)	58	29	江戸前期
93B	Pit 686	IE7k	Pit 384	74	48	17	江戸
93B	Pit 687	IE7k	Pit 473	47	43	24	江戸前期
93B	Pit 688	IE7k	Pit 350	64	53	4	—
93B	Pit 689	IE7k	Pit 618	58	52	30	古代

調査区	新遺構番号	グリッド	旧遺構番号	規模 (cm)			時 期
				長さ	幅	深さ	
93B	Pit 690	IE7k	Pit 308	75	54	5	—
93B	Pit 691	IE7k	Pit 389	60	58	44	古代
93B	Pit 692	IE7k	Pit 357	42	34	7	—
93B	Pit 693	IE7k	Pit 391	52	42	11	—
93B	Pit 694	IE7k	Pit 375	96	48	8	江戸前期
93B	Pit 695	IE7k	Pit 394	20	16	—	—
93B	Pit 696	IE7k	Pit 383	47	(40)	28	—
93B	Pit 697	IE7k	Pit 289	58	57	31	江戸前期
93B	Pit 698	IE7k	Pit1517	(33)	24	11	—
93B	Pit 699	IE7k	Pit 332	46	40	16	江戸
93B	Pit 700	IE7k	Pit 387	25	24	23	—
93B	Pit 701	IE7k	Pit 345	75	58	16	古代
93B	Pit 702	IE7k	Pit 474	38	32	5	—
93B	Pit 703	IE7k	Pit 390	66	45	47	古代
93B	Pit 704	IE7k	Pit 475	20	18	8	—
93B	Pit 705	IE7k	Pit 395	48	36	7	—
93B	Pit 706	IE7k	Pit 829	25	22	11	—
93B	Pit 707	IE7k	Pit 318	22	18	12	—
93B	Pit 708	IE7k	Pit 686	(28)	20	4	—
93B	Pit 709	IE7k	Pit 393	30	20	18	江戸
93B	Pit 710	IE7k	Pit 388	28	24	12	—
93B	Pit 711	IE7k	Pit 324	75	48	9	中世
93B	Pit 712	IE7k	Pit 684	41	32	10	—
93B	Pit 713	IE8k	Pit 386	51	28	17	古代
93B	Pit 714	IE8k	Pit 681	23	20	17	古代
93B	Pit 715	IE8k	Pit 682	32	24	8	古代
93B	Pit 716	IE8k	Pit 638	(44)	27	11	—
93B	Pit 717	IE8k	Pit 593	45	37	12	—
93B	Pit 718	IE8k	Pit 664	44	20	33	—
93B	Pit 719	IE8k	Pit 592	35	28	8	—
93B	Pit 720	IE8k	Pit 679	(64)	—	5	江戸
93B	Pit 721	IE8k	Pit 572	42	40	14	—
93B	Pit 722	IE8k	Pit 639	62	43	26	—
93B	Pit 723	IE8k	Pit 631	42	30	14	—
93B	Pit 724	IE8k	Pit 678	33	28	11	—
93B	Pit 725	IE8k	Pit 385	35	30	20	江戸
93B	Pit 726	IE3l	Pit 602	30	26	36	—
93B	Pit 727	IE3l	Pit 801	30	29	17	—
93B	Pit 728	IE3l	Pit 604	26	26	11	—
93B	Pit 729	IE3l	Pit 797	24	22	9	古代
93B	Pit 730	IE3l	Pit 731	50	34	8	—
93B	Pit 731	IE3l	Pit1458	56	38	—	—
93B	Pit 732	IE3l	Pit 734	(42)	20	26	—
93B	Pit 733	IE3l	Pit1441	26	24	14	—
93B	Pit 734	IE3m	Pit 745	53	43	29	古代
93B	Pit 735	IE3l	Pit1439	26	20	3	—
93B	Pit 736	IE3m	Pit 746	34	34	16	江戸
93B	Pit 737	IE3l	Pit1437	48	18	6	—
93B	Pit 738	IE3l	Pit 713	30	28	34	古代
93B	Pit 739	IE3l	Pit1435	48	22	5	—
93B	Pit 740	IE3l	Pit 221	84	(84)	42	古代
93B	Pit 741	IE3l	Pit1442	26	24	6	—
93B	Pit 742	IE3l	Pit 803	22	22	8	—
93B	Pit 743	IE3l	Pit1438	40	32	7	—
93B	Pit 744	IE3l	Pit 704	73	73	69	古代
93B	Pit 745	IE3l	Pit 730	(38)	24	20	—
93B	Pit 746	IE3l	Pit1436	27	25	18	—
93B	Pit 747	IE3l	Pit1440	28	20	9	—
93B	Pit 748	IE3l	Pit 603	(90)	72	53	古代
93B	Pit 749	IE4l	Pit 799	37	36	17	江戸
93B	Pit 750	IE4l	Pit 747	26	21	22	—
93B	Pit 751	IE4l	Pit 725	22	22	34	—
93B	Pit 752	IE4l	Pit 812	25	22	21	江戸前期
93B	Pit 753	IE4l	Pit 708	29	28	21	—
93B	Pit 754	IE4l	Pit 813	28	23	16	—
93B	Pit 755	IE4l	Pit 762	(52)	37	20	—
93B	Pit 756	IE4l	Pit 718	30	23	26	—
93B	Pit 757	IE4l	Pit 804	32	30	28	江戸
93B	Pit 758	IE4l	Pit 814	43	35	19	—
93B	Pit 759	IE4l	Pit 606	40	34	16	江戸前期
93B	Pit 760	IE4l	Pit 822	38	34	36	江戸
93B	Pit 761	IE4l	Pit 709	38	28	17	—
93B	Pit 762	IE4l	Pit1468	52	37	—	—
93B	Pit 763	IE4l	Pit 711	37	33	35	江戸
93B	Pit 764	IE4l	Pit 710	50	49	22	—
93B	Pit 765	IE4l	Pit 707	76	75	44	江戸前期
93B	Pit 766	IE4l	Pit 729	35	27	25	江戸後期

第53表 遺構一覽表 (9)

調査区	新遺構番号	グリッド	旧遺構番号	規模 (cm)			時期
				長さ	幅	深さ	
93B	Pit 767	IE5I	Pit 760	18	16	7	—
93B	Pit 768	IE5I	Pit 761	26	14	22	—
93B	Pit 769	IE5I	Pit 771	58	(58)	11	江戸前期
93B	Pit 770	IE5I	Pit 727	15	13	6	—
93B	Pit 771	IE5I	Pit 774	32	19	13	江戸前期
93B	Pit 772	IE5I	Pit 722	36	33	36	中世
93B	Pit 773	IE5I	Pit 775	(32)	22	11	—
93B	Pit 774	IE5I	Pit 739	26	20	10	—
93B	Pit 775	IE5I	Pit 788	6	28	27	江戸
93B	Pit 776	IE5I	Pit 750	33	32	33	—
93B	Pit 777	IE5I	Pit 805	38	25	10	江戸後期
93B	Pit 778	IE5I	Pit 723	29	25	18	江戸後期
93B	Pit 779	IE5I	Pit 825	44	25	4	江戸
93B	Pit 780	IE5I	Pit 748	64	—	34	江戸前期
93B	Pit 781	IE5I	Pit 720	(52)	—	21	中世
93B	Pit 782	IE5I	Pit 726	36	32	18	—
93B	Pit 783	IE5I	Pit1502	60	46	—	—
93B	Pit 784	IE6I	Pit 778	(44)	42	9	—
93B	Pit 785	IE6I	Pit 819	30	23	10	—
93B	Pit 786	IE6I	Pit 846	(33)	24	—	—
93B	Pit 787	IE6I	Pit 847	(26)	(20)	—	—
93B	Pit 788	IE6I	Pit 724	29	25	8	—
93B	Pit 789	IE6I	Pit 848	35	26	7	—
93B	Pit 790	IE6I	Pit 743	32	24	6	—
93B	Pit 791	IE6I	Pit 858	30	29	—	—
93B	Pit 792	IE6I	Pit 753	62	55	15	—
93B	Pit 793	IE6I	Pit 859	43	22	15	江戸
93B	Pit 794	IE6I	Pit 772	23	18	23	中世
93B	Pit 795	IE6I	Pit 860	26	26	30	古代
93B	Pit 796	IE6I	Pit 789	24	21	14	—
93B	Pit 797	IE6I	Pit 870	(87)	—	8	江戸
93B	Pit 798	IE6I	Pit 810	36	26	11	江戸
93B	Pit 799	IE6I	Pit 871	24	16	30	—
93B	Pit 800	IE6I	Pit 820	(32)	25	28	—
93B	Pit 801	IE6I	Pit 903	51	37	41	—
93B	Pit 802	IE6I	Pit 888	23	20	—	—
93B	Pit 803	IE6I	Pit 872	29	28	27	—
93B	Pit 804	IE6I	Pit 752	40	36	29	—
93B	Pit 805	IE6I	Pit 901	19	17	24	—
93B	Pit 806	IE6I	Pit 779	58	45	6	—
93B	Pit 807	IE6I	Pit 880	26	24	13	江戸
93B	Pit 808	IE6I	Pit 456	36	34	10	江戸後期
93B	Pit 809	IE6I	Pit 896	(52)	(51)	—	古代
93B	Pit 810	IE6I	Pit 738	36	24	8	中世
93B	Pit 811	IE6I	Pit 894	(38)	18	12	江戸
93B	Pit 812	IE6I	Pit 808	80	77	17	江戸
93B	Pit 813	IE6I	Pit 759	26	26	13	江戸後期
93B	Pit 814	IE6I	Pit 827	42	28	11	江戸
93B	Pit 815	IE6I	Pit 890	(50)	(23)	5	古代
93B	Pit 816	IE7I	Pit 818	50	28	26	—
93B	Pit 817	IE7I	Pit 781	50	49	32	江戸
93B	Pit 818	IE7I	Pit 780	36	30	42	—
93B	Pit 819	IE7I	Pit1522	64	48	—	—
93B	Pit 820	IE7I	Pit 928	24	22	—	—
93B	Pit 821	IE7I	Pit 925	20	16	5	—
93B	Pit 822	IE7I	Pit 751	69	60	7	江戸
93B	Pit 823	IE7I	Pit 926	30	26	5	—
93B	Pit 824	IE7I	Pit 795	96	88	26	江戸後期
93B	Pit 825	IE7I	Pit 927	(94)	(80)	—	—
93B	Pit 826	IE7I	Pit1521	30	30	21	—
93B	Pit 827	IE7I	Pit 815	44	40	28	—
93B	Pit 828	IE7I	Pit 758	30	27	36	—
93B	Pit 829	IE7I	Pit 721	40	36	85	中世
93B	Pit 830	IE7I	Pit 796	70	40	19	古代
93B	Pit 831	IE7I	Pit 794	38	26	10	江戸後期
93B	Pit 832	IE7I	Pit 736	72	72	44	江戸前期
93B	Pit 833	IE7I	Pit 828	25	17	—	古代
93B	Pit 834	IE8I	Pit 826	35	27	16	江戸
93B	Pit 835	IE8I	Pit 742	59	40	39	江戸前期
93B	Pit 836	IE8I	Pit 911	39	32	5	—
93B	Pit 837	IE8I	Pit 999	60	32	—	—
93B	Pit 838	IE8I	Pit 910	(50)	(50)	—	—
93B	Pit 839	IE8I	Pit1534	42	40	17	—
93B	Pit 840	IE8I	Pit 902	60	37	—	—
93B	Pit 841	IE8I	Pit 917	22	21	5	—
93B	Pit 842	IE8I	Pit 793	60	38	21	—
93B	Pit 843	IE8I	Pit 915	20	18	5	—

調査区	新遺構番号	グリッド	旧遺構番号	規模 (cm)			時期
				長さ	幅	深さ	
93B	Pit 844	IE8I	Pit 763	29	28	17	江戸
93B	Pit 845	IE8I	Pit1018	40	28	—	—
93B	Pit 846	IE8I	Pit 842	34	33	28	江戸
93B	Pit 847	IE8I	Pit 897	35	26	14	—
93B	Pit 848	IE8I	Pit 916	24	20	20	—
93B	Pit 849	IE8I	Pit 879	(48)	27	10	—
93B	Pit 850	IE9I	Pit1390	(50)	46	—	—
93B	Pit 851	IE3m	Pit 882	38	32	20	—
93B	Pit 852	IE3m	Pit 802	46	38	5	—
93B	Pit 853	IE3m	Pit 783	18	18	12	—
93B	Pit 854	IE3m	Pit1174	38	33	10	—
93B	Pit 855	IE3m	Pit 755	50	50	18	—
93B	Pit 856	IE3m	Pit1443	54	50	14	古代
93B	Pit 857	IE3m	Pit 754	26	25	4	—
93B	Pit 858	IE3m	Pit1444	42	38	9	—
93B	Pit 859	IE3m	Pit1448	24	19	17	—
93B	Pit 860	IE3m	Pit 765	36	25	25	—
93B	Pit 861	IE3m	Pit1451	(58)	(36)	16	—
93B	Pit 862	IE3m	Pit1447	62	49	14	—
93B	Pit 863	IE4I	Pit 787	42	40	43	江戸
93B	Pit 864	IE3m	Pit 881	37	36	9	江戸前期
93B	Pit 865	IE3m	Pit 733	31	28	14	—
93B	Pit 866	IE3m	Pit 766	33	30	19	—
93B	Pit 867	IE3m	Pit1208	25	20	15	—
93B	Pit 868	IE3m	Pit 719	50	42	22	—
93B	Pit 869	IE3m	Pit 785	16	14	9	—
93B	Pit 870	IE3m	Pit 715	50	32	37	—
93B	Pit 871	IE3m	Pit 883	(40)	—	—	—
93B	Pit 872	IE3m	Pit 756	(102)	70	51	—
93B	Pit 873	IE4m	Pit 741	43	42	23	古代
93B	Pit 874	IE4m	Pit 786	(48)	40	10	—
93B	Pit 875	IE4m	Pit 717	40	33	—	戦国期か
93B	Pit 876	IE4m	Pit 807	45	31	25	江戸前期
93B	Pit 877	IE4m	Pit 716	47	41	48	江戸前期
93B	Pit 878	IE4m	Pit 836	24	20	28	—
93B	Pit 879	IE4m	Pit 740	(40)	28	26	中世
93B	Pit 880	IE4m	Pit 705	45	36	15	—
93B	Pit 881	IE4m	Pit 749	36	34	40	—
93B	Pit 882	IE4m	Pit 706	50	32	38	江戸前期
93B	Pit 883	IE4m	Pit 777	40	40	6	—
93B	Pit 884	IE5m	Pit 735	33	30	6	—
93B	Pit 885	IE5m	Pit 702	37	34	30	古代
93B	Pit 886	IE5m	Pit1503	25	21	3	—
93B	Pit 887	IE5m	Pit 728	40	37	20	江戸
93B	Pit 888	IE5m	Pit 757	33	31	14	—
93B	Pit 889	IE5m	Pit 701	82	42	6	古代
93B	Pit 890	IE6m	Pit 809	34	32	23	—
93B	Pit 891	IE6m	Pit 957	(30)	—	—	—
93B	Pit 892	IE6m	Pit 956	(52)	42	16	江戸
93B	Pit 893	IE6m	Pit 790	39	32	13	—
93B	Pit 894	IE6m	Pit 949	(66)	(66)	—	—
93B	Pit 895	IE6m	Pit1511	(68)	63	5	—
93B	Pit 896	IE6m	Pit 891	40	35	11	—
93B	Pit 897	IE6m	Pit 792	(32)	19	9	—
93B	Pit 898	IE6m	Pit 849	22	18	—	—
93B	Pit 899	IE6m	Pit 791	47	29	11	—
93B	Pit 900	IE6m	Pit 773	(63)	—	11	—
93B	Pit 901	IE6m	Pit1510	23	17	10	—
93B	Pit 902	IE6m	Pit 889	49	42	5	—
93B	Pit 903	IE7m	Pit 852	66	66	19	江戸
93B	Pit 904	IE7m	Pit 943	52	35	37	—
93B	Pit 905	IE7m	Pit 851	48	33	7	—
93B	Pit 906	IE7m	Pit1314	47	41	13	—
93B	Pit 907	IE7m	Pit 892	37	35	—	—
93B	Pit 908	IE7m	Pit1000	29	29	9	—
93B	Pit 909	IE7m	Pit 904	92	53	12	古代
93B	Pit 910	IE7m	Pit1316	54	39	15	中世
93B	Pit 911	IE7m	Pit1313	35	30	24	江戸
93B	Pit 912	IE7m	Pit 942	47	46	12	—
93B	Pit 913	IE7m	Pit 893	48	45	13	—
93B	Pit 914	IE7m	Pit1346	27	24	25	中世
93B	Pit 915	IE8m	Pit 981	25	25	19	中世
93B	Pit 916	IE8m	Pit 913	(40)	24	—	—
93B	Pit 917	IE8m	Pit1010	30	22	22	—
93B	Pit 918	IE8m	Pit 948	36	36	21	—
93B	Pit 919	IE8m	Pit 979	34	28	27	江戸
93B	Pit 920	IE8m	Pit1019	54	42	18	—

第54表 遺構一覧表 (10)

調査区	新遺構番号	グリッド	旧遺構番号	規模 (cm)			時期
				長さ	幅	深さ	
93B	Pit 921	IE8m	Pit 976	34	30	24	—
93B	Pit 922	IE8m	Pit1535	32	32	37	—
93B	Pit 923	IE8m	Pit 992	23	22	5	—
93B	Pit 924	IE8m	Pit 914	32	30	15	—
93B	Pit 925	IE8m	Pit 977	(50)	(30)	24	—
93B	Pit 926	IE8m	Pit 980	36	27	17	—
93B	Pit 927	IE8m	Pit 985	22	20	15	—
93B	Pit 928	IE8m	Pit 983	51	42	13	江戸
93B	Pit 929	IE9m	Pit1238	32	32	24	江戸前期
93B	Pit 930	IE9m	Pit1246	(38)	20	—	—
93B	Pit 931	IE9m	Pit1247	(40)	17	6	—
93B	Pit 932	IE9m	Pit1240	15	15	6	—
93B	Pit 933	IE9m	Pit1241	14	14	7	—
93B	Pit 934	IE9m	Pit1242	18	17	12	—
93B	Pit 935	IE9m	Pit1245	(34)	20	—	—
93B	Pit 936	IE9m	Pit1536	14	(14)	5	—
93B	Pit 937	IE9m	Pit1239	25	22	14	—
93B	Pit 938	IE9m	Pit1237	30	28	10	—
93B	Pit 939	IE2n	Pit1449	41	40	32	江戸前期
93B	Pit 940	IE3n	Pit 868	38	24	5	古代
93B	Pit 941	IE3n	Pit 837	80	62	29	江戸後期
93B	Pit 942	IE3n	Pit 835	23	21	16	—
93B	Pit 943	IE3n	Pit1469	92	32	27	—
93B	Pit 944	IE3n	Pit 816	21	21	8	—
93B	Pit 945	IE3n	Pit 955	(35)	22	11	—
93B	Pit 946	IE3n	Pit 800	25	23	15	—
93B	Pit 947	IE3n	Pit 923	28	28	15	—
93B	Pit 948	IE3n	Pit 784	28	27	28	—
93B	Pit 949	IE3o	Pit 867	46	34	29	江戸
93B	Pit 950	IE3n	Pit 770	47	47	22	古代
93B	Pit 951	IE3n	Pit 744	84	38	35	古代
93B	Pit 952	IE3n	Pit 769	77	61	40	江戸前期
93B	Pit 953	IE3n	Pit 951	24	20	36	—
93B	Pit 954	IE3n	Pit 768	70	57	14	—
93B	Pit 955	IE3n	Pit 865	47	36	24	江戸
93B	Pit 956	IE3n	Pit 898	34	26	29	—
93B	Pit 957	IE3n	Pit 960	20	18	6	江戸
93B	Pit 958	IE3n	Pit 767	26	22	19	—
93B	Pit 959	IE4n	Pit 862	36	34	24	—
93B	Pit 960	IE4n	Pit 841	44	28	9	—
93B	Pit 961	IE4n	Pit 840	32	32	15	中世
93B	Pit 962	IE4n	Pit 991	33	27	36	—
93B	Pit 963	IE4n	Pit 861	34	32	17	古代
93B	Pit 964	IE4n	Pit 863	44	40	23	—
93B	Pit 965	IE4n	Pit 838	56	53	11	—
93B	Pit 966	IE4n	Pit 823	31	29	7	—
93B	Pit 967	IE5n	Pit 839	30	28	11	—
93B	Pit 968	IE5n	Pit 831	48	46	22	江戸
93B	Pit 969	IE5n	Pit 989	35	28	12	—
93B	Pit 970	IE5n	Pit 986	25	17	9	—
93B	Pit 971	IE5n	Pit 830	40	33	17	—
93B	Pit 972	IE6n	Pit 873	36	(36)	19	—
93B	Pit 973	IE6n	Pit1011	29	21	5	—
93B	Pit 974	IE6n	Pit1005	27	22	4	—
93B	Pit 975	IE6n	Pit1054	(30)	—	—	—
93B	Pit 976	IE6n	Pit1002	(68)	—	—	—
93B	Pit 977	IE6n	Pit1013	(24)	19	8	—
93B	Pit 978	IE6n	Pit1012	55	(55)	9	—
93B	Pit 979	IE6n	Pit 909	28	23	—	江戸
93B	Pit 980	IE6n	Pit 908	24	18	5	—
93B	Pit 981	IE6n	Pit1016	45	40	4	江戸
93B	Pit 982	IE6n	Pit 993	23	16	14	—
93B	Pit 983	IE6n	Pit 997	32	25	6	—
93B	Pit 984	IE6n	Pit1014	32	25	10	—
93B	Pit 985	IE6n	Pit1026	37	30	3	—
93B	Pit 986	IE6n	Pit 996	22	20	5	—
93B	Pit 987	IE7n	Pit1029	24	19	18	中世
93B	Pit 988	IE7n	Pit 939	18	18	3	—
93B	Pit 989	IE7n	Pit1028	19	17	6	古代
93B	Pit 990	IE7n	Pit1027	18	16	4	—
93B	Pit 991	IE7n	Pit 959	26	24	5	—
93B	Pit 992	IE7n	Pit1030	33	31	13	—
93B	Pit 993	IE7n	Pit1526	16	14	8	—
93B	Pit 994	IE7n	Pit 938	30	27	32	中世
93B	Pit 995	IE8n	Pit 936	50	40	5	—
93B	Pit 996	IE8n	Pit1224	45	42	25	—
93B	Pit 997	IE8n	Pit 941	70	57	5	—

調査区	新遺構番号	グリッド	旧遺構番号	規模 (cm)			時期
				長さ	幅	深さ	
93B	Pit 998	IE8n	Pit1225	57	42	20	—
93B	Pit 999	IE8n	Pit 937	32	27	6	—
93B	Pit1000	IE8n	Pit1226	62	23	21	—
93B	Pit1001	IE8n	Pit 935	42	30	5	—
93B	Pit1002	IE8n	Pit 958	27	24	13	江戸
93B	Pit1003	IE8n	Pit 933	18	18	11	—
93B	Pit1004	IE8n	Pit1537	55	55	—	—
93B	Pit1005	IE8n	Pit 930	30	28	6	—
93B	Pit1006	IE8n	Pit1538	(42)	30	54	—
93B	Pit1007	IE8n	Pit 921	84	80	5	江戸後期
93B	Pit1008	IE8n	Pit1539	22	18	9	—
93B	Pit1009	IE8n	Pit 946	42	35	37	—
93B	Pit1010	IE8n	Pit1540	54	32	16	—
93B	Pit1011	IE8n	Pit 905	96	(94)	5	江戸
93B	Pit1012	IE8n	Pit1541	71	46	—	—
93B	Pit1013	IE8n	Pit1542	(17)	12	14	—
93B	Pit1014	IE8n	Pit1387	24	20	3	—
93B	Pit1015	IE8n	Pit 931	25	20	38	—
93B	Pit1016	IE8n	Pit1388	26	26	6	—
93B	Pit1017	IE8n	Pit 920	38	36	11	—
93B	Pit1018	IE8n	Pit1389	53	22	7	—
93B	Pit1019	IE8n	Pit 945	30	28	14	中世
93B	Pit1020	IE8n	Pit1391	42	(32)	9	—
93B	Pit1021	IE8n	Pit 929	55	44	11	—
93B	Pit1022	IE8n	Pit 934	22	18	10	—
93B	Pit1023	IE8n	Pit 947	28	24	30	—
93B	Pit1024	IE8o	Pit1393	(88)	73	—	—
93B	Pit1025	IE9n	Pit1243	32	31	—	—
93B	Pit1026	IE9n	Pit1545	57	52	—	—
93B	Pit1027	IE9n	Pit1248	67	25	8	—
93B	Pit1028	IE9n	Pit1279	29	28	19	—
93B	Pit1029	IE9n	Pit1544	62	46	—	—
93B	Pit1030	IE9n	Pit1244	32	22	6	—
93B	Pit1031	IE9n	Pit1265	58	39	5	—
93B	Pit1032	IE9n	Pit1263	29	22	5	—
93B	Pit1033	IE9n	Pit1361	29	17	—	—
93B	Pit1034	IE9n	Pit1261	22	19	3	—
93B	Pit1035	IE9n	Pit1281	30	30	4	—
93B	Pit1036	IE9n	Pit1280	(28)	18	5	—
93B	Pit1037	IE9n	Pit1260	32	27	7	—
93B	Pit1038	IE9n	Pit1262	22	22	6	—
93B	Pit1039	IE9n	Pit1282	30	21	12	—
93B	Pit1040	IE10n	Pit1283	43	20	9	—
93B	Pit1041	IE10n	Pit1277	(38)	24	3	—
93B	Pit1042	IE10n	Pit1278	42	30	—	—
93B	Pit1043	IE10n	Pit1264	42	37	8	—
93B	Pit1044	IE10n	Pit1276	(37)	30	4	—
93B	Pit1045	IE3o	Pit 885	24	22	14	—
93B	Pit1046	IE3o	Pit 961	20	16	4	—
93B	Pit1047	IE3o	Pit 962	19	18	32	—
93B	Pit1048	IE3o	Pit 886	32	30	9	—
93B	Pit1049	IE3o	Pit 968	39	35	18	—
93B	Pit1050	IE3o	Pit 900	61	55	31	江戸前期
93B	Pit1051	IE3o	Pit 924	37	32	28	江戸
93B	Pit1052	IE3o	Pit 874	24	22	20	古代
93B	Pit1053	IE3o	Pit 845	25	23	6	—
93B	Pit1054	IE3o	Pit 856	30	29	9	—
93B	Pit1055	IE3o	Pit 844	54	50	29	江戸
93B	Pit1056	IE3o	Pit 899	(57)	(38)	22	中世
93B	Pit1057	IE3o	Pit 843	58	41	6	江戸後期
93B	Pit1058	IE3o	Pit 857	19	18	5	—
93B	Pit1059	IE3o	Pit 884	(80)	78	22	江戸前期
93B	Pit1060	IE3o	Pit 887	34	33	10	—
93B	Pit1061	IE3o	Pit 824	20	19	5	—
93B	Pit1062	IE4o	Pit 912	18	17	10	中世
93B	Pit1063	IE4o	Pit 866	30	30	12	—
93B	Pit1064	IE4o	Pit 855	(48)	38	10	—
93B	Pit1065	IE4o	Pit 922	44	32	9	古代
93B	Pit1066	IE4o	Pit 854	32	22	19	—
93B	Pit1067	IE4o	Pit 907	27	20	7	—
93B	Pit1068	IE4o	Pit 963	(72)	—	4	中世
93B	Pit1069	IE4o	Pit 876	20	18	7	—
93B	Pit1070	IE4o	Pit 853	22	20	9	—
93B	Pit1071	IE4o	Pit 869	54	47	17	中世
93B	Pit1072	IE4o	Pit 973	27	25	17	—
93B	Pit1073	IE4o	Pit 919	(54)	30	9	—
93B	Pit1074	IE4o	Pit 834	30	30	18	江戸後期

第55表 遺構一覧表 (11)

調査区	新遺構番号	グリッド	旧遺構番号	規模 (cm)			時期
				長さ	幅	深さ	
93B	Pit1075	IE4o	Pit 954	34	34	22	—
93B	Pit1076	IE4o	Pit 906	22	20	9	—
93B	Pit1077	IE4o	Pit 932	30	(30)	19	—
93B	Pit1078	IE4o	Pit 833	(50)	37	—	—
93B	Pit1079	IE5o	Pit 987	(72)	57	22	江戸後期
93B	Pit1080	IE5o	Pit1523	52	50	18	—
93B	Pit1081	IE5o	Pit 969	32	28	17	中世
93B	Pit1082	IE5o	Pit 990	31	30	19	—
93B	Pit1083	IE5o	Pit 974	40	30	17	中世
93B	Pit1084	IE5o	Pit1042	(33)	30	12	—
93B	Pit1085	IE5o	Pit1003	26	25	6	—
93B	Pit1086	IE5o	Pit 953	47	38	12	江戸
93B	Pit1087	IE5o	Pit 971	20	20	4	—
93B	Pit1088	IE5o	Pit 988	54	32	11	古代
93B	Pit1089	IE5o	Pit1007	(80)	(80)	14	江戸
93B	Pit1090	IE5o	Pit 975	32	30	21	古代
93B	Pit1091	IE7o	Pit1347	47	40	13	—
93B	Pit1092	IE7o	Pit1527	40	34	20	—
93B	Pit1093	IE7o	Pit1348	25	23	4	—
93B	Pit1094	IE8o	Pit1399	(42)	36	17	—
93B	Pit1095	IE8o	Pit1405	50	40	—	中世
93B	Pit1096	IE8o	Pit1306	28	27	25	—
93B	Pit1097	IE8o	Pit1401	38	37	31	江戸前期
93B	Pit1098	IE8o	Pit1287	74	68	34	中世
93B	Pit1099	IE8o	Pit1404	48	36	54	中世
93B	Pit1100	IE8o	Pit1307	53	48	22	—
93B	Pit1101	IE9o	Pit1548	52	50	—	—
93B	Pit1102	IE9o	Pit1551	26	20	11	—
93B	Pit1103	IE9o	Pit1546	68	60	—	—
93B	Pit1104	IE9o	Pit1267	35	34	39	中世
93B	Pit1105	IE9o	Pit1250	54	52	—	—
93B	Pit1106	IE9o	Pit1266	23	23	28	古代
93B	Pit1107	IE9o	Pit1251	32	30	30	—
93B	Pit1108	IE9o	Pit1373	76	64	29	江戸
93B	Pit1109	IE9o	Pit1252	26	24	11	—
93B	Pit1110	IE9o	Pit1547	83	40	—	—
93B	Pit1111	IE9o	Pit1549	67	58	—	—
93B	Pit1112	IE9o	Pit1372	74	53	22	中世
93B	Pit1113	IE9o	Pit1550	44	32	8	—
93B	Pit1114	IE9o	Pit1308	52	52	28	中世
93B	Pit1115	IE3p	Pit1416	30	23	5	—
93B	Pit1116	IE3p	Pit1415	32	26	5	—
93B	Pit1117	IE3p	Pit1471	29	28	10	—
93B	Pit1118	IE3p	Pit1470	30	26	5	—
93B	Pit1119	IE3p	Pit1472	38	21	12	—
93B	Pit1120	IE3p	Pit1417	41	36	9	古代
93B	Pit1121	IE4p	Pit1053	(24)	21	10	—
93B	Pit1122	IE4p	Pit1032	23	22	9	—
93B	Pit1123	IE4p	Pit1419	27	21	25	—
93B	Pit1124	IE4p	Pit1413	18	17	11	中世
93B	Pit1125	IE4p	Pit1033	30	22	6	—
93B	Pit1126	IE4p	Pit1414	24	24	3	—
93B	Pit1127	IE4p	Pit1031	32	26	42	中世
93B	Pit1128	IE4p	Pit1418	34	26	—	—
93B	Pit1129	IE5p	Pit1525	50	45	19	—
93B	Pit1130	IE5p	Pit1524	30	20	7	—
93B	Pit1131	IE5p	Pit 950	(94)	—	—	—
93B	Pit1132	IE5p	Pit 944	29	29	42	—
93B	Pit1133	IE5p	Pit1083	52	52	17	—
93B	Pit1134	IE5p	Pit1082	64	54	23	江戸後期
93B	Pit1135	IE6p	Pit1097	53	47	27	江戸後期
93B	Pit1136	IE6p	Pit1122	(90)	(70)	8	江戸
93B	Pit1137	IE6p	Pit1095	50	49	44	—
93B	Pit1138	IE6p	Pit1108	50	43	36	—
93B	Pit1139	IE7p	Pit1092	20	18	14	—
93B	Pit1140	IE7p	Pit1091	20	18	7	—
93B	Pit1141	IE8p	Pit1188	27	26	16	—
93B	Pit1142	IE8p	Pit1189	43	30	27	—
93B	Pit1143	IE8p	Pit1275	35	27	25	—
93B	Pit1144	IE8p	Pit1218	20	20	11	—
93B	Pit1145	IE8p	Pit1094	42	24	11	—
93B	Pit1146	IE8p	Pit1093	35	29	6	古代
93B	Pit1147	IE9p	Pit1221	32	20	15	—
93B	Pit1148	IE9p	Pit1195	15	15	4	—
93B	Pit1149	IE9p	Pit1223	(48)	32	26	中世
93B	Pit1150	IE9p	Pit1205	27	25	9	—
93B	Pit1151	IE9p	Pit1213	36	34	15	—

調査区	新遺構番号	グリッド	旧遺構番号	規模 (cm)			時期
				長さ	幅	深さ	
93B	Pit1152	IE9p	Pit1220	70	44	26	—
93B	Pit1153	IE9p	Pit1398	(90)	83	22	江戸
93B	Pit1154	IE9p	Pit1222	46	30	13	古代
93B	Pit1155	IE9p	Pit1196	47	44	14	古代
93B	Pit1156	IE9p	Pit1204	30	22	15	—
93B	Pit1157	IE9p	Pit1190	22	21	10	—
93B	Pit1158	IE9p	Pit1219	20	19	12	—
93B	Pit1159	IE9p	Pit1191	30	30	17	—
93B	Pit1160	IE10p	Pit1206	23	20	8	中世
93B	Pit1161	IE10p	Pit1397	77	55	17	—
93B	Pit1162	IE10p	Pit1207	(52)	—	7	—
93B	Pit1163	IE2q	Pit1130	40	24	25	—
93B	Pit1164	IE3q	Pit1067	48	27	—	—
93B	Pit1165	IE3q	Pit1024	80	52	14	江戸前期
93B	Pit1166	IE3q	Pit1058	24	24	5	—
93B	Pit1167	IE3q	Pit1073	48	22	—	江戸
93B	Pit1168	IE3q	Pit1365	24	18	12	—
93B	Pit1169	IE3q	Pit1068	58	50	7	—
93B	Pit1170	IE3q	Pit1380	20	20	22	—
93B	Pit1171	IE3q	Pit1022	41	33	17	—
93B	Pit1172	IE3q	Pit1078	20	17	22	—
93B	Pit1173	IE3q	Pit1065	95	18	3	—
93B	Pit1174	IE3q	Pit1473	43	32	22	—
93B	Pit1175	IE3q	Pit1063	70	20	—	—
93B	Pit1176	IE3q	Pit1110	34	30	25	中世
93B	Pit1177	IE3q	Pit1112	30	30	5	—
93B	Pit1178	IE3q	Pit1111	(28)	20	—	—
93B	Pit1179	IE3q	Pit1023	79	64	5	古代
93B	Pit1180	IE3q	Pit1034	27	26	8	中世
93B	Pit1181	IE3q	Pit1118	24	22	7	古代
93B	Pit1182	IE3q	Pit1041	95	79	—	—
93B	Pit1183	IE3q	Pit1064	32	19	3	—
93B	Pit1184	IE3q	Pit1052	(60)	25	5	—
93B	Pit1185	IE3q	Pit1060	27	26	16	—
93B	Pit1186	IE3q	Pit1364	44	24	6	—
93B	Pit1187	IE3q	Pit1066	30	28	4	—
93B	Pit1188	IE3q	Pit1158	(86)	50	5	—
93B	Pit1189	IE3q	Pit1119	22	17	8	—
93B	Pit1190	IE3q	Pit1020	20	20	9	—
93B	Pit1191	IE4q	Pit1339	20	20	25	江戸
93B	Pit1192	IE4q	Pit1109	48	43	20	江戸
93B	Pit1193	IE4q	Pit1120	41	39	4	—
93B	Pit1194	IE5q	Pit1353	(45)	—	15	—
93B	Pit1195	IE5q	Pit1355	58	50	5	古代
93B	Pit1196	IE5q	Pit1096	(51)	40	17	—
93B	Pit1197	IE5q	Pit1381	32	26	12	—
93B	Pit1198	IE6q	Pit1102	20	18	—	江戸後期
93B	Pit1199	IE6q	Pit1529	37	25	12	—
93B	Pit1200	IE6q	Pit1087	30	27	12	—
93B	Pit1201	IE6q	Pit1140	35	32	14	—
93B	Pit1202	IE6q	Pit1141	23	21	23	—
93B	Pit1203	IE6q	Pit1368	29	28	5	—
93B	Pit1204	IE6q	Pit1088	32	26	7	—
93B	Pit1205	IE6q	Pit1134	45	32	27	—
93B	Pit1206	IE6q	Pit1151	34	23	7	—
93B	Pit1207	IE7q	Pit1180	(36)	30	17	—
93B	Pit1208	IE7q	Pit1185	(32)	28	24	古代
93B	Pit1209	IE7q	Pit1175	19	13	15	中世
93B	Pit1210	IE7q	Pit1144	27	26	12	—
93B	Pit1211	IE7q	Pit1155	(28)	20	5	—
93B	Pit1212	IE7q	Pit1197	(48)	(42)	—	—
93B	Pit1213	IE7q	Pit1528	18	10	12	—
93B	Pit1214	IE7q	Pit1152	34	30	4	—
93B	Pit1215	IE7q	Pit1135	30	28	21	中世
93B	Pit1216	IE8q	Pit1311	62	62	8	—
93B	Pit1217	IE8q	Pit1127	22	16	7	—
93B	Pit1218	IE8q	Pit1098	30	21	14	—
93B	Pit1219	IE8q	Pit1099	22	16	10	—
93B	Pit1220	IE8q	Pit1107	38	29	3	—
93B	Pit1221	IE8q	Pit1100	23	20	11	—
93B	Pit1222	IE8q	Pit1106	28	26	5	—
93B	Pit1223	IE8q	Pit1101	26	24	26	—
93B	Pit1224	IE8q	Pit1117	80	(80)	4	—
93B	Pit1225	IE8q	Pit1103	26	20	23	—
93B	Pit1226	IE8q	Pit1304	18	14	23	—
93B	Pit1227	IE8q	Pit1543	18	17	11	—
93B	Pit1228	IE8q	Pit1105	19	18	14	—

第56表 遺構一覧表 (12)

調査区	新遺構番号	グリッド	旧遺構番号	規模 (cm)			時期
				長さ	幅	深さ	
93B	Pit1229	IE8q	Pit1126	20	18	5	—
93B	Pit1230	IE8q	Pit1125	51	37	30	古代
93B	Pit1231	IE8q	Pit1104	28	25	5	—
93B	Pit1232	IE9q	Pit1183	20	19	2	—
93B	Pit1233	IE9q	Pit1406	20	17	5	古代
93B	Pit1234	IE9q	Pit1167	56	—	8	—
93B	Pit1235	IE9q	Pit1165	29	27	12	古代
93B	Pit1236	IE9q	Pit1166	20	20	—	—
93B	Pit1237	IE2r	Pit1047	50	39	22	古代
93B	Pit1238	IE2r	Pit1079	17	15	9	—
93B	Pit1239	IE2r	Pit1113	30	30	18	—
93B	Pit1240	IE2r	Pit1080	12	12	11	—
93B	Pit1241	IE3r	Pit1036	82	80	15	江戸
93B	Pit1242	IE3r	Pit1039	22	19	3	—
93B	Pit1243	IE3r	Pit1344	88	52	52	江戸後期
93B	Pit1244	IE3r	Pit1040	27	21	13	—
93B	Pit1245	IE3r	Pit1050	29	23	27	江戸
93B	Pit1246	IE3r	Pit1474	27	24	16	—
93B	Pit1247	IE3r	Pit1115	32	29	32	—
93B	Pit1248	IE3r	Pit1048	48	30	—	—
93B	Pit1249	IE3r	Pit1049	49	31	9	—
93B	Pit1250	IE3r	Pit1061	42	30	12	古代
93B	Pit1251	IE3r	Pit1317	52	22	4	—
93B	Pit1252	IE3r	Pit1038	(18)	12	—	—
93B	Pit1253	IE3r	Pit1318	30	25	11	—
93B	Pit1254	IE3r	Pit1045	96	92	7	江戸後期
93B	Pit1255	IE3r	Pit1051	27	22	4	—
93B	Pit1256	IE3r	Pit1132	42	38	—	江戸
93B	Pit1257	IE3r	Pit1037	60	48	9	江戸
93B	Pit1258	IE3r	Pit1075	24	22	36	—
93B	Pit1259	IE3r	Pit1056	(90)	—	16	江戸後期
93B	Pit1260	IE3r	Pit1043	90	76	15	中世
93B	Pit1261	IE3r	Pit1076	30	26	16	—
93B	Pit1262	IE3r	Pit1129	74	42	8	古代
93B	Pit1263	IE4r	Pit1062	20	18	—	—
93B	Pit1264	IE4r	Pit1057	13	12	19	—
93B	Pit1265	IE4r	Pit1341	28	27	7	—
93B	Pit1266	IE4r	Pit1044	28	24	8	古代
93B	Pit1267	IE4r	Pit1295	31	26	4	中世
93B	Pit1268	IE4r	Pit1340	20	20	5	—
93B	Pit1269	IE4r	Pit1294	88	58	—	—
93B	Pit1270	IE4r	Pit1055	60	40	6	中世
93B	Pit1271	IE5r	Pit1147	37	34	11	中世
93B	Pit1272	IE5r	Pit1159	37	27	21	江戸後期
93B	Pit1273	IE5r	Pit1352	54	47	—	江戸
93B	Pit1274	IE5r	Pit1146	18	16	—	—
93B	Pit1275	IE5r	Pit1142	60	60	9	—
93B	Pit1276	IE5r	Pit1143	29	30	8	—
93B	Pit1277	IE5r	Pit1148	20	20	7	—
93B	Pit1278	IE6r	Pit1215	60	49	32	—
93B	Pit1279	IE6r	Pit1163	(66)	58	10	—
93B	Pit1280	IE6r	Pit1133	32	29	9	—
93B	Pit1281	IE6r	Pit1139	(62)	42	8	—
93B	Pit1282	IE6r	Pit1154	72	(70)	6	古代
93B	Pit1283	IE6r	Pit1293	62	60	4	古代
93B	Pit1284	IE6r-7r	Pit1153	97	88	4	—
93B	Pit1285	IE6r	Pit1199	19	14	5	—
93B	Pit1286	IE6r	Pit1227	49	46	13	—
93B	Pit1287	IE6r	Pit1303	(38)	—	5	—
93B	Pit1288	IE6r	Pit1336	37	74	14	—
93B	Pit1289	IE6r	Pit1145	73	40	8	江戸後期
93B	Pit1290	IE6r	Pit1325	70	50	16	古代
93B	Pit1291	IE6r	Pit1131	40	35	16	—
93B	Pit1292	IE6r	Pit1233	35	34	—	—
93B	Pit1293	IE6r	Pit1214	40	30	7	—
93B	Pit1294	IE7r	Pit1288	(56)	43	15	—
93B	Pit1295	IE7r	Pit1312	40	22	32	古代
93B	Pit1296	IE7r	Pit1310	30	29	14	—
93B	Pit1297	IE7r	Pit1198	(54)	37	21	古代
93B	Pit1298	IE7r	Pit1309	30	30	37	江戸前期
93B	Pit1299	IE7r	Pit1351	24	22	14	—
93B	Pit1300	IE7r	Pit1530	33	33	17	—
93B	Pit1301	IE7r	Pit1216	58	56	18	江戸
93B	Pit1302	IE7r	Pit1531	62	(56)	16	—
93B	Pit1303	IE7r	Pit1329	17	15	31	古代
93B	Pit1304	IE7r	Pit1289	(37)	30	14	中世
93B	Pit1305	IE7r	Pit1363	67	(66)	8	—

調査区	新遺構番号	グリッド	旧遺構番号	規模 (cm)			時期
				長さ	幅	深さ	
93B	Pit1306	IE7r	Pit1162	76	(70)	12	—
93B	Pit1307	IE7r	Pit1349	29	17	19	中世
93B	Pit1308	IE7r	Pit1350	25	20	20	—
93B	Pit1309	IE7r	Pit1157	70	56	4	—
93B	Pit1310	IE7r	Pit1161	(94)	—	30	—
93B	Pit1311	IE8r	Pit1229	21	21	9	—
93B	Pit1312	IE8r	Pit1203	28	28	44	江戸
93B	Pit1313	IE8r	Pit1253	25	24	9	—
93B	Pit1314	IE8r	Pit1121	57	42	16	—
93B	Pit1315	IE8r	Pit1232	32	32	6	—
93B	Pit1316	IE8r	Pit1284	28	24	31	—
93B	Pit1317	IE8r	Pit1290	19	16	20	—
93B	Pit1318	IE8r	Pit1259	25	24	6	古代
93B	Pit1319	IE8r	Pit1234	80	56	27	江戸
93B	Pit1320	IE8r	Pit1273	25	25	21	古代
93B	Pit1321	IE8r	Pit1292	26	26	12	中世
93B	Pit1322	IE8r	Pit1258	32	22	3	—
93B	Pit1323	IE8r	Pit1235	17	17	—	—
93B	Pit1324	IE8r	Pit1272	34	27	6	—
93B	Pit1325	IE8r	Pit1236	55	46	39	—
93B	Pit1326	IE8r	Pit1230	(28)	(28)	—	—
93B	Pit1327	IE8r	Pit1212	26	22	14	—
93B	Pit1328	IE8r	Pit1254	17	16	11	—
93B	Pit1329	IE8r	Pit1269	23	20	13	—
93B	Pit1330	IE8r	Pit1337	28	26	22	古代
93B	Pit1331	IE8r	Pit1211	46	38	23	古代
93B	Pit1332	IE8r	Pit1217	26	24	11	—
93B	Pit1333	IE8r	Pit1201	38	38	30	中世
93B	Pit1334	IE8r	Pit1257	35	32	13	—
93B	Pit1335	IE8r	Pit1305	18	15	20	—
93B	Pit1336	IE8r	Pit1231	(86)	55	9	古代
93B	Pit1337	IE8r	Pit1210	40	35	45	江戸
93B	Pit1338	IE8r	Pit1338	60	52	30	古代
93B	Pit1339	IE8r	Pit1270	27	24	15	古代
93B	Pit1340	IE8r	Pit1271	18	16	4	—
93B	Pit1341	IE8r	Pit1228	(54)	50	25	—
93B	Pit1342	IE8r	Pit1552	30	18	36	—
93B	Pit1343	IE8r	Pit1202	40	26	21	江戸
93B	Pit1344	IE9r	Pit1172	20	17	—	—
93B	Pit1345	IE9r	Pit1178	40	30	8	—
93B	Pit1346	IE9r	Pit1193	29	20	7	—
93B	Pit1347	IE9r	Pit1403	23	20	12	—
93B	Pit1348	IE9r	Pit1170	20	20	9	—
93B	Pit1349	IE9r	Pit1169	65	60	5	—
93B	Pit1350	IE9r	Pit1171	24	20	9	—
93B	Pit1351	IE9r	Pit1194	26	22	8	—
93B	Pit1352	IE9r	Pit1168	53	34	6	—
93B	Pit1353	IE9r	Pit1179	27	24	3	江戸後期
93B	Pit1354	IE9r	Pit1186	36	25	5	—
93B	Pit1355	IE9r	Pit1176	36	26	5	—
93B	Pit1356	IE9r	Pit1407	25	18	11	—
93B	Pit1357	IE9r	Pit1394	19	17	15	—
93B	Pit1358	IE9r	Pit1291	20	20	11	古代
93B	Pit1359	IE9r	Pit1187	30	22	5	—
93B	Pit1360	IE10r	Pit1181	54	40	18	—
93B	Pit1361	IE2s	Pit1070	25	24	20	中世
93B	Pit1362	IE2s	Pit1128	66	—	13	江戸前期
93B	Pit1363	IE3s	Pit1376	18	16	13	—
93B	Pit1364	IE3s	Pit1367	92	66	7	—
93B	Pit1365	IE3s	Pit1377	18	16	—	—
93B	Pit1366	IE3s	Pit1383	20	15	8	—
93B	Pit1367	IE3s	Pit1378	40	29	25	古代
93B	Pit1368	IE3s	Pit1072	58	48	28	—
93B	Pit1369	IE3s	Pit1046	49	46	7	—
93B	Pit1370	IE3s	Pit1384	60	(56)	19	—
93B	Pit1371	IE3s	Pit1382	21	20	6	—
93B	Pit1372	IE3s	Pit1369	30	30	26	—
93B	Pit1373	IE3s	Pit1374	34	34	17	—
93B	Pit1374	IE3s	Pit1375	40	28	11	—
93B	Pit1375	IE3s	Pit1379	25	24	15	—
93B	Pit1376	IE3s	Pit1371	16	16	15	—
93B	Pit1377	IE4s	Pit1328	77	69	15	江戸前期
93B	Pit1378	IE4s	Pit1331	62	40	39	中世
93B	Pit1379	IE4s	Pit1326	52	47	—	—
93B	Pit1380	IE4s	Pit1386	(78)	—	15	—
93B	Pit1381	IE6s	Pit1256	27	25	8	江戸
93B	Pit1382	IE6s	Pit1255	53	42	3	—

第57表 遺構一覧表 (13)

調査区	新遺構番号	グリッド	旧遺構番号	規模 (cm)			時期
				長さ	幅	深さ	
93B	Pit1383	IE6s	Pit1200	99	63	11	—
93B	Pit1384	IE6s	Pit1330	37	37	25	江戸前期
93B	Pit1385	IE6s	Pit1138	58	43	46	—
93B	Pit1386	IE6s	Pit1285	29	29	18	中世
93B	Pit1387	IE6s	Pit1274	23	23	7	—
93B	Pit1388	IE6s	Pit1286	77	75	32	中世
93B	Pit1389	IE6s	Pit1335	(82)	—	5	戦国期か
93B	Pit1390	IE6s	Pit1156	46	45	32	—
93B	Pit1391	IE6s	Pit1149	49	40	41	—
93B	Pit1392	IE7s	Pit1323	26	23	8	—
93B	Pit1393	IE7s	Pit1421	83	60	21	—
93B	Pit1394	IE7s	Pit1420	44	32	35	古代
93B	Pit1395	IE7s	Pit1324	92	40	17	—
93B	Pit1396	IE7s	Pit1321	43	34	36	—
93B	Pit1397	IE7s	Pit1322	24	20	6	—
93B	Pit1398	IE7s	Pit1342	22	17	13	中世
93B	Pit1399	IE7s	Pit1422	27	25	20	—
93B	Pit1400	IE8s	Pit1298	17	17	—	—
93B	Pit1401	IE8s	Pit1300	22	19	3	—
93B	Pit1402	IE8s	Pit1297	32	30	8	—
93B	Pit1403	IE8s	Pit1301	22	15	4	—
92A	Pit1404	IF9a	Pit 339	31	30	18	—
92A	Pit1405	IE9s	Pit 335	29	27	16	—
92A	Pit1406	IE9s	Pit 338	60	51	26	—
92A	Pit1407	IE9s	Pit 337	32	24	10	—
92A	Pit1408	IE9s	Pit 334	28	24	14	—
92A	Pit1409	IE9s	Pit 336	26	22	10	—
92A	Pit1410	IE3t	Pit 855	27	21	10	—
92A	Pit1411	IE3t-IF3a	Pit 839	44	38	26	江戸前期
93B	Pit1412	IE3t	Pit1084	21	16	16	—
92A	Pit1413	IE3t	Pit 857	24	19	13	—
93B	Pit1414	IE3t	Pit1370	20	18	8	—
93B	Pit1415	IE3t	Pit1357	48	46	20	—
92A	Pit1416	IE3t	Pit 852	47	33	23	—
93B	Pit1417	IE3t	Pit1366	72	42	15	中世
92A	Pit1418	IE3t	Pit 853	48	28	10	—
92A	Pit1419	IE3t	Pit 856	(87)	75	34	—
92A	Pit1420	IE3t	Pit 861	32	24	26	—
92A	Pit1421	IE3t	Pit 858	38	29	14	—
93B	Pit1422	IE3t	Pit1354	71	68	16	江戸
93B	Pit1423	IE3t	Pit1356	74	62	21	江戸後期
92A	Pit1424	IE3t	Pit 859	24	16	5	—
92A	Pit1425	IE3t	Pit 854	46	40	15	—
92A	Pit1426	IE3t-4t	Pit 862	59	52	18	江戸前期
92A	Pit1427	IE4t	Pit 863	18	17	10	—
92A	Pit1428	IE4t	Pit 860	34	27	12	江戸
92A	Pit1429	IE4t	Pit 820	24	17	13	中世
92A	Pit1430	IE4t	Pit 846	39	33	10	—
92A	Pit1431	IE4t	Pit 845	19	16	8	—
92A	Pit1432	IE4t	Pit 844	18	13	6	—
92A	Pit1433	IE4t	Pit 864	18	17	10	—
93B	Pit1434	IE4t	Pit1327	53	49	14	—
92A	Pit1435	IE4t	Pit 847	25	24	12	—
92A	Pit1436	IE4t	Pit 821	30	26	8	江戸
92A	Pit1437	IE9t	Pit 340	39	32	15	—
92A	Pit1438	IE9t	Pit 332	28	25	8	中世
92A	Pit1439	IE9t	Pit 333	40	28	19	—
92A	Pit1440	IE9t	Pit 341	(38)	24	10	江戸後期
92A	Pit1441	IE3t-4t	Pit 802	76	53	15	中世
92A	Pit1442	IF3a	Pit 849	25	19	6	—
92A	Pit1443	IF3a	Pit 851	20	18	16	—
92A	Pit1444	IF3a	Pit 876	36	28	15	—
92A	Pit1445	IF3a	Pit 473	45	35	17	—
92A	Pit1446	IF3a	Pit 471	(47)	38	20	—
92A	Pit1447	IF3a	Pit 838	52	41	19	—
92A	Pit1448	IF3a	Pit 841	(24)	(20)	11	中世
92A	Pit1449	IF3a	Pit 456	88	68	46	江戸
92A	Pit1450	IF3a	Pit 474	66	53	21	—
92A	Pit1451	IF3a	Pit 472	(44)	29	6	—
92A	Pit1452	IF3a-4a	Pit 850	(64)	55	25	江戸
92A	Pit1453	IF3a	Pit 804	43	37	11	—
92A	Pit1454	IF3a	Pit 806	70	(58)	29	江戸
92A	Pit1455	IF3a	Pit 455	73	62	10	—
92A	Pit1456	IF3a	Pit 865	45	40	19	—
92A	Pit1457	IF4a	Pit 848	31	27	12	江戸
92A	Pit1458	IF4a	Pit 811	40	32	28	中世
92A	Pit1459	IF4a	Pit 877	(28)	23	5	—

調査区	新遺構番号	グリッド	旧遺構番号	規模 (cm)			時期
				長さ	幅	深さ	
92A	Pit1460	IF4a	Pit 843	57	49	5	江戸
92A	Pit1461	IF4a	Pit 807	51	48	10	—
92A	Pit1462	IF9a	Pit 326	28	23	14	—
92A	Pit1463	IF9a	Pit 330	26	23	24	—
92A	Pit1464	IF9a	Pit 329	19	15	11	—
92A	Pit1465	IF9a	Pit 327	(52)	—	24	古代
92A	Pit1466	IF9a	Pit 331	26	20	16	—
92A	Pit1467	IF10a-10b	Pit 325	29	27	22	古代
92A	Pit1468	IF10a	Pit 354	65	54	22	—
92A	Pit1469	IF3b-4b	Pit 436	49	48	38	—
92A	Pit1470	IF3b	Pit 442	35	33	19	—
92A	Pit1471	IF3b	Pit 443	39	37	17	—
92A	Pit1472	IF3b	Pit 462	23	21	8	—
92A	Pit1473	IF3b	Pit 444	31	30	5	—
92A	Pit1474	IF3b	Pit 406	66	56	45	江戸前期
92A	Pit1475	IF3b	Pit 445	56	43	13	江戸前期
92A	Pit1476	IF3b	Pit 470	21	19	6	—
92A	Pit1477	IF3b-4b	Pit 446	81	65	28	—
92A	Pit1478	IF3b	Pit 463	(44)	26	35	—
92A	Pit1479	IF3b	Pit 447	49	48	25	—
92A	Pit1480	IF3b	Pit 465	25	20	13	—
92A	Pit1481	IF3b-4b	Pit 448	53	45	16	江戸後期
92A	Pit1482	IF3b	Pit 086	45	42	18	—
92A	Pit1483	IF3b	Pit 449	42	38	10	—
92A	Pit1484	IF3b	Pit 405	37	29	23	江戸
92A	Pit1485	IF3b	Pit 450	55	48	48	中世
92A	Pit1486	IF3b	Pit 451	56	52	22	古代
92A	Pit1487	IF3b	Pit 441	35	28	11	—
92A	Pit1488	IF3b	Pit 464	29	26	5	—
92A	Pit1489	IF3b	Pit 466	22	19	15	—
92A	Pit1490	IF4b	Pit 835	28	25	13	—
92A	Pit1491	IF4b	Pit 492	(43)	30	5	—
92A	Pit1492	IF4b	Pit 826	62	52	20	—
92A	Pit1493	IF4b	Pit 432	19	16	11	—
92A	Pit1494	IF4b	Pit 434	45	30	17	—
92A	Pit1495	IF4b	Pit 495	(82)	(78)	5	—
92A	Pit1496	IF4b	Pit 454	21	21	7	—
92A	Pit1497	IF4b	Pit 433	26	21	15	江戸前期
92A	Pit1498	IF4b	Pit 496	73	48	22	—
92A	Pit1499	IF4b	Pit 452	23	21	11	—
92A	Pit1500	IF4b	Pit 497	39	36	26	—
92A	Pit1501	IF4b	Pit 491	71	64	19	—
92A	Pit1502	IF4b	Pit 837	45	29	10	—
92A	Pit1503	IF4b	Pit 840	33	29	21	—
92A	Pit1504	IF4b	Pit 453	24	24	13	—
92A	Pit1505	IF4b	Pit 493	(67)	(63)	5	—
92A	Pit1506	IF4b	Pit 836	28	22	7	—
92A	Pit1507	IF4b	Pit 431	24	24	27	—
92A	Pit1508	IF4b	Pit 494	(76)	36	5	—
92A	Pit1509	IF4b	Pit 430	22	21	19	—
92A	Pit1510	IF9b-10b	Pit 320	54	38	16	—
92A	Pit1511	IF9b-9c	Pit 352	(81)	—	21	—
92A	Pit1512	IF10b	Pit 321	34	27	23	—
92A	Pit1513	IF10b	Pit 324	57	49	23	江戸後期
92A	Pit1514	IF10b	Pit 322	38	24	21	—
92A	Pit1515	IF10b	Pit 353	(54)	31	13	—
92A	Pit1516	IF10b	Pit 323	18	17	7	—
92A	Pit1517	IF3c	Pit 400	21	20	11	—
92A	Pit1518	IF3c	Pit 423	24	21	27	—
92A	Pit1519	IF3c	Pit 010	34	31	20	江戸
92A	Pit1520	IF3c	Pit 091	48	40	18	—
92A	Pit1521	IF3c	Pit 878	24	22	8	—
92A	Pit1522	IF3c	Pit 079	45	43	19	—
92A	Pit1523	IF3c	Pit 401	38	37	12	—
92A	Pit1524	IF3c	Pit 416	15	13	5	—
92A	Pit1525	IF3c	Pit 087	23	21	11	—
92A	Pit1526	IF3c	Pit 415	14	13	5	—
92A	Pit1527	IF3c-4c	Pit 099	42	(41)	18	古代
92A	Pit1528	IF3c	Pit 081	31	28	19	江戸後期
92A	Pit1529	IF3c	Pit 098	25	24	19	—
92A	Pit1530	IF3c	Pit 083	40	40	29	—
92A	Pit1531	IF3c	Pit 088	38	30	9	—
92A	Pit1532	IF3c	Pit 012	(28)	28	14	—
92A	Pit1533	IF3c-4c	Pit 476	24	20	15	—
92A	Pit1534	IF3c-3d	Pit 879	37	31	10	—
92A	Pit1535	IF3c	Pit 404	18	17	9	—
92A	Pit1536	IF3c	Pit 080	(36)	27	28	古代

第58表 遺構一覧表 (14)

調査区	新遺構番号	グリッド	旧遺構番号	規模 (cm)			時 期
				長さ	幅	深さ	
92A	Pit1537	IF3c	Pit 089	28	26	8	—
92A	Pit1538	IF3c	Pit 427	66	45	20	—
92A	Pit1539	IF3c	Pit 422	21	19	13	—
92A	Pit1540	IF3c	Pit 082	(32)	24	23	江戸
92A	Pit1541	IF3c	Pit 062	32	29	21	—
92A	Pit1542	IF3c	Pit 085	(38)	22	18	江戸前期
92A	Pit1543	IF3c	Pit 064	40	35	27	—
92A	Pit1544	IF3c-4c	Pit 078	38	36	39	戦国か
92A	Pit1545	IF3c	Pit 090	28	22	29	中世
92A	Pit1546	IF3c	Pit 084	30	28	23	—
92A	Pit1547	IF3c	Pit 077	25	24	9	—
92A	Pit1548	IF3c-4c	Pit 425	28	25	11	—
92A	Pit1549	IF3c	Pit 063	51	43	28	江戸前期
92A	Pit1550	IF4c	Pit 435	57	33	14	—
92A	Pit1551	IF4c	Pit 490	60	58	24	—
92A	Pit1552	IF4c	Pit 475	31	23	9	—
92A	Pit1553	IF4c	Pit 479	26	24	16	—
92A	Pit1554	IF4c	Pit 403	24	24	15	江戸
92A	Pit1555	IF4c	Pit 833	74	(63)	19	古代
92A	Pit1556	IF4c	Pit 407	(30)	24	13	—
92A	Pit1557	IF4c	Pit 460	30	29	32	—
92A	Pit1558	IF4c	Pit 421	28	24	8	—
92A	Pit1559	IF4c	Pit 408	38	35	22	—
92A	Pit1560	IF4c	Pit 424	44	43	14	古代
92A	Pit1561	IF4c	Pit 409	47	45	21	—
92A	Pit1562	IF4c	Pit 881	31	30	11	—
92A	Pit1563	IF4c	Pit 489	(66)	55	40	古代
92A	Pit1564	IF4c	Pit 880	56	54	—	—
92A	Pit1565	IF4c	Pit 882	(98)	63	8	古代
92A	Pit1566	IF4c	Pit 459	22	20	19	—
92A	Pit1567	IF4c	Pit 461	30	25	12	—
92A	Pit1568	IF4c	Pit 834	26	26	17	古代
92A	Pit1569	IF4c	Pit 868	(35)	20	16	—
92A	Pit1570	IF4c	Pit 097	39	30	17	江戸
92A	Pit1571	IF4c	Pit 426	42	37	23	—
92A	Pit1572	IF10c	Pit 319	52	(48)	15	—
92A	Pit1573	IF10c	Pit 317	67	58	16	—
92A	Pit1574	IF10c	Pit 318	65	41	36	江戸
92A	Pit1575	IF3d	Pit 016	22	18	9	—
92A	Pit1576	IF3d	Pit 018	21	19	21	江戸前期
92A	Pit1577	IF3d	Pit 050	18	15	13	—
92A	Pit1578	IF3d	Pit 061	32	25	16	—
92A	Pit1579	IF3d	Pit 420	40	37	26	江戸後期
92A	Pit1580	IF3d	Pit 014	25	20	6	—
92A	Pit1581	IF3d	Pit 017	20	18	7	中世
92A	Pit1582	IF3d	Pit 869	(59)	36	12	—
92A	Pit1583	IF3d	Pit 051	18	14	6	—
92A	Pit1584	IF3d	Pit 015	18	17	8	—
92A	Pit1585	IF4d	Pit 056	23	21	15	江戸後期
92A	Pit1586	IF4d	Pit 060	30	28	21	—
92A	Pit1587	IF4d	Pit 488	50	39	30	古代
92A	Pit1588	IF4d	Pit 093	(25)	22	16	江戸前期
92A	Pit1589	IF4d	Pit 831	38	30	29	—
92A	Pit1590	IF4d	Pit 094	20	17	15	—
92A	Pit1591	IF4d	Pit 808	36	32	29	—
92A	Pit1592	IF4d	Pit 095	26	20	25	—
92A	Pit1593	IF4d	Pit 043	25	24	16	江戸
92A	Pit1594	IF4d	Pit 096	39	30	16	—
92A	Pit1595	IF4d	Pit 075	23	18	15	—
92A	Pit1596	IF4d	Pit 059	38	32	17	—
92A	Pit1597	IF4d	Pit 073	23	20	15	—
92A	Pit1598	IF4d	Pit 818	(35)	23	36	—
92A	Pit1599	IF4d	Pit 071	23	19	23	—
92A	Pit1600	IF4d	Pit 058	34	28	24	—
92A	Pit1601	IF4d	Pit 070	16	14	16	—
92A	Pit1602	IF4d	Pit 057	21	18	23	—
92A	Pit1603	IF4d	Pit 410	32	29	17	江戸前期
92A	Pit1604	IF4d	Pit 072	35	30	23	中世
92A	Pit1605	IF4d	Pit 810	27	21	11	—
92A	Pit1606	IF4d	Pit 817	36	33	27	—
92A	Pit1607	IF4d	Pit 411	35	27	24	古代
92A	Pit1608	IF4d	Pit 067	29	22	10	—
92A	Pit1609	IF4d	Pit 069	24	21	9	古代
92A	Pit1610	IF4d	Pit 883	20	18	13	—
92A	Pit1611	IF4d	Pit 068	36	28	27	江戸後期
92A	Pit1612	IF4d	Pit 832	43	40	27	—
92A	Pit1613	IF4d	Pit 027	40	38	10	江戸

調査区	新遺構番号	グリッド	旧遺構番号	規模 (cm)			時 期
				長さ	幅	深さ	
92A	Pit1614	IF4d	Pit 487	40	39	45	古代
92A	Pit1615	IF4d	Pit 055	23	22	21	—
92A	Pit1616	IF4d	Pit 074	60	45	20	—
92A	Pit1617	IF4d	Pit 054	24	22	5	—
92A	Pit1618	IF4d	Pit 469	33	26	14	江戸前期
92A	Pit1619	IF4d	Pit 052	18	15	11	—
92A	Pit1620	IF4d	Pit 026	38	31	18	江戸後期
92A	Pit1621	IF4d	Pit 825	38	36	28	江戸前期
92A	Pit1622	IF4d	Pit 486	68	62	9	江戸前期
92A	Pit1623	IF4d	Pit 042	35	31	24	—
92A	Pit1624	IF4d	Pit 066	34	29	12	—
92A	Pit1625	IF4d	Pit 484	45	40	11	中世
92A	Pit1626	IF4d	Pit 809	35	33	12	中世
92A	Pit1627	IF4d	Pit 402	32	29	10	—
92A	Pit1628	IF11d	Pit 342	49	33	37	江戸後期
92A	Pit1629	IF11d	Pit 316	27	23	8	—
92A	Pit1630	IF11d	Pit 315	54	29	33	古代
92A	Pit1631	IF11d	Pit 351	38	25	10	—
92A	Pit1632	IF11d	Pit 348	44	23	12	—
92A	Pit1633	IF11d	Pit 350	35	29	12	—
92A	Pit1634	IF11d	Pit 349	41	34	20	—
92A	Pit1635	IF3e	Pit 046	34	29	20	中世
92A	Pit1636	IF3e-4e	Pit 815	45	38	18	江戸後期
92A	Pit1637	IF3e	Pit 021	39	25	5	—
92A	Pit1638	IF3e	Pit 019	62	31	10	江戸
92A	Pit1639	IF3e	Pit 025	(70)	(48)	17	古代
92A	Pit1640	IF3e	Pit 092	(66)	—	25	—
92A	Pit1641	IF3e	Pit 440	60	50	52	—
92A	Pit1642	IF3e	Pit 045	32	30	11	—
92A	Pit1643	IF3e	Pit 816	(32)	29	17	—
92A	Pit1644	IF3e	Pit 020	36	34	15	江戸
92A	Pit1645	IF3e	Pit 429	(47)	30	24	中世
92A	Pit1646	IF4e	Pit 823	48	48	25	古代
92A	Pit1647	IF4e	Pit 822	(29)	24	11	—
92A	Pit1648	IF4e	Pit 044	28	23	15	—
92A	Pit1649	IF4e	Pit 438	62	57	56	—
92A	Pit1650	IF4e	Pit 439	61	44	48	—
92A	Pit1651	IF4e	Pit 884	(28)	24	5	—
92A	Pit1652	IF4e	Pit 482	32	28	14	—
92A	Pit1653	IF4e-4f	Pit 480	(60)	(42)	22	中世
92A	Pit1654	IF4e	Pit 887	16	15	6	—
92A	Pit1655	IF4e	Pit 827	25	21	10	—
92A	Pit1656	IF4e	Pit 891	50	33	36	—
92A	Pit1657	IF4e	Pit 894	48	44	38	—
92A	Pit1658	IF4e	Pit 893	40	36	36	—
92A	Pit1659	IF4e	Pit 417	38	28	33	中世
92A	Pit1660	IF4e	Pit 813	35	31	15	中世
92A	Pit1661	IF4e	Pit 481	37	32	21	—
92A	Pit1662	IF4e	Pit 885	50	36	17	—
92A	Pit1663	IF4e	Pit 867	23	18	9	—
92A	Pit1664	IF4e	Pit 830	(46)	32	10	—
92A	Pit1665	IF4e	Pit 890	22	20	10	—
92A	Pit1666	IF4e	Pit 499	36	29	12	—
92A	Pit1667	IF4e	Pit 814	61	36	31	—
92A	Pit1668	IF4e	Pit 828	30	20	10	—
92A	Pit1669	IF4e	Pit 030	16	13	5	江戸前期
92A	Pit1670	IF4e	Pit 024	(30)	28	5	中世
92A	Pit1671	IF4e	Pit 031	20	16	5	—
92A	Pit1672	IF4e	Pit 800	38	37	17	中世
92A	Pit1673	IF4e	Pit 485	38	29	24	中世
92A	Pit1674	IF4e	Pit 886	64	44	37	—
92A	Pit1675	IF4e	Pit 477	36	24	16	古代
92A	Pit1676	IF4e	Pit 036	56	46	45	—
92A	Pit1677	IF4e	Pit 038	26	25	17	中世
92A	Pit1678	IF4e	Pit 829	28	24	10	—
92A	Pit1679	IF4e	Pit 801	(30)	28	12	—
92A	Pit1680	IF4e	Pit 498	27	27	6	—
92A	Pit1681	IF4e	Pit 892	36	35	30	—
92A	Pit1682	IF5e	Pit 047	14	14	8	—
92A	Pit1683	IF5e	Pit 889	(40)	34	28	—
92A	Pit1684	IF5e	Pit 888	44	37	32	—
92A	Pit1685	IF5e	Pit 419	(42)	(35)	16	中世
92A	Pit1686	IF5e	Pit 033	(45)	23	10	中世
92A	Pit1687	IF5e	Pit 037	58	44	39	—
92A	Pit1688	IF5e	Pit 048	49	33	40	中世
92A	Pit1689	IF5e	Pit 039	26	22	9	中世
92A	Pit1690	IF5e	Pit 437	48	(34)	5	—

第59表 遺構一覧表 (15)

調査区	新遺構番号	グリッド	旧遺構番号	規模 (cm)			時期
				長さ	幅	深さ	
92A	Pit1691	IF11e	Pit 346	54	44	65	—
92A	Pit1692	IF11e	Pit 314	(45)	27	5	古代
92A	Pit1693	IF11e	Pit 347	42	(32)	11	—
92A	Pit1694	IF4e	Pit 824	(39)	34	27	中世
92A	Pit1695	IF3f	Pit 029	47	41	47	中世
92A	Pit1696	IF3f-4f	Pit 035	38	33	15	—
92A	Pit1697	IF3f	Pit 034	37	36	23	江戸
92A	Pit1698	IF3f	Pit 022	(54)	(44)	7	—
92A	Pit1699	IF4f	Pit 895	24	23	13	—
92A	Pit1700	IF4f	Pit 032	25	23	27	中世
92A	Pit1701	IF4f	Pit 896	26	22	5	—
92A	Pit1702	IF4f	Pit 468	30	17	14	—
92A	Pit1703	IF4f	Pit 418	45	28	34	中世
92A	Pit1704	IF4f	Pit 041	22	19	16	—
92A	Pit1705	IF4f	Pit 467	41	23	13	—
92A	Pit1706	IF4f	Pit 023	46	42	26	中世
92A	Pit1707	IF4f	Pit 076	33	28	15	—
92A	Pit1708	IF4f	Pit 065	32	30	26	中世
92A	Pit1709	IF4f	Pit 478	26	20	17	—
92A	Pit1710	IF4f	Pit 053	22	20	27	中世
92A	Pit1711	IF4f	Pit 009	24	21	13	中世
92A	Pit1712	IF4f	Pit 040	46	32	6	—
92A	Pit1713	IF4f	Pit 011	32	28	23	江戸後期
92A	Pit1714	IF4f	Pit 028	34	26	19	—
92A	Pit1715	IF5f	Pit 903	(27)	22	10	—
92A	Pit1716	IF5f	Pit 899	(92)	63	5	—
92A	Pit1717	IF5f	Pit 898	(44)	26	24	—
92A	Pit1718	IF5f	Pit 900	(33)	28	19	—
92A	Pit1719	IF5f	Pit 049	(50)	25	18	古代
92A	Pit1720	IF5f	Pit 904	30	25	12	—
92A	Pit1721	IF5f	Pit 902	30	24	7	—
92A	Pit1722	IF5f	Pit 901	44	36	10	—
92A	Pit1723	IF5f	Pit 897	28	21	5	—
92A	Pit1724	IF11f	Pit 313	(38)	26	7	江戸後期
92A	Pit1725	IF11g	Pit 311	41	33	42	—
92A	Pit1726	IF11g	Pit 312	28	27	37	—
92A	Pit1727	IF11g	Pit 310	(52)	(35)	37	中世
92A	Pit1728	IF4h	Pit 866	24	24	21	中世
92A	Pit1729	IF4h	Pit 413	37	26	17	江戸後期
92A	Pit1730	IF4h	Pit 001	32	28	13	—
92A	Pit1731	IF4h	Pit 008	(56)	38	37	中世
92A	Pit1732	IF4h	Pit 007	40	30	29	古代
92A	Pit1733	IF4h	Pit 414	31	28	14	江戸
92A	Pit1734	IF5h	Pit 905	37	29	35	—
92A	Pit1735	IF5h	Pit 458	18	12	5	—
92A	Pit1736	IF5h	Pit 906	26	23	25	—
92A	Pit1737	IF5h	Pit 457	28	13	6	—
92A	Pit1738	IF5h	Pit 412	38	32	11	—
92A	Pit1739	IF5h	Pit 428	62	57	9	—
92A	Pit1740	IF11h	Pit 345	28	20	7	—
92A	Pit1741	IF11h	Pit 308	24	24	40	—
92A	Pit1742	IF11h	Pit 305	20	18	13	—
92A	Pit1743	IF11h	Pit 306	14	12	7	—
92A	Pit1744	IF11h	Pit 304	20	19	10	—
92A	Pit1745	IF11h	Pit 307	(23)	—	5	—
92A	Pit1746	IF11h-12h	Pit 309	(44)	—	10	—
92A	Pit1747	IF4i	Pit 002	(60)	(53)	14	—
92A	Pit1748	IF4i	Pit 006	(50)	34	8	—
92A	Pit1749	IF4i	Pit 907	24	23	5	—
92A	Pit1750	IF4i	Pit 874	35	32	14	—
92A	Pit1751	IF4i	Pit 908	(32)	32	13	—
92A	Pit1752	IF4i	Pit 004	(58)	34	18	—
92A	Pit1753	IF4i	Pit 003	26	19	8	—
92A	Pit1754	IF4i	Pit 875	33	28	16	—
92A	Pit1755	IF4i	Pit 909	21	18	10	—
92A	Pit1756	IF5i	Pit 872	18	15	5	—
92A	Pit1757	IF5i	Pit 871	31	22	7	—
92A	Pit1758	IF5i	Pit 870	28	14	9	古代
92A	Pit1759	IF11i	Pit 301	55	34	25	中世
92A	Pit1760	IF11i	Pit 302	22	17	12	—
92A	Pit1761	IF11i	Pit 303	23	19	9	—
92A	Pit1762	IF11i	Pit 344	(34)	23	5	—
92A	Pit1763	IF4j	Pit 873	(62)	(49)	5	—
92A	Pit1764	IF11j	Pit 654	33	30	48	—
92A	Pit1765	IF11l	Pit 646	32	30	49	江戸後期
92A	Pit1766	IF11l	Pit1023	38	30	12	—
92A	Pit1767	IF11l	Pit1022	47	41	11	—

調査区	新遺構番号	グリッド	旧遺構番号	規模 (cm)			時期
				長さ	幅	深さ	
92A	Pit1768	IF11l	Pit 653	30	25	12	—
92A	Pit1769	IF11l	Pit 645	26	26	17	—
92A	Pit1770	IF12l	Pit 644	27	26	50	—
92A	Pit1771	IF12l	Pit 643	26	23	15	—
92A	Pit1772	IF12l	Pit 659	54	42	66	—
92A	Pit1773	IF4m	Pit 530	37	28	22	—
92A	Pit1774	IF4m	Pit 524	36	31	21	—
92A	Pit1775	IF5m	Pit 511	69	44	33	—
92A	Pit1776	IF5m	Pit 517	49	48	16	—
92A	Pit1777	IF5m	Pit 523	(94)	40	29	江戸後期
92A	Pit1778	IF5m	Pit 525	13	12	5	—
92A	Pit1779	IF5m	Pit 507	35	32	32	中世
92A	Pit1780	IF5m	Pit 527	18	17	6	—
92A	Pit1781	IF5m	Pit 520	32	25	18	—
92A	Pit1782	IF5m	Pit 506	39	28	10	中世
92A	Pit1783	IF5m	Pit 516	35	32	26	—
92A	Pit1784	IF5m	Pit 526	29	26	9	—
92A	Pit1785	IF5m	Pit 531	52	31	16	—
92A	Pit1786	IF11m	Pit 658	23	22	6	—
92A	Pit1787	IF11m	Pit1017	35	28	6	—
92A	Pit1788	IF11m	Pit1018	34	24	17	—
92A	Pit1789	IF11m	Pit1015	17	15	11	—
92A	Pit1790	IF11m	Pit 655	(50)	41	11	—
92A	Pit1791	IF11m	Pit 650	(55)	45	5	—
92A	Pit1792	IF11m	Pit1016	16	12	9	—
92A	Pit1793	IF11m	Pit 656	20	20	5	—
92A	Pit1794	IF11m	Pit 657	(48)	38	12	—
92A	Pit1795	IF11m	Pit 647	31	27	17	—
92A	Pit1796	IF12m	Pit1021	30	30	58	—
92A	Pit1797	IF12m	Pit 651	(32)	25	16	—
92A	Pit1798	IF12m	Pit 662	38	36	21	—
92A	Pit1799	IF12m	Pit 641	42	30	50	—
92A	Pit1800	IF12m	Pit 661	22	22	8	—
92A	Pit1801	IF12m	Pit 639	23	21	19	—
92A	Pit1802	IF12m	Pit 660	32	22	10	—
92A	Pit1803	IF12m	Pit1020	27	22	15	—
92A	Pit1804	IF12m	Pit1019	18	18	9	—
92A	Pit1805	IF12m	Pit 637	(30)	26	56	—
92A	Pit1806	IF12m	Pit 619	53	51	5	—
92A	Pit1807	IF12m	Pit 642	40	29	55	—
92A	Pit1808	IF12m	Pit 618	27	26	15	—
92A	Pit1809	IF12m	Pit 638	31	22	20	—
92A	Pit1810	IF12m	Pit 616	32	25	10	—
92A	Pit1811	IF12m	Pit 640	53	27	58	—
92A	Pit1812	IF12m	Pit 617	22	19	8	—
92A	Pit1813	IF5n	Pit 504	32	25	20	—
92A	Pit1814	IF5n	Pit 196	(67)	(54)	11	—
92A	Pit1815	IF5n	Pit 190	31	28	14	江戸
92A	Pit1816	IF5n	Pit 197	51	35	16	—
92A	Pit1817	IF5n	Pit 503	(38)	20	11	—
92A	Pit1818	IF5n	Pit 198	32	20	5	—
92A	Pit1819	IF5n	Pit 177	(34)	27	39	—
92A	Pit1820	IF5n	Pit 532	57	44	37	—
92A	Pit1821	IF5n	Pit 522	(67)	41	18	—
92A	Pit1822	IF5n	Pit 508	44	36	15	中世
92A	Pit1823	IF5n	Pit 175	99	44	29	—
92A	Pit1824	IF5n-6n	Pit 192	(88)	52	23	中世
92A	Pit1825	IF5n	Pit 502	40	20	7	—
92A	Pit1826	IF5n	Pit 505	24	22	13	—
92A	Pit1827	IF5n	Pit 174	60	38	22	江戸
92A	Pit1828	IF5n	Pit 199	32	29	12	—
92A	Pit1829	IF5n-5o	Pit 178	(54)	34	28	中世
92A	Pit1830	IF5n	Pit 186	23	19	15	—
92A	Pit1831	IF6n	Pit 534	47	36	8	—
92A	Pit1832	IF6n	Pit 510	30	26	26	—
92A	Pit1833	IF6n	Pit 501	24	21	18	—
92A	Pit1834	IF6n	Pit 529	21	19	24	—
92A	Pit1835	IF6n	Pit 514	34	30	18	—
92A	Pit1836	IF6n	Pit 513	43	37	23	—
92A	Pit1837	IF6n	Pit 509	15	15	9	—
92A	Pit1838	IF6n	Pit 515	31	29	19	—
92A	Pit1839	IF6n	Pit 533	38	37	12	—
92A	Pit1840	IF6n	Pit 519	37	36	19	—
92A	Pit1841	IF11n	Pit 648	42	34	10	—
92A	Pit1842	IF11n	Pit 620	46	38	18	—
92A	Pit1843	IF12n-12o	Pit 605	55	31	18	—
92A	Pit1844	IF12n	Pit 627	31	22	28	—

第60表 遺構一覧表 (16)

調査区	新遺構番号	グリッド	旧遺構番号	規模 (cm)			時 期
				長さ	幅	深さ	
92A	Pit1845	IF12n	Pit1012	53	50	12	—
92A	Pit1846	IF12n	Pit1011	(36)	26	5	—
92A	Pit1847	IF12n	Pit 634	29	26	49	江戸前期
92A	Pit1848	IF12n	Pit 635	27	22	45	—
92A	Pit1849	IF12n	Pit 632	46	36	20	—
92A	Pit1850	IF12n	Pit1010	28	25	5	—
92A	Pit1851	IF12n	Pit 630	34	32	29	—
92A	Pit1852	IF12n	Pit 626	53	48	51	江戸後期
92A	Pit1853	IF12n	Pit 628	16	16	20	—
92A	Pit1854	IF12n	Pit 625	31	26	10	—
92A	Pit1855	IF12n	Pit1013	14	12	7	—
92A	Pit1856	IF12n	Pit 649	50	(47)	27	—
92A	Pit1857	IF12n	Pit 633	26	26	16	—
92A	Pit1858	IF12n	Pit 652	35	27	31	江戸前期
92A	Pit1859	IF12n	Pit 629	24	24	19	—
92A	Pit1860	IF12n-13n	Pit 663	(54)	—	8	—
92A	Pit1861	IF12n-13n	Pit 664	(55)	—	12	—
92A	Pit1862	IF12n	Pit1014	24	23	8	—
92A	Pit1863	IF12n	Pit 631	9	8	10	—
92A	Pit1864	IF12n	Pit 609	29	22	13	—
92A	Pit1865	IF13n	Pit 607	(54)	—	16	—
92A	Pit1866	IF13n	Pit 610	(63)	—	7	江戸
92A	Pit1867	IF13n	Pit 611	(51)	—	6	古代
92A	Pit1868	IF13n	Pit 608	44	44	10	—
92A	Pit1869	IF5o	Pit 162	(28)	23	19	古代
92A	Pit1870	IF5o	Pit 172	74	40	43	—
92A	Pit1871	IF5o	Pit 171	51	37	11	—
92A	Pit1872	IF5o	Pit 188	14	13	9	中世
92A	Pit1873	IF5o	Pit 169	78	47	30	江戸後期
92A	Pit1874	IF5o	Pit 185	60	42	25	—
92A	Pit1875	IF5o	Pit 173	(72)	54	23	—
92A	Pit1876	IF5o	Pit 163	21	20	14	—
92A	Pit1877	IF5o	Pit 159	70	(68)	45	江戸後期
92A	Pit1878	IF5o	Pit 176	101	46	30	—
92A	Pit1879	IF5o	Pit 187	22	21	16	—
92A	Pit1880	IF5o	Pit 180	(37)	32	22	—
92A	Pit1881	IF5p	Pit 184	50	26	9	—
92A	Pit1882	IF5o	Pit 181	32	23	21	—
92A	Pit1883	IF5o	Pit 179	(42)	(35)	32	—
92A	Pit1884	IF5o	Pit 189	20	16	8	—
92A	Pit1885	IF5o	Pit 182	(29)	21	21	古代
92A	Pit1886	IF6o	Pit 168	21	14	24	—
92A	Pit1887	IF6o	Pit 165	18	17	24	—
92A	Pit1888	IF6o	Pit 164	58	25	22	江戸
92A	Pit1889	IF6o	Pit 535	16	14	7	—
92A	Pit1890	IF6o	Pit 167	15	12	9	—
92A	Pit1891	IF6o	Pit 158	39	35	14	—
92A	Pit1892	IF6o	Pit 160	42	30	22	—
92A	Pit1893	IF6o	Pit 161	54	33	23	—
92A	Pit1894	IF11o	Pit1005	(86)	—	7	—
92A	Pit1895	IF11o	Pit1006	25	23	30	—
92A	Pit1896	IF11o	Pit 603	43	36	27	—
92A	Pit1897	IF11o	Pit 622	16	16	8	—
92A	Pit1898	IF11o	Pit1004	54	48	22	—
92A	Pit1899	IF11o	Pit 621	63	24	31	—
92A	Pit1900	IF11o	Pit1003	66	36	41	—
92A	Pit1901	IF12o	Pit 624	22	21	14	—
92A	Pit1902	IF12o	Pit 298	34	33	10	江戸
92A	Pit1903	IF12o	Pit1007	(58)	41	5	—
92A	Pit1904	IF12o	Pit1008	(42)	28	6	—
92A	Pit1905	IF12o	Pit 614	41	37	16	—
92A	Pit1906	IF12o	Pit 623	12	12	6	—
92A	Pit1907	IF12o-13o	Pit 636	33	32	20	—
92A	Pit1908	IF12o	Pit 604	48	40	45	江戸
92A	Pit1909	IF12o	Pit 613	28	25	21	—
92A	Pit1910	IF12o	Pit 295	44	29	8	中世
92A	Pit1911	IF13o	Pit 606	57	34	34	江戸
92A	Pit1912	IF13o	Pit1009	(16)	13	8	—
92A	Pit1913	IF13o	Pit 293	25	23	11	—
92A	Pit1914	IF13o-13p	Pit 602	53	47	18	—
92A	Pit1915	IF13o	Pit 292	69	37	12	—
92A	Pit1916	IF13o	Pit 297	94	34	20	—
92A	Pit1917	IF13o	Pit 291	61	53	13	江戸
92A	Pit1918	IF13o	Pit 665	31	23	19	—
92A	Pit1919	IF13o	Pit 294	40	36	10	—
92A	Pit1920	IF13o	Pit 296	22	14	9	—
92A	Pit1921	IF5p	Pit 194	54	42	26	—

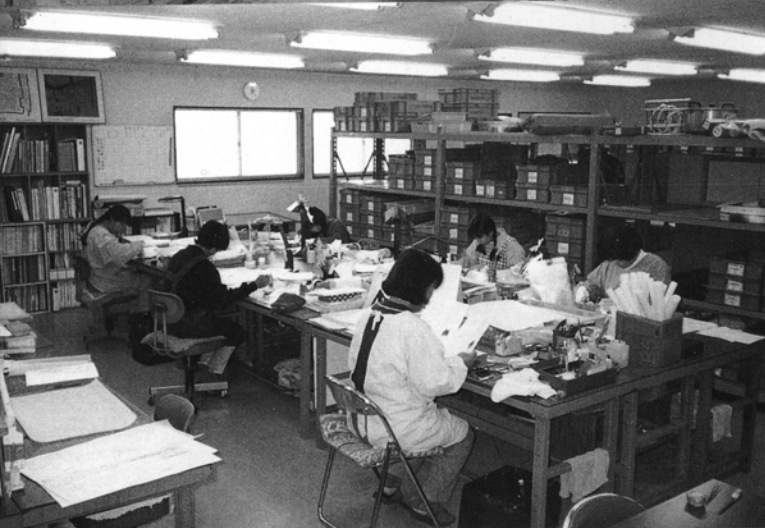
調査区	新遺構番号	グリッド	旧遺構番号	規模 (cm)			時 期
				長さ	幅	深さ	
92A	Pit1922	IF5p	Pit 141	28	28	6	古代
92A	Pit1923	IF5p	Pit 145	23	16	18	—
92A	Pit1924	IF5p	Pit 166	18	13	18	—
92A	Pit1925	IF5p	Pit 144	(40)	26	12	—
92A	Pit1926	IF5p	Pit 149	(52)	33	7	—
92A	Pit1927	IF5p	Pit 195	45	27	18	—
92A	Pit1928	IF5p	Pit 536	38	35	25	—
92A	Pit1929	IF5p	Pit 143	27	22	16	—
92A	Pit1930	IF5p	Pit 148	14	13	11	—
92A	Pit1931	IF5p	Pit 147	27	14	5	—
92A	Pit1932	IF5p	Pit 193	22	19	34	—
92A	Pit1933	IF5p	Pit 142	18	16	12	古代
92A	Pit1934	IF6p	Pit 152	26	17	13	江戸
92A	Pit1935	IF6p	Pit 537	26	23	19	—
92A	Pit1936	IF6p	Pit 140	16	14	11	—
92A	Pit1937	IF6p	Pit 153	20	19	5	—
92A	Pit1938	IF6p	Pit 518	13	12	6	—
92A	Pit1939	IF6p	Pit 154	(22)	(20)	5	—
92A	Pit1940	IF6p	Pit 135	23	22	13	—
92A	Pit1941	IF6p	Pit 155	(46)	(44)	16	—
92A	Pit1942	IF6p	Pit 133	16	14	13	—
92A	Pit1943	IF6p	Pit 157	13	10	7	—
92A	Pit1944	IF6p	Pit 138	14	13	19	—
92A	Pit1945	IF6p	Pit 539	20	(19)	6	—
92A	Pit1946	IF6p	Pit 538	(56)	38	7	—
92A	Pit1947	IF6p	Pit 151	14	13	14	—
92A	Pit1948	IF6p	Pit 521	(50)	(48)	12	—
92A	Pit1949	IF6p	Pit 137	24	20	13	江戸前期
92A	Pit1950	IF6p	Pit 134	20	19	14	—
92A	Pit1951	IF6p	Pit 150	(58)	49	13	中世
92A	Pit1952	IF6p	Pit 512	(62)	(54)	17	江戸前期
92A	Pit1953	IF6p	Pit 139	20	18	11	—
92A	Pit1954	IF6p	Pit 540	(33)	(26)	10	—
92A	Pit1955	IF7p	Pit 676	30	28	31	—
92A	Pit1956	IF7p	Pit 202	24	21	17	中世
92A	Pit1957	IF7p	Pit 201	24	21	15	—
92A	Pit1958	IF8p-8q	Pit 234	39	35	37	—
92A	Pit1959	IF8p	Pit 232	92	80	25	—
92A	Pit1960	IF8p	Pit 233	47	33	8	—
92A	Pit1961	IF8p	Pit 231	36	32	39	—
92A	Pit1962	IF8p	Pit 210	84	42	23	—
92A	Pit1963	IF8p	Pit 230	(50)	40	28	—
92A	Pit1964	IF8p	Pit 212	18	17	26	—
92A	Pit1965	IF8p	Pit 214	33	33	24	—
92A	Pit1966	IF8p	Pit 211	23	19	27	—
92A	Pit1967	IF8p	Pit 213	41	33	27	—
92A	Pit1968	IF9p	Pit 235	21	19	15	—
92A	Pit1969	IF9p	Pit 220	76	56	20	—
92A	Pit1970	IF9p	Pit 687	37	20	9	—
92A	Pit1971	IF9p-10p	Pit 674	(70)	43	8	—
92A	Pit1972	IF9p	Pit 688	38	33	13	—
92A	Pit1973	IF9p	Pit 691	(21)	19	10	—
92A	Pit1974	IF10p	Pit 255	20	(18)	—	—
92A	Pit1975	IF10p-10q	Pit 241	20	18	12	古代
92A	Pit1976	IF10p	Pit 256	(40)	34	30	江戸
92A	Pit1977	IF10p	Pit 692	24	21	6	—
92A	Pit1978	IF10p	Pit 254	20	15	—	—
92A	Pit1979	IF10p	Pit 261	30	25	24	—
92A	Pit1980	IF10p	Pit 253	40	33	34	江戸
92A	Pit1981	IF10p	Pit 250	18	16	5	—
92A	Pit1982	IF10p	Pit 251	25	23	14	—
92A	Pit1983	IF10p	Pit 262	30	25	21	古代
92A	Pit1984	IF10p	Pit 693	(46)	27	6	—
92A	Pit1985	IF10p	Pit 260	22	22	25	江戸前期
92A	Pit1986	IF10p	Pit 222	29	23	17	—
92A	Pit1987	IF11p-11q	Pit 286	(67)	35	23	—
92A	Pit1988	IF11p	Pit 272	(40)	30	7	古代
92A	Pit1989	IF11p	Pit 694	52	(45)	32	—
92A	Pit1990	IF11p	Pit 695	18	16	7	—
92A	Pit1991	IF11p	Pit 265	23	22	25	—
92A	Pit1992	IF11p	Pit 264	(68)	(35)	19	—
92A	Pit1993	IF11p	Pit 273	(17)	14	8	—
92A	Pit1994	IF11p	Pit 274	(24)	20	7	—
92A	Pit1995	IF11p	Pit 699	18	15	20	—
92A	Pit1996	IF11p	Pit 696	40	33	16	—
92A	Pit1997	IF11p	Pit 283	16	14	16	—
92A	Pit1998	IF11p	Pit 275	25	23	6	—

第61表 遺構一覧表 (17)

調査区	新遺構番号	グリッド	旧遺構番号	規模 (cm)			時期
				長さ	幅	深さ	
92A	Pit1999	IF11p	Pit 698	(20)	18	20	—
92A	Pit2000	IF11p	Pit1001	(65)	48	13	—
92A	Pit2001	IF11p	Pit 697	11	10	8	—
92A	Pit2002	IF11p	Pit1000	(49)	46	14	—
92A	Pit2003	IF11p	Pit 268	63	40	13	中世
92A	Pit2004	IF11p	Pit 281	34	30	30	—
92A	Pit2005	IF11p	Pit 276	(66)	54	38	江戸
92A	Pit2006	IF11p	Pit 280	22	18	7	—
92A	Pit2007	IF11p	Pit 266	31	27	15	—
92A	Pit2008	IF11p	Pit 279	16	15	18	—
92A	Pit2009	IF11p	Pit 282	(48)	44	31	—
92A	Pit2010	IF11p	Pit 278	31	30	19	—
92A	Pit2011	IF11p	Pit 284	47	32	8	—
92A	Pit2012	IF11p	Pit 269	46	32	27	—
92A	Pit2013	IF11p	Pit 267	(25)	22	15	—
92A	Pit2014	IF11p	Pit 277	39	25	17	江戸
92A	Pit2015	IF12p	Pit 615	25	24	25	—
92A	Pit2016	IF12p	Pit 670	30	30	14	—
92A	Pit2017	IF12p	Pit 299	25	19	12	—
92A	Pit2018	IF12p	Pit 669	26	25	9	—
92A	Pit2019	IF12p	Pit 601	29	26	12	—
92A	Pit2020	IF12p	Pit 668	14	13	17	—
92A	Pit2021	IF12p	Pit1002	(60)	(44)	8	—
92A	Pit2022	IF12p	Pit 289	(54)	27	13	—
92A	Pit2023	IF12p	Pit 600	35	33	8	—
92A	Pit2024	IF12p	Pit 612	14	14	6	—
92A	Pit2025	IF13p	Pit 290	44	38	14	古代
92A	Pit2026	IF13p	Pit 667	32	25	11	—
92A	Pit2027	IF13p	Pit 288	(50)	33	27	—
92A	Pit2028	IF13p	Pit 666	24	22	14	—
92A	Pit2029	IF5q	Pit 117	53	34	19	—
92A	Pit2030	IF5q	Pit 127	32	31	27	江戸前期
92A	Pit2031	IF5q	Pit 528	(44)	(41)	10	—
92A	Pit2032	IF5q	Pit 130	(57)	24	17	江戸
92A	Pit2033	IF5q	Pit 500	43	37	11	江戸前期
92A	Pit2034	IF5q	Pit 132	15	14	13	—
92A	Pit2035	IF5q	Pit 131	17	15	8	—
92A	Pit2036	IF5q	Pit 128	21	16	6	—
92A	Pit2037	IF5q	Pit 115	(60)	38	21	江戸前期
92A	Pit2038	IF5q	Pit 123	18	15	11	—
92A	Pit2039	IF5q	Pit 116	(60)	34	20	—
92A	Pit2040	IF5q	Pit 542	28	24	23	—
92A	Pit2041	IF5q	Pit 129	(50)	46	18	—
92A	Pit2042	IF5q	Pit 120	31	(26)	14	—
92A	Pit2043	IF5q	Pit 118	30	19	12	—
92A	Pit2044	IF5q	Pit 122	39	35	9	江戸
92A	Pit2045	IF5q	Pit 124	16	12	13	—
92A	Pit2046	IF5q	Pit 121	16	15	15	—
92A	Pit2047	IF5q	Pit 126	(80)	(68)	6	—
92A	Pit2048	IF5q	Pit 119	16	13	8	江戸前期
92A	Pit2049	IF5q	Pit 541	30	29	8	—
92A	Pit2050	IF6q	Pit 102	28	26	20	—
92A	Pit2051	IF6q	Pit 107	15	14	6	—
92A	Pit2052	IF6q	Pit 108	23	23	8	—
92A	Pit2053	IF6q	Pit 543	21	13	12	—
92A	Pit2054	IF6q	Pit 109	26	13	6	—

調査区	新遺構番号	グリッド	旧遺構番号	規模 (cm)			時期
				長さ	幅	深さ	
92A	Pit2055	IF6q	Pit 103	12	12	5	—
92A	Pit2056	IF6q	Pit 114	(58)	46	9	—
92A	Pit2057	IF6q	Pit 105	16	12	6	—
92A	Pit2058	IF6q	Pit 113	30	28	16	—
92A	Pit2059	IF6q	Pit 110	17	12	8	—
92A	Pit2060	IF6q	Pit 112	14	10	8	—
92A	Pit2061	IF6q	Pit 104	34	27	19	—
92A	Pit2062	IF6q	Pit 101	(76)	—	21	江戸
92A	Pit2063	IF6q	Pit 106	17	10	6	—
92A	Pit2064	IF6q	Pit 111	44	29	11	—
92A	Pit2065	IF7q	Pit 225	26	25	14	—
92A	Pit2066	IF7q	Pit 675	37	23	12	—
92A	Pit2067	IF7q	Pit 684	39	39	13	—
92A	Pit2068	IF7q	Pit 223	28	24	17	—
92A	Pit2069	IF7q	Pit 209	36	21	10	—
92A	Pit2070	IF7q	Pit 224	23	22	10	—
92A	Pit2071	IF7q	Pit 207	50	22	10	江戸後期
92A	Pit2072	IF7q	Pit 203	26	25	15	—
92A	Pit2073	IF7q	Pit 205	96	56	17	—
92A	Pit2074	IF7q	Pit 226	50	49	7	—
92A	Pit2075	IF7q	Pit 679	24	20	16	—
92A	Pit2076	IF7q	Pit 227	32	30	11	古代
92A	Pit2077	IF7q	Pit 677	18	16	12	—
92A	Pit2078	IF7q	Pit 228	54	20	13	江戸
92A	Pit2079	IF7q	Pit 208	52	35	12	—
92A	Pit2080	IF7q	Pit 681	28	22	15	—
92A	Pit2081	IF7q	Pit 204	43	35	8	江戸前期
92A	Pit2082	IF7q	Pit 682	(52)	27	10	—
92A	Pit2083	IF7q	Pit 680	(40)	30	18	—
92A	Pit2084	IF7q	Pit 678	17	13	15	—
92A	Pit2085	IF7q	Pit 206	50	49	9	江戸後期
92A	Pit2086	IF7q	Pit 683	17	15	7	—
92A	Pit2087	IF8q	Pit 229	41	35	14	—
92A	Pit2088	IF8q	Pit 217	28	23	27	—
92A	Pit2089	IF8q	Pit 216	(75)	(74)	16	—
92A	Pit2090	IF8q	Pit 218	66	45	21	江戸
92A	Pit2091	IF8q	Pit 685	47	38	10	—
92A	Pit2092	IF8q	Pit 686	(72)	(45)	12	—
92A	Pit2093	IF8q	Pit 215	34	29	11	古代
92A	Pit2094	IF8q	Pit 219	(47)	38	51	—
92A	Pit2095	IF9q	Pit 672	50	37	11	—
92A	Pit2096	IF9q	Pit 237	20	16	16	—
92A	Pit2097	IF9q	Pit 690	16	15	19	—
92A	Pit2098	IF9q	Pit 221	(40)	34	7	—
92A	Pit2099	IF9q	Pit 673	43	31	10	—
92A	Pit2100	IF9q	Pit 671	45	44	35	—
92A	Pit2101	IF9q	Pit 689	23	20	9	—
92A	Pit2102	IF10q	Pit 240	(50)	27	18	—
92A	Pit2103	IF10q	Pit 239	28	24	7	—
92A	Pit2104	IF10q	Pit 238	40	32	6	—
92A	Pit2105	IF11q	Pit 259	74	49	36	—
			Pit 257				
92A	Pit2106	IF11q	Pit 285	22	19	27	中世
92A	Pit2107	IF11q	Pit 258	27	21	24	中世
92A	Pit2108	IF12q	Pit 287	(31)	26	13	中世

第62表 遺構一覧表 (18)



図版

凡例

1. 遺構記号

SA : 柵列 SB : 建物・竪穴住居 SD : 溝・堀
SE : 井戸 SK : 土坑 SS : 石列 Pit : 柱穴
SX : その他

2. 遺構基準線

国土座標第VII系による

3. 縮率

遺構図・セクション図 : 1 : 200

遺構図版分割図 : 1 : 1,500

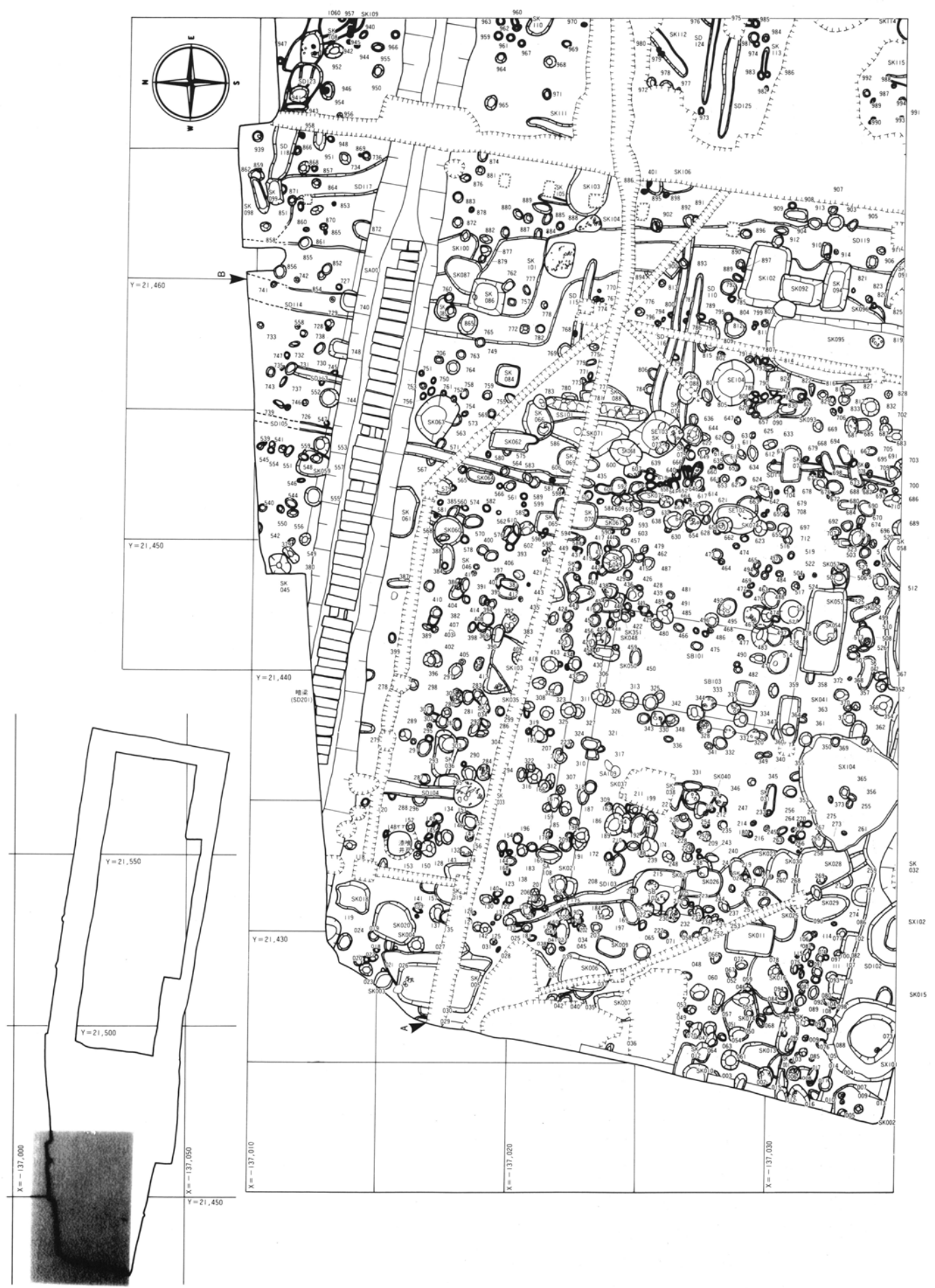
遺物 : 任意 (基準は 1 : 3 または 1 : 4)

遺物の番号については、古代・中世の遺物は挿図中の番号と同一であり、近世の遺物は陶磁器類が1000番、焼塩壺が2000番、瓦類が3000番、人形類が4000番、木製品が5000番、金属製品が6000番、石製品が7000番、近代の遺物が8000番をそれぞれ挿図中の番号に加算して表示してある。また、図面掲載以外の遺物については、写真図版に掲載し、遺物番号は各々の挿図番号の末番号からの通し番号扱いにしている。

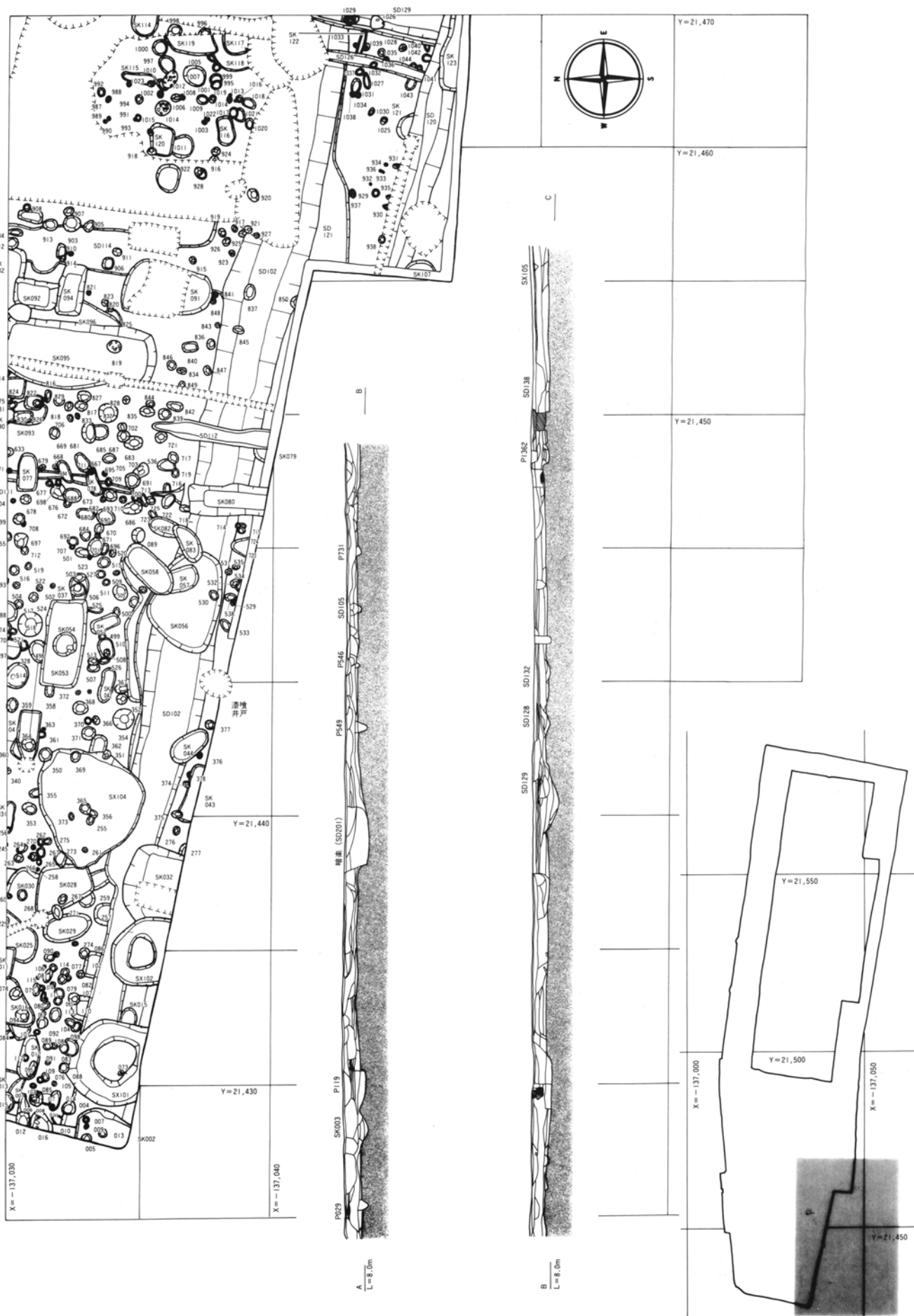
図版目次

- 図版 1 遺構配置図 (1)
- 図版 2 遺構配置図 (2)
- 図版 3 遺構配置図 (3)
- 図版 4 遺構配置図 (4)
- 図版 5 遺構配置図 (5)
- 図版 6 遺構配置図 (6)
- 図版 7 遺構配置図 (7)
- 図版 8 遺構配置図 (8)
- 図版 9 調査区周辺 (空撮写真)
- 図版10 吉田城絵図 (1) 「吉田藩士屋敷図」
- 図版11 吉田城絵図 (2) 「吉田御城内惣絵図」・「仮吉田城図」
- 図版12 遺構 (1) 92年度調査区全景 (空撮写真)
- 図版13 遺構 (2) 93年度調査区全景 (空撮写真)
- 図版14 遺構 (3) 古代・中世の遺構
- 図版15 遺構 (4) 近世の遺構 (1) 外堀・屋敷地境 1 (溝・堀跡)
- 図版16 遺構 (5) 近世の遺構 (2) 屋敷地境 2 (溝・柵列)
- 図版17 遺構 (6) 近世の遺構 (3) 屋敷地 4 (全景・柱痕・井戸断ち割り状況)
- 図版18 遺構 (7) 近世の遺構 (4) 屋敷地 6 (全景・土坑断ち割り状況・遺物出土状態)
- 図版19 遺構 (8) 近世の遺構 (5) 屋敷地 3 (建物跡・井戸断ち割り状況)
- 図版20 遺構 (9) 近世の遺構 (6) 屋敷地 6 (遺物出土状態)・屋敷地 5 (井戸断ち割り状況・遺物出土状態)・屋敷地 2 (建物跡)
- 図版21 遺構 (10) 近世の遺構 (7) 屋敷地 2 (遺物出土状態・建物跡・井戸断ち割り状況)
- 図版22 遺物 (1) 古代・中世の遺物
- 図版23 遺物 (2) 近世の遺物 (1) 供膳具 1 (椀類 1)
- 図版24 遺物 (3) 近世の遺物 (2) 供膳具 2 (椀類 2)
- 図版25 遺物 (4) 近世の遺物 (3) 供膳具 3 (椀類 3)
- 図版26 遺物 (5) 近世の遺物 (4) 供膳具 4 (椀類 4・小椀類 1)
- 図版27 遺物 (6) 近世の遺物 (5) 供膳具 5 (小椀類 2・皿類 1)
- 図版28 遺物 (7) 近世の遺物 (6) 供膳具 6 (皿類 2)
- 図版29 遺物 (8) 近世の遺物 (7) 供膳具 7 (皿類 3)
- 図版30 遺物 (9) 近世の遺物 (8) 供膳具 8 (鉢類 1)
- 図版31 遺物 (10) 近世の遺物 (9) 調理具
- 図版32 遺物 (11) 近世の遺物 (10) 貯蔵具
- 図版33 遺物 (12) 近世の遺物 (11) 灯火具・火具
- 図版34 遺物 (13) 近世の遺物 (12) 化粧具・神仏具・喫煙具・供膳具 9 (皿類 4)
- 図版35 遺物 (14) 近世の遺物 (13) 調度具・蓋類 1
- 図版36 遺物 (15) 近世の遺物 (14) 蓋類 2
- 図版37 遺物 (16) 近世の遺物 (15) 焼塩壺・瓦類
- 図版38 遺物 (17) 近世の遺物 (16) 人形類・木製品
- 図版39 遺物 (18) 近世の遺物 (17) 金属製品・石製品
- 図版40 遺物 (19) 近代の遺物

図版1 遺構配置図(1)

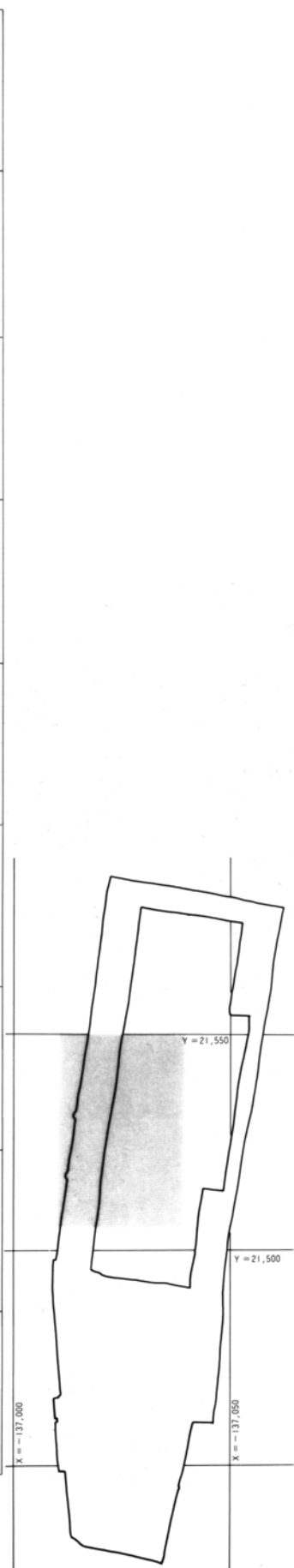


図版 2 遺構配置図 (2)

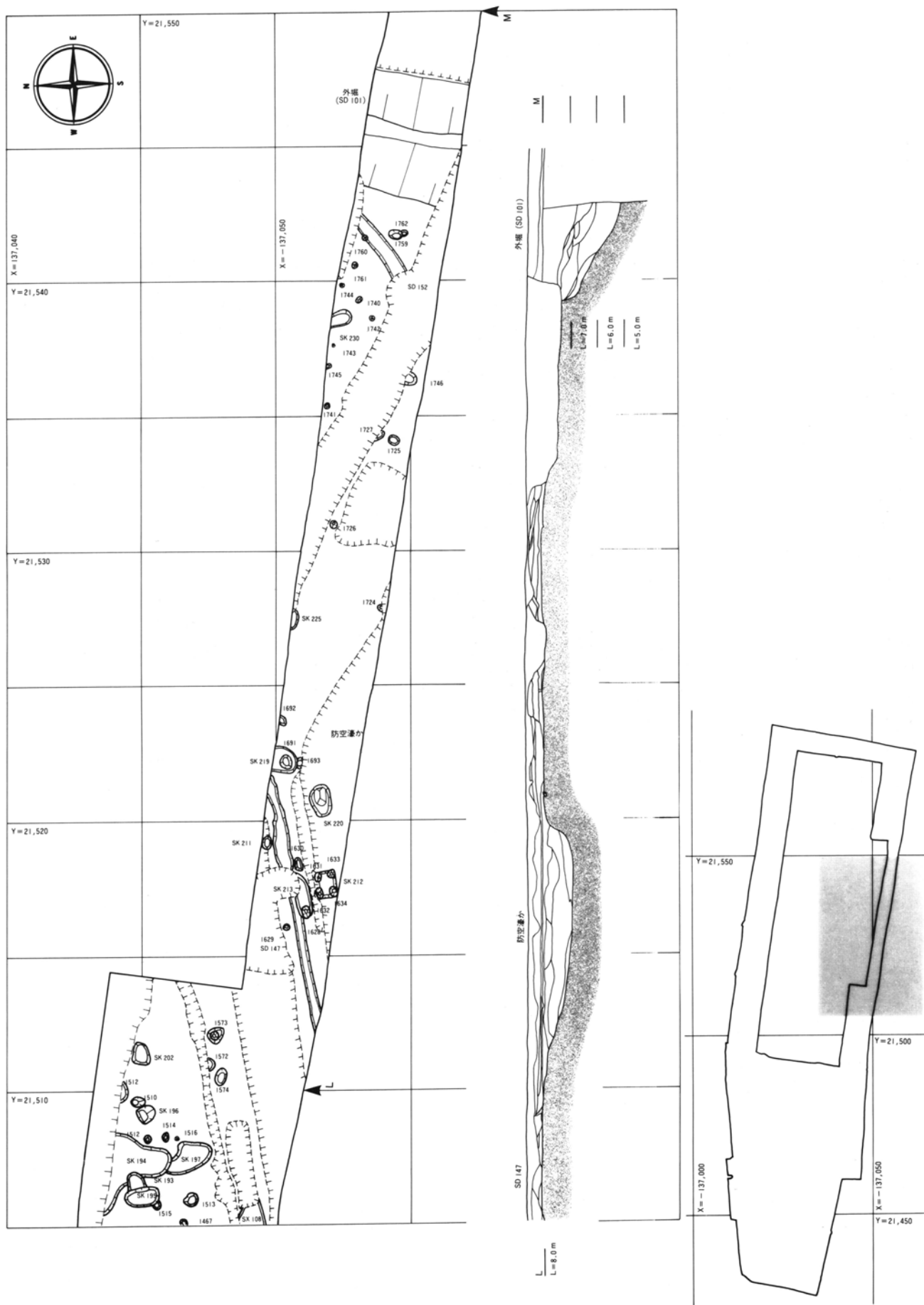


図版 4 遺構配置図 (4)



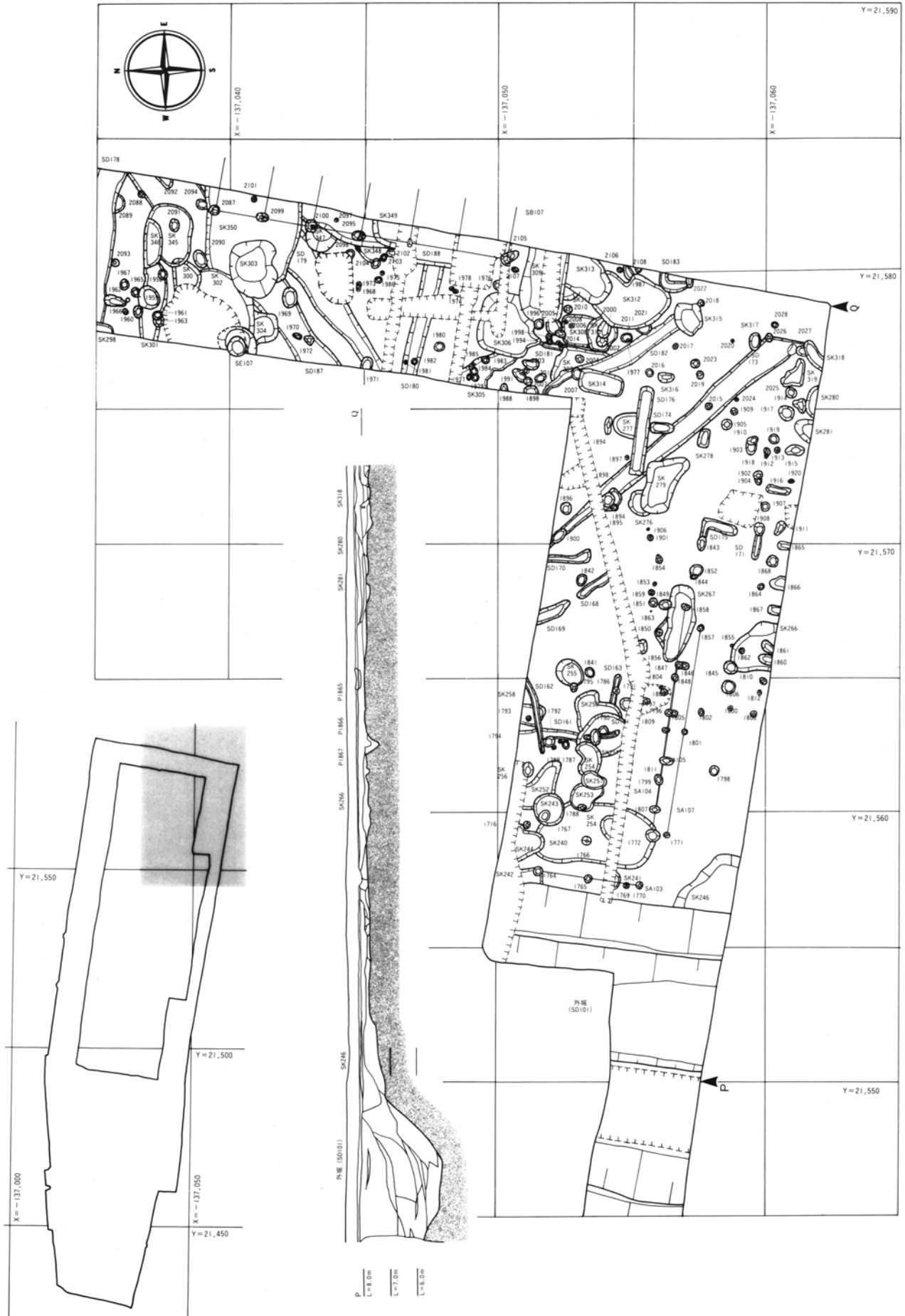


図版 6 遺構配置図 (6)





図版 8 遺構配置図 (8)



図版 9 調査区周辺 (上が北)



「吉田御城内惣絵図」(愛知大学総合郷土研究所蔵)

「仮吉田城図」(深井正敏氏蔵)

図版 12
92年度調査区全景（左が北）



図版 13
93年度調査区全景（右が北）

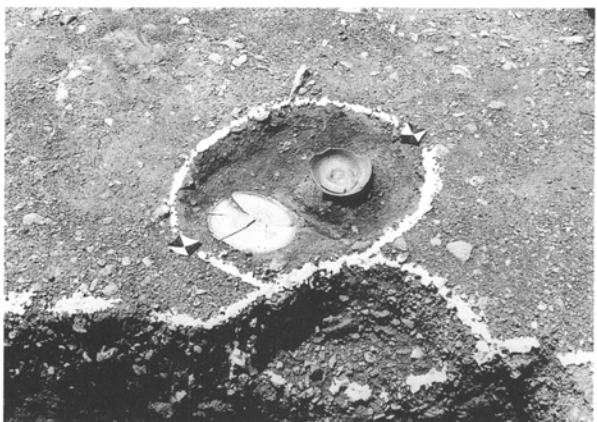




▲SA001完掘状況（西から）



▲P740断面（北から）



▲P1195遺物出土状態（北から）



▲SK132遺物出土状態（東から）



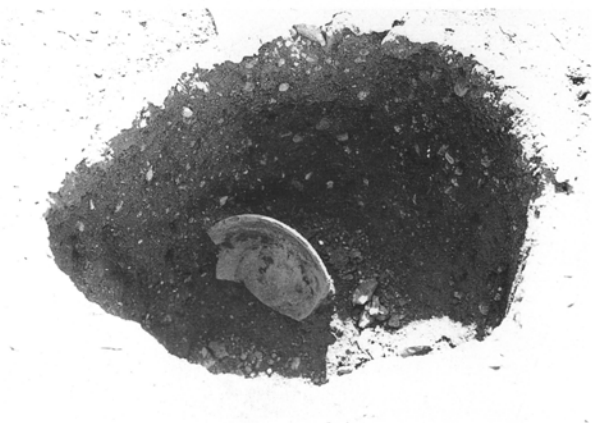
▲SX103検出状況（北から）



▲SX103検出状況（東から）



▲SB002完掘状況（東から）



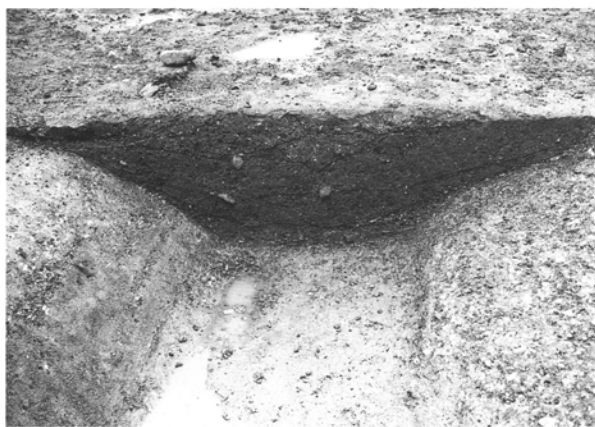
▲P829遺物出土状態（西から）



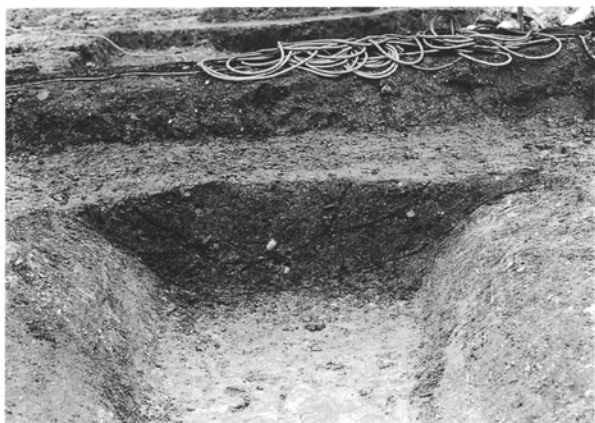
▲SD101 (外堀) 完掘状況 (南から)



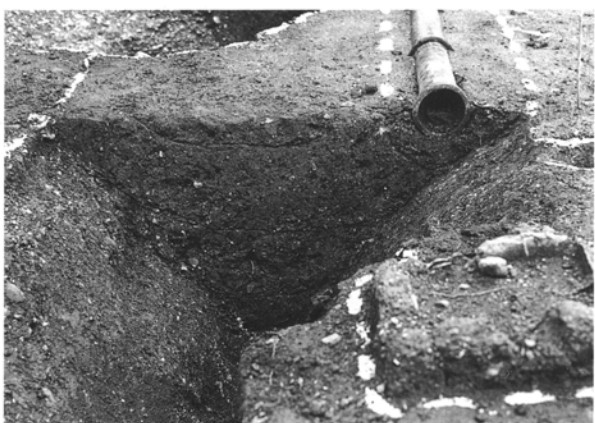
▲SD148・SD149・SA101・SA102完掘状況 (南から)



▲SD102断面 (西から)



▲SD129断面 (北から)



▲SD120断面 (東から)



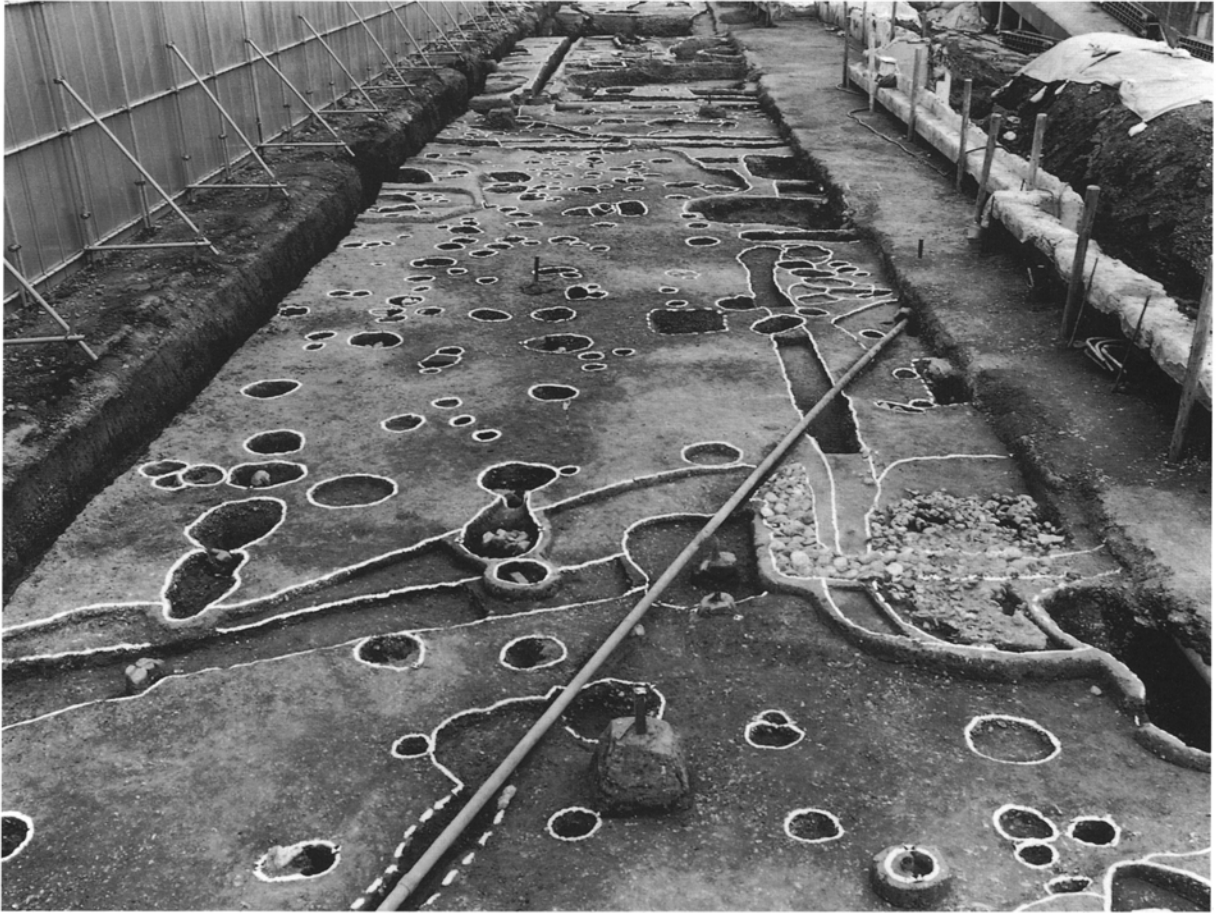
▲柵列跡 (西から)



▲SD178完掘状況 (西から)



▲SD180完掘状況 (西から)



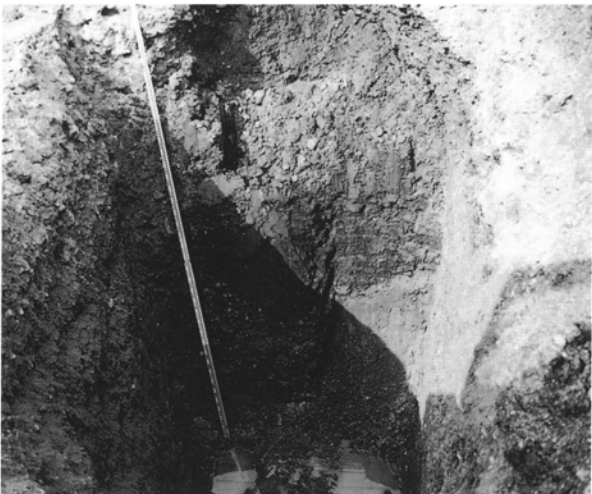
▲屋敷地 4 中心部分 (西から)



▲SB105柱痕 (P1474) (南から)



▲SB105柱痕 (P1477) (南から)



▲SE106断ち割り状況 (南から)



▲SK226断ち割り状況 (南から)



▲屋敷地 6 中心部分 (東から)



▲SK248断ち割り状況 (東から)



▲SK340断ち割り状況 (北から)



▲SK289断ち割り状況 (南から)



▲SK334遺物出土状態 (東から)



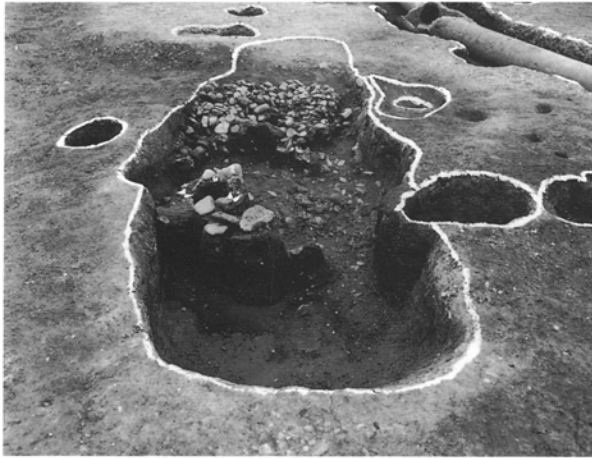
▲屋敷地7 中心部分 (南から)



▲SE107断ち割り状況 (東から)



▲SE107完掘状況 (東から)



▲SK279遺物出土状態 (西から)



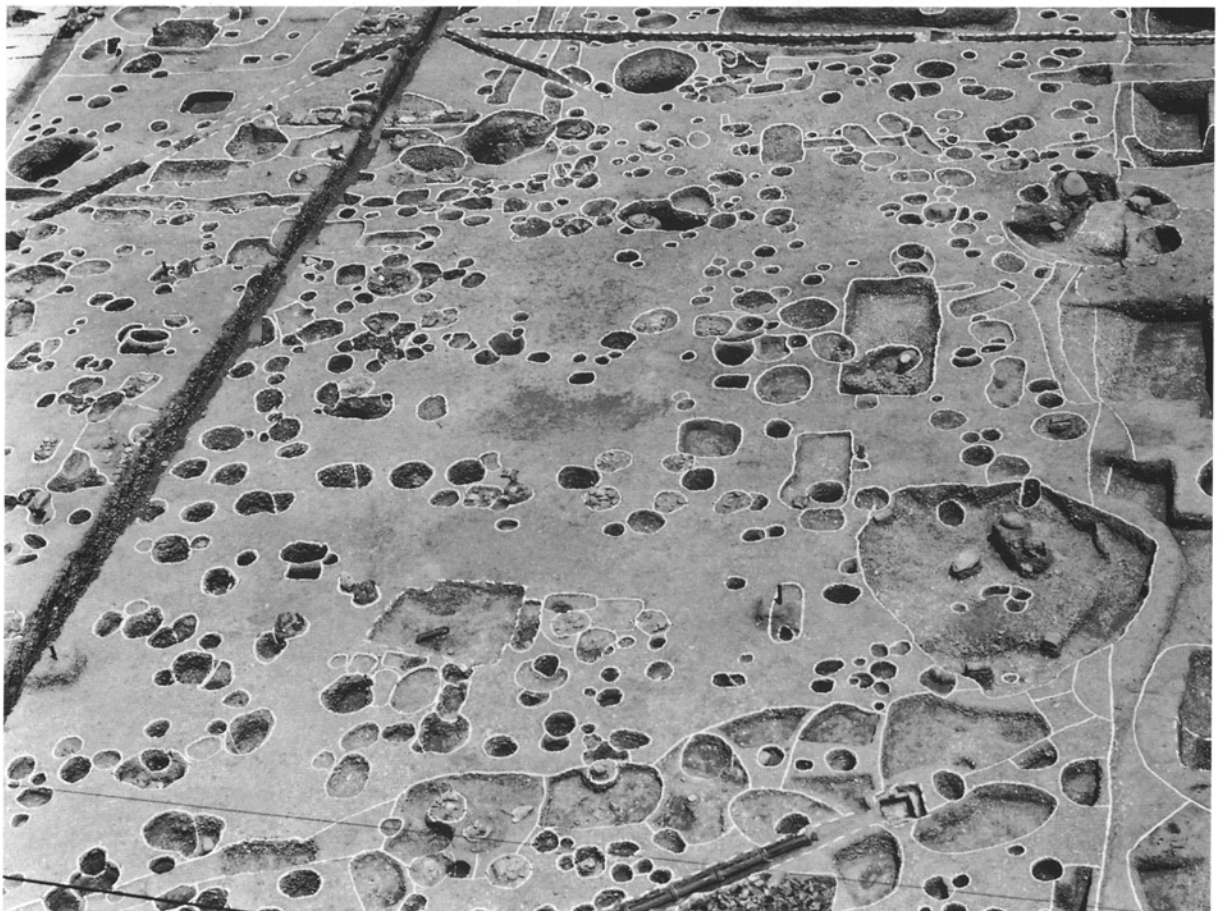
▲SE105断ち割り状況 (西から)



▲SK179・SK180遺物出土状態 (西から)



▲SK190遺物出土状態 (東から)



▲屋敷地 2 中心部分 (西から)



▲SD122遺物出土状態 (北から)



▲SK013遺物出土状態 (西から)



▲SK049遺物出土状態 (南から)



▲SK021遺物出土状態 (南から)



▲SB102検出状況 (西から)



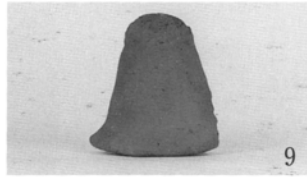
▲SE104断ち割り状況 (南から)



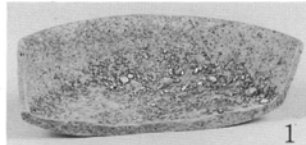
▲SE101断ち割り状況 (南から)



▲SE103断ち割り状況 (西から)



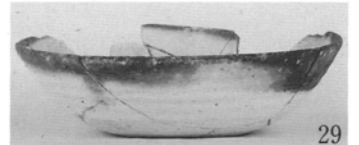
9



1



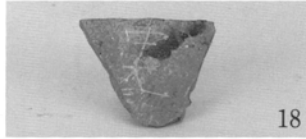
5



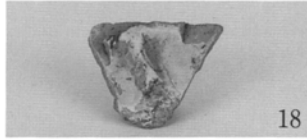
29



8



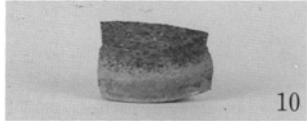
18



18



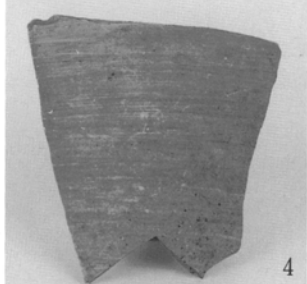
37



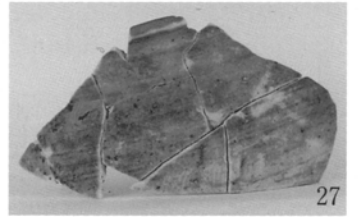
10



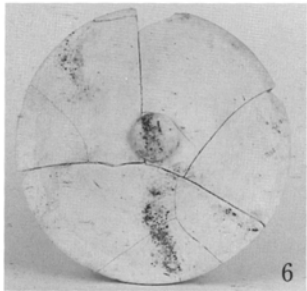
22



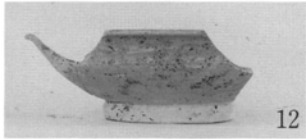
4



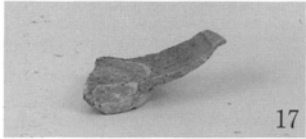
27



6



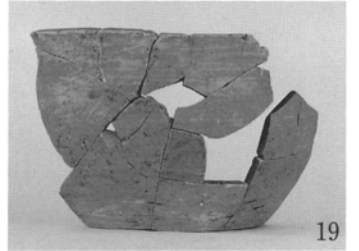
12



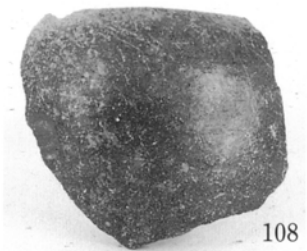
17



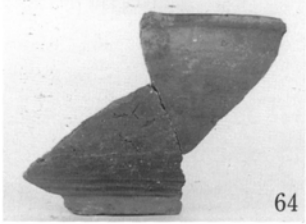
15



19



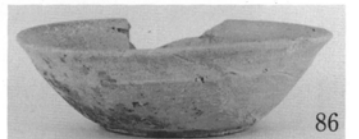
108



64



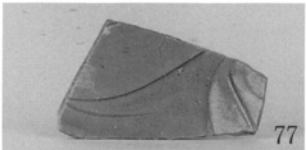
46



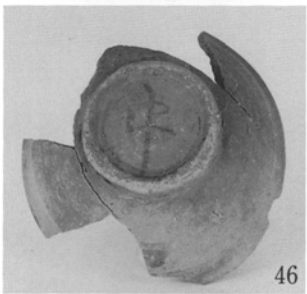
86



109



77



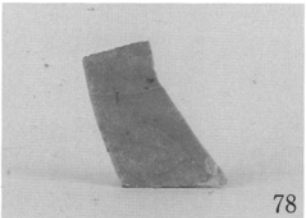
46



86



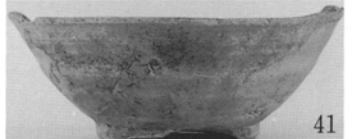
80



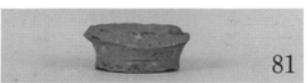
78



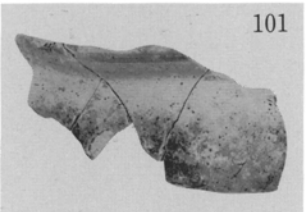
89



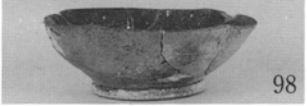
41



81



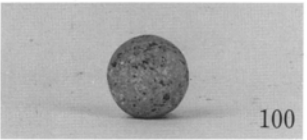
101



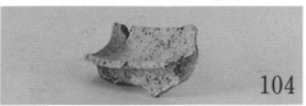
98



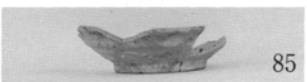
48



100



104



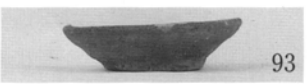
85



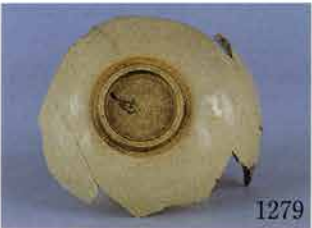
61



73



93

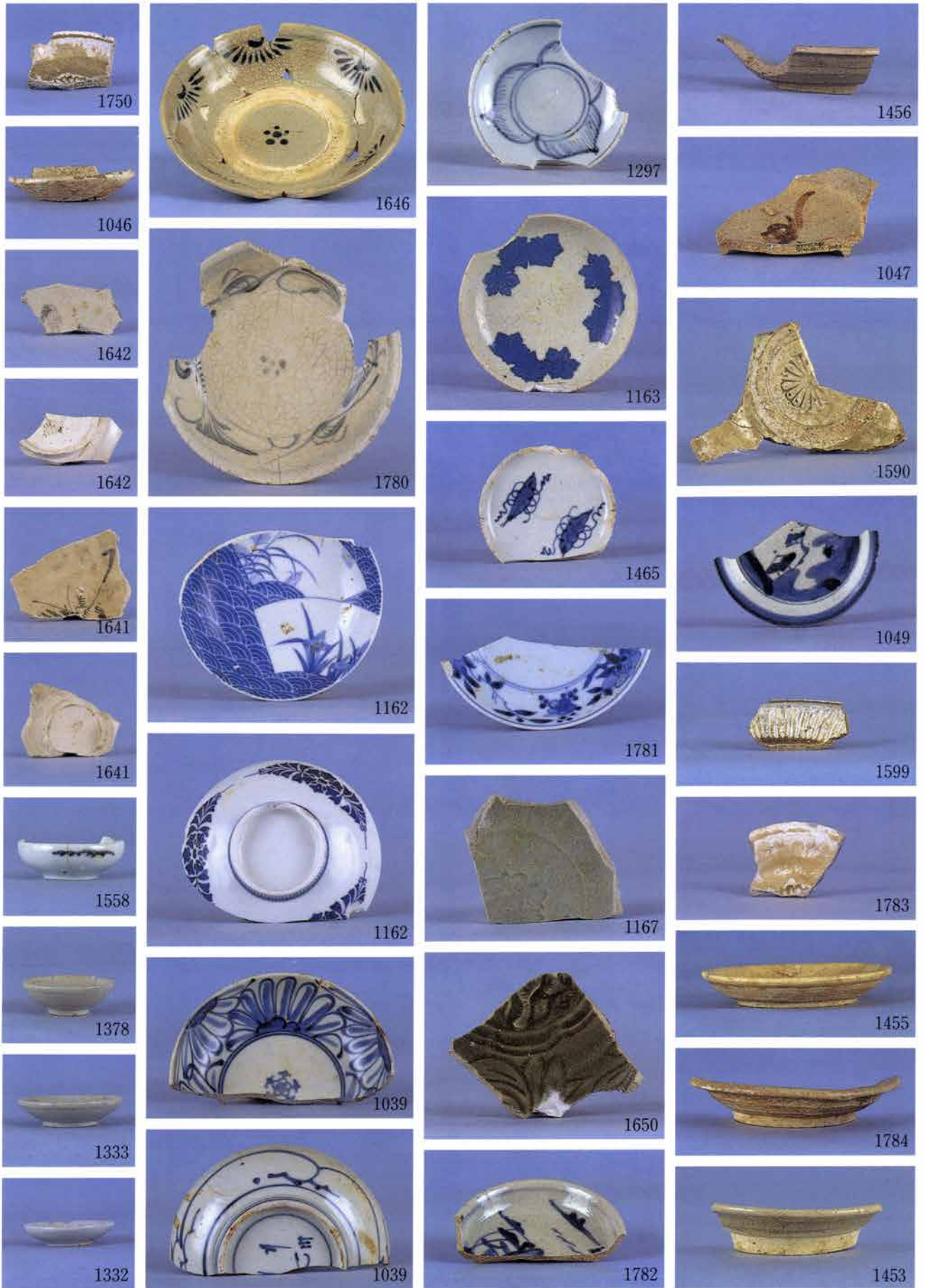






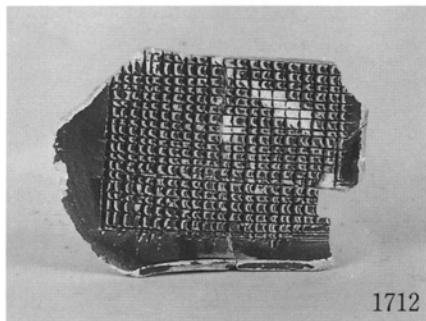
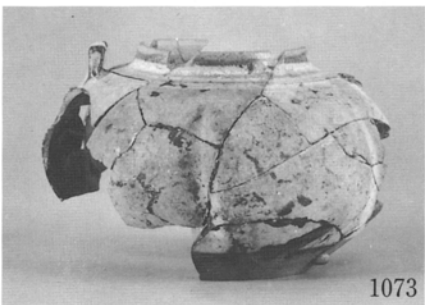
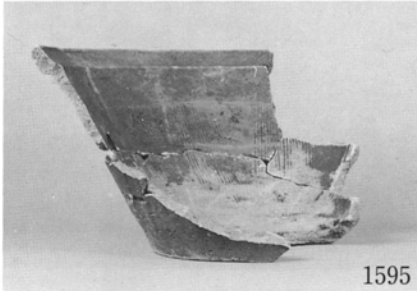
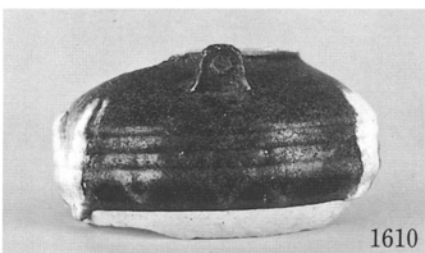
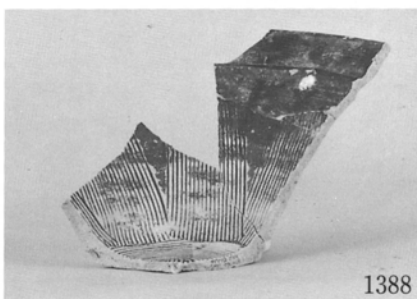
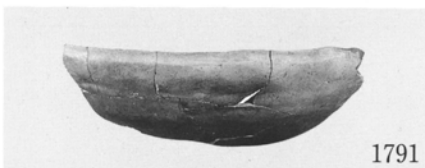
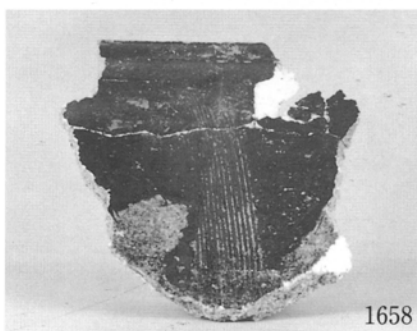
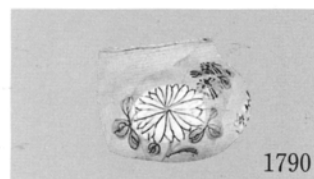
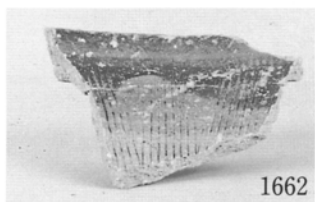
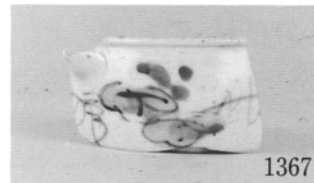
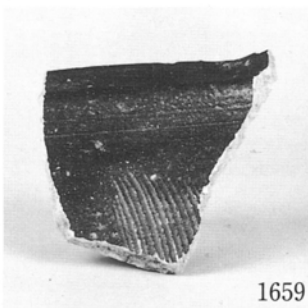
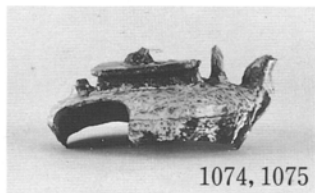
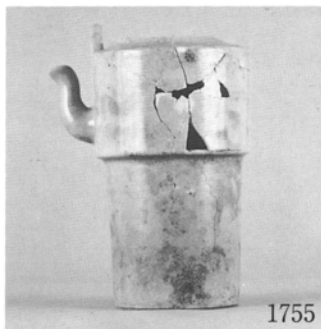
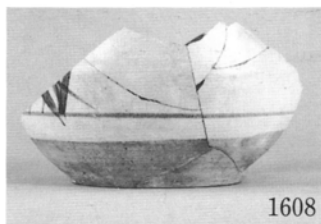


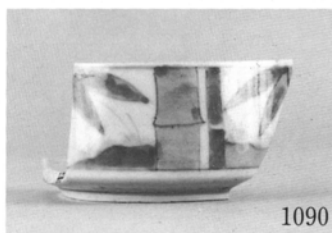
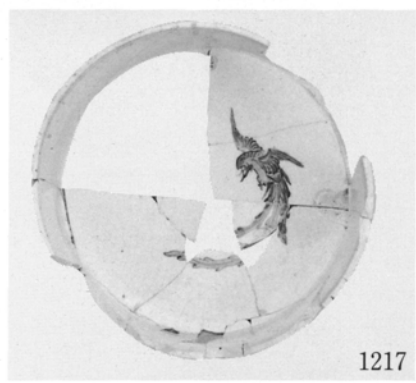
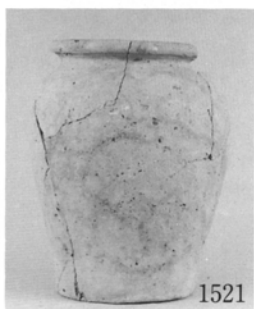
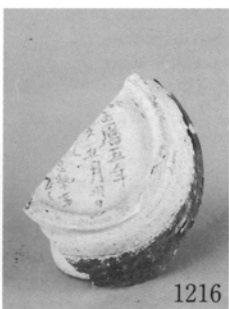
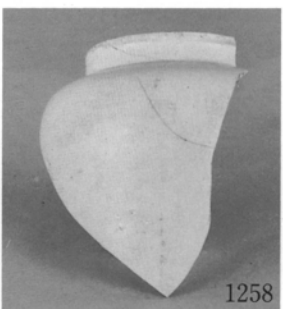
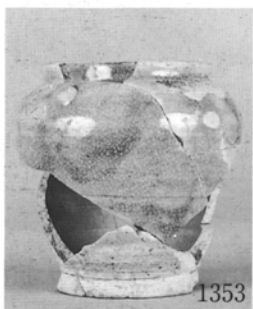
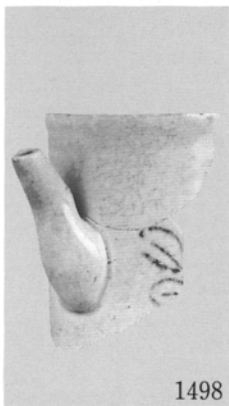
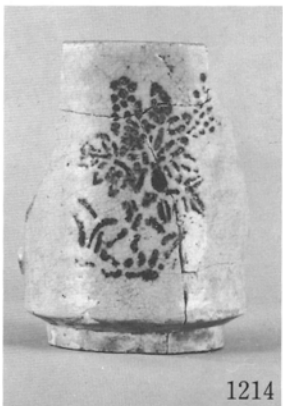
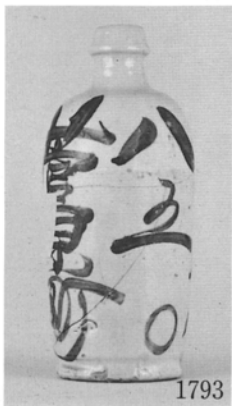
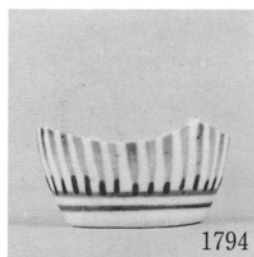








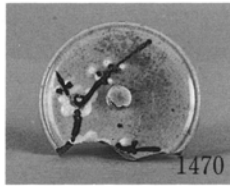




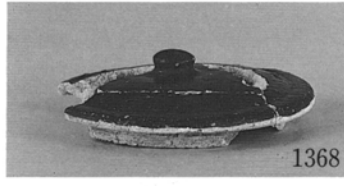




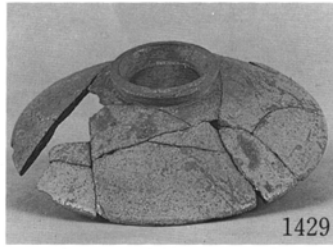




1470



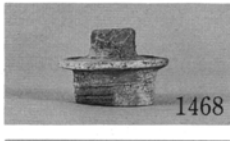
1368



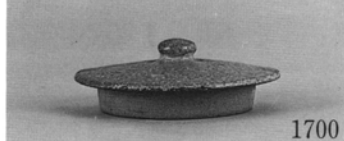
1429



1126



1468



1700



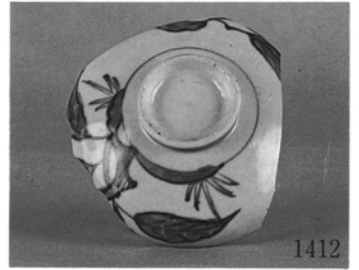
1343



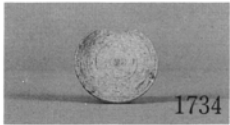
1591



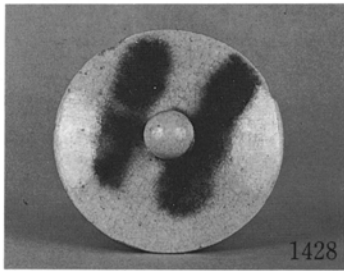
1733



1412



1734



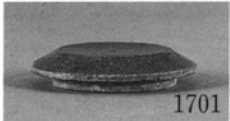
1428



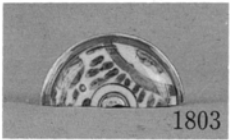
1369



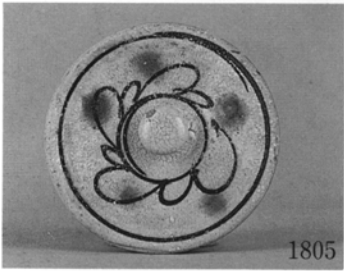
1809



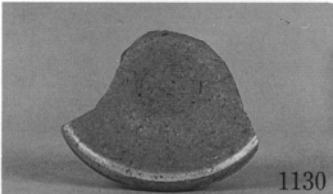
1701



1803



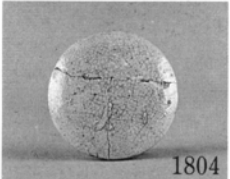
1805



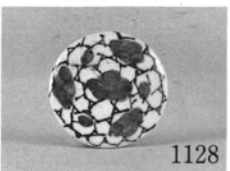
1130



1312



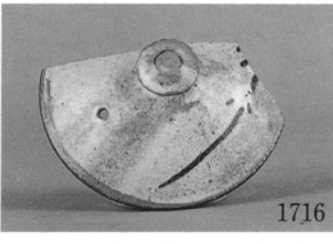
1804



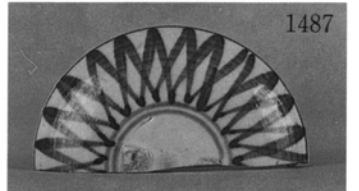
1128



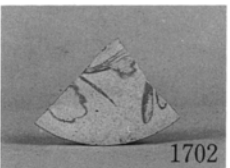
1806



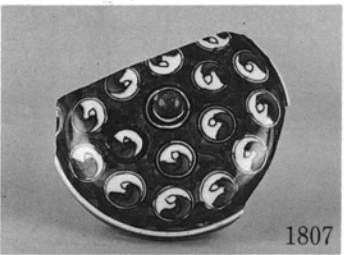
1716



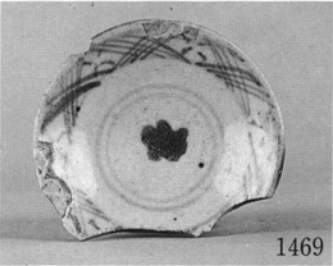
1487



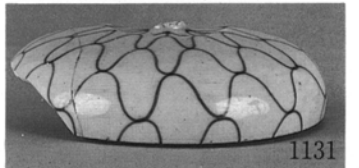
1702



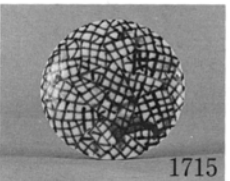
1807



1469



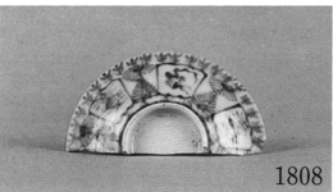
1131



1715



1246



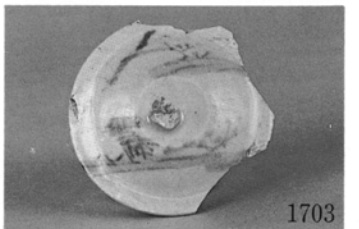
1808



1411

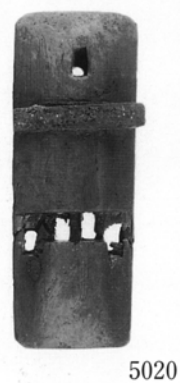
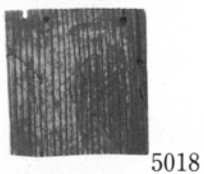
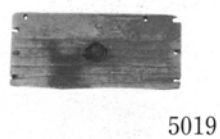
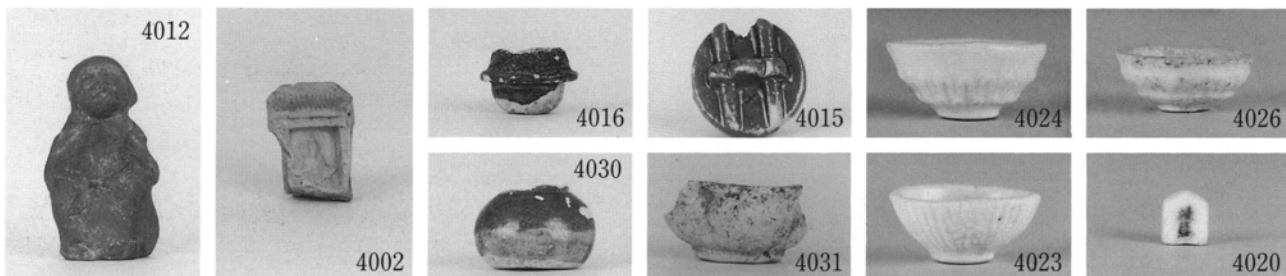
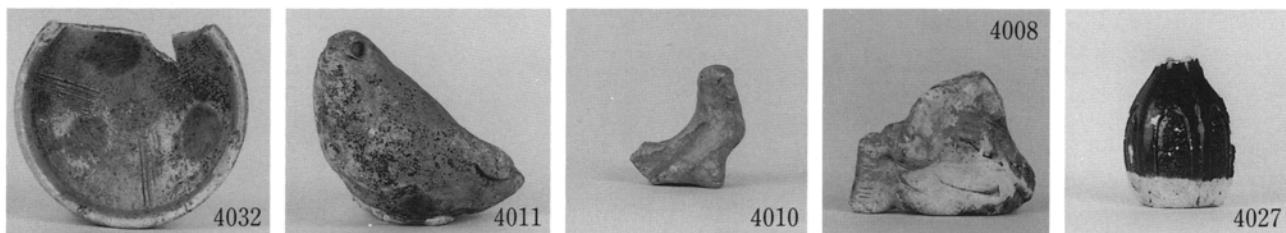


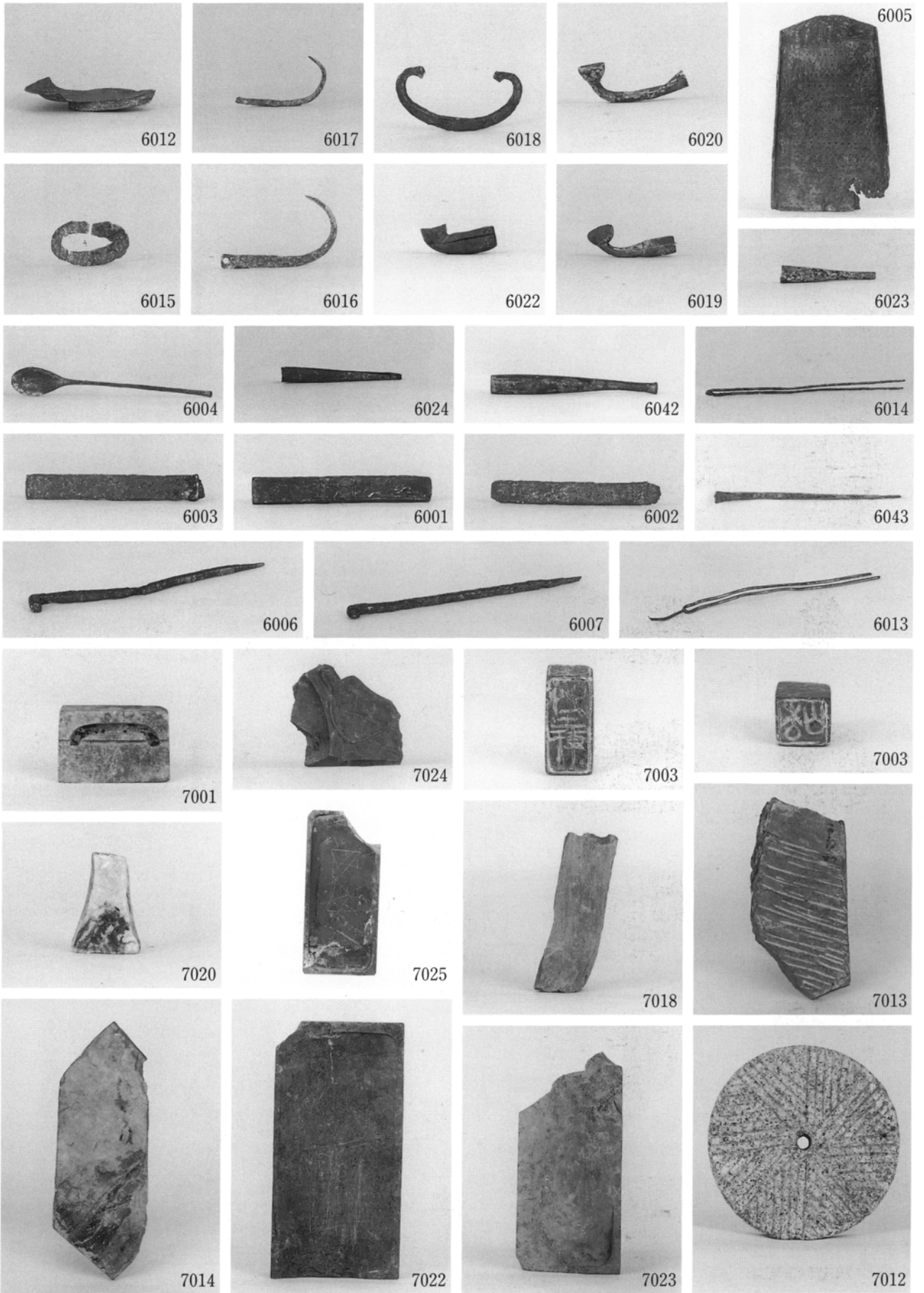
1704



1703









報告書抄録

ふりがな	よしだじょういせきに							
書名	吉田城遺跡II							
副書名								
巻次								
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書							
シリーズ番号	第59集							
編著者名	小嶋廣也・杉浦 茂・松田 訓・水谷寛明・堀木真美子・パリノサーヴェイ株式会社							
編集機関	財団法人愛知県埋蔵文化財センター							
所在地	〒498 愛知県海部郡弥富町大字前ヶ須新田字野方802-24 TEL 0567-67-4163							
発行年	西暦1995年3月31日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	°′″	°′″		m ²	
よしだじょう 吉田城	あいちけんとよはしし 愛知県豊橋市 はっちょうどうり 八町通	23201	—	34度 45分 52秒	137度 24分 08秒	A区 19940105～ 19940331	2,600m ²	愛知県東三河 総合庁舎建設 に伴う事前調 査
				34度 45分 52秒	137度 24分 05秒	B区 19940401～ 19940730	2,700m ²	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
吉田城	集落跡	古代	柱穴列・土坑等		須恵器・灰釉陶器・古 式土師器等		古代は、8世紀前半と 10世紀前半の2時期。	
	集落跡	中世	住居跡・溝・井戸・土 坑・集石遺構等		山茶碗類・甕・伊勢型 鍋・中国磁器等		中世は、13世紀前半を 主体とする時期。	
	集落跡	江戸時代	外堀・建物跡・区画溝 ・柵列・堀跡・井戸・ 廃棄土坑・瓦溜り・排 水溝等		瀬戸・美濃・肥前・関 西陶磁器類、信楽陶器 類、常滑陶器類、中国 磁器類、瓦類、人形類、 ミニチュア類、木製品、 金属製品、石製品等		近世は、外堀と6～7 軒の武家屋敷地を確認。	

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第59集

吉田城遺跡Ⅱ

—愛知県東三河事務所地点の調査—

1995年3月31日

編集・発行 財団法人愛知県埋蔵文化財センター

印刷 日本印刷株式会社
